序

「学生の健康白書１９９５」（以下「白書1995」と略す）は，平成７年度に行われた全国９５の国立大学学部学生の健康状態に関する実態調査の結果を取りまとめた報告書です．大学における保健管理を適正に推進するためには，学生の健康状態，疾病状況などの実態を的確に把握し，保健管理上の問題点を明らかにすることが基本となることはいうまでもありません．この白書は，そのために必要な基礎的な資料を提供することを目的として作成されたものです．

昭和59（1984）年に国立大学学生を対象とした健康白書が初めて発刊されたあと，ある一定の間隔（10年に１度は大規模，その中間に小規模）で白書を作成することが，国立大学等施設協議会総会で決議されました．そして，区切りのよい６年後の平成２（1990）年に，調査項目を簡略化した「学生の健康白書１９９０」（「白書1990」）が発刊されました．今回の白書は，そのときに決議された10年に１度の大規模調査を行う年に当たる平成７年４月から１年間にわたる，保健管理からみた学生の健康状態を調査した成績をまとめたものです．

学生の健康白書作成に関する特別委員会（以下委員会と略す）の開催経過報告の欄（224頁）にも記述しているように，委員会の委員は委員長に一任されましたので，「白書1990」のメンバーを中心に検査項目の専門領域および地域の代表性を考慮して選出いたしました．途中退官された委員の補充に関しては事務的な引き継ぎが円滑に進むように，特別の支障がない限り後任の方に引き継いでいただきました．また今回のメンバーには，九州大学のスタッフの中から委員長補佐とコンピュータ専門の委員を追加しました．さらに，精神・心理領域を独立させ，メンバーの人選は中島潤子副委員長に一任致しました．

「白書1995」は，「学生の健康白書１９８４」（「白書1984」）の調査結果と比較が出来るように，調査項目や調査対象をほぼ同じにすることにしました．すなわち，「白書1984」と同様，調査対象は国立大学の学部学生にしぼり，調査項目も定期健康診断における各検査項目の検診結果，傷病罹患状況および傷病による休学・退学・死亡者の実態調査などに限定しました．今回はさらに，あらかじめ調査を行って回答を得た参加希望大学を対象に，委員会で作成したアンケート用紙によるアレルギー性疾患，ライフスタイルならびにメンタルヘルスに関する特別調査も追加しました．

「白書1995」作成のための予算は，保健管理等改善研究事業計画として，九州大学から文部省に申請致しましたが，高等教育局学生課の方々の深いご理解とご配慮により，準備開始の平成５年度から「白書1995」完成の平成９年度まで５年間にわたって交付していただきました．また，文部省科学研究費（平成７年度一般Aおよび平成８年度研究助成公開費）にも積極的に申請を試み，研究助成公開費を受理することが出来ました．このような強力な経済的支援を受けて，「白書1995」作成に対する各委員の多大なエネルギーを結集させることができ，すべての委員は積極的な協力

と努力を惜しみませんでした．１４回に及ぶ委員会の出席率が常に８割を上回ったことや，各委員の都合がつかずに一度ならず日曜・祭日にも委員会を開催したことからも，その熱意が窺えると思います．

「白書1995」は，収集・集計・解析のすべてにコンピュータを導入したため，各大学から送られてきた集計表を収集する方法で行われた「白書1984」と同じレベルでの比較は，必ずしも妥当でないことが分かってきました．その理由は後に詳しく述べています（３～５頁参照）．将来の白書も当然の事ながら，今回と同様すべてコンピュータによって収集・集計・解析が行われると思いますが，我々が目指したより精度の高い，信頼性のある白書を作成するためには，各大学が責任をもって自大学のデータをきちんと整えて委員会に提出し，とくに収集と集計に手間がかからないシステムを完成させることが絶対に必要であることを痛感致しました．

「白書1995」の編集方針として，データは出来るだけ生のまま提供しようと決め，まず“基本編”として統計を中心にまとめました．表を主体とした内容で，数字の羅列に終始したのはそのためです．各項目毎に調査方法，成績と簡単な考察を記述していただきましたが，書き方については担当執筆者に一任しましたので，解説文に多少の長短や表現の異なる点などがあるかも知れませんが，その点は御容赦下さい．また異論があるかも知れませんが，今回の白書も，特定の疾病の発見を目的とする「検診」ではなく，健康状態の点検としての「健診」と捉えた「白書1990」に倣って，「受検」ではなく「受診」に統一致しました．電算処理を行ったデータをフルに活用するとともに，調査内容をより理解しやすくして多くの方々に十分活用していただけるように，今年度中に“応用研究編”としてまとめる予定です．これまでの２冊の健康白書（「白書1984」と「白書1990」）と同様，「白書1995」が全国の大学で学生の保健管理充実と発展のために十分活用されるとともに，関連領域の方々にも利用していただけることを心から願っております．

最後に，この健康白書作成の企画に対して，終始深いご理解と強力な財政的ご支援を賜りました文部省高等教育局学生課の方々，ならびに側面から絶えずご助言，ご協力をいただいた九州大学学務部（旧学生部）の関係各位および総合理工学研究科等事務部教務課長，保健掛の方々に心から感謝申し上げます．また，調査の集計，編集などに関する処理に，多くの時間を割いてご協力いただいた九州大学中央計数施設の井上仁助手，大曲五男技官，ならびに同大学健康科学センター宇都宮弘子保健婦，成水貴代，納富あすか，実藤美帆の各研究補佐員の方々に深甚の謝意を表します．

平成９年９月10日

国立大学等保健管理施設協議会
学生の健康白書作成に関する特別委員会
委員長　川崎晃一

国立大学等保健管理施設協議会
学生の健康白書作成に関する特別委員会組織

(平成5年10月～平成10年3月予定)

委員長	川崎　晃一	九州大学　健康科学センター教授
顧　問	戸田　安士	(前) 名古屋大学 総合保健体育科学センター教授
〃	松山　恒明	宮城教育大学　保健管理センター教授
副委員長	鈴木　修二	静岡大学　保健管理センター教授
〃	中島　潤子	茨城大学　保健管理センター教授
委　員	木下　眞二	(前) 北海道大学　保健管理センター教授
〃	本間　行彦	北海道大学　保健管理センター教授
〃	大根田　昭	(前) 東北大学　保健管理センター教授
〃	三浦　幸雄	東北大学　保健管理センター教授
〃	豊岡　照彦	東京大学　保健管理センター教授
〃	佐藤　祐造	名古屋大学　総合保健体育科学センター教授
〃	森下　玲児	京都大学　保健管理センター教授
〃	安東　明夫	大阪大学　健康体育部教授
〃	小路　敏彦	(前) 長崎大学　保健管理センター教授
〃	石井　伸子	長崎大学　保健管理センター教授
〃	堀　正士	筑波大学　保健管理センター講師
〃	磯田雄二郎	東京大学　保健管理センター講師
〃	小柳　晴生	香川大学　保健管理センター教授
〃	澤田　丞司	高知大学　保健管理センター教授
〃	上園　慶子	九州大学　健康科学センター助教授
〃	武谷　峻一	九州大学　中央計数施設助教授

註 (前) は退官に伴い辞任した委員

目　　次

序 …… (i)

学生の健康白書作成に関する特別委員会組織 …… (iii)

表・図　目次 …… (vi)

調査の全容 …… (x)

調査参加大学名 …… (xii)

Ⅰ．定期健康診断からみた健康状況

1．調査の概要 …… (3)

［資料 1］定期健康診断調査項目 …… (9)

［資料 2］定期健康診断票 …… (13)

［資料 3］平成 5 (1993) 年度予備調査：国立大学の定期健康診断実施状況 …… (15)

(九州大学健康科学センター年報　16：51－61，1993 より再掲)

2．体格 …… (26)

3．内科検診 …… (40)

4．胸部Ｘ線検査 …… (42)

5．尿検査 …… (46)

6．血圧検査 …… (68)

7．心電図検査 …… (89)

8．血液検査 …… (102)

9．眼科・耳鼻咽喉科・皮膚科・歯科検診 …… (122)

Ⅱ．日常業務（年間業務）からみた健康状況

1．保健管理センター受診状況からみた傷病別罹患状況 …… (131)

2．傷病による要管理者 …… (141)

III. 特別調査

1．アレルギー性疾患 …… (153)
[資料] アレルギー性疾患アンケート調査用紙 …… (156)
2．ライフスタイル …… (157)
[資料] ライフスタイル調査用紙 …… (170)

IV. 精神・心理面の健康状況

1．精神健康調査の現状 …… (175)
2．精神保健・心理相談からみた健康状況 …… (183)
3．アンケート調査からみた健康状況 …… (186)
[資料]（メンタルヘルスに関する）アンケート調査票 …… (195)

V. 休学・退学・除籍からみた健康状況

1．休学者に関する調査 …… (199)
[資料] 休学・退学・死亡等学生数調査 …… (206)
2．退学者・除籍者（死亡を除く）に関する調査 …… (207)
3．死亡除籍者に関する調査 …… (213)
4．過去11年間の死因別死亡率の推移 …… (220)

「学生の健康白書１９９５」特別委員会等の記録－白書作成までの経過報告－ …… (224)

編集後記 …… (226)

表・図　目次

Ⅰ．定期健康診断からみた健康状況

表Ⅰ．1　データの提出形態 ……（6）
表Ⅰ．2　数値項目の許容範囲 ……（6）
表Ⅰ．3　平成7（1995）年度定期健康診断の対象学生数と有効データ件数 ……（6）
表Ⅰ．4　学年制および入学年度別の対象学生数 ……（7）
表Ⅰ．5　年齢別・性別の有効データ件数 ……（7）
表Ⅰ．6　平成7（1995）年度入学生の有効データ率の分布 ……（7）
図Ⅰ．1　定期健康診断処理の電算化状況（1994年秋調べ） ……（8）
図Ⅰ．2　学生数とデータの関係 ……（8）
表2．1　身長の測定方法 ……（29）
表2．2　身長の平均値と標準偏差 ……（29）
表2．3　身長の分布　男 ……（30）
表2．4　身長の分布　女 ……（32）
表2．5　体重の測定方法 ……（34）
表2．6　体重の平均値と標準偏差 ……（34）
表2．7　体重の分布　男 ……（35）
表2．8　体重の分布　女 ……（37）
表2．9　厚生省身長別体重基準による判定 ……（39）
表2．10　Body Mass Index（BMI）による判定 ……（39）
表3．1　内科検診における有所見者 ……（41）
表4．1　胸部X線検査における異常者の頻度 ……（44）
表4．2　肺結核の頻度 ……（44）
表4．3　肺結核の発見の状況 ……（44）
表4．4　肺結核の活動性 ……（44）
表4．5　肺結核発見の状況と指導区分 ……（45）
表4．6　肺結核の活動性と指導区分 ……（45）
表4．7　肺結核以外の胸部疾患 ……（45）
表4．8　肺結核を除く他の肺疾患の頻度 ……（45）
表5．1　一次検尿における尿蛋白のみ陽性者の頻度 ……（53）
表5．2　一次検尿における尿潜血のみ陽性者の頻度 ……（53）
表5．3　一次検尿における尿蛋白・潜血両者陽性者の頻度 ……（54）
表5．4　尿蛋白・潜血および両者陽性者の頻度：性別、採尿条件（随時・早朝尿）別 ……（55）
表5．5　尿蛋白陽性者の頻度：性別、試験紙の種類別 ……（56）
表5．6　尿潜血陽性者の頻度：性別、試験紙の種類別 ……（56）
表5．7　蛋白・潜血両者陽性者の頻度：性別、試験紙の種類別 ……（57）
表5．8　尿蛋白・潜血および両者陽性者の頻度：性別、試験紙の判定法別（目視または分析器） ……（58）
表5．9　尿蛋白陽性者の頻度：自動分析器の機種別 ……（59）
表5．10　尿潜血陽性者の頻度：自動分析器の機種別 ……（59）
表5．11　二次検尿における尿蛋白のみ陽性者の結果 ……（60）
表5．12　二次検尿における尿潜血のみ陽性者の結果 ……（60）
表5．13　尿蛋白・潜血両者陽性者の二次検尿の結果 ……（61）
表5．14　二次検尿異常者の指導区分 ……（61）
表5．15　尿蛋白のみ陽性者の精密検査（三次検診）の結果 ……（62）
表5．16　尿潜血のみ陽性者の精密検査（三次検診）の結果 ……（62）
表5．17　尿蛋白・潜血両者陽性者の精密検査（三次検診）の結果 ……（63）
表5．18　一次検尿における尿糖陽性者の頻度 ……（64）
表5．19　採尿条件別にみた一次検尿の尿糖陽性者の頻度 ……（64）
表5．20　試験紙の種類別にみた尿糖陽性者の頻度 ……（65）
表5．21　試験紙の判定法別にみた尿糖陽性者の頻度 ……（65）
表5．22　二次検尿における尿糖陽性者の結果 ……（66）
表5．23　採尿条件別にみた二次検尿の尿糖陽性者の結果 ……（66）
表5．24　ブドウ糖負荷試験（OGTT）を施行した31校の一次検尿の結果 ……（67）
表6．1　一次検診における血圧測定法 ……（73）
表6．2　一次検診における血圧および脈拍数の平均値と標準偏差 ……（74）
表6．3　一次検診における収縮期血圧の度数分布 ……（75）

表6．4　一次検診における拡張期血圧の度数分布 ……（76）
表6．5　一次検診における脈拍数の度数分布 …（77）
表6．6　一次検診における収縮期血圧の度数分布：男、年齢、測定法別 ……（78）
表6．7　一次検診における収縮期血圧の度数分布：女、年齢、測定法別 ……（79）
表6．8　一次検診における拡張期血圧の度数分布：男、年齢、測定法別 ……（80）
表6．9　一次検診における拡張期血圧の度数分布：女、年齢、測定法別 ……（81）
表6．10　二次検診で集計された対象者と血圧測定法 ……（82）
表6．11　二次検診における血圧および脈拍数の平均値と標準偏差 ……（83）
表6．12　二次検診における収縮期血圧の度数分布 ……（84）
表6．13　二次検診における拡張期血圧の度数分布 ……（85）
表6．14　二次検診における脈拍数の度数分布 …（86）
表6．15　一次ならびに二次検診において高血圧を示した学生の頻度と指導区分 ……（87）
図6．1　一次検診における収縮期血圧の度数分布 ……（88）
図6．2　一次および二次検診における収縮期血圧の度数分布 ……（88）
表7．1　診断法 ……（92）
表7．2　有所見者数 ……（93）
表7．3　不整脈 ……（93）
表7．4　呼吸性不整脈 ……（94）
表7．5　その他の上室性不整脈 ……（94）
表7．6　心室性不整脈 ……（94）
表7．7　WPW症候群 ……（95）
表7．8　ST部分の変化 ……（95）
表7．9　T波の変化 ……（96）
表7．10　その他の異常所見 ……（96）
表7．11　不整脈のうちの要精検者数 ……（97）
表7．12　不整脈に関する精密検査実施状況 ……（97）
表7．13　運動負荷心電図の実施状況 ……（97）
表7．14　ホルター心電図の実施状況 ……（98）
表7．15　超音波検査の実施状況 ……（98）
表7．16　その他の検査の実施状況 ……（98）
表7．17　ST－T波異常者のうち要精検者数 ……（99）
表7．18　ST－T波異常者の精密検査の実施状況（99）
表7．19　ST－T波異常者の運動負荷検査の実施状況 ……（99）
表7．20　ST－T波異常者の超音波検査の実施状況 ……（100）
表7．21　ST－T波異常者の心電図再検査の実施状況 ……（100）
表7．22　ST－T波異常者のその他の検査の実施状況 ……（100）
表7．23　最終指導区分 ……（101）
表8．1　血色素量の分布 ……（105）
表8．2　血色素量の分布：測定機種別 ……（106）
表8．3　赤血球数の分布 ……（107）
表8．4　赤血球数の分布：測定機種別 ……（108）
表8．5　ヘマトクリット値の分布 ……（109）
表8．6　ヘマトクリット値の分布：測定機種別 ……（110）
表8．7　白血球数の分布 ……（111）
表8．8　白血球数の分布：測定機種別 ……（111）
表8．9　GOT（国際単位）の分布 ……（112）
表8．10　GOT（Karmen単位）の分布 ……（112）
表8．11　GPT（国際単位）の分布 ……（113）
表8．12　GPT（Karmen単位）の分布 ……（113）
表8．13　γ－GTP（国際単位）の分布 ……（114）
表8．14　γ－GTP（Karmen単位）の分布 ……（114）
表8．15　尿酸値の分布 ……（115）
表8．16　総コレステロール値の分布 ……（116）
表8．17　1984年度と1995年度の血清総コレステロール異常値の比較 ……（117）
表8．18　1984年度と1995年度のGPT値（Karmen単位）異常値の比較 ……（117）
図8．1　1984年度と1995年度の男子血色素量分布の比較 ……（118）
図8．2　1984年度と1995年度の女子血色素量分布の比較 ……（118）
図8．3　男子と女子のGOT値（国際単位）の分布 ……（119）
図8．4　男子と女子のGPT値（国際単位）の分布 ……（119）
図8．5　男子と女子のγ－GTP値（国際単位）の分布 ……（120）
図8．6　男子と女子の尿酸値の分布 ……（120）
図8．7　男子と女子の血清総コレステロール値の分布 ……（121）
図8．8　1984年度と1995年度の男子血清総コレステロール値の比較 ……（121）
図8．9　1984年度と1995年度の女子血清総コレステロール値の比較 ……（121）
表9．1　眼科検診における疾病別有所見者の頻度

(124)
表９．２　耳鼻咽喉科検診における疾病別有所見者の頻度 (124)
表９．３　皮膚科検診における疾病別有所見者の頻度 (125)
表９．４　う蝕罹患状態 (125)
表９．５　歯周疾患罹患状態 (126)
表９．６　不正咬合罹患状態 (126)
図９．１　耳鼻咽喉科検診における有所見者の頻度 (127)
図９．２　皮膚科検診における有所見者の頻度 (127)

II．日常業務(年間業務)からみた健康状況

表１．１　保健管理センター受診状況からみた学生の疾病別罹患状況(４年制学部大分類)…(133)
表１．２　保健管理センター受診状況からみた学生の傷病別罹患状況(４年制学部細分類)…(134)
表１．３　保健管理センター受診状況からみた学生の疾病別罹患状況(６年制学部大分類)…(137)
表１．４　保健管理センター受診状況からみた学生の傷病別罹患状況(６年制学部細分類)…(138)
表２．１　傷病別要管理者数(４年制学部大分類) (142)
表２．２　傷病別要管理者数(４年制学部細分類) (143)
表２．３　傷病別要管理者数(６年制学部大分類) (146)
表２．４　傷病別要管理者数(６年制学部細分類) (147)

III．特別調査

表１．１　男子学生の年齢別有症状・有所見者数などと頻度 (154)
表１．２　女子学生の年齢別有症状・有所見者数などと頻度 (155)
表２．１　日常生活一般　住居 (160)
表２．２　日常生活一般　課外活動 (160)
表２．３　日常生活一般　生活時間 (160)
表２．４　食生活　食事の状況　朝食摂取状況…(161)
表２．５　食生活　食事の状況　朝食欠食理由…(161)
表２．６　食生活　食事の状況　朝食内容 (161)
表２．７　食生活　食事の状況　朝食同席者 (161)
表２．８　食生活　食事の状況　昼食摂取状況…(162)
表２．９　食生活　食事の状況　昼食欠食理由…(162)
表２．１０　食生活　食事の状況　昼食内容 (162)
表２．１１　食生活　食事の状況　昼食同席者 (162)
表２．１２　食生活　食事の状況　夕食摂取状況…(163)
表２．１３　食生活　食事の状況　夕食欠食理由…(163)
表２．１４　食生活　食事の状況　夕食内容 (163)
表２．１５　食生活　食事の状況　夕食同席者 (163)
表２．１６　食生活　食事の状況　間食摂取状況…(164)
表２．１７　食生活　食事の状況　間食同席者 (164)
表２．１８　食生活　食事の状況　夜食摂取状況…(164)
表２．１９　食生活　食事の状況　夜食同席者 (164)
表２．２０　食生活　食品の種類　肉・肉製品 (165)
表２．２１　食生活　食品の種類　魚介類・魚製品 (165)
表２．２２　食生活　食品の種類　牛乳・乳製品 (165)
表２．２３　食生活　食品の種類　卵 (165)
表２．２４　食生活　食品の種類　大豆・豆製品 (166)
表２．２５　食生活　食品の種類　野菜類 (166)
表２．２６　食生活　食品の種類　果物 (166)
表２．２７　食生活　ソフトドリンク (166)
表２．２８　食生活　ソフトドリンク　種類 (167)
表２．２９　食生活　アルコール (167)
表２．３０　食生活　アルコール　種類 (167)
表２．３１　喫煙 (167)
表２．３２　喫煙　１日の本数 (168)
表２．３３　喫煙　開始年齢 (168)
表２．３４　現在の自己評価　体重 (168)
表２．３５　現在の自己評価　食生活　規則正しさ (168)
表２．３６　現在の自己評価　食生活　量 (168)
表２．３７　現在の自己評価　食生活　バランス…(168)
表２．３８　現在の自己評価　睡眠　規則正しさ…(169)
表２．３９　現在の自己評価　睡眠　状態 (169)

IV．精神・心理面の健康状況

表１．１　大学規模別の精神健康調査実施状況…(178)
表１．２　対象学年(調査方法別実施大学数) (178)
表１．３　大学規模ごとの調査形態別大学数 (178)
表１．４　受診率(大学規模および実施時期別)…(179)
表１．５　記入法の種類とそれを実施した大学数 (179)
表１．６　要留意率(テスト形態および大学規模別) (179)
表１．７　面接者の初診時診断の内訳(人数) (180)
図１．１　精神健康調査の実施時期 (180)

図Ⅰ.2　精神健康調査の調査形態 ……(181)
図Ⅰ.3　面接開始時期 ……(181)
図Ⅰ.4　面接に要した期間 ……(181)
図Ⅰ.5　要面接者の1回の面接に要した時間…(181)
図Ⅰ.6　診断責任者の内訳 ……(181)
図Ⅰ.7　面接者の初診時診断内訳(有所見者のみ)
……(182)
表2.1　在籍学生数 ……(185)
表2.2　保健管理センター利用者の疾患別分類
……(185)
表2.3　有病率－学生千対各指数 ……(185)
表2.4　相談内容について ……(185)
表3.1　回収調査票数と解答者の平均年齢 ……(189)
表3.2　あなたが現在すんでいる場所は ……(189)
表3.3　あなたは本学に入学して満足していますか
……(189)
表3.4　あなたの学業への取り組み方はどうですか
……(190)
表3.5　あなたはどの程度大学内に付き合える友人
がいますか ……(190)
表3.6　あなたはどのような目的に添って大学生活
をすごしていますか……(191)
表3.7　あなたの現在の健康状態はいかがですか
……(191)
表3.8　あなたはどの程度精神的なストレスを感じ
ていますか ……(192)
表3.9　ストレスをもたらすものはどんなことです
か ……(192)
表3.10　最近の自覚症状 ……(193)
表3.11　気分の落ち込むことがありますか ……(194)
表3.12　悩みや不安で相談したいことがありますか
……(194)

Ⅴ.休学・退学・除籍からみた健康状況

表Ⅰ.1　在籍学生数 ……(202)
表Ⅰ.2　休学者数と在籍学生数に対する割合…(202)
表Ⅰ.3　休学の理由に関する調査 ……(203)
表Ⅰ.4　休学の理由に関する実態調査(文・理系別)
……(203)
表Ⅰ.5　傷病による休学者 ……(204)
図Ⅰ.1　性別・学年別休学者数(4年制学部)……(205)
図Ⅰ.2　文・理系別・学年別休学者数(4年制学部)
……(205)
図Ⅰ.3　休学理由毎の在籍学生数に対する割合(性
別) ……(205)
図Ⅰ.4　休学理由毎の在籍学生数に対する割合(文・
理系別) ……(205)
表2.1　退学者・除籍者の内訳 ……(209)
表2.2　退学・除籍者数と在籍学生数に対する割合
……(209)
表2.3　退学の理由に関する調査 ……(210)
表2.4　退学の理由に関する実態調査(文・理系別)
……(210)
表2.5　傷病による退学者 ……(211)
図2.1　退学の内訳 ……(212)
図2.2　性別・学年別退学者数(4年制学部)……(212)
図2.3　文・理系別・学年別退学者数(4年制学部)
……(212)
図2.4　退学理由毎の在籍学生数に対する割合(性
別) ……(212)
図2.5　退学理由毎の在籍学生数に対する割合(文・
理系別) ……(212)
表3.1　死亡実態調査 ……(215)
表3.2　死亡者数：4年制学部学年別・性別……(215)
表3.3　死亡者：実数、死因(基本分類)・性・年齢別
……(216)
表3.4　精神障害をともなっていた死亡者の精神障
害の内訳：実数、傷病(大分類)・性・年齢別
……(218)
図3.1　全死亡者数(4年制学部・学年別) ……(219)
図3.2　死因別死亡率 ……(219)
表4.1　過去11年間〔昭和60(1985)年度～平成7
(1995)年度〕の在籍学生数の推移……(222)
表4.2　過去11年間〔昭和60(1985)年度～平成7
(1995)年度〕の死因別死亡者数の推移…(222)
表4.3　過去11年間〔昭和60(1985)年度～平成7
(1995)年度〕の死因別死亡率の推移 ……(222)
表4.4　過去11年間〔昭和60(1985)年度～平成7
(1995)年度〕の死因別死亡率の推移：男
……(222)
表4.5　過去11年間〔昭和60(1985)年度～平成7
(1995)年度〕の死因別死亡率の推移：女
……(222)
図4.1　死亡率の推移 ……(223)

調 査 の 全 容

1．調査の目的

この調査は，最近の学生の健康状態，傷病罹患状況等の実態を的確に把握すると同時に，学生の保健管理上の問題点を明らかにし，大学における保健管理を適正に推進するための，必要な基礎資料を得ることを目的とするものである．

学生の健康状態全般に関する第１回全国実態調査は1984年に実施され，「学生の健康白書1984」として全国の大学に配布され広く利用されている．この大規模調査は爾後10年毎に実施することが国立大学等保健管理施設協議会で決まり，今回の調査を実施する事となった．

2．調査の対象

対象は，学部を持つ95の国立大学（平成７年度現在保健管理センター設置校90大学ならびに設置予定校５医科大学）の昼間の学部学生とした．各調査項目における対象は，それぞれ学年単位（全学生，新入生，またある学年の全員など）とし，特定のグループや希望者についてのみの調査は原則として除外した．ただし，受診者すべてではなく，一部の学年（例えば新入学年）のみの調査結果しか送付してこなかった大学も数校以上見受けられたので，集計のために提出された「有効データ件数」と表現するのが正しいが，各項目の解説文や図・表の中では「受診者数」という表現を用いた．

なお，詳細は各項の冒頭に記述されている．

3．調査の項目

調査項目は「白書1984」の大規模調査データと比較検討が出来るように，身体領域，精神・心理領域のいずれもほぼ同一の項目について実施した．また，参加を希望する大学については特別調査も実施した．

Ⅰ．定期健康診断からみた健康状況－身体領域に関する調査

体格（身長・体重・肥満度），内科診察，胸部Ｘ線，尿検査（蛋白・潜血・糖），血圧検査，心電図検査，血液検査（末梢血液検査・血液生化学検査），眼科・耳鼻咽喉科・皮膚科・歯科検診など．

これまでの過去２度の白書で調査が行われた受診率については，「２．調査の対象」にも記述しているように，一部の学年のみの調査結果しか送付してこなかった大学が数校見受けられたため，正確な数字が出せなかったので，今回は断念して，有効データ件数を記載するにとどめた．しかし，すべての大学から少なくとも新入生のデータは送付されていたので，新入生の受診率のみを算出して記載した．

Ⅱ．日常業務からみた健康状況

保健管理センター受診状況からみた傷病別罹患状況ならびに傷病による要管理者の調査

III．特別調査

アレルギー性疾患調査，ライフスタイル調査

IV．精神・心理面の健康状況

精神健康調査，精神保健・心理相談，アンケート調査

V．休学・退学・除籍からみた健康状況

休学者，退学者，除籍者（死亡を含む）の実態調査，過去11年間の死因別死亡率の推移など

4．調査の時期

平成7年度（平成7年4月1日～平成8年3月31日）1年間

5．調査の方法

前述の各調査項目の調査方法については，それぞれの項目の調査結果の中で記述されている．調査は原則として，性別および年齢別（18歳から24歳までは1歳刻み）に行い，25歳以上は一括して集計した．また，4年制学部と6年制学部・学科に分けて統計処理を行った項目もあったが，その際学年制が記載されていないデータは除外した．

年齢別調査における対象者及び受診者の年齢は，すべて平成7年4月1日現在の満年齢とした．

6．調査結果の集計

I．定期健康診断のデータは九州大学で処理した．詳細は「I－1．調査の概要」の項で記述した．II．日常業務集計と，III．特別調査についてはそれぞれの項で記述している．また，精神・心理領域に相当する項（IV，V）は筑波大学，東京大学，茨城大学で分担して処理した．詳細は当該項目で記述されている．

7．調査参加大学

本調査の対象大学は，平成7年度現在保健管理センターが設置されている大学90校としたが，設置予定の医科大学5校も参加の意向を表明されたので，それらを含めて学部を持つ全大学（95校：次頁に掲載）が参加した．4年制学部を有する大学数は89校，6年制学部・学科を有する大学は44校であった．精神・心理領域に関連する調査の対象大学は6校を除いた89校であった．

各項目の調査データ提出大学数は，それぞれの調査結果の概要および表の右肩に記載した．

調 査 参 加 大 学

(95大学)

北海道大学	東京学芸大学	名古屋大学	山口大学
北海道教育大学	東京農工大学	愛知教育大学	徳島大学
室蘭工業大学	東京芸術大学	名古屋工業大学	鳴門教育大学
小樽商科大学	東京工業大学	豊橋技術科学大学	香川大学
帯広畜産大学	東京商船大学	三重大学	*香川医科大学
旭川医科大学	東京水産大学	滋賀大学	愛媛大学
北見工業大学	お茶の水女子大学	滋賀医科大学	高知大学
弘前大学	電気通信大学	京都大学	高知医科大学
岩手大学	一橋大学	京都教育大学	福岡教育大学
東北大学	横浜国立大学	京都工芸繊維大学	九州大学
宮城教育大学	新潟大学	大阪大学	九州芸術工科大学
秋田大学	長岡技術科学大学	大阪外国語大学	九州工業大学
山形大学	上越教育大学	大阪教育大学	佐賀大学
福島大学	富山大学	兵庫教育大学	*佐賀医科大学
茨城大学	富山医科薬科大学	神戸大学	長崎大学
図書館情報大学	金沢大学	神戸商船大学	熊本大学
筑波大学	福井大学	奈良教育大学	大分大学
宇都宮大学	*福井医科大学	奈良女子大学	*大分医科大学
群馬大学	山梨大学	和歌山大学	宮崎大学
埼玉大学	*山梨医科大学	鳥取大学	宮崎医科大学
千葉大学	信州大学	島根大学	鹿児島大学
東京大学	岐阜大学	島根医科大学	鹿屋体育大学
東京医科歯科大学	静岡大学	岡山大学	琉球大学
東京外国語大学	浜松医科大学	広島大学	

(註)

1．大学の順序は文部省高等教育局大学課監修「平成7年度全国大学一覧」による．

2．*印を附した医科大学5校は平成7年度の時点で保健管理センターが未設置であったが，身体面の調査への参加をお願いした．

Ⅰ．定期健康診断からみた健康状況

1．調査の概要

本報告書で調査の対象としたのは，前回の「学生の健康白書1984」（以下「白書1984」とする）と同じ学部学生の定期健康診断結果であり，学部を持つ国立大学（全95大学）の平成7（1995）年度のデータである．しかし，前回は各大学で項目別に集計された資料を全国集計して作成されたが，今回の「学生の健康白書1995」は各大学から定期健康診断結果をそのまま「1レコード＝1学生（原データ）」の形式で，電子的媒体で提出してもらい，それを基に作成した．

前回との最大の相違点はこの調査方法の違いにあるので，本章ではその調査方法とデータの概要について述べる．なお，調査項目については，本章末に添えている白書用の定期健康診断調査項目［**資料1**］および定期健康診断票［**資料2**］を参照のこと．以下，項目は［ ］で，その値は“ ”で示す．

1．1　データの収集

全95大学の保健管理施設より，1995年8月から1996年8月の1年1ヶ月にわたってデータの提出を受けた．

しかし，図1．1に示すように大学によって定期健康診断処理の電算化の進み方が異なっていたため，その提出の形態は表1．1および以下に示すように多岐多様にわたった．

- 提出媒体：5”/3.5”フロッピーディスク（FD），磁気テープ（MT），光磁気ディスク（MO），電子メール（E-mail），白書用統一診断票，白書用データシート，自大学診断票（コピー）
- ファイル形式：固定長テキスト，コンマ区切り可変長テキスト，各種表計算やデータベースソフトウェアのファイル，ワードプロセッサソフトウェアのファイルなど
- レコード書式：委員会で定めた白書統一書式，統一書式の未実施検査を省略した書式，自大学の診断票の書式

また，同じく主に大学によって電算化の対応などが異なるなどの理由により，提出されたデータの内容は，

- 対象となる受診者のデータが必ずしも全て提出されてはいない，
- 調査対象以外の学生（大学院生，短大生，研究生など）や，受診していない学生（全項目未受診）も含まれている．
- 値の記載漏れや記入ミスについて，当該大学で十分なチェックがなされていない，

など，大学によって様々な対応がとられていた．すなわち，「各大学からは，いわば生のデータがそのまま提出された」ことになった．しかし今回は，今後のこうした調査の基本的な調査法の礎となるよう，全95大学から電子的媒体で提出していただくことに主眼を置いたため，上に掲げたような内容の質に関する統一した対応までを各大学に強いることは避けた．

この結果，大学によって在籍学生，定期健康診断の対象となった学生，提出したデータの扱いに様々な違いがあり，一般的にはこれら集合と有効データ（次に述べる整備を終えた後のデータ）の間の関係は図1．2のようになる．

1．2　データの整備

データの整備や修正にあたっては，以上のことを考慮して，

- 提出件数316,734件という大量データなので，

個々に診断票を繰ったり学籍簿を調べることは不可能に近い．そこで，補完や修正は，コンピュータで論理的に行えることや大学に問い合わせて一括して行えることに限定する．

・学籍項目や［性別］，［生年月日］などの基本項目にも記載漏れや誤りが存在する．本報告は学生の健康状態の調査であることから，集計の基本分類は［年齢］と［性別］とし，この2項目がそろっているデータのみを対象とする．

の基本方針を立て，以下の手順で整備した．

まず，個々の大学別にワークステーションやパーソナルコンピュータ上で，

1．様々なファイル形式のものを全てコンマ区切りの可変長に変換し，あるデータベースソフトのファイルに変換．

2．自大学の診断票の書式や一部省略された統一書式のものを白書用の統一書式に変換し，和暦の［生年月日］を西暦に変換．

3．重複レコードと空レコードを削除．

4．［大学コード］を付加し，［学年制］や［学部コード］の整合性を文部省高等教育局大学課監修「平成7年度 全国大学一覧」で調べて修正．

5．基本的な項目や検査環境の項目（例えば［測定法］や［診察医］など）が欠落している場合，各大学へ問い合わせて補完し修正．

を行った．その上で汎用計算機に移して全95大学のデータを統合した．それに対して，

6．非数値項目の設定した値集合に含まれない値を削除．数値項目の入力ミスなどによる極端に異常な値を排除するために，数値項目ごとにヒトの値としての許容範囲（表1．2参照）を設定し，それを外れる値を削除．

7．各科の検査結果項目が全て“空”の場合の検査環境の項目（［診察医］，［測定法］など）の値を削除（ただし，値“未受診”は除く）．こうした検査環境項目は，大学ごとに一括記入されている場合が多かったため．

8．各科の検査の個別項目に“異常あり”があるのに，その総合［結果］項目が“空”か“異常なし”の場合，これを“異常あり”に修正．

9．［生年月日］から1995年4月1日現在の［年齢］，および［身長］と［体重］からの［BMI］の2項目を新たに計算で付加．

10．対象となっていない学部学生以外（大学院生，短大生，研究生など），［年齢］か［性別］のいずれかが不備，および全項目未受診のレコードを削除．

を行った．

したがって，本報告書で対象としたデータは，これら処理を行った上で最終的に有効であった，

・学部学生，

・［年齢］と［性別］が共にある，

・少なくとも1項目は受診項目がある，

学生のレコードに限定された．

こうして整備し抽出した有効データではあるが，一般的には「正常と思われる値にもミスがあることも考えられ，また当然記入があるべき値が欠落していることもある」ということになる．しかし，統計学によると，今回のような大量データの場合，こうしたミスや異常値の混入の程度を測る目安としては，

・正規分布の場合は平均±3σ（平均値の左右に標準偏差の3倍の範囲）で99.73%を覆うが，正規分布をすると思われる項目でこの範囲を外れる件数が1%を越えると問題がある．

・正規分布をすると思われる代表的な項目で確かめれば，他の分布をする項目も含め全体の信頼性はそれと同程度とみてよい．

とある．今回の数値データで正規分布をなすと思われる代表的な項目としては［身長］があるが，整備後の［身長］の平均±3σを外れる件数の割

合は，男（総数177,586）で0.44%以内，女（総数87,151）で0.38%以内であり，この基準を満たした．

1．3　データの概要

別途各大学へのアンケート調査を行って調べた同年度の定期健康診断の対象学生数とこの有効データの件数の関係は，表1．3に示す通りである．また，対象学生の学年制および入学年度別の数は表1．4に，一方有効データの年齢別の件数は表1．5に示す．

保健管理施設協議会としては，定期健康診断を実施する立場から，[学年制]，[学年]，[入学年度] などの学籍項目で分類し，前回の総合白書にあるような受診率等のデータも得られるのが望ましい．しかし，先に述べたように，提出されたデータにはこうした基本項目にも不備があり，さらに**全ての受診者のデータが提出されていない**ため，残念ながら有効データをこうした学籍項目で分類してもその数の持つ意味が不明確であり，今回は受診率を出すことができなかった．また，[学年制] に関しては複数の学年制が混在する学部の存在，[学年] に関しては大学や学部での捉え方の違い，[入学年度] に関しては編入生に対しての扱いの違い，などがあり，こうした学籍項目が健康を分類する尺度として適切か否かという疑問がある．

ただ今回，1995年度入学の新入生に関してはほとんどのデータが提出されており，[年齢] や [性別] が不備で若干除かれたものがあるものの，**この入学年度の有効データ件数はほぼ受診者数に近い（有効データ件数＜受診者数）と思われる．**そこで，受診率の参考までに，この有効データ率（有効データ件数÷対象学生数）の分布を表1．6に掲げた．この新入生の有効データ率は，6年制学部で低く，また大規模大学で低い傾向があった．また，一般に受診率を知りたい場合は，平成5年度調査［資料3］の受診率を参照されたい．

本章に続く第2章から第9章までは，以上に解説した**有効データ**に基づいて医学的分析を行っている．なお，実際には，報告書作成にあたってさらに各検査項目ごとに項目値の分布を大学別に調べて，分布がおかしいものは当該大学への問い合わせを行った．その上で，特殊な受診者（過去に異常があった学生，体育会系サークルの学生など）のみを対象にした検査項目はその検査項目を大学ごとに排除して集計した．また，定期健康診断の実施状況に関するアンケートからの情報や他項目の集計結果からの情報なども，当該項目の集計を補完するデータとして採用している場合もある．これらは担当の委員が専門的知識に基づいて行い，その措置については該当する各章で明記している．

すなわち，本報告書は，**最終的に整備した有効データ**を基にして，さらに医学的見地からの取捨選択や補完を行い，より精選した集計に基づいて作成している．

〔武谷峻一，川崎晃一〕

表１．１　データの提出形態

方法		電子的媒体で提出†						紙で提出‡	
書式		統一書式			自大学書式			統一	自大
媒体		FD	MT	E-mail	FD	MT	MO	(FD)	(FD)
ファイルの形式	固定長テキスト	22	8		9	1	1	12	5
	可変長テキスト	4			1				
	ＤＢソフト－a	2			3				
	ＤＢソフト－b	2			3				
	表計算ソフト－a	11		1	3				
	表計算ソフト－b	1			1				
	他	1			4				
計		52校			26校			17校	

† ：自大学で作成または自大学で入力外注．‡ ：九大で入力外注しFD化．
FD：フロッピーディスク，MT：磁気テープ，MO：光磁気ディスク．

表１．２　数値項目の許容範囲

項　　目　（単位）	記載桁数	下限	範囲	上限
身長（*cm*）	*nnn.n*	130.0	≦ ≦	220.0
体重（*kg*）	*nnn.n*	30.0	≦ ≦	160.0
BMI	*nn.n*	10.0	≦ ≦	50.0
収縮期血圧（*mmHg*）	*nnn*	70	≦ ≦	250
拡張期血圧（*mmHg*）	*nnn*	30	≦ ≦	160
脈拍（拍/分）	*nnn*	40	≦ ≦	150
血色素（*g/dl*）	*nn.n*	5.0	≦ ≦	20.0
赤血球数（$\times 10^4/mm^3$）	*nnn*	200	≦ ≦	700
ヘマトクリット（%）	*nn.n*	20.0	≦ ≦	70.0
白血球数（$/mm^3$）	*nnnnn*	2000	≦ ≦	15000
総コレステロール（*mg/dl*）	*nnn*	50	≦ ≦	350
GOT（*IU/l*またはカルメン単位）	*nnn*	0	≦ ≦	999
GPT（*IU/l*またはカルメン単位）	*nnn*	0	≦ ≦	999
γ－GTP（*IU/l*またはカルメン単位）	*nnn*	0	≦ ≦	999
尿酸（*mg/dl*）	*nn.n*	0.5	≦ ≦	12.0

表１．３　平成７（1995）年度定期健康診断の対象学生数と有効データ件数

	総　数	男	女	調　査　法
対象学生数	461,862	318,343	143,519	各大学へのアンケート調査
有効データ件数	280,493	187,314	93,179	電子的媒体による原データ収集

表1．4　学年制および入学年度別の対象学生数

・4年制　[89校集計]

入学年度	総数	男	女
総数	430,814	296,160	134,654
平成7(1995)年度	102,987	67,617	35,370
6(1994)年度	102,962	69,682	33,280
5(1993)年度	100,870	67,594	33,276
4(1992)年度	101,256	70,878	30,378
3(1991)年度以前	22,739	20,389	2,350

・6年制　[46校集計]

入学年度	総数	男	女
総数	31,048	22,183	8,865
平成7(1995)年度	5,098	3,322	1,776
6(1994)年度	4,790	3,298	1,492
5(1993)年度	4,975	3,394	1,581
4(1992)年度	5,037	3,668	1,369
3(1991)年度	5,030	3,709	1,321
2(1990)年度	4,943	3,742	1,201
元(1989)年度以前	1,175	1,050	125

表1．5　年齢別・性別の有効データ件数

[95校集計]

年齢	総数　(%)	男　(%)	女　(%)
総数	280,493 (100.0)	187,314 (100.0)	93,179 (100.0)
18歳	66,180 (23.6)	40,090 (21.4)	26,090 (28.0)
19	57,965 (20.7)	38,708 (20.7)	19,257 (20.7)
20	46,712 (16.7)	30,476 (16.3)	16,236 (17.4)
21	62,996 (22.5)	40,558 (21.7)	22,438 (24.1)
22	27,574 (9.8)	21,732 (11.6)	5,842 (6.3)
23	9,714 (3.5)	8,090 (4.3)	1,624 (1.7)
24	3,899 (1.4)	3,251 (1.7)	648 (0.7)
25以上	5,453 (1.9)	4,409 (2.4)	1,044 (1.1)

表1．6　平成7（1995）年度入学生の有効データ率の分布

[95校集計]

有効データ率	校数　(%)
総数	95 (100.0)
0～ 9%	
10～19%	1 (1.1)
20～29%	
30～39%	
40～49%	1 (1.1)
50～59%	2 (2.1)
60～69%	3 (3.2)
70～79%	5 (5.3)
80～89%	10 (10.5)
90～99%	58 (61.1)
100%	15 (15.8)

$$\text{有効データ率} = \frac{\text{有効データ件数}}{\text{対象学生数}}$$

新入生の有効データ件数は受診者数に極めて近いと思われるので，ここに示す有効データ率から受診率を推定できる．

<table>
<tr><td rowspan="4">学部を持つ国立大学　95校</td><td rowspan="2">電算化済　41</td><td>大型汎用機　3</td><td rowspan="4">⟹</td><td rowspan="4">具体的　7
未定　23</td></tr>
<tr><td>パソコン等　36</td></tr>
<tr><td>両方　2</td></tr>
<tr><td rowspan="2">電算化未　54</td><td>予定あり　30</td></tr>
<tr><td>予定なし　24</td></tr>
</table>

図１．１　定期健康診断処理の電算化状況（1994年秋調べ）

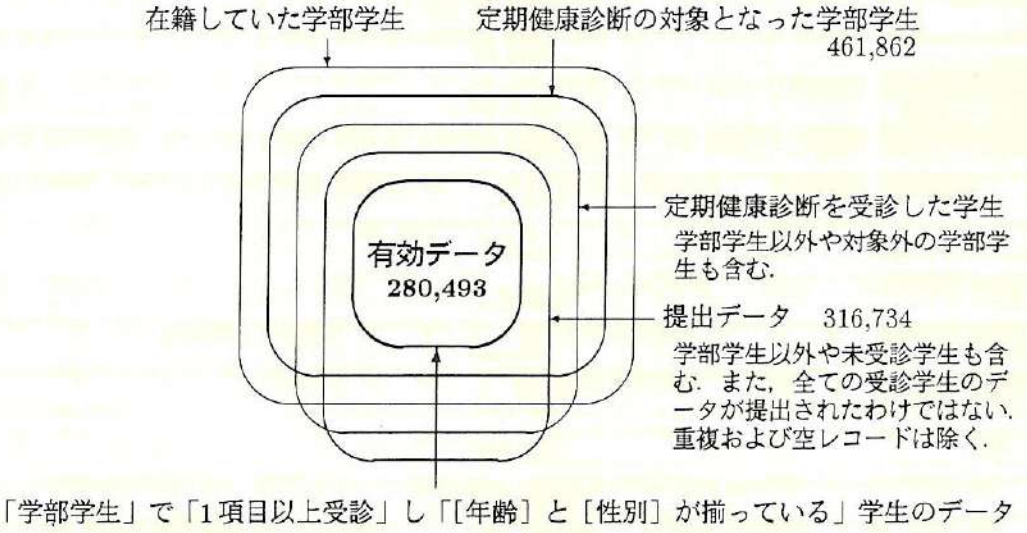


図１．２　学生数とデータの関係

資料 1

定期健康診断調査項目

No.	項目	値
	基本項目(ID)	
1	内容の種別	1:定期健康診断
2	大学コード	大学入試センターの大学コード
3	学年制の分類	1:4年制学部，2:6年制学部
4	学部コード	大学入試センターの学部コード
5	学年	n
6	入学年度	nn　西暦下2桁
7	個人識別番号	10バイト
8	姓名	10バイト
9	性別	1:男，2:女
10	生年月日	$yymmdd$　[計算で西暦化]
11	年齢	nn　1995年4月1日現在の満年齢　[計算で付加]
12	留学生の区分	⇒詳細：†1
	身体計測	
13	身長の測定方法	1:手動，2:自動，3:自己申告，9:未受診
14	身長(cm)	$nnn.n$
15	体重の測定方法	1:手動，2:自動，3:自己申告，9:未受診
16	体重(kg)	$nnn.n$
17	BMI	$nn.n$　[計算で付加]
18	内科	A
19	診察医	1:内科医師，2:内科以外の医師
20	結果	1:正常，2:異常あり，9:未受診，空白:対象外
21	貧血	1:なし，2:あり
22	甲状腺腫	
23	心雑音	
24	不整脈	
25	肝腫大	
26	その他	
27	血圧・脈拍	B
28	測定方法(血圧計)	1:水銀，2:自動，3:水銀+自動，9:未受診
29	収縮期血圧($mmHg$)	nnn
30	拡張期血圧($mmHg$)	nnn
31	脈拍(拍/分)	nnn
32	心電図	C
33	判定法	⇒詳細：†2
34	結果	1:正常，2:異常あり，9:未受診，空白:対象外
35	不整脈	1:なし，2:あり
36	呼吸性不整脈	1:なし，2:あり
37	その他の上室性不整脈	
38	心室性不整脈	
39	WPW症候群	
40	その他の不整脈	
41	STの異常	1:なし，2:上昇，3:下降
42	T波の異常	1:なし，2:平低化，3:陰性化，4:増高
43	その他の異常	1:なし，2:あり

†1　01:中国，02:中国(台湾)，03:大韓民国，04:インドネシア，05:バングラディシュ，06:マレイシア，07:フィリピン，08:タイ，09:上記以外のアジア，10:中近東，11:ヨーロッパ，12:アフリカ，13:北米，14:中南米，15:オセアニア，16:ロシア，17:その他

†2　1:(A)循環器専門医による判定，2:(B)一般内科医による判定，3:(C)自動診断機器による判定，4:(A)+(C)，5:(B)+(C)，6:その他

No.	項目	値
44	**胸部X線**	**D**
45	結果	⇒詳細：†3
46	肺結核:発見の状況	1:なし，2:ありで新規，3:ありで既知
47	肺結核:病巣の活動性	2:活動性，3:非活動性，4:不明
48	気管支拡張症	1:なし，2:ありで新規，3:ありで既知
49	肺炎	
50	気胸	
51	ブラ	
52	心陰影拡大(50% <)	
53	その他	
54	指導区分(判定)	1:放置可，2:要観察，3:要精査，4:要医療
55	**尿検査**	**E**
56	採尿時期	1:検査時，2:検査日早朝尿，3:その他，9:未受診
57	採尿条件	1:空腹時，2:食後，3:随時
58	方法(試験紙を)	1:目視，2:自動分析器
59	試験紙(種類)	⇒詳細：†4
60	自動分析器(種類)	⇒詳細：†5
61	蛋白	1:−，2:±，3:+，4:++，5:+++，6:++++
62	潜血	
63	糖	
64	**眼科検診**	**F**
65	診察医	1:眼科医師，2:眼科以外の医師
66	結果	1:正常，2:異常あり，9:未受診，空白:対象外
67	斜視	1:なし，2:あり
68	結膜炎	
69	霰粒腫	
70	麦粒腫	
71	涙のう炎	
72	角膜異常	
73	その他	
74	**耳鼻科検診**	**G**
75	診察医	1:耳鼻科医師，2:耳鼻科以外の医師
76	結果	1:正常，2:異常あり，9:未受診，空白:対象外
77	慢性中耳炎	1:なし，2:あり
78	難聴	
79	慢性副鼻腔炎	
80	慢性鼻炎	
81	鼻中隔湾曲症	
82	鼻アレルギー	
83	咽頭炎	
84	慢性扁桃炎	
85	扁桃肥大	
86	頭頸部腫瘍	
87	その他	
88	**皮膚科検診**	**H**
89	診察医	1:皮膚科医師，2:皮膚科以外の医師
90	結果	1:正常，2:異常あり，9:未受診，空白:対象外

†3　1:間接撮影で異常なし，2:同異常あり，3:直接撮影で異常なし，4:同異常あり，9:未受診，空白:対象外

†4　1:栄研化学，2:テルモ，3:BM東宝，4:ヘキスト，5:藤沢薬品，6:マイルス-三共，7:和光純薬，8:京都第一科学

†5　1:オーションアナライザー・ミニオーションアナライザー，2:ユリフレット，3:クリニラブ，4:クリニテック(10,100,200)，5:プレテスター，6:メディグラフ，7:ウロトロンRL-9，8:UP-SENOR，9:ZD-501，A:チェッカー4，B:その他

No.	項目	値
91	アトピー性皮膚炎	1:なし，2:あり
92	白癬	
93	母斑	
94	変形爪	
95	その他	
96	歯科検診	**I**
97	結果	1:正常，2:異常あり，9:未受診，空白:対象外
98	う蝕罹患	1:なし，2:あり
99	未処置歯	
100	抜去歯	
101	処置歯	
102	歯周疾患	
103	歯肉炎	
104	歯周炎	
105	不正咬合	
106	その他	
107	血液検査	**J**
108	末梢血測定法	1:コールター，2:トーア，3:他自動，4:手動
109	血色素($g/d\ell$)	$nn.n$
110	赤血球数($\times 10^4/mm^3$)	nnn
111	ヘマトクリット(%)	$nn.n$
112	白血球数($/mm^3$)	$nnnn$
113	総コレステロール($mg/d\ell$)	nnn
114	GOT·GPT単位	1:IU/ℓ，2:カルメン単位
115	GOT	nnn
116	GPT	nnn
117	γ-GTP単位	1:IU/ℓ，2:カルメン単位
118	γ-GTP	nnn
119	尿酸($mg/d\ell$)	$nn.n$

以下は，二次·精密検査．

No.	項目	値
120	二次·精密：血圧·脈拍	**K**
121	方法(血圧計)	1:水銀，2:自動，3:水銀+自動，9:未受診
122	収縮期血圧($mmHg$)	nnn
123	拡張期血圧($mmHg$)	nnn
124	脈拍(拍/分)	nnn
125	指導区分(判定)	1:放置可，2:要観察，3:要精査，4:要医療，9:未受診
126	二次·精密：心電図	**L**
127	不整脈の学生 精密検査の必要性	1:認めない，2:認める
128	精密検査の実施	1:実施せず，2:実施した
129	運動負荷試験	1:行わない，2:行った
130	ホルター心電図	
131	超音波検査	
132	その他の検査	
133	ST-T異常の学生 精密検査の必要性	1:認めない，2:認める
134	精密検査の実施	1:実施せず，2:実施した
135	運動負荷試験	1:行わない，2:行った
136	超音波検査	
137	心臓カテーテル検査	
138	心電図再検査	
139	その他の検査	
140	指導区分(判定)	1:放置可，2:要観察，3:要精査，4:要医療，9:未受診

No.	項目		値
141	二次:精密：尿検査		M
142	採尿時期		1:検査時，2:検査日早朝尿，3:その他，9:未受診
143	採尿条件		1:空腹時，2:食後，3:随時
144	方法(試験紙を)		1:目視，2:自動分析器
145	試験紙(種類)		⇒詳細：†4
146	自動分析器(種類)		⇒詳細：†5
147	蛋白		1:−，2:±，3:+，4:++，5:+++，6:++++
148	潜血		
149	糖		
150	蛋白・潜血の検査	腎生検	1:なし，2:あり
151		体位性蛋白尿	
152		急性腎炎	
153		慢性腎炎	
154		ネフローゼ症候群	
155		腎不全	
156		その他の腎炎(腎症)	
157		腎炎の疑い	
158		特発性腎出血	
159		尿路感染症	
160		尿路結石	
161		腎:尿路腫瘍	
162		遊走腎	
163		その他	
164		詳細不明	
165		指導区分(判定)	1:放置可，2:要観察，3:要精査，4:要医療，9:未受診
166	尿糖	ブドウ糖負荷試験	1:正常，2:腎性糖尿，3:境界型，4:糖尿病型
167		指導区分(判定)	1:放置可，2:要観察，3:要精査，4:要医療，9:未受診
168	詳細記述		各科検診のその他が"あり"の場合の，ICD-10に準拠して作成した数字3桁の傷病分類コードの列.

資料 2

※

平成７年度　定期健康診断票

＿＿＿＿大学　　＿＿月＿＿日受検

内容の種別	学年制の分類	学部コード	学年	入学年度	個人識別番号	姓名
1	2	3 4 5	6	7 8	9 10 11 12 13 14 15 16 17 18	19 20 21 22 23 24 25 26 27 28

フリガナ

氏名

＿＿＿学部＿＿＿＿学科＿＿年（平成 昭和 ＿＿年 入学 進学）

大学院＿＿＿学研究科＿＿＿専攻 MC DC ＿＿年（平成 昭和 ＿＿年 入学 進学）

性別	生年月日	留学生の区分
29	30 31 32 33 34 35 36	37 38
男 女	S	
1 2		

中国	01	フィリピン	07	北米	13
中国（台湾）	02	タイ	08	中南米	14
大韓民国	03	上記以外のアジア	09	オセアニア	15
インドネシア	04	中近東	10	ロシア	16
バングラディシュ	05	ヨーロッパ	11	その他	17
マレイシア	06	アフリカ	12		

［注］留学生のみ入れる 日本人学生には17などの番号を入れないこと。

身体計測

身長　方法 39　40 41 42 43 44 cm

体重　方法 45　46 47 48 49 50 kg

胸囲　cm

内科

52 A

診察医	結果	貧血	甲状腺腫	心雑音	不整脈	肝腫大	その他	所見など
53	54	55	56	57	58	59	60	
内科 内以外科	正常 異常あり 未検	なし あり	なし あり	なし あり	なし あり	なし あり	なし あり	
1 2	1 2 9	1 2	1 2	1 2	1 2	1 2	1 2	

血圧・脈拍

61 B

測定方法（血圧計）	収縮期血圧	拡張期血圧	脈拍
62	63 64 65	66 67 68	69 70 71
水銀 自動 水銀＋自動 未受検	mmHg	mmHg	拍/分
1 2 3 9			

心電図

72 C

判定法	結果	不整脈	呼吸性不整脈	その他の上室性不整脈	心室性不整脈	WPW症候群	その他不整脈	STの異常	T波の異常	その他
73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83
循環器専門医 一般内科医 自動診断 循医＋自動 一般内医＋自動 その他	正常 異常あり 未受検	なし あり	なし あり	なし あり	なし あり	なし あり	なし あり	なし あり 上昇 下降	なし あり 平低化 陰性化 増高	なし あり
1 2 3 4 5 6	1 2 3	1 2	1 2	1 2	1 2	1 2	1 2	1 2 3	1 2 3 4	1 2

胸部X線

間接撮影番号 ＿＿＿＿（月　日撮影）

84 D

結果	肺結核 発見の状況	肺結核 病巣の活動性	気管支拡張症	肺炎	気胸	プラ	心陰影拡大（50%）	その他	指導区分（判定）
85	86	87	88	89	90	91	92	93	94
間接 異常なし 異常あり 直接 異常なし 異常あり 未受検	なし あり 新規 既知	なし あり 活動性 非活動性 不明	なし あり 新規 既知	なし あり 新規 既知	なし あり 新規 既知	なし あり 新規 既知	なし あり 新規 既知	なし あり 新規 既知	放置可 要観察 要精査 要医療
1 2 3 4 9	1 2 3	1 2 3 4	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3 4

→ 間接撮影をしない場合

尿検査

95 E

採尿時期	採尿条件	方法（試験紙を）	試験紙	自動分析器	蛋白	潜血	糖
96	97	98	99	100	101	102	103
検査時 検早査朝日尿 その他 未受検	空腹時 食後 随時	目視 自分析動器			－ ± ＋ ＋＋ ＋＋＋ ＋＋＋＋	－ ± ＋ ＋＋ ＋＋＋ ＋＋＋＋	－ ± ＋ ＋＋ ＋＋＋ ＋＋＋＋
1 2 3 9	1 2 3	1 2			1 2 3 4 5 6	1 2 3 4 5 6	1 2 3 4 5 6

※ 既往歴（過去にかかった大きな病気・手術・外傷などがあれば下欄に記入して下さい）

［　　］

家族歴

判定　健康　要二次　保留

※ 太わく内は学生個人で記入しておくこと

裏面へ続く

個人識別番号 ＿＿＿＿＿＿ 氏名 ＿＿＿＿＿＿

眼科

105 F

診察医 106	結果 107	斜視 108	結膜炎 109	霰粒腫 110	麦粒腫 111	涙のう炎 112	角膜異常 113	その他 114
眼科 1 / 眼科以外 2	正常 1 / 異常 2 / 未受検 9	なし 1 / あり 2	なし 1 / あり 2	なし 1 / あり 2	なし 1 / あり 2	なし 1 / あり 2	なし 1 / あり 2	なし 1 / あり 2

視力 右 ＿＿＿＿ 左 ＿＿＿＿

正常の場合以下(108～114)のチェックは省略可　病名(

耳鼻科

115 G

診察医 116	結果 117	慢性中耳炎 118	難聴 119	慢性副鼻腔炎 120	慢性鼻炎 121	鼻中隔弯曲症 122	鼻アレルギー 123	咽頭炎 124	慢性扁桃炎 125	扁桃肥大 126	頸頸部腫瘍 127	その他 128
耳鼻科 1 / 耳鼻以外 2	正常 1 / 異常 2 / 未受検 9	なし 1 / あり 2	なし 1 / あり 2	なし 1 / あり 2	なし 1 / あり 2	なし 1 / あり 2	なし 1 / あり 2	なし 1 / あり 2	なし 1 / あり 2	なし 1 / あり 2	なし 1 / あり 2	なし 1 / あり 2

正常の場合以下(118～128)のチェックは省略可　病名(

皮膚科

129 H

診察医 130	結果 131	アトピー性皮膚炎 132	白癬 133	母斑 134	変形爪 135	その他 136
皮膚科 1 / 皮膚以外 2	正常 1 / 異常 2 / 未受検 9	なし 1 / あり 2	なし 1 / あり 2	なし 1 / あり 2	なし 1 / あり 2	なし 1 / あり 2

正常の場合以下(132～136)のチェックは省略可　病名(

歯科

137 I

結果 138	う蝕罹患 139	未処置歯 140	抜去歯 141	処置歯 142	歯周疾患 143	歯肉炎 144	歯周炎 145	不正咬合 146	その他 147
正常 1 / 異常 2 / 未受検 9	なし 1 / あり 2	なし 1 / あり 2	なし 1 / あり 2	なし 1 / あり 2	なし 1 / あり 2	なし 1 / あり 2	なし 1 / あり 2	なし 1 / あり 2	なし 1 / あり 2

正常の場合以下のチェックは省略可　なしの場合以下3項目のチェックは省略可　なしの場合以下2項目のチェックは省略可　病名

血液検査

148 J

血色素	赤血球数	ヘマトクリット	白血球数	総コレステロール	GOT	GPT	r-GTP	尿酸
149 150 151 152	153 154 155	156 157 158 159	160 161 162 163 164	165 166 167	168 169 170	171 172 173	174 175 176	177 178 179 180
・	×10⁴	・						・

二次検査・精密検査

血圧

181 K

方法(血圧計) 182	収縮期血圧	拡張期血圧	脈拍	指導区分(判定) 192
水銀 1 / 自動 2 / 水銀+自動 3 / 未受検 9	183 184 185 mmHg	186 187 188 mmHg	189 190 191 拍/分	放置可 1 / 要観察 2 / 要精査 3 / 要医療 4 / 未受検 9

心電図

193 L

不整脈を呈した学生について

精密検査の必要性 194	精密検査の実施 195	運動負荷試験 196	ホルター心電図 197	超音波検査 198	その他 199
認めない 1 / 認める 2	実施せず 1 / 実施した 2	行わない 1 / 行った 2	行わない 1 / 行った 2	行わない 1 / 行った 2	行わない 1 / 行った 2

ST・T異常を呈した学生について

精密検査の必要性 200	精密検査の実施 201	運動負荷試験 202	超音波検査 203	心臓カテーテル 204	心電図再検査 205	その他 206	指導区分(判定) 207
認めない 1 / 認める 2	実施せず 1 / 実施した 2	行わない 1 / 行った 2	行わない 1 / 行った 2	行わない 1 / 行った 2	行わない 1 / 行った 2	行わない 1 / 行った 2	放置可 1 / 要観察 2 / 要精査 3 / 要医療 4 / 未受検 9

検尿

(2次)

208 M

採尿時期 209	採尿の条件 210	方法(試験紙を) 211	試験紙 212	自動分析器 213	蛋白 214	潜血 215	糖 216
検査時 1 / 検査早朝日尿 2 / その他 3 / 再なし 8 / 未受検 9	空腹時 1 / 食後 2 / 随時 3	目視 1 / 自動分析器 2			− 1 / ± 2 / + 3 / ++ 4 / +++ 5 / ++++ 6	− 1 / ± 2 / + 3 / ++ 4 / +++ 5 / ++++ 6	− 1 / ± 2 / + 3 / ++ 4 / +++ 5 / ++++ 6

尿蛋白・潜血の**精密検査(3次)**の結果

腎生検 217	体位性蛋白尿 218	急性腎炎 219	慢性腎炎 220	ネフローゼ症候群 221	腎不全 222	その他の腎炎(腎症) 223	腎炎の疑い 224	特発性腎出血 225	尿路感染症 226	尿路結石 227	腎・尿路腫瘍 228	遊走腎 229	その他 230	詳細不明 231	指導区分(判定) 232
なし 1 / あり 2	なし 1 / あり 2	なし 1 / あり 2	なし 1 / あり 2	なし 1 / あり 2	なし 1 / あり 2	なし 1 / あり 2	なし 1 / あり 2	なし 1 / あり 2	なし 1 / あり 2	なし 1 / あり 2	なし 1 / あり 2	なし 1 / あり 2	なし 1 / あり 2	なし 1 / あり 2	放置可 1 / 要観察 2 / 要精査 3 / 要医療 4 / 未受検 9

病名

尿糖の精密検査結果

ブドウ糖負荷試験 233	指導区分(判定) 234
正常 1 / 腎糖性尿 2 / 境界型 3 / 糖尿病型 4	放置可 1 / 要観察 2 / 要精査 3 / 要医療 4 / 未受検 9

資料3

国立大学の定期健康診断実施状況

川 崎 晃 一

はじめに

国立大学保健管理センターの代表者会議は，毎年全国大学保健管理研究集会の後に7地区の当番制で開かれている。その会議の席上で，大学生の健康白書を作成することが提案された。これまで，大学生の健康に関する資料が全然なかったため，この提案は直ちに取り上げられ，健康白書作成委員会（委員長：岡山大学山吹隆寛教授）が組織された。委員長を中心に多大の労力を費やして，昭和62(1987)年10月に『学生の健康白書1984：国立大学保健管理センター所長会議編』が発刊された。その後，この健康白書の意義・有用性が所長会議で検討され，また文部省からの強い要望もあって，10年に1回の割合で大規模の白書作成を実施することが決議された。さらに，その中間の年度には，体格などの基本統計をまとめた小規模の白書を作成することも決議され，名古屋大学教授戸田安士委員長を中心とした健康白書作成委員会の努力で，『学生の健康白書1990：国立大学保健管理施設協議会編』が平成4(1992)年3月に発行された。

平成4(1992)年度の国立大学保健管理施設協議会(国立大学保健管理センター所長会議の改称名)で1995年度健康白書作成委員会が組織された。過去2回の白書作成にいずれも委員として関わっていたこともあって，委員長に推薦された。しかし，九大健康科学センター健康管理部門のスタッフならびに事務（保健掛）の協力が得られなければ，この任を全うすることはできない。健康管理部門会議でこの件が討議され皆の了承を得たので，引き受けることにした。

平成7(1995)年度実施に向けての準備を進める中で，まず国立大学の定期健康診断実施状況を知ることが必要と考え，アンケート調査を行ったので，その結果をここにまとめた。この調査は平成5(1993)年度の各大学の定期健康診断の実施状況についてたずねたもので，返送されてきたデータをそのまま集計した。

1．調 査 法

必要事項を記入してもらう方法で，各大学保健管理センター宛に本稿末尾に掲載したアンケート用紙を平成5年8月に発送した。必要事項を可能な限り記入してもらい，同年9月13日までに返送を依頼した。

2．回 収 率

平成4年度末までに，国立大学の保健管理センターは90校に設置されていたが，そのすべての大学から100％の回答を得ることができた。

3．結果のまとめ

各大学の定期健康診断実施状況は，アンケート用紙の質問事項に沿って本文末に表3−1−1～3−3−2としてまとめて掲載しているので，ここではそれぞれの項目について集計を行い，その結果の概略のみを記載する。なお，ここに記載しているデータは，各大学の平成5年度の成績であるが，未整理・未実施などの場合は平成4年度の成績を記入してもらった。

1）対 象

健康診断の対象となる学生数は514,429名で，受検者数は340,823名，受検率は66.3％であった。対象者の内訳は30校が学部学生および大学院生であり，研究生まで対象としている大学が26校，さらにその他（医療短大生，専修生，専攻科学生，付属学校生，聴講生など）の学生に対しても行っている大学が29校あった。(無回答5校)

参考までに規模別の大学数を示す。

①1,000名以下　：10校（11.1％），
②1,001～3,000名　：21校（23.3％），
③3,001～5,000名　：18校（20.0％），
④5,001～10,000名：27校（30.0％），
⑤10,001名以上　：14校（15.6％）．
計90校（100％）

2）実施時期

大多数の大学が4月から5月（68校：75.6％）ないし6月（17校：18.9％）までの間に終了していたが，2校は7月まで，1校は5月と10月に実施していた。(無回答2校)

3）実施期間

大学の規模や実施時間によって期間は異なっていたが，記載されたままの数値を集計した。平均実施期間は11日間であった。7日以内が40校，2週間以上を費やしている大学も25校あった。(無回答3校)

4）実施時間帯

午前中のみが1校，午後のみが32校，終日が46校，終日と午前又は午後の組み合わせが10校であった。(無回答1校)

5）検査項目毎の集計

身長および体重測定・内科診察・胸部X線撮影・検尿はほとんどの大学で行われていた。また成人病検診では不可欠の血圧測定は9割，心電図検査は約5割の大学で実施されていた。経費と人手を要すると思われる血液検査が半数近くの大学で行われており，また聴力検査が約3割，歯科検査が約1割の大学で実施されていた。以上のほかに，食事，健康状態などを尋ねるアンケート調査が約8割の大学で行われていた。

検査項目別にみた検査方法，実施状況などをまとめて表1に示す。また，それ以外の主な内容を以下にまとめた。

(1) 身長，体重の検者が職員以外の大学が43校(47.8%)あり，うち21校(23.3%)は学生本人に計量させ，22校(24.4%)は学生本人に記述させていた。

(2) 内科診察(複数回答あり)はセンター医師(65校)，学内医師(38校)，学外医師(43校)で行われていた。

(3) 胸部X線の検者は保健管理センターまたは学内以外の外部業者への委託が半数以上の54校あった。

(4) 血圧測定は68校(75.6%)が自動血圧計の単独または水銀血圧計との併用であり，このうち6割の大学が日本コーリン社製自動血圧計を使用していた。

(5) 尿検査

①医師又は教職員が行っている大学が31校，尿検査を外部業者に依頼している大学が14校，自動測定器使用大学が26校あった。(その他・無回答が19校)

表1 定期健康診断実施状況調査集計

項目	種別	校数	割合(全90大学)
身長	①手動身長計使用校	34校	37.8%
	②自動測定器使用校	48	53.3
	③併用校	7	7.8
	④未実施校	1	1.1
体重	①手動体重計使用校	19	21.1
	②自動測定器使用校	66	73.3
	③併用校	4	4.4
	④未実施校	1	1.1
内科診察	①センター医師のみ	5	5.5
	②①+学内または学外	60	66.7
	③学内and/or学外	11	12.2
	④学外医師のみ	6	6.7
	⑤実施せず	8	8.9
胸部X線	①直接撮影	1	1.1
	②間接撮影	86	95.6
	③併用校	3	3.3
血圧測定	①自動血圧計使用校	42	46.7
	②水銀血圧計使用校	13	14.4
	③併用校	26	28.9
	④検査していない	9	10.0
検尿	①テープ	44	49.0
	②試薬	0	0
	③自動測定器	24	26.7
	④併用	13	14.4
	⑤不明	4	4.4
	⑥検査していない	5	5.5
色覚異常	①検査している	50	55.6
	②検査していない	40	44.4
心電図	①検査している	55	61.1
	②検査していない	35	38.9
血液検査	①末梢血	9	10.0
	②血液生化学	14	15.6
	③末梢血と血液生化学	16	17.8
	④不明	3	3.3
	⑤検査していない	48	53.3
聴力検査	①検査している	28	31.1
	②検査していない	62	68.9
歯科検査	①検査している	10	11.1
	②検査していない	80	88.9
異常者の処置	①センターで二次検診	31	34.4
	②一次検診のみで医療機関の受診を勧める	4	4.4
	③二次検診後医療機関の受診を勧める	54	60.0
	④その他	1	1.1
留学生の健康診断	①日本人学生と同じ項目を同じ方法で行う	77	85.6
	②日本人学生より検査項目が多い	12	13.3
	③無回答	1	1.1
	④全対象者数(概数)		8,000人
	⑤受検者数		4,665人
	⑥受検率		58%
運動部の検診	①行っている	34	37.8
	②行っていない	13	14.4
	③要望があれば行う	39	43.3
	④ ①+③	3	3.3
	⑤無回答	1	1.1

表 2　定期健康診断実施状況調査－尿検査の項目

実施大学＼項目	蛋白	潜血	糖	PH	ウロビリノーゲン	ビリルビン	ケトン	白血球	亜硝酸	比重
34校	○	○	○							
1	○	○	○	○						
21	○	○	○		○					
1	○	○	○					○		
11	○	○	○	○	○					
1	○	○	○	○	○	○				
3	○	○	○	○	○	○	○			
3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
1	○	○	○	○				○	○	○
7	○		○							
1	○		○		○					
計 84	84	76	84	28	40	7	6	5	4	4
(%)	100	90.5	100	33.3	47.6	8.3	7.1	6.0	4.8	4.8

②条件は随時尿が65校で最も多く，空腹時８校，食後が３校あった。（無回答14校）

③検尿項目についての質問に84校から回答があった。表２にその内訳と大学数を示す。この表に示すように，各大学で項目数は２項目から10項目までさまざまであった。

④尿検査に使用される試験紙および自動分析器も大学によって異なり，前者は14種類（最多はヘマコンビスティックで９校），後者は９種類（最多はクリニテックス200で４校）が使用されていた。

(6)　全学，一部学生を問わず心電図検査を実施している55大学のうち外部委託が11校（20%）あった。

(7)　定期健康診断で何らかの異常を示した学生の処置についての質問では，「異常あり」と本人に通知するだけの大学は１校もなく，すべての大学で２次検診を行い，さらに異常が見られたときには医療機関受診を勧めていた。

おわりに

国立大学90校の定期健康診断実施状況を調査・集計したのは初めての試みと思われる。しかしながら，まとめてみると質問方法や質問内容などに不備な点が目についた。回答するのに迷われた大学も多かったであろうとこの紙面を借りてお詫び申し上げる。最後に掲載した付表に示された各大学の個々のデータも“機械集計”でなく，“人力集計”であったため，誤記・誤集計があるかも知れない。またアンケートの未記入箇所は，再度問い合わせを行っているが，もし事実と大きく異なるような誤りがあれば，修正したいのでぜひご一報いただきたい。

ともあれ，質問項目に従って集計した結果をここにまとめた。これらの資料は，平成７年度に実施予定の『学生の健康白書』作成のための資料収集に際して，大変役立つと考えている。また，将来各大学において定期健康診断の在り方を探るうえで，これらが何らかの参考資料として利用されるならば，大変幸せである。

最後に，このアンケート調査にご協力いただき，100%の回答をお寄せいただいた各大学の保健管理センター所長はじめ関係者各位に心から御礼申し上げたい。また，アンケート作成からまとめに至るまで協力の労を惜しまれなかった九大健康科学センターのスタッフ，および総合理工学研究科等事務部保健掛事務官に感謝する。

［註］表３の中に記載された数字や記号（ア，イなど）は本稿末尾のアンケート用紙の項目の数字や記号を示したものである。備考欄の記載は省略した。

表3　定期健康診断実施状況調査集計表

(表3－1－1)

大学	学生数	受検者数	受検率	定健時期など				体格						内科診察						X線		
				時期(月)	期間(日)	時間帯	対象	身長	体重	胸囲	皮脂	検者 身長	検者 体重	実施	検者 1	検者 2	検者 3	検者 4	判定者	方法	検者	判定
1	14,414	8,952	62.1	4～6	18	アウ	アイウ	2	1	○	×	2	2	○	○	○			1	2	1,3	1
2	5,877	5,470	93.1	5	2	イ	未記入	2	2	×	×	3	3	○	○		○		2	2	3	3
3	2,017	1,369	68.0	5	4	イ	アイ	2	2	×	×	2	2	×						2	3	1
4	2,378	1,571	66.1	5	2	イ	アイウエ	1	1	×	×	2	2	○	○		○		1	2	1	1
5	1,352	762	56.3	4～6	2	イ	アイウ	1	2	○	×	3	3	○		○	○		2	2	1	1
6	722	560	77.6	4～5	3	イ	アイ	2	2	×	×	2	2	○		○			3	2	3	3
7	1,885	1,274	67.6	5	4	ウ	アイ	2	2	○	×	2	2	×						2	3	3
8	6,252	3,802	60.8	4～6	19	イ	アイ	2	2	×	×	1	1	○		○			2	2	1	1
9	5,821	4,050	69.6	5	10	イ	アイウエ	2	2	×	×	2	2	○	○		○		1,2	2	1	1
10	15,012	9,292	61.9	5,10	17,14	イ	アイエ	1	1	×	×	3	3	○		○			3	2	3	2
11	1,910	1,511	79.1	5	3	イ	アイエ	1	1	○	×	2	2	×						2	3	3
12	4,885	4,296	87.0	4～5	11	イ	アイウ	2	2	○	×	3	3	○		○			1.2	2	2	1
13	8,521	6,412	75.2	5	5	イ	アイ	1,2	1,2	○	×	3	3	○		○			1	2	3	1
14	1,062	874	82.3	4～6	9	ウ	アイ	2	2	×	×	1,2	1,2	○	○		○		1,2	2	3	3
15	7,690	4,880	63.5	4～5	21	ウ	アイウ	2	2	×	×	2,3	2,3	○	○		○		1,2	2	3	1
16	757	624	82.4	4	1	ウ	アイウ	1,2	1,2	○	×	3	3	○	○		○		1	2	3	1
17	11,800	9,100	77.1	4	8.5	ウ	アイウエ	1	1	○	○	1,3	1,3	○	○	○			1,2,3	2	1,3	1,2
18	5,049	3,705	73.4	4	11	ウ	アイ	2	2	○	×	3	3	○	○		○		2	2	3	3
19	5,982	5,244	87.7	4～5	13	ウ	アイ	1	2	×	×	3	3	○	○	○			2	2	3	3
20	7,665	5,357	69.9	4～5	13	ウ	アイウ	2	2	×	×	1,3	1,3	○	○		○		1,2	1 2	3	1
21	13,665	7,784	60.0	4		ウ	アイウ	2	2	×	×	3	3	○	○	○			2	2	1	1
22	21,261	16,835	79.0	5	20	ウ	アイウエ	2	2	○	×	3	3	○	○	○			1,2,3	2	1	1
23	1,491	1,281	85.9	5	6	ウ	アイウエ	2	2	○	○	3	3	○	○	○			2	2	1,3	1
24	3,712	1,631	43.9	4	3	ウ	アイウ	1	1	×	×	1,3	1,3	×						2	1	1
25	3,419	2,934	85.8	4	3	ウ	アイ	×	×	×	×			○	○		○			2	3	2
26	5,172	4,573	88.4	4	5	ウ	アイ	1	1	×	×	3	3	○	○	○			1	1 2	3	3
27	3,813	1,213	31.8	4	4	ウ	アイウエ	2	2	×	×	3	1,3	○	○		○		1,2	2	3	3
28	8,688	5,049	58.1	4～5	12	ウ	アイウエ	1	1	×	×	3	3	○	○		○		1	2	3	3
29	854	627	73.4	未記入		イ	アイウ	1	2	○	×	3	3	○	○				2	2	1	1
30	1,626	1,114	68.5	5	2	ウ	アイ	2	2	○	×	2	2	○			○		2	2	3	1
31	2,800	1,315	47.0	5～6	5	イ	アイ	2	1	×	×	3	3	○	○		○		1,2	2	3	1

（表３－１－２）

大学	血圧			検尿				色神	心電図			血液検査	聴力検査	歯科検査	異常者の処置	留学生統計				運動部検診	備考
	器具	検者	判定	方法	検者	判定	*		方法	検者	判定					方法	対象数	受検数	%		
1	1,3	1,2	1,2	1	1	1	3	2	×			×	○	○	1,2	ア				1	
2	1		1	1	4	2,4	3	1	1	1	2	1	×	×	2	ア	6	6	100	1	
3	1	1,3	1	1	3	3	3	×	×			×	×	×	1,2	ア	31	14	45.2	3	
4	1	3	1	1	1,4	1,4	3	1,2	1	1	1	×	×	×	1,2	ア	10	3	30.0	3	
5	1,3	1,3	1	1	5	5	3	2	1	1	1	1,2	×	×	4	ア	25	14	56.0	1	
6	3	2	1	1	3	1	3	×	×			×	×	×	1	ア	6	4	66.7	2	
7	1	1,3	1	3	4	4	3	2	×			×	×	×	1	ア	22	17	77.3	2	
8	1,3	2,3	1	3	4	1	3	×	1	1	1	1,2	×	×	1,2	ア	32	10	31.3	1	
9	1	3,4	1	1,3	1	1	3	×	×			×	×	○	1,2	ア	83	40	48.2	3	
10	1	2	2	1	5	2	3	1	1	1	2	2	×	○	1	ア	642	401	62.5	3	
11	3	2	2	1,2	1,5	1,5	3	1	×			×	×	×	1	ア	22	22	100	1	
12	3	2	1	1,3	1	1	1	1	1	1	1	2	○	×	1	イ	81	69	85.2	3	
13	1	3,4	1	未記入	3	3	3	2	1	1	1	×	○	○	1	ア	82	48	58.5	1	
14	×			1	3	3	3	×	○			○	○	×	1,2	ア	11	9	81.8	1	
15	3	3	1	3	3	4	3	×	×			1,2	×	×	1,2	イ	181	92	50.8	3	
16	1,4	3	1	1,3	4,5	2	3	×	×	1	1	×	×	×	1,2	ア	18	17	94.4	2	
17	1,3	3,4	1	1	1,5	1	3	2	1	1	1	1,2	○	○	1,2	ア	193	190	98.5	1,3	
18	1	3	1	1	3	1	3	2	×			1	×	×	1,2	ア	118	94	80.0	3	
19	3,4	3	1	1,3	1	1	3	×	1	1	1	2	×	×	1,2	ア				1	
20	1	3	1	未記入	3	3	1	2	1	1	2	×	×	×	2	ア					
21	1	4	1	3	1	1	3	1,2	×			×	○	×	1	ア				3	
22	1	4	1,3	1	1	1	3	×	1	1	1	1,2	○	×	1	ア				1	
23	1	4	1	3	1	1	3	2	×			×	×	×	1,2	ア	135	41	30.1	2	
24	3	3	1	1,2	1,5	1,5	3	2	1	3	2,3	1,2	×	×	1,2,4	イ	231	91	39.4	1	
25	×			×				1	1	3	2	1	×	×	1,4	ア				1,3	
26	1,3	3	1	1	5	2	3	1	1	1	2	1,2	×	×	1,2	ア	250	221	88.4	3	
27	1,3	4	1	×				×	○			○	○	×	1,2	ア				3	
28	1	3	1	1	1	2	3	×	2	3	2	2	×	×	1	イ	137	87	63.5	2	
29	1,3	3	1	1	5	5	3	2	1			2	○	×	1,2	ア	31	20	64.5	2	
30	×			×				2	×			×	○	×	1,2	ア	101	64	63.4	3	
31	×			×				×	×			×	×	×	1	ア	191	56	29.3	2	

＊採尿条件（アンケート参照）

（表３－２－１）

大学	学生数	受検者数	受検率	定健時期など				体格						内科診察						X線		
				時期(月)	期間(日)	時間帯	対象	身長	体重	胸囲	皮脂	検者		実施	検者				判定者	方法	検者	判定
												身長	体重		1	2	3	4				
32	5,280	4,080	77.3	5	3	イ	アイウ	1,2	2	×	×	3	3	○	○		○		2	2	3	3
33	5,405	4,062	75.2	4	10	イウ	アイウ	2	2	×	×	3	3	×						2	3	3
34	9,298	5,136	55.2	5	4	ウ	アイウ	2	2	○	×	3	3	×						2	3	3
35	11,244	6,858	61.0	5	16	ウ		1	2	×	×	3	3	×						2	3	2
36	1,800	1,544	85.8	5	3	ウ	アイ	2	2	×	×	2	2	○	○		○		1	2	3	3
37	1,308	1,192	91.1	4～7	29	イ	アイ	2	2	×	×	1	1	○	○			○	1,4	2	3	3
38	6,547	3,107	47.0	4～5	6	イ	アイ	1	1	○	×	2	2	○	○		○		2,4	2	3	3
39	1,296	775	59.8	4～6	4	イ	アイ	1	1	○	×	3	3	○	○	○			2	2	3	3
40	9,743	7,132	73.2	4～5	17	イ	アイエ	2	2	○	○	2	2	○		○			1,2	2	1,3	1
41	3,900	2,627	67.4	4～5	12	アイウエ	アイウエ	1	2	○	×	2	2	○	○		○		2	2	1,3	1
42	2,754	2,630	95.5	4～5	8	ウ	アイ	2	2	○	×	1,2,3	1,2,3	○			○		1	2	3	3
43	4,778	3,201	67.0	4～6	21	イ	アイ	1	2	×	×	2	2	○	○	○			2	2	2	1
44	6,535	6,005	91.9	4～5	14	イ	アイウエ	2	2	×	×	3	3	○	○	○	○		2	2	1,3	3
45	7,149	6,169	86.3	4～7	45	ウ	アイウ	1	2	×	×	1	1	○	○		○		1,2	2	1	1
46	725	518	71.5	4～5	3	イ	ア	2	2	×	×	2	2	○	○	○			2,3	2	2	2
47	13,736	10,832	78.9	4～5	17	ウ		2	2	×	○	3	3	○	○		○		2	2	1	1
48	2,113	1,837	86.9	5	11	ウ		2	2	×	×	3	3	○	○		○		2	2	1	1
49	6,269	3,843	61.0	5	2	ウ	アイウ	1	1	○	×	2	2	○			○		1	12	3	1
50	1,941	1,650	85.0	5	5	ウ	アイ	1	2	×	×	2	2	○				○	4	2	3	3
51	7,268	5,062	69.7	4～5	15	ウ	アイウエ	2	2	○	×	2	2	○	○	○			2.3	2	3	3
52	3,582	2,065	57.6	4～5	10	イ	アイウ	2	2	○	×	3	3	○	○		○		1	2	3	1
53	743	649	87.3	5	1	ウ	アイ	2	2	×	×	2	2	○		○			2	2	3	1,2
54	18,460	16,476	89.3	4	13	ア	アイウエ	2	2	○	×	1,2	1,2	○	○	○	○		2,3	2	1	1,2
55	2,078	1,199	57.7	4	4	イ	アイ	2	2	○	×	3	3	○	○		○		1	2	3	3
56	4,011	3,468	86.5	4	3	ウ	アイウ	2	2	×	×	1,3	1,3	○	○	○	○		1,2,3	2	3	1,2
57	18,095	8,917	49.5	4～5	13	ウ	アイウエ	2	2	×	×	2	2	○	○	○			2	2	1	1
58	4,451	1,717	38.5	5	2	ウ	アイ	1	2	×	×	3	3	○	○		○		2	2	3	1,2
59	3,998	3,226	80.7	5	3	ウ	アイエ	1	1	×	×	3	3	○			○		1,2	2	3	1,3
60	1,351	1,286	95.2	4	3	ウ	アイエ	2	2	×	×	2	2	○	○		○		1	2	3	3
61	13,840	6,928	50.1	未記入				2	2	×	×	2	2	○	○	○			1	2	3	2,3
62	1,071	968	90.4	4～5	4	ウ	アイウ	1	2	×	○	○	3	○	○	○		○	1	2	1,3	1,3

(表３－２－２)

大学	血圧			検尿				色神	心電図			血液検査	聴力検査	歯科検査	異常者の処置	留学生統計				運動部検診	備考
	器具	検者	判定	方法	検者	判定	*		方法	検者	判定					方法	対象数	受検数	%		
32	1	4	1	1	3	2	1	1	1	2	2	×	×	×	1	ア	182	147	80.7	1	
33	1,3	3,4	3	1	5	5	2	×	×			×	×	×	1,2,4	ア				2	
34	1	3,4	1	1	1	2	3	1	×			×	×	×	1,2	ア	413	169	40.9	3	
35	3	4	1	3	4	1	3	3	×			×	×	○	1,2	ア	137	76	55.5	3	
36	3	3	3	1	5	5		×	×			×	×	×	1	ア	75	61	81.3	3	
37	1	3,4	1	3	1,4	1,2	3	×	1	1	2	2	○	×	1,2	ア	15	14	93.3	3	
38	1,3	3		1	1	1	3	2	1			×	○	×	1,2	ア	116	39	33.6	1	
39	1,3	3	1	1	5	5	3	×	×			×	×	×	1,2	ア	44	23	52.3	1	
40	1	3	1	3	4	4	3	2	1		1	×	○	×	1	ア	210	100	47.6	3	
41	1	3	1	1	1	1	1	×	×			1	×	×	1	ア	112	74	66.1	3	
42	1,2,3	3,4	3	3	4	4	3	2	1			×	×	×	1	ア				3	
43	3	3	1	1	1,4	1,2	3	×	×			×	×	×	1,2	ア	141	69	48.9	3	
44	×			1	1	1	3	×	×			×	×	×	1,2	ア	148	107	72.3	2	
45	1	3	1	1	1	1	3	×	×			1,2	×	×	1,2	ア	79	48	60.8	1	
46	3	3	1	1	5	5	3	2	2	3	2	1,2	×	×	1,2	ア	32	12	37.5	3	
47	1	3	1	1	1	1	3	×	1	1	1	1,2	×	○	1	ア	603	364	60.4	3	
48	1,3	1,3,4	1	1,2	5	1	3	1,2	1		1	2	○	×	1,2	ア				3	
49	1,3	3,4	3	1	1	1	3	2	1	3	1	×	×	×	1	ア	100	71	71.0	3	
50	1	4	3	1	3	3	3	×	1	3	3	×	×	×	1,2	イ	119	82	68.9		
51	3	3	1	1	1	1	2	×	1	1	1	2	×	×	1	ア	162	79	48.8	1	
52	1,3	3,4	1	3	4	4	3	2	1	1	2	×	○	×	1	ア	56	31	55.4	3	
53	1,3	3	1	1	1	1	3	2	1			1	×	×	1,2	ア	11	7	63.6	1	
54	2	3,4	1,2	1	1,5	1,5	3	2	×			×	×	×	1	ア				3	
55	1	4	1	1,3	1	1	1	2	1	1	1	×	×	×	1,2	ア	41	21	51.2	3	
56	3,4	1,2,4	1,2	3	3,5	4	3	3	×			×	○	×	1,2	ア				1	
57	1	3,4	1,3	1	1	1	3	1	1	1	1	×	×	×	1	ア	707	346	48.9	1	
58	×			3	4	1	3	2	×			×	×	×	1,2,3					1,3	
59	1,3	4	1,3	1	3	1,3,5	3	1	○			×	×	×	1,2,4	ア	34	27	79.4	1	
60	3	4	3	1	3	3	3	×	1	1,3	1,3	1	×	×	1,2	ア	36	31	86.1	1	
61	1	3	1	3	1	2	3	2,3	1	1	2	1	×	×	1	イ	187	147	78.7	1	
62	1	3	1	3	4	2,4	3	1	1	3	2	2	○	×	1,2	ア	26	24	92.3	1	

＊採尿条件（アンケート参照）

(表３－３－１)

大学	学生数	受検者数	受検率	定健時期など				体格						内科診察						X線		
				時期(月)	期間(日)	時間帯	対象	身長	体重	胸囲	皮脂	検者		実施	検者				判定者	方法	検者	判定
												身長	体重		1	2	3	4				
63	1,470	929	63.0	4～5	8	イ	アイエ	2	2	×	×	3	3	○	○		○		1	2	1	1
64	2,331	1,315	56.4	6	3	ウ	アイウエ	1	2	×	×	3	3	○			○		2	2	1	1
65	2,881	2,578	89.5	4～6	30	ウ	アイウ	2	2	×	×	1,2	1,2	○	○	○	○		1,2	2	1	1
66	5,357	3,437	64.2	4～6		ウ	アイウエ	1,2	2	○	×	1,2	1,2	○	○		○		1,2	2	1,3	1,3
67	4,539	1,814	40.0	4～6	9	イ	ア	2	2	×	×	2	2	○	○		○		2	2	2	3
68	699	548	78.4	4～6	7	イ	アイ	2	2	×	×	3	3	○		○			3	1	2	2
69	12,908	7,970	61.2	4～5	17	ウ	アイウ	1	2	×	○	1	1	○	○	○			1	2	3	1
70	15,931	7,680	48.2	4～5	22	ウ	アイウエ	2	2	×	×	3	3	○	○				2	2	1,3	1
71	9,863	5,109	42.0	4～6	22	イ	アイウ	1,2	2	×	×	2	2	○		○			2	2	3	
72	6,644	3,533	53.2	4～6	20	イ	エ	2	2	×	×	2	2	○	○	○			2	2	1,3	1,3
73	1,097	930	84.8	5	9	ウ	アイ	2	2	×	×	2	2	○	○				2	2	3	3
74	4,702	2,627	55.9	4～5	10	アイウ	アイウ	1	1	○	×	3	3	○	○			○	1	2	3	1,3
75	8,265	5,168	62.5	4～6	51	ア	アイ	2	2	×	○	2	2	○	○				2	2	3	1
76	4,569	1,894	41.5	4	10	ウ	アイウ	1,2	1,2	○	×	3	3	○	○		○		1,2	2	1,3	1,3
77	596	130	21.8	5	2	ウ	アイ	1	1	×	×			○					1	2	3	3
78	3,419	3,298	97.4	4	4	ウ	アイウ	1	1	○	×	3	3	○	○	○	○		1	2	3	3
79	14,982	6,500	43.4	4	11	イウ	アイウ	2	2	×	×	2	2	○	○	○			1	2	2	2
80	942	680	72.2	5	2	イ	アイウ	2	2	×	×	2	2	○	○		○		2	2	3	3
81	3,720	2,185	58.7	5	3	イ	アイウエ	1	2	○	×	3	3	○	○		○		1	2	3	3
82	5,944	3,945	66.4	4～5	14	イウ	アイウエ	1,2	1,2	○	×	3	3	○	○		○		1,2	2	3	1,3
83	7,505	4,544	60.5	4～6	33	イウ	アイエ	1	1	×	○	2,3	2,3	○	○	○			1,2	2	1	1
84	9,621	6,235	64.8	4～5	16	ウ	アイウエ	2	2	○	×	2	2	○	○	○			2,3	2	1,3	1,2
85	4,882	2,698	55.3	4～5	8	イ	アイウ	1	1	×	×	3	3	○	○		○		1	2	1	1
86	3,986	2,581	64.8	4～6	24	イウ	アイウエ	2	2	×	×	2	2	○	○				1	2	1	1
87	712	647	90.9	5	2	イ	アイ	1	2	×	×	3	3	○		○			1	2	3	3
88	10,202	7,431	72.8	4～5	13	イ	アイエ	1	2	×	×	3	3	○	○	○			1,2	2	3	2
89	778	576	74.0	4	4	ウ	アイ	3	2	×	×	2	2	○	○	○	○		1	2	3	3
90	7,563	5,283	70.0	5	11	ウ	アイウエ	1	2	○	×	3	3	○	○	○			1	2	3	3
合計	514,429	340,823	66.3		10.9	ア 5									64	38	43	4				
実施校数						イ 40		89	89	32	8			83						90		
実施率(%)						ウ 56		98.9	98.9	35.6	8.9			92.2						100		

（表３－３－２）

大学	血圧			検尿				色神	心電図			血液検査	聴力検査	歯科検査	異常者の処置	留学生統計				運動部検診	備考
	器具	検者	判定	方法	検者	判定	*		方法	検者	判定					方法	対象数	受検数	%		
63	1	3	1	3	1	1,4	1	2	1	1	1	1,2	×	×	1,2	ア	54	4	7.4	3	
64	×			1	1	1	2	×	×			×	×	○	1	ア	51	10	19.6	1	
65	1	3,4	1	1	4	1,4	3	2	1	1	1	1,2	○	×	1,2	イ	19	14	73.7	1	
66	1	3	1	1	3	1,3		×	×			×	×	×	1	イ				1	
67	3	3	1	1	1	1	3	×	1	1	1	×	×	×	1	ア	79	26	33.0	3	
68	1	4	2	3	4	2	3	×	×			2	×	×	2	イ	18	16	88.9	2	
69	1	1,4		1,3	1,4	1,4	1	×	2	1	2	1,2	×	×	1	ア				3	
70	1	3	1	1,3	4	4	3	×	1	1	1	1,2	×	×	1,2,3	ア				1	
71	1	4	1	1,3	1,4	1	3	×	1	1	1	×	○	×	1,2	ア	113	74	65.5	1	
72	1	3	1	3	1	1	3	2	1	1	1	2	○	×	1	イ	85	61	71.8	3	
73	1,3	3,4	1	3	1	1,2	1	×	1	1	1	1	×	×	1,2	ア	22	21	95.5	1	
74	1,3	3,4	1	1,3	1	2	3	2	1	1	2	2	○	×	1,4	ア	57	36	63.1	3	
75	1,3	3	1	1	1	1	3	1,2	×		×	×	○	×	1,2	ア	75	24	32.0	2	
76	1		1	3	5	1	3	2	1	1	1	2	○	×	1,2	ア	78	27	34.6	1	
77	×			×				×	×			×	×	×	1,2	ア	11	0	0	2	
78	1	3	1	1	1	1	3	×	1	1	2	×	×	×		ア	97	94	96.9	2	
79	1	3	1	1	1,2	1,2	3	1	1	1,2,3	1	×	×	×	1,2	イ	233	204	87.6	3	
80	1	4	1	3	4.5	4	3	×	×			×	×	×	1,2,4	ア	31	26	83.9	1	
81	3	4	3	1	5	5	3	1	×			×	×	×	1,2	ア	65	42	64.6	3	
82	1,3	1,4	1	1,3	1	1	3	×	1	1		×	×	×	1,2	イ	142	112	78.9	1	
83	1	3		1	1	1	3	3	1	1	2	1,2	○	○	1,2	ア				3	
84	1	3	1	3	3	3	3	×	1	2	2	×	×	×	1	ア	170	74	43.5	3	
85	1,3	3	3	1	5	5	3	1,2,3	×			2	○	×	1,2	ア	63	12	19.0	2	
86	1	1,3	1	3	1,4,5	1	3	×	×			1	×	×	1,2	ア	30	24	80.0	3	
87	1,3	2	2	3	4	2	3	×	1	1	2	×	○	×	2	ア	7	7	100	2	
88	×			1	5	5	3	2	×			×	○	○	1	ア				3	
89	1,3	3	3	1	5	5	3	×	1	3	1,2	1,2	×	×	1,4	ア				3	
90	1	4	1	3	4	1,2	3	2	1		1	1	○	×	1,4	ア	182	53	29	3	
実施校数	81			85				50	55			41	28	10							
実施率(%)	90.0			94.4				55.6	61.1			45.6	31.1	11.1							

＊採尿条件（アンケート参照）

[アンケート用紙]

定期学生健康診断実施状況調査について

大学名（　　）
連絡先　電話（　　）−（　　）−（　　）
FAX（　　）−（　　）−（　　）

1．平成5年度の定期学生健康診断実施状況についてお尋ねします。
該当する記号に○印を，（　）内には数字等を記入してください。
なお，平成5年度の定期健康診断が未実施の場合は，平成4年度のものを記入してください。
(1)実施時期等　（　）月（　）日〜（　）月（　）日．（　）日間　（ア．午前のみ　イ．午後のみ　ウ．終日）
(2)検診対象学生　ア．学部学生　イ．大学院生　ウ．研究生　エ．その他
(3)受検状況　ア．検診対象学生数（　　）名
イ．受検者数（　　）名
ウ．受検率（　　）%

2．平成5年度定期学生健康診断の検査項目についてお尋ねします。
(1)方法，検者，記録者，判定者については，該当番号に○印（複数回答可）を記入してください。
(2)条件等がある場合は，具体的に記入してください。

検査項目	実施の有無	方法	検者	記録者	判定者	条件	備考
身長	有 無	1.手動の身長計 2.自動測定器 3.その他	1.センター教職員 2.事務職員 3.その他（　）	1.センター教職員 2.事務職員 3.その他（　）			
体重	有 無	1.手動の体重計 2.自動測定器 3.その他	1.センター教職員 2.事務職員 3.その他（　）	1.センター教職員 2.事務職員 3.その他（　）			
胸囲	有 無		1.センター教職員 2.事務職員 3.その他（　）	1.センター教職員 2.事務職員 3.その他（　）			
皮下脂肪厚	有 無	1.脂肪厚計 2.その他	1.センター教職員 2.事務職員 3.その他（　）	1.センター教職員 2.事務職員 3.その他（　）			
内科診察	有 無	診察項目 1.貧血　2.不整脈 3.心音異常　4.漏斗胸 5.脊柱異常 6.その他（　）	1.センター医師 2.学内の医師 3.学外の医師 4.その他（　）	1.検者自身 2.介護者 3.その他（　）	1.夫々の検者 2.センター医師 3.学内医師 4.その他（　）		
胸部X線撮影	有 無	1.直接 2.間接	1.保健管理センター 2.学内施設医学部 3.外部業者		1.センター医師 2.学内医師 3.外部業者		対象者 1.全員 2.一部（＊　）
血圧	有 無	1.卓上型自動測定器＊ 2.家庭用小型自動測定器＊ 3.水銀血圧計 4.その他	1.センター医師 2.学内医師 3.看護婦・保健婦 4.その他（　）	1.センター教職員 2.事務職員 3.その他（　）	1.センター医師 2.学内の医師 3.その他（　）	1.坐位 2.臥位	測定器名を記入してください。 （＊　）
尿検査	有 無	1.テープ（　） 2.試薬 3.自動測定器 ＊商品名を記入	1.センター教職員 2.学内医師 3.外部業者 4.自動測定器 5.その他（　）	1.センター教職員 2.事務職員 3.その他（　）	1.センター教職員 2.学内医師 3.外部業者 4.自動測定器 5.その他（　）	1.空腹　採尿は 2.食後　1.検査時 3.随時　2.前日 3.当日の朝	検査項目 1.蛋白　2.潜血　3.糖 4.ウロビリノゲン 5.その他（　）
色神検査	有 無	1.東京医大式 2.石原式 3.その他（　）	1.センター教職員 2.学内医師 3.学外医師 4.事務職員	1.センター教職員 2.事務職員 3.その他（　）	1.センター教職員 2.学内医師 3.学外医師 4.事務職員		

検査項目	実施の有無	方法	検者	記録者	判定者	条件	備考
安静時心電図	有 無	1.12誘導 2. 6誘導	1.センター教職員 2.学内医師 3.外部業者		1.センター教職員 2.学内医師 3.外部業者		
血液検査	有 無	検査項目 1.末梢血 2.血液生化学 項目数 (　　)項目	1.学内医師 学外医師 3.外部業者		1.学内医師 2.学外医師 3.外部業者	1.空腹時　採血は 2.食後　1.定健当日 3.随時　2.定健とは別日	対象者 1.全員 2.一部(＊　　)
聴力検査	有 無						対象者 1.全員 2.一部(＊　　)
歯科検査	有 無		1.センター医師 2.学内医師 3.学外医師				対象者 1.全員 2.一部(＊　　)
アンケート調査 (事前調査も含む)	有 無	調査内容 1.食事調査 2.健康状態調査 3.その他(　　)					対象者 1.全員 2.一部(＊　　)

＊一部の場合は，具体的に記入してください。

3．異常所見を示した学生のフォローについてお尋ねします。(該当番号を○で囲んでください。)

(1)保健管理センターで二次検診を行う。

(2)医療機関の受診を勧める。

(3)「異常あり」と本人に通知だけする。

(4)その他 (　　)

4．留学生の健康診断についてお尋ねします。

該当する番号に○印を，(　)内には数字等を記入してください。

(1)実施方法　ア．日本人学生と同じ項目を同じ方法で行う。

イ．日本人学生より検査項目が多い。

ウ．日本人学生より検査項目が少ない。

(2)検診対象学生　ア．学部学生　イ．大学院生　ウ．研究生　エ．その他(　　)

(3)受検状況　ア．検診対象学生数　(　　)名

イ．受検者数　(　　)名

ウ．受検率　(　　)％

5．運動部員(体育系サークル部員)に対して，定期健康診断以外に検診を行っていますか。(該当番号を○で囲んでください。)

(1)行っている。

(2)行っていない。

(3)要望があれば行う。

2．体格

2．1　身長

身長の調査は，手動，自動，などの測定法や，自己申告によった（表2．1）．測定単位はcmで，小数点以下1位まで測定した．男子，女子それぞれ18歳から24歳まで，1歳ごとの年齢別に調査し，24歳を越えるものは25歳以上として一つの層にまとめた．男女とも 130cm未満のものと220cmを越えるものを範囲外とした．範囲外の人数は外数としてカウントしたが，度数分布等の集計の対象とはしなかった．範囲内のものについては，身長は1cm区分で作表した．

本調査には94大学の協力が得られた．各年齢層の人数の合計は，男子 177,586名，女子87,151名であった．身長の平均値および標準偏差を表2．2の左（男子）と表2．2の右（女子）に示す．男女の身長の分布を表2．3（男子），表2．4（女子）に示す．

「健康白書1984」（以下「白書1984」とす）と比較して，身長（cm）の平均値では男子で，18歳：170.82→171.16，19歳：170.85→171.32，20歳：170.86→171.48，21歳：170.86→171.48，22歳：170.79→171.59，23歳：170.78→171.75，24歳：170.66→171.52，25歳以上：170.58→171.25と，いずれも数mm増えていたが，各年齢層で1cm以上の差はなかった．

一方女子では，18歳：158.17→158.48，19歳：158.19→158.65，20歳：157.93→158.70，21歳：157.92→158.74，22歳：157.91→158.74，23歳：157.96→158.88，24歳：158.11→159.11，25歳以上：157.54→158.73と，いずれの年齢層でも数mm増えており，かつ，24歳と25歳以上では1cm以上の増加が認められた．

男子で身長が149.9cm以下のものの数は，「白書1984」と比較して，18歳：7→10，19歳：6→12，20歳：9→8，21歳：9→13，22歳：2→11，23歳：1→2，24歳：1→2，25歳以上：0→0 であり，女子で 139.9cm以下のものの数は，18歳：7→7，19歳：2→2，20歳：1→1，21歳：0→4，22歳：1→0，23歳：0→0，24歳：0→1，25歳以上：0→0と，ほぼ同等であった．

一方，身長が男子で 190.0cm以上のものの数は，18歳：12→22，19歳：8→37，20歳：8→27，21歳：12→39，22歳：4→16，23歳：1→9，24歳：1→1，25歳以上：0→6 であり，女子で180.0cm以上のものの数は，18歳：1→6，19歳：0→4，20歳：1→4，21歳：0→3，22歳：0→1，23歳：0→0，24歳：0→0，25歳以上：0→0であった．男女いずれも，とくに若い年齢層でやや増加していた．

以上を，総合すると，「白書1984」に比較して，「白書1995」では，男女とも身長は，ほぼ一様に微増した．

2．2　体重

体重の調査は，手動，自動などの測定法や，自己申告によった（表2．5）．

測定単位はkgで，小数点以下1位まで測定した．男子，女子それぞれ18歳から25歳まで，1歳ごとの年齢別に調査し，24歳を越えるものは25歳以上として一つの層にまとめた．男女とも，30kg未満のものと 160kgを越えるものを範囲外とした．範囲外の人数は外数としてカウントしたが，度数分布等の集計の対象とはしなかった．範囲内のものについては，体重は1kg区分で作表した．

本調査には94大学の協力が得られた．各年齢層の人数の合計は，男子 178,042名，女子87,313名であった．体重の平均値および標準偏差を表2．

6の左（男子）と表2．6の右（女子）に示す．男女の体重の分布を表2．7（男子），表2．8（女子）に示す．

「白書1984」と比較して，体重（kg）の平均値は，男子で，18歳：62.50→63.34，19歳：62.73→63.89，20歳：62.81→64.15，21歳：62.99→64.32，22歳：63.20→64.92，23歳：63.61→65.68，24歳：63.52→66.29，25歳以上：64.28→66.87，女子では，18歳：51.84→51.98，19歳：51.84→52.44，20歳：51.33→52.21，21歳：51.00→51.75，22歳：51.03→51.81，23歳：50.95→51.80，24歳：50.75→51.64，25歳以上：50.23→51.70と，男子の18歳を除く各年齢層で，1kg以上重くなっていたが，女子では，25歳以上（1kg以上）を除く各年齢層で，1kg未満の増加を認めた．

「白書1984」と比較して，体重（kg）の標準偏差は，男子で，18歳：8.12→9.24，19歳：8.01→9.16，20歳：7.69→8.87，21歳：7.71→9.14，22歳：7.79→9.17，23歳：8.05→9.48，24歳：7.86→9.79，25歳以上：8.17→10.07，女子では，18歳：5.91→6.75，19歳：5.78→6.72，20歳：5.63→6.67，21歳：5.53→6.48，22歳：5.77→6.49，23歳：5.94→6.92，24歳：5.01→6.62，25歳以上：5.90→6.23と，増えていた．男子の全年齢層と，女子の20歳と22歳で1以上多くなっていた．

以上を総合すると，「白書1984」に比較して，「白書1995」においては，全体として重い方へ傾き，体重は重いものも軽いものも，ともに増加する多様化現象を示した．

〔鈴木修二〕

2．3　肥満度ー肥満およびやせの頻度

2．3．1　厚生省身長別体重基準による判定

肥満およびやせの判定は標準体重や体脂肪によって適宜行われているが，今回の調査は学生集団におけるスクリーニング段階での肥満とやせの頻度を知ることが目的であり，多数の大学を同一の判定法と基準によりスクリーニングする必要があること，また前回の健康白書の結果と比較をする必要があることから，厚生省医療局健康増進栄養課監修「肥満指導の手引き」（昭和61年）に示されている身長別体重基準値に基づく肥満とやせの判定基準表を用いた．この方法におけるるいそう危険域の数値は，身長別体重基準値の－10%にあたり，肥満注意域の数値は＋20%，肥満危険域の数値は＋30%に相当している．

本調査には94校の結果を用いた．94校における有効データ件数は264,430件，うち男子177,493件，女子86,937件であった（表2．9）．るいそう危険域，肥満注意域，肥満危険域の頻度は，全年齢を合計すると，男子がそれぞれ6.8%，6.9%，6.4%，女子が13.8%，3.3%，1.8%であった．るいそう危険域の者の頻度は女子が男子に比し高い傾向にあったが，肥満注意域および肥満危険域の頻度は男子が高かった．年齢別にみると，肥満注意域の頻度が22才以降の男子で増加する傾向にあったが，るいそう危険域および肥満危険域の頻度は年齢で一定の傾向は見られなかった．

2．3．2　Body Mass Indexによる判定

日本肥満学会ではBody Mass Index（BMI）による基準を用いて，肥満の判定を行っている．BMIは体重（kg）を身長（m）の二乗で除して算出するもので，^{40}Kから求めた体脂肪との相関が他の指標より高いことから，最も優れた体脂肪量の指標とされている．BMIによる判定基準では，BMI 20未満がやせ（肥満度90%未満），20以上24未満が普通（肥満度90%以上110%未満），24以上26.4未満が過体重（肥満度110%以上120%未満），26.4以上が肥満（肥満度120%以上），となっている．

BMIについても94校の結果を用いて集計した．

有効データ件数は男子177,538件，女子86,959件，合計264,497件であった．それぞれの区分をみると，男子ではやせ23.2%，過体重13.3%，肥満5.3%，女子ではやせ38.9%，過体重6.2%，肥満1.6%であり，厚生省基準に比しやせ（るいそう）の頻度が高くなっている（表２.10）．男女別にみると，女子は男子に比しやせの頻度が高く，男子は女子に比し過体重や肥満の頻度が高くなっている．年齢別にみると，男子では年齢とともにやせの頻度の減少および肥満の頻度の増加傾向が明らかなのに対し，女子ではやせの頻度が増加の傾向にあった．

〔中江康之，佐藤祐造〕

［注］表２.９と表２.10における受診者数の違い（総数で69名）は，１.２のデータ整備で述べた手順の「６．許容範囲のチェック」と「９．BMIの計算」が実際には逆に実行されたことによる．

表 2．1　身長の測定方法　　[92校集計]

性別	受診者総数	手動	%	自動	%	自己申告	%	不明	%
男	175,347	60,346	34.42	110,798	63.19	1,598	0.91	2,605	1.49
女	86,126	32,687	37.95	50,796	58.98	1,008	1.17	1,635	1.90

表 2．2　身長の平均値と標準偏差　　[94校集計]

	男				女			
	受診者数	平均	標準偏差	範囲外数	受診者数	平均	標準偏差	範囲外数
総数	177,586	171.39	5.69	137	87,151	158.63	5.23	41
18歳	39,184	171.16	5.62	21	25,065	158.43	5.26	11
19	36,034	171.32	5.70	14	17,453	158.65	5.18	8
20	27,902	171.48	5.71	19	14,544	158.70	5.24	7
21	38,838	171.48	5.71	18	21,468	158.74	5.21	8
22	20,803	171.59	5.70	24	5,528	158.74	5.15	4
23	7,679	171.51	5.76	21	1,512	158.88	5.32	2
24	3,046	171.52	5.62	10	600	159.11	5.67	1
25以上	4,100	171.25	5.65	10	981	158.73	5.17	0

範囲外数：6 頁参照

表2-3　身長の分布　男（1）

［94校集計］

	男総数	～134.9cm		135.0～135.9		136.0～136.9		137.0～137.9		138.0～138.9		139.0～139.9		140.0～140.9		141.0～141.9		142.0～142.9		143.0～143.9		144.0～144.9	
		学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%
総数	177,586	4	0.00	0	0	2	0.00	0	0	1	0.00	1	0.00	2	0.00	0	0	2	0.00	1	0.00	4	0.00
18歳	39,184	1	0.00	0	0	1	0.00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
19	36,034	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.01
20	27,902	0	0	0	0	1	0.00	0	0	0	0	0	0	1	0.00	0	0	0	0	0	0	0	0
21	38,838	2	0.01	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.00	0	0	0	0	0	0	2	0.01
22	20,803	1	0.00	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.00	0	0	0	0	2	0.01	0	0	0	0
23	7,679	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
24	3,046	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.03	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.03	0	0
25以上	4,100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	145.0～145.9		146.0～146.9		147.0～147.9		148.0～148.9		149.0～149.9		150.0～150.9		151.0～151.9		152.0～152.9		153.0～153.9		154.0～154.9		155.0～155.9		156.0～156.9	
	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%
総数	5	0.00	10	0.01	8	0.00	9	0.01	10	0.01	22	0.01	30	0.02	44	0.02	70	0.04	126	0.07	212	0.12	360	0.2
18歳	1	0.00	3	0.01	1	0.00	2	0.01	2	0.01	4	0.01	5	0.01	9	0.02	12	0.03	29	0.07	49	0.13	80	0.20
19	1	0.00	2	0.01	3	0.01	3	0.01	1	0.00	6	0.02	4	0.01	7	0.02	14	0.04	25	0.07	38	0.11	85	0.24
20	0	0	0	0	2	0.01	0	0	4	0.01	3	0.01	3	0.01	8	0.03	17	0.06	19	0.07	31	0.11	59	0.21
21	3	0.01	2	0.01	1	0.00	1	0.00	1	0.00	7	0.02	6	0.02	8	0.02	17	0.04	34	0.09	55	0.14	79	0.20
22	0	0	2	0.01	0	0	3	0.01	2	0.01	1	0.00	8	0.04	6	0.03	4	0.02	11	0.05	20	0.10	37	0.18
23	0	0	1	0.01	1	0.01	0	0	0	0	0	0	2	0.03	3	0.04	3	0.04	5	0.07	8	0.10	12	0.16
24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.03	2	0.07	0	0	3	0.01	2	0.07	4	0.13	4	0.13
25以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.01	0	0	0	0	3	0.07	0	0	1	0.02	7	0.17	4	0.10

	157.0～157.9		158.0～158.9		159.0～159.9		160.0～160.9		161.0～161.9		162.0～162.9		163.0～163.9		164.0～164.9		165.0～165.9		166.0～166.9		167.0～167.9		168.0～168.9	
	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%
総数	507	0.29	817	0.46	1,194	0.67	2,094	1.18	2,585	1.46	3,513	1.98	4,570	2.57	6,008	3.38	7,239	4.08	8,430	4.75	9,966	5.61	11,472	6.46
18歳	118	0.30	198	0.51	279	0.71	511	1.30	646	1.65	829	2.12	1,033	2.64	1,348	3.44	1,631	4.16	1,910	4.87	2,245	5.73	2,613	6.67
19	111	0.31	149	0.41	248	0.69	449	1.25	540	1.50	732	2.03	934	2.59	1,259	3.49	1,499	4.16	1,775	4.93	2,030	5.63	2,379	6.60
20	74	0.27	138	0.49	193	0.69	289	1.04	383	1.37	537	1.92	715	2.56	928	3.33	1,139	4.08	1,319	4.73	1,581	5.67	1,756	6.29
21	92	0.24	189	0.49	241	0.62	459	1.18	537	1.38	767	1.97	995	2.56	1,272	3.28	1,545	3.98	1,745	4.49	2,219	5.71	2,453	6.32
22	62	0.30	80	0.38	141	0.68	220	1.06	275	1.32	366	1.76	498	2.39	692	3.33	816	3.92	974	4.68	1,100	5.29	1,307	6.28
23	28	0.36	38	0.49	56	0.73	80	1.04	106	1.38	137	1.78	201	2.62	247	3.22	317	4.13	374	4.87	416	5.42	512	6.67
24	8	0.26	10	0.33	8	0.26	25	0.82	25	0.82	51	1.67	78	2.56	115	3.78	139	4.56	153	5.02	159	5.22	199	6.53
25以上	14	0.34	15	0.37	28	0.68	61	1.49	73	1.78	94	2.29	116	2.83	147	3.59	153	3.73	180	4.39	216	5.27	253	6.17

表２．３　身長の分布　男（2）

[94校集計]

	169.0～169.9		170.0～170.9		171.0～171.9		172.0～172.9		173.0～173.9		174.0～174.9		175.0～175.9		176.0～176.9		177.0～177.9		178.0～178.9		179.0～179.9		180.0～180.9	
	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%
総数	11,527	6.49	13,086	7.37	12,595	7.09	12,204	6.87	11,525	6.49	10,484	5.9	9,512	5.36	8,295	4.67	6,735	3.79	5,673	3.19	4,263	2.40	3,705	2.09
18歳	2,540	6.48	2,947	7.52	2,823	7.20	2,681	6.84	2,619	6.68	2,352	6.00	1,995	5.09	1,767	4.51	1,428	3.64	1,167	2.98	861	2.20	725	1.85
19	2,356	6.54	2,585	7.17	2,490	6.91	2,463	6.84	2,284	6.34	2,109	5.85	1,964	5.45	1,672	4.64	1,291	3.58	1,171	3.25	881	2.44	758	2.10
20	1,794	6.43	2,052	7.35	1,984	7.11	1,935	6.93	1,705	6.11	1,654	5.93	1,544	5.53	1,330	4.77	1,112	3.99	895	3.21	709	2.54	586	2.10
21	2,530	6.51	2,806	7.22	2,724	7.01	2,741	7.06	2,570	6.62	2,276	5.86	2,077	5.35	1,822	4.69	1,491	3.84	1,248	3.21	951	2.45	863	2.22
22	1,364	6.56	1,566	7.53	1,496	7.19	1,391	6.69	1,402	6.74	1,218	5.85	1,157	5.56	1,003	4.82	837	4.02	711	3.42	489	2.35	459	2.21
23	466	6.07	559	7.28	538	7.01	517	6.73	484	6.30	471	6.13	405	5.27	350	4.56	311	4.05	276	3.59	190	2.47	166	2.16
24	213	6.99	241	7.91	211	6.93	205	6.73	201	6.60	163	5.35	168	5.52	147	4.83	103	3.38	103	3.38	87	2.86	64	2.10
25以上	264	6.44	330	8.05	329	8.02	271	6.61	260	6.34	241	5.88	202	4.93	204	4.98	162	3.95	102	2.49	95	2.32	84	2.05

	181.0～181.9		182.0～182.9		183.0～183.9		184.0～184.9		185.0～185.9		186.0～186.9		187.0～187.9		188.0～188.9		189.0～189.9		190.0～190.9		191.0～191.9		192.0～192.9	
	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%
総数	2,658	1.50	1,927	1.09	1,335	0.75	950	0.53	665	0.37	415	0.23	289	0.16	172	0.10	96	0.05	70	0.04	36	0.02	19	0.01
18歳	537	1.37	393	1.00	267	0.68	193	0.49	130	0.33	73	0.19	61	0.16	28	0.07	15	0.04	11	0.03	4	0.01	3	0.01
19	524	1.45	374	1.04	265	0.74	200	0.56	128	0.36	84	0.23	44	0.12	36	0.10	22	0.06	15	0.04	8	0.02	6	0.02
20	404	1.45	319	1.14	212	0.76	164	0.59	110	0.39	59	0.21	55	0.20	33	0.12	19	0.07	15	0.05	6	0.02	2	0.01
21	662	1.70	442	1.14	321	0.83	203	0.52	141	0.36	82	0.21	62	0.16	35	0.09	19	0.05	17	0.04	7	0.02	5	0.01
22	309	1.49	241	1.16	152	0.73	110	0.53	99	0.48	74	0.36	41	0.20	25	0.12	14	0.07	6	0.03	4	0.02	2	0.01
23	118	1.54	85	1.11	60	0.78	39	0.51	32	0.42	31	0.40	13	0.17	8	0.10	4	0.05	3	0.04	3	0.04	1	0.01
24	45	1.48	27	0.89	32	1.05	17	0.56	12	0.39	7	0.23	7	0.23	3	0.10	1	0.03	0	0	1	0.03	0	0
25以上	59	1.44	46	1.12	26	0.63	24	0.59	13	0.32	5	0.12	6	0.15	4	0.10	2	0.05	3	0.07	3	0.07	0	0

	193.0～193.9		194.0～194.9		195.0～195.9		196.0～196.9		197.0～197.9		198.0～198.9		199.0～199.9		200.0～	
	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%
総数	10	0.01	6	0.00	6	0.00	5	0.00	1	0.00	2	0.00	0	0	2	0.00
18歳	1	0.00	1	0.00	0	0	0	0	1	0.00	1	0.00	0	0	0	0
19	1	0.00	1	0.00	3	0.01	2	0.01	0	0	1	0.00	0	0	0	0
20	1	0.00	1	0.00	0	0	2	0.01	0	0	0	0	0	0	0	0
21	3	0.01	2	0.01	2	0.01	1	0.00	0	0	0	0	0	0	2	0.01
22	3	0.01	0	0	1	0.00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
23	1	0.01	1	0.01	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
25以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

表2．4　身長の分布　女（1）

［94校集計］

	女総数	～134.9cm		135.0～135.9		136.0～136.9		137.0～137.9		138.0～138.9		139.0～139.9		140.0～140.9		141.0～141.9		142.0～142.9		143.0～143.9	
		学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%
総数	87,151	2	0.00	1	0.00	5	0.01	1	0.00	3	0.00	3	0.00	8	0.01	24	0.03	44	0.05	76	0.09
18歳	25,065	2	0.01	0	0	1	0.00	0	0	2	0.01	2	0.01	2	0.01	8	0.03	14	0.06	30	0.12
19	17,453	0	0	0	0	1	0.01	1	0.01	0	0	0	0	2	0.01	6	0.03	5	0.03	8	0.05
20	14,544	0	0	1	0.01	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.01	4	0.03	7	0.05	8	0.06
21	21,468	0	0	0	0	3	0.01	0	0	1	0.00	0	0	1	0.00	6	0.03	14	0.07	23	0.11
22	5,528	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.04	0	0	4	0.07	4	0.07
23	1,512	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.07
24	600	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.17	0	0	0	0	0	0	1	0.17
25以上	981	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.10

	144.0～144.9		145.0～145.9		146.0～146.9		147.0～147.9		148.0～148.9		149.0～149.9		150.0～150.9		151.0～151.9		152.0～152.9		153.0～153.9		154.0～154.9	
	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%
総数	134	0.15	244	0.28	354	0.41	626	0.72	938	1.08	1,268	1.45	2,087	2.39	2,541	2.92	3,505	4.02	4,209	4.83	4,883	5.6
18歳	39	0.16	69	0.28	124	0.49	196	0.78	298	1.19	385	1.54	656	2.62	766	3.06	1,073	4.28	1,287	5.13	1,490	5.94
19	34	0.19	44	0.25	76	0.44	133	0.76	200	1.15	244	1.40	390	2.23	483	2.77	683	3.91	840	4.81	968	5.55
20	19	0.13	46	0.32	52	0.36	94	0.65	132	0.91	219	1.51	357	2.45	463	3.18	560	3.85	690	4.74	789	5.42
21	32	0.15	63	0.29	72	0.34	145	0.68	206	0.96	305	1.42	494	2.30	598	2.79	829	3.86	1,011	4.71	1,179	5.49
22	5	0.09	16	0.29	21	0.38	32	0.58	60	1.09	73	1.32	112	2.03	157	2.84	228	4.12	243	4.40	303	5.48
23	2	0.13	3	0.20	3	0.20	14	0.93	20	1.32	21	1.39	36	2.38	32	2.12	69	4.56	62	4.10	72	4.76
24	2	0.33	2	0.33	2	0.33	3	0.50	8	1.33	9	1.50	20	3.33	16	2.67	18	3.00	26	4.33	31	5.17
25以上	1	0.10	1	0.10	4	0.41	9	0.92	14	1.43	12	1.22	22	2.24	26	2.65	45	4.59	50	5.10	51	5.20

	155.0～155.9		156.0～156.9		157.0～157.9		158.0～158.9		159.0～159.9		160.0～160.9		161.0～161.9		162.0～162.9		163.0～163.9		164.0～164.9		165.0～165.9	
	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%
総数	5,729	6.57	6,249	7.17	6,479	7.43	6,662	7.64	6,148	7.05	6,514	7.47	5,514	6.33	5,021	5.76	4,354	5	3,546	4.07	2,841	3.26
18歳	1,632	6.51	1,833	7.31	1,790	7.14	1,966	7.84	1,733	6.91	1,814	7.24	1,580	6.30	1,390	5.55	1,140	4.55	989	3.95	781	3.12
19	1,109	6.35	1,260	7.22	1,393	7.98	1,325	7.59	1,261	7.23	1,320	7.56	1,102	6.31	1,013	5.80	859	4.92	683	3.91	591	3.39
20	1,007	6.92	1,043	7.17	1,040	7.15	1,120	7.70	1,017	6.99	1,097	7.54	878	6.04	833	5.73	766	5.27	588	4.04	467	3.21
21	1,416	6.60	1,540	7.17	1,628	7.58	1,583	7.37	1,452	6.76	1,661	7.74	1,390	6.47	1,265	5.89	1,131	5.27	924	4.30	716	3.34
22	370	6.69	374	6.77	431	7.80	438	7.92	417	7.54	375	6.78	365	6.60	344	6.22	304	5.50	238	4.31	184	3.33
23	102	6.75	104	6.88	105	6.94	119	7.87	130	8.60	117	7.74	85	5.62	84	5.56	78	5.16	60	3.97	52	3.44
24	37	6.17	31	5.17	33	5.50	43	7.17	56	9.33	45	7.50	36	6.00	37	6.17	24	4.00	24	4.00	23	3.83
25以上	56	5.71	64	6.52	59	6.01	68	6.93	82	8.36	85	8.66	78	7.95	55	5.61	52	5.30	40	4.08	27	2.75

表２．４　身長の分布　女（2）

［94校集計］

	166.0～166.9		167.0～167.9		168.0～168.9		169.0～169.9		170.0～170.9		171.0～171.9		172.0～172.9		173.0～173.9		174.0～174.9		175.0～175.9		176.0～176.9	
	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%
総数	2,070	2.38	1,653	1.9	1,157	1.33	754	0.87	536	0.62	344	0.39	235	0.27	149	0.17	89	0.10	63	0.07	21	0.02
18歳	575	2.29	464	1.85	313	1.25	216	0.86	149	0.59	83	0.33	59	0.24	45	0.18	24	0.10	21	0.08	5	0.02
19	432	2.48	342	1.96	213	1.22	158	0.91	93	0.53	70	0.40	45	0.26	24	0.14	15	0.09	12	0.07	5	0.03
20	356	2.45	286	1.97	196	1.35	139	0.96	99	0.68	56	0.39	40	0.28	28	0.19	16	0.11	9	0.06	4	0.03
21	500	2.33	402	1.87	321	1.50	171	0.80	139	0.65	98	0.46	62	0.29	33	0.15	24	0.11	13	0.06	6	0.03
22	131	2.37	99	1.79	59	1.07	40	0.72	31	0.56	21	0.38	20	0.36	11	0.20	6	0.11	3	0.05	1	0.02
23	38	2.51	29	1.92	25	1.65	12	0.79	12	0.79	12	0.79	3	0.20	5	0.33	0	0	2	0.13	0	0
24	15	2.50	17	2.83	15	2.50	10	1.67	4	0.67	3	0.50	3	0.50	1	0.17	2	0.33	2	0.33	0	0
25以上	23	2.34	14	1.43	15	1.53	8	0.82	9	0.92	1	0.10	3	0.31	2	0.20	2	0.20	1	0.10	0	0

	177.0～177.9		178.0～178.9		179.0～179.9		180.0～180.9		181.0～181.9		182.0～182.9		183.0～183.9		184.0～184.9		185.0～185.9		186.0～186.9		187.0～187.9	
	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%
総数	24	0.03	14	0.02	10	0.01	2	0.00	4	0.00	3	0.00	4	0.00	3	0.00	1	0.00	1	0.00	0	0
18歳	7	0.03	4	0.02	2	0.01	1	0.00	1	0.00	1	0.00	1	0.00	1	0.00	1	0.00	0	0	0	0
19	1	0.01	4	0.02	1	0.01	0	0	0	0	1	0.01	2	0.01	1	0.01	0	0	0	0	0	0
20	6	0.04	3	0.02	4	0.03	0	0	3	0.02	0	0	0	0	1	0.01	0	0	0	0	0	0
21	5	0.02	2	0.01	1	0.00	1	0.00	0	0	1	0.00	0	0	0	0	0	0	1	0.00	0	0
22	2	0.04	1	0.02	2	0.04	0	0	0	0	0	0	1	0.02	0	0	0	0	0	0	0	0
23	2	0.13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
25以上	1	0.10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	188.0～188.9		189.0～189.9		190.0～190.9		191.0～191.9		192.0～192.9		193.0～193.9	
	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%
総数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.00
18歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.07
24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
25以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

表2．5　体重の測定方法　[92校集計]

性別	受診者総数	手動	%	自動	%	自己申告	%	不明	%
男	175,750	38,873	22.12	132,691	75.50	1,600	0.91	2,586	1.47
女	86,433	21,603	24.99	62,038	71.78	1,008	1.17	1,784	2.06

表2．6　体重の平均値と標準偏差　[94校集計]

	男				女			
	受診者数	平均	標準偏差	範囲外数	受診者数	平均	標準偏差	範囲外数
総数	178,042	64.21	9.21	89	87,313	52.03	6.65	47
18歳	39,185	63.34	9.24	14	25,025	51.98	6.75	8
19	36,026	63.89	9.16	12	17,407	52.44	6.72	11
20	27,904	64.15	8.87	14	14,497	52.21	6.67	13
21	39,043	64.32	9.14	10	21,683	51.75	6.48	8
22	20,927	64.92	9.17	18	5,576	51.81	6.49	4
23	7,747	65.68	9.48	13	1,526	51.80	6.92	2
24	3,069	66.29	9.79	4	614	51.64	6.62	0
25以上	4,141	66.87	10.07	4	985	51.70	6.23	1

範囲外数：6頁参照

表2．7　体重の分布　男（1）

［94校集計］

	男総数	～34.9kg		35.0～35.9		36.0～36.9		37.0～37.9		38.0～38.9		39.0～39.9		40.0～40.9		41.0～41.9		42.0～42.9		43.0～43.9		44.0～44.9	
		学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%
総数	178,042	6	0.00	3	0.00	2	0.00	4	0.00	8	0.00	7	0.00	18	0.01	24	0.01	59	0.03	110	0.06	160	0.09
18歳	39,185	1	0.00	1	0.00	1	0.00	1	0.00	2	0.01	1	0.00	4	0.01	8	0.02	21	0.05	29	0.07	53	0.14
19	39,043	2	0.01	1	0.00	0	0	1	0.00	3	0.01	2	0.01	7	0.02	6	0.02	15	0.04	26	0.07	42	0.12
20	27,904	0	0	0	0	1	0.00	0	0	0	0	1	0.00	0	0	5	0.02	10	0.04	16	0.06	18	0.06
21	39,043	2	0.01	0	0	0	0	2	0.01	1	0.00	2	0.01	5	0.01	2	0.01	9	0.02	25	0.06	32	0.08
22	20,927	1	0.00	0	0	0	0	0	0	1	0.00	0	0	2	0.01	1	0.00	3	0.01	6	0.03	12	0.06
23	7,747	0	0	1	0.01	0	0	0	0	1	0.01	1	0.01	0	0	2	0.03	0	0	6	0.08	2	0.03
24	3,069	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.03	1	0.03
25以上	4,141	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.02	1	0.02	0	0

	45.0～45.9		46.0～46.9		47.0～47.9		48.0～48.9		49.0～49.9		50.0～50.9		51.0～51.9		52.0～52.9		53.0～53.9		54.0～54.9		55.0～55.9		56.0～56.9	
	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%
総数	279	0.16	421	0.24	636	0.36	991	0.56	1,396	0.78	2,066	1.16	2,652	1.49	3,450	1.94	4,241	2.38	5,128	2.88	6,316	3.55	6,882	3.87
18歳	96	0.24	120	0.31	185	0.47	297	0.76	389	0.99	584	1.49	754	1.92	923	2.36	1,126	2.87	1,329	3.39	1,566	4.00	1,637	4.18
19	67	0.19	80	0.22	145	0.40	228	0.63	310	0.86	440	1.22	546	1.52	754	2.09	900	2.5	1,066	2.96	1,372	3.81	1,483	4.12
20	35	0.13	65	0.23	86	0.31	132	0.47	225	0.81	323	1.16	381	1.37	513	1.84	646	2.32	788	2.82	986	3.53	1,063	3.81
21	41	0.11	98	0.25	117	0.30	173	0.44	265	0.68	418	1.07	555	1.42	705	1.81	882	2.26	1,051	2.69	1,357	3.48	1,503	3.85
22	25	0.12	40	0.19	54	0.26	112	0.54	132	0.63	183	0.87	263	1.26	344	1.64	406	1.94	562	2.69	634	3.03	745	3.56
23	6	0.08	6	0.08	27	0.35	25	0.32	39	0.50	61	0.79	71	0.92	110	1.42	144	1.86	199	2.57	222	2.87	258	3.33
24	4	0.13	6	0.20	16	0.52	9	0.29	20	0.65	18	0.59	31	1.01	41	1.34	49	1.60	58	1.89	76	2.48	88	2.87
25以上	5	0.12	6	0.14	6	0.14	15	0.36	16	0.39	39	0.94	51	1.23	60	1.45	88	2.13	75	1.81	103	2.49	105	2.54

	57.0～57.9		58.0～58.9		59.0～59.9		60.0～60.9		61.0～61.9		62.0～62.9		63.0～63.9		64.0～64.9		65.0～65.9		66.0～66.9		67.0～67.9		68.0～68.9	
	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%
総数	7,680	4.31	8,406	4.72	8,573	4.82	9,566	5.37	9,015	5.06	9,325	5.24	9,000	5.05	8,333	4.68	8,576	4.82	7,068	3.97	6,671	3.75	6,302	3.54
18歳	1,801	4.61	1,954	4.99	1,942	4.96	2,196	5.60	1,962	5.01	1,987	5.07	1,981	5.06	1,745	4.45	1,783	4.55	1,459	3.72	1,344	3.43	1,227	3.13
19	1,638	4.55	1,772	4.92	1,715	4.76	1,954	5.42	1,805	5.01	1,872	5.20	1,777	4.93	1,667	4.63	1,772	4.92	1,409	3.91	1,326	3.68	1,249	3.47
20	1,197	4.29	1,280	4.59	1,372	4.92	1,499	5.37	1,449	5.19	1,487	5.33	1,421	5.09	1,327	4.76	1,420	5.09	1,165	4.18	1,158	4.15	1,023	3.67
21	1,693	4.34	1,894	4.85	1,965	5.03	2,116	5.42	2,040	5.23	2,099	5.38	2,034	5.21	1,866	4.78	1,864	4.77	1,546	3.96	1,453	3.72	1,382	3.54
22	841	4.02	918	4.39	961	4.59	1,090	5.21	1,068	5.10	1,128	5.39	1,053	5.03	1,004	4.80	996	4.76	891	4.26	800	3.82	852	4.07
23	284	3.67	305	3.94	346	4.47	384	4.96	368	4.75	404	5.21	379	4.89	390	5.03	409	5.28	302	3.90	296	3.82	286	3.69
24	106	3.45	118	3.84	136	4.43	157	5.12	146	4.76	161	5.25	148	4.82	132	4.30	137	4.46	120	3.91	128	4.17	132	4.30
25以上	120	2.90	165	3.98	136	3.28	170	4.11	177	4.27	187	4.52	207	5.00	202	4.88	195	4.71	176	4.25	166	4.01	151	3.65

表２．７　体重の分布　男（2）

	69.0～69.9		70.0～70.9		71.0～71.9		72.0～72.9		73.0～73.9		74.0～74.9		75.0～75.9		76.0～76.9		77.0～77.9		78.0～78.9		79.0～79.9		80.0～80.9	
	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%
総数	5,365	3.01	5,181	2.91	4,168	2.34	3,932	2.21	3,338	1.87	2,900	1.63	2,684	1.51	2,155	1.21	1,801	1.01	1,711	0.96	1,295	0.73	1,299	0.73
18歳	1,041	2.66	1,104	2.82	809	2.06	795	2.03	627	1.60	519	1.32	513	1.31	410	1.05	339	0.87	307	0.78	235	0.60	255	0.65
19	1,002	2.78	1,013	2.81	816	2.27	699	1.94	660	1.83	579	1.61	513	1.42	415	1.15	334	0.93	370	1.03	242	0.67	258	0.72
20	853	3.06	769	2.76	683	2.45	635	2.28	548	1.96	449	1.61	406	1.45	287	1.03	263	0.94	268	0.96	208	0.75	201	0.72
21	1,242	3.18	1,160	2.97	896	2.29	874	2.24	749	1.92	613	1.57	593	1.52	466	1.19	399	1.02	352	0.90	279	0.71	285	0.73
22	702	3.35	631	3.02	549	2.62	514	2.46	419	2.00	374	1.79	357	1.71	305	1.46	244	1.17	217	1.04	169	0.81	166	0.79
23	269	3.47	258	3.33	198	2.56	202	2.61	175	2.26	189	2.44	136	1.76	122	1.57	110	1.42	95	1.23	82	1.06	63	0.81
24	107	3.49	95	3.10	86	2.80	91	2.97	65	2.12	82	2.67	72	2.35	51	1.66	44	1.43	48	1.56	30	0.98	21	0.68
25以上	149	3.60	151	3.65	131	3.16	122	2.95	95	2.29	95	2.29	94	2.27	99	2.39	68	1.64	54	1.30	50	1.21	50	1.21

	81.0～81.9		82.0～82.9		83.0～83.9		84.0～84.9		85.0～85.9		86.0～86.9		87.0～87.9		88.0～88.9		89.0～89.9		90.0～90.9		91.0～91.9		92.0～92.9	
	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%
総数	1,016	0.57	961	0.54	783	0.44	710	0.4	710	0.4	539	0.3	474	0.27	419	0.24	352	0.2	371	0.21	252	0.14	258	0.14
18歳	182	0.46	188	0.48	141	0.36	112	0.29	135	0.34	101	0.26	98	0.25	75	0.19	72	0.18	63	0.16	56	0.14	46	0.12
19	190	0.53	185	0.51	151	0.42	140	0.39	136	0.38	81	0.22	95	0.26	85	0.24	66	0.18	75	0.21	42	0.12	45	0.12
20	152	0.54	151	0.54	105	0.38	101	0.36	91	0.33	75	0.27	59	0.21	61	0.22	56	0.20	58	0.21	30	0.11	47	0.17
21	222	0.57	200	0.51	166	0.43	169	0.43	148	0.38	138	0.35	102	0.26	90	0.23	75	0.19	84	0.22	49	0.13	50	0.13
22	135	0.65	123	0.59	115	0.55	94	0.45	95	0.45	82	0.39	63	0.30	47	0.22	43	0.21	49	0.23	35	0.17	42	0.20
23	63	0.81	56	0.72	59	0.76	42	0.54	48	0.62	27	0.35	26	0.34	25	0.32	19	0.25	19	0.25	15	0.19	14	0.18
24	30	0.98	28	0.91	13	0.42	21	0.68	26	0.85	17	0.55	11	0.36	11	0.36	5	0.16	6	0.20	10	0.33	5	0.16
25以上	42	1.01	30	0.72	33	0.80	31	0.75	31	0.75	18	0.43	20	0.48	25	0.60	16	0.39	17	0.41	15	0.36	9	0.22

	93.0～93.9		94.0～94.9		95.0～95.9		96.0～96.9		97.0～97.9		98.0～98.9		99.0～99.9		100.0～	
	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%
総数	195	0.11	193	0.11	185	0.1	141	0.08	144	0.08	150	0.08	99	0.06	887	0.5
18歳	44	0.11	37	0.09	46	0.12	27	0.07	41	0.10	31	0.08	26	0.07	201	0.51
19	33	0.09	39	0.11	25	0.07	27	0.07	28	0.08	29	0.08	16	0.04	185	0.51
20	22	0.08	24	0.09	24	0.09	24	0.09	16	0.06	19	0.07	10	0.04	117	0.42
21	50	0.13	43	0.11	35	0.09	28	0.07	31	0.08	19	0.07	10	0.04	196	0.50
22	25	0.12	21	0.10	29	0.14	20	0.10	16	0.08	32	0.08	30	0.08	102	0.49
23	12	0.15	13	0.17	10	0.13	5	0.06	8	0.10	11	0.05	5	0.02	38	0.49
24	3	0.10	7	0.23	7	0.23	7	0.23	2	0.07	13	0.17	2	0.03	23	0.75
25以上	6	0.14	9	0.22	9	0.22	3	0.07	2	0.05	2	0.07	4	0.13	25	0.60

表2．8　体重の分布　女（1）

［94校集計］

	女総数	～34.9kg		35.0～35.9		36.0～36.9		37.0～37.9		38.0～38.9		39.0～39.9		40.0～40.9		41.0～41.9		42.0～42.9		43.0～43.9		44.0～44.9	
		学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%
総数	87,313	52	0.06	40	0.05	78	0.09	128	0.15	255	0.29	395	0.45	730	0.84	1,025	1.17	1,664	1.91	2,386	2.73	2,799	3.21
18歳	25,025	10	0.04	15	0.06	23	0.09	36	0.14	67	0.27	135	0.54	208	0.83	313	1.25	489	1.95	693	2.77	839	3.35
19	17,407	8	0.05	6	0.03	18	0.10	28	0.16	44	0.25	66	0.38	138	0.79	199	1.14	329	1.89	422	2.42	483	2.77
20	14,497	9	0.06	6	0.04	10	0.07	15	0.10	34	0.23	69	0.48	95	0.66	166	1.15	239	1.65	376	2.59	458	3.16
21	21,683	19	0.09	11	0.05	23	0.11	41	0.19	77	0.36	97	0.45	208	0.96	254	1.17	446	2.06	634	2.92	730	3.37
22	5,576	4	0.07	2	0.04	3	0.05	5	0.09	24	0.43	18	0.32	48	0.86	66	1.18	110	1.97	160	2.87	194	3.48
23	1,526	0	0	0	0	0	0	2	0.13	3	0.20	6	0.39	18	1.18	10	0.66	21	1.38	43	2.82	41	2.69
24	614	0	0	0	0	1	0.16	0	0	3	0.49	2	0.33	6	0.98	5	0.81	16	2.61	20	3.26	27	4.40
25以上	985	2	0.20	0	0	0	0	1	0.10	3	0.30	2	0.20	9	0.91	12	1.22	14	1.42	38	3.86	27	2.74

	45.0～45.9		46.0～46.9		47.0～47.9		48.0～48.9		49.0～49.9		50.0～50.9		51.0～51.9		52.0～52.9		53.0～53.9		54.0～54.9		55.0～55.9		56.0～56.9	
	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%
総数	3,759	4.31	4,443	5.09	5,092	5.83	5,812	6.66	5,764	6.6	6,192	7.09	5,681	6.51	5,777	6.62	5,315	6.09	4,673	5.35	4,297	4.92	3,543	4.06
18歳	1,109	4.43	1,310	5.23	1,463	5.85	1,690	6.75	1,669	6.67	1,816	7.26	1,588	6.35	1,565	6.25	1,512	6.04	1,265	5.05	1,259	5.03	961	3.84
19	679	3.90	837	4.81	955	5.49	1,072	6.16	1,104	6.34	1,230	7.07	1,138	6.54	1,145	6.58	1,076	6.18	989	5.68	845	4.85	746	4.29
20	609	4.20	725	5.00	876	6.04	938	6.47	922	6.36	988	6.82	914	6.30	981	6.77	911	6.28	837	5.77	731	5.04	660	4.55
21	963	4.44	1,110	5.12	1,251	5.77	1,506	6.95	1,438	6.63	1,563	7.21	1,426	6.58	1,509	6.96	1,332	6.14	1,151	5.31	1,019	4.70	856	3.95
22	244	4.38	299	5.36	335	6.01	395	7.08	403	7.23	376	6.74	390	6.99	363	6.51	297	5.33	273	4.90	278	4.99	219	3.93
23	78	5.11	94	6.16	113	7.40	112	7.34	116	7.60	98	6.42	96	6.29	96	6.29	90	5.90	92	6.03	78	5.11	45	2.95
24	29	4.72	22	3.58	41	6.68	36	5.86	44	7.17	49	7.98	52	8.47	39	6.35	39	6.35	24	3.91	26	4.23	22	3.58
25以上	48	4.87	46	4.67	58	5.89	63	6.40	68	6.90	72	7.31	77	7.82	79	8.02	58	5.89	42	4.26	61	6.19	34	3.45

	57.0～57.9		58.0～58.9		59.0～59.9		60.0～60.9		61.0～61.9		62.0～62.9		63.0～63.9		64.0～64.9		65.0～65.9		66.0～66.9		67.0～67.9		68.0～68.9	
	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%
総数	3,085	3.53	2,822	3.23	2,076	2.38	1,838	2.11	1,302	1.49	1,159	1.33	1,014	1.16	741	0.85	687	0.79	449	0.51	362	0.41	354	0.41
18歳	867	3.46	825	3.30	580	2.32	502	2.01	364	1.45	357	1.43	295	1.18	211	0.84	217	0.87	109	0.44	114	0.46	111	0.44
19	704	4.04	592	3.40	475	2.73	426	2.45	279	1.60	227	1.30	212	1.22	168	0.97	149	0.86	112	0.64	77	0.44	74	0.43
20	511	3.52	472	3.26	331	2.28	296	2.04	242	1.67	209	1.44	176	1.21	129	0.89	109	0.75	79	0.54	51	0.35	60	0.41
21	711	3.28	688	3.17	484	2.23	424	1.96	286	1.32	255	1.18	248	1.14	168	0.77	162	0.75	101	0.47	78	0.36	80	0.37
22	187	3.35	158	2.83	145	2.60	126	2.26	91	1.63	75	1.35	57	1.02	42	0.75	31	0.56	28	0.50	27	0.48	16	0.29
23	53	3.47	46	3.01	26	1.70	30	1.97	17	1.11	24	1.57	9	0.59	9	0.59	11	0.72	12	0.79	6	0.39	8	0.52
24	20	3.26	11	1.79	14	2.28	16	2.61	14	2.28	4	0.65	5	0.81	6	0.98	3	0.49	3	0.49	4	0.65	2	0.33
25以上	32	3.25	30	3.05	21	2.13	18	1.83	9	0.91	8	0.81	12	1.22	8	0.81	5	0.51	5	0.51	5	0.51	3	0.30

表２．８　体重の分布　女（2）

	69.0～69.9		70.0～70.9		71.0～71.9		72.0～72.9		73.0～73.9		74.0～74.9		75.0～75.9		76.0～76.9		77.0～77.9		78.0～78.9		79.0～79.9		80.0～80.9	
	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%
総数	249	0.29	206	0.24	149	0.17	163	0.19	105	0.12	109	0.12	86	0.10	79	0.09	56	0.06	54	0.06	37	0.04	33	0.04
18歳	68	0.27	60	0.24	47	0.19	56	0.22	21	0.08	26	0.10	25	0.10	20	0.08	24	0.10	14	0.06	13	0.05	10	0.04
19	57	0.33	41	0.24	43	0.25	42	0.24	20	0.11	33	0.19	18	0.10	20	0.11	9	0.05	12	0.07	6	0.03	7	0.04
20	51	0.35	36	0.25	23	0.16	15	0.10	29	0.20	19	0.13	14	0.10	8	0.06	13	0.09	8	0.06	6	0.04	3	0.02
21	53	0.24	48	0.22	28	0.13	38	0.18	26	0.12	20	0.09	22	0.10	23	0.11	7	0.03	13	0.06	8	0.04	9	0.04
22	13	0.23	16	0.29	4	0.07	9	0.16	4	0.07	10	0.18	3	0.05	4	0.07	1	0.02	7	0.13	2	0.04	1	0.02
23	5	0.33	2	0.13	3	0.20	0	0	1	0.07	0	0	2	0.13	1	0.07	2	0.13	0	0	1	0.07	2	0.13
24	1	0.16	1	0.16	1	0.16	0	0	1	0.16	0	0	0	0	1	0.16	0	0	0	0	1	0.16	1	0.16
25以上	1	0.01	2	0.20	0	0	3	0.30	3	0.30	1	0.10	2	0.20	2	0.20	0	0	0	0	0	0	0	0

	81.0～81.9		82.0～82.9		83.0～83.9		84.0～84.9		85.0～85.9		86.0～86.9		87.0～87.9		88.0～88.9		89.0～89.9		90.0～90.9		91.0～91.9		92.0～92.9	
	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%
総数	25	0.03	16	0.02	18	0.02	20	0.02	20	0.02	12	0.01	11	0.01	10	0.01	8	0.01	2	0.00	5	0.01	5	0.01
18歳	7	0.03	1	0	5	0.02	4	0.02	5	0.02	4	0.02	0	0	2	0.01	2	0.01	1	0.00	3	0.01	2	0.01
19	3	0.02	3	0.02	6	0.03	5	0.03	6	0.03	1	0.01	6	0.03	5	0.03	2	0.01	0	0	0	0	1	0.01
20	4	0.03	5	0.03	2	0.01	7	0.05	5	0.03	4	0.03	0	0	3	0.02	2	0.01	0	0	1	0.01	0	0
21	8	0.04	5	0.02	3	0.01	4	0.02	1	0	3	0.01	4	0.02	0	0	1	0.00	1	0.00	1	0.00	1	0.00
22	3	0.05	1	0.02	2	0.04	0	0	2	0.04	0	0	1	0.02	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.07	0	0	0	0	0	0
24	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.16
25以上	0	0	1	0.10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	93.0～93.9		94.0～94.9		95.0～95.9		96.0～96.9		97.0～97.9		98.0～98.9		99.0～99.9		100.0～	
	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%
総数	3	0.00	4	0.00	6	0.01	3	0.00	3	0.00	2	0.00	3	0.00	22	0.03
18歳	0	0	2	0.01	3	0.01	1	0.00	1	0.00	1	0.00	1	0.00	9	0.04
19	2	0.01	1	0.01	1	0.01	1	0.01	0	0	0	0	0	0	4	0.02
20	0	0	0	0	0	0	1	0.01	0	0	0	0	0	0	4	0.03
21	1	0.00	0	0	0	0	0	0	1	0.00	1	0.00	1	0.00	3	0.01
22	0	0	1	0.02	1	0.02	0	0	1	0.02	0	0	1	0.02	0	0
23	0	0	0	0	1	0.07	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.13
24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
25以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

表 2．9　厚生省身長別体重基準による判定　　[94校集計]

		受診者数	るいそう危険域		標準体重域		肥満注意域		肥満危険域	
			実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数		264,430	24,054	9.1	212,306	80.3	15,207	5.8	12,863	4.9
男		177,493	12,074	6.8	141,798	79.9	12,318	6.9	11,303	6.4
女		86,937	11,980	13.8	70,508	81.1	2,889	3.3	1,560	1.8
18歳	男	39,163	3,468	8.9	30,965	79.1	2,439	6.2	2,291	5.8
	女	25,012	3,468	13.9	20,195	80.7	858	3.4	491	2.0
19	男	36,010	2,680	7.4	28,797	80.0	2,324	6.5	2,209	6.1
	女	17,397	2,130	12.2	14,252	81.9	662	3.8	353	2.0
20	男	27,885	1,722	6.2	22,747	81.6	1,848	6.6	1,568	5.6
	女	14,489	1,863	12.9	11,883	82.0	483	3.3	260	1.8
21	男	38,821	2,348	6.0	31,463	81.0	2,632	6.8	2,378	6.1
	女	21,434	3,217	15.0	17,253	80.5	646	3.0	318	1.5
22	男	20,793	1,199	5.8	16,553	79.6	1,598	7.7	1,443	6.9
	女	5,517	851	15.4	4,414	80.0	164	3.0	88	1.6
23	男	7,678	368	4.8	5,956	77.6	709	9.2	645	8.4
	女	1,509	228	15.1	1,211	80.3	38	2.5	32	2.1
24	男	3,045	134	4.4	2,327	76.4	280	9.2	304	10.0
	女	600	85	14.2	499	83.2	8	1.3	8	1.3
25	男	4,098	155	3.8	2,990	73.0	488	11.9	465	11.3
以上	女	979	138	14.1	801	81.8	30	3.1	10	1.0

判定基準は文中に記述.

表 2．10　Body Mass Index（BMI）による判定　　[94校集計]

		受診者数	やせ		普通		過体重		肥満	
			実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数		264,497	74,929	28.3	149,837	56.6	28,934	10.9	10,797	4.1
男		177,538	41,119	23.2	103,452	58.3	23,579	13.3	9,388	5.3
女		86,959	33,810	38.9	46,385	53.3	5,355	6.2	1,409	1.6
18歳	男	39,173	10,682	27.3	21,963	56.1	4,571	11.7	1,957	5.0
	女	25,014	9,687	38.7	13,286	53.1	1,605	6.4	436	1.7
19	男	36,021	8,779	24.4	20,838	57.8	4,568	12.7	1,836	5.1
	女	17,402	6,222	35.8	9,667	55.6	1,200	6.9	313	1.8
20	男	27,896	6,209	22.3	16,833	60.3	3,538	12.7	1,316	4.7
	女	14,494	5,443	37.6	7,931	54.7	877	6.1	243	1.7
21	男	38,828	8,625	22.2	23,178	59.7	5,070	13.1	1,955	5.0
	女	21,440	8,830	41.2	11,111	51.8	1,208	5.6	291	1.4
22	男	20,796	4,268	20.5	12,264	59.0	3,099	14.9	1,165	5.6
	女	5,521	2,302	41.7	2,811	50.9	329	6.0	79	1.4
23	男	7,680	1,388	18.1	4,471	58.2	1,291	16.8	530	6.9
	女	1,508	637	42.2	778	51.6	67	4.4	26	1.7
24	男	3,045	519	17.0	1,716	56.4	570	18.7	240	7.9
	女	601	273	45.4	303	50.4	15	2.5	10	1.7
25	男	4,099	649	15.8	2,189	53.4	872	21.3	389	9.5
以上	女	979	416	42.5	498	50.9	54	5.5	11	1.1

判定基準は文中に記述.

3．内科検診

内科検診を実施した大学は82校であったが，貧血，心雑音，不整脈，甲状腺腫，肝腫大の各項目について，診察項目別のデータが寄せられた73校について集計した（表３．１）．

診察内容は大学により多少の違いがあり，個々の項目について実施した大学数，受診学生数は一定していない．診察担当者は大部分（93.4%）が内科医であった．「白書1984」では内科医が診察している大学27校に限って集計されており，実施大学数は今回格段に増加している．項目毎の受診学生数も，貧血，心雑音，甲状腺腫で約３倍増，不整脈については新たにチエック項目に加えた大学が増え，受診学生数が９倍に増加している．逆に肝腫大のチエックは減少し，内科診察時全員に実施していることが確認できた大学は１校のみであった．これは腹部触診検査が仰臥位で行わなければならないことと大きくかかわっていると思われる．

個々の項目について有所見率を算出したが，内科検診の項目で最も実施報告が高率だったのは心雑音で，70校で検査の結果0.73%に所見がみられた．有所見率が高かったのは肝腫大の1.4%で，「白書1984」にくらべても増加していたが，先に述べたように１校のみの成績である．その他の項目，甲状腺腫，貧血，不整脈はいずれも0.6%以下であった．性別では，甲状腺腫，貧血が，前回同様女子に多くみられた．全体の有所見率の変化は少なかったが，性差は減少傾向を示した．

体重，血圧などと異なり，診察による検診は，その実施方法，判定基準や記載様式が各大学により微妙に違っており，また，担当医師の専門性に左右される面も大きく，多数の大学のデータを集計するにあたっては，さらにきめ細かい調査実施上の配慮が必要であったと思われる．

各項目の有所見者についての精密検査結果に関する調査は，大変な作業ではあるが，今後実施すべき重要な課題の一つと考えられる．

〔石井伸子〕

表３．１　内科検診における有所見者

[73校集計]

理学的所見	性別	対象者数	受診者数		有所見者		1984有所見率　%
			実数	%	実数	%	
貧血 (61校)	総　数	145,044	144,164	99.4	635	0.44	0.46
	男	92,431	91,850	99.4	210	0.23	0.15
	女	52,613	52,314	99.4	425	0.81	1.27
心雑音 (70校)	総　数	155,611	155,541	100.0	1,114	0.72	0.60
	男	99,259	99,144	99.9	743	0.75	0.62
	女	56,402	56,397	100.0	371	0.66	0.55
不整脈 (60校)	総　数	138,335	137,898	99.7	563	0.41	0.32
	男	88,499	88,275	99.7	346	0.39	0.36
	女	49,836	49,623	99.6	217	0.44	0.13
甲状腺腫 (62校)	総　数	144,164	143,511	99.5	838	0.58	0.66
	男	92,199	91,929	99.7	254	0.28	0.18
	女	51,965	51,582	99.3	584	1.13	2.12
肝腫大 (１校)	総　数	2,506	2,503	99.9	36	1.44	0.32
	男	1,549	1,547	99.9	21	1.36	0.28
	女	957	956	99.9	15	1.57	0.43

受診者数は，内科検診結果の「異常あり」と「異常なし」を加えた数，対象者数はこれに未検者を加えた数を用いた．
有所見者数は各項目の異常者数である．

4．胸部X線検査

4．1　胸部X線検査における調査方法および異常者の頻度

「健康白書1995」用データで胸部X線（Xp）について記載されていた学生数は248,295名であった．そのうち未受診を除く，診断結果が記載されている学生数は間接Xp，直接Xpを合わせて238,953名であった．ここに，直接Xp対象者は，その必要性に応じて最初から検査されたものと推定され，間接Xp対象者とは別の対象と判定される．

また，検診における未受診者／検診対象者の比率は，各校から数字としてあげられてきていないので，全体としても不明である．

結果を表4．1に示す．間接Xpで「異常あり」と判定されたものは1,794名（0.72%），直接Xpで「異常あり」は107名（0.04%），両者合わせて1,901名（全受診者の0.80%）であった．

4．2　肺結核について

表4．2は肺結核について年齢別，性別でみた成績である．Xp受診者全238,953名中，肺結核ありと診断されたものは85名（0.04%）で，年齢別には23歳以上で若干高頻度の傾向があった．男女別では，各年齢層とも男性の方が多い傾向がみられ，全体としては1.7倍の頻度であった．

表4．3は同一対象について発見の状況別にみたものであるが，新規に結核と診断されたものは53名（0.02%）であった．

表4．4は結核の活動性についてみたもので，対象は記載があった22校，96名についてのものである．Xp上「活動性あり」と診断されたものは12名（12.50%）で，男女別では差がみられなかった．

表4．5は表4．3の発見の状況と指導区分とのクロス表である．対象は記載があった40校，71名についてのものである．新発生中，「放置可」は12名（30.00%）にとどまり，他はなんらかの措置が必要と判定された．とくに「要医療」は8名(20.00%）であった．また，結核既往者のなかにも10名(32.26%)がなんらかの措置が必要と判定された．

表4．6は上記指導区分を活動性別にみたもので，対象は記載があった20校，92名についてのものであるが，「活動性あり」で「要観察」が23名(30.00%)，「非活動性」で「要医療」が2名（2.82%）あるなど，調査上の疑問点が残された．

4．3　肺結核以外の胸部疾患について

表4．7は，肺結核以外の胸部疾患についてまとめたものである．疾患別の記載があった校数，対象者数は表中に記載したとおりである．

結果として，気管支拡張症0.21%，気胸0.14%，ブラ0.14%，肺炎0.10%の順であった．また，心陰影拡大が2.12%にみられた．

表4．8は表4．7中の「その他」に関する詳細記述の結果である．記載があったのは50校，2,877名で，表4．7の「その他」の対象とは異なっている．これは，記述欠損や重複記述によることが推測され，若干の問題を含むが，この結果では気管支喘息，アレルギー性上気道疾患などが目についた．

4．4　考案

以上の結果を「白書1984」の成績と比較すると，Xp異常者の総数は1/3程度に減少している．しか

し，これには読影者の読影力の問題や要再・精検者抽出率の差の問題等があり，一概には論じられない．

肺結核の有病率は1984年の0.07%（人口10万対70）から今回の0.04%（人口10万対40）へと60%程に減少し，注目されるが，医師の関心度の違いによる発見率の差や調査方法における問題など，今後の検討を要すると思われる．

肺結核の新発生についても，1984年の0.03%（人口10万対30）に対し，今回は0.02%（人口10万対20）と60%ほどに減ったが，同様の考察が可能であろう．

ちなみに，わが国の20－29歳時における活動性肺結核有病率（人口10万対）は，1984年が45.4，1995年が24.5であり，また，同年齢の活動性肺結核罹患率（新規登録すなわち新発生，人口10万対）は，1984年が29.9，1995年が20.8である．

肺結核以外の胸部疾患については，1984年の成績で対象者数の記載がなく比較ができない．今回の調査において，気管支喘息やアレルギー性上気道疾患の増加が推測されるが，他の肺疾患については有意の変化はないかも知れない．

この種の調査では，母数の精度が常に問題となり，とくに，各校間の意識差が，記述における精度に反映してくるため，その解釈は調査方法，被調査校の状態などを詳細に検討した上でなされる必要がある．

今回の調査では，調査規模が大きいことや調査期間に制約があったりして，必ずしも十分とはいえない面があったかもしれない．

いずれにせよ，わが国の肺結核の有病率（新規登録＋既往者）または罹患率（新規登録）に関していえば，その低下度が徐々ににぶってきているとはいえ，年次的に確実に減少傾向にある．今回の調査でも，その傾向が示されたことになる．

〔本間行彦〕

表４．１　胸部Ｘ線検査における異常者の頻度　［92校集計］

	男	女	計
総　　数	163,563 (100.00)	84,732 (100.00)	248,295 (100.00)
受　診　者　数	157,153 (96.08)	81,800 (96.54)	238,953 (96.24)
間接ＸＰで異常あり	1,196 (0.73)	598 (0.71)	1,794 (0.72)
〃　異常なし	154,734 (94.60)	80,576 (95.10)	235,310 (94.77)
直接ＸＰで異常あり	83 (0.05)	24 (0.03)	107 (0.04)
〃　異常なし	1,140 (0.70)	602 (0.71)	1,742 (0.70)
未　受　診　者　数	6,410 (3.92)	2,932 (3.46)	9,342 (3.76)

表４．２　肺結核の頻度

	男		女		計	
	総数	結核あり(%)	総数	結核あり(%)	総数	結核あり(%)
総数	157,153	65 (0.04)	81,800	20 (0.02)	238,953	85 (0.04)
18歳	35,881	15 (0.04)	23,980	6 (0.03)	59,861	21 (0.04)
19	30,656	7 (0.02)	15,563	3 (0.02)	46,219	10 (0.02)
20	22,180	10 (0.05)	13,210	6 (0.05)	35,390	16 (0.05)
21	35,015	15 (0.04)	20,811	4 (0.02)	55,826	19 (0.03)
22	19,640	7 (0.04)	5,364	1 (0.02)	25,004	8 (0.03)
23	7,413	6 (0.08)	1,460	0 (0.00)	8,873	6 (0.07)
24	2,958	2 (0.07)	576	0 (0.00)	3,534	2 (0.06)
25以上	3,410	3 (0.09)	836	0 (0.00)	4,246	3 (0.07)

表４．３　肺結核の発見の状況

	男	女	計
総　　数	157,153 (100.00)	81,800 (100.00)	238,953 (100.00)
新　発　生	43 (0.03)	10 (0.01)	53 (0.02)
既往歴あり	22 (0.01)	10 (0.01)	32 (0.01)
合　　計	65 (0.04)	20 (0.02)	85 (0.03)

表４．４　肺結核の活動性　［記載あり22校］

	男	女	計
総　数	72 (100.00)	24 (100.00)	96 (100.00)
活　動　性	9 (12.50)	3 (12.50)	12 (12.50)
非　活　動　性	54 (75.00)	19 (79.17)	73 (76.04)
不　　明	9 (12.50)	2 (8.33)	11 (11.46)

表４．５　肺結核発見の状況と指導区分　［総数71校，記載あり40校］

	放置可	要観察	要精査	要医療	計
新発生	12 (30.00)	13 (32.50)	7 (17.50)	8 (20.00)	40 (100.00)
既往歴あり	21 (67.74)	6 (19.35)	1 (3.23)	3 (9.68)	31 (100.00)
計	33 (46.48)	19 (26.76)	8 (11.27)	11 (15.49)	71 (100.00)

表４．６　肺結核の活動性と指導区分　［総数92校，記載あり20校］

	放置可	要観察	要精査	要医療	計
活動性	0 (0.00)	3 (30.00)	0 (0.00)	7 (70.00)	10 (100.00)
非活動性	34 (47.89)	33 (46.48)	2 (2.82)	2 (2.82)	71 (100.00)
不明	0 (0.00)	1 (9.09)	9 (81.82)	1 (9.09)	11 (100.00)
計	34 (36.96)	37 (40.22)	11 (11.96)	10 (10.87)	92 (100.00)

表４．７　肺結核以外の胸部疾患

	調査校	総数	男	女	計
気管支拡張症	39	14,118	26 (0.33)	4 (0.06)	30 (0.21)
肺炎	34	12,614	8 (0.12)	4 (0.07)	12 (0.10)
気胸	39	17,642	21 (0.21)	3 (0.04)	24 (0.14)
ブラ	39	17,642	19 (0.19)	6 (0.08)	25 (0.14)
心陰影拡大	47	17,768	261 (2.54)	116 (1.55)	377 (2.12)
その他	63	20,617	340 (2.81)	221 (2.59)	561 (2.72)

表４．８　肺結核を除く他の肺疾患の頻度　［表４．７中の「その他」に関する詳細記述，記載あり50校］

	男	女	計
総数	2,021 (100.00)	856 (100.00)	2,877 (100.00)
急性上気道炎	22 (1.09)	5 (0.58)	27 (0.94)
気管支喘息	55 (2.72)	31 (3.62)	86 (2.99)
アレルギー性上気道疾患＊	25 (1.24)	15 (1.75)	40 (1.39)
自然気胸	7 (0.35)	0 (0.00)	7 (0.24)
その他の呼吸器系疾患＊＊	110 (5.44)	35 (4.09)	145 (5.04)

＊：鼻アレルギー，花粉症など．＊＊：慢性副鼻腔炎，扁桃腺炎など．

5．尿検査

尿検査については，定期健康診断時の検尿（一次検尿）における蛋白，潜血，糖の陽性者の頻度，およびこれらの陽性者の二次検尿（再検尿）と精密検査（三次）の結果について調査，集計した．この種の調査では被検尿の採尿条件［蛋白，潜血では随時尿か早朝起床時尿（以下早朝尿と略記）か，糖では空腹時尿か食後尿かまた随時尿か］，および検査方法（試験紙の種類），判定（比色）法などの条件を一定にすることが原則であるが，今回も，できるだけ多くの大学の協力を得るため，各大学の実状を考慮し，以下のような前回の「白書1984」と同様の条件で検尿を行うこととした．

（1）採尿条件：一次検尿では随時尿または早朝尿とする．二次検尿では蛋白，潜血は早朝尿，糖は早朝空腹時尿または飽食後1～2時間尿を原則とする．

（2）試験紙の種類：特に指定しないが，できるだけ多くの大学での使用頻度の高いものを用い，使用試験紙の種類を申告する．

（3）判定：尿蛋白および潜血は（＋）以上を陽性とし，その程度を（＋），（＋＋），（＋＋＋）以上の3段階に区分する．尿糖は（±）以上を陽性とし，その程度を（±），（＋），（＋＋），（＋＋＋）以上の4段階に区分する．

（4）検査担当者：原則として臨床検査技師とし，不在の場合は検査手技について熟知，訓練した者に実施させる．

（5）自動分析器：とくに指定せず，現在，各大学で使用しているものを用い，機器名を申告する．

（6）その他：検査は使用試験紙に指定されているとおりに実施し，とくに判定は尿に浸してから指定された時間に行うよう注意する．女子学生では月経中を避ける．

この検査については，91校より調査結果が提出された．以下，尿検査に関する集計結果を，前回の白書と同様に尿検査　5．1　尿蛋白および潜血と尿検査　5．2　尿糖とに分けて述べる．提出されたデータの中からできるだけ多くの有効データを活用することを大前提としたため，今回の集計ではデータ数は「白書1984」の約2倍となり，成績の重みも倍加していると言える．しかし，集計項目により対象校・対象者数が異なり，いわゆる受診率や少数の対象校に限っての一次検尿から二次検尿・精密検査までの縦断的検討は犠牲にせざるを得なかったことをお断わりしておく．

5．1　尿蛋白および潜血

尿蛋白および潜血に関する調査では，一次検尿で蛋白のみの陽性者（以下，蛋白陽性者），潜血のみの陽性者（以下，潜血陽性者）および蛋白，潜血が同時に陽性の者（以下，両者陽性者）の3群に分けて，調査，集計した．

この調査では最大91校のデータを用いた．この場合の受診者数は男子 162,860名，女子 78,739名，合計 241,599名であった（表5．1）．採尿条件（随時，早朝），使用試験紙，判定法（目視，自動分析器）また判定に用いた自動分析器も各校で異なるが，すべての検査において（＋）以上を陽性とした．同時に，採尿条件，使用試験紙，判定法，自動分析器などの特性を知るため疑陽性（±）を表示し，参考に供した．

5．1．1　一次検尿における尿蛋白，尿潜血，両者陽性の頻度

蛋白については最大の91校，潜血は86校，両者陽性は85校について集計した．

一次検尿における尿蛋白のみ陽性，尿潜血のみ陽性，両者陽性の頻度を性・年齢別に疑陽性を含めて，表５．１～３に示した．尿蛋白陽性者の頻度は，男子3.82%，女子4.55%，男女合計では4.06%であった．尿潜血では男子2.01%，女子4.51%，男女合計では2.81%であった．両者陽性は男子0.30%，女子0.60%，男女合計では0.40%であった．従って，一次検尿における３者の陽性率合計は，男子6.13%，女子9.66%，男女合計7.31%とかなりの高率に認められた．

１）性・年齢別にみた蛋白，潜血および両者陽性の頻度

本集計は，採尿条件（随時，早朝），試験紙の種類，尿自動分析器の使用の有無や分析器の機種は考慮せずに集計したものであるが，この集計より蛋白・潜血および両者陽性の頻度を性・年齢別にみると以下のような傾向が見られた．

蛋白陽性者の頻度は，性別には25歳以上を除き，18歳から24歳まで各年齢において，女子が男子より高率であった．また，年齢別にみると男子では21，22歳および25歳以上の少しの上昇を除き，18歳の4.95%から24歳の2.91%まで年齢の増加とともに陽性率が低下する傾向があり，女子でも20歳を除いて，18歳の5.62%から25歳以上の2.79%まで加齢とともに漸減する傾向があった．これらの成績は，「白書1984」と大きく異なるものではなかった．

潜血陽性者の頻度は，性別には各年齢を通じて女子が男子より２倍以上の高率を示した．女子は月経中の検尿を避けるよう十分に注意することになっているので，月経の影響はないものと考えたい．しかし，女子での検尿成績とくに潜血反応の信憑性は，月経を挟んで前3～4日，後5～6日著しく低下することが知られており，定期健康診断日の限定なども考えると，月経の影響は避けられないものであろう．年齢別にみると，男子では24歳の1.93%を除いて年齢の増加とともに1.84～2.96%と陽性率が上昇する傾向がみられた．女子では25歳以上で陽性頻度が高いが，4.08～5.56%と一定の傾向を示さなかった．これらの成績は，「白書1984」と異なり，男子では0.7～1%の上昇，女子では２倍以上の高率であった．

両者陽性の頻度は，性別には女子が男子の約２倍の高率を示した．年齢別には，男子は0.19～0.43%，女子は0.33～0.87%の範囲にあり，とくに一定の傾向を認めなかった．「白書1984」との比較では，男子では大きな違いはなく，女子で少し高い傾向が認められる．前述のごとく潜血のみの陽性率は男女ともに上昇しているが，蛋白陽性のみの成績に変化がないことは，両者陽性の頻度が潜血反応の成績に影響されているものではないことを物語っている．

２）採尿条件（随時，早朝）別にみた蛋白，潜血および両者陽性者の頻度

一次検尿における尿蛋白陽性者，尿潜血陽性者および両者陽性者の頻度を採尿条件別に検討した（表５．４）．集計対象校は，尿蛋白のみでは91校，尿潜血のみでは86校，両者陽性では85校であり，受診者数は各々240,991名（男子162,455，女子78,546），216,876名（男子149,663，女子70,514），220,160名（男子149,651，女子70,509）であった．

随時尿あるいは早朝尿を検体にしているかについては，尿母集団に３～４：１と大きな違いがみられた．蛋白陽性者および両者陽性者の頻度は，男女とも早朝尿（蛋白陽性；男子2.59%，女子2.29%，両者陽性；男子0.22%，女子0.32%）に比し，随時尿（蛋白陽性；男子4.18%，女子5.26%，両者陽性；男子0.33%，女子0.68%）で高率であった．これに対し，潜血陽性者の頻度は，女子では随時尿（5.06%）が早朝尿（2.76%）より明らかに高率であったのに対して，男子では大きな差ではないものの，早朝尿（2.18%）が随時尿（1.99

%）より高率であった．

3）試験紙の種類別にみた蛋白，潜血および両者陽性者の頻度

この集計にあたっては，できるだけ多くの大学で使用している試験紙の使用を原則としたが，実際には各大学の事情により使用試験紙の種類は多岐（大きく6メーカー）に亘るため，一次検尿の蛋白（91校），潜血（85校）および両者陽性（85校）の頻度を試験紙の種類別に検討した成績を表5．5～7に示した．ウロコース，ラピグノストも使用されているが，有効データ件数が少ないため，比較から除外した．

蛋白陽性者の頻度は，男子ではBMテスト(2.43%）でもっとも低く，ヘマコンビスティックス(4.31%）でもっとも高かった．女子ではプレテスト(3.65%)でもっとも低く，ユリフレット(5.19%）でもっとも高かった．これらの成績は，表5．1に示した蛋白陽性者の平均頻度と比較すると，一部の試験紙でやや低いものの，「白書1984」で認められたラビグノストと他の試験紙との違いほどではなく，各大学とも試験紙選択の段階でかなり考慮されたものと思われる．

潜血陽性者の頻度は，男子では，ウロペーパー(0.86%）でもっとも低く，ウロピース（4.03%）でもっとも高かった．女子では，プレテスト(1.88%）でもっとも低く，ウロピース（7.37%）でもっとも高かった．これらの成績は，表5．2に示した潜血陽性者の平均頻度と比較すると，当然ながら有効データ件数が最多であるヘマコンビスティックスが平均値にもっとも近く，BMテスト，ウロピースで高率に，ウロペーパー，プレテスト，ユリフレットで低率であった．

両者陽性者の頻度は，男女ともプレテスト（男子0.17%，女子0.18%）でもっとも低率で，BMテスト（男子0.45%，女子1.02%）でもっとも高率であった．表5．3に示した両者陽性者の平均頻度と比較すると，有効データ件数が最多のヘマコンビスティックスが平均値に最も近いのは当然としても，BMテスト以外は全ての試験紙が低率であった．

このように蛋白，潜血および両者陽性の頻度は，試験紙の種類によって種々であり，同一試験紙使用大学の間にも，その頻度にはかなりの違いがあった．ゴールデンスタンダードはないものの相対的には，蛋白，潜血の検出感度に差があることは明らかで，このことを心得て検尿成績を読む必要があると思われる．

疑陽性については数値のみを示し，とくに解説は行わなかった．

4）試験紙の判定法（目視・自動分析器比色）別にみた蛋白，潜血および両者陽性者の頻度

前項で述べた試験紙別の陽性頻度の差は，試験紙の種類別ばかりでなく，目視による肉眼比色か尿自動分析器による比色かにもよる可能性が考えられる．さらに，尿自動分析器の機種によっても異なる可能性も考えねばならない．とくに「白書1984」時の集計では，肉眼比色と自動分析器による比色の比が10：1位であったのに対し，今回の集計では，比率が縮まり，6：5位でほぼ対等の比較が可能となっている．一次検尿における判定方法と蛋白，潜血および両者陽性の頻度を表5．8に示した．蛋白陽性者の頻度は，肉眼比色では3.45%であるのに対し，分析器比色では4.82%，潜血では2.50%と3.14%，両者陽性では0.31%と0.48%といずれも肉眼比色より分析器比色で高率であった．これは「白書1984」と全く逆の成績であった．さらに，表5．8に示したように陽性頻度の算出の際には除外した疑陽性（±）の頻度を比較しても，傾向は同様であった．また，分析器比色では肉眼比色に比し，（±）をより多く検出することについては「白書1984」と同様の傾向を示した．このため疑陽性と陽性者の頻度を加算す

ると，分析器比色が肉眼比色を上回るのは一層助長された．これらの結果が，自動分析器導入の比率が高まったことによるのか，さらに細かい機器操作や試験紙を尿に浸してから分析にかかるまでに要する時間などの判定手技上の問題なのかはこの成績からは読み取れない．しかし，判定方法によって成績がかなり違ってくることについては，十分考慮する必要がある．

5）尿自動分析器比色における自動分析器の機種別にみた蛋白および潜血陽性者の頻度

既に述べたように，今回の集計においては尿自動分析器比色の導入が飛躍的に高まっていた．前項では，肉眼比色と分析器比色の間にかなりの成績の違いがあることを述べたが，ここでは分析器の機種別にみた蛋白および潜血陽性者の頻度を表5．9，10に示した．

分析機器別にみると蛋白では測定有効件数の多さは③クリニテック，⑥メディトロン，①オーションアナライザー，②スーパーＵＡ，④ＵＳ－2100（or－3100），⑤プレテスター，⑦その他の順であった．潜血では③，⑥，①，②，⑤，⑦の順であり，④ＵＳ－2100（or－3100）の使用例はなかった．蛋白陽性者検出率には，表5．9に示したように①～④の分析器と⑤～⑦の分析器とで明らかな差が認められ，疑陽性をも考慮すると，その差は一層顕著となった．

潜血陽性者検出率では，表5．10に示したように，有効データ数には圧倒的な差が生じるものの①，③，⑤，⑥の機種と②，⑦の機種とに明らかな差が認められ，疑陽性を考慮すると，その差は多少小さくなっても，解消はされなかった．

5．1．2　二次検尿における尿蛋白，尿潜血，両者陽性の頻度

一次検尿の記載のあった91校，86校，85校のうち，二次検尿の記載があった71校，69校，76校を対象として，二次検尿の結果を集計した．

二次検尿における尿蛋白のみ陽性，尿潜血のみ陽性，両者陽性の頻度を性・年齢別に疑陽性を含めて，表5．11～13に示した．なお，未受診者とは，一次検尿で異常と判定されながら二次検尿に実数が示されなかった者であり，一次検尿異常者から二次検尿受診者を減じた計算上の数字である．

蛋白陽性者では，表5．11に示したように男子の対象者6,224名中3,876名が受診し，（＋）以上の陽性者は326名，8.41％であった．女子の対象者3,586名中2,359名が受診し，（＋）以上の陽性者は170名，7.21％であった．男女合計では7.96％であった．

尿潜血陽性者では，表5．12に示したように男子の対象者3,007名中1,823名が受診し，（＋）以上の陽性者は413名，22.65％であった．女子の対象者3,189名中1,894名が受診し，（＋）以上の陽性者は240名，12.67％であった．男女合計では17.57％であった．

両者陽性者では，表5．13に示したように男子の対象者453名中283名が受診し，（＋）以上の陽性者は116名，40.99％であった．女子の対象者421名中274名が受診し，（＋）以上の陽性者は63名，22.99％であった．男女合計では32.14％であった．しかし，両者陽性の中には蛋白のみの陽性者（男子23名，女子11名）および潜血のみの陽性者（男子40名，女子31名）が含まれており，真の両者陽性は男子53名，18.73％，女子21名，7.66％，男女合計では13.29％であった．

年齢別には，蛋白，潜血および両者陽性者の頻度は男女とも一定の傾向を示さなかった．

一次検尿，二次検尿を通じての異常率は各々の異常率を乗じて算出，推定できる．これによると大学生における蛋白のみの陽性率は，両者陽性からの補正0.02％を加えて0.34％，潜血のみの陽性率は，両者陽性からの補正0.05％を加えて0.54％，

両者の陽性率は0.05%となる．従って，一次検尿，二次検尿を通じての3者の陽性率合計は，男子0.90%，女子1.04%，男女合計0.93%と約1%に検尿異常が存在すると強く推定できる．

5．1．3　二次検尿異常者（蛋白，潜血および両者陽性）に対する指導区分

前項の表5．11～13に示したように，本集計を通じて発見された尿異常は，蛋白のみ陽性530名（男子349名，女子181名），潜血のみ陽性724名（男子453名，女子271名）および両者陽性74名（男子53名，女子21名），合計1,328名（男子855名，女子473名）となった．

表5．14に二次検尿異常者に対する指導区分を示した．指導区分対象者が二次検尿陽性者数より多い部分が認められるのは，前述した一次検尿の陽性者を対象としたり，二次検尿で（±）以上を対象者に含めた大学があること，さらに，これまで既に腎疾患が明らかな者を指導区分を決める段階で含めたことなどが考えられる．

直ちに治療が必要と判定された者の平均は約6%で，蛋白のみの陽性では3.73%，潜血のみでは6.93%，両者陽性ではやはり比率は高く13.19%であった．

継続した観察を必要とする要観察は平均で約30%，蛋白のみの陽性では34.51%と約1/3，潜血のみでは42.81%，両者陽性では約30%と平均並であった．

日常生活上問題もなく，継続観察をも必要としない放置可と判定された者は，蛋白陽性のみでは34.7%，潜血のみの陽性では約19%であった．両者陽性では8.79%を示したが，例数は少なかった．

この段階では判定に苦しみ，さらに詳しい検査を必要とする要精査は，蛋白のみの陽性では約18%，潜血のみの陽性では21.49%，両者陽性では当然ながら37.36%と高率であった．対象者の10%近くが未判定あるいは未受診なのは残念な結果であった．

5．1．4　尿蛋白，尿潜血および両者陽性者の精密検査（三次検診）の結果

蛋白，潜血および両者陽性者を対象に精密検診（以下，精検）を実施したと回答のあった最少10校，最大27校を対象に結果の集計を行った．結果を性，年齢別に表5．15～17に示した．各々の表には，本来，精検の対象となるべき二次検尿異常者の数を左端のカラムに示してある．なお，腎不全はいずれの集計でも認められなかった．

表5．15で蛋白陽性者の精検の結果をみると，詳細不明を含めても精検に導入されている例は，対象となるべき人数の半数以下であり，残りの例の結果は不明である．専門施設への紹介などによる脱落と思われるが，予後調査などで明らかになることを期待したい．

腎生検を施行した例は僅か7例にとどまった．やはり慢性腎炎が最多であり，腎炎疑，その他の腎症，急性腎炎などの腎炎の諸相が53例ともっとも多かった．とくに，急性腎炎の発見は，完全治癒の可能性を考えれば貴重である．また，腎・尿路腫瘍や尿路結石発見のきっかけとなっていることも，特筆すべきであろう．腎炎関係に続いては体位性蛋白尿が23例と多かった．やや奇異に思われるのは，特発性腎出血10例の存在で，記載誤りの可能性もある．

表5．16で潜血陽性の精検の結果をみると，精検に至っているのは蛋白陽性者より低率で40%弱であった．腎生検は蛋白陽性の場合より多い11例に施行されていた．特発性腎出血が最多の48例であったが，腎炎疑，慢性腎炎，その他の腎症，急性腎炎などの腎炎関係が，合計では96例と精検例の1/3を占め，血尿のみでも腎炎の可能性が高いことを示している．体位性血尿，遊走腎など体位に関係する10例が認められた．尿路結石5例，腎・尿路腫瘍1例の発見の契機となっていた．

表5.17で両者陽性の精検結果を観察すると，82%強の4/5以上が精検に導入されていた．腎生検は3例のみであったが，施行率は単独陽性群より高かった．慢性腎炎11例を含め，腎炎疑，その他の腎症，急性腎炎など腎炎関係が半数近くを占め，両者陽性の場合には腎炎への注意を一層高めねばならないことを示している．また，腎・尿路腫瘍や腎結石の発見動機となっていることも重要な意味を持っている．

〔安東明夫〕

5.2 尿糖

尿糖に関する調査では91校のデータを用いた．受診者数は男子162,804名，女子77,461名，合計240,265名であった（表5.18）．採尿条件，使用された試験紙は各校で異なるが，「白書1984」と同様，すべての検査において（±）以上を尿糖陽性とした．

5.2.1 一次検尿における尿糖陽性者の頻度

上記91校について集計した一次尿検査における尿糖陽性者の頻度を表5.18に示した．尿糖陽性者の頻度は，男子1.0%，女子0.8%，男女合計では0.9%であった．

1）性・年齢別にみた尿糖陽性者の頻度

尿糖陽性者の頻度を性別にみると，ほとんどの年齢層で男子が女子に比べ陽性率が高かった．一方，年齢別には一定の傾向は見られず，男子は0.7～1.1%，女子は0.6～1.1%の範囲にあった（表5.18）．

2）採尿条件（随時・食後・早朝空腹時尿）別にみた尿糖陽性者の頻度

一次検尿における尿糖陽性者の頻度を，採尿条件別に検討した（表5.19）．なお同一校にて複数の採尿条件を用いている事例があり，集計校数は明らかではない．受診者数は男子162,484名，女子77,325名，合計239,809名であった．尿糖陽性者の頻度は，随時尿の大学が1.0%，食後尿の大学が1.0%であったのに対し，早朝空腹時尿の大学では0.6%であり，早朝空腹時尿を用いている大学における頻度が低かった．

3）試験紙の種類別および試験紙の判定法（肉眼・尿分析器比色）別にみた尿糖陽性者の頻度

検尿に用いる試験紙は種々販売されており，大学によって使用している試験紙が異なる．そこで，回答のあった大学を対象に，試験紙と尿糖陽性者の頻度を検討した（表5.20）．この場合も，同一校にて複数の試験紙を用いている事例があり，集計校数は明らかではない．尿糖陽性者の頻度は，男子ではウロペーパー（1.6%），女子ではユリフレット（3.1%）を使用した大学において最も高く，男子ではヘマコンビスティックスあるいはN-マルチスティックス（0.7%），女子ではプレテスト（0.4%）を使用した大学で最も低かった．ウリエースを使用した大学では陽性者を認めなかったが，有効データ件数が少ないため，比較から除外した．

ここで（±）の頻度と（+）の頻度に注目すると，BMテスト，ウロピースII-3K，プレテストを使用した大学では（+）の頻度が（±）の頻度より高く，一方，ヘマコンビスティックス，N－マルチスティックス，ユリフレットを使用した大学では（±）の頻度が高くなっている．これは使用試験紙のためだけではなく，判定方法が肉眼か尿分析器比色かに左右される可能性がある．そこで，判定方法と尿糖陽性者の頻度について検討した（表5.21）．尿糖陽性者の頻度は，全体では肉眼比色と尿分析器比色でほぼ同様であった．しかし（±）の頻度と（+）以上の頻度に注目すると，肉眼比色では（±）の頻度が0.3%，（+）以上の

頻度が0.6%であったのに対し，尿分析器比色では（±）の頻度が0.6%，（＋）以上の頻度が0.4%であり，頻度が逆転していた．

5．2．2　二次検尿における尿糖陽性者の頻度

前記91校のうち，二次検査の記載があった71校を対象として，二次検尿の結果を集計した（表5.22）．受診者数は，男子6,987名，女子4,613名で，合計11,600名であった．再検査受検者の97.3%は陰性化し，(±)以上の尿糖陽性者は11,600名中311名，2.7%であった．性別でみると，男子は3.7%が二次検査においても尿糖陽性，女子では1.2%が尿糖陽性となっており，男子の陽性率が高かった．年齢別では男子では一定の傾向はみられないが，女子では23才以上で尿糖陽性率が上昇していた．

二次検査の採尿条件について回答のあった大学を対象に採尿条件別の尿糖陽性率を集計した（表5.23）．尿糖陽性率は食後尿で行っている大学が最も高く7.2%であり，次いで随時尿で行っている大学の3.6%，早朝空腹時尿で行っている大学が最も低く1.6%であった．

5．2．3　尿糖陽性者の精密検査（ブドウ糖負荷試験）の結果

尿糖陽性者に対し精密検査としてブドウ糖負荷試験（OGTT）を行っているとの回答があった31校を対象に，尿糖精密検査結果の集計を行った（表5.24）．受診者数は男子157名，女子57名で，合計214名であった．尿糖陽性214名のうち，OGTTの結果正常型であったのは29.0%，腎性糖尿は49.1%で，合計167名，78.0%が耐糖能異常を有しない者であった．耐糖能異常を示した者は47名，22.0%であり，境界型14.5%，糖尿病型7.5%であった．表5.24上段には精密検査としてOGTTを施行した31校の一次検尿の結果を示した．これによると，一次検尿尿糖陽性者1,890名のうち表5.24下段に示すように11.3%（214名）が精査（OGTT）まで進み，2.5%（47名）が耐糖能異常者であった．男女別では，男子糖尿病型8.9%，女子糖尿病型3.5%で，男子が女子に比し糖尿病型の頻度が多かったが，境界型の頻度に差はなかった．年齢別では，耐糖能異常者の頻度が男子が21～22歳で25.0～31.4%，女子が21歳で31.8%と，それ以前の年代より高率となっていた．

〔中江康之，佐藤祐造〕

表５．１　一次検尿における尿蛋白のみ陽性者の頻度　　[91校集計]

		受診者数	陰性者	疑陽性者	陽性者				
			−	±	+	++	+++以上	総数	
			実数	実数	実数	実数	実数	実数	%
総数		241,599	219,519	12,270	7,713	1,575	522	9,810	4.06
男		162,860	148,397	8,239	4,936	966	322	6,224	3.82
女		78,739	71,122	4,031	2,777	609	200	3,586	4.55
18歳	男	37,624	33,802	1,958	1,464	313	87	1,864	4.95
	女	22,768	20,130	1,358	966	234	80	1,280	5.62
19	男	33,397	30,356	1,724	1,049	193	75	1,317	3.94
	女	15,767	14,181	824	616	107	39	762	4.83
20	男	24,708	22,849	1,080	594	136	49	779	3.15
	女	13,334	12,357	486	364	81	28	473	3.55
21	男	34,839	31,782	1,870	945	177	65	1,187	3.41
	女	19,179	17,418	967	617	139	38	794	4.14
22	男	18,866	17,239	957	545	92	33	670	3.55
	女	4,940	4,488	263	143	34	12	189	3.83
23	男	7,155	6,589	348	177	33	8	218	3.05
	女	1,374	1,258	68	39	6	3	48	3.49
24	男	2,843	2,621	145	68	8	1	77	2.71
	女	553	508	28	14	3	0	17	3.07
25以上	男	3,428	3,159	157	94	14	4	112	3.27
	女	824	764	37	18	5	0	23	2.79

表５．２　一次検尿における尿潜血のみ陽性者の頻度　　[86校集計]

		受診者数	陰性者	疑陽性者	陽性者				
			−	±	+	++	+++以上	総数	
			実数	実数	実数	実数	実数	実数	%
総数		220,607	211,104	3,307	3,436	1,398	1,362	6,196	2.81
男		149,972	145,087	1,878	1,896	641	470	3,007	2.01
女		70,635	66,017	1,429	1,540	757	892	3,189	4.51
18歳	男	34,995	33,907	445	382	165	96	643	1.84
	女	20,687	19,358	434	400	214	281	895	4.33
19	男	30,817	29,846	376	388	98	109	595	1.93
	女	14,069	13,143	276	299	149	202	650	4.62
20	男	22,332	21,622	262	285	79	84	448	2.01
	女	11,801	11,130	189	242	117	123	482	4.08
21	男	31,768	30,722	400	392	152	102	646	2.03
	女	17,096	15,957	347	412	195	185	792	4.63
22	男	17,456	16,877	211	238	80	50	368	2.11
	女	4,446	4,125	107	114	45	55	214	4.81
23	男	6,670	6,423	88	111	33	15	159	2.38
	女	1,259	1,157	32	32	15	23	70	5.56
24	男	2,695	2,607	36	38	11	3	52	1.93
	女	518	471	20	12	12	3	27	5.21
25以上	男	3,239	3,083	60	62	23	11	96	2.96
	女	759	676	24	29	10	20	59	7.77

表５．３　一次検尿における尿蛋白・潜血両者陽性者の頻度　[85校集計]

		受診者数	陽性者					
			P (+) H (+)	P (+) H>(++)	P>(++) H (+)	P>(++) H>(++)	総数	
			実数	実数	実数	実数	実数	%
総数		220,589	281	338	74	181	874	0.40
男		149,960	161	159	43	90	453	0.30
女		70,629	120	179	31	91	421	0.60
18歳	男	34,991	44	43	10	11	108	0.31
	女	20,686	50	61	14	24	149	0.72
19	男	30,814	41	33	10	24	108	0.35
	女	14,067	23	35	4	25	87	0.62
20	男	22,332	20	21	4	16	61	0.27
	女	11,799	11	16	3	9	39	0.33
21	男	31,766	23	37	6	24	90	0.28
	女	17,096	31	50	7	21	109	0.64
22	男	17,453	20	15	9	9	53	0.30
	女	4,445	3	8	2	8	21	0.47
23	男	6,670	6	1	2	5	14	0.21
	女	1,259	1	7	0	3	11	0.87
24	男	2,695	2	3	0	0	5	0.19
	女	518	0	1	0	1	2	0.39
25以上	男	3,239	5	6	2	1	14	0.43
	女	759	1	1	1	0	3	0.40

P：尿蛋白，H：尿潜血

表 5．4　尿蛋白・潜血および両者陽性者の頻度：性別，採尿条件（随時・早朝尿）別

[尿蛋白のみ陽性者の頻度]　　[91校集計]

		受診者数	陰　性	疑陽性	陽　性　者				
					＋	＋＋	＋＋＋以上	総　数	
					実　数	実　数	実　数	実　数	%
随時尿	総数	180,260	161,917	10,174	6,407	1,325	437	8,169	4.53
	男	121,336	109,400	6,865	4,028	785	258	5,071	4.18
	女	58,924	52,517	3,309	2,379	540	179	3,098	5.26
早朝尿	総数	55,144	51,811	1,956	1,093	205	79	1,377	2.50
	男	37,817	35,547	1,289	768	152	61	981	2.59
	女	17,327	16,264	667	325	53	18	396	2.29
その他	総数	5,597	5,241	109	202	40	5	247	4.41
	男	3,302	3,080	66	129	25	2	156	4.72
	女	2,295	2,161	43	73	15	3	91	3.97

[潜血のみ陽性者の頻度]　　[86校集計]

随時尿	総数	169,819	161,672	3,082	2,727	1,178	1,160	5,065	2.98
	男	114,916	110,872	1,757	1,384	530	373	2,287	1.99
	女	54,903	50,800	1,325	1,343	648	787	2,778	5.06
早朝尿	総数	44,763	43,512	198	680	196	177	1,053	2.35
	男	31,446	30,653	108	495	103	87	685	2.18
	女	13,317	12,859	90	185	93	90	368	2.76
その他	総数	5,595	5,516	18	26	14	21	61	1.09
	男	3,301	3,262	8	16	6	9	31	0.94
	女	2,294	2,254	10	10	8	12	30	1.31

[両者陽性者の頻度]　　[85校集計]

		受診者数	陰　性	疑陽性	陽　性　者					
					P　(＋) H　(＋)	P　(＋) H＞(＋＋)	P＞(＋＋) H　(＋)	P＞(＋＋) H＞(＋＋)	総　数	
					実　数	実　数	実　数	実　数	実　数	%
随時尿	総数	169,806	146,002	11,736	240	291	67	153	751	0.44
	男	114,907	100,449	7,722	131	135	37	72	375	0.33
	女	54,899	45,573	4,014	109	156	30	81	376	0.68
早朝尿	総数	44,760	40,798	1,782	40	41	7	24	112	0.25
	男	31,444	28,757	1,180	29	20	6	15	70	0.22
	女	13,316	12,041	602	11	21	1	9	42	0.32
その他	総数	5,594	5,178	117	1	5	0	2	8	0.14
	男	3,300	3,050	70	1	3	0	2	6	0.18
	女	2,294	2,128	47	0	2	0	0	2	0.09

P：尿蛋白，H：尿潜血

表 5．5　尿蛋白陽性者の頻度：性別，試験紙の種類別　　[91校集計]

		受診者数	疑陽性者		陽性者				
			±		+	++	+++以上	総数	
			実数	%	実数	実数	実数	実数	%
栄研（ウロペーパー）	総数	30,791	1,226	3.98	747	272	104	1,123	3.65
	男	23,945	930	3.88	543	194	82	819	3.42
	女	6,846	296	4.32	204	78	22	304	4.44
BM東宝（BMテスト）	総数	34,879	220	0.63	870	107	39	1,016	2.91
	男	24,251	140	0.58	509	62	19	590	2.43
	女	10,628	80	0.75	361	45	20	426	4.01
藤沢（ウロピースII－3K）	総数	15,137	521	3.44	358	124	75	557	3.68
	男	13,019	427	3.28	299	100	59	458	3.52
	女	2,118	94	4.44	59	24	16	99	4.67
マイルス三共（ヘマコンビスティックス）	総数	126,446	7,900	6.25	4,476	895	260	5,631	4.45
	男	80,245	5,229	6.52	2,812	504	143	3,459	4.31
	女	46,201	2,671	5.78	1,664	391	117	2,172	4.70
和光（プレテスト）	総数	13,674	297	2.17	455	65	14	534	3.91
	男	8,196	193	2.35	282	43	9	334	4.08
	女	5,478	104	1.90	173	22	5	200	3.65
京都第一（ユリフレット）	総数	20,105	2,068	10.29	787	106	27	920	4.58
	男	12,818	1,295	10.10	476	58	8	542	4.23
	女	7,287	773	10.61	311	48	19	378	5.19
その他	総数	20	6	30.00	1	0	0	1	5.00
テルモ（ウロコース）	男	4	0	——	0	0	0	0	——
ヘキスト（ラピグノスト）	女	16	6	37.50	1	0	0	1	6.25

表 5．6　尿潜血陽性者の頻度：性別，試験紙の種類別　　[85校集計]

		受診者数	疑陽性者	陽性者				
			±	+	++	+++以上	総数	
			実数	実数	実数	実数	実数	%
栄研（ウロペーパー）	総数	27,953	262	246	94	160	500	1.79
	男	22,396	195	113	43	36	192	0.86
	女	5,557	67	133	51	124	308	5.54
BM東宝（BMテスト）	総数	34,879	126	816	384	258	1,458	4.18
	男	24,253	66	459	201	106	766	3.16
	女	10,626	60	357	183	152	692	6.51
藤沢（ウロピースII－3K）	総数	15,137	31	470	97	114	681	4.50
	男	13,019	25	393	64	68	525	4.03
	女	2,118	6	77	33	46	156	7.37
マイルス三共（ヘマコンビスティックス）	総数	108,302	2,559	1,616	641	617	2,874	2.65
	男	68,904	1,403	801	250	191	1,242	1.80
	女	39,398	1,156	815	391	426	1,632	4.14
和光（プレテスト）	総数	13,676	26	98	45	41	184	1.35
	男	8,119	13	46	23	12	81	1.00
	女	5,477	13	52	22	29	103	1.88
京都第一（ユリフレット）	総数	20,100	292	181	126	166	473	2.35
	男	12,817	170	81	58	55	194	1.51
	女	7,283	122	100	68	111	279	3.83
その他	総数	20	0	0	0	0	0	——
テルモ（ウロコース）	男	4	0	0	0	0	0	——
ヘキスト（ラピグノスト）	女	16	0	0	0	0	0	——

表5．7　蛋白・潜血両者陽性者の頻度：性別，試験紙の種類別　　[85校集計]

		受診者数	疑陽性者	陽性者					
			±	P (+) H (+)	P (+) H>(+)	P>(+) H (+)	P>(+) H>(+)	総数	
			実数	実数	実数	実数	実数	実数	%
栄研（ウロペーパー）	総数	27,952	1,366	20	24	11	28	83	0.30
	男	22,395	1,051	11	8	9	12	40	0.18
	女	5,557	315	9	16	2	16	43	0.77
BM東宝（BMテスト）	総数	34,871	306	79	111	5	22	217	0.62
	男	24,247	183	43	52	2	12	109	0.45
	女	10,624	123	36	59	3	10	108	1.02
藤沢（ウロピース II－3K）	総数	15,137	530	22	4	3	16	45	0.30
	男	13,019	438	22	3	3	12	40	0.31
	女	2,118	92	0	1	0	4	5	0.24
マイルス三共（ヘマコンビスティックス）	総数	108,298	8,877	132	164	51	93	440	0.41
	男	68,902	5,701	74	77	28	42	221	0.32
	女	39,396	3,176	58	87	23	51	219	0.56
和光（プレテスト）	総数	13,673	309	10	7	2	5	24	0.18
	男	8,196	197	6	4	0	4	14	0.17
	女	5,477	112	4	3	2	1	10	0.18
京都第一（ユリフレット）	総数	20,100	2,230	16	27	1	13	57	0.28
	男	12,817	1,393	5	14	0	6	25	0.20
	女	7,283	837	11	13	1	7	32	0.48
その他	総数	20	0	0	0	0	0	0	0.00
テルモ（ウロコース）	男	4	6	0	0	0	0	0	0.00
ヘキスト（ラピグノスト）	女	16	6	0	0	0	0	0	0.00

P：尿蛋白，H：尿潜血

表5．8　尿蛋白・潜血および両者陽性者の頻度：性別，試験紙の判定法別（目視または分析器）

[尿蛋白のみ陽性者の頻度]　　[91校集計]

		受診者数	陰　性	疑陽性	陽　性　者				
					＋	＋＋	＋＋＋以上	総　数	
					実　数	実　数	実　数	実　数	%
目　視	総数	133,534	5,084	3.81	3,478	859	269	4,606	3.45
	男	93,784	3,653	3.90	2,302	557	193	3,052	3.25
	女	39,750	1,431	3.60	1,176	302	76	1,554	3.91
分析器	総数	107,579	7,163	6.66	4,222	709	251	5,182	4.82
	男	68,741	4,570	6.65	2,623	404	128	3,155	4.59
	女	38,838	2,593	6.68	1,599	305	123	2,027	5.22

[尿潜血のみ陽性者の頻度]　　[85校集計]

目　視	総数	115,397	1,169	1.01	1,585	595	703	2,883	2.50
	男	82,459	760	0.92	967	300	233	1,500	1.82
	女	32,938	409	1.24	618	295	470	1,383	4.20
分析器	総数	104,748	2,129	2.03	1,845	793	654	3,292	3.14
	男	67,189	1,113	1.66	927	339	236	1,502	2.24
	女	37,559	1,016	2.71	918	454	418	1,790	4.77

[尿蛋白・潜血両者陽性者の頻度]　　[85校集計]

		受診者数	陰　性	疑陽性	陽　性　者					
					P　(＋) H　(＋)	P　(＋) H＞(＋)	P＞(＋) H　(＋)	P＞(＋) H＞(＋)	総　数	
					実　数	実　数	実　数	実　数	実　数	%
目　視	総数	115,391	5,117	4.43	121	135	27	80	363	0.31
	男	82,454	3,689	4.47	74	64	18	45	201	0.24
	女	32,937	1,428	4.34	47	71	9	35	162	0.49
分析器	総数	104,738	8,516	8.13	158	202	47	98	505	0.48
	男	67,182	5,283	7.86	87	94	25	44	250	0.37
	女	37,556	3,233	8.61	71	108	22	54	255	0.68

P：尿蛋白，H：尿潜血

表5．9　尿蛋白陽性者の頻度：自動分析器の機種別

自動分析器機種	検査対象数	陰性者		疑陽性者		陽性者							
		−		±		+		++		+++ 以上		総数	
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
①オーション アナライザー	16,007	13,576	84.81	1,656	10.35	651	4.07	97	0.61	27	0.17	775	4.84
②スーパーUA	4,125	3,559	86.28	419	10.16	138	3.35	9	0.22	0	0.00	147	3.56
③クリニテック	66,537	57,719	86.75	5,017	7.54	3,037	4.56	558	0.84	206	0.31	3,801	5.71
④US−2100 (or−3100)	2,822	2,716	96.24	0	0.00	90	3.26	12	0.43	2	0.07	104	3.69
⑤プレテスター	955	912	95.50	28	2.93	13	1.36	2	0.21	0	0.00	15	1.57
⑥メディトロン	17,514	17,123	97.77	49	0.28	294	1.68	32	0.18	16	0.09	342	1.95
⑦その他	297	286	96.30	7	2.36	3	1.01	1	0.34	0	0.00	4	1.35
①〜④	89,491	77,570	86.68	7,092	7.92	3,916	4.38	676	0.76	235	0.26	4,127	4.61
⑤〜⑦	18,766	18,321	97.63	84	0.45	310	1.65	35	0.19	18	0.10	361	1.92
①〜⑦	108,257	95,891	88.58	7,176	6.63	4,226	3.90	711	0.66	253	0.23	4,488	4.15

表5．10　尿潜血陽性者の頻度：自動分析器の機種別

自動分析器機種	検査対象数	陰性者		疑陽性者		陽性者							
		−		±		+		++		+++ 以上		総数	
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
①オーション アナライザー	16,004	15,364	96.00	229	1.43	158	0.99	100	0.62	153	0.96	411	2.57
②スーパーUA	4,124	3,998	96.94	63	1.53	24	0.58	26	0.63	13	0.32	63	1.53
③クリニテック	66,533	62,597	94.08	1,793	2.70	1,244	1.87	482	0.72	417	0.63	2,143	3.22
⑤プレテスター	955	930	97.38	0	0.00	14	1.47	5	0.52	6	0.63	25	2.62
⑥メディトロン	17,515	16,819	96.03	44	0.25	406	2.32	180	1.03	66	0.38	652	3.72
⑦その他	296	289	97.64	2	0.68	2	0.68	2	0.68	1	0.34	5	1.69
①③⑤⑥	101,007	95,710	94.76	2,066	2.05	1,822	1.80	767	0.76	642	0.64	3,231	3.20
②⑦	4,420	4,287	96.99	65	1.47	26	0.59	28	0.63	14	0.32	68	1.54
①〜⑦	105,427	99,997	94.85	2,131	2.02	1,848	1.75	795	0.75	656	0.62	3,299	3.13

表 5 .11　二次検尿における尿蛋白のみ陽性者の結果　　[71校集計]

		二次検尿対象者数	受診者数	陰性者	疑陽性者	陽性者					未受診者	
				−	±	+	++	+++以上	総数			
				実数	実数	実数	実数	実数	実数	%	実数	%
総数		9,810	6,235	5,058	681	345	116	35	496	7.96	3,575	36.44
男		6,224	3,876	3,123	427	222	79	25	326	8.41	2,348	37.72
女		3,586	2,359	1,935	254	123	37	10	170	7.21	1,227	34.22
18歳	男	1,864	1,228	987	123	83	27	8	118	9.61	636	34.12
	女	1,280	859	699	91	52	13	4	69	8.03	421	32.89
19	男	1,317	741	602	79	48	11	1	60	8.10	576	43.74
	女	762	459	378	52	19	7	3	29	6.32	303	39.76
20	男	779	408	343	41	14	8	2	24	5.88	371	47.63
	女	473	300	257	28	11	2	2	15	5.00	173	36.58
21	男	1,187	807	630	101	44	25	7	76	9.42	380	32.01
	女	794	568	459	69	29	10	1	40	7.04	226	28.46
22	男	670	458	368	55	25	6	4	35	7.64	212	31.64
	女	189	116	92	12	9	3	0	12	10.34	73	38.62
23	男	218	142	114	19	5	2	2	9	6.34	76	34.86
	女	48	35	29	2	2	2	0	4	11.43	13	27.08
24	男	77	42	36	4	2	0	0	2	4.76	35	45.45
	女	17	7	7	0	0	0	0	0	0.00	10	58.82
25以上	男	112	50	43	5	1	0	1	2	4.00	62	55.36
	女	23	15	14	0	1	0	0	1	6.67	8	34.78

表 5 .12　二次検尿における尿潜血のみ陽性者の結果　　[69校集計]

		二次検尿対象者数	受診者数	陰性者	疑陽性者	陽性者					未受診者	
				−	±	+	++	+++以上	総数			
				実数	実数	実数	実数	実数	実数	%	実数	%
総数		6,196	3,717	2,854	210	297	173	183	653	17.57	2,479	40.01
男		3,007	1,823	1,274	136	178	116	119	413	22.65	1,184	39.37
女		3,189	1,894	1,580	74	119	57	64	240	12.67	1,295	40.61
18歳	男	643	416	282	31	37	33	33	103	24.76	227	35.30
	女	895	517	439	17	29	15	17	61	11.80	378	42.23
19	男	595	336	228	22	41	24	21	86	25.60	259	43.53
	女	650	375	319	15	21	9	11	41	10.93	275	42.31
20	男	448	231	150	13	33	19	16	68	29.44	217	48.44
	女	482	251	216	5	18	4	8	30	11.95	231	47.93
21	男	646	407	290	28	37	22	30	89	21.87	239	37.00
	女	792	540	435	24	39	21	21	81	15.00	252	31.82
22	男	368	238	172	28	15	13	10	38	15.97	130	35.33
	女	214	142	114	8	7	7	6	20	14.08	72	33.64
23	男	159	105	82	7	9	1	6	16	15.24	54	33.96
	女	70	36	33	1	2	0	0	2	5.56	34	48.57
24	男	52	36	29	3	3	1	0	4	11.11	16	30.77
	女	27	9	8	1	0	0	0	0	0	18	66.67
25以上	男	96	54	41	4	3	3	3	9	16.67	42	43.75
	女	59	24	16	3	3	1	1	5	20.83	35	59.32

表 5 .13　尿蛋白・潜血両者陽性者の二次検尿の結果　　[76校集計]

		二次検尿対象者数	受診者数	両者とも陰性者	疑陽性者	陽性者					未受診者	
						蛋白のみ陽性	潜血のみ陽性	両者陽性	総数			
				−	P(−)(±)(±) H(±)(−)(±)	P(+〜卅) H(−, ±)	P(−, ±) H(+〜卅)	P(+〜卅) H(+〜卅)				
				実数	実数	実数	実数	実数	実数	%	実数	%
総数		874	557	304	74	34	71	74	179	32.14	317	36.27
男		453	283	127	40	23	40	53	116	40.99	170	37.53
女		421	274	177	34	11	31	21	63	22.99	147	34.92
18歳	男	108	76	38	16	5	6	11	22	28.95	32	29.63
	女	149	95	66	10	4	11	4	19	20.00	54	36.24
19	男	108	60	27	7	4	13	9	26	43.33	48	44.44
	女	87	57	31	9	5	6	6	17	29.82	30	34.48
20	男	61	34	13	3	2	6	10	18	52.94	27	44.26
	女	39	22	19	1	0	1	1	2	9.09	17	43.59
21	男	90	57	22	9	3	7	16	26	45.61	33	36.67
	女	109	81	50	11	1	10	9	20	24.69	28	25.69
22	男	53	34	13	4	6	5	6	17	50.00	19	35.85
	女	21	11	6	1	0	3	1	4	36.36	10	47.62
23	男	14	10	5	1	1	2	1	4	40.00	4	28.57
	女	11	6	4	1	1	0	0	1	16.67	5	45.45
24	男	5	5	3	0	2	0	0	2	40.00	0	0.00
	女	2	0	0	0	0	0	0	0	——	2	100.00
25以上	男	14	7	6	0	0	1	0	1	14.29	7	50.00
	女	3	2	1	1	0	0	0	0	0.00	1	33.33

P：尿蛋白，H：尿潜血

表 5 .14　二次検尿異常者の指導区分

		対象者数	未判定 or 未受診	要精査	%	放置可	%	要観察	%	要治療	%	集計成績よりの異常者数
蛋白	総数	536	49	96	17.91	186	34.70	185	34.51	20	3.73	530
	男	374	36	61	16.31	138	36.90	125	33.42	14	3.74	349
	女	162	13	35	21.60	48	29.63	60	37.04	6	3.70	181
潜血	総数	577	57	124	21.49	109	18.89	247	42.81	40	6.93	724
	男	343	30	71	20.70	54	15.74	161	46.94	27	7.87	453
	女	234	27	53	22.65	55	23.50	86	36.75	13	5.55	271
蛋白&潜血	総数	91	10	34	37.36	8	8.79	27	29.67	12	13.19	74
	男	61	9	22	36.07	3	49.20	18	29.51	9	14.75	53
	女	30	1	12	40.00	5	16.67	9	30.00	3	10.00	21
合計		1,204	116	254	21.10	303	25.17	459	38.12	72	5.98	1,328

表 5 .15　尿蛋白のみ陽性者の精密検査（三次検診）の結果

		二次検尿陽性者数	腎生検実施例数	体位性蛋白尿	急性腎炎	慢性腎炎	ネフローゼ症候群	腎不全	その他の腎炎（腎症）	腎炎疑	特発性腎出血	尿路感染症	尿路結石	腎・尿路腫瘍	遊走腎	その他	詳細不明	合計
総数		530	7	45	2	45	3	0	6	25	10	1	2	1	0	30	72	242
男		349	5	24	2	34	1	0	2	15	7	0	2	1	0	23	43	154
女		181	2	21	0	11	2	0	4	10	3	1	0	0	0	7	29	88
18歳	男	123	2	10		6	1			3	1		1			1	13	36
	女	74		9		2	1		1	4	2					3	12	34
19	男	64		4		8			1	4	1					3	9	30
	女	34		4		3			2	4						2	5	20
20	男	26		0	1	6			1	3	3					2	3	19
	女	15		2		2			1	1		1					3	10
21	男	79	2	7	1	6				2	1		1	1		8	11	38
	女	41	2	5		2	1			1	1					1	7	18
22	男	41	1	1		7				2						7	6	23
	女	12		1		1										0	2	4
23	男	10		1		1					1					2	1	5
	女	5		0		1										1		2
24	男	4		0		0				1								1
	女	0		0		0												0
25以上	男	2		1		0												1
	女	1		0		0												0

表 5 .16　尿潜血のみ陽性者の精密検査（三次検診）の結果

		二次検尿陽性者数	腎生検実施例数	体位性蛋白尿	急性腎炎	慢性腎炎	ネフローゼ症候群	腎不全	その他の腎炎（腎症）	腎炎疑	特発性腎出血	尿路感染症	尿路結石	腎・尿路腫瘍	遊走腎	その他	詳細不明	合計
総数		724	11	8	1	39	0	0	10	46	48	1	5	1	2	48	75	284
男		453	9	7	1	22	0	0	5	31	31	0	5	1	1	28	37	169
女		271	2	1	0	17	0	0	5	15	17	1	0	0	1	20	38	115
18歳	男	109	3	4		5			2	4	11		1			7	10	47
	女	72				2			2	2	6				1	4	11	28
19	男	99		1		5				8	6		1			8	7	36
	女	47				2			2	5	1					3	8	22
20	男	54				2			2	4	2		1			3	3	17
	女	31				4			1	3	4					1	2	15
21	男	96	5	1	1	8			1	6	6		2	1		2	12	40
	女	91	2	1		8				3	5	1				8	13	39
22	男	43	1	1		1				4	3				1	5	3	18
	女	23				1					1					3	3	8
23	男	18				1					2					1	2	6
	女	2														1		1
24	男	4								1						1		2
	女	0																0
25以上	男	10								1	1					1		3
	女	5								1							1	2

表 5 .17　尿蛋白・潜血両者陽性者の精密検査（三次検診）の結果

		二次検尿陽性者数	腎生検実施例数	体位性蛋白尿	急性腎炎	慢性腎炎	ネフローゼ症候群	腎不全	その他の腎炎(腎症)	腎炎疑	特発性腎出血	尿路感染症	尿路結石	腎・尿路腫瘍	遊走腎	その他	詳細不明	合計
総数		74	3	1	1	17	0	0	3	8	5	0	1	1	0	4	20	61
男		53	2	1	1	11	0	0	1	4	2	0	1	1	0	3	11	36
女		21	1	0	0	6	0	0	2	4	3	0	0	0	0	1	9	25
18歳	男	11		1		2				1	1		1				2	8
	女	4				1				1	2						1	5
19	男	9				4										2	1	7
	女	6				2			1	3							3	9
20	男	10				1			1	1							1	4
	女	1				1			1								1	3
21	男	16	1		1	3				1	1			1			5	12
	女	9	1			1				1	1					1	4	7
22	男	6	1			1										1	2	5
	女	1				1												1
23	男	1																0
	女	0																0
24	男	0																0
	女	0																0
25以上	男	0																0
	女	0																0

表 5 .18　一次検尿における尿糖陽性者の頻度　　[91校集計]

		受診者数	陽性者					
			総数		±	+	++	+++以上
			実数	%	実数	実数	実数	実数
総数		240,265	2,198	0.9	978	786	265	169
男		162,804	1,564	1.0	659	590	191	124
女		77,461	634	0.8	319	196	74	45
18歳	男	37,610	412	1.1	181	144	55	32
	女	22,431	237	1.1	124	77	21	15
19	男	33,393	341	1.0	151	116	52	22
	女	15,467	121	0.8	55	43	17	6
20	男	24,678	216	0.9	79	92	26	19
	女	12,992	74	0.6	31	26	11	6
21	男	34,836	283	0.8	121	109	32	21
	女	18,950	138	0.7	76	31	19	12
22	男	18,864	187	1.0	81	76	13	17
	女	4,884	44	0.9	24	13	3	4
23	男	7,154	67	0.9	24	28	8	7
	女	1,368	10	0.7	3	4	2	1
24	男	2,843	19	0.7	7	7	2	3
	女	551	4	0.7	4	0	0	0
25以上	男	3,426	39	1.1	15	18	3	3
	女	818	6	0.7	2	2	1	1

表 5 .19　採尿条件別にみた一次検尿の尿糖陽性者の頻度

		受診者数	陽性者					
			総数		±	+	++	+++以上
			実数	%	実数	実数	実数	実数
随時尿	総数	188,577	1,812	1.0	801	652	226	133
	男	128,676	1,267	1.0	523	481	163	100
	女	59,901	545	0.9	278	171	63	33
食後尿	総数	16,199	158	1.0	58	61	23	16
	男	11,595	132	1.1	52	50	18	12
	女	4,604	26	0.6	6	11	5	4
早朝尿	総数	35,033	227	0.6	119	72	16	20
	男	22,213	164	0.7	84	58	10	12
	女	12,820	63	0.5	35	14	6	8

表 5 .20　試験紙の種類別にみた尿糖陽性者の頻度

		受診者数	陽性者					
			総数		±	+	++	+++以上
			実数	%	実数	実数	実数	実数
ウロペーパー	総数	30,780	432	1.4	166	173	66	27
	男	23,939	373	1.6	148	149	52	24
	女	6,841	59	0.9	18	24	14	3
ウリエース	総数	19	0	0.0	0	0	0	0
	男	3	0	0.0	0	0	0	0
	女	16	0	0.0	0	0	0	0
BMテスト	総数	34,868	258	0.7	31	137	46	44
	男	24,244	184	0.8	23	99	32	30
	女	10,624	74	0.7	8	38	14	14
ウロピースII−3K	総数	15,136	152	1.0	27	96	11	18
	男	13,018	136	1.0	23	88	9	16
	女	2,118	16	0.8	4	8	2	2
ヘマコンビスティックスあるいはN−マルチスティックス	総数	125,139	830	0.7	493	215	74	48
	男	80,207	595	0.7	345	163	54	33
	女	44,932	235	0.5	148	52	20	15
プレテスト	総数	13,674	103	0.8	11	64	24	4
	男	8,196	81	1.0	8	51	18	4
	女	5,478	22	0.4	3	13	6	0
ユリフレット	総数	20,101	419	2.1	250	98	43	28
	男	12,815	192	1.5	112	38	25	17
	女	7,286	227	3.1	138	60	18	11

表 5 .21　試験紙の判定法別にみた尿糖陽性者の頻度

	受診者数	陽性者					
		総数		±	+	++	+++以上
		実数	%	実数	実数	実数	実数
肉眼比色 総数	132,339	1,119	0.8	376	0.3	743	0.6
肉眼比色 男	93,765	882	0.9	292	0.3	590	0.6
肉眼比色 女	38,574	237	0.6	84	0.2	153	0.4
尿分析器 総数	107,440	1,077	1.0	601	0.6	476	0.4
尿分析器 男	68,705	681	1.0	367	0.5	314	0.5
尿分析器 女	38,735	396	1.0	234	0.6	162	0.4

表 5 .22　二次検尿における尿糖陽性者の結果　　[71校集計]

		受診者数	陰性者		陽性者					
			総数		総数		±	+	++	+++以上
			実数	%	実数	%	実数	実数	実数	実数
総数		11,600	11,289	97.3	311	2.7	137	81	50	43
男		6,987	6,730	96.3	257	3.7	114	65	42	36
女		4,613	4,559	98.8	54	1.2	23	16	8	7
18歳	男	1,946	1,895	97.4	51	2.6	17	15	11	8
	女	1,486	1,472	99.1	14	0.9	6	3	3	2
19	男	1,290	1,257	97.4	33	2.6	15	10	3	5
	女	892	883	99.0	9	1.0	4	3	1	1
20	男	760	722	95.0	38	5.0	13	11	9	5
	女	588	582	99.0	6	1.0	3	2	0	1
21	男	1,543	1,486	96.3	57	3.7	31	10	9	7
	女	1,212	1,198	98.8	14	1.2	5	4	3	2
22	男	905	854	94.4	51	5.6	23	13	7	8
	女	297	292	98.3	5	1.7	3	1	0	1
23	男	317	300	94.6	17	5.4	12	2	2	1
	女	77	74	96.1	3	3.9	1	2	0	0
24	男	98	96	98.0	2	2.0	1	0	0	1
	女	20	19	95.0	1	5.0	0	0	1	0
25以上	男	128	120	93.8	8	6.3	2	4	1	1
	女	41	39	95.1	2	4.9	1	1	0	0

表 5 .23　採尿条件別にみた二次検尿の尿糖陽性者の結果

		受診者数	陽性者					
			総数		±	+	++	+++以上
			実数	%	実数	実数	実数	実数
随時尿	総数	4,130	150	3.6	63	44	26	17
	男	2,637	120	4.6	52	33	20	15
	女	1,493	30	2.0	11	11	6	2
食後尿	総数	614	44	7.2	14	9	8	13
	男	455	39	8.6	14	8	6	11
	女	159	5	3.1	0	1	2	2
早朝尿	総数	5,957	93	1.6	55	17	8	13
	男	3,374	75	2.2	43	14	8	10
	女	2,583	18	0.7	12	3	0	3

表 5 .24　ブドウ糖負荷試験(OGTT)を施行した31校の一次検尿の結果

		受診者数	陽性者					
			総数		±	+	++	+++以上
			実数	%	実数	実数	実数	実数
総数		192,630	1,890	1.0	834	677	225	154
男		131,898	1,351	1.0	567	506	163	115
女		60,732	539	0.9	267	171	62	39
18歳	男	29,462	358	1.2	161	119	48	30
	女	17,166	206	1.2	103	69	20	14
19	男	26,669	286	1.1	126	97	43	20
	女	12,332	98	0.8	43	38	12	5
20	男	20,701	193	0.9	73	80	22	18
	女	10,357	65	0.6	28	24	9	4
21	男	28,721	241	0.8	104	94	26	17
	女	14,910	112	0.8	62	24	16	10
22	男	15,333	163	1.1	68	66	12	17
	女	3,814	41	1.1	23	12	2	4
23	男	5,903	58	1.0	16	28	7	7
	女	1,090	9	0.8	3	3	2	1
24	男	2,345	17	0.7	5	7	2	3
	女	428	4	0.9	4	0	0	0
25以上	男	2,764	35	1.3	14	15	3	3
	女	635	4	0.6	1	1	1	1

OGTTによる判定結果

		受診者数	耐糖能異常(−)				耐糖能異常(+)			
			正常型		腎性糖尿		境界型		糖尿病型	
			実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数		214	62	29.0	105	49.1	31	14.5	16	7.5
男		157	42	26.8	79	50.3	22	14.0	14	8.9
女		57	20	35.1	26	45.6	9	15.8	2	3.5
18歳	男	33	9	27.3	19	57.6	3	9.1	2	6.1
	女	17	5	29.4	10	58.8	2	11.8	0	0.0
19	男	30	3	10.0	21	70.0	4	13.3	2	6.7
	女	4	1	25.0	1	25.0	2	50.0	0	0.0
20	男	16	4	25.0	11	68.8	1	6.3	0	0.0
	女	7	2	28.6	4	57.1	0	0.0	1	14.3
21	男	35	12	34.3	12	34.3	7	20.0	4	11.4
	女	23	9	39.1	9	39.1	4	17.4	1	4.4
22	男	28	9	32.1	12	42.9	3	10.7	4	14.3
	女	2	2	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
23	男	8	3	37.5	3	37.5	2	25.0	0	0.0
	女	0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
24	男	3	1	33.3	1	33.3	1	33.3	0	0.0
	女	1	1	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
25以上	男	4	1	25.0	0	0.0	1	25.0	2	50.0
	女	3	0	0.0	2	66.7	1	33.3	0	0.0

6．血圧検査

血圧検査に関しては，定期健康診断（一次検診）において測定された血圧値と脈拍数について，年齢・性別分布，測定法別分布，正常血圧，高血圧，低血圧の頻度，ならびに一次検診において血圧上昇を指摘され，二次検診を受診した学生における検診結果と指導区分について集計した．

6．1　対象と方法

一次検診における血圧と脈拍数は坐位により右上腕で測定した．検査時には，できるだけ静かな適温（20℃前後）の部屋で，運動直後などを避け，右上腕を圧迫する衣服は脱衣させるなど，日本循環器管理協議会が勧告している血圧測定の条件と方法に従うこととした．血圧計の機種や測定回数，測定者などは各大学の実施方式に準拠し，使用した血圧計の機種（水銀血圧計か自動血圧計，または両者の併用）を調査票に記載することとした．脈拍数は，自動血圧計で測定した場合には必ず記入することとし，水銀血圧計でも測定した場合には記入することとした．

一次検診における血圧値が140 and/or 90mmHg以上を示した場合には二次検診を実施し，各受診者ごとに指導区分（判定）を行い，記録することとした．二次検診における血圧測定は一次検診の方法に準ずることとした．

高血圧の判定はWHO（1978年）のガイドラインに準拠した．すなわち，収縮期血圧が140mmHg未満でかつ拡張期血圧が90mmHg未満を正常血圧，収縮期血圧が160mmHg以上，拡張期血圧が95mmHg以上のいずれか一方または両方を示す場合を高血圧，それ以外の血圧値を境界域高血圧とした．なお，正常血圧のうち，収縮期血圧が100mmHg未満の値を示す場合には低血圧域として別途に集計した．

今回の調査は，全国の国立大学95校で定期健康診断の対象となった学部学生，461,862名（1995年5月1日の在籍者）を対象とした．提出された調査データのうち，性別や生年月日の記載不備あるいは血圧検査を未受診などの事由により一部が除外され，一次検診では92校（96.84%），225,988名（48.93%），二次検診については70校（73.68%），7,923名のデータを集計・解析した．大学によっては単年度の検診では血圧測定が実施されない学年があり，また大学生の場合，医学的には学年よりも年齢の方がより重要と考えられたため，学年別の集計は行わず，年齢・性により層別集計した．

6．2　一次検診における血圧と脈拍数

一次検診のデータが集計された学生数は，男子が149,638名（66.22%），女子が76,350名（33.78%），合計225,988名であった．使用された血圧計は，自動血圧計が最も多く（受診者の80.15%），ついで水銀血圧計（15.21%），両者の併用（4.64%）の順であった（表6．1）．

6．2．1　血圧と脈拍数の平均値

集計された学生の血圧および脈拍数について，年齢・性別の平均値と標準偏差値を表6．2に示した．今回集計された全対象群における収縮期血圧は120.3±14.0mmHg，拡張期血圧は69.0±9.5mmHg，脈拍数は79.5±14.2拍/分であった．これらのうち，男子学生ではそれぞれ124.4±13.0mmHg，70.5±9.5mmHg，および79.5±14.5拍/分，女子学生ではそれぞれ112.3±12.2mmHg，66.2±8.8mmHg，および79.5±13.5拍/分であった．収

縮期および拡張期血圧はともに男子が女子に比べて有意に高値（P＜0.001）であった．

「白書1984」で集計された男子学生（66校，106,854名）における収縮期および拡張期血圧は，それぞれ125.4±13.0mmHg，70.5±11.6mmHgであったが，これらに比べて今回の収縮期血圧は1.0mmHg低く，拡張期血圧には差は認められなかった．一方，女子では，1984年度には38,800名が集計され，収縮期および拡張期血圧はそれぞれ112.6±12.2mmHg，67.8±9.8mmHgであった．これらに比べ，今回の収縮期血圧に差はなかったが，拡張期血圧は1.6mmHg低下していた．

収縮期血圧は，男子で18歳時の123.8mmHgに対し，25歳以上では125.8mmHg，女子も112.2mmHgから113.2mmHgとそれぞれ1.8mmHg，1.0mmHgの軽微な上昇を示した．拡張期血圧は男女とも年齢とともに上昇傾向を示し，特に男子では18歳時の69.3mmHgに対し，25歳以上では73.8mmHgと4.5mmHgの上昇を示した．

脈拍数については，56校，134,908名のデータが集計された．平均値は男子で79.5±14.5拍/分，女子で79.5±13.5拍/分，全体では79.5±14.2拍/分であり，男女とも年齢による変化は認められなかった．

6．2．2　血圧値と脈拍数の分布

一次検診における収縮期血圧，拡張期血圧および脈拍数について，年齢・性別にそれぞれの分布を集計し，表6．3～5にまとめて示した．

1）収縮期血圧の分布（表6．3，図6．1）

収縮期血圧は10mmHg毎に区分してその度数分布を集計した．男子では120～129mmHgに最多の29.51%が分布し，女子では110～119mmHgに29.69%，男女全体では25.88%が120～129mmHgに分布した．WHO基準による正常域140mmHg未満には男子が90.42%，女子が98.60%，全体で93.17%が分布していた．これらのうち，低血圧域とした100mmHg未満には男子が2.24%，女子が13.86%，全体で6.16%が分布しており，男子に比べ女子で6.2倍頻度が高かった．これらの頻度は1984年度の調査成績（男子1.6%，女子14.3%）に比べ，男子の頻度がやや増加していた．

一方，境界域高血圧のレベルである140～159mmHgには，男子が8.78%，女子が1.31%，全体で6.26%（14,137名），高血圧域である160mmHg以上には男子の0.80%（1,212名），女子の0.09%（61名），全体では0.57%（1,273名）が分布していた．したがって，収縮期血圧が境界域以上の高血圧を示した学生数は，男子で9.58%，女子で1.40%，全体で6.83%（15,410名）であり，女子に比べ男子で6.8倍高頻度であった．これらの頻度は1984年度の調査成績（男子10.8%，女子1.5%）とほぼ同等であった．

なお，全米合同委員会（Joint National Committee，JNC，1992年）によるガイドラインでは，収縮期血圧のうち130～139mmHgのレベルを正常高値と設定しているが，調査対象が若年層であることを考慮すれば，この血圧値のもつ意味は大きいと考えられる．今回の調査では，この正常高値域に男子で26.22%，女子で7.74%，全体では19.98%が分布しており，正常高値以上の学生は，男子で35.80%，女子で9.14%，全体で26.81%を占めた．

2）拡張期血圧の分布（表6．4）

拡張期血圧は5mmHg毎に区分してその度数分布を集計した．拡張期血圧の最多頻度は，男子では70～74mmHgで22.61%が分布しており，女子では60～64mmHgで23.23%，全体では70～74mmHgに21.21%が分布していた．境界域高血圧レベルである90mmHg以上を示した学生は，男子の2.26%（3,382名），女子の0.61%（460名），全体の1.71%（3,842名）であった．1984年度の調査では，

拡張期血圧が90mmHg以上を示した学生の頻度が，男子で3.1%，女子では1.0%とされており，今回の集計では男女ともやや減少していた．

ＪＮＣによるガイドラインでは拡張期血圧のうち85～89mmHgを正常高値と設定しているが，このレベルには全体で3.49%，男子の4.42%，女子の1.68%が分布しており，正常高値以上を示した学生は全体で5.20%，男子の6.68%，女子の2.29%を占めた．正常高値以上を示した学生の頻度は，21歳以降に増加する傾向が認められた．

3）脈拍数の分布（表６．５）

脈拍数は10拍毎に区分してその分布を集計したが，最多頻度は男女とも70～79拍に分布し，男子の29.58%，女子の32.21%，全体の30.45%を占めた．なお，60拍以下の徐脈は，男子で5.06%，女子で3.49%，全体で4.54%にみられ，100拍以上の頻脈は，男子で9.70%，女子で8.16%，全体で9.20%に認められた．徐脈や頻脈の出現頻度に年齢による影響は認められなかった．

６．２．３　測定法と血圧の分布

血圧計の機種別に集計した結果を，収縮期血圧については表６．６（男子），６．７（女子）に，拡張期血圧については表６．８（男子），６．９（女子）にまとめて示した．被検者の80%が自動血圧計で測定されており1984年度の調査に比べ，自動血圧計を使用した施設が大幅に増加していた．血圧計の機種により血圧分布に大きな差異は認められなかった．

1）収縮期血圧（表６．６，７）

境界域高血圧のレベルである140mmHg以上を示した男子学生の頻度は，水銀血圧計で9.19%，自動血圧計で10.04%，併用で6.67%，女子学生ではそれぞれ1.13%，1.50%，0.86%，全体ではそれぞれ6.44%，7.14%，4.91%であった．高血圧レベルである160mmHg以上を示した男子学生は，水銀血圧計で0.92%，自動血圧計で0.82%，併用で0.64%，女子ではそれぞれ0.06%，0.10%，0.03%，全体ではそれぞれ0.62%，0.57%，0.46%であった．いずれの測定法でも高血圧の頻度は男子学生で明らかに高かった．水銀血圧計と自動血圧計との間で差はみられなかったが，両者の併用群では血圧上昇者の頻度が男女ともに低い傾向が認められた．

一方，収縮期血圧が100mmHg以下の低血圧域を示した男子学生は，水銀血圧計で2.39%，自動血圧計で2.23%，両者の併用で1.43%，女子ではそれぞれ14.13%，13.71%，15.63%，全体ではそれぞれ6.39%，6.11%，5.77%であった．

2）拡張期血圧（表６．８，９）

境界域高血圧のレベルである90mmHg以上を示した男子学生の頻度は，水銀血圧計で3.33%，自動血圧計で2.11%，両者の併用で2.27%，女子ではそれぞれ0.52%，0.64%，0.70%，全体では2.35%，1.60%，1.79%であった．また，ＪＮＣのガイドラインで正常高値とされた85mmHg以上を示した男子学生の頻度は，水銀血圧計で8.60%，自動血圧計で6.40%，両者の併用で6.69%，女子ではそれぞれ1.80%，2.42%，2.37%，全体ではそれぞれ6.26%，5.05%，5.37%であった．拡張期血圧が高値を示す学生も，各測定法とも女子に比べて男子でその頻度が明らかに高かった．

６．３　二次検診の結果と高血圧者の指導区分

一次検診で血圧上昇（140 and/or 90mmHg）を示した学生に対して，二次検診が実施された．今回の調査では，二次検診の結果について報告された大学の中からデータの完備していた70校について集計した．これらのうち，血圧計の機種や未

受診者の数などデータの完備していた65校における二次検診の対象者数は，男子9,113名，女子1,331名，全体で10,444名であった（表6.10）．うち，実際に受診した学生は，男子で74.18%，女子で66.19%，全体で73.16%であり，「白書1984」の受診率（男子66.6%，女子74.5%）と大差はなかった．使用された血圧計は，自動血圧計が受診者の56.21%を占め，水銀血圧計が34.49%，水銀・自動血圧計の併用が9.30%であり，二次検診においても自動血圧計が広く使用される趨勢にあった．

6.3.1 血圧および脈拍数の平均値

収縮期，拡張期血圧および脈拍数の年齢・性別平均値を表6.11に示した．

収縮期血圧の平均値は，男子で133.8±11.8mmHg，女子で119.0±16.2mmHg，全体で132.2±13.3mmHgであった．これらの値は一次検診における平均値に比べ，それぞれ9.5mmHg，6.7mmHg，11.8mmHg高かった．

拡張期血圧の平均値は，男子で76.0±9.9mmHg，女子で69.9±11.0mmHg，全体で75.3±10.2mmHgで，これらは一次検診における値に比べて，それぞれ5.5mmHg，3.7mmHg，6.3mmHg高値であった．男子の拡張期血圧は年齢とともに明らかな上昇傾向を示したが，女子では解析対象者が少なく結論できなかった．

脈拍数については，43校，4,328名のデータが集計された．男子の平均値は84.6±16.4拍/分，女子では86.0±17.4拍/分，全体で84.7±16.5拍/分であった．これらは，一次検診における平均値に比べて，それぞれ5.1拍，6.5拍，5.2拍多かった．

6.3.2 血圧および脈拍数の分布

二次検診における収縮期・拡張期血圧値および脈拍数について，年齢・性別にその度数分布を集計した結果を表6.12～14にそれぞれ示した．

1）収縮期血圧の分布（表6.12，15，図6.2）

収縮期血圧の最多頻度は，男女とも130～139mmHgでそれぞれ受診者の44.59%，22.19%，全体では42.03%を占めた．境界域高血圧のレベルである140～159mmHgには，男子で21.81%，女子で6.40%，全体では20.05%が分布していた．高血圧域である160mmHg以上には，男子で2.48%，女子で0.88%，全体では2.31%が分布していた．したがって，収縮期血圧が境界域高血圧以上を示した学生は，男子で24.29%，女子で7.28%，全体で22.36%であった．若年者高血圧では収縮期血圧の上昇を主徴とすることを考慮すれば，これらの頻度は，一次検診で境界域高血圧の血圧値を示し，二次検診でも高血圧に留まった学生の大まかな頻度を示すものと考えられる．これらの結果を「白書1984」における類似の調査成績（男子15.4%，女子12.2%）に比べると，男子における高血圧の頻度が高く，女子では低下していた．

なお，二次検診で上述のＪＮＣによる正常高値域以上を示した学生の頻度は，男子で68.88%，女子で29.47%，全体で64.39%を占めた．一方，二次検診で収縮期血圧が100mmHg以下の低血圧域を示した学生も，少数（1.59%）ながら認められた．

2）拡張期血圧の分布（表6.13，15）

拡張期血圧の最多頻度は，男子が80～84mmHgで22.46%，女子が60～64mmHgで19.08%，全体では80～84mmHgで21.17%が分布していた．境界域高血圧レベルである90mmHg以上を示した学生は，男子で6.35%，女子で3.95%，全体では6.07%であった．95mmHg以上の高血圧を示した学生は，男子で2.34%，女子で1.10%，全体で2.20%であった．なお，ＪＮＣのガイドラインによる正常高値以上には，男子が17.29%，女子が10.53%，

全体では16.51%が分布していた．これらの頻度は収縮期血圧が高値を示した学生の頻度に比べてかなり低く，若年者の高血圧が収縮期血圧の上昇を主徴とすることを裏付けている．

3）脈拍数の分布（表6.14）

脈拍数の最多頻度は，男子で70～79拍/分に25.29%，女子で80～89拍/分に25.67%，全体では70～79拍/分に25.12%が分布していた．100拍以上の頻脈は，男子で18.06%，女子で20.58%，全体では18.30%を占めた．二次検診の対象者における頻脈の頻度は，一次検診のそれに比べて約2倍高頻度であった．これは心拍数の増加，すなわち心拍出量の増加が血圧上昇，特に収縮期血圧上昇の主要な機序になっていることを示唆するものと考えられる．一方，60拍未満の徐脈を呈した学生も，男子で2.53%，女子で3.39%，全体では2.61%に認められた．

6.3.3　指導区分

血圧の二次検診による指導区分の判定結果は，66校の二次検診対象者12,681名について集計した．これらのうち，未受診者が男子の38.65%，女子の69.31%，全体では45.12%を占めた．受診者の内訳を表6.15にまとめて示した．二次検診により，放置可と判定された学生は，男子受診者の75.33%，女子の86.13%，全体では76.61%であった．要観察は全受診者の20.98%，要精査または要医療者は全体で2.42%，うち男子は2.59%，女子では1.09%であった．これらの集計結果は，二次検診の受診者のうち，男子では24.67%（4人に1人），女子では13.86%（7人に1人），全体としては23.40%（約4人に1人）程度が，高血圧として少なくとも経過観察以上の対応が必要なことを示している．

〔三浦幸雄〕

表６．１　一次検診における血圧測定法　［91校集計］

	総　数	水銀血圧計		自動血圧計		両者併用		未受診	
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数	226,151	33,497	14.81	176,535	78.06	10,218	4.52	5,901	2.61
男	149,895	22,091	14.74	116,800	77.92	7,103	4.74	3,901	2.60
女	76,256	11,406	14.96	59,735	78.33	3,115	4.08	2,000	2.62
受診者総数	220,250	33,497	15.21	176,535	80.15	10,218	4.64	—	—
男	145,994	22,091	15.13	116,800	80.00	7,103	4.87	—	—
女	74,256	11,406	15.36	59,735	80.44	3,115	4.19	—	—

表 6．2　一次検診における血圧および脈拍数の平均値と標準偏差

［血圧は92校，脈拍は56校集計］

1．男

	全　体	18　歳	19　歳	20　歳	21　歳	22　歳	23　歳	24　歳	25歳以上
総　数	149,638	37,266	31,584	21,308	30,744	16,664	6,389	2,577	3,106
収縮期血圧	124.4	123.8	124.1	123.9	124.8	125.3	125.3	125.6	125.8
標準偏差	13.00	13.23	13.25	12.65	12.92	12.62	12.77	12.91	12.83
総　数	149,598	37,249	31,576	21,305	30,735	16,658	6,386	2,576	3,113
拡張期血圧	70.5	69.3	69.8	70.4	71.3	71.7	71.9	72.4	73.8
標準偏差	9.50	9.63	9.60	9.19	9.33	9.30	9.29	9.39	9.51
総　数	90,155	22,950	18,729	12,851	19,825	9,789	3,333	1,289	1,389
脈　拍	79.5	79.3	79.6	78.6	79.6	80.2	79.9	78.9	80.4
標準偏差	14.54	14.42	14.77	14.41	14.58	14.72	14.27	13.96	13.74

2．女

	全　体	18　歳	19　歳	20　歳	21　歳	22　歳	23　歳	24　歳	25歳以上
総　数	76,350	23,631	15,293	12,385	18,007	4,470	1,285	513	766
収縮期血圧	112.3	112.2	111.9	111.9	112.9	112.9	112.8	112.8	113.2
標準偏差	12.23	12.55	12.39	12.01	11.86	11.85	12.18	12.16	12.76
総　数	76,343	23,629	15,293	12,383	18,006	4,467	1,285	513	767
拡張期血圧	66.2	65.8	65.8	65.9	66.9	67.0	67.1	67.1	67.7
標準偏差	8.79	9.07	8.79	8.52	8.58	8.50	8.78	9.14	8.74
総　数	44,753	13,441	9,190	7,522	11,102	2,418	535	225	320
脈　拍	79.5	80.1	79.00	78.4	79.9	80.9	79.4	78.2	80.4
標準偏差	13.45	13.76	13.38	13.02	13.46	13.15	13.72	12.11	12.30

3．男女合計

	全　体	18　歳	19　歳	20　歳	21　歳	22　歳	23　歳	24　歳	25歳以上
総　数	225,988	60,897	46,877	33,693	48,751	21,134	7,674	3,090	3,872
収縮期血圧	120.3	119.3	120.2	119.5	120.4	122.6	123.2	123.5	123.3
標準偏差	13.97	14.16	14.18	13.70	13.79	13.44	13.51	13.65	13.77
総　数	225,941	60,878	46,869	33,688	48,741	21,125	7,671	3,089	3,880
拡張期血圧	69.0	67.9	68.5	68.7	69.7	70.7	71.1	71.5	72.6
標準偏差	9.49	9.57	9.52	9.20	9.30	9.33	9.39	9.55	9.67
総　数	134,908	36,391	27,919	20,373	30,927	12,207	3,868	1,514	1,709
脈　拍	79.5	79.6	79.4	78.5	79.7	80.3	79.8	78.8	80.4
標準偏差	14.19	14.18	14.33	13.92	14.19	14.43	14.19	13.71	13.48

表６．３　一次検診における収縮期血圧の度数分布　[92校集計]

収縮期血圧			89㎜Hg以下		90～99		100～109		110～119		120～129		130～139		140～149		150～159		160～169		170～179		180以上	
		対象者数	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数		225,988	1,725	0.76	12,204	5.40	36,841	16.30	56,180	24.86	58,485	25.88	45,143	19.98	10,771	4.77	3,366	1.49	904	0.40	243	0.11	126	0.06
男		149,638	346	0.23	3,007	2.01	15,030	10.04	33,511	22.39	44,160	29.51	39,232	26.22	9,942	6.64	3,198	2.14	866	0.58	231	0.15	115	0.07
女		76,350	1,379	1.81	9,197	12.05	21,811	28.57	22,669	29.69	14,325	18.76	5,911	7.74	829	1.09	168	0.22	38	0.05	12	0.02	11	0.02
18歳	総数	60,897	662	1.09	3,940	6.47	10,680	17.54	15,437	25.35	14,971	24.58	11,206	18.40	2,914	4.79	819	1.34	198	0.33	53	0.09	17	0.03
	男	37,266	130	0.34	907	2.43	4,104	11.01	8,591	23.05	10,575	28.38	9,326	25.03	2,614	7.01	763	2.05	191	0.51	51	0.14	14	0.04
	女	23,631	532	2.26	3,033	12.83	6,576	27.83	6,846	28.97	4,396	18.60	1,880	7.96	300	1.27	56	0.24	7	0.03	2	0.01	3	0.01
19	総数	46,877	390	0.83	2,715	5.79	7,835	16.71	11,525	24.59	11,812	25.20	9,249	19.73	2,397	5.11	677	1.44	202	0.43	50	0.11	25	0.05
	男	31,584	77	0.24	737	2.33	3,385	10.72	7,124	22.56	9,053	28.66	8,084	25.60	2,214	7.01	646	2.05	193	0.61	48	0.15	23	0.07
	女	15,293	313	2.05	1,978	12.93	4,450	29.10	4,401	28.78	2,759	18.04	1,165	7.62	183	1.20	31	0.20	9	0.06	2	0.01	2	0.01
20	総数	33,693	265	0.79	1,901	5.64	5,969	17.72	8,581	25.47	8,639	25.64	6,386	18.95	1,379	4.09	432	1.28	107	0.32	21	0.06	13	0.04
	男	21,308	41	0.19	408	1.91	2,241	10.52	4,874	22.87	6,481	30.42	5,468	25.66	1,258	5.90	406	1.91	97	0.46	21	0.10	13	0.06
	女	12,385	224	1.81	1,493	12.05	3,728	30.10	3,707	29.93	2,158	17.42	918	7.41	121	0.98	26	0.21	10	0.08	0	0.00	0	0.00
21	総数	48,751	282	0.58	2,462	5.05	8,001	16.41	12,333	25.30	12,810	26.28	9,675	19.85	2,124	4.36	767	1.57	200	0.41	65	0.13	32	0.06
	男	30,744	57	0.19	533	1.73	2,895	9.42	6,790	22.09	9,251	30.09	8,248	26.83	1,962	6.38	725	2.36	193	0.63	60	0.20	30	0.11
	女	18,007	225	1.25	1,929	10.71	5,106	28.36	5,543	30.78	3,559	19.76	1,427	7.92	162	0.90	42	0.23	7	0.04	5	0.03	2	0.02
22	総数	21,134	71	0.34	738	3.49	2,663	12.60	4,923	23.29	6,075	28.75	5,009	23.70	1,125	5.32	374	1.77	109	0.52	30	0.14	17	0.08
	男	16,664	20	0.12	258	1.55	1,418	8.51	3,532	21.20	5,151	30.91	4,686	28.12	1,080	6.48	367	2.20	107	0.64	29	0.17	16	0.10
	女	4,470	51	1.14	480	10.74	1,245	27.85	1,391	31.12	924	20.67	323	7.23	45	1.01	7	0.16	2	0.04	1	0.02	1	0.02
23	総数	7,674	21	0.27	245	3.19	883	11.51	1,797	23.42	2,210	28.80	1,890	24.63	418	5.45	140	1.82	46	0.60	11	0.14	13	0.17
	男	6,389	10	0.16	85	1.33	541	8.47	1,404	21.98	1,937	30.32	1,800	28.17	409	6.40	138	2.16	44	0.69	10	0.19	11	0.18
	女	1,285	11	0.86	160	12.45	342	26.61	393	30.58	273	21.25	90	7.00	9	0.70	2	0.16	2	0.16	1	0.08	2	0.16
24	総数	3,090	13	0.43	85	2.75	368	11.91	709	22.94	846	27.38	781	25.28	185	5.99	80	2.59	16	0.52	3	0.10	4	0.12
	男	2,577	4	0.16	38	1.47	214	8.30	553	21.46	748	29.03	737	28.60	181	7.02	79	3.07	16	0.62	3	0.12	4	0.16
	女	513	9	1.75	47	9.16	154	30.02	156	30.41	98	19.10	44	8.56	4	0.78	1	0.19	0	0.00	0	0.00	0	0.00
25以上	総数	3,872	21	0.54	118	3.05	442	11.42	875	22.60	1,122	28.98	947	24.46	229	5.91	77	1.99	26	0.67	10	0.26	5	0.14
	男	3,106	7	0.22	41	1.32	232	7.47	643	20.70	964	31.04	883	28.43	224	7.21	74	2.38	25	0.80	9	0.29	4	0.12
	女	766	14	1.83	77	10.05	210	27.42	232	30.29	158	20.63	64	8.36	5	0.65	3	0.39	1	0.13	1	0.13	1	0.13

表６．４　一次検診における拡張期血圧の度数分布

［92校集計］

拡張期血圧		対象者数	39mmHg以下 実数	%	40～44 実数	%	45～49 実数	%	50～54 実数	%	55～59 実数	%	60～64 実数	%	65～69 実数	%	70～74 実数	%	75～79 実数	%	80～84 実数	%	85～89 実数	%	90～94 実数	%	95～99 実数	%	100～104 実数	%	105～109 実数	%	110以上 実数	%
総数		225,941	466	0.21	1,039	0.46	2,336	1.03	8,685	3.84	19,259	8.52	40,640	17.99	45,177	20.00	47,917	21.21	28,677	12.70	20,009	8.86	7,894	3.49	2,531	1.12	770	0.34	358	0.16	102	0.05	81	0.04
男		149,598	317	0.21	607	0.41	1,261	0.84	4,054	2.71	9,599	6.42	22,909	15.31	29,125	19.47	33,817	22.61	21,801	14.60	16,115	10.77	6,611	4.42	2,214	1.48	679	0.45	328	0.22	89	0.06	72	0.05
女		76,343	149	0.20	432	0.57	1,075	1.41	4,631	6.07	9,660	12.65	17,731	23.23	16,052	21.03	14,100	18.47	6,876	9.01	3,894	5.10	1,283	1.68	317	0.42	91	0.12	30	0.04	13	0.02	9	0.01
18歳	総数	60,878	202	0.33	370	0.61	843	1.38	3,148	5.17	6,011	9.87	11,628	19.10	12,137	19.94	12,334	20.26	7,064	11.60	4,621	7.59	1,727	2.84	522	0.86	166	0.27	68	0.11	24	0.04	13	0.02
	男	37,249	135	0.36	202	0.54	453	1.22	1,381	3.71	2,937	7.88	6,176	16.58	7,464	20.04	8,124	21.81	4,966	13.33	3,438	9.23	1,328	3.57	420	1.13	134	0.36	60	0.16	21	0.06	10	0.03
	女	23,629	67	0.28	168	0.71	390	1.65	1,767	7.48	3,074	13.01	5,452	23.07	4,673	19.78	4,210	17.82	2,098	8.88	1,183	5.01	399	1.69	102	0.43	32	0.14	8	0.03	3	0.01	3	0.01
19	総数	46,869	99	0.21	259	0.55	597	1.27	2,040	4.35	4,409	9.41	8,689	18.54	9,503	20.28	9,625	20.54	5,607	11.96	3,910	8.34	1,418	3.03	465	0.99	150	0.32	68	0.15	13	0.03	17	0.04
	男	31,576	71	0.22	165	0.52	344	1.09	1,044	3.31	2,248	7.12	5,202	16.47	6,277	19.88	6,926	21.93	4,307	13.64	3,179	10.07	1,182	3.74	408	1.29	133	0.42	65	0.21	9	0.03	16	0.05
	女	15,293	28	0.18	94	0.61	253	0.65	996	6.51	2,161	14.13	3,487	22.80	3,226	21.09	2,699	17.65	1,300	8.50	731	4.78	236	1.54	57	0.37	17	0.11	3	0.02	4	0.03	1	0.01
20	総数	33,688	54	0.16	139	0.41	323	0.96	1,235	3.67	3,017	8.96	6,358	18.87	6,996	20.77	7,097	21.07	4,113	12.21	2,827	8.39	1,050	3.12	320	0.95	98	0.29	45	0.13	9	0.03	7	0.02
	男	21,305	34	0.16	78	0.37	147	0.69	503	2.36	1,425	6.69	3,279	15.39	4,339	20.37	4,872	22.87	3,078	14.45	2,267	10.64	862	4.05	278	1.30	90	0.42	40	0.19	8	0.04	5	0.02
	女	12,383	20	0.16	61	0.49	176	1.42	732	5.91	1,592	12.86	3,079	24.86	2,657	21.46	2,225	17.97	1,035	8.36	560	4.52	188	1.52	42	0.34	8	0.06	5	0.04	1	0.01	2	0.02
21	総数	48,741	57	0.12	178	0.37	362	0.74	1,486	3.05	3,650	7.49	8,510	17.46	9,907	20.33	10,754	22.06	6,397	13.12	4,598	9.43	1,913	3.92	607	1.25	186	0.38	85	0.17	34	0.07	17	0.03
	男	30,735	33	0.11	92	0.30	182	0.59	643	2.09	1,602	5.21	4,429	14.41	5,927	19.28	7,177	23.35	4,658	15.16	3,598	11.71	1,580	5.14	530	1.72	163	0.53	76	0.25	29	0.09	16	0.05
	女	18,006	24	0.13	86	0.48	180	1.00	843	4.68	2,048	11.37	4,081	22.66	3,980	22.10	3,577	19.87	1,739	9.66	1,000	5.55	333	1.85	77	0.43	23	0.13	9	0.05	5	0.03	1	0.01
22	総数	21,125	38	0.18	65	0.31	135	0.64	487	2.31	1,337	6.33	3,272	15.49	4,045	19.15	4,792	22.68	3,204	15.17	2,312	10.94	960	4.54	325	1.54	88	0.42	45	0.21	8	0.04	12	0.06
	男	16,658	29	0.17	50	0.30	88	0.53	303	1.82	848	5.09	2,234	13.41	3,047	18.29	3,923	23.55	2,751	16.51	2,053	12.32	889	5.34	299	1.79	81	0.49	43	0.26	8	0.05	12	0.07
	女	4,467	9	0.20	15	0.34	47	1.05	184	4.12	489	10.95	1,038	23.24	998	22.34	869	19.45	453	10.14	259	5.80	71	1.59	26	0.58	7	0.16	2	0.04	0	0.00	0	0.00
23	総数	7,671	10	0.13	14	0.18	39	0.51	165	2.15	480	6.26	1,175	15.32	1,428	18.62	1,721	22.44	1,168	15.23	890	11.60	376	4.90	142	1.85	31	0.40	19	0.25	6	0.08	7	0.09
	男	6,386	10	0.16	11	0.17	27	0.42	102	1.60	320	5.01	884	13.84	1,157	18.12	1,483	23.22	1,045	16.36	802	12.56	352	5.51	133	2.08	31	0.49	17	0.27	6	0.09	6	0.09
	女	1,285	0	0.00	3	0.23	12	0.93	63	4.90	160	12.45	291	22.65	271	21.09	238	18.52	123	9.57	88	6.85	24	1.87	9	0.70	0	0.00	2	0.16	0	0.00	1	0.08
24	総数	3,089	4	0.13	6	0.19	17	0.55	67	2.17	169	5.47	457	14.79	557	18.03	713	23.08	485	15.70	348	11.27	167	5.41	65	2.10	20	0.65	10	0.32	2	0.06	2	0.06
	男	2,576	4	0.16	3	0.12	9	0.35	42	1.63	119	4.62	339	13.16	455	17.66	594	23.06	436	16.93	322	12.50	158	6.13	64	2.48	18	0.70	10	0.39	2	0.08	1	0.04
	女	513	0	0.00	3	0.58	8	1.56	25	4.87	50	9.75	118	23.00	102	19.88	119	23.20	49	9.55	26	5.07	9	1.75	1	0.19	2	0.39	0	0.00	0	0.00	1	0.19
25以上	総数	3,880	2	0.05	8	0.21	20	0.52	57	1.47	186	4.79	551	14.20	604	15.57	881	22.71	639	16.47	503	12.96	283	7.29	85	2.19	31	0.80	18	0.46	6	0.15	6	0.15
	男	3,113	1	0.03	6	0.19	11	0.35	36	1.16	100	3.21	366	11.76	459	14.74	718	23.06	560	17.99	456	14.65	260	8.35	82	2.63	29	0.93	17	0.55	6	0.19	6	0.19
	女	767	1	0.13	2	0.26	9	1.17	21	2.74	86	11.21	185	24.12	145	18.90	163	21.25	79	10.30	47	6.13	23	3.00	3	0.39	2	0.26	1	0.13	0	0.00	0	0.00

表６．５　一次検診における脈拍数の度数分布　　[56校集計]

脈拍数			49拍／分以下		50～59		60～69		70～79		80～89		90～99		100～109		110～119		120～129		130以上	
		対象者数	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数		134,908	434	0.32	5,688	4.22	27,184	20.15	41,084	30.45	31,097	23.05	17,015	12.61	7,995	5.93	2,901	2.15	1,085	0.80	425	0.32
男		90,155	326	0.36	4,234	4.70	18,674	20.71	26,670	29.58	20,048	22.24	11,448	12.70	5,574	6.18	2,087	2.31	779	0.86	315	0.35
女		44,753	108	0.24	1,454	3.25	8,510	19.02	14,414	32.21	11,049	24.69	5,567	12.44	2,421	5.41	814	1.82	306	0.68	110	0.25
18歳	総数	36,391	132	0.36	1,622	4.46	7,187	19.75	10,987	30.19	8,359	22.97	4,706	12.93	2,214	6.08	809	2.22	297	0.82	78	0.21
	男	22,950	97	0.42	1,191	5.19	4,705	20.50	6,745	29.39	5,078	22.13	2,960	12.90	1,432	6.24	513	2.24	182	0.79	47	0.20
	女	13,441	35	0.26	431	3.21	2,482	18.47	4,242	31.56	3,281	24.41	1,746	12.99	782	5.82	296	2.20	115	0.86	31	0.23
19	総数	27,919	100	0.36	1,204	4.31	5,746	20.58	8,475	30.36	6,347	22.73	3,481	12.47	1,634	5.85	594	2.13	241	0.86	97	0.35
	男	18,729	78	0.42	838	4.47	3,948	21.08	5,518	29.46	4,090	21.84	2,377	12.69	1,182	6.31	440	2.35	183	0.98	75	0.40
	女	9,190	22	0.24	366	3.98	1,798	19.56	2,957	32.18	2,257	24.56	1,104	12.01	452	4.92	154	1.68	58	0.63	22	0.24
20	総数	20,373	71	0.35	904	4.44	4,506	22.12	6,337	31.10	4,630	22.73	2,272	11.15	1,088	5.34	363	1.78	132	0.65	70	0.34
	男	12,851	45	0.35	652	5.07	2,880	22.41	3,847	29.94	2,809	21.86	1,463	11.38	740	5.76	271	2.11	96	0.75	48	0.37
	女	7,522	26	0.35	252	3.35	1,626	21.62	2,490	33.10	1,821	24.21	809	10.76	348	4.63	92	1.22	36	0.48	22	0.29
21	総数	30,927	88	0.28	1,240	4.01	5,993	19.38	9,543	30.86	7,212	23.32	3,980	12.87	1,824	5.90	674	2.18	261	0.84	112	0.36
	男	19,825	66	0.33	910	4.59	4,008	20.22	5,920	29.86	4,433	22.36	2,544	12.83	1,214	6.12	463	2.34	183	0.92	84	0.42
	女	11,102	22	0.20	330	2.97	1,985	17.88	3,623	32.63	2,779	25.03	1,436	12.93	610	5.49	211	1.90	78	0.70	28	0.25
22	総数	12,207	27	0.22	458	3.75	2,333	19.11	3,620	29.66	2,847	23.32	1,667	13.66	792	6.49	311	2.55	101	0.83	51	0.42
	男	9,789	24	0.25	411	4.20	1,930	19.72	2,867	29.29	2,203	22.50	1,322	13.50	633	6.47	267	2.73	88	0.90	44	0.45
	女	2,418	3	0.12	47	1.94	403	16.67	753	31.14	644	26.63	345	14.27	159	6.58	44	1.82	13	0.54	7	0.29
23	総数	3,868	9	0.23	139	3.59	805	20.81	1,125	29.08	901	23.29	502	12.98	255	6.59	94	2.43	27	0.70	11	0.28
	男	3,333	9	0.27	124	3.72	686	20.58	961	28.83	777	23.31	444	13.32	216	6.48	82	2.46	23	0.69	11	0.33
	女	535	0	0.00	15	2.80	119	22.24	164	30.65	124	23.18	58	10.84	39	7.29	12	2.24	4	0.75	0	0.00
24	総数	1,514	5	0.33	69	4.56	311	20.54	486	32.10	342	22.59	182	12.02	80	5.28	22	1.45	13	0.86	4	0.26
	男	1,289	5	0.39	62	4.81	265	20.56	404	31.34	291	22.58	156	12.10	70	4.43	21	1.63	11	0.85	4	0.31
	女	225	0	0.00	7	3.11	46	20.44	82	36.44	51	22.67	26	11.56	10	4.44	1	0.44	2	0.89	0	0.00
25以上	総数	1,709	2	0.12	52	3.04	303	17.73	511	29.90	459	26.86	225	13.17	108	6.32	34	1.99	13	0.76	2	0.12
	男	1,389	2	0.14	46	3.31	252	18.14	408	29.37	367	26.42	182	13.10	87	6.26	30	2.16	13	0.94	2	0.14
	女	320	0	0.00	6	1.88	51	15.95	103	32.19	92	28.75	43	13.44	21	6.56	4	1.25	0	0.00	0	0.00

表 6．6　一次検診における収縮期血圧の度数分布：男，年齢，測定法別

		対象者数		89mmHg以下		90～99		100～109		110～119		120～129		130～139		140～149		150～159		160～169		170～179		180以上	
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総　数		145,942	100.00	328	0.31	2,899	1.99	14,526	9.95	32,568	22.32	43,072	29.51	38,326	26.26	9,852	6.75	3,169	2.17	858	0.59	229	0.16	115	0.08
水銀血圧計		22,065	15.12	32	0.15	495	2.24	2,432	11.02	5,510	24.97	6,449	29.23	5,120	23.30	1,316	5.96	509	2.31	154	0.70	33	0.15	15	0.07
自動血圧計		116,774	80.01	287	0.25	2,311	1.98	11,441	9.80	25,616	21.94	34,487	29.53	30,910	26.47	8,215	7.03	2,553	2.19	675	0.58	186	0.16	93	0.08
両者併用		7,103	4.87	9	0.12	93	1.31	653	9.19	1,442	20.30	2,136	30.07	2,296	32.32	321	4.52	107	1.51	29	0.41	10	0.14	7	0.09
18歳	総数	36,665	100.00	124	0.34	907	2.47	3,993	10.89	8,433	22.90	10,400	28.35	9,221	25.14	2,609	7.11	757	2.06	190	0.52	50	0.14	14	0.03
	水銀	7,186	19.60	18	0.25	171	2.38	872	12.13	1,799	25.03	2,077	28.90	1,552	21.60	472	6.57	173	2.41	41	0.57	9	0.13	2	0.02
	自動	28,104	76.65	101	0.36	668	2.38	2,967	10.56	6,325	22.51	7,965	28.34	7,235	25.74	2,080	7.40	568	2.02	146	0.52	38	0.14	11	0.04
	併用	1,375	3.75	5	0.36	35	2.55	154	11.20	309	22.47	358	26.04	434	31.56	57	4.15	16	1.16	3	0.22	3	0.22	1	0.07
19	総数	30,972	100.00	75	0.24	720	2.32	3,288	10.61	6,943	22.41	8,866	28.62	7,971	25.73	2,202	7.11	643	2.08	193	0.62	48	0.15	23	0.07
	水銀	4,982	16.09	3	0.06	132	2.65	599	12.02	1,229	24.67	1,429	28.68	1,108	22.24	333	6.68	101	2.03	38	0.76	6	0.12	4	0.08
	自動	24,668	79.65	70	0.28	564	2.29	2,558	10.37	5,457	22.12	7,066	28.64	6,444	26.12	1,783	7.23	521	2.11	150	0.61	38	0.15	17	0.07
	併用	1,322	4.27	2	0.15	24	1.82	131	9.91	257	19.44	371	28.06	419	31.69	86	6.51	21	1.59	5	0.38	4	0.30	2	0.15
20	総数	20,845	100.00	37	0.18	398	1.91	2,179	10.45	4,735	22.71	6,342	30.42	5,380	25.80	1,241	5.95	402	1.93	97	0.47	21	0.10	13	0.06
	水銀	2,839	13.62	0	0.00	64	2.25	311	10.95	755	26.59	844	29.73	629	22.16	140	4.93	69	2.43	21	0.74	4	0.14	2	0.08
	自動	17,344	83.20	37	0.21	328	1.89	1,809	10.43	3,859	22.25	5,308	30.60	4,522	26.07	1,065	6.14	320	1.85	70	0.40	16	0.09	10	0.07
	併用	662	3.18	0	0.00	6	0.91	59	8.91	121	18.28	190	28.70	229	34.59	36	5.44	13	1.96	6	0.91	1	0.15	1	0.15
21	総数	29,762	100.00	56	0.21	508	1.90	2,782	10.39	6,561	24.51	8,963	33.48	7,965	29.76	1,931	7.21	718	2.68	189	0.71	59	0.22	30	0.11
	水銀	3,734	12.55	7	0.19	63	1.69	345	9.24	947	25.36	1,092	29.24	943	25.25	199	5.33	103	2.76	24	0.64	9	0.24	2	0.05
	自動	24,366	81.87	47	0.19	432	1.77	2,289	9.39	5,283	21.68	7,346	30.15	4,485	26.61	1,658	6.80	590	2.42	159	0.65	50	0.21	27	0.11
	併用	1,662	5.58	2	0.12	13	0.78	148	8.90	331	19.92	525	31.59	537	32.31	74	4.45	25	1.50	6	0.36	0	0.00	1	0.06
22	総数	16,020	100.00	19	0.12	247	1.54	1,340	8.36	3,387	21.14	4,955	30.92	4,499	28.07	1,061	6.62	362	2.26	105	0.66	29	0.18	16	0.10
	水銀	1,769	11.04	2	0.11	34	1.92	163	9.21	419	23.69	543	30.70	468	26.46	87	4.92	35	1.98	15	0.85	1	0.06	2	0.11
	自動	13,020	81.27	17	0.13	206	1.58	1,084	8.33	2,723	20.91	4,005	30.76	3,619	27.80	932	7.16	306	2.35	87	0.67	27	0.21	14	0.11
	併用	1,231	7.68	0	0.00	7	0.57	93	7.55	245	19.90	407	33.06	412	33.47	42	3.41	21	1.71	3	0.24	1	0.08	0	0.00
23	総数	6,189	100.00	8	0.13	82	1.32	521	8.42	1,358	21.94	1,881	30.39	1,732	27.98	408	6.59	135	2.18	43	0.69	10	0.16	11	0.18
	水銀	727	11.75	1	0.14	15	2.06	65	8.94	175	24.07	226	31.09	195	26.82	33	4.54	8	1.10	5	0.69	2	0.28	2	0.28
	自動	5,058	81.73	7	0.14	64	1.27	422	8.34	1,096	21.67	1,520	30.05	1,409	27.86	365	7.22	122	2.41	36	0.71	8	0.16	9	0.18
	併用	404	6.53	0	0.00	3	0.74	34	8.42	87	21.53	135	33.42	128	31.68	10	2.48	5	1.24	2	0.50	0	0.00	0	0.00
24	総数	2,494	100.00	4	0.16	35	1.41	203	8.16	532	21.38	730	29.34	708	28.46	180	7.23	79	3.18	14	0.56	3	0.12	4	0.16
	水銀	328	13.15	1	0.30	5	1.52	24	7.32	82	25.00	103	31.40	84	25.61	17	5.18	10	3.05	2	0.61	0	0.00	0	0.00
	自動	1,981	79.43	3	0.15	26	1.31	163	8.23	412	20.80	569	28.72	566	28.57	156	7.87	68	3.43	12	0.61	3	0.15	3	0.15
	併用	185	7.42	0	0.00	4	2.16	16	8.65	38	20.54	58	31.35	58	31.35	7	3.78	1	0.54	2	1.08	0	0.00	1	0.54
25以上	総数	2,995	100.00	5	0.17	35	1.17	220	7.35	619	20.67	935	31.22	850	28.38	220	7.35	73	2.44	25	0.83	9	0.30	4	0.13
	水銀	500	16.69	0	0.00	11	2.20	53	10.60	104	20.80	135	27.00	141	28.20	35	7.00	10	2.00	8	1.60	2	0.40	1	0.20
	自動	2,233	74.56	5	0.22	23	1.03	149	6.67	461	20.64	708	31.71	630	28.21	176	7.88	58	2.60	15	0.67	6	0.27	2	0.09
	併用	262	8.75	0	0.00	1	0.38	18	6.87	54	20.61	92	35.11	79	30.15	9	3.44	5	1.91	2	0.76	1	0.38	1	0.38

表 6．7　一次検診における収縮期血圧の度数分布：女，年齢，測定法別

		対象者数		89mmHg以下		90～99		100～109		110～119		120～129		130～139		140～149		150～159		160～169		170～179		180以上	
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総　数		74,230	100.00	1,328	1.67	8,956	12.07	21,170	28.52	22,006	29.65	13,980	18.83	5,744	7.74	821	1.11	164	0.22	38	0.05	12	0.02	11	0.01
水銀血圧計		11,398	15.35	122	1.07	1,489	13.06	3,370	29.57	3,490	30.62	2,054	18.02	745	6.54	97	0.85	25	0.22	4	0.04	2	0.02	0	0.00
自動血圧計		59,717	80.44	1,157	1.94	7,029	11.77	16,805	28.14	17,648	29.55	11,400	19.09	4,787	8.02	699	1.17	138	0.23	34	0.06	9	0.02	11	0.02
両者併用		3,115	4.20	49	1.57	438	14.06	995	31.94	868	27.87	526	16.89	212	6.81	25	0.80	1	0.03	0	0.00	1	0.03	0	0.00
18歳	総数	23,132	100.00	523	2.26	2,963	12.81	6,413	27.72	6,706	28.99	4,323	18.69	1,839	7.95	299	1.29	54	0.23	7	0.03	2	0.01	5	0.02
	水銀	4,838	20.91	76	1.57	766	15.83	1,479	30.57	1,400	28.94	772	15.96	274	5.66	53	1.10	16	0.33	1	0.02	1	0.02	0	0.00
	自動	17,406	75.25	420	2.42	2,035	11.69	4,666	26.81	5,059	29.06	3,422	19.66	1,514	8.70	242	1.39	38	0.22	6	0.03	1	0.01	3	0.02
	併用	888	3.84	27	3.04	162	18.24	268	30.18	247	27.82	129	14.53	51	5.74	4	0.45	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
19	総数	14,936	100.00	294	1.97	1,941	13.00	4,324	28.95	4,299	28.78	2,707	18.12	1,145	7.67	182	1.22	31	0.21	9	0.06	2	0.01	2	0.01
	水銀	2,137	14.31	21	0.99	284	13.29	643	30.09	648	30.32	388	18.16	129	6.04	18	0.84	4	0.19	2	0.09	0	0.00	0	0.00
	自動	12,249	82.01	263	2.14	1,576	12.87	3,504	28.61	3,506	28.62	2,235	18.25	967	7.89	160	1.31	27	0.22	7	0.06	2	0.02	2	0.02
	併用	550	3.68	10	1.82	81	14.73	177	32.18	145	26.36	84	15.27	49	8.91	4	0.73	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
20	総数	12,115	100.00	219	1.81	1,460	12.05	3,640	30.05	3,622	29.90	2,119	17.49	901	7.44	121	1.00	25	0.21	10	0.08	0	0.00	0	0.00
	水銀	1,414	11.67	10	0.71	115	8.13	424	29.99	468	33.01	274	19.38	114	8.06	7	0.50	1	0.07	1	0.07	0	0.00	0	0.00
	自動	10,429	86.08	202	1.93	1,312	12.58	3,135	30.06	3,076	29.49	1,794	17.20	770	7.38	108	1.04	23	0.22	9	0.09	0	0.00	0	0.00
	併用	272	2.25	7	2.55	33	12.04	81	29.56	78	28.47	51	18.61	17	6.20	6	2.19	1	0.36	0	0.00	0	0.00	0	0.00
21	総数	17,355	100.00	214	1.23	1,865	10.75	4,934	28.43	5,316	30.63	3,443	19.84	1,371	7.90	157	0.90	41	0.24	7	0.04	5	0.03	2	0.01
	水銀	2,064	11.89	8	0.39	216	10.47	561	27.18	680	32.95	423	20.49	161	7.80	11	0.53	3	0.15	0	0.00	1	0.05	0	0.00
	自動	14,377	82.84	203	1.42	1,551	10.79	4,065	28.27	4,370	30.40	2,853	19.84	1,147	7.98	138	0.96	38	0.26	7	0.05	3	0.02	2	0.02
	併用	914	5.61	3	0.33	98	10.72	308	33.70	266	29.10	167	18.27	63	6.89	8	0.88	0	0.00	0	0.00	1	0.11	0	0.00
22	総数	4,237	100.00	48	1.13	459	10.83	1,187	28.02	1,312	30.96	877	20.69	299	7.06	44	1.04	7	0.17	2	0.05	1	0.02	1	0.02
	水銀	534	12.60	4	0.75	57	10.67	143	26.78	169	31.65	114	21.35	42	7.87	5	0.94	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	自動	3,399	80.22	43	1.27	354	10.41	942	27.71	1,064	31.30	711	20.92	237	6.97	37	1.09	7	0.21	2	0.06	1	0.03	1	0.03
	併用	304	7.17	1	0.33	48	15.79	102	33.55	79	25.99	52	17.11	20	6.58	2	0.66	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
23	総数	1,241	100.00	10	0.81	154	12.41	328	26.43	381	30.70	265	21.35	87	7.01	9	0.73	2	0.16	2	0.16	1	0.08	2	0.16
	水銀	213	17.16	1	0.47	27	12.68	63	29.58	66	30.99	47	22.07	8	3.76	1	0.47	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	自動	948	76.39	9	0.95	122	12.87	237	25.00	287	30.27	202	21.31	76	8.02	8	0.84	2	0.21	2	0.21	1	0.11	2	0.21
	併用	80	6.45	0	0	5	6.25	28	35.00	28	35.00	16	20.00	3	3.75	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
24	総数	492	100.00	9	1.83	44	8.94	146	29.67	152	30.89	93	18.90	43	8.74	7	1.42	1	0.20	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	水銀	75	15.24	0	0	9	12.00	22	29.33	21	28.00	14	18.67	8	10.67	1	1.33	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	自動	386	78.46	9	2.33	32	8.29	117	30.31	125	32.38	68	17.62	31	8.03	3	0.78	1	0.26	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	併用	31	6.30	0	0	3	9.68	7	22.58	6	19.35	11	35.48	4	12.90	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
25以上	総数	720	100.00	11	1.53	70	9.72	198	27.50	218	30.28	153	21.25	59	8.19	5	0.69	3	0.42	1	0.14	1	0.14	1	0.14
	水銀	123	17.08	2	1.63	15	12.20	35	28.46	38	30.89	22	17.89	9	7.32	1	0.81	1	0.81	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	自動	523	72.64	8	1.53	47	8.99	139	26.58	161	30.78	115	21.99	45	8.60	3	0.57	2	0.38	1	0.19	1	0.19	1	0.19
	併用	74	10.28	1	1.35	8	10.81	24	32.43	19	25.68	16	21.62	5	6.76	1	1.35	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00

表 6．8　一次検診における拡張期血圧の度数分布：男，年齢，測定法別

			39mmHg以下		40～44		45～49		50～54		55～59		60～64		65～69		70～74		75～79		80～84		85～89		90～94		95～99		100～104		105～109		110以上	
		対象者数	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総　数		145,902	315	0.22	602	0.41	1,249	0.86	4,002	2.74	9,387	6.43	22,347	15.32	28,283	19.38	32,904	22.55	21,239	14.56	15,746	10.79	6,486	4.45	2,187	1.50	675	0.46	320	0.22	88	0.06	72	0.05
水銀血圧計		22,066	16	0.07	70	0.32	157	0.71	774	3.51	1,045	4.74	3,952	17.91	2,610	11.83	5,636	25.54	2,542	11.52	3,369	15.27	1,162	5.27	489	2.22	122	0.55	88	0.40	19	0.09	15	0.07
自動血圧計		116,736	289	0.25	521	0.45	1,038	0.89	3,035	2.60	7,907	6.77	17,264	14.79	24,327	20.84	25,679	22.00	17,679	15.14	11,539	9.88	5,010	4.29	1,586	1.36	523	0.45	219	0.19	67	0.06	53	0.05
両者併用		7,100	10	0.14	11	0.15	54	0.76	193	2.72	435	6.13	1,131	15.93	1,346	18.96	1,589	22.38	1,018	14.34	838	11.80	314	4.42	112	1.58	30	0.42	13	0.18	2	0.03	4	0.06
18歳	総数	36,648																														
	水銀	7,188	8	0.11	35	0.49	70	0.97	285	3.96	422	5.84	1,244	17.31	937	13.04	1,814	25.24	890	12.38	970	13.49	323	4.49	126	1.75	35	0.49	16	0.22	9	0.13	4	0.06
	自動	28,085	120	0.43	163	0.58	367	1.31	1,013	3.61	2,326	8.28	4,580	16.31	6,074	21.63	5,893	20.98	3,836	13.66	2,319	8.26	962	3.43	280	1.00	93	0.33	42	0.15	11	0.04	6	0.02
	併用	1,375	6	0.44	4	0.29	14	1.02	59	4.29	133	9.67	235	17.09	295	21.45	282	20.51	168	12.22	129	9.38	29	2.11	13	0.95	6	0.44	2	0.15	0	0.00	0	0.00
19	総数	30,964																														
	水銀	4,981	6	0.12	17	0.34	52	1.04	213	4.28	286	5.74	934	18.75	587	11.78	1,246	25.02	555	11.14	705	14.15	231	4.64	96	1.93	25	0.50	22	0.44	2	0.04	4	0.08
	自動	24,661	63	0.26	146	0.59	275	1.12	770	3.12	1,833	7.43	3,934	15.95	5,290	21.45	5,221	21.17	3,494	14.17	2,301	9.33	891	3.61	285	1.16	103	0.42	39	0.16	7	0.03	9	0.04
	併用	1,322	1	0.08	1	0.08	12	0.91	54	4.08	89	6.73	231	17.47	232	17.55	296	22.39	189	14.30	130	9.83	52	3.93	24	1.82	5	0.38	3	0.23	0	0.00	3	0.23
20	総数	20,842																														
	水銀	2,839	0	0.00	7	0.25	12	0.42	90	3.17	113	3.98	520	18.32	361	12.72	782	27.57	281	9.90	447	15.74	141	4.97	57	2.01	12	0.42	14	0.49	1	0.04	1	0.04
	自動	17,341	34	0.20	67	0.39	125	0.72	397	2.29	1,253	7.23	2,575	14.85	3,745	21.60	3,832	22.10	2,621	15.11	1,700	9.80	674	3.89	211	1.22	73	0.42	25	0.14	5	0.03	4	0.02
	併用	662	0	0.00	2	0.30	8	1.21	12	1.81	36	5.44	108	16.31	115	17.37	141	21.30	101	15.26	85	12.84	37	5.59	9	1.36	5	0.76	1	0.15	2	0.30	0	0.00
21	総数	29,753																														
	水銀	3,733	2	0.05	8	0.21	18	0.48	113	3.03	109	2.92	678	18.16	405	10.85	966	25.88	383	10.26	653	17.49	248	6.64	102	2.73	24	0.64	17	0.46	5	0.13	2	0.05
	自動	24,359	30	0.12	80	0.33	150	0.62	483	1.98	1,366	5.61	3,348	13.74	5,007	20.56	5,590	22.95	3,868	15.88	2,611	10.72	1,209	4.96	396	1.63	131	0.54	52	0.21	24	0.10	14	0.06
	併用	1,661	1	0.06	3	0.18	13	0.78	39	2.35	84	5.06	263	15.83	311	18.72	388	23.36	237	14.27	211	12.70	79	4.76	24	1.44	5	0.30	3	0.18	0	0.00	0	0.00
22	総数	16,014																														
	水銀	1,765	2	0.00	2	0.11	2	0.11	44	2.49	64	3.63	292	16.54	167	9.46	448	25.38	223	12.63	334	18.92	108	6.12	59	3.34	11	0.62	11	0.62	0	0.00	0	0.00
	自動	13,019	27	0.21	47	0.36	80	0.61	233	1.79	695	5.34	1,694	13.01	2,507	19.26	3,032	23.29	2,212	16.99	1,483	11.39	686	5.27	211	1.62	63	0.48	29	0.22	8	0.06	12	0.09
	併用	1,230	2	0.16	1	0.08	6	0.49	20	1.63	63	5.12	170	13.82	242	19.67	274	22.28	206	16.75	151	12.28	68	5.53	21	1.71	6	0.49	0	0.00	0	0.00	0	0.00
23	総数	6,186																														
	水銀	726	0	0.00	1	0.14	2	0.28	16	2.20	31	4.27	131	18.04	84	11.57	185	25.48	88	12.12	116	15.98	49	6.75	16	2.20	2	0.28	2	0.28	1	0.14	2	0.28
	自動	5,056	10	0.20	10	0.20	24	0.47	80	1.58	260	5.14	662	13.09	963	19.05	1,150	22.75	868	17.17	598	11.83	273	5.40	108	2.14	27	0.53	14	0.28	5	0.10	4	0.08
	併用	404	0	0.00	0	0.00	0	0.00	4	0.99	20	4.95	64	15.84	77	19.06	100	24.75	54	13.37	56	13.86	18	4.46	8	1.98	2	0.50	1	0.25	0	0.00	0	0.00
24	総数	2,493																														
	水銀	327	0	0.00	0	0.00	0	0.00	7	2.14	6	1.83	68	20.80	32	9.79	75	22.94	46	14.07	59	18.04	18	5.50	12	3.67	3	0.92	1	0.31	0	0.00	0	0.00
	自動	1,981	4	0.20	3	0.15	8	0.40	33	1.67	99	5.00	228	11.51	375	18.93	453	22.87	355	17.92	223	11.26	130	6.56	46	2.32	14	0.71	7	0.35	2	0.10	1	0.05
	併用	185	0	0.00	0	0.00	1	0.54	2	1.08	4	2.16	33	17.84	34	18.38	48	25.95	23	12.43	26	14.05	7	3.78	4	2.16	1	0.54	2	1.08	0	0.00	0	0.00
25	総数	3,002																														
以上	水銀	507	0	0.00	0	0.00	1	0.20	6	1.18	14	2.76	85	16.77	37	7.30	120	23.67	76	14.99	85	16.77	44	8.68	21	4.14	10	0.97	5	0.99	1	0.20	2	0.39
	自動	2,234	1	0.04	5	0.22	9	0.40	26	1.16	75	3.36	243	10.88	366	16.38	508	22.74	425	19.02	304	13.61	185	8.28	49	2.19	19	0.85	11	0.49	5	0.22	3	0.13
	併用	261	0	0.00	0	0.00	0	0.00	3	1.15	6	2.30	27	10.34	40	15.33	60	22.99	40	15.33	50	19.16	24	9.20	9	3.45	0	0.00	1	0.38	0	0.00	1	0.38

表 6．9　一次検診における拡張期血圧の度数分布：女，年齢，測定法別

			39mmHg以下		40～44		45～49		50～54		55～59		60～64		65～69		70～74		75～79		80～84		85～89		90～94		95～99		100～104		105～109		110以上	
		対象者数	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総　数		74,222	147	0.20	427	0.58	1,061	1.43	4,540	6.12	9,390	12.65	17,178	23.14	15,514	20.90	13,719	18.48	6,708	9.04	3,823	5.15	1,260	1.70	313	0.42	91	0.12	29	0.04	13	0.02	9	0.01
水銀血圧計		11,397	7	0.06	60	0.53	115	1.01	930	8.16	978	8.58	3,308	29.03	1,446	12.69	2,747	24.10	731	6.41	871	7.64	146	1.28	42	0.37	10	0.09	4	0.04	2	0.02	0	0.00
自動血圧計		59,710	135	0.23	361	0.60	912	1.53	3,460	5.79	8,050	13.48	13,102	21.94	13,422	22.48	10,336	17.31	5,700	9.55	2,795	4.68	1,062	1.78	255	0.43	77	0.13	23	0.04	11	0.02	9	0.02
両者併用		3,115	5	0.16	6	0.19	34	1.09	150	4.82	362	11.62	768	24.65	646	20.74	636	20.42	277	8.89	157	5.04	52	1.67	16	0.51	4	0.13	2	0.06	0	0.00	0	0.00
18歳	総数	23,130																														
	水銀	4,837	5	0.10	33	0.68	70	1.45	503	10.40	466	9.63	1,360	28.12	629	13.00	1,065	22.02	301	6.22	296	6.12	81	1.67	19	0.39	7	0.14	1	0.02	1	0.02	0	0.00
	自動	17,405	61	0.35	131	0.75	305	1.75	1,173	6.74	2,415	13.88	3,746	21.52	3,738	21.48	2,908	16.70	1,682	9.66	831	4.77	302	1.74	79	0.45	24	0.14	7	0.04	2	0.01	3	0.02
	併用	888	1	0.11	4	0.45	12	1.35	58	6.53	124	13.96	213	23.99	185	20.83	161	18.13	76	8.56	40	4.50	10	1.13	3	0.34	1	0.11	0	0.00	0	0.00	0	0.00
19	総数	14,936																														
	水銀	2,140	1	0.05	12	0.56	27	1.26	190	8.88	182	8.64	620	28.97	289	13.50	492	22.99	127	5.93	162	7.57	25	1.17	8	0.37	1	0.05	0	0.00	1	0.05	0	0.00
	自動	12,246	26	0.21	78	0.64	212	1.73	765	6.25	1,843	15.05	2,642	21.57	2,713	22.15	2,054	16.77	1,110	9.06	538	4.39	199	1.63	45	0.37	14	0.11	3	0.02	3	0.02	1	0.01
	併用	550	0	0.00	1	0.18	8	1.45	28	5.09	78	14.18	123	22.36	130	23.64	103	18.73	39	7.09	25	4.55	9	1.64	4	0.73	2	0.36	0	0.00	0	0.00	0	0.00
20	総数	12,114																														
	水銀	1,413	1	0.07	4	0.28	3	0.21	82	5.80	94	6.65	446	31.56	177	12.53	380	26.89	97	6.86	110	7.78	14	0.99	3	0.21	1	0.07	1	0.07	0	0.00	0	0.00
	自動	10,427	17	0.16	56	0.54	169	1.62	624	5.98	1,427	13.69	2,471	23.70	2,364	22.67	1,752	16.80	899	8.62	432	4.14	168	1.61	35	0.34	7	0.07	3	0.03	1	0.01	2	0.02
	併用	274	1	0.36	0	0.00	3	1.09	13	4.74	31	11.31	75	27.37	52	18.98	56	20.44	26	9.49	10	3.65	5	1.82	2	0.73	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
21	総数	17,354																														
	水銀	2,062	0	0.00	8	0.39	10	0.48	116	5.63	154	7.47	589	28.56	234	11.35	562	27.26	149	7.23	216	10.48	13	0.63	9	0.44	0	0.00	2	0.10	0	0.00	0	0.00
	自動	14,378	23	0.16	78	0.54	158	1.10	668	4.65	1,740	12.10	3,124	21.73	3,388	23.56	2,662	18.51	1,432	9.96	713	4.96	294	2.04	63	0.44	23	0.16	6	0.04	5	0.03	1	0.01
	併用	914	1	0.11	0	0.00	9	0.98	37	4.05	91	9.96	222	24.29	177	19.37	212	23.19	96	10.50	49	5.36	15	1.64	4	0.44	0	0.00	1	0.11	0	0.00	0	0.00
22	総数	4,234																														
	水銀	534	0	0.00	3	0.56	0	0.00	24	4.49	43	8.05	157	29.40	73	13.67	149	27.90	32	5.99	47	8.80	3	0.56	2	0.37	1	0.19	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	自動	3,396	7	0.21	10	0.29	45	1.33	144	4.24	398	11.72	730	21.50	801	23.59	612	18.02	382	11.25	178	5.24	59	1.74	23	0.68	5	0.15	2	0.06	0	0.00	0	0.00
	併用	304	2	0.66	1	0.33	2	0.66	10	3.29	26	8.55	92	30.26	64	21.05	57	18.75	21	6.91	19	6.25	8	2.63	1	0.33	1	0.33	0	0.00	0	0.00	0	0.00
23	総数	1,214																														
	水銀	213	0	0.00	0	0.00	2	0.94	9	4.23	21	9.86	71	33.33	20	9.39	50	23.47	14	6.57	24	11.27	1	0.47	1	0.47	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	自動	948	0	0.00	3	0.32	10	1.05	50	5.27	126	13.29	193	20.36	222	23.42	161	16.98	97	10.23	57	6.01	19	2.00	7	0.74	0	0.00	2	0.21	0	0.00	1	0.11
	併用	80	0	0.00	0	0.00	0	0.00	3	3.75	3	3.75	17	21.25	19	23.75	18	22.50	10	12.50	6	7.50	3	3.75	1	1.25	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
24	総数	492																														
	水銀	75	0	0.00	0	0.00	2	2.67	3	4.00	4	5.33	20	26.67	7	9.33	25	23.33	5	6.67	6	8.00	3	4.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	自動	386	0	0.00	3	0.78	6	1.55	21	5.44	42	10.88	84	21.76	86	22.28	80	20.73	39	10.10	15	3.89	6	1.55	1	0.26	2	0.52	0	0.00	0	0.00	1	0.26
	併用	31	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	3.23	1	3.23	8	25.81	6	19.35	10	32.26	1	3.23	4	12.90	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
25以上	総数	721																														
	水銀	123	0	0.00	0	0.00	1	0.81	3	2.44	11	8.94	45	36.59	17	13.82	24	19.51	6	4.88	10	8.13	6	4.88	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	自動	524	1	0.19	2	0.38	7	1.34	15	2.86	59	11.26	112	21.37	110	20.99	109	20.80	59	11.26	31	5.92	15	2.86	2	0.38	2	0.38	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	併用	74	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	8	10.81	18	24.32	13	17.57	19	25.68	8	10.81	4	5.41	2	2.70	1	1.35	0	0.00	1	1.35	0	0.00	0	0.00

表 6 .10　二次検診で集計された対象者と血圧測定法

[65校集計]

	対象者数	水銀血圧計		自動血圧計		両者併用		未受診	
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数	10,444	2,635	25.23	4,295	41.12	711	6.81	2,803	26.84
男	9,113	2,303	25.27	3,788	41.57	669	7.34	2,353	25.82
女	1,331	332	24.94	507	38.09	42	3.16	450	33.81
受診者総数	7,641	2,635	34.49	4,295	56.21	711	9.30	—	—
男	6,760	2,303	34.07	3,788	56.03	669	9.90	—	—
女	881	332	37.68	507	57.55	42	4.77	—	—

表6.11　二次検診における血圧および脈拍数の平均値と標準偏差

1．男

［血圧は70校，脈拍は43校集計］

	全　体	18　歳	19　歳	20　歳	21　歳	22　歳	23　歳	24　歳	25歳以上
総　数	7,010	1,607	1,258	678	1,825	1,001	342	143	156
収縮期血圧	133.8	133.5	133.9	134.3	134.1	133.1	134.1	133.7	125.8
標準偏差	11.83	12.29	12.04	11.54	11.66	11.48	11.55	11.40	11.15
総　数	7,011	1,608	1,259	678	1,827	1,000	340	143	156
拡張期血圧	76.0	74.1	75.4	76.3	76.8	76.5	77.4	77.8	81.7
標準偏差	9.86	9.95	9.93	10.11	9.59	9.48	9.74	9.41	8.70
総　数	3,915	965	701	361	1,020	567	164	57	80
脈　拍	84.6	84.9	84.7	82.5	84.5	85.3	85.6	80.6	84.0
標準偏差	16.36	16.68	16.90	16.47	16.40	15.53	15.22	15.50	13.75

2．女

	全　体	18　歳	19　歳	20　歳	21　歳	22　歳	23　歳	24　歳	25歳以上
総　数	906	329	167	116	209	51	19	3	12
収縮期血圧	119.0	118.0	119.7	117.7	121.1	121.3	113.5	124.0	115.1
標準偏差	16.18	15.09	16.70	17.62	16.47	16.59	14.55	4.97	13.71
総　数	912	333	167	117	210	15	19	3	12
拡張期血圧	69.9	68.4	69.4	69.7	72.8	71.5	66.2	76.3	65.5
標準偏差	10.95	10.18	10.34	11.26	11.91	10.98	8.92	3.30	10.60
総　数	413	147	83	61	87	26	6	1	2
脈　拍	86.0	86.8	84.6	82.6	87.6	88.5	92.0	78.0	82.0
標準偏差	17.40	16.66	16.29	19.01	18.40	15.48	16.25	0.00	25.00

3．男女合計

	全　体	18　歳	19　歳	20　歳	21　歳	22　歳	23　歳	24　歳	25歳以上
総　数	7,916	1,936	1,425	794	2,034	1,052	361	146	168
収縮期血圧	132.1	130.9	132.3	131.9	132.8	132.5	133.0	133.5	134.4
標準偏差	13.27	14.08	13.48	13.91	12.86	12.05	12.6	11.39	12.55
総　数	7,923	1,941	1,426	795	2,037	1,051	359	146	168
拡張期血圧	75.3	73.1	74.7	75.4	76.4	76.3	76.8	77.7	80.5
標準偏差	10.18	10.22	10.16	10.55	9.93	9.62	10.01	9.32	9.78
総　数	4,328	1,112	784	422	1,107	593	170	58	82
脈　拍	84.7	85.2	84.7	82.5	84.7	85.5	85.8	80.5	84.0
標準偏差	16.47	16.69	16.84	16.86	16.58	15.54	15.30	15.36	14.14

表 6 .12　二次検診における収縮期血圧の度数分布

［70校集計］

収縮期血圧			89mmHg以下		90～99		100～109		110～119		120～129		130～139		140～149		150～159		160～169		170～179		180以上	
		対象者数	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数		7,916	12	0.16	113	1.43	319	4.03	656	8.29	1,720	21.73	3,327	42.03	1,112	14.05	475	6.00	136	1.72	33	0.42	13	0.17
男		7,010	0	0.00	24	0.34	137	1.95	482	6.88	1,538	21.94	3,126	44.59	1,074	15.32	455	6.49	130	1.85	32	0.46	12	0.17
女		906	12	1.32	89	9.82	182	20.09	174	19.21	182	20.09	201	22.19	38	4.19	20	2.21	6	0.66	1	0.11	1	0.11
18歳	総数	1,936	4	0.21	36	1.86	106	5.48	211	10.90	423	21.85	741	38.27	252	13.02	116	5.99	38	1.96	7	0.36	2	0.10
	男	1,607	0	0.00	6	0.37	35	2.18	141	8.77	349	21.72	680	42.31	241	15.00	111	6.91	35	2.18	7	0.44	2	0.12
	女	329	4	1.22	30	9.12	71	21.58	70	21.28	74	22.49	61	18.54	11	3.34	5	1.52	3	0.91	0	0.00	0	0.00
19	総数	1,425	2	0.14	25	1.75	56	3.93	115	8.07	307	21.54	584	40.98	202	14.18	106	7.44	20	1.40	6	0.42	2	0.14
	男	1,258	0	0.00	7	0.56	20	1.59	88	7.00	276	21.94	545	43.32	196	15.58	99	7.87	19	1.51	6	0.48	2	0.16
	女	167	2	1.20	18	10.78	36	21.56	27	16.17	31	18.56	39	23.35	6	3.59	7	4.19	1	0.60	0	0.00	0	0.00
20	総数	794	2	0.26	18	2.27	37	4.66	68	8.56	145	18.26	342	43.07	110	13.85	52	6.55	15	1.89	4	0.50	1	0.13
	男	678	0	0.00	3	0.44	13	1.92	43	6.34	128	18.88	317	46.76	108	15.93	49	7.23	13	1.92	3	0.44	1	0.15
	女	116	2	1.72	15	12.93	24	20.69	25	21.55	17	14.66	25	21.55	2	1.72	3	2.59	2	1.72	1	0.86	0	0.00
21	総数	2,034	4	0.20	21	1.03	62	3.05	134	6.59	454	22.32	937	46.07	263	12.93	106	5.21	36	1.77	11	0.54	6	0.30
	男	1,825	0	0.00	4	0.22	31	1.70	98	5.37	410	22.47	878	48.11	249	13.64	103	5.64	36	1.97	11	0.60	5	0.26
	女	209	4	1.92	17	8.13	31	14.83	36	17.22	44	21.05	59	28.23	14	6.70	3	1.44	0	0.00	0	0.00	1	0.48
22	総数	1,052	0	0.00	7	0.67	35	3.33	81	7.70	261	24.81	437	41.54	155	14.73	55	5.23	16	1.52	3	0.29	2	0.19
	男	1,001	0	0.00	2	0.20	26	2.60	69	6.89	253	25.27	426	42.56	151	15.08	53	5.29	16	1.60	3	0.30	2	0.20
	女	51	0	0.00	5	9.80	9	17.65	12	23.53	8	15.69	11	21.57	4	7.84	2	3.92	0	0.00	0	0.00	0	0.00
23	総数	361	0	0.00	4	1.11	15	4.16	28	7.76	63	17.45	162	44.88	64	17.73	17	4.71	7	1.94	1	0.28	0	0.00
	男	342	0	0.00	1	0.29	8	2.34	28	8.19	58	16.96	159	46.49	63	18.42	17	4.97	7	2.05	1	0.29	0	0.00
	女	19	0	0.00	3	15.79	7	36.84	0	0.00	5	26.32	3	15.79	1	5.26	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
24	総数	146	0	0.00	1	0.68	2	1.37	10	6.85	34	23.29	57	39.04	31	21.23	9	6.16	2	1.37	0	0.00	0	0.00
	男	143	0	0.00	1	0.70	2	1.40	9	6.29	32	22.38	57	39.86	31	21.68	9	6.29	2	1.40	0	0.00	0	0.00
	女	3	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	33.33	2	66.67	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
25以上	総数	168	0	0.00	1	0.60	6	3.57	9	5.36	33	19.64	67	39.88	35	20.83	14	8.33	2	1.19	1	0.60	0	0.00
	男	156	0	0.00	0	0.00	2	1.28	6	3.85	32	20.51	64	41.03	35	22.44	14	8.97	2	1.28	1	0.64	0	0.00
	女	12	0	0.00	1	8.33	4	33.33	3	25.00	1	8.33	3	25.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00

表 6 .13　二次検診における拡張期血圧の度数分布

［70校集計］

拡張期血圧			39mmHg以下		40～44		45～49		50～54		55～59		60～64		65～69		70～74		75～79		80～84		85～89		90～94		95～99		100～104		105～109		110以上	
		対象者数	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数		7,923	23	0.29	17	0.21	35	0.44	130	1.64	259	3.27	668	8.43	841	10.61	1,574	19.87	1,391	17.56	1,677	21.17	827	10.44	307	3.87	95	1.20	53	0.67	14	0.18	12	0.15
男		7,011	21	0.30	13	0.19	28	0.40	85	1.21	170	2.42	494	7.05	713	10.17	1,424	20.31	1,276	18.20	1,575	22.46	767	10.94	281	4.01	87	1.24	51	0.73	14	0.20	12	0.17
女		912	2	0.22	4	0.44	7	0.77	45	4.93	89	9.76	174	19.08	128	14.04	150	16.45	115	12.61	102	11.18	60	6.58	26	2.85	8	0.88	2	0.22	0	0.00	0	0.00
18歳	総数	1,941	6	0.31	7	0.36	13	0.67	40	2.06	94	4.84	227	11.70	255	13.14	422	21.74	314	16.18	340	17.52	139	7.16	52	2.68	21	1.08	10	0.52	0	0.00	1	0.05
	男	1,608	6	0.37	4	0.25	9	0.56	25	1.55	57	3.54	155	9.64	198	12.31	370	23.01	274	17.04	309	19.22	126	7.84	46	2.86	18	1.12	10	0.62	0	0.00	1	0.06
	女	333	0	0.00	3	0.90	4	1.20	15	4.50	37	11.11	72	21.62	57	17.12	52	15.62	40	12.01	31	9.31	13	3.90	6	1.80	3	0.90	0	0.00	0	0.00	0	0.00
19	総数	1,426	2	0.14	3	0.21	5	0.35	31	2.17	48	3.37	136	9.54	155	10.87	303	21.25	241	16.90	284	19.92	134	9.40	60	4.21	12	0.84	8	0.56	1	0.07	3	0.21
	男	1,259	2	0.16	3	0.24	5	0.40	21	1.67	31	2.46	103	8.18	136	10.80	265	21.05	221	17.55	272	21.60	121	9.61	55	4.37	12	0.95	8	0.64	1	0.08	3	0.24
	女	167	0	0.00	0	0.00	0	0.00	10	5.99	17	10.18	33	19.76	19	11.38	38	22.75	20	11.98	12	7.19	13	7.78	5	2.99	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
20	総数	795	4	0.50	4	0.50	4	0.50	11	1.38	27	3.40	68	8.55	81	10.19	153	19.25	128	16.10	185	23.27	70	8.81	43	5.41	12	1.51	2	0.25	2	0.25	1	0.13
	男	678	2	0.29	4	0.59	4	0.59	6	0.88	15	2.21	47	6.93	61	9.00	136	20.06	116	17.11	168	24.78	64	9.44	39	5.75	11	1.62	2	0.29	2	0.29	1	0.15
	女	117	2	1.71	0	0.00	0	0.00	5	4.27	12	10.26	21	17.95	20	17.09	17	14.53	12	10.26	17	14.53	6	5.13	4	3.42	1	0.85	0	0.00	0	0.00	0	0.00
21	総数	2,037	8	0.39	2	0.10	8	0.39	28	1.37	51	2.50	129	6.33	185	9.08	389	19.10	389	19.10	467	22.93	256	12.57	73	3.58	25	1.23	17	0.83	6	0.29	4	0.20
	男	1,827	8	0.44	2	0.11	5	0.27	17	0.93	36	1.97	99	5.42	163	8.92	359	19.65	360	19.70	436	23.86	232	12.70	63	3.45	22	1.20	15	0.82	6	0.33	4	0.22
	女	210	0	0.00	0	0.00	3	1.43	11	5.24	15	7.14	30	14.29	22	10.48	30	14.29	29	13.81	31	14.76	24	11.43	10	4.76	3	1.43	2	0.95	0	0.00	0	0.00
22	総数	1,051	2	0.19	0	0.00	3	0.29	12	1.14	32	3.04	70	6.66	111	10.56	184	17.51	205	19.51	243	23.12	120	11.42	45	4.28	12	1.14	9	0.86	2	0.19	1	0.10
	男	1,000	2	0.20	0	0.00	3	0.30	10	1.00	26	2.60	63	6.30	104	10.40	176	17.60	198	19.80	235	23.50	116	11.60	44	4.40	11	1.10	9	0.90	2	0.20	1	0.10
	女	51	0	0.00	0	0.00	0	0.00	2	3.92	6	11.76	7	13.73	7	13.73	8	15.69	7	13.73	8	15.69	4	7.84	1	1.96	1	1.96	0	0.00	0	0.00	0	0.00
23	総数	359	1	0.28	0	0.00	2	0.56	7	1.95	5	1.39	22	6.13	31	8.64	74	20.61	61	16.99	78	21.73	55	15.32	13	3.62	6	1.67	3	0.84	0	0.00	1	0.28
	男	340	1	0.29	0	0.00	2	0.59	6	1.76	3	0.88	14	4.12	31	9.12	71	20.88	57	16.76	77	22.65	55	16.18	13	3.82	6	1.76	3	0.88	0	0.00	1	0.29
	女	19	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	5.26	2	10.53	8	42.11	0	0.00	3	15.79	4	21.05	1	5.26	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
24	総数	146	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	2	1.37	11	7.53	10	6.85	30	20.55	28	19.18	30	20.55	21	14.38	9	6.16	1	0.68	3	2.05	1	0.68	0	0.00
	男	143	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	2	1.40	11	7.69	10	6.99	29	20.28	27	18.88	29	20.28	21	14.69	9	6.29	1	0.70	3	2.10	1	0.70	0	0.00
	女	3	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	33.33	1	33.33	1	33.33	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
25以上	総数	168	0	0.00	1	0.60	0	0.00	1	0.60	0	0.00	5	2.98	13	7.74	19	11.31	25	14.88	50	29.76	32	19.05	12	7.14	6	3.57	1	0.60	2	1.19	1	0.60
	男	156	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	2	1.28	10	6.41	18	11.54	23	14.74	49	31.41	32	20.51	12	7.69	6	3.85	1	0.64	2	1.28	1	0.64
	女	12	0	0.00	1	8.33	0	0.00	1	8.33	0	0.00	3	25.00	3	25.00	1	8.33	2	16.67	1	8.33	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00

表 6 .14　二次検診における脈拍数の度数分布　　[43校集計]

脈拍数			49拍／分以下		50～59		60～69		70～79		80～89		90～99		100～109		110～119		120～129		130以上	
		対象者数	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数		4,328	8	0.18	105	2.43	601	13.89	1,087	25.12	1,061	24.51	674	15.57	423	9.77	223	5.15	96	2.22	50	1.16
男		3,915	7	0.18	92	2.35	553	14.13	990	25.29	955	24.39	611	15.61	381	9.73	200	5.11	85	2.17	41	1.05
女		413	1	0.24	13	3.15	48	11.62	97	23.49	106	25.67	63	15.25	42	10.17	23	5.57	11	2.66	9	2.18
18歳	総数	1,112	2	0.18	29	2.61	158	14.21	268	24.10	257	23.11	174	15.65	111	9.98	78	7.01	26	2.34	9	0.81
	男	965	2	0.21	26	2.69	139	14.40	234	24.25	224	23.21	147	15.23	97	10.05	67	6.94	22	2.28	7	0.73
	女	147	0	0.00	3	2.04	19	12.93	34	23.13	33	22.45	27	18.37	14	9.52	11	7.48	4	2.72	2	1.36
19	総数	784	2	0.26	21	2.68	113	14.41	196	25.00	189	24.11	115	14.67	81	10.33	35	4.46	22	2.81	10	1.28
	男	701	2	0.29	17	2.43	105	14.98	173	24.68	169	24.11	102	14.55	73	10.41	30	4.28	21	3.00	9	1.28
	女	83	0	0.00	4	4.82	8	9.64	23	27.71	20	24.10	13	15.66	8	9.64	5	6.02	1	1.20	1	1.20
20	総数	422	3	0.71	13	3.08	76	18.01	116	27.49	92	21.80	58	13.74	35	8.29	15	3.55	9	2.13	5	1.18
	男	361	2	0.55	11	3.05	64	17.73	101	27.98	78	21.61	53	14.68	28	7.76	13	3.60	7	1.94	4	1.11
	女	61	1	1.64	2	3.28	12	19.67	15	24.59	14	22.95	5	8.20	7	11.48	2	3.28	2	3.28	1	1.64
21	総数	1,107	1	0.09	30	2.71	145	13.10	266	24.03	287	25.93	182	14.44	108	9.76	45	4.07	25	2.26	18	1.63
	男	1,020	1	0.10	27	2.65	137	13.43	249	24.41	259	25.39	170	16.67	98	9.61	43	4.22	22	2.16	14	1.37
	女	87	0	0.00	3	3.45	8	9.20	17	19.54	28	32.18	12	13.79	10	11.49	2	2.30	3	3.45	4	4.60
22	総数	593	0	0.00	7	1.18	68	11.47	153	25.80	162	27.32	95	16.02	58	9.78	34	5.73	9	1.52	7	1.18
	男	567	0	0.00	7	1.23	67	11.82	148	26.10	152	26.81	89	15.70	57	10.05	33	5.82	8	1.41	6	1.06
	女	26	0	0.00	0	0.00	1	3.85	5	19.23	10	38.46	6	23.08	1	3.85	1	3.85	1	3.85	1	3.85
23	総数	170	0	0.00	1	0.59	20	11.76	46	27.06	40	23.53	32	18.82	17	10.00	11	6.47	2	1.18	1	0.59
	男	164	0	0.00	1	0.61	20	12.20	44	26.83	39	23.78	32	19.51	16	9.76	9	5.49	2	1.22	1	0.61
	女	6	0	0.00	0	0.00	0	0.00	2	33.33	1	16.67	0	0.00	1	16.67	2	33.33	0	0.00	0	0.00
24	総数	58	0	0.00	1	1.72	13	22.41	22	37.93	8	13.79	8	13.79	3	5.17	1	1.72	2	3.45	0	0.00
	男	57	0	0.00	1	1.75	13	22.81	21	36.84	8	14.04	8	14.04	3	5.26	1	1.75	2	3.51	0	0.00
	女	1	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	100.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
25以上	総数	82	0	0.00	3	3.66	8	9.76	20	24.39	26	31.71	10	12.20	10	12.20	4	4.88	1	1.22	0	0.00
	男	80	0	0.00	2	2.50	8	10.00	20	25.00	26	32.50	10	12.50	9	11.25	4	5.00	1	1.25	0	0.00
	女	2	0	0.00	1	50.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	50.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00

表 6 .15　一次ならびに二次検診において高血圧を示した学生の頻度と指導区分

1．一次検診

	対象者数	収縮期血圧(mmHg)						拡張期血圧(mmHg)					
		130～139		140～159		160以上		85～89		90～94		95以上	
		実　数	%	実　数	%	実　数	%	実　数	%	実　数	%	実　数	%
総　数	225,988	45,143	19.98	14,137	6.26	1,273	0.57	7,894	3.49	2,531	1.12	1,311	0.59
男	149,638	39,232	26.22	13,140	8.78	1,212	0.80	6,611	4.42	2,214	1.48	1,168	0.78
女	76,350	5,911	7.74	997	1.31	61	0.09	1,283	1.68	317	0.42	143	0.19

2．二次検診

	対象者数	収縮期血圧(mmHg)						拡張期血圧(mmHg)					
		130～139		140～159		160以上		85～89		90～94		95以上	
		実　数	%	実　数	%	実　数	%	実　数	%	実　数	%	実　数	%
総　数	7,916	3,327	42.03	1,587	20.05	182	2.31	827	10.44	307	3.87	174	2.20
男	7,010	3,126	44.59	1,529	21.81	174	2.48	767	10.94	281	4.01	164	2.34
女	906	201	22.19	58	6.40	8	0.88	60	6.58	26	2.85	10	1.10

3．指導区分

	対象者数	未受診		放置可		要観察		要精査		要医療	
		実　数	%	実　数	%	実　数	%	実　数	%	実　数	%
総　数	12,681	5,722	45.12	5,311	42.04	1,460	11.51	148	1.17	20	0.16
受診者数	6,959				＊76.61		＊20.98		＊2.13		＊0.29
男	10,003	3,866	38.65	4,623	46.22	1,355	13.92	140	1.40	19	0.19
受診者数	6,137				＊75.33		＊22.08		＊2.28		＊0.31
女	2,678	1,856	69.31	708	26.44	105	3.92	8	0.30	1	0.04
受診者数	822				＊86.13		＊12.77		＊0.97		＊0.12

＊印は受診者に対する比率

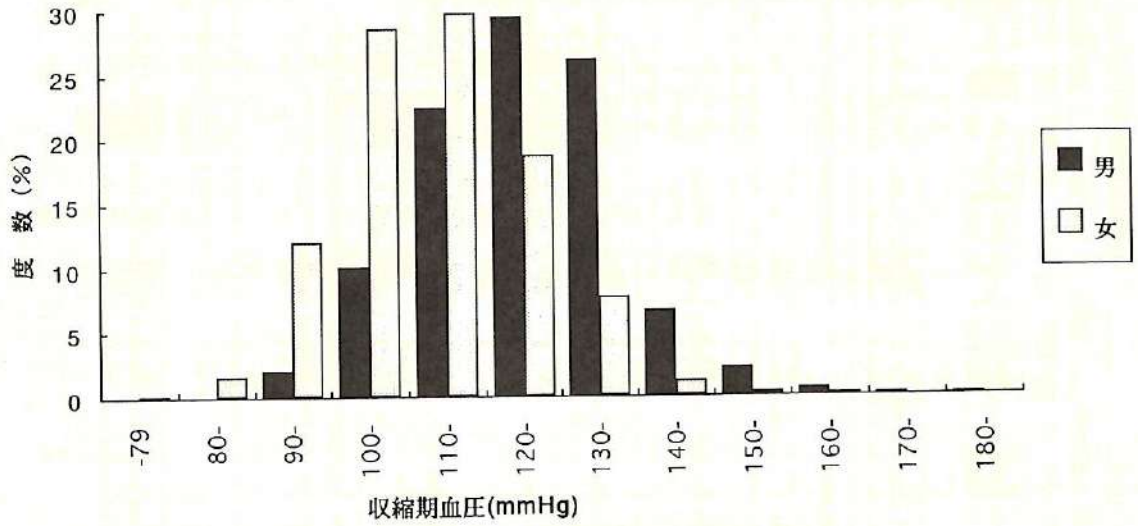


図６．１　一次検診における収縮期血圧の度数分布

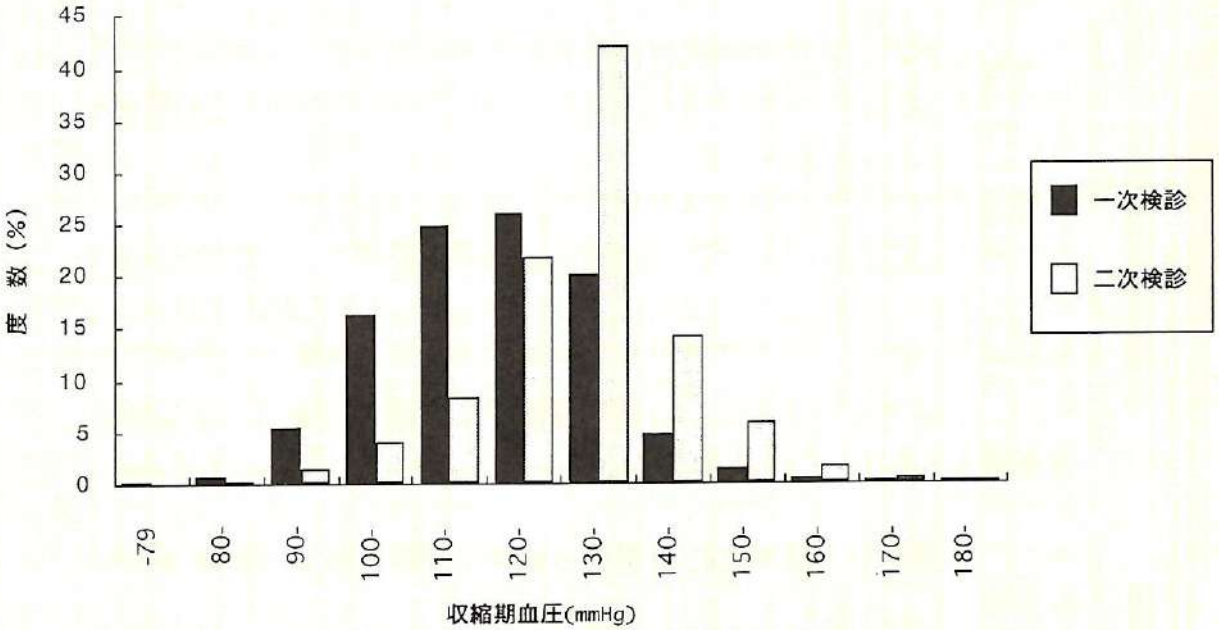


図６．２　一次および二次検診における収縮期血圧の度数分布

7．心電図検査

7．1　はじめに

今回の調査に当たり，健康診断を受診した個々の学生の心電図の解析より，むしろその情報を如何に入手し解析して，二次検診または精密検診に反映させているか，およびその結果を学生の健康管理にどのように活用化しているか等の，心電図検査の利用の仕方に絞って検討した．これは純心電図学的な価値は減るものの，今後の学生の健康管理の方向を探る上で重要と考えたためである．

具体的には体格とST－T波の変化，不整脈の頻度と体格とST－T波の変化，さらには僧帽弁逸脱症（Mitral Valve Prolapse）に報告されているような不整脈と性格の問題など大きな問題も興味深いが，これは続編として出版予定の「応用研究編」に譲る．

7．2　診断法

心電図検査の実施校は32校（対象校95の中33.7％）で，対象学生数は計36,298名だった（表7．1）．残り63校で，心疾患の既往や自覚症状のある場合に一部の学生に限って行っているか全く検査を施行していないか今回の調査では不明である．受診者数は18歳と19歳に集中しているが，これは各施設が新入生を中心に心電図検査を実施しているためと考えられる．ただし全体の1％以下の年齢集団は，特殊な場合が含まれることを予想し厳密な検討には敢えて加えなかった．

診断方法として循環器専門医が独自に，または自動診断所見を参考にする場合が54.5％を占め，次に内科医が自動診断を参考にして判断する場合が多く，43.8％となり，この2者にほぼ限られており，自動診断装置にのみ頼るケースは皆無で，最終的に臨床医の眼で確認している．

有所見率は表7．2にまとめるように対象者数，男子32,906名，女子16,073名で，受診率はそれぞれ78.9％，77.4％であり，男女間に大きな差は見られなかった．更に何らかの所見を有した学生は男子で12.0％，女子で9.5％で明らかに男子学生に多かった．またその傾向は18歳から22歳まで一貫して10から20％台で男女間で差が認められた．なお先程と同様，全体の5％以下の年齢層の学生は個別の事情によるバイアスがかかる事を避けるために，敢えて全体の議論には加えなかった．

7．3　1次検診結果

7．3．1　不整脈

先程と同様，総数の5％以下の層を除くと，全て女子の方が不整脈陽性者が高い傾向を認めた（表7．3）．この中で，呼吸性不整脈が最も多く，不整脈全体の中で男子，71.0％，女子，78.9％を占めた（表7．4）．次いで上室性不整脈（表7．5；男，14.0％，女，10.3％），心室性不整脈（表7．6；男，6.1％，女，4.4％），WPW症候群（表7．7；男，3.4％，女，0.7％）と続いた．上記のように各不整脈を個別に見ると呼吸性不整脈が女性に多発した例を除くと，他の不整脈は全て男女間に有意差がなかった（表7．4～6）．またWPW症候群では，男子，1.0％，女子，0.3％，平均0.8％と一般的に言われている0.5％よりやや多かった（表7．7）．

7．3．2　ST部分の変化

ST部分に変化を示した者は男子で，2.6％，女子で3.7％，平均2.9％あり，ST上昇を示した者は男子で1.8％，女子で0.7％，平均1.5％，ST部

分の下降を示した者は男子で0.8%，女子で3.0%，平均で1.4%であった（表７．８）．男子で上昇を示す割合が多く，女子で下降を示す割合が各年齢層に共通して多かった事は非常に興味深い．

７．３．３　T波の変化

T波に変化を示した者は，男子で8.8%，女子で7.2%あった（表７．９）．この中でT波の平低化を認めた者は，男子で4.6%，女子で4.3%と差が認められなかった．しかしT波の陰性化，および増高を示した例は，男子で各々0.6%および3.6%，女子で2.7%および0.2%と大きく解離した．男子でT波の増高が多く，女子で陰性化が多い傾向は，ほぼ各年齢層に共通して認められた．

７．３．４　その他の異常

今回の心電図検査に関する集計は不整脈を中心に上記の異常について行われた．それ以外はその他の異常所見としてまとめて表７.10に記載した．

７．４　精密検診

７．４．１　不整脈の精密検査の必要性

一次検診の結果，その対象者数は3,573名（男2,337名，女1,236名）に絞られ（表７.11），この中で精検が必要と考えられた割合は全体で8.0%，男子で8.6%，女子で6.9%であった．男子の方が女子より精検が必要と考えられた割合が多い傾向は18歳から21歳迄ほぼ全ての年齢層に認められた．なおこれまでと同様，この解析の際に全体の５%以下の群は特殊な事情によって対象者に含まれるバイアスを防ぐために敢えて加えなかった．

７．４．２　精密検査の実施数

精検の必要性を認識していても，実際に施行した数は急激に減る（表７.12）．年齢層で比較すると，総数は少ないものの21歳と22歳に男女とも集中して多い事は，卒業前の学生を念入りに精検したと思われ，保健センターの配慮が窺われる．複数回答も含んで具体的に実施した検査項目は超音波検査が比較的多く（6.3%），ホルター心電図と運動負荷心電図がほぼ同じで4.0%と3.7%を示した（表７.13～16）．

７．４．３　ST-Tの異常者の精密検査の必要性

一次検診でST-T波に異常を示し，精検の必要性は全体で121名（6.8%），男子で74名（6.4%），女子で47名（7.4%）に認めた（表７.17）．対象となった割合は18歳から21歳の各年齢層とも女子の方がやや多かった（表７.17）．実際に精検を施行した割合は全体で9.2%，男子で9.7%，女子で8.4%と大差がなく，18歳と19歳の間にも格差はなかった（表７.18）．先の不整脈の精査と同様，男女とも21歳と22歳が際立って実施した割合が多かった事実は卒業前の精検を重視した結果と推定される．

７．４．４　ST-Tの異常者の精密検査の実施状況

具体的に精検として実施した検査項目は超音波検査が最も多く（7.5%），運動負荷検査の3.1%がこれに次ぎ，心臓カテーテル検査まで行った例は全国で１例もなかった（表７.19～21）．また一般にST-Tの変化は体位，呼吸や脈拍によって変化する事が知られており，再検査の有無を調査した結果4.2%で施行していた（表７.22）．先程と同様この中でも21歳と22歳に際だって高い事は絶対数は少ないが注目に値する．

７．４．５　心電図異常者の最終指導区分

今回の調査に当たり，心電図異常を呈した学生を如何に指導したか知ることは大きな目的の一つである．表７.23にまとめたように男女総数の7.7%が要観察に回され，実際に精密検査の対象になった症例は1.0%，医療の対象になった症例は0.3

%であった．こうした数字の多寡に関しては次回発行予定の「応用研究編」に譲るが，高学年になるほど対象数は減るものの，要観察例数と要精査例数の占める割合は増加し，慎重な指導が窺われる．また要医療者が高学年になるほど減少するものも実際に医療を開始した結果と推察され全体として好ましい結果と考える．

男女間に大きな差は認められないが，概して要観察，要医療の割合が男子学生に多い傾向を示した．これは男子学生に重症の心電図異常を認めた結果を反映している．

〔豊岡照彦〕

表 7．1　診断法

[32校集計]

	＊対象者数	専門医		内科医		自動診断のみ	専門医＋自動診断		内科医＋自動診断		その他	
		実数	%	実数	%		実数	%	実数	%	実数	%
男女総数	36,298	14,546	40.1	1,283	3.5	0	5,223	14.4	14,617	40.3	629	1.7
18歳	20,461	8,333	40.7	843	4.1	0	2,139	10.5	8,683	42.4	463	2.3
19	7,850	2,687	34.2	316	4.0	0	1,331	17.0	3,391	43.2	125	1.6
20	1,813	546	30.1	73	4.0	0	365	20.1	802	44.3	27	1.5
21	3,471	1,702	49.0	14	0.4	0	675	19.5	1,075	31.0	5	0.1
22	1,641	747	45.5	6	0.4	0	509	31.0	376	22.9	3	0.2
23	570	293	51.4	4	0.7	0	125	21.9	146	25.6	2	0.4
24	244	128	52.4	8	3.3	0	37	15.2	69	28.3	2	0.8
25以上	248	110	44.4	19	7.7	0	42	16.9	75	30.2	2	0.8

男

	＊対象者数	専門医		内科医		自動診断のみ	専門医＋自動診断		内科医＋自動診断		その他	
		実数	%	実数	%		実数	%	実数	%	実数	%
総数	23,997	9,446	39.3	856	3.6	0	4,249	17.7	9,138	38.1	308	1.3
18歳	12,171	4,828	39.7	526	4.3	0	1,607	13.2	5,004	41.1	206	1.7
19	5,601	1,850	33.0	232	4.2	0	1,055	18.8	2,391	42.7	73	1.3
20	1,488	417	28.0	60	4.0	0	308	20.7	687	46.2	16	1.1
21	2,386	1,233	51.7	10	0.4	0	613	25.7	525	22.0	5	0.2
22	1,418	651	45.9	6	0.4	0	476	33.6	282	19.9	3	0.2
23	519	264	50.9	4	0.8	0	120	23.1	130	25.1	1	0.1
24	210	110	52.4	6	2.9	0	33	15.7	59	28.1	2	0.9
25以上	204	93	45.6	12	5.9	0	37	18.1	60	29.4	2	1.0

女

総数	12,301	5,100	41.5	427	3.5	0	974	7.9	5,479	44.5	321	2.6
18歳	8,290	3,505	42.3	317	3.8	0	532	6.4	3,679	44.4	257	3.1
19	2,249	837	37.2	84	3.7	0	276	12.3	1,000	44.5	52	2.3
20	325	129	39.7	13	4.0	0	57	17.5	115	35.4	11	3.4
21	1,085	469	43.2	4	0.4	0	62	5.7	550	50.7	0	0.0
22	223	96	43.0	0	0	0	33	14.8	94	42.2	0	0.0
23	51	29	56.9	0	0	0	5	9.8	16	31.4	1	1.9
24	34	18	52.9	2	5.9	0	4	11.8	10	29.4	0	0.0
25以上	44	17	38.6	7	15.9	0	5	11.4	15	34.1	0	0.0

＊対象者数は心電図判定法が記載されていた件数である．

表７．２　有所見者数

[32校集計]

男

	対象者数	受診者数	受診率(%)	有所見者数	有所見率(%)
総　数	32,906	25,971	78.9	3,947	12.0
18歳	14,200	11,731	82.6	1,917	13.5
19	7,627	5,911	77.5	924	12.1
20	2,577	1,954	75.8	241	9.4
21	4,201	2,902	69.1	470	11.2
22	2,695	2,456	91.1	239	8.9
23	992	626	63.1	98	9.9
24	359	230	64.1	40	11.1
25以上	255	161	63.1	18	7.1

女

総　数	16,018	12,390	77.4	1,517	9.5
18歳	9,210	7,984	86.7	952	10.3
19	3,146	2,379	75.6	280	8.9
20	784	443	56.5	55	7.0
21	2,098	1,212	57.8	183	8.7
22	565	260	46.0	35	6.2
23	110	55	50.0	7	6.4
24	69	37	53.6	4	5.8
25以上	36	20	55.6	1	2.8

表７．３　不整脈

年齢	男総数	陽性者数		女総数	陽性者数	
		実数	%		実数	%
総数	6,401	1,719	26.9	2,516	980	39.0
18歳	2,845	1,004	35.3	1,510	710	47.0
19	1,112	402	36.2	378	174	46.0
20	219	80	36.5	44	15	34.1
21	1,136	127	11.2	432	66	15.3
22	623	55	8.8	96	11	11.5
23	261	28	10.7	23	1	4.3
24	110	10	9.1	18	0	0.0
25以上	95	13	13.7	15	3	20.0

表 7．4　呼吸性不整脈

年齢	男総数	陽性者数		女総数	陽性者数	
		実数	%		実数	%
総数	6,125	1,220	19.9	2,316	773	33.4
18歳	2,595	681	26.2	1,287	537	41.8
19	1,021	263	25.8	357	138	38.9
20	206	56	27.2	46	13	30.4
21	1,175	122	10.4	471	73	15.7
22	657	58	8.8	98	9	10.2
23	268	26	9.7	25	1	4.0
24	109	10	9.2	19	1	5.3
25以上	94	4	4.3	13	1	7.7

表 7．5　その他の上室性不整脈

年齢	男総数	陽性者数		女総数	陽性者数	
		実数	%		実数	%
総数	5,824	240	4.1	2,031	101	5.0
18歳	2,408	94	3.9	1,083	57	5.3
19	934	60	6.4	289	17	5.9
20	189	19	10.1	39	2	5.1
21	1,166	29	2.5	466	22	4.7
22	655	23	3.5	98	3	3.1
23	267	5	1.9	25	0	0.0
24	109	2	1.8	19	0	0.0
25以上	96	8	8.3	12	0	0.0

表 7．6　心室性不整脈

年齢	男総数	陽性者数		女総数	陽性者数	
		実数	%		実数	%
総数	5,811	104	1.8	2,028	43	2.1
18歳	2,396	46	1.9	1,076	26	2.4
19	934	30	3.2	293	9	3.1
20	191	11	5.8	39	1	2.6
21	1,166	6	0.5	466	6	1.3
22	655	7	1.1	98	1	1.0
23	267	2	0.7	25	0	0.0
24	109	0	0.0	19	0	0.0
25以上	93	2	2.2	12	0	0.0

表７．７　ＷＰＷ症候群

年齢	男総数	陽性者数		女総数	陽性者数	
		実数	%		実数	%
総数	5,802	59	1.0	2,010	7	0.3
18歳	2,389	26	1.1	1,068	2	0.2
19	933	17	1.8	288	3	1.0
20	189	4	2.1	40	1	2.5
21	1,166	7	0.6	465	0	0.0
22	655	1	0.2	93	1	1.0
23	268	3	1.1	25	0	0.0
24	109	1	0.9	19	0	0.0
25以上	93	0	0.0	12	0	0.0

表７．８　ＳＴ部分の変化

男

年齢	総数	陽性者数		ＳＴ上昇者数		ＳＴ下降者数	
		実数	%	実数	%	実数	%
総数	6,017	158	2.6	109	1.8	49	0.8
18歳	2,525	72	2.9	50	2.0	22	0.9
19	991	40	4.0	30	3.0	10	1.0
20	194	8	4.1	3	1.5	5	2.6
21	1,176	25	2.1	17	1.4	8	0.7
22	657	7	1.1	5	0.8	2	0.3
23	270	4	1.5	3	1.1	1	0.4
24	111	1	0.9	0	0.0	1	0.9
25以上	93	1	1.1	1	1.1	0	0.0

女

総数	2,178	81	3.7	15	0.7	66	3.0
18歳	1,190	53	4.5	5	0.5	48	4.0
19	317	15	4.7	3	0.9	12	3.8
20	43	1	2.3	0	0.0	1	2.3
21	473	8	1.7	5	1.1	3	0.6
22	98	3	3.1	2	2.1	1	1.0
23	25	1	4.0	0	0.0	1	4.0
24	19	0	0.0	0	0.0	0	0.0
25以上	13	0	0.0	0	0.0	0	0.0

表 7．9　T波の変化

男

年齢	総数	陽性者数		T波平低化例数		T波陰性化例数		T波増高例数	
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数	2,078	183	8.8	95	4.6	13	0.6	75	3.6
18歳	1,283	90	7.0	42	3.3	7	0.5	41	3.2
19	443	42	9.5	20	4.5	2	0.5	20	4.5
20	132	14	10.6	3	2.3	1	0.7	10	7.6
21	113	25	22.1	20	17.7	2	1.8	3	2.6
22	57	5	8.8	5	8.8	0	0.0	0	0.0
23	21	4	19.0	4	19.0	0	0.0	0	0.0
24	9	1	11.1	0	0.0	0	0.0	1	11.1
25以上	20	2	10.0	1	5.0	1	5.0	0	0.0

女

総数	1,017	73	7.2	44	4.3	27	2.7	2	0.2
18歳	711	50	7.0	29	4.1	19	2.6	2	0.3
19	179	12	6.7	8	4.5	4	2.2	0	0.0
20	32	2	6.2	1	3.1	1	3.1	0	0.0
21	71	6	8.4	5	7.0	1	1.4	0	0.0
22	9	1	11.1	0	0.0	1	11.1	0	0.0
23	4	2	50.0	1	25.0	1	25.0	0	0.0
24	4	0	0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
25以上	7	0	0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

表 7．10　その他の異常所見

年齢	男総数	陽性者数		女総数	陽性者数	
		実数	%		実数	%
総数	6,336	1,571	24.8	2,161	279	12.9
18歳	2,706	718	26.5	1,173	138	11.8
19	1,110	377	34.0	314	50	15.9
20	209	63	30.1	46	7	15.2
21	1,178	219	18.6	473	64	13.5
22	656	117	17.8	98	13	13.3
23	271	40	14.8	25	2	8.0
24	112	24	21.4	19	3	15.8
25以上	94	13	13.8	13	2	15.4

＊今回の心電図異常は不整脈を中心に調査集計したため，それ以外の心電図異常(例えば，左室肥大，右脚ブロックなど)はすべてこの欄にまとめられている．

表 7 .11　不整脈のうちの要精検者数

	対象者総数	要精検者総数		男対象者数	男要精検者数		女対象者数	女要精検者数	
		実数	%		実数	%		実数	%
総数	3,573	285	8.0	2,337	200	8.6	1,236	85	6.9
18歳	2,338	155	6.6	1,408	95	6.7	930	60	6.5
19	755	68	9.0	559	52	9.3	196	16	8.2
20	140	17	12.1	119	16	13.4	21	1	4.8
21	202	18	8.9	132	11	8.3	70	7	10.0
22	71	14	19.7	60	13	21.7	11	1	9.1
23	38	8	21.1	34	8	23.5	4	0	0.0
24	12	1	8.3	12	1	8.3	0	—	—
25以上	17	4	23.5	13	4	30.8	4	0	0.0

表 7 .12　不整脈に関する精密検査実施状況

	対象者総数	精検実施数		男対象者数	男精検実施数		女対象者数	女精検実施数	
		実数	%		実数	%		実数	%
総数	1,716	234	13.6	1,103	164	14.9	613	70	11.4
18歳	1,191	106	8.9	702	59	8.4	489	47	9.6
19	369	50	13.6	275	37	13.5	94	13	13.8
20	53	8	15.1	44	8	18.2	9	0	0.0
21	41	30	73.2	31	23	74.2	10	7	70.0
22	26	21	80.8	24	20	83.3	2	1	50.0
23	21	13	61.9	16	11	68.8	5	2	40.0
24	3	1	33.3	3	1	33.3	0	—	—
25以上	12	5	41.7	8	5	62.5	4	0	0.0

表 7 .13　運動負荷心電図の実施状況

	対象者総数	精検実施数		男対象者数	男精検実施数		女対象者数	女精検実施数	
		実数	%		実数	%		実数	%
総数	1,526	57	3.7	953	34	3.6	573	23	4.0
18歳	1,120	39	3.5	650	21	3.2	470	18	3.8
19	327	16	4.9	241	11	4.6	86	5	5.8
20	44	2	4.6	36	2	5.6	8	0	0.0
21	10	0	0.0	7	0	0.0	3	0	0.0
22	5	0	0.0	5	0	0.0	0	—	—
23	9	0	0.0	6	0	0.0	3	0	0.0
24	2	0	0.0	2	0	0.0	0	—	—
25以上	9	0	0.0	6	0	0.0	3	0	0.0

表 7 .14　ホルター心電図の実施状況

	対象者総数	精検実施数		男対象者数	男精検実施数		女対象者数	女精検実施数	
		実数	%		実数	%		実数	%
総数	1,600	64	4.0	1,018	40	3.9	582	24	4.1
18歳	1,146	41	3.6	675	21	3.1	471	20	4.2
19	339	12	3.5	252	8	3.2	87	4	4.6
20	46	2	4.3	37	2	5.4	9	0	0.0
21	25	3	12.0	17	3	17.6	8	0	0.0
22	17	1	5.9	16	1	6.3	1	0	0.0
23	14	3	21.4	11	3	27.3	3	0	0.0
24	3	0	0.0	3	0	0.0	0	—	—
25以上	10	2	20.0	7	2	28.6	3	0	0.0

表 7 .15　超音波検査の実施状況

	対象者総数	精検実施数		男対象者数	男精検実施数		女対象者数	女精検実施数	
		実数	%		実数	%		実数	%
総数	1,624	103	6.3	1,040	76	7.3	584	27	4.6
18歳	1,144	30	2.6	673	17	2.5	471	13	2.8
19	337	12	3.6	252	8	3.2	85	4	4.7
20	45	1	2.2	36	1	2.8	9	0	0.0
21	41	27	65.9	32	20	62.5	9	7	77.8
22	26	20	76.9	24	19	79.2	2	1	50.0
23	19	9	47.4	14	7	50.0	5	2	40.0
24	3	1	33.3	3	1	33.3	0	—	—
25以上	9	3	33.3	6	3	50.0	3	0	0.0

表 7 .16　その他の検査の実施状況

	対象者総数	精検実施数		男対象者数	男精検実施数		女対象者数	女精検実施数	
		実数	%		実数	%		実数	%
総数	1,520	64	4.2	960	50	5.2	560	14	2.5
18歳	1,114	34	3.1	654	24	3.7	460	10	2.2
19	327	24	7.3	245	21	8.6	82	3	3.7
20	43	1	2.3	35	1	2.9	8	0	0.0
21	12	3	25.0	8	2	25.0	4	1	25.0
22	5	0	0.0	5	0	0.0	0	—	—
23	10	1	10.0	7	1	14.3	3	0	0.0
24	2	0	0.0	2	0	0.0	0	—	—
25以上	7	1	14.3	4	1	25.0	3	0	0.0

表 7 .17　ST-T波異常者のうちの要精検者数

	対象者総数	要精検者総数		男対象者数	男精検者数		女対象者数	女精検者数	
		実数	%		実数	%		実数	%
総数	1,783	121	6.8	1,148	74	6.4	635	47	7.4
18歳	1,270	69	5.4	760	37	4.9	510	32	6.3
19	373	32	8.6	283	24	8.5	90	8	8.9
20	60	3	5.0	48	2	4.2	12	1	8.3
21	39	9	23.1	28	6	21.4	11	3	27.3
22	18	5	27.8	14	4	28.6	4	1	25.0
23	12	2	16.7	7	0	0.0	5	2	40.0
24	3	0	0.0	3	0	0.0	0	—	—
25以上	8	1	12.5	5	1	20.0	3	0	0.0

表 7 .18　ST-T波異常者の精密検査の実施状況

	対象者総数	精検実施数		男対象者数	男精検実施数		女対象者数	女精検実施数	
		実数	%		実数	%		実数	%
総数	1,564	144	9.2	992	96	9.7	572	48	8.4
18歳	1,120	62	5.5	657	32	4.9	463	30	6.5
19	314	19	6.1	232	12	5.2	82	7	8.5
20	42	1	2.4	34	1	2.9	8	0	0.0
21	36	29	80.6	26	21	80.8	10	8	80.0
22	24	20	83.3	23	19	82.6	1	1	100.0
23	15	9	60.0	10	7	70.0	5	2	40.0
24	4	1	25.0	4	1	25.0	0	—	—
25以上	9	3	33.3	6	3	50.0	3	0	0.0

表 7 .19　ST-T波異常者の運動負荷検査の実施状況

	対象者総数	精検実施数		男対象者数	男精検実施数		女対象者数	女精検実施数	
		実数	%		実数	%		実数	%
総数	1,484	46	3.1	921	27	2.9	563	19	3.4
18歳	1,099	36	3.3	639	21	3.3	460	15	3.3
19	304	9	3.0	223	5	2.2	81	4	4.9
20	41	0	0.0	33	0	0.0	8	0	0.0
21	14	0	0.0	9	0	0.0	5	0	0.0
22	9	1	11.1	8	1	12.5	1	0	0.0
23	8	0	0.0	3	0	0.0	5	0	0.0
24	3	0	0.0	3	0	0.0	0	—	—
25以上	6	0	0.0	3	0	0.0	3	0	0.0

表 7 .20　ST-T波異常者の超音波検査の実施状況

	対象者総数	実施数		男対象者数	男実施数		女対象者数	女実施数	
		実数	%		実数	%		実数	%
総数	1,554	116	7.5	987	80	8.1	567	36	6.3
18歳	1,118	47	4.2	656	24	3.7	462	23	5.0
19	304	8	2.6	226	5	2.2	78	3	3.8
20	41	1	2.4	33	1	3.0	8	0	0.0
21	38	28	73.7	28	21	75.0	10	7	70.0
22	24	19	79.2	23	18	78.3	1	1	100.0
23	16	9	56.3	11	7	63.6	5	2	40.0
24	4	1	25.0	4	1	25.0	0	—	—
25以上	9	3	33.3	6	3	50.0	3	0	0.0

表 7 .21　ST-T波の異常者の心電図再検査の実施状況

	対象者総数	実施数		男対象者数	男実施数		女対象者数	女実施数	
		実数	%		実数	%		実数	%
総数	1,509	63	4.2	954	38	4.0	555	25	4.5
18歳	1,112	34	3.1	656	18	2.7	456	16	3.5
19	315	14	4.4	238	11	4.6	77	3	3.9
20	41	1	2.4	33	1	3.0	8	0	0.0
21	15	7	46.7	10	4	40.0	5	3	60.0
22	9	5	55.6	8	4	50.0	1	1	100.0
23	8	2	25.0	3	0	0.0	5	2	40.0
24	3	0	0.0	3	0	0.0	0	—	—
25以上	6	0	0.0	3	0	0.0	3	0	0.0

表 7 .22　ST-T波異常者のその他の検査の実施状況

	対象者総数	検査実施数		男対象者数	男実施数		女対象者数	女実施数	
		実数	%		実数	%		実数	%
総数	1,472	7	0.5	921	3	0.3	551	4	0.7
18歳	1,090	6	0.6	638	2	0.3	452	4	0.9
19	300	1	0.3	223	1	0.4	77	0	0.0
20	41	0	0.0	33	0	0.0	8	0	0.0
21	15	0	0.0	10	0	0.0	5	0	0.0
22	9	0	0.0	8	0	0.0	1	0	0.0
23	8	0	0.0	3	0	0.0	5	0	0.0
24	3	0	0.0	3	0	0.0	0	—	—
25以上	6	0	0.0	3	0	0.0	3	0	0.0

表 7 .23　最終指導区分

	対象者総数	放置可例数		要観察例数		要精査例数		要医療例数		未受診例数	
		実施	%	実施	%	実施	%	実施	%	実施	%
総数	2,238	1,985	88.7	172	7.7	22	1.0	8	0.3	51	2.3
18歳	1,433	1,311	91.5	80	5.6	11	0.7	4	0.3	27	1.9
19	559	479	85.7	53	9.5	5	0.9	4	0.7	18	3.2
20	82	65	79.3	14	17.1	1	1.2	0	0.0	2	2.4
21	91	77	84.6	10	11.0	1	1.1	0	0.0	3	3.3
22	37	26	70.3	7	18.9	3	8.1	0	0.0	1	2.7
23	22	16	72.7	5	22.7	1	4.6	0	0.0	0	0.0
24	3	3	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
25以上	11	8	72.7	3	27.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0

男

	対象者総数	放置可例数		要観察例数		要精査例数		要医療例数		未受診例数	
		実施	%	実施	%	実施	%	実施	%	実施	%
総数	1,589	1,388	87.3	134	8.4	20	1.3	3	0.2	44	2.8
18歳	943	855	90.7	56	5.9	10	1.1	0	0.0	22	2.3
19	445	378	85.0	42	9.4	5	1.1	3	0.7	17	3.8
20	73	57	78.1	14	19.1	1	1.4	0	0.0	1	1.4
21	63	53	84.1	7	11.1	0	0.0	0	0.0	3	4.8
22	31	20	64.5	7	22.6	3	9.7	0	0.0	1	3.2
23	20	14	70.0	5	25.0	1	5.0	0	0.0	0	0.0
24	3	3	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
25以上	11	8	72.7	3	27.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0

女

総数	649	597	92.0	38	5.8	2	0.3	5	0.8	7	1.1
18歳	490	456	93.1	24	4.9	1	0.2	4	0.8	5	1.0
19	114	101	88.6	11	9.6	0	0.0	1	0.9	1	0.9
20	9	8	88.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	11.1
21	28	24	85.7	3	10.7	1	3.6	0	0.0	0	0.0
22	6	6	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
23	2	2	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
24	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
25以上	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

8．血液検査

この度の白書における血液検査，総コレステロール，GOT，GPT，γ−GTPおよび尿酸値すべての検査で，ある学年全員を対象とすることを申し合わせてあったため，特別なグループ，例えば肥満学生や運動部学生のみを対象に行った血液検査や肝機能検査のデータはすべて除外して集計した．そのため検査データを提出していただいたにもかかわらず，その大学のデータが収録されていないということもあるので了承していただきたい．

8．1　末梢血液検査

この検査項目は血色素量，赤血球数，ヘマトクリット値，白血球数の4項目であり，調査を行った大学の数は22校であった．測定機種で分けると，東亜医用電子社製14〜17校，コールター社製1〜2校，その他が3校という割合であった．東亜医用電子社製，コールター社製はともに電気抵抗方式であり，その他には光散乱方式のテクニコン社製やレーザー光線方式などがある．機器，使用抗凝固剤の種類，採血条件などにより測定結果に多少のバラツキが考えられるが，この度は，1）東亜医用電子，2）コールター，3）その他に分けて集計した．

8．1．1　血色素量・赤血球数・ヘマトクリット値

表8．1に，男子ならびに女子の年齢別ならびに男子全員，女子全員の血色素量の分布を示した．同様に表8．3および表8．5に赤血球数とヘマトクリット値についての同様のデータを示した．この表から明らかなことは，今回の血液検査が生化学検査も含めて新入生を中心に実施されたものであるということである．従って，18〜20歳までの学生を中心にした成績であることに注意しておく必要がある．男女の年齢別の分布をみると，21歳以上で実施学生数の少ないところでバラツキが大きいが，18〜20歳の間ではほとんど差異は認められない．

表8．2，表8．4および表8．6から明らかなように，測定機種別のデータの間には著しいバラツキを認めないため，貧血症にかかわる血液検査の成績はすべてをまとめて集計可能と判断した．男子の血色素量が10.0g/dl未満の学生が6人（0.06%），女子で9.0g/dl未満が34人（0.34%）もいることがわかった．貧血症の基準値として男子で13.0g/dl未満，女子で11.0g/dl未満を用いると，男子で105人（1.05%），女子で295人（2.95%）が該当する．

多血症傾向を示す基準値として男子で18.0g/dl以上，女子で17.0g/dl以上を採用すると，男女ともにその数は少なく，男子では29人（0.29%），女子で19人（0.19%）が該当したにすぎない．多血症傾向と喫煙との関係は，今回はまとめることができなかった．

男女の血色素量の分布を，「白書1984」と今回の調査の成績を比較したのが図8．1，2である．女子ではほとんど差が認められないが，男子では今回の血色素量が前回と比較してやや少ない傾向がみられた．

赤血球数については，男子で350万未満はなく，380万未満に限ってもわずかに2人（0.02%）にすぎなかった．一方，女子では350万未満が5人（0.05%），360万未満に限れば18人（0.20%）である．600万以上を示したのは男子で54人（0.54%），女子で5人（0.05%）であった．

ヘマトクリット値については男子で30%未満，女子で28%未満を示したのは，それぞれ1人

(0.01%) と5人 (0.06%) であり，逆に男子で58%以上，女子で57%以上の高値を示したのは，それぞれ4人 (0.04%)，2人 (0.02%) にすぎなかった．

8．1．2　白血球数（表8．7，8）

白血球数についても測定機器の違いによるデータのバラツキは顕著でなく（表8．8），すべてをまとめて集計しても大きな間違いはないように思われた．表8．7に示すように，3,000未満と減少傾向を示す学生は男子で6人 (0.07%)，女子では29人 (0.37%) であった．一方，9,000以上とやや増加傾向を示したのは男子で435人(5.19%)，女子で419人 (5.38%) であった．

8．2　血液生化学検査

GOT，GPTならびにγ−GTPについては，測定方法によって表記単位が異なる大学が存在しているため，国際単位 (IU/L) とKarmen単位に分けて集計した．

8．2．1　GOTおよびGPT

GOTの測定結果が国際単位によって表示されていたのは15大学であり，男女それぞれの成績の分布は表8．9および図8．3に示したが，50 IU/L以上を示した学生は，男子で160人 (1.80%)，女子で16人 (0.31%) であり，100 IU/L以上の高値を示したのは男子で29人 (0.33%) もおり，女子ではわずかに1人 (0.02%) であった．

一方，GOTのKarmen単位による測定は4大学で行われており，表8．10にまとめてある．50単位をこえる異常者は男子で39人 (4.69%)，女子では10人 (0.85%) であり，100単位以上の高値を示したのは男子8人 (0.96%)，女子3人 (0.26%) であった．

GPTの国際単位による測定は18大学で行われており，表8．11および図8．4から明らかなように，50 IU/L以上を示した学生は男子で505人 (4.18%)，女子で55人 (0.67%) であった．100 IU/L以上の高値を示したのは男子で131人 (1.08%) にものぼったが，女子ではわずかに8人 (0.10%) であった．国際単位で測定された男女合計学生数20,329人でみると，50単位をこえる異常値は560人 (2.75%) にみられた．100単位以上の高度異常者は139人 (0.68%) であった．

GPTのKarmen単位による測定を行ったのはGOTと同じく4大学であり，その結果を表8．12に示した．18歳から25歳以上の年齢別に分析した成績には著明な差異は認められなかった．国際単位で測定した大学のデータとKarmen単位で測定したデータは，傾向としてはよく一致していた．

「白書1984」のGOT，GPTの測定値はKarmen単位での成績と考えられるので，今回Karmen単位で測定された大学の成績を用いて，60単位以上の異常値を示した学生の割合を求めて比較したのが表8．18である．男子では今回のほうが異常値を示す学生数は少なく，女子ではほぼ同程度を示した．

8．2．2　γ−GTP

γ−GTPを国際単位で表記した大学は10校であり，その結果ならびに分布は表8．13および図8．5に示したように男女ともほぼ同じ傾向を示した．50 IU/L以上を示したのは男子118人 (1.68%)，女子15人 (0.29%) であり，同じく100 IU/L以上という高値を示したのは男子で20人 (0.28%) にたいし，女子ではわずかに1人 (0.02%) にすぎなかった．Karmen単位による測定は2校で行われており，その成績は表8．14に示したとおりである．50単位以上は男子3人 (0.82%)，女子2人 (0.26%) にすぎず，国際単位より全般的に低い傾向を示していた．

8．2．3　尿酸値

表8．15に示したように，尿酸を測定した大学は14校であった．男女の分布は図8．6に示すとおりで，当然のことながら女子では男子より低値を示していた．一応，高尿酸血症の基準値として男子7.0mg/dl以上，女子6.0mg/dl以上を採用すると，男子では1,252人（15.20%），女子で241人（4.13%）が該当した．男子で9.0mg/dl以上，女子で8.0mg/dl以上を示した学生は，それぞれ73人（0.89%），10人（0.17%）であった．

「白書1984」には尿酸値のデータが無いため比較はできないが，男子で高尿酸血症を示す学生が多いことは注目すべき事実であり，今後のフォローが必要と考えられる．

8．2．4　血清総コレステロール値

総コレステロール値を測定した大学の数は19校で，測定された項目のうちで男子では対象数が最も多かった．表8．16にまとめて表示した．今回は低コレステロール血症については触れないで，高コレステロール血症のみを問題にしたい．

女子のほうがコレステロール値の高い学生が男子より多いのは図8．7から明らかであるが，日本動脈硬化学会の基準値である220mg/dl以上を高コレステロール血症とすると，男子で567人（4.08%），女子では568人（6.85%）が該当した．240mg/dl以上ではそれぞれ217人（1.56%），207人（2.50%）であった．明らかに高コレステロール血症といえる260mg/dl以上では，男子が80人（0.58%），女子63人（0.76%）であった．表8．16からわかるように，男女，ことに男子において年齢が高くなるほど平均コレステロール値の上昇がみられた．

「白書1984」の成績と比較すると，表8．17ならびに図8．8と図8．9にみられるように，男女ともに今回のほうが「白書1984」より血清総コレステロール値は低いという成績がえられた．我が国でも食事の洋風化に伴い，一般的には血清コレステロール値の上昇が続いているという認識で一致していると思われるが，大学生での成績はそれとは異なるものであり喜ばしいことである．この理由については「応用研究編」で検討したいと思っている．

〔森下玲児〕

表 8．1　血色素量の分布

男

[22校集計]

	受診者数	10.0g/dl未満		10.0～10.4		10.5～10.9		11.0～11.4		11.5～11.9		12.0～12.4		12.5～12.9		13.0～13.4		13.5～13.9	
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数	9,963	6	0.1	5	0.1	1	0.0	6	0.1	8	0.1	23	0.2	56	0.6	151	1.5	449	4.5
18歳	5,299	4	0.1	3	0.1	0	0.0	3	0.1	4	0.1	7	0.1	36	0.7	72	1.4	255	4.8
19	2,741	2	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.1	6	0.2	10	0.4	44	1.6	120	4.4
20	1,140	0	0.0	1	0.1	0	0.0	2	0.2	1	0.1	4	0.4	4	0.4	14	1.2	30	2.6
21	480	0	0.0	1	0.2	0	0.0	1	0.2	1	0.2	1	0.2	4	0.8	15	3.1	31	6.5
22	132	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	2.3	1	0.8	4	3.0	4	3.0
23	43	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.3
24	38	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.6	0	0.0	1	2.6	1	2.6
25以上	90	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	1.1	1	1.1	1	1.1	7	7.8

	14.0～14.4		14.5～14.9		15.0～15.4		15.5～15.9		16.0～16.4		16.5～16.9		17.0～17.4		17.5～17.9		18.0以上		平均値	標準偏差
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%		
総数	1,004	10.1	1,696	17.0	2,158	21.7	1,926	19.3	1,169	11.7	820	8.2	344	3.5	112	1.1	29	0.3	15.3	1.0
18歳	549	10.4	934	17.6	1,152	21.7	1,025	19.3	619	11.7	408	7.7	160	3.0	52	1.0	15	0.3	15.3	1.0
19	261	9.5	432	15.8	605	22.1	561	20.5	334	12.2	228	8.3	96	3.5	30	1.1	10	0.4	15.4	0.9
20	96	8.4	196	17.2	247	21.7	207	18.2	137	12.0	121	10.6	55	4.8	21	1.8	4	0.4	15.4	1.0
21	58	12.1	95	19.8	81	16.9	89	18.5	43	9.0	35	7.3	20	4.2	5	1.0	0	0.0	15.2	1.0
22	20	15.2	14	10.6	38	28.8	19	14.4	12	9.1	12	9.1	3	2.3	2	1.5	0	0.0	15.2	1.0
23	5	11.6	6	14.0	8	18.6	9	20.9	7	16.3	5	11.6	2	4.7	0	0.0	0	0.0	15.5	0.9
24	4	10.5	6	15.8	8	21.1	6	15.8	3	7.9	4	10.5	4	10.5	0	0.0	0	0.0	15.3	1.1
25以上	11	12.2	13	14.4	19	21.1	10	11.1	14	15.6	7	7.8	4	4.4	2	2.2	0	0.0	15.3	1.1

女

[22校集計]

	受診者数	9.0g/dl未満		9.0～9.4		9.5～9.9		10.0～10.4		10.5～10.9		11.0～11.4		11.5～11.9		12.0～12.4		12.5～12.9	
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数	10,006	34	0.3	30	0.3	39	0.4	81	0.8	111	1.1	271	2.7	609	6.1	1,180	11.8	1,940	19.4
18歳	6,463	17	0.3	17	0.3	20	0.3	45	0.7	72	1.1	147	2.3	365	5.7	776	12.0	1,261	19.5
19	2,013	11	0.5	4	0.2	10	0.5	15	0.7	15	0.7	66	3.3	117	5.8	224	11.1	393	19.5
20	795	1	0.1	3	0.4	3	0.4	8	1.0	6	0.8	27	3.4	63	7.9	84	10.6	139	17.5
21	547	2	0.4	5	0.9	4	0.7	6	1.1	13	2.4	28	5.1	47	8.6	72	13.2	112	20.5
22	93	1	1.1	0	0.0	1	1.1	4	4.3	3	3.2	3	3.2	10	10.8	14	15.1	14	15.1
23	25	0	0.0	1	4.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	16.0	1	4.0	4	16.0
24	14	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	7.1	3	21.4	5	35.7
25以上	56	2	3.6	0	0.0	1	1.8	3	5.4	2	3.6	0	0.0	2	3.6	6	10.7	12	21.4

	13.0～13.4		13.5～13.9		14.0～14.4		14.5～14.9		15.0～15.4		15.5～15.9		16.0～16.4		16.5～16.9		17.0以上		平均値	標準偏差
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%		
総数	2,251	22.5	1,739	17.4	1,044	10.4	423	4.2	142	1.4	56	0.6	17	0.2	20	0.2	19	0.2	13.1	1.1
18歳	1,463	22.6	1,171	18.1	691	10.7	274	4.2	83	1.3	34	0.5	7	0.1	11	0.2	9	0.1	13.1	1.0
19	459	22.8	340	16.9	219	10.9	79	3.9	33	1.6	13	0.7	3	0.2	3	0.2	9	0.4	13.1	1.1
20	180	22.6	138	17.4	70	8.8	39	4.9	18	2.3	5	0.6	6	0.8	4	0.5	1	0.1	13.1	1.1
21	109	19.9	67	12.3	44	8.0	26	4.8	7	1.3	3	0.6	1	0.2	1	0.2	0	0.0	12.8	1.2
22	19	20.4	10	10.8	8	8.6	4	4.3	1	1.1	1	1.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	12.7	1.3
23	10	40.0	2	8.0	3	12.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	12.8	1.1
24	1	7.1	3	21.4	1	7.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	12.9	0.7
25以上	10	17.9	8	14.3	8	14.3	1	1.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	1.8	0	0.0	12.8	1.6

表 8．2　血色素量の分布：測定機種別

男

機　種	受診者数	10.0g/dl未満		10.0～10.4		10.5～10.9		11.0～11.4		11.5～11.9		12.0～12.4		12.5～12.9		13.0～13.4		13.5～13.9	
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
東亜医用電子	5,641	5	0.1	0	0.0	1	0.0	5	0.1	3	0.1	7	0.1	25	0.4	62	1.1	230	4.1
コールター	1,158	0	0.0	2	0.2	0	0.0	0	0.0	3	0.3	3	0.3	14	1.2	23	2.0	75	6.5
その他自動	3,164	1	0.0	3	0.1	0	0.0	1	0.0	2	0.1	13	0.4	17	0.5	66	2.1	144	4.6

機　種	14.0～14.4		14.5～14.9		15.0～15.4		15.5～15.9		16.0～16.4		16.5～16.9		17.0～17.4		17.5～17.9		18.0以上		平均値	標準偏差
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%		
東亜医用電子	555	9.8	936	16.6	1,227	21.8	1,115	19.8	710	12.6	484	8.6	205	3.6	52	0.9	19	0.3	15.4	0.9
コールター	119	10.3	222	19.2	235	20.3	226	19.5	121	10.4	80	6.9	24	2.1	8	0.7	3	0.3	15.2	1.0
その他自動	330	10.4	538	17.0	696	22.0	585	18.5	338	10.7	256	8.1	115	3.6	52	1.6	7	0.2	15.3	1.0

女

機　種	受診者数	9.0g/dl未満		9.0～9.4		9.5～9.9		10.0～10.4		10.5～10.9		11.0～11.4		11.5～11.9		12.0～12.4		12.5～12.9	
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
東亜医用電子	7,133	33	0.5	22	0.3	27	0.4	48	0.7	79	1.1	171	2.4	424	5.9	820	11.5	1,401	19.6
コールター	869	3	0.3	2	0.2	2	0.2	12	1.4	8	0.9	29	3.3	43	4.9	108	12.4	161	18.5
その他自動	2,004	8	0.4	6	0.3	10	0.5	21	1.0	24	1.2	71	3.5	142	7.1	252	12.6	378	18.9

機　種	13.0～13.4		13.5～13.9		14.0～14.4		14.5～14.9		15.0～15.4		15.5～15.9		16.0～16.4		16.5～16.9		17.0以上		平均値	標準偏差
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%		
東亜医用電子	1,655	23.2	1,302	18.3	760	10.7	289	4.1	83	1.2	23	0.3	2	0.1	3	0.2	1	0.1	13.1	1.0
コールター	193	22.2	146	16.8	94	10.8	42	4.8	10	1.2	13	1.5	1	0.1	2	0.2	0	0.0	13.1	1.1
その他自動	403	20.1	291	14.5	190	9.5	92	4.6	49	2.4	20	1.0	14	0.7	15	0.7	18	0.9	13.1	1.2

表 8．3　赤血球数の分布

男

［21校集計］

	受診者数	350万未満		350～359		360～369		370～379		380～389		390～399		400～409		410～419		420～429		430～439		440～449		450～459		460～469		470～479	
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数	9,962	0	0.0	0	0.0	1	0.0	1	0.0	5	0.1	6	0.1	12	0.1	19	0.2	28	0.3	79	0.8	161	1.6	292	2.9	446	4.5	693	7.0
18歳	5,300	0	0.0	0	0.0	1	0.0	0	0.0	2	0.0	2	0.0	4	0.1	9	0.2	14	0.3	30	0.6	79	1.5	156	2.9	230	4.3	373	7.0
19	2,738	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.0	0	0.0	1	0.0	4	0.2	6	0.2	7	0.3	23	0.8	46	1.7	79	2.9	117	4.3	169	6.2
20	1,141	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.2	2	0.2	3	0.3	1	0.1	4	0.4	14	1.2	18	1.6	30	2.6	55	4.8	85	7.5
21	480	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.2	0	0.0	1	0.2	2	0.4	1	0.2	5	1.0	15	3.1	14	2.9	29	6.0	37	7.7
22	132	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	3.0	0	0.0	6	4.6	3	2.3	13	9.9
23	43	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	4.7
24	38	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.6	1	2.6	0	0.0	2	5.3	4	10.5	2	5.3
25以上	90	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	1.1	1	1.1	2	2.2	3	3.3	5	5.6	8	8.9	12	13.3

	受診者数	480～489		490～499		500～509		510～519		520～529		530～539		540～549		550～559		560～569		570～579		580～589		590～599		600以上		平均値	標準偏差
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%		
総数	9,962	867	8.7	1,089	10.9	1,168	11.7	1,168	11.7	1,176	11.8	954	9.6	664	6.7	444	4.5	312	3.1	163	1.6	106	1.1	54	0.5	54	0.5	510	33
18歳	5,300	456	8.6	588	11.1	630	11.9	613	11.6	620	11.7	524	9.9	356	6.7	243	4.6	171	3.2	85	1.6	54	1.0	31	0.6	29	0.6	511	31
19	2,738	237	8.7	289	10.6	320	11.7	335	12.2	337	12.3	250	9.1	180	6.6	131	4.8	87	3.2	54	2.0	38	1.4	11	0.4	16	0.6	511	33
20	1,141	106	9.3	121	10.6	142	12.5	133	11.7	134	11.7	108	9.5	78	6.8	38	3.3	35	3.1	15	1.3	7	0.6	8	0.7	2	0.2	508	33
21	480	52	10.8	55	11.5	41	8.5	49	10.2	62	12.9	42	8.8	28	5.8	18	3.8	12	2.5	6	1.3	3	0.6	2	0.4	5	1.0	506	35
22	132	8	6.1	15	11.4	15	11.4	19	14.4	13	9.9	12	9.1	8	6.1	8	6.1	2	1.5	1	0.8	2	1.5	2	1.5	0	0.0	509	34
23	43	2	4.7	6	14.0	6	14.0	5	11.6	3	7.0	7	16.3	3	7.0	5	11.6	1	2.3	2	4.7	1	2.3	0	0.0	0	0.0	523	27
24	38	1	2.6	3	7.9	8	21.1	5	13.2	0	0.0	4	10.5	2	5.3	1	2.6	2	5.3	0	0.0	1	2.6	0	0.0	1	2.6	507	40
25以上	90	5	5.6	12	13.3	6	6.7	9	10.0	7	7.8	7	7.8	9	10.0	0	0.0	2	2.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	1.1	498	35

女

［21校集計］

	受診者数	350万未満		350～359		360～369		370～379		380～389		390～399		400～409		410～419		420～429		430～439		440～449		450～459		460～469		470～479	
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数	9,148	5	0.1	13	0.1	32	0.4	77	0.8	159	1.7	336	3.7	558	6.1	823	9.0	1,035	11.3	1,182	12.9	1,213	13.3	1,083	11.8	912	10.0	652	7.1
18歳	5,775	3	0.1	6	0.1	11	0.2	43	0.7	82	1.4	188	3.3	347	6.0	484	8.4	638	11.1	766	13.3	783	13.6	714	12.4	613	10.6	424	7.3
19	1,863	0	0.0	1	0.1	14	0.8	16	0.9	39	2.1	69	3.7	110	5.9	176	9.5	224	12.0	226	12.1	259	13.9	198	10.6	167	9.0	143	7.7
20	783	0	0.0	3	0.4	5	0.6	7	0.9	29	3.7	46	5.9	63	8.1	80	10.2	99	12.6	91	11.6	94	12.0	84	10.7	60	7.7	44	5.6
21	541	2	0.4	1	0.2	1	0.2	10	1.9	4	0.7	27	5.0	29	5.4	58	10.7	59	10.9	69	12.8	56	10.4	63	11.7	55	10.2	33	6.1
22	93	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	1.1	4	4.3	2	2.2	5	5.4	14	15.1	8	8.6	12	12.9	7	7.5	14	15.1	10	10.8	4	4.3
23	25	0	0.0	1	4.0	1	4.0	0	0.0	0	0.0	2	8.0	0	0.0	4	16.0	1	4.0	3	12.0	4	16.0	6	24.0	2	8.0	0	0.0
24	14	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	14.3	1	7.1	1	7.1	2	14.3	3	21.4	3	21.4	1	7.1	0	0.0	0	0.0
25以上	54	0	0.0	1	1.9	0	0.0	0	0.0	1	1.9	0	0.0	3	3.6	6	11.1	4	7.4	12	22.2	7	13.0	3	5.6	5	9.3	4	7.4

	受診者数	480～489		490～499		500～509		510～519		520～529		530～539		540～549		550～559		560～569		570～579		580～589		590～599		600以上		平均値	標準偏差
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%		
総数	9,148	410	4.5	265	2.9	157	1.7	88	1.0	53	0.6	30	0.3	20	0.2	12	0.1	14	0.2	8	0.1	3	0.0	3	0.0	5	0.1	444	32
18歳	5,775	271	4.7	166	2.9	101	1.8	54	0.9	33	0.6	15	0.3	12	0.2	6	0.1	7	0.1	5	0.1	1	0.0	2	0.0	0	0.0	445	31
19	1,863	73	3.9	57	3.1	33	1.8	19	1.0	8	0.4	6	0.3	6	0.3	4	0.2	6	0.3	2	0.1	2	0.1	0	0.0	5	0.3	444	34
20	783	27	3.5	21	2.7	7	0.9	6	0.8	8	1.0	4	0.5	1	0.1	2	0.3	1	0.1	1	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	438	33
21	541	32	5.9	15	2.8	12	2.2	6	1.1	2	0.4	5	0.9	1	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.2	0	0.0	443	33
22	93	3	3.2	4	4.3	3	3.2	1	1.1	1	1.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	442	32
23	25	1	4.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	433	31
24	14	1	7.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	431	24
25以上	54	2	3.7	2	3.7	1	1.9	2	3.7	1	1.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	445	32

表 8．4　赤血球数の分布：測定機種別

男

機　種	受診者数	350万未満		350～359		360～369		370～379		380～389		390～399		400～409		410～419		420～429		430～439		440～449		450～459		460～469		470～479	
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
東亜医用電子	5,640	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.0	2	0.0	1	0.0	5	0.1	6	0.1	11	0.2	28	0.5	74	1.3	150	2.7	237	4.2	372	6.6
コールター	1,161	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.1	1	0.1	1	0.1	4	0.3	2	0.2	11	1.0	28	2.4	22	1.9	48	4.1	69	5.9
その他自動	3,161	0	0.0	0	0.0	1	0.0	0	0.0	2	0.1	4	0.1	6	0.2	9	0.3	15	0.5	40	1.3	59	1.9	120	3.8	161	5.1	252	8.0

機　種	受診者数	480～489		490～499		500～509		510～519		520～529		530～539		540～549		550～559		560～569		570～579		580～589		590～599		600以上		平均値	標準偏差
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%		
東亜医用電子	5,640	490	8.7	642	11.4	705	12.5	664	11.8	674	12.0	584	10.4	386	6.8	255	4.5	161	2.9	82	1.5	61	1.1	22	0.4	27	0.5	511	32
コールター	1,161	84	7.2	120	10.3	119	10.3	146	12.6	138	11.9	105	9.0	91	7.8	65	5.6	47	4.1	33	2.8	8	0.7	9	0.8	9	0.8	514	35
その他自動	3,161	293	9.3	327	10.3	344	10.9	358	11.3	364	11.5	265	8.4	187	5.9	124	3.9	104	3.3	48	1.5	37	1.2	23	0.7	18	0.6	508	35

女

機　種	受診者数	350万未満		350～359		360～369		370～379		380～389		390～399		400～409		410～419		420～429		430～439		440～449		450～459		460～469		470～479	
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
東亜医用電子	6,274	2	0.0	8	0.1	14	0.2	51	0.8	97	1.6	214	3.4	366	5.8	556	8.9	702	11.2	856	13.6	839	13.4	787	12.5	650	10.4	478	7.6
コールター	871	0	0.0	0	0.0	1	0.1	7	0.8	18	2.1	26	3.0	42	4.8	65	7.5	89	10.2	107	12.3	122	14.0	111	12.7	99	11.4	62	7.1
その他自動	2,003	3	0.1	5	0.3	17	0.9	19	1.0	44	2.2	96	4.8	150	7.5	202	10.1	244	12.2	219	10.9	252	12.6	185	9.2	163	8.1	112	5.6

機　種	受診者数	480～489		490～499		500～509		510～519		520～529		530～539		540～549		550～559		560～569		570～579		580～589		590～599		600以上		平均値	標準偏差
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%		
東亜医用電子	6,274	285	4.5	176	2.8	102	1.6	39	0.6	26	0.4	9	0.1	11	0.2	2	0.0	2	0.0	1	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.0	443	29
コールター	871	45	5.2	29	3.3	19	2.2	15	1.7	6	0.7	5	0.6	0	0.0	1	0.1	2	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	447	31
その他自動	2,003	80	4.0	60	3.0	36	1.8	34	1.7	21	1.1	16	0.8	9	0.5	9	0.5	10	0.5	7	0.4	3	0.2	3	0.2	4	0.2	444	38

表8．5　ヘマトクリット値の分布

男

[20校集計]

	受診者数	35%未満		35.0～35.9		36.0～36.9		37.0～37.9		38.0～38.9		39.0～39.9		40.0～40.9		41.0～41.9		42.0～42.9		43.0～43.9		44.0～44.9		45.0～45.9		46.0～46.9	
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数	9,157	7	0.1	2	0.0	5	0.1	9	0.1	21	0.2	50	0.6	117	1.3	232	2.5	458	5.0	706	7.7	1,066	11.6	1,237	13.5	1,267	13.8
18歳	4,735	6	0.1	0	0.0	2	0.0	4	0.1	10	0.2	31	0.7	73	1.5	142	3.0	282	6.0	420	8.9	615	13.0	708	15.0	691	14.6
19	2,540	0	0.0	1	0.0	1	0.0	4	0.2	4	0.2	10	0.4	29	1.1	55	2.2	109	4.3	158	6.2	281	11.1	320	12.6	320	12.6
20	1,114	1	0.1	1	0.1	2	0.2	0	0.0	3	0.3	7	0.6	8	0.7	17	1.5	36	3.2	71	6.4	100	9.0	109	9.8	157	14.1
21	477	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	0.6	2	0.4	5	1.1	10	2.1	15	3.1	36	7.6	47	9.9	55	11.5	60	12.6
22	128	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.8	1	0.8	0	0.0	0	0.0	3	2.3	5	3.9	7	5.5	6	4.7	25	19.5	17	13.3
23	40	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	5.0	2	5.0	2	5.0	7	17.5	4	10.0
24	36	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.8	1	2.8	1	2.8	3	8.3	6	16.7	5	13.9	4	11.1
25以上	87	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	1.2	4	4.6	8	9.2	9	10.3	9	10.3	8	9.2	14	16.1

	受診者数	47.0～47.9		48.0～48.9		49.0～49.9		50.0～50.9		51.0～51.9		52.0～52.9		53.0～53.9		54.0～54.9		55.0～55.9		56.0～56.9		57.0～57.9		58.0以上		平均値	標準偏差
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%		
総数	9,157	1,192	13.0	951	10.4	735	8.0	470	5.1	258	2.8	178	1.9	99	1.1	64	0.7	22	0.2	4	0.0	3	0.0	4	0.0	46.5	2.9
18歳	4,735	600	12.7	472	10.0	312	6.6	164	3.5	100	2.1	57	1.2	19	0.4	19	0.4	5	0.1	1	0.0	0	0.0	2	0.0	46.0	2.8
19	2,540	362	14.3	262	10.3	230	9.1	164	6.5	86	3.4	70	2.8	40	1.6	22	0.9	10	0.4	1	0.0	0	0.0	1	0.0	46.9	3.0
20	1,114	150	13.5	123	11.0	125	11.2	70	6.3	47	4.2	37	3.3	25	2.2	16	1.4	6	0.5	1	0.1	2	0.2	0	0.0	47.2	3.1
21	447	53	11.1	60	12.6	40	8.4	47	9.9	18	3.8	10	2.1	10	2.1	4	0.8	0	0.0	1	0.2	1	0.2	0	0.0	47.0	3.1
22	128	12	9.4	15	11.7	14	10.9	14	10.9	1	0.8	2	1.6	3	2.3	1	0.8	1	0.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	47.0	3.0
23	40	4	10.0	5	12.5	7	17.5	3	7.5	2	5.0	0	0.0	1	2.5	1	2.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	47.5	2.8
24	36	2	5.6	7	19.4	1	2.8	1	2.8	2	5.6	0	0.0	1	2.8	1	2.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	46.5	3.2
25以上	87	9	10.3	7	8.1	6	6.9	7	8.1	2	2.3	2	2.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	1.2	46.3	3.1

女

[20校集計]

	受診者数	30%未満		30.0～30.9		31.0～31.9		32.0～32.9		33.0～33.9		34.0～34.9		35.0～35.9		36.0～36.9		37.0～37.9		38.0～38.9		39.0～39.9		40.0～40.9		41.0～41.9	
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数	8,792	15	0.2	22	0.3	20	0.2	32	0.4	72	0.8	121	1.4	237	2.7	420	4.8	718	8.2	1,025	11.7	1,330	15.1	1,375	15.6	1,173	13.3
18歳	5,493	8	0.1	12	0.2	11	0.2	19	0.4	38	0.7	72	1.3	153	2.8	271	4.9	475	8.7	668	12.2	851	15.5	841	15.3	747	13.6
19	1,803	4	0.2	4	0.2	4	0.2	3	0.2	18	1.0	22	1.2	36	2.0	78	4.3	120	6.7	193	10.7	267	14.8	309	17.1	246	13.6
20	777	1	0.1	0	0.0	1	0.1	7	0.9	6	0.8	8	1.0	22	2.8	41	5.3	52	6.7	71	9.1	94	12.1	115	14.8	115	14.8
21	540	1	0.2	4	0.7	2	0.4	3	0.6	8	1.5	15	2.8	17	3.2	21	3.9	56	10.4	77	14.3	90	16.7	78	14.4	49	9.1
22	93	0	0.0	1	1.1	1	1.1	0	0.0	2	2.2	2	2.2	7	7.5	8	8.6	5	5.4	8	8.6	12	12.9	17	18.3	9	9.7
23	21	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	9.5	1	4.8	2	9.5	4	19.1	3	14.3	3	14.3	2	9.5
24	14	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	28.6	1	7.1	4	28.6	2	14.3	1	7.1
25以上	51	1	2.0	1	2.0	1	2.0	0	0.0	0	0.0	2	3.9	0	0.0	0	0.0	4	7.8	3	5.9	9	17.7	10	19.6	4	7.8

	受診者数	42.0～42.9		43.0～43.9		44.0～44.9		45.0～45.9		46.0～46.9		47.0～47.9		48.0～48.9		49.0～49.9		50.0～50.9		51.0～51.9		52.0～52.9		53.0以上		平均値	標準偏差
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%		
総数	8,792	930	10.6	548	6.2	329	3.7	176	2.0	90	1.0	49	0.6	28	0.3	19	0.2	21	0.2	16	0.2	8	0.1	18	0.2	40.2	3.0
18歳	5,493	594	10.8	311	5.7	200	3.6	102	1.9	48	0.9	21	0.4	13	0.2	10	0.2	11	0.2	6	0.1	2	0.0	9	0.2	40.1	2.8
19	1,803	187	10.4	134	7.4	75	4.2	37	2.1	16	0.9	15	0.8	9	0.5	6	0.3	3	0.2	3	0.2	5	0.3	9	0.5	40.4	3.1
20	777	88	11.3	57	7.3	31	4.0	23	3.0	19	2.5	9	1.2	4	0.5	2	0.3	4	0.5	7	0.9	0	0.0	0	0.0	40.6	3.2
21	540	46	8.5	31	5.7	14	2.6	12	2.2	6	1.1	4	0.7	2	0.4	1	0.2	2	0.4	0	0.0	1	0.2	0	0.0	39.7	3.1
22	93	9	9.7	5	5.4	4	4.3	2	2.2	1	1.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	39.5	3.1
23	21	1	4.8	2	9.5	1	4.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	39.5	2.5
24	14	1	7.1	1	7.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	39.4	1.9
25以上	51	4	7.8	7	13.7	4	7.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	40.2	3.7

表8．6　ヘマトクリット値の分布：測定機種別

男

機　種	受診者数	35%未満		35.0～35.9		36.0～36.9		37.0～37.9		38.0～38.9		39.0～39.9		40.0～40.9		41.0～41.9		42.0～42.9		43.0～43.9		44.0～44.9		45.0～45.9		46.0～46.9	
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
東亜医用電子	5,639	5	0.1	1	0.0	4	0.1	6	0.1	14	0.3	30	0.5	91	1.6	182	3.2	365	6.5	559	9.9	805	14.3	904	16.0	857	15.2
コールター	357	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.6	3	0.8	10	2.8	16	4.5	13	3.6	27	7.6	23	6.4	41	11.5	42	11.8	36	10.1
その他自動	3,161	2	0.1	1	0.0	1	0.0	1	0.0	4	0.1	10	0.3	10	0.3	37	1.2	66	2.1	124	3.9	220	7.0	291	9.2	374	11.8

機　種	受診者数	47.0～47.9		48.0～48.9		49.0～49.9		50.0～50.9		51.0～51.9		52.0～52.9		53.0～53.9		54.0～54.9		55.0～55.9		56.0～56.9		57.0～57.9		58.0以上		平均値	標準偏差
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%		
東亜医用電子	5,639	745	13.2	489	8.7	318	5.6	155	2.8	65	1.2	25	0.4	9	0.2	8	0.1	0	0.0	1	0.0	0	0.0	1	0.0	45.7	2.5
コールター	357	41	11.5	31	8.7	33	9.2	17	4.8	9	2.5	12	3.4	1	0.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	45.8	3.3
その他自動	3,161	406	12.8	431	13.6	384	12.2	298	9.4	184	5.8	141	4.5	89	2.8	56	1.8	22	0.7	3	0.1	3	0.1	3	0.1	47.9	3.0

女

機　種	受診者数	30%未満		30.0～30.9		31.0～31.9		32.0～32.9		33.0～33.9		34.0～34.9		35.0～35.9		36.0～36.9		37.0～37.9		38.0～38.9		39.0～39.9		40.0～40.9		41.0～41.9	
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
東亜医用電子	6,264	11	0.2	17	0.3	18	0.3	21	0.3	50	0.8	89	1.4	186	3.0	328	5.2	583	9.3	798	12.7	999	16.0	1,025	16.4	827	13.2
コールター	525	1	0.2	1	0.2	0	0.0	1	0.2	3	0.6	11	2.1	17	3.2	28	5.3	31	5.9	49	9.3	96	18.3	80	15.2	66	12.6
その他自動	2,003	0.1	0.1	4	0.2	2	0.1	10	0.5	19	1.0	21	1.1	34	1.7	64	3.2	104	5.2	178	8.9	235	11.7	270	13.5	280	14.0

機　種	受診者数	42.0～42.9		43.0～43.9		44.0～44.9		45.0～45.9		46.0～46.9		47.0～47.9		48.0～48.9		49.0～49.9		50.0～50.9		51.0～51.9		52.0～52.9		53.0以上		平均値	標準偏差
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%		
東亜医用電子	6,264	652	10.4	345	5.5	180	2.9	86	1.4	33	0.5	5	0.1	4	0.1	2	0.0	3	0.1	1	0.0	0	0.0	1	0.0	39.8	2.6
コールター	525	49	9.3	30	5.7	18	3.4	16	3.1	11	2.1	3	0.6	5	1.0	6	1.1	3	0.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	40.4	3.1
その他自動	2,003	229	11.4	173	8.6	131	6.5	74	3.7	46	2.3	41	2.1	19	1.0	11	0.6	15	0.8	15	0.8	8	0.4	17	0.8	41.3	3.6

表 8．7　白血球数の分布

男

[18校集計]

	受診者数	3,000未満		3,000～3,999		4,000～4,999		5,000～5,999		6,000～6,999		7,000～7,999		8,000～8,999		9,000以上		平均値	標準偏差
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%		
総数	8,385	6	0.1	282	3.4	1,534	18.3	2,465	29.4	1,961	23.4	1,162	13.9	540	6.4	435	5.2	6,127	1,553
18歳	4,299	2	0.1	144	3.4	789	18.4	1,264	29.4	1,021	23.8	571	13.3	286	6.7	222	5.2	6,123	1,555
19	2,342	2	0.1	85	3.6	439	18.7	691	29.5	516	22.0	341	14.6	143	6.1	125	5.3	6,119	1,571
20	1,024	1	0.1	33	3.2	179	17.5	311	30.4	229	22.4	152	14.8	65	6.4	54	5.3	6,163	1,565
21	449	1	0.2	13	2.9	83	18.5	129	28.7	122	27.2	55	12.3	29	6.5	17	3.8	6,068	1,432
22	125	0	0.0	1	0.8	21	16.8	30	24.0	38	30.4	19	15.2	7	5.6	9	7.2	6,290	1,491
23	37	0	0.0	1	2.7	7	18.9	7	18.9	10	27.0	6	16.2	3	8.1	3	8.1	6,276	1,536
24	31	0	0.0	1	3.2	2	6.5	11	35.5	10	32.3	7	22.6	0	0.0	0	0.0	6,010	1,007
25以上	78	0	0.0	4	5.1	14	18.0	22	28.2	15	19.2	11	14.1	7	9.0	5	6.4	6,169	1,683

女

[18校集計]

総数	7,788	29	0.4	317	4.1	1,284	16.5	2,078	26.7	1,900	24.4	1,194	15.3	567	7.3	419	5.4	6,180	1,578
18歳	4,842	19	0.4	190	3.9	762	15.7	1,247	25.8	1,174	24.3	815	16.8	363	7.5	272	5.6	6,234	1,592
19	1,567	2	0.1	61	3.9	240	15.3	421	26.9	406	25.9	231	14.7	115	7.3	91	5.8	6,216	1,548
20	687	4	0.6	36	5.2	143	20.8	189	27.5	163	23.7	80	11.6	37	5.4	35	5.1	5,966	1,580
21	526	4	0.8	23	4.4	112	21.3	163	31.0	125	23.8	48	9.1	35	6.7	16	3.0	5,867	1,449
22	86	0	0.0	4	4.7	12	14.0	31	36.1	16	18.6	10	11.6	12	14.0	1	1.2	6,149	1,669
23	20	0	0.0	1	5.0	4	20.0	7	35.0	3	15.0	2	10.0	1	5.0	2	10.0	6,115	1,975
24	14	0	0.0	1	7.1	1	7.1	5	35.7	2	14.3	3	21.4	2	14.3	0	0.0	6,314	1,442
25以上	46	0	0.0	1	2.2	10	21.7	15	32.6	11	23.9	5	10.9	2	4.4	2	4.4	5,987	1,432

表 8．8　白血球数の分布：測定機種別

男

機　種	受診者数	3,000未満		3,000～3,999		4,000～4,999		5,000～5,999		6,000～6,999		7,000～7,999		8,000～8,999		9,000以上		平均値	標準偏差
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%		
東亜医用電子	4,871	4	0.1	186	3.8	890	18.3	1,439	29.5	1,106	22.7	663	13.6	320	6.6	263	5.4	6,141	1,574
コールター	357	0	0.0	12	3.4	63	17.7	91	25.5	92	25.8	59	16.5	28	7.8	12	3.4	5,745	1,501
その他自動	3,157	2	0.1	84	2.7	581	18.4	935	29.6	763	24.2	440	13.9	192	6.1	160	5.1	6,149	1,521

女

東亜医用電子	5,263	14	0.3	195	3.7	840	16.0	1,396	26.5	1,274	24.2	853	16.2	399	7.6	292	5.6	6,255	1,579
コールター	524	3	0.6	17	3.2	77	14.7	129	24.6	131	25.0	88	16.8	43	8.2	36	6.9	5,929	1,665
その他自動	2,001	12	0.6	105	5.3	367	18.3	553	27.6	495	24.7	253	12.6	125	6.3	91	4.6	6,046	1,536

表 8．9　GOT(国際単位)の分布

男　　[15校集計]

	受診者数	10 IU/L未満		10～19		20～29		30～39		40～49		50～59		60～69		70～79		80～89		90～99		100以上	
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数	8,882	52	0.6	5,709	64.3	2,437	27.4	400	4.5	124	1.4	63	0.7	26	0.3	27	0.3	10	0.1	5	0.1	29	0.3
18歳	5,169	38	0.7	3,371	65.2	1,416	27.4	196	3.8	57	1.1	31	0.6	14	0.3	18	0.4	5	0.1	4	0.1	19	0.4
19	2,396	9	0.4	1,488	62.1	670	28.0	136	5.7	46	1.9	21	0.9	10	0.4	4	0.2	4	0.2	1	0.1	7	0.3
20	359	1	0.3	213	59.3	109	30.4	20	5.6	8	2.2	5	1.4	1	0.3	1	0.3	0	0.0	0	0.0	1	0.3
21	431	3	0.7	312	72.4	88	20.4	19	4.4	5	1.2	2	0.5	0	0.0	1	0.2	0	0.0	0	0.0	1	0.2
22	207	0	0.0	137	66.2	56	27.1	9	4.4	3	1.5	1	0.5	0	0.0	0	0.0	1	0.5	0	0.0	0	0.0
23	130	1	0.8	79	60.8	41	31.5	5	3.9	2	1.5	0	0.0	1	0.8	1	0.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0
24	64	0	0.0	46	71.9	13	20.3	4	6.3	0	0.0	1	1.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
25以上	126	0	0.0	63	50.0	44	34.9	11	8.7	3	2.4	2	1.6	0	0.0	2	1.6	0	0.0	0	0.0	1	0.8

女　　[15校集計]

総数	5,124	60	1.2	4,142	80.8	805	15.7	81	1.6	20	0.4	6	0.1	5	0.1	2	0.0	1	0.0	1	0.0	1	0.0
18歳	3,634	41	1.1	2,931	80.7	585	16.1	56	1.5	13	0.4	4	0.1	1	0.0	2	0.1	1	0.0	0	0.0	0	0.0
19	893	10	1.1	714	80.0	142	15.9	18	2.0	3	0.3	2	0.2	2	0.2	0	0.0	0	0.0	1	0.1	1	0.1
20	81	0	0.0	63	77.8	17	21.0	1	1.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
21	334	7	2.1	284	85.0	36	10.8	4	1.2	1	0.3	0	0.0	2	0.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
22	83	0	0.0	75	90.4	8	9.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
23	45	1	2.2	33	73.3	8	17.8	2	4.4	1	2.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
24	21	0	0.0	16	76.2	4	19.1	0	0.0	1	4.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
25以上	33	1	3.0	26	78.8	5	15.2	0	0.0	1	3.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

表 8．10　GOT(Karmen単位)の分布

男　　[4校集計]

	受診者数	10 IU/L未満		10～19		20～29		30～39		40～49		50～59		60～69		70～79		80～89		90～99		100以上	
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数	832	3	0.4	465	55.9	235	28.3	63	7.6	27	3.3	16	1.9	5	0.6	3	0.4	2	0.2	5	0.6	8	1.0
18歳	463	2	0.4	256	55.3	126	27.2	40	8.6	16	3.5	11	2.4	4	0.9	1	0.2	0	0.0	4	0.9	3	0.7
19	168	0	0.0	99	58.9	43	25.6	7	4.2	7	4.2	3	1.8	1	0.6	1	0.6	2	1.2	1	0.6	4	2.4
20	149	1	0.7	80	53.7	49	32.9	12	8.1	3	2.0	2	1.3	0	0.0	1	0.7	0	0.0	0	0.0	1	0.7
21	23	0	0.0	15	65.2	8	34.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
22	11	0	0.0	7	63.6	3	27.3	1	9.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
23	2	0	0.0	0	0.0	1	50.0	0	0.0	1	50.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
24	3	0	0.0	1	33.3	1	33.3	1	33.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
25以上	13	0	0.0	7	53.9	4	30.8	2	15.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

女　　[4校集計]

総数	1,170	7	0.6	893	76.3	236	20.2	18	1.5	6	0.5	4	0.3	0	0.0	1	0.1	0	0.0	2	0.2	3	0.3
18歳	903	6	0.7	695	77.0	177	19.6	14	1.6	4	0.4	3	0.3	0	0.0	1	0.1	0	0.0	2	0.2	1	0.1
19	187	1	0.5	140	74.9	39	20.9	3	1.6	1	0.5	1	0.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	1.1
20	61	0	0.0	43	70.5	17	27.9	1	1.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
21	7	0	0.0	7	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
22	3	0	0.0	1	33.3	1	33.3	0	0.0	1	33.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
23	1	0	0.0	0	0.0	1	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
24	1	0	0.0	1	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
25以上	7	0	0.0	6	85.7	1	14.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

表 8 .11　GPT(国際単位)の分布

男

[18校集計]

	受診者数	10 IU/L未満		10～19		20～29		30～39		40～49		50～59		60～69		70～79		80～89		90～99		100以上	
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数	12,089	2,564	21.2	6,339	52.4	1,750	14.5	618	5.1	313	2.6	129	1.1	97	0.8	65	0.5	44	0.4	39	0.3	131	1.1
18歳	6,460	1,530	23.7	3,390	52.5	862	13.3	292	4.5	149	2.3	58	0.9	49	0.8	32	0.5	17	0.3	15	0.2	66	1.0
19	3,177	638	20.1	1,660	52.3	467	14.7	172	5.4	81	2.6	43	1.4	25	0.8	20	0.6	17	0.5	12	0.4	42	1.3
20	1,036	185	17.9	581	56.1	154	14.9	58	5.6	22	2.1	10	1.0	7	0.7	6	0.6	2	0.2	1	0.1	10	1.0
21	753	127	16.9	391	51.9	133	17.7	46	6.1	21	2.8	6	0.8	6	0.8	4	0.5	1	0.1	8	1.1	10	1.3
22	283	40	14.1	143	50.5	53	18.7	17	6.0	14	5.0	5	1.8	6	2.1	1	0.4	2	0.7	2	0.7	0	0.0
23	149	17	11.4	71	47.7	28	18.8	15	10.1	8	5.4	2	1.3	3	2.0	1	0.7	4	2.7	0	0.0	0	0.0
24	80	16	20.0	41	51.3	13	16.3	2	2.5	3	3.8	2	2.5	1	1.3	0	0.0	1	1.3	0	0.0	1	1.3
25以上	151	11	7.3	62	41.1	40	26.5	16	10.6	15	9.9	3	2.0	0	0.0	1	0.7	0	0.0	1	0.7	2	1.3

女

[18校集計]

総数	8,240	3,693	44.8	3,912	47.5	448	5.4	97	1.2	35	0.4	19	0.2	12	0.2	8	0.1	6	0.1	2	0.0	8	0.1
18歳	5,229	2,495	47.7	2,362	45.2	257	4.9	62	1.2	17	0.3	12	0.2	8	0.2	8	0.2	4	0.1	1	0.0	3	0.1
19	1,644	690	42.0	813	49.5	105	6.4	19	1.2	9	0.6	3	0.2	3	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.1
20	638	225	35.3	354	55.5	45	7.1	6	0.9	2	0.3	2	0.3	1	0.2	0	0.0	0	0.0	1	0.2	2	0.3
21	496	184	37.1	268	54.0	29	5.9	8	1.6	3	0.6	2	0.4	0	0.0	0	0.0	2	0.4	0	0.0	0	0.0
22	103	46	44.7	54	52.4	3	2.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
23	51	24	47.1	19	37.3	3	5.9	2	3.9	3	5.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
24	23	9	39.1	11	47.8	3	13.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
25以上	56	20	35.7	31	55.4	3	5.4	0	0.0	1	1.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	1.8

表 8 .12　GPT(Karmen単位)の分布

男

[4校集計]

	受診者数	10 IU/L未満		10～19		20～29		30～39		40～49		50～59		60～69		70～79		80～89		90～99		100以上	
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数	832	124	14.9	459	55.2	150	18.0	42	5.1	26	3.1	13	1.6	6	0.7	1	0.1	1	0.1	2	0.2	8	1.0
18歳	463	67	14.5	263	56.8	85	18.4	18	3.9	12	2.6	9	1.9	2	0.4	0	0.0	1	0.2	2	0.4	4	0.9
19	168	26	15.5	85	50.6	28	16.7	10	6.0	11	6.6	2	1.2	1	0.6	1	0.6	0	0.0	0	0.0	4	2.4
20	149	23	15.4	81	54.4	27	18.1	11	7.4	3	2.0	2	1.3	2	1.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
21	23	4	17.4	17	73.9	2	8.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
22	11	3	27.3	6	54.6	2	18.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
23	2	0	0.0	1	50.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	50.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
24	3	1	33.3	0	0.0	2	66.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
25以上	13	0	0.0	6	46.2	4	30.8	3	23.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

女

[4校集計]

総数	1,171	509	43.5	551	47.1	75	6.4	15	1.3	9	0.8	2	0.2	1	0.1	2	0.2	2	0.2	0	0.0	5	0.4
18歳	904	413	45.7	405	44.8	61	6.8	11	1.2	5	0.6	1	0.1	1	0.1	2	0.2	2	0.2	0	0.0	3	0.3
19	187	68	36.4	102	54.6	10	5.4	2	1.1	3	1.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	1.1
20	61	19	31.2	36	69.0	4	6.6	1	1.6	1	1.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
21	7	4	57.1	3	42.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
22	3	1	33.3	1	33.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	33.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
23	1	0	0.0	1	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
24	1	1	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
25以上	7	3	42.9	3	42.9	0	0.0	1	14.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

表 8 .13　γ－GTP(国際単位)の分布

男　　[10校集計]

	受診者数	10 IU/L未満		10～19		20～29		30～39		40～49		50～59		60～69		70～79		80～89		90～99		100以上	
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数	7,038	1,030	14.6	4,154	59.0	1,312	18.6	307	4.4	117	1.7	47	0.7	20	0.3	10	0.1	13	0.2	8	0.1	20	0.3
18歳	3,011	398	13.2	1,791	59.5	619	20.6	108	3.6	52	1.7	21	0.7	10	0.3	4	0.1	3	0.1	0	0.0	5	0.2
19	1,931	166	8.6	1,206	62.5	398	20.6	107	5.5	28	1.5	9	0.5	4	0.2	3	0.2	6	0.3	1	0.1	3	0.2
20	827	80	9.7	551	66.6	134	16.2	35	4.2	16	1.9	4	0.5	2	0.2	0	0.0	0	0.0	2	0.2	3	0.4
21	716	212	29.6	370	51.7	82	11.5	23	3.2	9	1.3	6	0.8	2	0.3	1	0.1	2	0.3	3	0.4	6	0.8
22	246	86	35.0	99	40.2	32	13.0	16	6.5	6	2.4	2	0.8	2	0.8	0	0.0	0	0.0	1	0.4	2	0.8
23	121	41	33.9	51	42.2	16	13.2	6	5.0	2	1.7	3	2.5	0	0.0	1	0.8	1	0.8	0	0.0	0	0.0
24	67	25	37.3	28	41.8	6	9.0	4	6.0	0	0.0	1	1.5	0	0.0	1	1.5	1	1.5	1	1.5	0	0.0
25以上	119	22	18.5	58	48.7	25	21.0	8	6.7	4	3.4	1	0.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.8

女　　[10校集計]

総数	5,100	1,553	30.5	2,183	62.4	295	5.8	39	0.8	15	0.3	4	0.1	5	0.1	3	0.1	0	0.0	2	0.1	1	0.0
18歳	2,758	625	22.7	1,911	69.3	180	6.5	26	0.9	9	0.3	2	0.1	3	0.1	2	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
19	1,078	287	26.6	717	66.5	61	5.7	6	0.6	3	0.3	1	0.1	1	0.1	1	0.1	0	0.0	1	0.1	0	0.0
20	597	236	39.5	332	55.6	22	3.7	3	0.5	1	0.2	0	0.0	1	0.2	0	0.0	0	0.0	1	0.2	1	0.2
21	483	280	58.0	168	34.8	29	6.0	3	0.6	2	0.4	1	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
22	79	55	69.6	22	27.9	1	1.3	1	1.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
23	37	30	81.1	6	16.2	1	2.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
24	18	16	88.9	2	11.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
25以上	50	24	48.0	25	50.0	1	2.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

表 8 .14　γ－GTP(Karmen単位)の分布

男　　[2校集計]

	受診者数	10 IU/L未満		10～19		20～29		30～39		40～49		50～59		60～69		70～79		80～89		90～99		100以上	
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数	366	60	16.4	267	73.0	29	7.9	3	0.8	4	1.1	1	0.3	0	0.0	1	0.3	1	0.3	0	0.0	0	0.0
18歳	142	26	18.3	104	73.2	8	5.6	1	0.7	2	1.4	1	0.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
19	49	10	20.4	35	71.4	3	6.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
20	135	16	11.9	102	75.6	14	10.4	2	1.5	1	0.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
21	21	5	23.8	14	66.7	2	9.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
22	9	2	22.2	5	55.6	1	11.1	0	0.0	1	11.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
23	0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
24	3	1	33.3	2	66.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
25以上	7	0	0.0	5	71.4	1	14.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	14.3	0	0.0	0	0.0

女　　[2校集計]

総数	783	422	53.9	347	44.3	9	1.2	3	0.4	0	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0
18歳	578	326	56.4	241	41.7	7	1.2	2	0.4	0	0.0	0	0.0	1	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
19	135	64	47.4	70	51.9	1	0.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
20	58	28	48.3	28	48.3	1	1.7	1	1.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
21	7	4	57.1	3	42.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
22	3	0	0.0	3	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
23	1	0	0.0	1	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
24	1	0	0.0	1	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
25以上	0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

表 8 .15　尿酸値の分布

男

［14校集計］

	受診者数	2.5mg/dl未満		2.5～2.9		3.0～3.4		3.5～3.9		4.0～4.4		4.5～4.9		5.0～5.4		5.5～5.9	
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数	8,236	15	0.2	36	0.4	117	1.4	237	2.9	403	4.9	792	9.6	1,325	16.1	1,576	19.1
18歳	4,191	10	0.2	17	0.4	56	1.3	122	2.9	208	5.0	393	9.4	668	15.9	783	18.7
19	2,359	2	0.1	10	0.4	28	1.2	63	2.7	112	4.8	238	10.1	400	17.0	473	20.1
20	1,008	1	0.1	4	0.4	20	2.0	35	3.5	54	5.4	96	9.5	158	15.7	195	19.4
21	438	2	0.5	3	0.7	10	2.3	11	2.5	18	4.1	43	9.8	64	14.6	85	19.4
22	115	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.9	7	6.1	7	6.1	18	15.7	21	18.3
23	28	0	0.0	1	3.6	0	0.0	1	3.6	1	3.6	5	17.9	1	3.6	5	17.9
24	28	0	0.0	0	0.0	1	3.6	1	3.6	0	0.0	6	21.4	4	14.3	3	10.7
25以上	69	0	0.0	1	1.5	2	2.9	3	4.4	3	4.4	4	5.8	12	17.4	11	15.9

	受診者数	6.0～6.4		6.5～6.9		7.0～7.4		7.5～7.9		8.0～8.4		8.5～8.9		9.0以上		平均値	標準偏差
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%		
総数	8,236	1,429	17.4	1,054	12.8	625	7.6	321	3.9	147	1.8	86	1.0	73	0.9	5.8	1.2
18歳	4,191	763	18.2	547	13.1	309	7.4	160	3.8	72	1.7	49	1.2	34	0.8	5.8	1.2
19	2,359	386	16.4	300	12.7	171	7.3	92	3.9	42	1.8	21	0.9	21	0.9	5.8	1.1
20	1,008	161	16.0	127	12.6	89	8.8	40	4.0	15	1.5	6	0.6	7	0.7	5.7	1.1
21	438	76	17.4	52	11.9	31	7.1	15	3.4	14	3.2	5	1.1	9	2.1	5.8	1.2
22	115	27	23.5	8	7.0	12	10.4	9	7.8	3	2.6	1	0.9	1	0.9	6.0	1.1
23	28	6	21.4	1	3.6	3	10.7	2	7.1	0	0.0	1	3.6	1	3.6	5.9	1.5
24	28	2	7.1	8	28.6	2	7.1	0	0.0	0	0.0	1	3.6	0	0.0	5.7	1.2
25以上	69	8	11.6	11	15.9	8	11.6	3	4.4	1	1.5	2	2.9	0	0.0	5.8	1.3

女

［14校集計］

	受診者数	2.5mg/dl未満		2.5～2.9		3.0～3.4		3.5～3.9		4.0～4.4		4.5～4.9		5.0～5.4		5.5～5.9	
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数	5,831	84	1.4	221	3.8	583	10.0	1,212	20.8	1,425	24.4	1,108	19.0	637	10.9	320	5.5
18歳	3,551	51	1.4	132	3.7	339	9.6	755	21.3	880	24.8	682	19.2	368	10.4	192	5.4
19	1,281	20	1.6	50	3.9	139	10.9	250	19.5	321	25.1	243	19.0	143	11.2	73	5.7
20	655	8	1.2	30	4.6	64	9.8	122	18.6	142	21.7	121	18.5	94	14.4	36	5.5
21	261	4	1.5	7	2.7	31	11.9	63	24.1	60	23.0	46	17.6	27	10.3	14	5.4
22	35	0	0.0	1	2.9	3	8.6	10	28.6	7	20.0	7	20.0	4	11.4	3	8.6
23	6	1	16.7	0	0.0	0	0.0	1	16.7	1	16.7	1	16.7	1	16.7	1	16.7
24	4	0	0.0	0	0.0	1	25.0	1	25.0	2	50.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
25以上	38	0	0.0	1	2.6	6	15.8	10	26.3	12	31.6	8	21.1	0	0.0	1	2.6

	受診者数	6.0～6.4		6.5～6.9		7.0～7.4		7.5～7.9		8.0～8.4		8.5～8.9		9.0以上		平均値	標準偏差
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%		
総数	5,831	144	2.5	54	0.9	20	0.3	13	0.2	7	0.1	2	0.0	1	0.0	4.2	0.9
18歳	3,551	95	2.7	32	0.9	9	0.3	9	0.3	5	0.1	1	0.0	1	0.0	4.2	0.9
19	1,281	22	1.7	8	0.6	7	0.6	2	0.2	2	0.2	1	0.1	0	0.0	4.2	0.9
20	655	22	3.4	12	1.8	3	0.5	1	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4.3	0.9
21	261	5	1.9	2	0.8	1	0.4	1	0.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4.2	0.9
22	35	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4.2	0.8
23	6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4.2	1.1
24	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3.7	0.5
25以上	38	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4.0	0.6

表 8 .16　総コレステロール値の分布

男

［19校集計］

	受診者数	100mg/dl未満		100～109		110～119		120～129		130～139		140～149		150～159		160～169		170～179		180～189		190～199	
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数	13,904	35	0.3	126	0.9	323	2.3	716	5.2	1,324	9.5	1,855	13.3	2,064	14.8	2,032	14.6	1,671	12.0	1,256	9.0	952	6.9
18歳	7,528	17	0.2	54	0.7	137	1.8	362	4.8	734	9.8	1,000	13.3	1,184	15.7	1,147	15.2	918	12.2	689	9.2	502	6.7
19	3,766	14	0.4	43	1.1	119	3.2	222	5.9	355	9.4	516	13.7	516	13.7	547	14.5	435	11.6	331	8.8	256	6.8
20	1,191	3	0.3	19	1.6	32	2.7	80	6.7	141	11.8	183	15.4	190	16.0	164	13.8	124	10.4	84	7.1	68	5.7
21	776	1	0.1	6	0.8	20	2.6	36	4.6	63	8.1	106	13.7	108	13.9	107	13.8	98	12.6	80	10.3	58	7.5
22	275	0	0.0	3	1.1	10	3.6	10	3.6	18	6.6	23	8.4	36	13.1	34	12.4	39	14.2	29	10.6	27	9.8
23	137	0	0.0	0	0.0	1	0.7	2	1.5	6	4.4	6	4.4	12	8.8	13	9.5	24	17.5	18	13.1	14	10.2
24	76	0	0.0	0	0.0	2	2.6	2	2.6	4	5.3	8	10.5	10	13.2	7	9.2	13	17.1	10	13.2	9	11.8
25以上	155	0	0.0	1	0.7	2	1.3	2	1.3	3	1.9	13	8.4	8	5.2	13	8.4	20	12.9	15	9.7	18	11.6

	受診者数	200～209		210～219		220～229		230～239		240～249		250～259		260～269		270～279		280以上		平均値	標準偏差
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%		
総数	13,904	613	4.4	370	2.7	218	1.6	132	1.0	88	0.6	49	0.4	27	0.2	18	0.1	35	0.3	164.8	28.9
18歳	7,528	308	4.1	197	2.6	116	1.5	63	0.8	40	0.5	22	0.3	13	0.2	6	0.1	19	0.3	164.7	27.8
19	3,766	169	4.5	99	2.6	50	1.3	34	0.9	28	0.7	9	0.2	9	0.2	8	0.2	6	0.2	163.7	29.5
20	1,191	45	3.8	16	1.3	22	1.9	7	0.6	4	0.3	5	0.4	2	0.2	0	0.0	2	0.2	159.9	28.0
21	776	36	4.6	20	2.6	16	2.1	11	1.4	7	0.9	2	0.3	1	0.1	0	0.0	0	0.0	166.3	28.2
22	275	20	7.3	15	5.5	2	0.7	4	1.5	1	0.4	2	0.7	1	0.4	0	0.0	1	0.4	171.2	30.4
23	137	13	9.5	8	5.8	4	2.9	3	2.2	4	2.9	4	2.9	1	0.7	2	1.5	2	1.5	187.1	34.7
24	76	2	2.6	4	5.3	1	1.3	3	4.0	1	1.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	173.8	28.4
25以上	155	20	12.9	11	7.1	7	4.5	7	4.5	3	1.9	5	3.2	0	0.0	2	1.3	5	3.2	191.4	37.1

女

［19校集計］

	受診者数	100mg/dl未満		100～109		110～119		120～129		130～139		140～149		150～159		160～169		170～179		180～189		190～199	
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数	8,288	11	0.1	21	0.3	77	0.9	226	2.7	483	5.8	762	9.2	996	12.0	1,171	14.1	1,174	14.2	1,050	12.7	773	9.3
18歳	5,262	6	0.1	12	0.2	39	0.7	109	2.1	264	5.0	442	8.4	665	12.6	743	14.1	918	12.2	689	9.2	502	6.7
19	1,632	4	0.3	6	0.4	21	1.3	66	4.0	123	7.5	190	11.6	176	10.8	225	13.8	224	13.7	211	12.9	140	8.6
20	689	0	0.0	2	0.3	10	1.5	25	3.6	58	8.4	73	10.6	84	12.2	121	17.6	101	14.7	80	11.6	59	8.6
21	499	1	0.2	0	0.0	6	1.2	20	4.0	26	5.2	41	8.2	53	10.6	58	11.6	55	11.0	67	13.4	51	10.2
22	82	0	0.0	1	1.2	0	0.0	5	6.1	4	4.9	3	3.7	9	11.0	11	13.4	5	6.1	9	11.0	9	11.0
23	42	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	9.5	5	11.9	4	9.5	4	9.5	3	7.1	6	14.3	4	9.5
24	20	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	5.0	3	15.0	3	15.0	5	25.0
25以上	62	0	0.0	0	0.0	1	1.6	1	1.6	4	6.5	8	12.9	5	8.1	8	12.9	9	14.5	5	8.1	3	4.8

	受診者数	200～209		210～219		220～229		230～239		240～249		250～259		260～269		270～279		280以上		平均値	標準偏差
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%		
総数	8,288	576	7.0	400	4.8	236	2.9	125	1.5	89	1.1	55	0.7	33	0.4	12	0.1	18	0.2	174.9	29.2
18歳	5,262	308	4.1	197	2.6	116	1.5	63	0.8	40	0.5	33	0.6	23	0.4	6	0.1	10	0.2	176.3	28.5
19	1,632	95	5.8	65	4.0	34	2.1	17	1.0	11	0.7	14	0.9	3	0.2	4	0.3	3	0.2	171.0	29.2
20	689	27	3.9	21	3.1	12	1.7	3	0.4	6	0.9	2	0.3	1	0.2	1	0.2	3	0.4	169.0	27.7
21	499	34	6.8	35	7.0	19	3.8	15	3.0	8	1.6	4	0.8	4	0.8	0	0.0	2	0.4	178.8	32.7
22	82	7	8.5	7	8.5	4	4.9	4	4.9	2	2.4	0	0.0	2	2.4	0	0.0	0	0.0	182.5	34.0
23	42	3	7.1	3	7.1	2	4.8	1	2.4	2	4.8	1	2.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	181.3	32.6
24	20	4	20.0	2	10.0	0	0.0	1	5.0	1	5.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	196.1	19.1
25以上	62	5	8.1	4	6.5	3	4.8	4	6.5	0	0.0	1	1.6	0	0.0	1	1.6	0	0.0	179.3	34.6

表 8 .17　1984年度と1995年度の血清総コレステロール異常値の比較

	男　(1984年)			男　(1995年)		
	受診学生数	実　数	%	受診学生数	実　数	%
220mg/dl以上	1,850	147	7.95	13,904	567	4.08
240mg/dl以上	〃	44	2.38	〃	217	1.56
260mg/dl以上	〃	8	0.43	〃	80	0.58
	女　(1984年)			女　(1995年)		
	受診学生数	実　数	%	受診学生数	実　数	%
220mg/dl以上	952	140	14.71	8,288	568	6.85
240mg/dl以上	〃	48	5.04	〃	207	2.50
260mg/dl以上	〃	10	1.05	〃	63	0.76

表 8 .18　1984年度と1995年度のGPT値(Karmen単位)異常値の比較

GPT(Karmen U) 1984年		60KU以上	
男	受診学生数	実　数	%
総数	6,556	253	3.9
18歳	2,486	101	4.1
19	1,586	65	4.1
20	749	19	2.5
21	679	26	3.8
22	361	20	5.5
23	282	7	2.5
24	175	2	1.1
25以上	238	13	5.5

GPT(Karmen U) 1995年		60KU以上	
男	受診学生数	実　数	%
総数	832	18	2.2
18歳	463	9	1.9
19	168	6	3.6
20	149	2	1.3
21	23	0	0.0
22	11	0	0.0
23	2	1	50.0
24	3	0	0.0
25以上	13	0	0.0

GPT(Karmen U) 1984年		60KU以上	
女	受診学生数	実　数	%
総数	3,592	26	0.7
18歳	2,033	14	0.7
19	486	4	0.8
20	489	2	0.4
21	399	5	1.3
22	105	1	1.0
23	38	0	0.0
24	18	0	0.0
25以上	24	0	0.0

GPT(Karmen U) 1995年		60KU以上	
女	受診学生数	実　数	%
総数	1,171	10	0.9
18歳	904	8	0.9
19	187	2	1.1
20	61	0	0.0
21	7	0	0.0
22	3	0	0.0
23	1	0	0.0
24	1	0	0.0
25以上	7	0	0.0

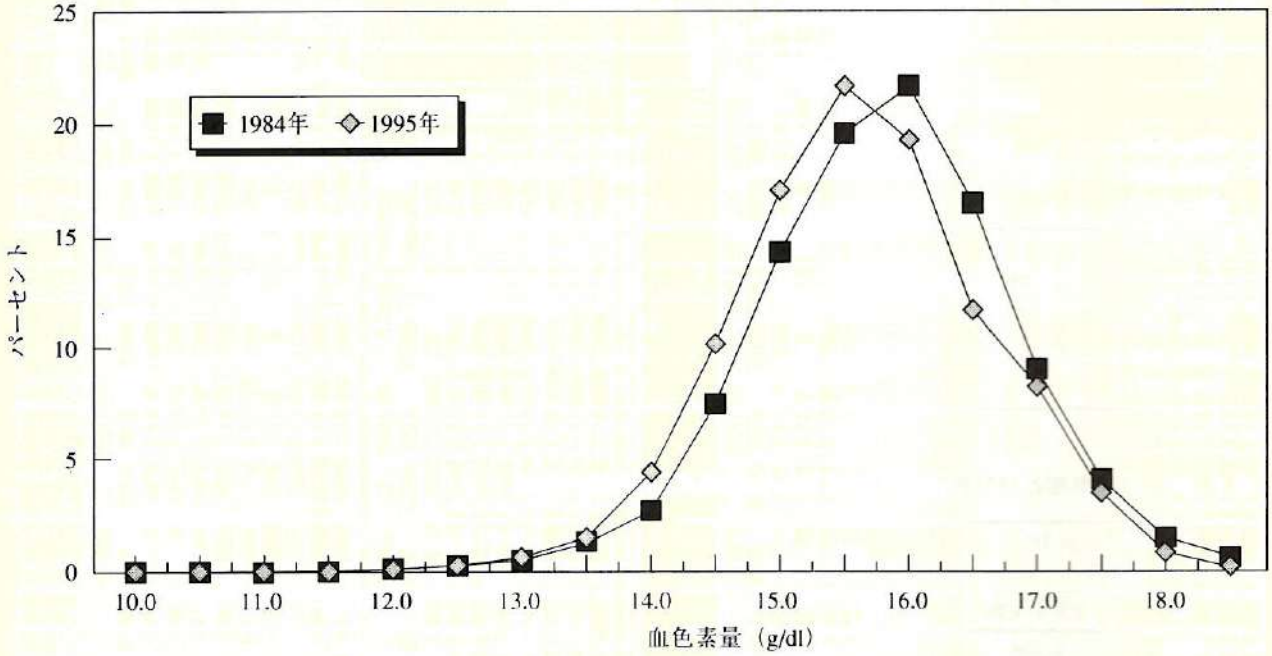


図８．１　1984年度と1995年度の男子血色素量分布の比較

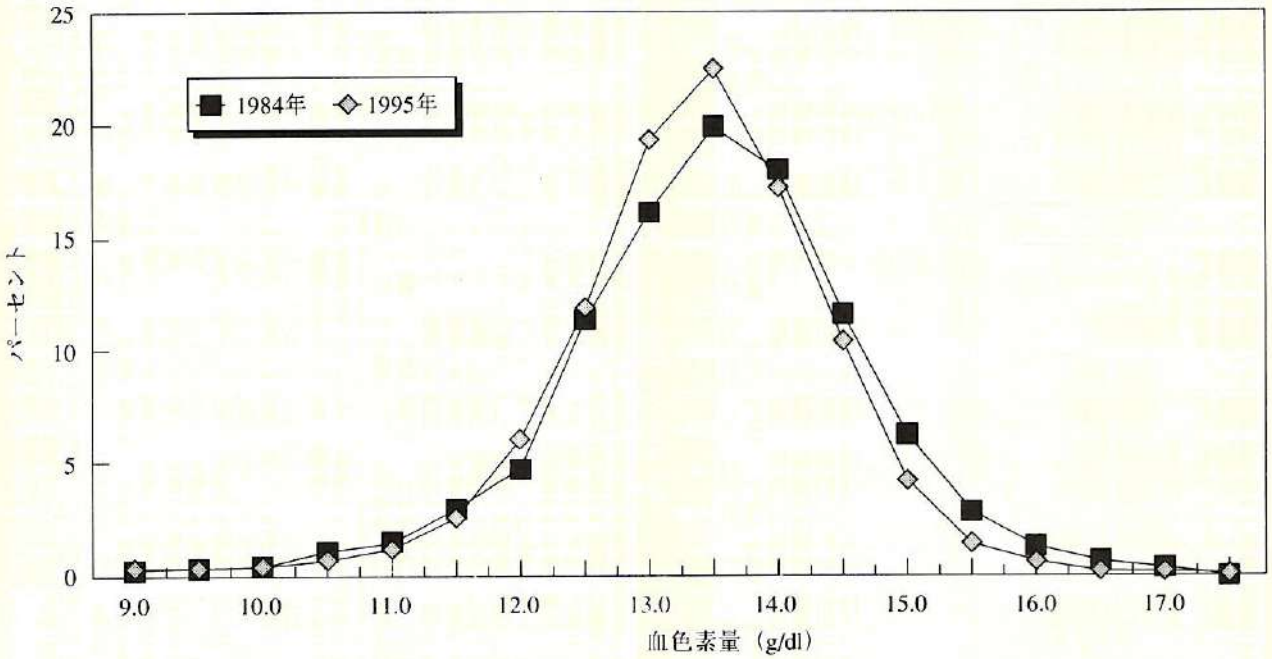


図８．２　1984年度と1995年度の女子血色素量分布の比較

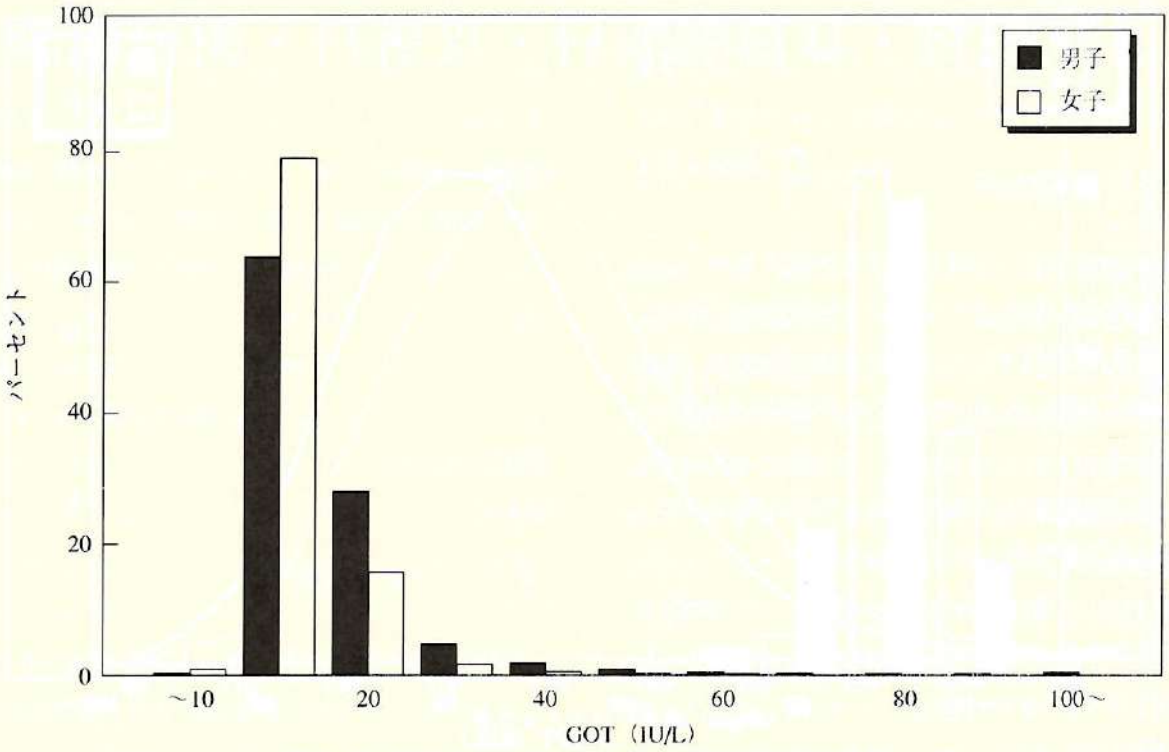


図８．３　男子と女子のGOT値（国際単位）の分布

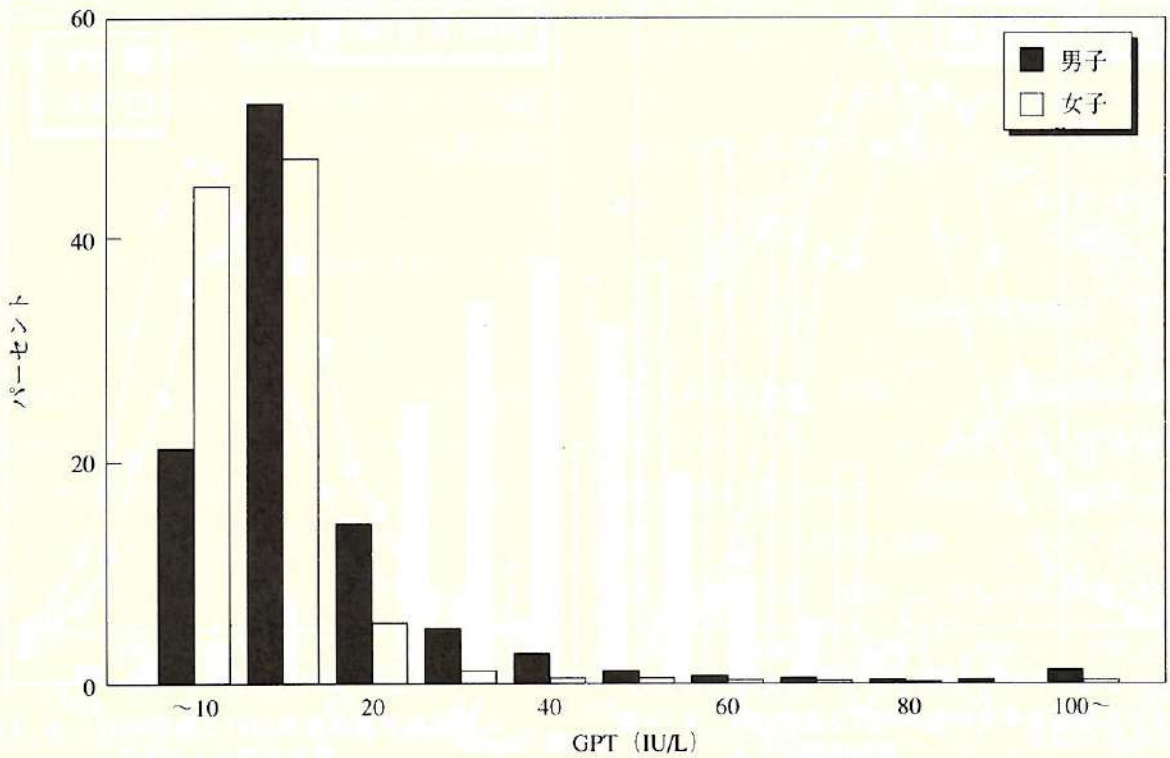


図８．４　男子と女子のGPT値（国際単位）の分布

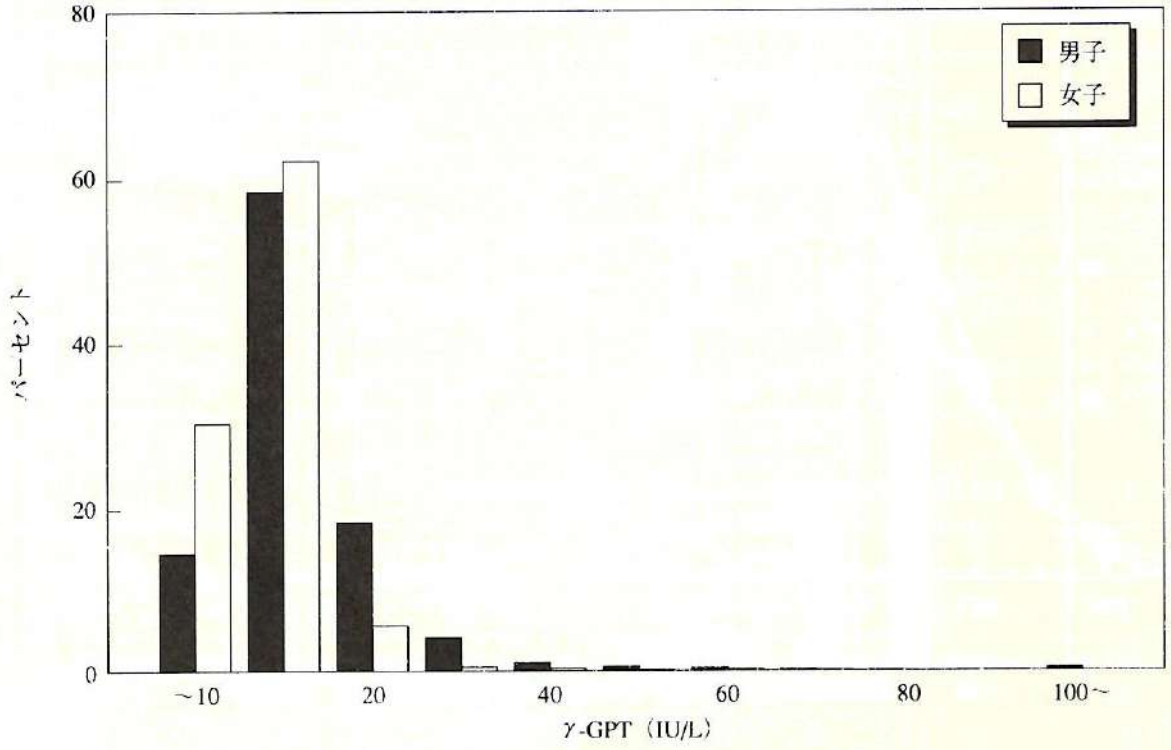


図８．５　男子と女子のγ-GTP（国際単位）の分布

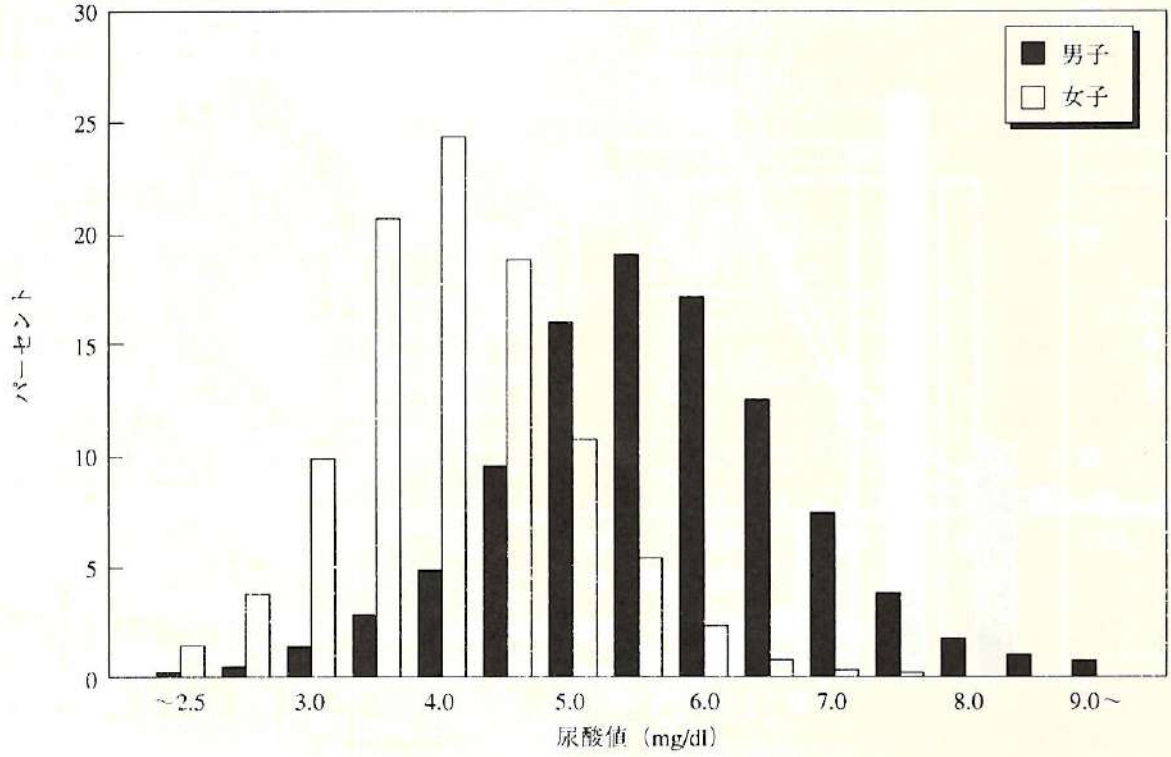


図８．６　男子と女子の尿酸値の分布

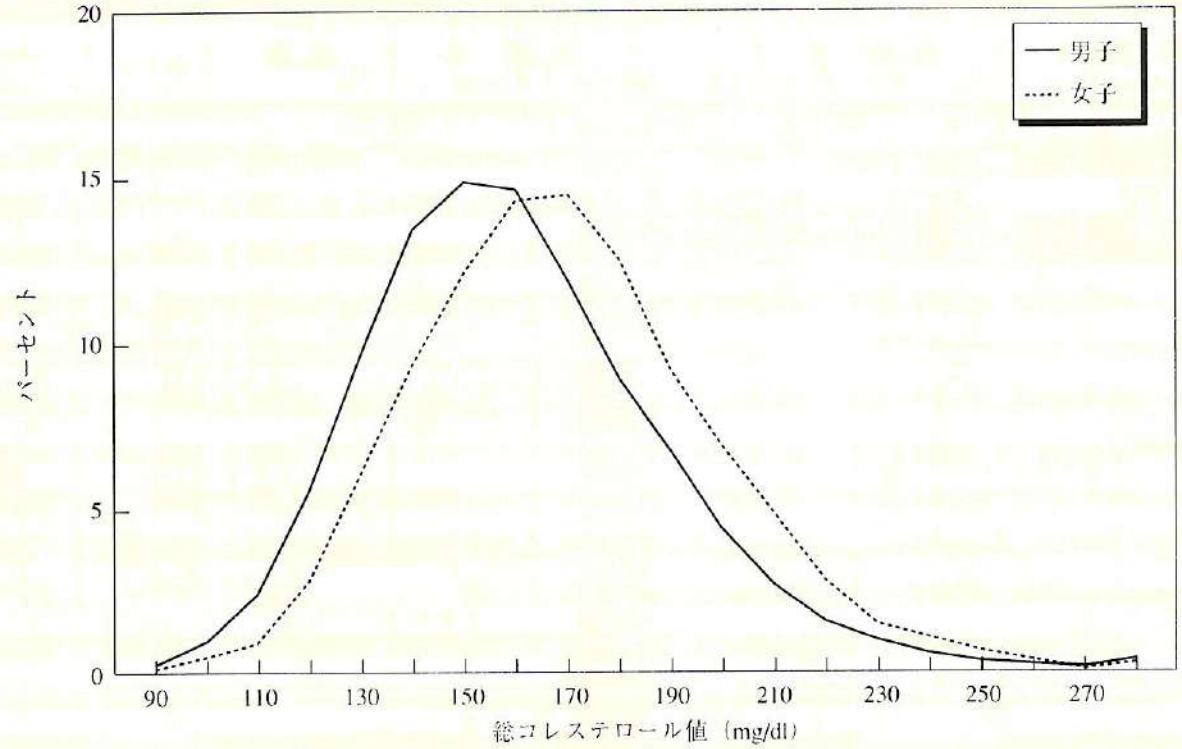


図８．７　男子と女子の血清総コレステロール値の分布

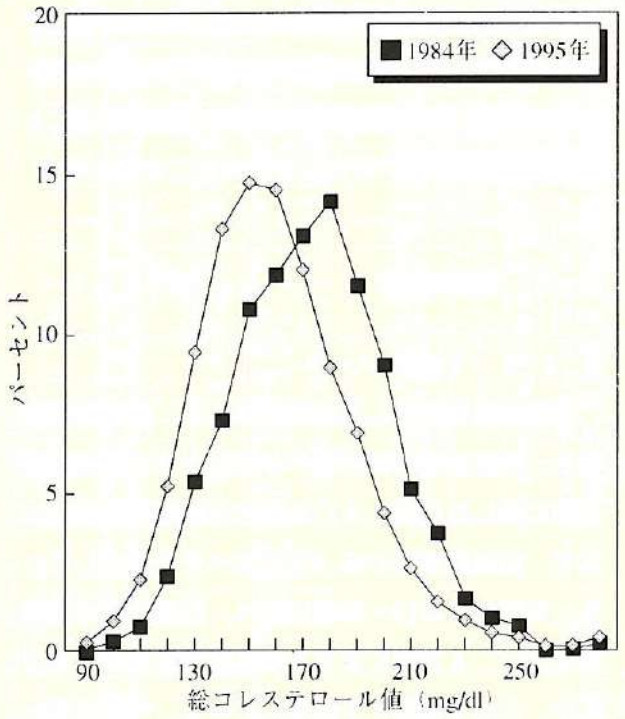


図８．８　1984年度と1995年度の男子血清総コレステロール値の比較

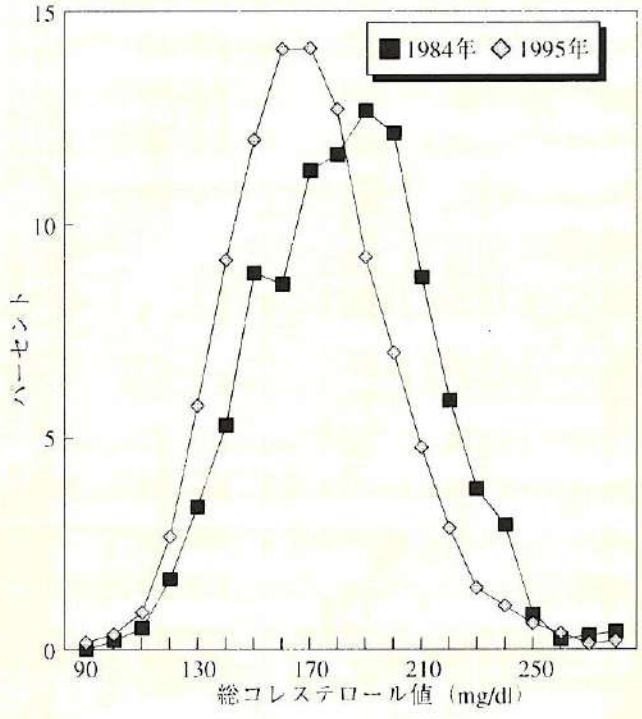


図８．９　1984年度と1995年度の女子血清総コレステロール値の比較

9．眼科・耳鼻咽喉科・皮膚科・歯科検診

9．1　眼科検診

眼科検診では「白書1984」と同様，斜視，結膜炎，霰粒腫，麦粒腫，涙のう炎，角膜異常について調査した（表9．1）．何らかの眼科検診の成績をよせた大学は36校であったが，個々の項目毎の結果が報告されたのは30校，項目別の実施校数は20～29校であった．異常の頻度が最も高かったのは結膜炎の約1％で，その他はいずれも極めて低率であった．眼科医が診察を担当した大学は約6割（13～18校）で，個々の検出率は他科の医師の場合と比べて著明な差はみられなかった．「白書1984」には全項目について診察が行われた13校について集計されている．その成績に比較して殆ど差は見られなかったが，涙のう炎，角膜異常の頻度が低率ながら増加を示した．コンタクトレンズの使用と関連が想定される．
(受診者数について，一部の大学に問い合わせを行ない訂正した.)

9．2　耳鼻咽喉科検診

耳鼻咽喉科の検診では，難聴，慢性中耳炎，慢性副鼻腔炎，慢性鼻炎，鼻アレルギー，鼻中隔弯曲症，咽頭炎，慢性扁桃炎，扁桃肥大，頭頸部腫瘍について調査した．前回の検診項目のうち中耳カタル，外耳道炎は省き，難聴，頭頸部腫瘍を加えた．

実施報告した大学数は35校で，検診項目は大学により多少異なっていた．項目別成績が報告された32校について集計した（表9．2，図9．1）．このうち耳鼻科医が検診を担当したのは15校であった．耳鼻科医と他科の医師との相違は軽度であったが，扁桃肥大，咽頭炎，難聴で耳鼻科医による有所見率が低い傾向がみられた．今回の調査で最も高頻度に認められたのは鼻アレルギーの5.48％であった．「白書1984」の8校の調査では1.7％だったので約3倍に増加している．また，近年ヘッドフォンなどで問題になっている難聴は0.37％にみられた．その他の疾患はいずれも1％以下の頻度であった．

9．3　皮膚科検診

皮膚科検診も調査の項目により実施大学数が異なるが，特にアトピー性皮膚炎の調査を実施した大学は29校と多かった（表9．3，図9．2）．また異常率が高いのもアトピー性皮膚炎で，2.43％であった．皮膚科医が診察を担当したのは3校であるが，アトピー性皮膚炎の診断率は大学により差が大きく，診断基準が必ずしも一定でないことが窺えた．

9．4　歯科検診

9．4．1　う蝕について

歯科検診を実施した15大学のうち，歯科医が検診し，判定基準がほぼ同一と思われる6校の成績を表に示した(表9．4)．全体のう蝕罹患率は93.3％で，前回調査時の95.5％に比べやや減少している．年齢的には18～20歳に比べ，21歳以降の罹患率は低い．6大学における未処置歯保有率は39.7％で，これも前回より減少している．年齢の高い者に未処置歯保有率が高く，処置歯保有率は逆に少ない傾向が見られるが，大学により実施学年や異常率が異なることを考えると，純粋に年齢による差と言えない可能性がある．性別では，う蝕罹患率は女子学生が高いが処置率も高く，未処置歯

保有率は男子の方が高かった．

平成５年歯科疾患実態調査（厚生省）による同年齢のう蝕罹患率は96.6%以上で，減少傾向は見られず，また年齢差もない．未処置歯保有率も50%を越えており，う蝕に関する限り国立大学生の歯の状態は全国平均に比べ良好だと言えそうである．

9．4．2　歯周疾患について

歯周疾患については５大学から検診成績が提出されたが，う蝕に比べ大学による異常率の差が極めて大きかった．CPITN（Community Periodontal Index of Treatment Needs）による診査を原則としたが，検診の方法，例えば診察時の姿勢，臥位か座位か，何本の歯を診査対象とするか，１人にどの位時間がかけられるかなどがまちまちであったためと考えられる．歯周炎と歯肉炎も判定基準の相違によると思われる検出率の差が著明であったため，まとめて歯周疾患として集計した．

直ちに治療が必要な者のみを有所見者とした１大学を除き，４大学における年齢別の罹患率を表９．５に示した．全体の罹患率は48.3%で男子に高率であった．男子では年齢差は明らかでなかったが，女子では，年齢が上になるほど罹患率が低下する傾向がみられた．

9．4．3　不正咬合について

これも判定基準によると思われる大学間の差が大きかったが，検診を行った３大学の結果をまとめた全体の罹患率は55%であった（表９．６）．

今回の調査のうち歯科を除いた領域で目立ったのは，アレルギー性疾患の高い異常率であった．その他の項目の有所見率は低率であったが，このうち要治療，要指導者がどの程度いたかについては，今回調査出来ていない．これに比べて歯科領域の異常は極めて高率で，その大部分が治療または指導が必要な学生である．これらの検診項目は通常の健康診断には含まれていないが，健康の自己管理を進めていく上で，健康診断の在り方を再検討することも必要と思われた．

〔石井伸子〕

表 9．1　眼科検診における疾病別有所見者の頻度

[36校集計]

所見	性別	対象者数	受診者		有所見者		1984有所見率 %
			実数	%	実数	%	
斜視 (25校)	総数	52,684	48,827	92.7	86	0.18	0.16
	男	41,576	38,952	93.7	59	0.15	0.17
	女	15,963	14,730	92.3	27	0.18	0.11
結膜炎 (29校)	総数	55,458	51,238	92.4	501	0.98	0.89
	男	38,575	35,692	92.5	370	1.04	0.94
	女	16,883	15,546	92.1	131	0.84	0.72
霰粒腫 (22校)	総数	44,086	40,291	91.4	53	0.13	0.18
	男	30,732	28,150	91.6	41	0.15	0.18
	女	13,354	12,151	91.0	12	0.10	0.18
麦粒腫 (23校)	総数	55,903	51,944	92.9	23	0.04	0.06
	男	32,806	30,115	91.8	18	0.06	0.07
	女	13,097	11,829	90.3	5	0.04	0.04
涙のう炎 (20校)	総数	38,684	34,928	90.3	12	0.03	0.00
	男	26,751	24,190	90.4	8	0.03	0.00
	女	11,933	10,738	90.0	4	0.04	0.00
角膜異常 (21校)	総数	41,950	38,196	91.1	29	0.08	0.01
	男	30,127	27,567	91.5	22	0.08	0.01
	女	11,823	10,629	89.9	7	0.07	0.02

表 9．2　耳鼻咽喉科検診における疾病別有所見者の頻度

[32校集計]

所見	性別	対象者数	受診者		有所見者		1984有所見率 %
			実数	%	実数	%	
難聴 (22校)	総数	52,863	50,995	96.5	187	0.37	
	男	36,321	34,856	96.0	146	0.42	
	女	16,542	16,137	97.6	41	0.25	
慢性中耳炎 (23校)	総数	52,157	49,850	95.6	88	0.18	0.10
	男	35,496	33,821	95.3	54	0.16	0.11
	女	16,661	16,029	96.2	34	0.21	0.03
慢性副鼻腔炎 (22腔)	総数	48,152	46,204	96.0	185	0.40	0.44
	男	32,939	31,484	95.6	141	0.45	0.46
	女	15,213	14,720	96.8	44	0.30	0.37
慢性鼻炎 (23校)	総数	48,332	46,184	95.6	305	0.66	1.32
	男	33,276	31,695	95.2	254	0.80	1.28
	女	15,056	14,489	96.2	51	0.35	1.45
鼻アレルギー (27校)	総数	55,030	52,706	95.8	2,888	5.48	1.77
	男	37,032	35,348	95.5	2,054	5.81	1.73
	女	17,998	17,358	96.4	834	4.80	1.95
鼻中隔彎曲症 (22校)	総数	40,475	38,506	95.1	120	0.31	0.49
	男	27,657	26,209	94.8	112	0.43	0.54
	女	12,818	12,297	95.9	8	0.07	0.25
副鼻腔炎 (16校)	総数	35,836	34,173	95.4	37	0.11	0.11
	男	24,144	22,912	94.9	27	0.12	0.13
	女	11,692	11,261	96.3	10	0.09	0.03
慢性扁桃炎 (19校)	総数	45,043	42,997	95.5	81	0.19	0.43
	男	29,504	28,012	94.9	50	0.18	0.42
	女	15,539	14,985	96.4	31	0.21	0.46
扁桃肥大 (24校)	総数	52,998	51,043	96.3	310	0.61	0.28
	男	36,098	34,641	96.0	210	0.61	0.26
	女	16,900	16,402	97.1	100	0.61	0.40
頭頸部腫瘍 (13校)	総数	27,896	26,240	94.1	2	0.01	
	男	19,396	18,166	93.7	2	0.01	
	女	8,500	8,074	95.0	0	0.00	

表 9．3　皮膚科検診における疾病別有所見者の頻度

[29校集計]

所見	性別	対象者数	受診者		有所見者	
			実数	%	実数	%
アトピー性皮膚炎 (29校)	総数	52,455	50,988	97.2	1,239	2.43
	男	32,564	31,593	97.0	713	2.26
	女	19,891	19,395	97.5	526	2.71
白癬 (16校)	総数	33,224	32,112	96.7	31	0.10
	男	21,336	20,629	96.7	27	0.13
	女	11,888	11,483	96.6	4	0.03
母斑 (17校)	総数	31,921	30,808	96.5	45	0.15
	男	21,637	20,934	96.8	31	0.15
	女	10,284	9,874	96.0	14	0.14
変形爪 (15校)	総数	33,113	32,001	96.6	5	0.02
	男	21,273	20,566	96.7	3	0.01
	女	11,840	11,435	96.6	2	0.02

表 9．4　う蝕罹患状態

[6校集計]

		対象者数	受診者		う歯のある者						う歯のない者	
					総数		未処置歯のある者		処置歯のある者			
			実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数		11,333	10,186	89.9	9,501	93.3	4,046	39.7	9,277	91.1	685	6.7
男		6,551	6,116	93.4	5,649	92.4	2,574	42.1	5,451	89.1	467	7.6
女		4,782	4,070	85.1	3,852	94.6	1,472	36.2	3,826	94.0	218	5.4
18歳	男	4,095	3,809	93.0	3,605	94.6	1,499	39.4	3,487	91.5	204	5.4
	女	2,698	2,424	89.8	2,349	96.9	825	34.0	2,334	96.3	75	3.1
19	男	1,487	1,424	95.8	1,327	93.2	620	43.5	1,254	88.1	97	6.8
	女	907	755	83.2	740	98.0	293	38.8	729	96.6	15	2.0
20	男	253	225	88.9	219	97.3	108	48.0	213	94.7	6	2.7
	女	359	251	69.9	247	98.4	90	35.9	237	94.4	4	1.6
21	男	323	291	90.1	222	76.3	151	51.9	199	68.4	69	23.7
	女	584	451	77.2	376	83.4	190	42.1	367	81.4	75	16.6
22	男	184	170	92.4	136	80.0	96	56.5	125	73.5	34	20.0
	女	151	116	76.8	96	82.8	52	44.8	97	83.6	20	17.2
23	男	93	87	93.5	62	71.3	42	48.3	77	88.5	25	28.7
	女	34	31	91.2	17	54.8	8	25.8	25	80.6	14	45.2
24	男	47	45	95.7	32	71.1	23	51.1	38	84.4	13	28.9
	女	24	22	91.7	13	59.1	8	36.4	19	86.4	9	40.9
25以上	男	69	65	94.2	46	70.8	35	53.8	58	89.2	19	29.2
	女	25	20	80.0	14	70.0	6	30.0	18	90.0	6	30.0

表 9．5　歯周疾患罹患状態

［4校集計］

		対象者数	受診者		歯周疾患のある者	
			実数	%	実数	%
総数		8,700	7,261	83.5	3,505	48.3
男		5,807	4,952	85.3	2,636	53.2
女		2,893	2,309	79.8	869	37.6
18歳	男	3,539	3,063	86.5	1,636	53.4
	女	1,930	1,611	83.5	654	40.6
19	男	1,343	1,202	89.5	630	52.4
	女	438	362	82.6	132	36.5
20	男	222	178	80.2	103	57.9
	女	45	35	77.8	10	28.6
21	男	316	205	64.9	110	53.7
	女	331	202	61.0	49	24.3
22	男	183	129	70.5	72	55.8
	女	83	43	51.8	10	23.3
23	男	92	75	81.5	38	50.7
	女	27	24	88.9	4	16.7
24	男	46	41	89.1	18	43.9
	女	20	17	85.0	5	29.4
25 以上	男	66	59	89.4	29	49.2
	女	19	15	78.9	5	33.3

表 9．6　不正咬合罹患状態

［3校集計］

		対象者数	受診者		不正咬合のある者	
			実数	%	実数	%
総数		6,504	5,639	86.7	3,102	55.0
男		4,465	3,921	87.8	2,107	53.7
女		2,039	1,718	84.3	995	57.9
18歳	男	2,536	2,258	89.0	1,184	52.4
	女	1,222	1,051	86.0	577	54.9
19	男	1,079	991	91.8	493	49.7
	女	321	284	88.5	148	52.1
20	男	172	152	88.4	78	51.3
	女	32	28	87.5	13	46.4
21	男	302	229	75.8	149	65.1
	女	324	251	77.5	184	73.3
22	男	179	140	78.2	99	70.7
	女	78	54	69.2	37	68.5
23	男	89	63	70.8	44	69.8
	女	26	21	80.8	17	81.0
24	男	45	37	82.2	21	56.8
	女	20	16	80.0	9	56.3
25 以上	男	63	51	81.0	39	76.5
	女	16	13	81.3	10	76.9

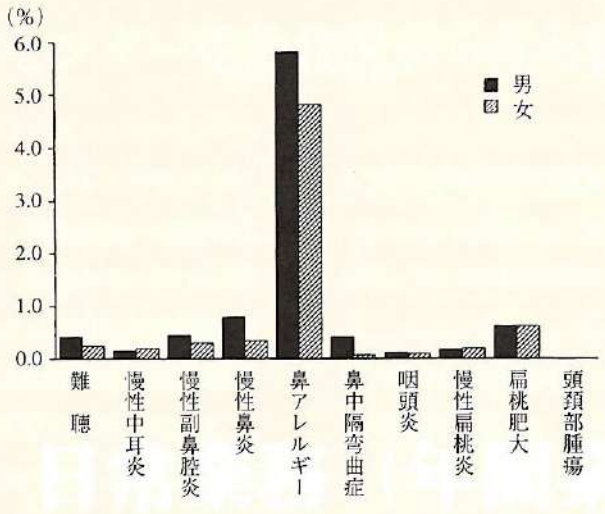


図 9．1　耳鼻咽喉科検診における有所見者の頻度

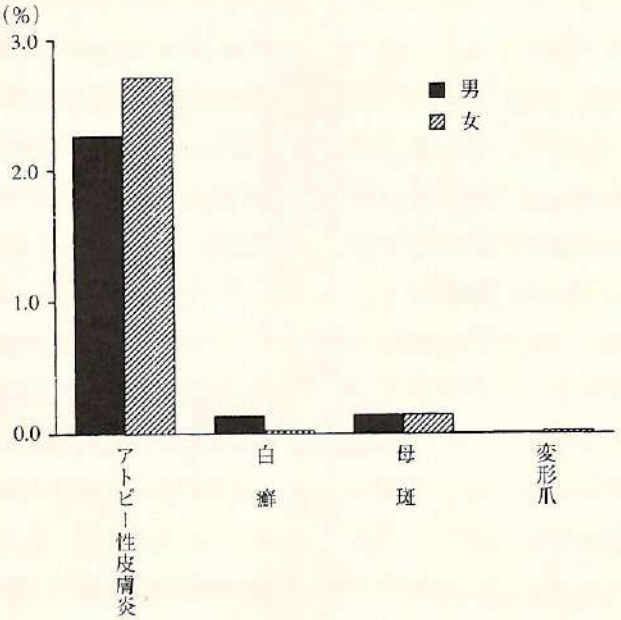


図 9．2　皮膚科検診における有所見者の頻度

Ⅱ．日常業務（年間業務）からみた健康状況

1．保健管理センター受診状況からみた傷病別罹患状況

平成7年度（平成7年4月1日から平成8年3月31日）の1年間に，診療，健康相談，精神衛生相談，保健指導，医療機関への紹介などをもとめて，個人的に保健管理センターを訪れた学生について調査した．調査は概ね「白書1984」の方法に準じたが，前回の反省点も考慮し，分かりやすく，集計しやすく，間違いが少なくなるように出来るだけ簡便な方法を目指した．

各傷病の分類については，疾病，傷病及び死因分類の第10回修正（ICD－10，1995）を参考にした．分類は基本的にはICD－10の大分類項目を用い，細分類の疾患名としては大学生の年代に特有の疾患，傷病数が多いと予想された疾患を白書作成委員会で討議の上，選び出した．選んだ疾患は疾患毎に任意に3桁の白書調査番号を付けた．選んだ疾患以外の疾患はまとめて“その他”とした．なお，ICD－10では結核は全て，感染症に分類されているが本調査では簡便のため肺結核を呼吸器系の疾患に含めた．

学年制別に入学年度別・男女別の一覧表（資料参照）を作成して各大学に送付した．実人数を確定するための条件として，あらかじめ実施要領に次のような但し書きを示し，これに従って集計して貰うよう依頼した．1）同一疾患，例えば慢性腎炎で受診したものは，年間何回受診しても一回に数える．2）いわゆる“かぜ”で5月，10月，2月と3回罹患し，受診した場合は3名と数える．1回の罹患で2～3日連続して来所した場合は1名と数える．3）“かぜ”で来所した学生が，翌日“ねんざ”で来所したという場合には，各傷病1名と数える．4）“じんましん”と“下痢”を訴えて受診したような場合は，因果関係が推定できるときには1名とし，別々の疾患と考えられるときには各々1名とする．5）定期検診の事後処置で，例えば蛋白尿陽性で再検査に来た学生の場合，診断がつかなければ除外，腎炎などと診断されれば計上する．6）疾患名がない場合は“その他”に入れる．このようにして，この罹患状況調査からは「白書1984」と同様、傷病総量を網羅した傷病件数が算出できるようにした．

策定段階としては，まず大分類項目で該当する項目を探し，次いで細分類の中から該当する疾患を探し出すという手順で作業を進め，細分類のみにチェックすれば良いこととした．結果記入後の一覧表は九州大学に送付して貰い，健康科学センターでデータ入力・集計した．大分類などの集計は計算機を使って行うため，今回は細分類のみにチェックすれば良く，集計から除外された大学は無かった．しかしながら，19．損傷，中毒及びその他の外因の影響に該当する症例について，再掲すべきであった20．傷病の外因は，但し書きが徹底していなかったために一部の大学しか記入が無く，過小評価となり反省点であった．

保健管理センター受診状況から見た傷病別罹患状況は，4年制学部78校，6年制学部35校から結果が寄せられた．その集計結果を表1．1～4に示す．

4年制学部78校の在籍学生数は，男257,183名，女120,975名，合計378,158名であり，平成7年度の保健管理センター受診者数は延べ，男86,441名（単純計算では在籍者の33.6%），女47,290名（同39.1%），合計133,731名（同35.4%）であった．この割合は延べ人数から算出しており，在籍者の3～4割が来所したと言うことではない．

受診者の受診理由は、4割以上が診断書の発行など保健サービスの利用であった．この項目を除き，自覚症状や他覚所見のために受診した者（76,468名，男46,087名，女30,381名）に占める

各傷病項目の割合を見ると，10．呼吸器系疾患が最も多く，男女合計で34.1%，ついで，19．損傷及び中毒が25.0%であり，この2項目で全体の59.1%となり半数を越えた．これに続き11．消化器系の疾患11.0%，5．精神及び行動の障害4.8%，12．皮膚及び皮下組織の疾患4.6%が，上位5疾患であった．14．尿路性器系の疾患も次いで多かった．

細分類項目について見ると，前回同様，10．呼吸器系の疾患に占める急性上気道炎（かぜ）の割合は24,775名とこの大分類項目の94.9%に達した．肺結核は男女合計（以下同じ）で51名，5．精神及び行動の障害では，神経症性障害・ストレス関連障害及び身体表現性障害が最も多く1,479名，精神分裂病は545名，気分（感情）障害は340名であった．

11．消化器系の疾患では胃炎・十二指腸炎が3,271名で最も多いが，非感染性の腸炎・大腸炎1,946名や口腔・唾液線・顎の疾患1,706名も多かった．胃及び十二指腸の消化性潰瘍は145名，肝疾患は416名であった．慢性腎炎は289名，他に尿路性器系疾患として女性性器の非炎症性障害，主として月経異常が2,138名で多かった．アトピー性皮膚炎は627名，アレルギー性の結膜炎及び上気道疾患の合計は632名であった．悪性新生物は7名あった．

19．損傷・中毒及びその他の外因の影響としては，外傷7,926名，脱臼・捻挫及びストレイン5,493名が多く，骨折は216名であった．

6年制学部については，35校集計で在籍学生数は男18,310名，女7,141名，合計25,451名，受診者数は男6,909名，女3,816名，合計10,725名（単純計算では在籍者の42.1%）であった．診断書の発行など保健サービスの利用のために受診した約3割の者を除き，自覚症状や他覚所見のために受診した者（7,545名，男4,717名，女2,828名）に占める各傷病項目の割合を見る．

大分類別では4年制学部生と同様に，10．呼吸器系の疾患34.3%と，19．損傷及び中毒17.9%が多かった．これらに，11．消化器系の疾患9.3%，1．感染症及び寄生虫症が7.1%，5．精神及び行動の障害5.8%が続き上位5位を占めた．次いで，14．尿路性器系の疾患4.5%，12．皮膚及び皮下組織の疾患4.2%が多かった．4年制学部に比べて，1．感染症及び寄生虫症の比率が高かったのは，上気道炎などを感染症と診断したためではないかと考えられる．

細分類項目については，6年制学部生の受診数が少なく検討に値するのかの疑問もあるが，得られた結果は4年制学部生と概ね同様であった．10．呼吸器系の疾患の中で急性上気道炎の割合は男女合計（以下同じ）で2,383名あり，この大分類項目の92.1%に達した．肺結核は5名，5．精神及び行動の障害のうち，神経症性障害が161名と最も多く，摂食障害は72名，精神分裂病は65名，気分（感情）障害は21名であった．

11．消化器系の疾患では胃炎・十二指腸炎が238名で最も多いが，非感染性の腸炎・大腸炎178名や口腔・唾液線・顎の疾患130名も多かった．胃及び十二指腸の消化性潰瘍は19名，肝疾患は27名，慢性腎炎は27名であった．14．性器系疾患として女性性器の非炎症性障害が166名で多かった．

19．損傷，中毒及びその他の外因の影響としては外傷451名，脱臼，捻挫及びストレイン499名が多く，骨折は26名であった．

〔上園慶子〕

表１．１　保健管理センター受診状況からみた学生の疾病別罹患状況（４年制学部大分類）　［78校集計］

疾病大分類はICD－10による基本分類に準じる	総数						入学年度									
	総数		男		女		平成７年度		平成６年度		平成５年度		平成４年度		平成３年度以前	
	実数	%	実数	%	実数	%	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
受診者総数	76,468	100.0	46,087	100.0	30,381	100.0	16,392	11,347	9,899	7,143	8,539	6,217	9,101	5,138	2,156	536
1．感染症及び寄生虫症	496	0.65	333	0.72	163	0.54	102	56	80	44	70	37	61	24	20	2
2．新生物	77	0.10	43	0.09	34	0.11	9	4	6	6	12	15	13	8	3	1
3．血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	781	1.02	195	0.42	586	1.93	102	307	43	98	36	89	12	87	2	5
4．内分泌，栄養及び代謝疾患	992	1.30	563	1.22	429	1.41	244	220	78	54	71	54	148	96	22	5
5．精神及び行動の障害	3,638	4.76	2,065	4.48	1,573	5.18	507	480	362	326	341	305	470	306	385	156
6．神経系の疾患	1,192	1.56	639	1.39	553	1.82	188	158	135	133	109	127	160	121	47	14
7．眼及び付属器の疾患	1,917	2.51	1,085	2.35	832	2.74	320	299	241	210	195	171	269	135	60	17
8．耳及び乳様突起の疾患	549	0.72	315	0.68	234	0.77	115	88	77	57	52	49	60	38	11	2
9．循環器系の疾患	1,257	1.64	855	1.86	402	1.32	356	188	127	65	122	63	212	83	38	3
10．呼吸器系の疾患	26,100	34.13	17,335	37.61	8,765	28.85	5,975	3,365	3,817	2,040	3,420	1,775	3,414	1,482	709	103
11．消化器系の疾患	8,411	11.00	5,145	11.16	3,266	10.75	1,778	1,111	1,025	767	975	737	1,123	570	244	81
12．皮膚及び皮下組織の疾患	3,551	4.64	1,848	4.01	1,703	5.61	673	638	380	392	366	365	356	284	73	24
13．筋骨格系及び結合組織の疾患	2,642	3.46	1,778	3.86	864	2.84	691	340	458	201	294	185	276	123	59	15
14．尿路性器系の疾患	3,297	4.31	562	1.22	2,735	9.00	180	802	95	680	111	647	150	574	26	32
15．妊娠，分娩及び産じょく〈褥〉	13	0.02	－	－	13	0.04	－	2	－	4	－	2	－	5	－	－
16．周産期に発生した病態	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
17．先天奇形，変形及び染色体異常	58	0.08	40	0.09	18	0.06	17	10	9	2	5	5	7	1	2	－
18．症状，徴候及び異常臨床所見，異常検査所見で他に分類されないもの	2,385	3.12	1,275	2.77	1,110	3.65	563	433	205	242	177	208	254	209	76	18
19．損傷，中毒及びその他の外因の影響	19,112	24.99	12,011	26.06	7,101	23.37	4,572	2,846	2,761	1,822	2,183	1,383	2,116	992	379	58

表１．２　保健管理センター受診状況からみた学生の傷病別罹患状況（４年制学部細分類）（1）　［78校集計］

疾病大分類はICD－10による基本分類に準じる	白書調査用番号	総数						入学年度									
		計		男		女		平成７年度		平成６年度		平成５年度		平成４年度		平成３年度以前	
		実数	%	実数	%	実数	%	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
受診者総数		76,468	100.0	46,087	100.0	30,381	100.0	16,392	11,347	9,899	7,143	8,539	6,217	9,101	5,138	2,156	536
１．感染症及び寄生虫症																	
腸管感染症	011	74	0.10	45	0.10	29	0.10	14	7	10	8	12	8	7	6	2	－
結核	012	9	0.01	7	0.02	2	0.01	－	－	4	－	－	1	2	1	1	－
皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症	013	120	0.16	73	0.16	47	0.15	25	18	18	13	12	11	13	4	5	1
ウイルス肝炎	014	40	0.05	32	0.07	8	0.03	18	3	5	2	3	2	6	1	－	－
ヒト免疫不全ウイルス（HIV）病	015	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
その他のウイルス疾患	016	111	0.15	68	0.15	43	0.14	14	19	16	9	16	9	13	5	9	1
真菌症	017	77	0.10	62	0.13	15	0.05	20	3	19	8	12	3	9	1	2	－
その他	019	65	0.09	46	0.10	19	0.06	11	6	8	4	15	3	11	6	1	－
２．新生物																	
悪性新生物	021	7	0.01	4	0.01	3	0.01	2	－	－	－	1	－	1	3	－	－
良性新生物	022	46	0.06	29	0.06	17	0.06	5	4	4	4	9	5	8	3	3	1
性状不詳又は不明の新生物	023	12	0.02	5	0.01	7	0.02	－	－	1	－	2	6	2	1	－	－
その他	029	12	0.02	5	0.01	7	0.02	2	－	1	2	－	4	2	1	－	－
３．血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害																	
鉄欠乏性貧血	031	550	0.72	103	0.22	447	1.47	33	221	34	85	29	73	7	63	－	5
その他の貧血	032	96	0.13	27	0.06	69	0.23	12	37	6	8	6	13	2	11	1	－
その他	039	135	0.18	65	0.14	70	0.23	57	49	3	5	1	3	3	13	1	－
４．内分泌，栄養及び代謝疾患																	
甲状腺障害	041	250	0.33	88	0.19	162	0.53	28	65	9	16	8	29	40	49	3	3
糖尿病	042	54	0.07	45	0.10	9	0.03	8	3	8	2	7	1	17	3	5	－
肥満（症）及びその他の過栄養〈過剰摂取〉	043	269	0.35	219	0.48	50	0.16	73	15	44	17	40	11	52	7	10	－
脂質代謝障害	044	236	0.31	114	0.25	122	0.40	98	114	4	4	4	1	7	3	1	－
高尿酸血症	045	71	0.09	51	0.11	20	0.07	24	6	5	－	5	－	17	14	－	－
やせ	046	40	0.05	10	0.02	30	0.10	3	6	－	9	3	6	4	8	－	1
その他	049	72	0.09	36	0.08	36	0.12	10	11	8	6	4	6	11	12	3	1
５．精神及び行動の障害																	
精神作用物質使用による精神及び行動の傷害	051	30	0.04	24	0.05	6	0.02	14	4	2	1	4	1	4	－	－	－
精神分裂病，分裂病型障害及び妄想性障害	052	545	0.71	385	0.84	160	0.53	34	105	33	7	86	3	118	31	114	14
気分［感情］障害	053	340	0.44	186	0.40	154	0.51	61	54	33	24	19	41	35	26	38	9
神経症性障害，ストレス関連障害及び身体表現性障害	054	1,479	1.93	917	1.99	562	1.85	254	159	172	147	146	98	191	109	154	49
生理的傷害及び身体的要因に関連した行動症候群																	
摂食障害	055	314	0.41	10	0.02	304	1.00	1	56	2	82	5	74	1	54	1	38
睡眠障害	056	110	0.14	69	0.15	41	0.13	28	9	10	7	12	12	14	12	5	1
成人の人格及び行動の障害	057	329	0.43	203	0.44	126	0.41	38	34	44	17	29	26	50	15	42	34
その他	059	491	0.64	271	0.59	220	0.72	77	59	66	41	40	50	57	59	31	11

表１．２　保健管理センター受診状況からみた学生の傷病別罹患状況（４年制学部細分類）（2）　［78校集計］

疾病大分類はICD－10による基本分類に準じる	白書調査用番号	総数						入学年度									
		計		男		女		平成７年度		平成６年度		平成５年度		平成４年度		平成３年度以前	
		実数	%	実数	%	実数	%	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
６．神経系の疾患																	
挿間性及び発作性障害																	
てんかん	061	57	0.07	32	0.07	25	0.08	8	10	6	7	9	3	7	5	2	－
偏頭痛	062	432	0.56	234	0.51	198	0.65	68	58	52	49	35	46	55	42	24	3
その他	069	703	0.92	373	0.81	330	1.09	112	90	77	77	65	78	98	74	21	11
７．眼及び付属器の疾患																	
アレルギー性結膜炎	071	209	0.27	117	0.25	92	0.30	30	32	22	23	24	23	35	10	6	4
その他	079	1,708	2.23	968	2.10	740	2.44	290	267	219	187	171	148	234	125	54	13
８．耳及び乳様突起の疾患																	
中耳炎	081	102	0.13	65	0.14	37	0.12	23	14	15	5	12	10	13	8	2	－
その他	089	447	0.58	250	0.54	197	0.65	92	74	62	52	40	39	47	30	9	2
９．循環器系の疾患																	
高血圧性疾患	091	296	0.39	258	0.56	38	0.13	65	12	46	7	51	13	84	5	12	1
低血圧	092	103	0.13	28	0.06	75	0.25	10	30	4	12	3	16	11	15	－	2
リウマチ熱及びリウマチ性心疾患	093	9	0.01	8	0.02	1	0.00	1	－	－	1	2	－	3	－	2	－
虚血性心疾患	094	14	0.02	11	0.02	3	0.01	5	1	1	1	4	－	1	1	－	－
心肥大（分類不明の場合のみ）	095	73	0.10	58	0.13	15	0.05	24	5	11	2	10	4	9	4	4	－
伝導障害	096	123	0.16	81	0.18	42	0.14	45	27	13	5	7	3	14	7	2	－
不整脈	097	274	0.36	176	0.38	98	0.32	91	45	25	15	21	14	33	24	6	－
その他	099	365	0.48	235	0.51	130	0.43	115	68	27	22	24	13	57	27	12	－
10．呼吸器系の疾患																	
急性上気道炎	101	24,775	32.40	16,395	35.57	8,380	27.58	5,699	3,219	3,586	1,954	3,223	1,702	3,219	1,407	668	98
急性肺炎	102	19	0.02	14	0.03	5	0.02	4	1	6	3	3	1	1	－	－	－
肺結核	103	51	0.07	36	0.08	15	0.05	3	1	3	－	4	4	23	8	3	2
結核性胸膜炎	104	1	0.00	－	－	1	0.00	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－
気管支喘息	105	401	0.52	308	0.67	93	0.31	92	51	93	24	75	14	34	4	14	－
アレルギー性上気道疾患	106	423	0.55	281	0.61	142	0.47	83	51	58	26	47	24	76	39	17	2
自然気胸	107	67	0.09	61	0.13	6	0.02	25	5	12	－	16	－	8	1	－	－
その他	109	363	0.47	240	0.52	123	0.40	69	37	59	32	52	30	53	23	7	1
11．消化器系の疾患																	
口腔，唾液腺及び顎の疾患	111	1,706	2.23	1,148	2.49	558	1.84	361	183	213	124	231	118	288	119	55	14
食道，胃及び十二指腸の疾患																	
消化性潰瘍	112	145	0.19	97	0.21	48	0.16	21	12	17	12	22	14	35	8	2	2
胃炎及び十二指腸炎	113	3,271	4.28	1,753	3.80	1,518	5.00	540	472	398	365	358	361	370	276	87	44
虫垂の疾患	114	42	0.05	25	0.05	17	0.06	12	5	3	5	3	3	5	4	2	－
クローン病，潰瘍性大腸炎	115	45	0.06	27	0.06	18	0.06	5	5	7	2	5	9	9	2	1	－
その他の非感染性腸炎及び非感染性大腸炎	116	1,946	2.54	1,213	2.63	733	2.41	400	275	260	170	227	158	264	115	62	15
肝疾患	117	416	0.54	371	0.80	45	0.15	251	26	23	5	37	4	50	7	10	3
その他	119	840	1.10	511	1.11	329	1.08	188	133	104	84	92	70	102	39	25	3

表１．２　保健管理センター受診状況からみた学生の傷病別罹患状況（４年制学部細分類）（3）　[78校集計]

疾病大分類はICD－10による基本分類に準じる	白書調査用番号	総数						入学年度									
		計		男		女		平成７年度		平成６年度		平成５年度		平成４年度		平成３年度以前	
		実数	%	実数	%	実数	%	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
12. 皮膚及び皮下組織の疾患																	
アトピー性皮膚炎	121	627	0.82	374	0.81	253	0.83	169	110	72	58	64	49	61	34	8	2
その他	129	2,924	3.82	1,474	3.20	1,450	4.77	504	528	308	334	302	316	295	250	65	22
13. 筋骨格系及び結合組織の疾患																	
炎症性多発性関節障害	131	38	0.05	24	0.05	14	0.05	9	6	8	2	3	1	2	5	2	－
全身性結合組織障害	132	22	0.03	9	0.02	13	0.04	3	2	－	6	3	4	3	－	－	1
脊柱障害	133	776	1.01	513	1.11	263	0.87	211	103	120	48	77	59	81	48	24	5
その他	139	1,806	2.36	1,232	2.67	574	1.89	468	229	330	145	211	121	190	70	33	9
14. 尿路性器系の疾患																	
糸球体疾患																	
急性腎炎	141	17	0.02	13	0.03	4	0.01	5	－	2	1	2	1	2	2	2	－
慢性腎炎	142	289	0.38	198	0.43	91	0.30	68	31	37	18	36	16	48	26	9	－
腎不全	143	3	0.00	1	0.00	2	0.01	－	－	－	－	1	－	－	2	－	－
ネフローゼ症候群	144	27	0.04	21	0.05	6	0.02	6	1	3	3	6	1	4	1	2	－
尿路結石	145	49	0.06	39	0.08	10	0.03	10	3	6	2	11	3	12	2	－	－
尿路系その他の疾患	146	365	0.48	82	0.18	283	0.93	28	67	12	77	26	67	11	70	5	2
女性性器の非炎症性障害	147	2,138	2.80	－	－	2,138	7.04	－	615	－	552	－	510	－	438	－	23
その他	149	409	0.53	208	0.45	201	0.66	63	85	35	27	29	49	73	33	8	7
15. 妊娠，分娩及び産じょく〈褥〉	151	13	0.02	－	－	13	0.04	－	2	－	4	－	2	－	5	－	－
16. 周産期に発生した病態	161	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
17. 先天奇形，変形及び染色体異常																	
循環器系の先天奇形	171	45	0.06	32	0.07	13	0.04	13	6	8	2	5	4	4	1	2	－
その他	179	13	0.02	8	0.02	5	0.02	4	4	1	－	－	1	3	－	－	－
18. 症状，徴候及び異常臨床所見，異常検査所見で他に分類されないもの																	
循環器系及び呼吸系に関する症状及び徴候	181	344	0.45	176	0.38	168	0.55	66	68	29	39	39	29	30	30	12	2
その他	189	2,041	2.67	1,099	2.38	942	3.10	497	365	176	203	138	179	224	179	64	16
19. 損傷，中毒及びその他の外因の影響																	
外傷	191	7,926	10.37	5,043	10.94	2,883	9.49	1,763	1,098	1,103	729	919	566	1,056	458	202	32
骨折	192	216	0.28	165	0.36	51	0.17	56	19	40	15	13	8	48	9	8	－
脱臼，捻挫及びストレイン	193	5,493	7.18	3,318	7.20	2,175	7.16	1,474	991	794	595	541	368	419	213	90	8
その他	199	5,477	7.16	3,485	7.56	1,992	6.56	1,279	738	824	483	710	441	593	312	79	18
20. 傷病の外因（再掲）																	
交通事故	201	547	0.72	336	0.73	211	0.69	136	100	87	51	49	30	49	29	15	1
不慮の事故	202	870	1.14	535	1.16	335	1.10	186	110	128	94	91	72	110	56	20	3
自殺未遂	203	3	0.00	2	0.00	1	0.00	1	－	－	－	1	－	－	1	－	－
その他	209	640	0.84	471	1.02	169	0.56	177	59	126	51	82	33	74	23	12	3
21. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	211	57,229		40,322		16,907		2,713	2,194	1,756	882	1,577	1,202	28,653	12,209	5,623	420

表１．３　保健管理センター受診状況からみた学生の疾病別罹患状況（６年制学部大分類）　［35校集計］

疾病大分類はICD－10による基本分類に準じる	総数						入学年度													
	総数		男		女		平成７年度		平成６年度		平成５年度		平成４年度		平成３年度		平成２年度		平成元年度以前	
	実数	%	実数	%	実数	%	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
受診者総数	7,545	100.0	4,717	100.0	2,828	100.0	1,235	857	763	479	767	476	662	398	622	338	526	200	142	80
1．感染症及び寄生虫症	534	7.08	367	7.78	167	5.91	86	40	71	33	81	40	72	31	38	16	18	7	1	－
2．新生物	13	0.17	3	0.06	10	0.35	1	5	1	1	－	3	1	－	－	－	－	1	－	－
3．血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	38	0.50	7	0.15	31	1.10	1	10	－	5	1	－	－	10	5	5	－	1	－	－
4．内分泌，栄養及び代謝疾患	81	1.07	56	1.19	25	0.88	24	8	6	2	5	5	3	5	8	3	5	2	5	－
5．精神及び行動の障害	411	5.84	208	4.41	233	8.24	24	20	34	29	26	19	23	10	32	81	40	38	29	36
6．神経系の疾患	183	2.43	94	1.99	89	3.15	9	14	13	13	15	23	13	18	13	15	22	6	9	－
7．眼及び付属器の疾患	229	3.04	132	2.80	97	3.43	44	34	20	17	14	15	16	14	18	11	18	5	2	1
8．耳及び乳様突起の疾患	83	1.10	59	1.25	24	0.85	18	8	6	5	9	3	12	4	6	2	6	1	2	1
9．循環器系の疾患	189	2.50	129	2.73	60	2.12	31	17	14	12	15	11	28	7	16	2	23	10	2	1
10．呼吸器系の疾患	2,587	34.29	1,750	37.10	837	29.60	407	257	263	126	323	161	229	133	235	90	237	67	56	3
11．消化器系の疾患	701	9.29	446	9.46	255	9.02	106	59	78	43	60	49	57	41	69	42	60	18	16	3
12．皮膚及び皮下組織の疾患	319	4.23	188	3.99	131	4.63	51	51	25	18	26	22	31	19	37	8	14	11	4	2
13．筋骨格系及び結合組織の疾患	292	3.87	210	4.45	82	2.90	71	33	34	19	29	10	32	9	23	6	16	5	5	－
14．尿路性器系の疾患	340	4.51	63	1.34	277	9.79	14	57	14	70	14	41	6	43	8	21	6	12	1	33
15．妊娠，分娩及び産じょく〈褥〉	3	0.04	－	－	3	0.11	－	－	－	1	－	－	－	－	－	2	－	－	－	－
16．周産期に発生した病態	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
17．先天奇形，変形及び染色体異常	5	0.07	2	0.04	3	0.11	2	1	－	1	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－
18．症状，徴候及び異常臨床所見，異常検査所見で他に分類されないもの	154	2.04	99	2.10	55	1.94	38	25	12	9	4	10	7	5	23	3	11	3	4	－
19．損傷，中毒及びその他の外因の影響	1,353	17.93	904	19.16	449	15.88	308	218	172	75	145	64	132	48	91	31	50	13	6	－

表１．４　保健管理センター受診状況からみた学生の傷病別罹患状況（６年制学部細分類）（1）　[35校集計]

疾病大分類はICD－10による基本分類に準じる	白書調査用番号	総数						入学年度													
		総数		男		女		平成７年度		平成６年度		平成５年度		平成４年度		平成３年度		平成２年度		平成元年度以前	
		実数	%	実数	%	実数	%	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
受診者総数		7,545	100.0	4,717	100.0	2,828	100.0	1,235	857	763	479	767	476	662	398	622	338	526	200	142	80
１．感染症及び寄生虫症																					
腸管感染症	011	5	0.07	4	0.08	1	0.04	3	－	－	－	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－
結核	012	1	0.01	1	0.02	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－
皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症	013	6	0.08	1	0.02	5	0.18	－	1	－	4	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ウイルス肝炎	014	15	0.20	12	0.25	3	0.11	7	－	3	1	1	2	－	－	－	－	1	－	－	－
ヒト免疫不全ウイルス(HIV)病	015	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
その他のウイルス疾患	016	15	0.20	9	0.19	6	0.21	1	2	1	2	1	1	4	1	2	－	－	－	－	－
真菌症	017	8	0.11	7	0.15	1	0.04	1	1	3	－	1	－	1	－	1	－	－	－	－	－
その他	019	484	6.41	333	7.06	151	5.34	74	36	64	26	76	36	67	30	35	16	16	7	1	－
２．新生物																					
悪性新生物	021	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
良性新生物	022	5	0.07	2	0.04	3	0.11	－	2	1	1	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－
性状不詳又は不明の新生物	023	7	0.09	1	0.02	6	0.21	1	2	－	－	－	3	－	－	－	－	－	1	－	－
その他	029	1	0.01	－	－	1	0.04	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
３．血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害																					
鉄欠乏性貧血	031	28	0.37	1	0.02	27	0.95	－	8	－	5	1	－	－	8	－	5	－	1	－	－
その他の貧血	032	3	0.04	－	－	3	0.11	－	1	－	－	－	－	－	2	－	－	－	－	－	－
その他	039	7	0.09	6	0.13	1	0.04	1	1	－	－	－	－	－	－	5	－	－	－	－	－
４．内分泌，栄養及び代謝疾患																					
甲状腺障害	041	12	0.16	2	0.04	10	0.35	1	4	－	1	－	2	1	1	－	1	－	1	－	－
糖尿病	042	7	0.09	6	0.13	1	0.04	2	1	－	－	－	－	2	－	－	－	1	－	1	－
肥満(症)及びその他の過栄養〈過剰摂取〉	043	7	0.09	7	0.15	－	－	3	－	3	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－
脂質代謝障害	044	25	0.33	18	0.38	7	0.25	9	1	2	－	－	2	－	3	5	－	－	1	2	－
高尿酸血症	045	9	0.12	9	0.19	－	－	3	－	－	－	－	－	－	－	3	－	3	－	－	－
やせ	046	2	0.03	1	0.02	1	0.04	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
その他	049	19	0.25	13	0.28	6	0.21	5	1	1	1	5	1	－	1	－	2	－	－	2	－
５．精神及び行動の障害																					
精神作用物質使用による精神及び行動の傷害	051	3	0.04	3	0.06	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	1	－	－	－	1	－
精神分裂病，分裂病型障害及び妄想性障害	052	65	0.86	52	1.10	13	0.46	3	1	3	1	2	－	1	－	18	4	5	－	20	7
気分[感情]障害	053	21	0.28	11	0.23	10	0.35	2	2	2	1	2	2	2	3	1	1	1	－	1	1
神経症性障害，ストレス関連障害及び身体表現性障害	054	161	2.13	76	1.61	85	3.01	7	3	19	18	4	5	11	2	8	8	25	27	2	22
生理的傷害及び身体的要因に関連した行動症候群																					
摂食障害	055	72	0.95	－	－	72	2.55	－	2	－	1	－	4	－	1	－	63	－	1	－	－
睡眠障害	056	14	0.19	7	0.15	7	0.25	－	1	1	5	2	－	－	－	－	－	3	－	1	1
成人の人格及び行動の障害	057	46	0.61	23	0.49	23	0.81	4	6	－	2	8	2	4	3	2	2	5	8	－	－
その他	059	59	0.78	36	0.76	23	0.81	8	5	8	1	8	6	5	1	2	3	1	2	4	5

表１．４　保健管理センター受診状況からみた学生の傷病別罹患状況（６年制学部細分類）（2）　［35校集計］

疾病大分類はICD－10による基本分類に準じる	白書調査用番号	総数						入学年度													
		総数		男		女		平成７年度		平成６年度		平成５年度		平成４年度		平成３年度		平成２年度		平成元年度以前	
		実数	%	実数	%	実数	%	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
６．神経系の疾患																					
挿間性及び発作性障害																					
てんかん	061	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
偏頭痛	062	61	0.81	39	0.83	22	0.78	6	8	6	6	8	3	4	3	－	－	15	2	－	－
その他	069	122	1.62	55	1.17	67	2.37	3	6	7	7	7	20	9	15	13	15	7	4	9	－
７．眼及び付属器の疾患																					
アレルギー性結膜炎	071	15	0.20	10	0.21	5	0.18	4	1	1	1	－	1	－	1	3	－	2	1	－	－
その他	079	214	2.84	122	2.59	92	3.25	40	33	19	16	14	14	16	13	15	11	16	4	2	1
８．耳及び乳様突起の疾患																					
中耳炎	081	8	0.11	3	0.06	5	0.18	3	3	－	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
その他	089	75	0.99	56	1.19	19	0.67	15	5	6	3	9	3	12	4	6	2	6	1	2	1
９．循環器系の疾患																					
高血圧性疾患	091	83	1.10	64	1.36	19	0.67	10	10	6	6	7	1	13	－	10	1	17	1	1	－
低血圧	092	30	0.40	5	0.11	25	0.88	1	6	－	5	1	6	2	5	－	－	－	3	1	－
リウマチ熱及びリウマチ性心疾患	093	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
虚血性心疾患	094	1	0.01	－	－	1	0.04	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－
心肥大（分類不明の場合のみ）	095	5	0.07	5	0.11	－	－	3	－	1	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－
伝導障害	096	10	0.13	9	0.19	1	0.04	4	－	－	－	－	－	－	－	4	－	1	1	－	－
不整脈	097	19	0.25	16	0.34	3	0.11	6	－	2	1	2	1	4	－	－	－	2	1	－	－
その他	099	41	0.54	30	0.64	11	0.39	7	1	5	－	5	3	8	2	2	1	3	3	－	1
10．呼吸器系の疾患																					
急性上気道炎	101	2,383	31.58	1,612	34.17	771	27.26	373	242	243	115	304	149	199	119	219	84	220	59	54	3
急性肺炎	102	3	0.04	2	0.04	1	0.04	1	－	－	－	－	1	1	－	－	－	－	－	－	－
肺結核	103	5	0.07	5	0.11	－	－	1	－	1	－	－	－	1	－	－	－	2	－	－	－
結核性胸膜炎	104	1	0.01	1	0.02	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－
気管支喘息	105	35	0.46	29	0.61	6	0.21	12	4	5	1	3	－	5	－	2	－	2	1	－	－
アレルギー性上気道疾患	106	82	1.09	51	1.08	31	1.10	9	3	4	4	8	7	13	8	7	3	9	6	1	－
自然気胸	107	6	0.08	5	0.11	1	0.04	4	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	1	－	－
その他	109	72	0.95	45	0.95	27	0.95	7	8	10	6	7	4	10	6	6	3	4	－	1	－
11．消化器系の疾患																					
口腔，唾液腺及び顎の疾患	111	130	1.72	97	2.06	33	1.17	25	10	9	3	14	4	15	6	16	6	15	4	3	－
食道，胃及び十二指腸の疾患																					
消化性潰瘍	112	19	0.25	12	0.25	7	0.25	3	1	3	3	3	2	1	1	2	－	－	－	－	－
胃炎及び十二指腸炎	113	238	3.15	141	2.99	97	3.43	24	25	26	12	18	22	22	14	28	13	19	9	4	2
虫垂の疾患	114	5	0.07	4	0.08	1	0.04	2	－	2	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－
クローン病，潰瘍性大腸炎	115	2	0.03	1	0.02	1	0.04	1	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
その他の非感染性腸炎及び非感染性大腸炎	116	178	2.36	106	2.25	72	2.55	25	14	20	11	13	11	13	16	14	16	17	3	4	1
肝疾患	117	27	0.36	23	0.49	4	0.14	15	1	2	1	2	1	－	－	1	1	3	－	－	－
その他	119	102	1.35	62	1.31	40	1.41	11	8	16	12	10	9	6	4	8	5	6	2	5	－

表１．４　保健管理センター受診状況からみた学生の傷病別罹患状況（６年制学部細分類）（3）　［35校集計］

疾病大分類はICD－10による基本分類に準じる	白書調査用番号	総数						入学年度													
		総数		男		女		平成７年度		平成６年度		平成５年度		平成４年度		平成３年度		平成２年度		平成元年度以前	
		実数	%	実数	%	実数	%	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
12．皮膚及び皮下組織の疾患																					
アトピー性皮膚炎	121	67	0.89	39	0.83	28	0.99	12	8	1	3	4	3	7	6	13	1	1	7	1	－
その他	129	252	3.34	149	3.16	103	3.64	39	43	24	15	22	19	24	13	24	7	13	4	3	2
13．筋骨格系及び結合組織の疾患																					
炎症性多発性関節障害	131	2	0.03	2	0.04	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－
全身性結合組織障害	132	1	0.01	1	0.02	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－
脊柱障害	133	81	1.07	53	1.12	28	0.99	19	10	9	7	10	3	8	3	4	1	3	4	－	－
その他	139	208	2.76	154	3.26	54	1.91	51	23	25	12	19	7	24	6	19	5	12	1	4	－
14．尿路性器系の疾患																					
糸球体疾患																					
急性腎炎	141	6	0.08	3	0.06	3	0.11	1	1	1	－	－	－	1	－	－	1	－	1	－	－
慢性腎炎	142	27	0.36	16	0.34	11	0.39	2	1	2	4	3	－	1	3	4	－	3	－	1	3
腎不全	143	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ネフローゼ症候群	144	2	0.03	2	0.04	－	－	－	－	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
尿路結石	145	9	0.12	6	0.13	3	0.11	－	－	1	2	1	－	1	－	1	－	2	1	－	－
尿路系その他の疾患	146	33	0.44	6	0.13	27	0.95	1	4	2	7	3	5	－	4	－	3	－	3	－	1
女性性器の非炎症性障害	147	166	2.20	－	－	166	5.87	－	43	－	38	－	36	－	29	－	12	－	6	－	2
その他	149	97	1.29	30	0.64	67	2.37	10	8	6	19	7	－	3	7	3	5	1	1	－	27
15．妊娠，分娩及び産じょく〈褥〉	151	3	0.04	－	－	3	0.11	－	－	－	1	－	－	－	－	－	2	－	－	－	－
16．周産期に発生した病態	161	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
17．先天奇形，変形及び染色体異常																					
循環器系の先天奇形	171	4	0.05	2	0.04	2	0.07	2	1	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
その他	179	1	0.01	－	－	1	0.04	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－
18．症状，徴候及び異常臨床所見，異常検査所見で他に分類されないもの																					
循環器系及び呼吸系に関する症状及び徴候	181	30	0.40	16	0.34	14	0.50	8	7	1	1	－	4	2	1	4	1	1	－	－	－
その他	189	124	1.64	83	1.76	41	1.45	30	18	11	8	4	6	5	4	19	2	10	3	4	－
19．損傷，中毒及びその他の外因の影響																					
外傷	191	451	5.98	308	6.53	143	5.06	110	65	49	29	56	24	42	11	24	9	24	5	3	－
骨折	192	26	0.34	24	0.51	2	0.07	9	－	5	1	－	－	6	－	3	－	1	1	－	－
脱臼，捻挫及びストレイン	193	499	6.61	330	7.00	169	5.98	113	83	60	23	53	20	40	23	46	17	16	3	2	－
その他	199	377	5.00	242	5.13	135	4.77	76	70	58	22	36	20	44	14	18	5	9	4	1	－
20．傷病の外因（再掲）																					
交通事故	201	20	0.27	10	0.21	10	0.35	5	6	2	1	2	－	1	2	－	1	－	－	－	－
不慮の事故	202	40	0.53	18	0.38	22	0.78	7	9	2	4	4	－	1	6	1	3	3	－	－	－
自殺未遂	203	1	0.01	－	－	1	0.04	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－
その他	209	5	0.07	2	0.04	3	0.11	1	－	－	－	－	－	－	－	－	1	1	－	－	2
21．健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	211	3,180		2,192		988		269	186	110	50	96	104	182	182	233	90	1144	343	158	33

2．傷病による要管理者

保健管理センターが主体となって経過観察や治療をしている要管理学生の傷病別人数を調査した．要管理の内容は「白書1984」と同じとした．即ち，平成7年度1年間に，結核，呼吸器疾患，高血圧，心疾患，肝疾患，腎疾患，胃腸疾患（慢性），内分泌疾患，糖尿病，膠原病，血液疾患，新生物，神経疾患，精神障害，その他の慢性疾患のため保健管理センターで経過観察，療養指導，管理を行ったものである．センターが関与したという条件付きの有病率調査である．

調査は傷病別罹患状況調査と同様の方法及び手順で進め，4年制学部65校，6年制学部30校から結果が集められた．センター教職員の専門分野や時間的制約などのため，センターによって管理している疾患が著しく異なり，問題は残るが，一切を不問にした．集計結果を表2．1～4に示す．

4年制学部65校の在籍数は男218,768名，女100,578名，合計で319,346名，要管理学生は男6,037名，女2,782名，合計で8,819名（単純計算で在籍者の2.8%）であった．要管理学生数に占める各疾病の割合では，9．循環器系の疾患25.5%が最も大きく，次いで4．内分泌・栄養及び代謝疾患15.9%，5．精神及び行動の障害12.6%，14．尿路性器系の疾患11.6%，10．呼吸器系の疾患9.1%であった．その他，3．血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害が6.1%，11．消化器系の疾患が5.9%であった．

細分類の中で比較的人数の多い疾病は，高血圧性疾患，不整脈，脂質代謝異常，鉄欠乏性貧血，神経症性障害・ストレス関連障害，肝疾患などであった．

6年制学部30校の在籍学生は男15,315名，女6,042名，合計で21,357名，要管理学生は男女合計で741名（単純計算で在籍者の3.5%）であった．大分類での上位5疾患は，9．循環器系の疾患24.4%，5．精神及び行動の障害22.8%，14．尿路性器系の疾患10.8%，11．消化器系の疾患6.1%，10．呼吸器系の疾患5.1%であった．細分類については数は少ないが，神経症性障害・ストレス関連障害，精神分裂病・分裂病型障害，人格及び行動の障害，高血圧性疾患，心肥大などが多かった．

〔上園慶子〕

表２．１　傷病別要管理者数（４年制学部大分類）　[65校集計]

疾病大分類はICD－10による基本分類に準じる	総数						入学年度									
	総数		男		女		平成７年度		平成６年度		平成５年度		平成４年度		平成３年度以前	
	実数	%	実数	%	実数	%	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
受診者総数	8,819	100.0	6,037	100.0	2,782	100.0	2,133	1,066	1,095	564	1,020	526	1,309	553	480	73
1．感染症及び寄生虫症	97	1.10	76	1.26	21	0.75	30	9	17	2	15	5	10	4	4	1
2．新生物	27	0.31	17	0.28	10	0.36	7	3	2	1	5	2	1	4	2	－
3．血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	538	6.10	56	0.93	482	17.33	21	187	15	98	6	88	11	105	3	4
4．内分泌，栄養及び代謝疾患	1,406	15.94	964	15.97	442	15.89	311	128	276	103	142	82	203	122	32	7
5．精神及び行動の障害	1,112	12.61	735	12.17	377	13.55	205	140	113	73	148	63	137	63	132	38
6．神経系の疾患	84	0.95	59	0.98	25	0.90	10	3	12	8	17	6	10	8	10	－
7．眼及び付属器の疾患	80	0.91	62	1.03	18	0.65	21	5	10	5	5	5	17	1	9	2
8．耳及び乳様突起の疾患	76	0.86	59	0.98	17	0.61	25	6	7	2	16	2	8	6	3	1
9．循環器系の疾患	2,247	25.48	1,721	28.51	526	18.91	706	278	291	96	232	79	370	69	122	4
10．呼吸器系の疾患	804	9.12	668	11.07	136	4.89	222	48	76	26	157	25	165	31	48	6
11．消化器系の疾患	524	5.94	451	7.47	73	2.62	194	33	85	14	62	19	92	7	18	－
12．皮膚及び皮下組織の疾患	331	3.75	236	3.91	95	3.41	80	40	40	18	44	20	53	17	19	－
13．筋骨格系及び結合組織の疾患	143	1.62	93	1.54	50	1.80	28	25	20	14	24	3	15	7	6	1
14．尿路性器系の疾患	1,026	11.63	626	10.37	400	14.38	182	107	97	77	122	113	161	94	64	9
15．妊娠，分娩及び産じょく〈褥〉	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
16．周産期に発生した病態	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
17．先天奇形，変形及び染色体異常	59	1.01	61	1.01	28	1.01	20	12	14	6	10	5	13	5	4	－
18．症状，徴候及び異常臨床所見，異常検査所見で他に分類されないもの	167	1.89	118	1.95	49	1.76	61	27	13	7	12	5	30	10	2	－
19．損傷，中毒及びその他の外因の影響	68	0.77	35	0.58	33	1.19	10	15	7	14	3	4	13	－	2	－

表２．２　傷病別要管理者数（４年制学部細分類）（1）　　[65校集計]

疾病大分類はICD－10による基本分類に準じる	白書調査用番号	総数						入学年度									
		計		男		女		平成７年度		平成６年度		平成５年度		平成４年度		平成３年度以前	
		実数	%	実数	%	実数	%	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
受診者総数		8,819	100.0	6,037	100.0	2,782	100.0	2,133	1,066	1,095	564	1,020	526	1,309	553	480	73
1．感染症及び寄生虫症																	
腸管感染症	011	1	0.01	1	0.02	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－
結核	012	7	0.08	4	0.07	3	0.11	－	－	2	－	1	1	1	2	－	－
皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症	013	4	0.05	4	0.07	－	－	1	－	1	－	1	－	1	－	－	－
ウイルス肝炎	014	73	0.83	61	1.01	12	0.43	27	7	12	2	13	2	7	1	2	－
ヒト免疫不全ウイルス（HIV）病	015	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
その他のウイルス疾患	016	1	0.01	－	－	1	0.04	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1
真菌症	017	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
その他	019	11	0.12	6	0.10	5	0.18	2	2	1	－	－	2	1	1	2	－
2．新生物																	
悪性新生物	021	11	0.12	7	0.12	4	0.14	2	2	1	－	2	－	－	2	2	－
良性新生物	022	14	0.16	9	0.15	5	0.18	5	1	1	1	2	1	1	2	－	－
性状不詳又は不明の新生物	023	1	0.01	1	0.02	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－
その他	029	1	0.01	－	－	1	0.04	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－
3．血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害																	
鉄欠乏性貧血	031	497	5.64	44	0.73	453	16.28	18	173	14	96	3	86	8	94	1	4
その他の貧血	032	14	0.16	1	0.02	13	0.47	－	11	－	－	－	1	1	1	－	－
その他	039	27	0.31	11	0.18	16	0.58	3	3	1	2	3	1	2	10	2	－
4．内分泌、栄養及び代謝疾患																	
甲状腺障害	041	143	1.62	38	0.63	105	3.77	6	26	7	18	9	25	13	31	3	5
糖尿病	042	58	0.66	47	0.78	11	0.40	7	2	9	2	12	1	14	6	5	－
肥満（症）及びその他の過栄養〈過剰摂取〉	043	338	3.83	270	4.47	68	2.44	77	14	55	21	51	15	72	18	15	－
脂質代謝障害	044	529	6.00	377	6.24	152	5.46	145	72	156	40	30	17	42	23	4	－
高尿酸血症	045	104	1.18	102	1.69	2	0.07	42	1	29	1	13	－	17	－	1	－
やせ	046	171	1.94	84	1.39	87	3.13	20	10	15	19	22	22	26	35	1	1
その他	049	63	0.71	46	0.76	17	0.61	14	3	5	2	5	2	19	9	3	1
5．精神及び行動の障害																	
精神作用物質使用による精神及び行動の傷害	051	7	0.08	7	0.12	－	－	4	－	－	－	2	－	1	－	－	－
精神分裂病，分裂病型障害及び妄想性障害	052	197	2.23	147	2.43	50	1.80	20	33	16	3	50	2	29	6	32	6
気分［感情］障害	053	130	1.47	91	1.51	39	1.40	46	14	8	4	11	7	13	8	13	6
神経症性障害，ストレス関連障害及び身体表現性障害	054	437	4.96	278	4.60	159	5.72	70	53	56	33	50	28	55	30	47	15
生理的傷害及び身体的要因に関連した行動症候群																	
摂食障害	055	56	0.63	5	0.08	51	1.83	2	9	1	13	1	15	1	6	－	8
睡眠障害	056	34	0.39	28	0.46	6	0.22	12	3	4	－	6	2	5	－	1	1
成人の人格及び行動の障害	057	125	1.42	93	1.54	32	1.15	17	13	15	6	15	5	17	7	29	1
その他	059	126	1.43	86	1.42	40	1.44	34	15	13	14	13	4	16	6	10	1

表２．２　傷病別要管理者数（４年制学部細分類）（2）　[65校集計]

疾病大分類はICD－10による基本分類に準じる	白書調査用番号	総数						入学年度									
		計		男		女		平成７年度		平成６年度		平成５年度		平成４年度		平成３年度以前	
		実数	%	実数	%	実数	%	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
６．神経系の疾患																	
挿間性及び発作性障害																	
てんかん	061	45	0.51	30	0.50	15	0.54	5	1	6	6	7	5	4	3	8	－
偏頭痛	062	9	0.10	7	0.12	2	0.07	1	－	－	－	3	－	3	2	－	－
その他	069	30	0.34	22	0.36	8	0.29	4	2	6	2	7	1	3	3	2	－
７．眼及び付属器の疾患																	
アレルギー性結膜炎	071	12	0.14	9	0.15	3	0.11	3	1	2	－	3	1	1	－	－	1
その他	079	68	0.77	53	0.88	15	0.54	18	4	8	5	2	4	16	1	9	1
８．耳及び乳様突起の疾患																	
中耳炎	081	8	0.09	7	0.12	1	0.04	5	1	1	－	1	－	－	－	－	－
その他	089	68	0.77	52	0.86	16	0.58	20	5	6	2	15	2	8	6	3	1
９．循環器系の疾患																	
高血圧性疾患	091	569	6.45	533	8.83	36	1.29	124	11	95	6	74	9	168	9	72	1
低血圧	092	62	0.70	19	0.31	43	1.55	6	16	2	13	2	5	9	8	－	1
リウマチ熱及びリウマチ性心疾患	093	12	0.14	11	0.18	1	0.04	2	1	－	－	3	－	4	－	2	－
虚血性心疾患	094	19	0.22	17	0.28	2	0.07	5	－	5	1	2	－	4	1	1	－
心肥大（分類不明の場合のみ）	095	293	3.32	220	3.64	73	2.62	112	40	36	12	25	14	30	7	17	－
伝導障害	096	357	4.05	275	4.56	82	2.95	125	44	54	15	43	13	45	10	8	－
不整脈	097	544	6.17	371	6.15	173	6.22	187	93	61	30	51	29	63	20	9	1
その他	099	391	4.43	275	4.56	116	4.17	145	73	38	19	32	9	47	14	13	1
10．呼吸器系の疾患																	
急性上気道炎	101	4	0.05	4	0.07	－	－	－	－	－	－	2	－	2	－	－	－
急性肺炎	102	17	0.19	10	0.17	7	0.25	2	2	3	2	3	1	2	2	－	－
肺結核	103	41	0.46	26	0.43	15	0.54	9	2	2	3	4	3	9	7	2	－
結核性胸膜炎	104	1	0.01	－	－	1	0.04	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－
気管支喘息	105	230	2.61	174	2.88	56	2.01	54	22	28	12	45	10	34	10	13	2
アレルギー性上気道疾患	106	409	4.64	376	6.23	33	1.19	132	12	28	4	90	8	99	5	27	4
自然気胸	107	27	0.31	26	0.43	1	0.04	9	1	5	－	7	－	4	－	1	－
その他	109	75	0.85	52	0.86	23	0.83	16	9	10	4	6	3	15	7	5	－
11．消化器系の疾患																	
口腔，唾液腺及び顎の疾患	111	16	0.18	10	0.17	6	0.22	5	5	1	－	2	－	1	1	1	－
食道，胃及び十二指腸の疾患																	
消化性潰瘍	112	24	0.27	20	0.33	4	0.14	2	1	6	1	3	2	5	－	4	－
胃炎及び十二指腸炎	113	15	0.17	6	0.10	9	0.32	1	－	－	2	3	5	2	2	－	－
虫垂の疾患	114	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
クローン病，潰瘍性大腸炎	115	25	0.28	21	0.35	4	0.14	5	2	7	1	3	1	2	－	4	－
その他の非感染性腸炎及び非感染性大腸炎	116	8	0.09	3	0.05	5	0.18	2	2	－	－	－	1	1	2	－	－
肝疾患	117	419	4.75	378	6.26	41	1.47	176	22	70	8	50	10	75	1	7	－
その他	119	17	0.19	13	0.22	4	0.14	3	1	1	2	1	－	6	1	2	－

表２．２　傷病別要管理者数（４年制学部細分類）（3）　　［65校集計］

疾病大分類はICD－10による基本分類に準じる	白書調査用番号	総数						入学年度									
		計		男		女		平成７年度		平成６年度		平成５年度		平成４年度		平成３年度以前	
		実数	%	実数	%	実数	%	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
12. 皮膚及び皮下組織の疾患																	
アトピー性皮膚炎	121	299	3.39	219	3.63	80	2.88	74	33	36	18	42	15	49	14	18	－
その他	129	32	0.36	17	0.28	15	0.54	6	7	4	－	2	5	4	3	1	－
13. 筋骨格系及び結合組織の疾患																	
炎症性多発性関節障害	131	7	0.08	5	0.08	2	0.07	1	1	3	－	－	－	1	1	－	－
全身性結合組織障害	132	13	0.15	5	0.08	8	0.29	2	4	－	3	2	－	1	1	－	－
脊柱障害	133	76	0.86	49	0.81	27	0.97	12	11	11	7	15	3	9	5	2	1
その他	139	47	0.53	34	0.56	13	0.47	13	9	6	4	7	－	4	－	4	－
14. 尿路性器系の疾患																	
糸球体疾患																	
急性腎炎	141	8	0.09	3	0.05	5	0.18	1	1	1	2	－	－	1	2	－	－
慢性腎炎	142	278	3.15	189	3.13	89	3.20	56	32	38	18	33	19	52	20	10	－
腎不全	143	2	0.02	－	－	2	0.07	－	－	－	1	－	1	－	－	－	－
ネフローゼ症候群	144	30	0.34	18	0.30	12	0.43	8	1	3	4	2	3	5	3	－	1
尿路結石	145	15	0.17	13	0.22	2	0.07	4	1	1	－	3	1	3	－	2	－
尿路系その他の疾患	146	47	0.53	28	0.46	19	0.68	9	4	1	－	3	3	12	10	3	2
女性性器の非炎症性障害	147	125	1.42	－	－	125	4.49	－	28	－	34	－	41	－	20	－	2
その他	149	521	5.91	375	6.21	146	5.25	104	40	53	18	81	45	88	39	49	4
15. 妊娠，分娩及び産じょく〈褥〉	151	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
16. 周産期に発生した病態	161	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
17. 先天奇形，変形及び染色体異常																	
循環器系の先天奇形	171	80	0.91	54	0.89	26	0.93	18	11	12	6	9	5	11	4	4	－
その他	179	9	0.10	7	0.12	2	0.07	2	1	2	－	1	－	2	1	－	－
18. 症状，徴候及び異常臨床所見，異常検査所見で他に分類されないもの																	
循環器系及び呼吸系に関する症状及び徴候	181	40	0.45	30	0.50	10	0.36	12	6	3	1	3	1	10	2	2	－
その他	189	127	1.44	88	1.46	39	1.40	49	21	10	6	9	4	20	8	－	－
19. 損傷，中毒及びその他の外因の影響																	
外傷	191	20	0.23	15	0.25	5	0.18	4	2	2	2	－	1	7	－	2	－
骨折	192	6	0.07	5	0.08	1	0.04	2	－	1	1	－	－	2	－	－	－
脱臼，捻挫及びストレイン	193	31	0.35	10	0.17	21	0.75	4	8	3	11	2	2	1	－	－	－
その他	199	11	0.12	5	0.08	6	0.22	－	5	1	－	1	1	3	－	－	－
20. 傷病の外因（再掲）																	
交通事故	201	5	0.06	5	0.08	－	－	－	－	1	－	2	－	1	－	1	－
不慮の事故	202	2		1	0.02	1	0.04	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－
自殺未遂	203	1	0.02	1	0.02	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－
その他	209	－	0.01	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
21. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	211	65		27		38		11	24	3	2	2	2	7	4	4	6

表２．３　傷病別要管理者数（６年制学部大分類）　　[30校集計]

疾病大分類はICD－10による基本分類に準じる	総数						入学年度													
	総数		男		女		平成７年度		平成６年度		平成５年度		平成４年度		平成３年度		平成２年度		平成元年度以前	
	実数	%	実数	%	実数	%	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
受診者総数	741	100.0	478	100.0	263	100.0	110	78	43	44	70	43	56	16	65	31	86	37	48	14
1．感染症及び寄生虫症	15	2.02	12	2.51	3	1.14	3	－	3	－	2	2	1	1	－	－	1	－	2	－
2．新生物	5	0.67	4	0.84	1	0.38	－	－	1	1	－	－	2	－	－	－	－	－	1	－
3．血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	20	2.70	－	－	20	7.60	－	4	－	2	－	2	－	3	－	6	－	3	－	－
4．内分泌，栄養及び代謝疾患	90	12.15	67	14.02	23	8.75	18	7	6	5	11	2	4	4	10	2	14	3	4	－
5．精神及び行動の障害	169	22.81	100	20.92	69	26.24	14	12	8	12	14	16	14	2	10	12	16	10	24	5
6．神経系の疾患	1	0.13	1	0.21	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－
7．眼及び付属器の疾患	11	1.48	11	2.30	－	－	3	－	1	－	1	－	2	－	2	－	2	－	－	－
8．耳及び乳様突起の疾患	2	0.27	1	0.21	1	0.38	1	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－
9．循環器系の疾患	181	24.43	126	26.36	55	20.91	30	18	9	8	14	4	10	2	23	6	28	11	12	6
10．呼吸器系の疾患	38	5.13	28	5.86	10	3.80	2	2	6	3	2	2	4	－	6	－	6	2	2	1
11．消化器系の疾患	45	6.07	35	7.32	10	3.80	9	3	1	1	6	6	3	－	4	－	12	－	－	－
12．皮膚及び皮下組織の疾患	31	4.18	16	3.35	15	5.70	8	9	1	1	－	2	3	1	3	－	1	1	－	1
13．筋骨格系及び結合組織の疾患	11	1.48	6	1.26	5	1.90	5	4	－	－	1	－	－	－	－	－	－	1	－	－
14．尿路性器系の疾患	80	10.80	44	9.21	36	13.69	4	13	7	10	14	4	6	1	5	3	6	4	2	1
15．妊娠，分娩及び産じょく〈褥〉	2	0.27	－	－	2	0.76	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2	－	－	－	－
16．周産期に発生した病態	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
17．先天奇形，変形及び染色体異常	4	0.54	3	0.63	1	0.38	2	－	－	1	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－
18．症状，徴候及び異常臨床所見，異常検査所見で他に分類されないもの	21	2.83	11	2.30	10	3.80	4	5	－	－	4	3	1	－	1	－	－	2	1	－
19．損傷，中毒及びその他の外因の影響	15	2.02	13	2.72	2	0.76	7	1	－	－	1	－	4	1	1	－	－	－	－	－

表２．４　傷病別要管理者数（６年制学部細分類）（1）　　［30校集計］

疾病大分類はICD－10による基本分類に準じる	白書調査用番号	総数						入学年度													
		総数		男		女		平成７年度		平成６年度		平成５年度		平成４年度		平成３年度		平成２年度		平成元年度以前	
		実数	%	実数	%	実数	%	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
受診者総数		741	100.0	478	100.0	263	100.0	110	78	43	44	70	43	56	16	65	31	86	37	48	14
１．感染症及び寄生虫症																					
腸管感染症	011	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
結核	012	2	0.27	2	0.42	－	－	－	－	1	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－
皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症	013	1	0.13	－	－	1	0.38	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－
ウイルス肝炎	014	9	1.21	9	1.88	－	－	3	－	2	－	1	－	1	－	－	－	1	－	1	－
ヒト免疫不全ウイルス（HIV）病	015	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
その他のウイルス疾患	016	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
真菌症	017	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
その他	019	3	0.40	1	0.21	2	0.76	－	－	－	－	－	2	－	－	－	－	－	－	1	－
２．新生物																					
悪性新生物	021	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
良性新生物	022	4	0.54	3	0.63	1	0.38	－	－	1	1	－	－	1	－	－	－	－	－	1	－
性状不詳又は不明の新生物	023	1	0.13	1	0.21	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－
その他	029	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
３．血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害																					
鉄欠乏性貧血	031	19	2.56	－	－	19	7.22	－	4	－	2	－	1	－	3	－	6	－	3	－	－
その他の貧血	032	1	0.13	－	－	1	0.38	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－
その他	039	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
４．内分泌、栄養及び代謝疾患																					
甲状腺障害	041	10	1.35	3	0.63	7	2.66	1	2	－	2	－	1	2	－	－	1	－	1	－	－
糖尿病	042	6	0.81	5	1.05	1	0.38	1	－	－	－	1	1	2	－	－	－	1	－	－	－
肥満（症）及びその他の過栄養〈過剰摂取〉	043	15	2.02	13	2.72	2	0.76	4	－	2	1	2	－	－	－	－	－	4	1	1	－
脂質代謝障害	044	28	3.78	20	4.18	8	3.04	3	2	1	2	1	－	－	3	7	－	6	1	2	－
高尿酸血症	045	11	1.48	11	2.30	－	－	3	－	1	－	2	－	－	－	3	－	2	－	－	－
やせ	046	4	0.54	1	0.21	3	1.14	1	2	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－
その他	049	16	2.16	14	2.93	2	0.76	5	1	2	－	5	－	－	－	－	1	1	－	1	－
５．精神及び行動の障害																					
精神作用物質使用による精神及び行動の傷害	051	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
精神分裂病，分裂病型障害及び妄想性障害	052	36	4.86	30	6.28	6	2.28	3	1	1	－	2	－	1	－	2	3	2	－	19	2
気分［感情］障害	053	21	2.83	9	1.88	12	4.56	1	－	1	2	3	6	2	2	1	1	1	－	－	1
神経症性障害，ストレス関連障害及び身体表現性障害	054	58	7.83	34	7.11	24	9.13	6	2	3	10	－	2	9	－	5	6	9	2	2	2
生理的傷害及び身体的要因に関連した行動症候群																					
摂食障害	055	3	0.40	－	－	3	1.14	－	1	－	－	－	2	－	－	－	－	－	－	－	－
睡眠障害	056	2	0.27	2	0.42	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	1	－
成人の人格及び行動の障害	057	34	4.59	18	3.77	16	6.08	1	7	－	－	7	－	2	－	2	1	4	8	2	－
その他	059	15	2.02	7	1.46	8	3.04	3	1	3	－	1	6	－	－	－	1	－	－	－	－

表２．４　傷病別要管理者数(６年制学部細分類)　(2)　　[30校集計]

疾病大分類はICD－10による基本分類に準じる	白書調査用番号	総数						入学年度													
		総数		男		女		平成７年度		平成６年度		平成５年度		平成４年度		平成３年度		平成２年度		平成元年度以前	
		実数	%	実数	%	実数	%	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
６．神経系の疾患																					
痙間性及び発作性障害																					
てんかん	061	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
偏頭痛	062	1	0.13	1	0.21	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－
その他	069	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
７．眼及び付属器の疾患																					
アレルギー性結膜炎	071	1	0.13	1	0.21	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－
その他	079	10	1.35	10	2.09	－	－	3	－	1	－	1	－	2	－	2	－	1	－	－	－
８．耳及び乳様突起の疾患																					
中耳炎	081	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
その他	089	2	0.27	1	0.21	1	0.38	1	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－
９．循環器系の疾患																					
高血圧性疾患	091	33	4.45	33	6.90	－	－	5	－	2	－	3	－	2	－	3	－	14	－	4	－
低血圧	092	16	2.16	1	0.21	15	5.70	1	6	－	2	－	2	－	1	－	1	－	3	－	－
リウマチ熱及びリウマチ性心疾患	093	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
虚血性心疾患	094	1	0.13	1	0.21	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－
心肥大(分類不明の場合のみ)	095	30	4.05	21	4.39	9	3.42	4	2	1	2	1	1	3	－	6	1	4	1	2	2
伝導障害	096	26	3.51	19	3.97	7	2.66	4	2	3	1	2	1	2	－	4	－	3	2	1	1
不整脈	097	41	5.53	29	6.07	12	4.56	9	4	3	2	5	－	1	1	6	2	3	2	2	1
その他	099	34	4.59	22	4.60	12	4.56	7	4	－	1	2	－	2	－	4	2	4	3	3	2
10．呼吸器系の疾患																					
急性上気道炎	101	3	0.40	2	0.42	1	0.38	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	1	－	1	－
急性肺炎	102	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
肺結核	103	5	0.67	5	1.05	－	－	1	－	2	－	－	－	－	－	－	－	2	－	－	－
結核性胸膜炎	104	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
気管支喘息	105	16	2.16	11	2.30	5	1.90	1	1	3	2	－	1	2	－	2	－	3	1	－	－
アレルギー性上気道疾患	106	5	0.67	3	0.63	2	0.76	－	1	1	－	1	－	－	－	1	－	－	1	－	－
自然気胸	107	1	0.13	1	0.21	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－
その他	109	8	1.08	6	1.26	2	0.76	－	－	－	－	－	1	2	－	3	－	－	－	1	1
11．消化器系の疾患																					
口腔，唾液腺及び顎の疾患	111	1	0.13	1	0.21	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－
食道，胃及び十二指腸の疾患																					
消化性潰瘍	112	4	0.54	4	0.84	－	－	－	－	－	－	2	－	2	－	－	－	－	－	－	－
胃炎及び十二指腸炎	113	5	0.67	2	0.42	3	1.14	1	1	－	－	－	2	－	－	1	－	－	－	－	－
虫垂の疾患	114	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
クローン病，潰瘍性大腸炎	115	2	0.27	2	0.42	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－
その他の非感染性腸炎及び非感染性大腸炎	116	2	0.27	－	－	2	0.76	－	1	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－
肝疾患	117	24	3.24	21	4.39	3	1.14	4	1	1	1	3	1	－	－	3	－	10	－	－	－
その他	119	7	0.94	5	1.05	2	0.76	3	－	－	－	1	2	1	－	－	－	－	－	－	－

表２．４　傷病別要管理者数（６年制学部細分類）（3）　　[30校集計]

疾病大分類はICD－10による基本分類に準じる	白書調査用番号	総数						入学年度													
		総数		男		女		平成７年度		平成６年度		平成５年度		平成４年度		平成３年度		平成２年度		平成元年度以前	
		実数	%	実数	%	実数	%	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
12．皮膚及び皮下組織の疾患																					
アトピー性皮膚炎	121	25	3.37	13	2.72	12	4.56	7	7	1	1	−	2	2	−	2	−	1	1	−	1
その他	129	6	0.81	3	0.63	3	1.14	1	2	−	−	−	−	1	1	1	−	−	−	−	−
13．筋骨格系及び結合組織の疾患																					
炎症性多発性関節障害	131	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
全身性結合組織障害	132	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
脊柱障害	133	9	1.21	5	1.05	4	1.52	4	3	−	−	1	−	−	−	−	−	−	1	−	−
その他	139	2	0.27	1	0.21	1	0.38	1	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
14．尿路性器系の疾患																					
糸球体疾患																					
急性腎炎	141	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
慢性腎炎	142	26	3.51	18	3.77	8	3.04	−	3	3	3	4	−	1	1	3	−	5	1	2	−
腎不全	143	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ネフローゼ症候群	144	3	0.40	3	0.63	−	−	1	−	2	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
尿路結石	145	2	0.27	2	0.42	−	−	−	−	−	−	1	−	1	−	−	−	−	−	−	−
尿路系その他の疾患	146	3	0.40	2	0.42	1	0.38	1	−	−	−	1	1	−	−	−	−	−	−	−	−
女性性器の非炎症性障害	147	16	2.16	−	−	16	6.08	−	6	−	5	−	3	−	−	−	1	−	1	−	−
その他	149	30	4.05	19	3.97	11	4.18	2	4	2	2	8	−	4	−	2	2	1	2	−	1
15．妊娠，分娩及び産じょく〈褥〉	151	2	0.27	−	−	2	0.76	−	−	−	−	−	−	−	−	−	2	−	−	−	−
16．周産期に発生した病態	161	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
17．先天奇形，変形及び染色体異常																					
循環器系の先天奇形	171	4	0.54	3	0.63	1	0.38	2	−	−	1	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−
その他	179	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
18．症状，徴候及び異常臨床所見，異常検査所見で他に分類されないもの																					
循環器系及び呼吸系に関する症状及び徴候	181	3	0.40	−	−	3	1.14	−	1	−	−	−	1	−	−	−	−	−	1	−	−
その他	189	18	2.43	11	2.30	7	2.66	4	4	−	−	4	2	1	−	1	−	−	1	1	−
19．損傷，中毒及びその他の外因の影響																					
外傷	191	3	0.40	2	0.42	1	0.38	1	1	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−
骨折	192	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
脱臼，捻挫及びストレイン	193	2	0.27	1	0.21	1	0.38	1	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−
その他	199	10	1.35	10	2.09	−	−	5	−	−	−	1	−	4	−	−	−	−	−	−	−
20．傷病の外因（再掲）																					
交通事故	201	2	0.27	1	0.21	1	0.38	1	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
不慮の事故	202	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
自殺未遂	203	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
その他	209	9	1.21	9	1.88	−	−	−	−	−	−	−	−	9	−	−	−	−	−	−	−
21．健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	211	80		56		24		14	3	3	2	1	2	4	3	15	5	13	7	6	2

Ⅲ. 特別調査

1．アレルギー性疾患

アレルギー性疾患に関するアンケート調査（参考資料参照）には54校の協力が得られた．今回のこの調査は自由参加で，日本全国の国立大学学生の実数とは，おそらくかけ離れている．そこで，全体の傾向を把握することを主たる目的とし，集まったアンケート回答用紙から，各校毎に1／10を無作為に抽出し，年齢と性で層別された学生総数に対する症状・所見のあるものの割合を計算した．男子の結果（表１．１），女子の結果（表１．２）を表示する．

アレルギーを思わせる症状がこの１年間にあるものは全体で33.3%におよび，既往があったものは12.1%であった．合計45.4%のものが，これまでの人生で，アレルギーとの関わりを持っていたことになる．

季節性の鼻炎・結膜炎，すなわち，花粉症を思わせる症状がこの１年間にあるものは全体として20.7%で，それ以前にあったもの4.2%に比較して格段に多い．花粉症の頻度は，アレルギー性疾患のなかで最多である．また，医師から本疾患の診断を受けたことがあるものも20.4%におよんでいる．花粉症を思わせる症状の頻度は，どの年齢層でも例外なく女性で多い．

アトピー性皮膚炎については，医師からこの診断を受けたことがあるものも9.3%におよんでいる．この１年間に症状があるものは，全体として6.8%で，既往があったものの割合(6.3%)を越えており，学生がアトピー性皮膚炎からアウトグローしにくくなった現況を示している．

医師から気管支喘息の診断を受けたことがあるものが3.9%いるが，気管支喘息を思わせる症状がこの１年間にあったものは1.7%であるのに対して，既往のみのものが3.0%あった．このことは，気管支喘息が，今でも，アウトグローする方が多い疾患であることを示している．

薬物アレルギーについては，全体として2.3%のものが，これまでの人生で関わりを持っている．しかし，その件で医師の診断を受けたものは0.8%にすぎない．

全体として，医師の診断を受けているものは2.0%，アレルゲンの検査を受けているものは10.4%で，意外に多い．しかし，アレルギー性疾患は，その原因を知る可能性が高いことが特徴で，原因が分かれば対策がたてやすい．受診やアレルゲン検査のさらなる普及が望まれる．

〔鈴木修二〕

表１．１　男子学生の年齢別有症状・有所見者数などと頻度

項目	各年齢層合計	総計：3,910名		18歳：1,472名		19歳：789名		20歳：416名		21歳：647歳		22歳：319名		23歳以上：267名	
	学生数と合計に対する割合	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%
症状	発作性咳　ある	51	1.30	18	1.22	7	0.89	6	1.44	11	1.70	9	0.94	6	2.25
	発作性咳　あった	95	2.43	32	2.17	17	2.15	7	1.68	20	3.09	7	2.19	12	4.49
	発作性呼吸困難　ある	26	0.66	10	0.68	6	0.76	2	0.48	6	0.93	1	0.31	1	0.37
	発作性呼吸困難　あった	55	1.41	15	1.02	9	1.14	5	1.20	13	2.01	4	1.25	9	3.37
	咳・呼吸困難　全体	174	4.45	58	3.94	29	3.68	16	3.85	36	5.56	11	3.45	24	8.99
	季節性鼻結膜炎　ある	772	19.74	266	18.07	151	19.14	81	19.47	142	21.95	64	20.06	68	25.47
	季節性鼻結膜炎　あった	167	4.27	53	3.60	33	4.18	20	4.81	32	4.95	11	3.45	18	6.74
	非季節鼻結膜炎　ある	448	11.46	183	12.43	91	11.53	42	10.10	71	10.97	34	10.66	27	10.11
	非季節鼻結膜炎　あった	170	4.35	66	4.48	25	3.17	16	3.85	41	6.34	12	3.76	10	3.75
	鼻炎・結膜炎　全体	1,337	34.19	482	32.74	260	32.95	138	33.17	244	37.71	106	33.23	107	40.07
	アトピー性皮膚炎　ある	218	5.58	87	5.91	45	5.70	21	5.05	37	5.72	12	3.76	16	5.99
	アトピー性皮膚炎　あった	221	5.65	86	5.84	50	6.34	17	4.09	42	6.49	12	3.76	14	5.24
	薬物アレルギー　ある	12	0.31	4	0.27	3	6.38	2	0.48	2	0.31	0	0	1	0.37
	薬物アレルギー　あった	52	1.33	24	1.63	7	0.89	2	0.48	8	1.24	4	1.25	7	2.62
	食物アレルギー　ある	71	1.82	21	1.43	13	1.65	10	2.40	20	3.09	5	1.57	2	0.75
	食物アレルギー　あった	98	2.51	38	2.58	17	2.15	9	2.16	15	2.32	14	4.39	5	1.87
	その他アレルギー　あ　る	21	0.54	8	0.54	6	0.76	0	0	3	0.46	2	0.63	2	0.75
	その他アレルギー　あった	21	0.54	7	0.48	7	0.89	1	0.24	3	0.46	1	0.31	2	0.75
	アレルギーいずれも　ある	1,224	31.30	453	30.77	236	29.91	131	31.49	213	32.92	98	30.72	93	34.83
	アレルギーいずれも　あった	462	11.82	160	10.87	98	12.42	48	11.54	81	12.52	39	12.23	36	13.48
診断	気管支喘息	145	3.71	58	3.94	29	3.68	14	3.37	24	3.71	7	2.19	13	4.87
	アレルギー性鼻結膜炎	761	19.50	299	20.31	157	19.9	73	17.55	123	19.01	59	18.50	50	18.73
	アトピー性皮膚炎	297	7.60	121	8.22	60	7.60	22	5.29	56	8.66	20	6.27	18	6.74
	薬物アレルギー	25	0.64	12	0.82	6	0.76	3	0.72	2	0.31	0	0	2	0.75
	食物アレルギー	54	1.38	17	1.15	14	1.77	5	1.20	7	1.08	8	2.51	3	1.12
	その他アレルギー	14	0.36	5	0.34	3	0.38	1	0.24	1	0.15	1	0.31	3	1.12
	検査あり結果　記憶なし	39	1.00	20	1.36	4	0.51	3	0.72	8	1.24	3	0.94	1	0.37
	アレルギー全体	1,034	26.45	405	27.51	212	26.87	101	24.28	164	25.35	81	25.39	71	26.59
アレルゲン	室内塵	216	5.52	60	4.08	81	10.27	23	5.53	31	4.79	13	4.08	8	3.00
	ダニ	158	4.04	62	4.21	34	4.31	18	4.33	20	3.09	10	3.13	14	5.24
	カビ類	45	1.15	14	0.95	12	1.52	4	0.96	4	0.62	4	1.25	7	2.62
	スギ花粉	139	3.55	45	3.06	32	4.06	13	3.13	25	3.86	15	4.70	9	3.37
	カモガヤ花粉	29	0.74	5	0.34	7	0.89	4	0.96	3	0.46	7	2.19	3	1.12
	ブタクサ花粉	32	0.82	11	0.75	11	1.39	1	0.24	5	0.77	2	0.63	2	0.75
	その他　花粉	9	0.23	2	0.14	4	0.51	0	0	2	0.31	1	0.31	0	0
	ソバ粉	16	0.41	5	0.34	3	0.38	2	0.48	4	0.62	1	0.31	1	0.37
	卵白	18	0.46	5	0.34	6	0.76	0	0	4	0.62	1	0.31	2	0.75
	イヌ毛	12	0.31	3	0.20	1	0.13	1	0.24	3	0.46	3	0.94	1	0.37
	ネコ毛	24	0.61	9	0.61	5	0.63	1	0.24	5	0.77	2	0.63	2	0.75
	その他	24	0.61	9	0.61	3	0.38	4	0.96	4	0.62	0	0	4	1.50
	検査あったが結果の記憶なし	54	1.38	30	2.04	11	1.39	2	0.48	7	1.08	1	0.31	3	1.12
	アレルゲン全体	361	9.23	103	7.00	85	10.77	45	10.82	62	9.58	38	11.91	28	10.49
家族歴	気管支喘息	177	4.53	70	4.76	33	4.18	17	4.09	30	4.64	16	5.02	11	4.12
	アレルギー性鼻結膜炎	456	11.66	180	12.23	88	11.15	36	8.65	76	11.75	37	11.60	39	14.61
	アトピー性皮膚炎	289	7.39	122	8.29	57	7.22	29	6.97	48	7.42	18	5.64	15	5.62
	薬物アレルギー	39	1.00	12	0.82	15	1.90	3	0.72	4	0.62	2	0.63	3	1.12
	食物アレルギー	51	1.30	18	1.22	16	2.03	5	1.20	7	1.08	2	0.63	3	1.12
	その他アレルギー	16	0.41	7	0.48	2	0.25	2	0.48	0	0	2	0.63	3	1.12
	家族歴全体	805	20.59	318	21.60	161	20.41	75	18.03	135	20.87	61	19.12	55	20.60
出身	郡部	706	18.06	356	24.18	118	14.96	72	17.31	104	16.07	40	12.54	16	5.99
	市部	3,048	77.95	1,086	73.78	660	83.65	312	75.00	492	76.04	265	83.07	233	87.27
入学後住居	下宿	1,706	43.63	644	43.75	318	40.3	177	42.55	304	46.99	147	46.08	116	43.45
	寮	351	8.98	141	9.58	56	7.10	40	9.62	59	9.12	18	5.64	37	13.86
	自宅	1,147	29.34	389	26.43	266	33.71	129	31.01	168	25.97	107	33.54	88	32.96
	その他	489	12.51	226	15.35	117	14.83	39	9.38	65	10.05	21	6.58	21	7.87
寝床直下	入学前　絨毯	1,330	34.02	476	32.34	273	34.6	145	34.86	237	36.63	95	29.78	104	38.95
	畳	1,374	35.14	510	34.65	263	33.33	151	36.30	231	35.70	123	38.56	96	35.96
	板の間	900	23.02	386	26.22	206	26.11	82	19.71	121	18.70	67	21.00	38	14.23
	その他	73	1.87	23	1.56	13	1.65	6	1.44	15	2.32	11	3.45	5	1.87
	入学後　絨毯	1,349	34.50	499	33.90	263	33.33	155	37.26	248	38.33	93	29.15	91	34.08
	畳	1,287	32.92	469	31.86	256	32.45	132	31.73	203	31.38	120	37.62	107	40.07
	板の間	907	23.20	384	26.09	212	26.87	81	19.47	123	19.01	68	21.32	39	14.61
	その他	128	3.27	39	2.65	23	2.92	15	3.61	30	4.64	14	4.39	7	2.62
ペット	イヌ	1,394	35.65	557	37.84	286	36.25	140	33.65	220	34.00	110	34.48	81	30.34
	ネコ	567	14.50	203	13.79	131	16.60	49	11.78	92	14.22	49	15.36	43	16.10
	トリ	659	16.85	190	12.91	135	17.11	76	18.27	137	21.17	64	20.06	57	21.35
	その他	203	5.19	75	5.10	49	6.21	28	6.73	26	4.02	13	4.08	12	4.49
	いずれか	1,500	38.36	267	18.14	426	53.99	199	47.84	310	47.91	163	51.10	135	50.56

表1．2　女子学生の年齢別有症状・有所見者数などと頻度

項目	各年齢層合計	総計：2,452名		18歳：1,102名		19歳：413名		20歳：256名		21歳：487歳		22歳：111名		23歳以上：83名	
	学生数と合計に対する割合	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%	学生数	%
症状	発作性咳　ある	34	1.39	12	1.09	6	1.45	6	2.34	8	1.64	1	0.90	1	1.20
	発作性咳　あった	63	2.57	24	2.18	14	3.39	6	2.34	8	1.64	7	6.31	4	4.82
	発作性呼吸困難　ある	15	0.61	7	0.64	4	0.97	0	0	2	0.41	1	0.90	1	1.20
	発作性呼吸困難　あった	34	1.39	9	0.82	5	1.21	5	1.95	10	2.05	4	3.60	1	1.20
	咳・呼吸困難　全体	123	5.02	46	4.17	24	5.81	13	5.08	22	4.52	11	9.91	7	8.43
	季節性鼻結膜炎　ある	545	22.23	219	19.87	109	26.39	46	17.97	119	24.44	28	25.23	24	28.91
	季節性鼻結膜炎　あった	101	4.12	40	3.63	12	2.91	20	7.81	22	4.52	3	2.70	4	4.82
	非季節鼻結膜炎　ある	300	12.23	127	11.52	50	12.11	27	10.55	63	12.94	22	19.82	11	13.25
	非季節鼻結膜炎　あった	108	4.40	41	3.72	19	4.60	15	5.86	24	4.93	4	3.60	5	6.02
	鼻炎・結膜炎　全体	875	35.69	360	32.67	156	37.77	91	35.55	186	38.19	47	42.34	35	42.16
	アトピー性皮膚炎　ある	216	8.81	95	8.62	42	10.17	18	7.03	43	8.83	11	9.91	7	8.43
	アトピー性皮膚炎　あった	178	7.26	81	7.35	35	8.47	16	6.25	35	7.17	8	7.21	3	3.61
	薬物アレルギー　ある	15	0.61	7	0.64	2	0.48	1	0.39	2	0.41	2	1.80	1	1.20
	薬物アレルギー　あった	68	2.77	28	2.54	11	2.66	5	1.95	17	3.49	3	2.70	4	4.82
	食物アレルギー　ある	65	2.65	21	1.91	16	3.87	2	0.78	17	3.49	6	5.41	3	3.61
	食物アレルギー　あった	95	3.87	39	3.54	18	4.36	11	4.30	19	3.90	5	4.50	3	3.61
	その他アレルギー　あ　る	37	1.51	16	1.45	5	1.21	4	1.56	8	1.64	1	0.90	3	3.61
	その他アレルギー　あった	24	0.98	12	1.09	3	0.73	5	1.95	2	0.41	1	0.90	1	1.20
	アレルギーいずれも　ある	897	36.58	388	35.21	169	40.92	75	29.30	186	38.19	46	41.44	33	39.76
	アレルギーいずれも　あった	310	12.64	130	11.80	52	12.59	45	17.58	59	12.11	12	10.81	12	14.46
診断	気管支喘息	103	4.20	46	4.17	13	3.15	9	3.52	19	3.90	11	9.91	5	6.02
	アレルギー性鼻結膜炎	537	21.90	235	21.32	95	23.00	55	21.48	97	19.92	32	28.83	23	27.71
	アトピー性皮膚炎	296	12.07	133	12.07	62	15.01	23	8.98	60	12.32	9	8.11	9	10.84
	薬物アレルギー	27	1.10	10	0.91	7	1.69	0	0	7	1.44	0	0	3	3.61
	食物アレルギー	59	2.41	21	1.91	11	2.66	3	1.17	19	3.90	4	3.60	1	1.20
	その他アレルギー	53	2.16	23	2.09	7	1.69	5	1.95	13	2.67	1	0.90	4	4.82
	検査あり結果　記憶なし	36	1.47	8	0.73	9	2.18	5	1.95	12	2.46	1	0.90	1	1.20
	アレルギー全体	810	33.03	358	32.49	151	36.56	76	29.69	157	32.24	39	35.14	29	34.94
アレルゲン	室内塵	150	6.12	59	5.35	24	5.81	14	5.47	36	7.39	11	9.91	6	7.23
	ダニ	125	5.10	46	4.17	22	5.33	8	3.13	34	6.98	6	5.41	9	10.84
	カビ類	26	1.06	8	0.73	5	1.21	4	1.56	6	1.23	2	1.80	1	1.20
	スギ花粉	110	4.49	58	5.26	4	0.97	12	4.69	26	5.34	5	4.50	5	6.02
	カモガヤ花粉	33	1.35	5	0.45	21	5.08	2	0.78	5	1.03	0	0	0	0
	ブタクサ花粉	29	1.18	11	1.00	7	1.69	3	1.17	7	1.44	0	0	1	1.20
	その他　花粉	10	0.41	2	0.18	3	0.73	2	0.78	3	0.62	0	0	0	0
	ソバ粉	13	0.53	6	0.54	2	0.48	2	0.78	2	0.41	1	0.90	0	0
	卵白	22	0.90	8	0.73	5	1.21	2	0.78	5	1.03	1	0.90	1	1.20
	イヌ毛	13	0.53	5	0.45	2	0.48	1	0.39	4	0.82	0	0	1	1.20
	ネコ毛	31	1.26	12	1.09	7	1.69	2	0.78	9	1.85	0	0	1	1.20
	その他	26	1.06	10	0.91	6	1.45	1	0.39	5	1.03	1	0.90	3	3.61
	検査あったが結果の記憶なし	31	1.26	15	1.36	6	1.45	5	1.95	5	1.03	0	0	0	0
	アレルゲン全体	301	12.28	128	11.62	50	12.11	25	9.77	70	14.37	14	12.61	14	16.87
家族歴	気管支喘息	201	8.20	93	8.44	23	5.57	27	10.55	39	8.01	11	9.91	8	9.64
	アレルギー性鼻結膜炎	520	21.21	220	19.96	83	20.10	68	26.56	95	19.51	29	26.13	25	30.12
	アトピー性皮膚炎	322	13.13	128	11.62	59	14.29	36	14.06	67	13.76	22	19.82	10	12.05
	薬物アレルギー	27	1.10	6	0.54	3	0.73	3	1.17	7	1.44	5	4.50	3	3.61
	食物アレルギー	66	2.69	33	2.99	11	2.66	8	3.13	6	1.23	5	4.50	3	3.61
	その他アレルギー	32	1.31	11	1.00	5	1.21	3	1.17	6	1.23	3	2.70	4	4.82
	家族歴全体	830	33.85	355	32.21	139	33.66	98	38.28	152	31.21	50	45.05	36	43.37
出身	郡部	501	20.43	245	22.23	75	18.16	61	23.83	93	19.10	19	7.12	8	9.64
	市部	1,915	78.10	849	77.04	328	79.42	187	73.05	391	80.29	89	80.18	71	85.54
入学後住居	下宿	906	36.95	330	29.95	128	30.99	103	40.23	251	51.54	54	48.65	40	48.19
	寮	188	7.67	88	7.99	38	9.20	22	8.59	34	6.98	4	3.60	2	2.41
	自宅	932	38.01	450	40.83	171	41.40	91	35.55	156	32.03	37	33.33	27	32.53
	その他	337	13.78	192	17.42	63	15.25	34	13.28	31	6.37	9	8.11	9	10.84
寝床直下	入学前　絨毯	867	35.36	374	33.94	151	36.56	93	36.33	179	36.76	39	35.14	31	37.35
	畳	797	32.50	338	30.67	116	28.09	83	32.42	174	35.73	46	41.44	40	48.19
	板の間	671	27.37	334	30.31	123	29.78	65	25.39	115	23.61	19	17.12	15	18.07
	その他	41	1.67	19	1.72	6	1.45	6	2.34	8	1.64	1	0.90	1	1.20
	入学後　絨毯	849	34.62	389	35.30	151	36.56	85	33.20	164	33.68	37	33.33	23	27.71
	畳	662	27.00	286	25.95	101	24.46	61	23.83	148	30.39	34	30.63	32	38.55
	板の間	766	31.24	351	31.85	132	31.96	88	34.38	144	29.57	31	27.93	20	24.00
	その他	81	3.30	32	2.90	11	2.66	12	4.69	20	4.11	4	3.60	2	2.41
ペット	イヌ	990	40.38	441	40.02	172	41.65	111	43.36	195	40.04	39	35.14	32	38.55
	ネコ	445	18.15	197	17.88	65	15.74	44	17.19	97	19.92	25	22.52	17	20.48
	トリ	709	28.92	313	28.40	118	28.57	79	30.86	138	28.34	30	27.03	31	37.35
	その他	281	11.46	127	11.52	49	11.86	27	10.55	54	11.09	12	10.81	12	14.46
	いずれか	1,575	64.23	718	65.15	262	63.44	163	63.67	300	61.60	72	64.86	60	72.29

アレルギー性疾患アンケート調査用紙

＿＿大学＿＿学部　学籍番号＿＿＿＿　各項右端の□は集計用です。空白として下さい。
昭和＿＿年＿＿月＿＿日生　性：男・女　□□□□□□ □

問１．アレルギー症状の経験について：Ｃ１～８の各症状が、なければ(X)、過去にあったがこの一年以内になければ(○)、この一年以内にあれば(◎)となるように各項の後の(　)内に符号をつけて下さい。全項が(X)の方は問７～10に進み関連事項にお答え下さい。

Ｃ１．発作性で、かつ、繰り返す咳　(　)[○の場合：　才まで] □□□
Ｃ２．発作性で、かつ、繰り返す呼吸困難　(　)[○の場合：　才まで] □□□
Ｃ３．季節性の鼻炎(クシャミ、鼻水、鼻閉)・結膜炎症状　(　)[○の場合：　才まで] □□□
Ｃ４．季節に関係のない鼻炎・結膜炎症状　(　)[○の場合：　才まで] □□□
Ｃ５．アトピー性皮膚炎　(　) □
Ｃ６．薬物使用後のショック・呼吸困難・紅潮・発疹等　(　) □
Ｃ７．飲食物摂取後の下痢・ショック・呼吸困難・紅潮・発疹等　(　) □
Ｃ８．その他の症状[その症状は？　]　(　) □
Ｃ９．Ｃ１．か２．が、(◎)の場合、何才からですか？[＿＿才から] □□
Ｃ10．Ｃ３．か４．が、(◎)の場合、何才からですか？[＿＿才から] □□

問２．上記症状のため医師に受診した経験について：(　)内にレ印を入れて下さい。無(　)
有(　)
アレルギー性疾患と診断されたことがある方は、Ｃ11、12の①、②、④、⑧に該当する項目があれば、その後(　)内にレ印を入れて下さい。
Ｃ11．①気管支喘息(　)、②アレルギー性鼻炎・結膜炎(　)、④アトピー性皮膚炎(　) □
Ｃ12．①薬物アレルギー(　)、②食物アレルギー(　)、④：上記以外(　)[病名：　] ⑧アレルギー性疾患と診断されたが、結果は記憶にない(　)。 □□

問３．原因物質(アレルゲン)の検査を受けた経験：(　)内にレ印を入れて下さい。無(　)
有(　)
検査を受けたことのある方は、Ｃ13～16の①、②、④、⑧のうち該当するものにレ印を入れて下さい。
Ｃ13．①室内塵(　)、②ダニ(　)、④カビ類(　) □
Ｃ14．①スギ花粉(　)、②カモガヤ花粉(　)、④ブタクサ花粉(　)、⑧左記以外の花粉(　) □□
Ｃ15．①ソバ粉(　)、②卵白(　)、④イヌ毛(　)、⑧ネコ毛(　) □□
Ｃ16．①Ｃ13～Ｃ15以外の物質(　)、⑧アレルゲン検査を受けた結果が記憶にない(　) □

問４．アレルギー症状に対する治療：(　)内にレ印を入れて下さい。受けたことは無い(　)
受けたことがある(　)
受けた治療と、その内容のうち、Ｃ17～20の①、②、④、⑧のうち該当する項の(　)にレ印を入れて下さい。
Ｃ17．①吸入(　)、②内服(　)、④点滴(　) □
Ｃ18．①短時間の静脈注射(　)、②塗布(　)、④Ｃ17とＣ18①②以外(　) □
Ｃ19．①テオフィリン系(　)、②交感神経刺激剤(　)、④ステロイド剤(　)、⑧抗ヒスタミン剤(　) □□
Ｃ20．①Ｃ19以外の治療[内容：　](　)、⑧受けているが治療内容不明(　) □

問５．この一年以内に発作性の咳・呼吸困難がある方は、下記に対し[　]内にお答え下さい
Ｃ21．他の症状と関連がありますか？[　] □
Ｃ22．発作のおこりやすい場所は？[　] □
Ｃ23．発作は悪化していますか、あるいは改善傾向を示していますか？[　] □

問６．屋内外の環境と症状発現と関連があれば、下線部に具体的に記載して下さい。
Ｃ24．屋内環境：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ □
Ｃ25．屋外環境：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ □

問１～６に答えて下さった方も、問７～10に進んで関連事項にお答え下さい。
問７～10

問７．二親等以内の御親族に、下記の診断を医師から受けた方がおりますか？　無(　)
有(　)
Ｃ26．27．の①、②、④、⑥で該当するものについて(　)内にレ印を入れ、あなたから見た続柄を[　]に記入して下さい。該当がなければ空白にして下さい。
Ｃ26．①気管支喘息(　)[　]、②アレルギー性鼻炎・結膜炎(　)[　]
④アトピー性皮膚炎(　)[　] □
Ｃ27．①薬物アレルギー(　)[　]、②食物アレルギー(　)[　]
④：Ｃ26の①②④とＣ27の①②以外のアレルギー(　)[　] □

問８．住居について：
入学前の住所は？　Ｃ28：＿＿＿都・道・府・県　Ｃ29：＿＿＿区・市・郡 □□□
入学後の住所は？　Ｃ30：＿＿＿都・道・府・県　Ｃ31：＿＿＿区・市・郡 □□□
居所の種別を①②④⑧から選び、(入学前)→[入学後]の順に記して下さい。
(例)入学前自宅→入学後下宿…(1)→[4]、あなたの場合：Ｃ32(　)→Ｃ33[　] □□
①自宅、②寮、④下宿、⑧その他…具体的に記して下さい[　]

問９．入学前(下記のＣ34)と入学後(Ｃ35)の寝室の床の材料は下記①、②、④、⑧のどれに当たりますか？入学前の材料の番号を(　)内に、入学後の床の材料の番号を[　]内に記入して下さい。①か②の上に④がある場合には４を記入して下さい。
(例)入学前板の間→入学後タタミ…(1)→[2]あなたの場合：Ｃ34(　)→Ｃ35[　] □□
①板の間、②タタミ、④じゅうたん、⑧：①～④以外…具体的に記して下さい。[　]

問10．ペットを飼った経験について：(　)内にレ印を入れて下さい。　無(　)
有(　)
下記の該当するペット名の(　)内にレ印を入れ、[　]内に期間を記して下さい。
Ｃ36．イヌ(　)[　才から　才まで] [　才から　才まで] [　才から　才まで] □
Ｃ37．ネコ(　)[　才から　才まで] [　才から　才まで] [　才から　才まで] □
Ｃ38．トリ(　)[　才から　才まで] [　才から　才まで] [　才から　才まで] □
Ｃ39．Ｃ36～38以外で[ペット名：　](　)[　才～　才] [　才～　才] [　才から　才] □

2．ライフスタイル

「白書1995」では健康状態の背景となる大学生の生活状況も調査した．第一回目の本調査は大学生のライフスタイル全般を知る目的を満たす必要最小限度とし，かつ誤解なく回答できる比較的シンプルな形式を目指した．このため数種の原案のうち東北大学保健管理センターで使用されていた質問票を基にして健康白書版（資料参照）を作成した．内容は住宅の条件・課外活動・平日休日の生活時間・食習慣・嗜好品・現在の自己評価である．既往歴も尋ねた．なお将来，他の白書結果との関係を分析する目的から個人のID部分を定期健康診断表と同一にした．また今回は定期健康診断のような網羅性は求めず，希望する大学に限り，その調査・データ入力は実施校の責任とした．

調査には国立大学95校中59校が参加した．フロッピーディスクや磁気テープの媒体で九州大学に集められた結果は大型電算機センターにて統一書式（テキスト形式）に変換後，統合し分析を進めた．送付総数は65,265名であった．この中から，学年・性別・年齢が3つとも明らかで，しかも年齢が28歳以下であり，かつ1項目以上の回答があるデータ，61,541名分を総有効データとした．集計は各項目ごとに行い，各項目の有効データはその項目（又は項目群全て）に妥当な回答が記入されているものとした．以下に結果を概述する．詳細は後出の表2．1～39を参照されたい．

2．1　日常生活一般

2．1．1　住居

住居については，自宅，寮，自炊のアパートなど，その他，の4つの選択肢を設けた．全体・男女・全ての学年で，“自炊のアパートなど”が最も多く，次いで“自宅”が多かった．男性は女性より“自炊のアパート”の比率が高く，また男女とも高学年になるにつれて“自炊のアパート”の比率が増加した（表2．1）．

2．1．2　課外活動

運動部のみ，文化部のみ，運動部・文化部の両方，入っていない，の4つを選択肢とした．男女とも約半数が倶楽部に入っており，その68％は運動部に，41％は文化部に所属していた（表2．2）．

2．1．3　生活時間

生活時間は数値や桁の記入が，明瞭でないために，チェックには多大な労力を要した．まず，時間の単位が週の回答を7で除し1日当りの時間数に変換した．その後，平日，休日それぞれについて項目を加算し，各々和が24時間未満であるものを今回の有効回答とした．現実にはその他の時間が必要であり，和は24時間にはなり得ないが，今回は不備のものも含まれていることを認めたまま集計した．

平日の，“運動（授業も含む）時間”は平均1時間01分，“課外活動（運動以外）”は同41分，“アルバイト”は同1時間21分，“睡眠時間”は同6時間43分，“学習時間”は同4時間51分であった．

休日の，“運動時間”は同59分，“課外活動（運動以外）”は同35分，“アルバイト”は同1時間27分，“睡眠時間”は同7時間50分，“学習時間”は同1時間54分であった（表2．3）．

2．2　食生活

2．2．1　食事の状況

朝食，昼食，夕食，間食，夜食のそれぞれについて，摂取状況，欠食理由，内容，同席者を尋ね

た．

朝食は，“毎日食べる”学生が半数であったが，“ほとんど食べない”学生数は男性に多く，学年とともに増加した．欠食の理由は，“時間がない”が最多であった．内容は“自分で作ったもの”や“家族や寮・下宿・アルバイト先で用意してくれた食事”がほとんどで，“一人で”食べていた（表2．7～10）．

昼食は，“毎日食べる”学年が86%であり，“食堂のメニュー”を，“友人と”食べていた（表2．8～11）．

夕食は，9割以上が“毎日”，“自分で作ったもの”か“家族や寮・下宿・アルバイト先で用意してくれた食事”を，“一人で”または“家族と”一緒に食べていた（表2．12～15）．

間食・夜食は，“ほとんど食べない”学年が多かった．食べる場合は“一人で”食べていた（表2．16～19）．

2．2．2　食品の種類

肉・肉製品，魚介類・魚製品，牛乳・乳製品，卵，大豆・豆製品，野菜類，果物について，摂食頻度を尋ねた．

肉・肉製品は，“週4～5回食べる”が最も多く，“毎日食べる”と合わせると，3分の2を占めた．“ほとんど食べない”学生は少なかった（表2．20）．

魚介類・魚製品は“週2～3回食べる”が半数強で最も多く，“ほとんど食べない”学生も20%あった（表2．21）．

牛乳・乳製品は“毎日食べる”が最多（41%）で，“週4～5回食べる”と合わせると，60%を越えた（表2．22）．

卵は“週2～3回食べる”が39%，次いで“週4～5回食べる”であった（表2．23）．

大豆・豆製品は“週2～3回食べる”と“ほとんど食べない”で75%を占めた（表2．24）．

野菜類は“毎日食べる”が過半数であり，“週4～5回食べる”も多かった（表2．25）．果物は“週2～3回食べる”と“ほとんど食べない”で3分の2だった（表2．26）．

2．2．3　ソフトドリンク

ソフトドリンクおよびアルコール飲料については飲むか，飲まないか，飲むとすれば何を，どの位の量，どの位の頻度で飲むか尋ねた．しかしながら，量と頻度については記載の不備が多く，今回の集計から除いた．

ソフトドリンクを“飲む”学生は男子の88%，女子の86%，合計で87%に及んだ．男女とも高学年になるにつれて“飲む”学年の比率が僅かながら増え，4年生では，男性の91%，女性の88%が飲んでいた．ソフトドリンクの種類は砂糖が入っていないコーヒー・紅茶・ウーロン茶が最も多く，次いで砂糖・ミルク入りのコーヒー・紅茶が多かった（表2．27，28）．

2．2．4　アルコール飲料

アルコールを“飲む”学生は全体では49%，およそ半数であり，男性は56%，女性は38%であった．男女とも高学年になるにつれて“飲む”学年の比率が高くなるが，男性では2年生で，女性では5年生で“飲む”学年が半数を越えた．アルコールの種類はビールが圧倒的に多かった（表2．29，30）．

2．3　喫煙

現在吸っているか否か，吸うとすれば，毎日か，時々か，何歳から何本吸っているか，また現在吸っていないが過去に吸ったことがある場合は，何歳から何歳まで何本吸っていたかを尋ねた．

煙草を吸わない学生が全体の8割以上を占めたが，男性は74%で，女性の96．2%に比べ少なかっ

た．現在毎日吸う学生は男性20.0%，女性1.8%であった．また，現在毎日あるいは時々煙草を吸う学生の，一日当たりの本数は男性が平均15.0本，女性が10.3本であった．男性では一日の本数が高学年になるにつれて多くなった．喫煙開始の年齢は平均18.6±1.8歳であり，13歳から25歳まで広範囲に及んだ（表2.31〜33）．

2.4　現在の自己評価．

2.4.1　体重

自分の体重を“ちょうど良い”と答えたのは全体の約3分の1，“太りたい”は少なく，“痩せたい”は女性の約7割を占めた（表2.34）．

2.4.2　食生活

食生活について半数の学生は“規則正しく”，3分の2の人は“程よい”量を食べているが，半数以上が“偏っている”と回答している（表2.35〜37）．

2.4.3　睡眠

睡眠については“不規則”の学生が“規則的”な学生よりやや多く，“時間・質ともに満足”しているのは約4割，“寝ても寝ても寝足りない”学生や“寝付きが悪い”学生も多かった（表2.38，39）．

〔上園慶子〕

表２．１　日常生活一般　住居

1.自宅　2.食事付の寮　3.自炊のアパート・寮・下宿　4.その他

回答	総数	男								女							
		回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年	回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1	21,243	11,220	30.0	5,209	880	587	4,380	68	96	10,023	42.2	4,878	654	833	3,591	25	42
2	2,465	1,694	4.5	981	149	72	484	1	7	771	3.2	535	69	48	119	0	0
3	36,874	24,162	64.5	9,851	2,000	1,091	10,662	122	436	12,712	53.6	5,781	917	948	4,884	47	135
4	591	361	1.0	197	37	15	107	2	3	230	1.0	172	10	7	40	0	1
総数	61,173	37,437	100.0	16,238	3,066	1,765	15,633	193	542	23,736	100.0	11,366	1,650	1,836	8,634	72	178

表２．２　日常生活一般　課外活動

1.運動部のみ　2.文化部のみ　3.運動部・文化部の両方　4.入っていない

回答	総数	男								女							
		回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年	回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1	18,007	11,938	32.6	4,882	1,080	657	4,970	90	259	6,069	26.4	2,552	562	568	2,296	30	61
2	9,666	5,166	14.1	1,951	579	227	2,334	19	56	4,500	19.6	1,886	376	365	1,828	16	29
3	2,831	1,717	4.7	834	211	110	481	27	54	1,114	4.8	606	110	98	264	12	24
4	29,139	17,835	48.7	7,854	1,191	766	7,797	56	171	11,304	49.2	5,617	590	799	4,220	14	64
総数	59,643	36,656	100.0	15,521	3,061	1,760	15,582	192	540	22,987	(100.0)	10,661	1,638	1,830	8,608	72	178

表２．３　日常生活一般　生活時間(時間/日)

	平日									休日								
	全体			男			女			全体			男			女		
項目	回答数	平均値	標準偏差	回答数	平均値	標準偏差	回答数	平均値	標準偏差	回答数	平均値	標準偏差	回答数	平均値	標準偏差	回答数	平均値	標準偏差
運動	36,764	1.02	1.24	22,908	1.08	1.26	13,856	0.93	1.19	44,276	0.98	1.46	27,612	1.11	1.53	16,664	0.78	1.29
課外活動	21,876	0.68	1.07	13,878	0.67	1.08	7,998	0.71	1.05	38,044	0.59	1.49	23,600	0.61	1.52	14,444	0.55	1.43
アルバイト	26,989	1.34	1.60	16,489	1.37	1.70	10,500	1.30	1.42	40,653	1.46	2.80	24,710	1.32	2.71	15,943	1.67	2.93
睡眠時間	53,439	6.72	1.08	32,563	6.76	1.11	20,876	6.67	1.02	51,998	7.84	1.45	31,684	7.86	1.51	20,314	7.82	1.34
学習時間	50,177	4.72	2.65	30,858	4.63	2.71	19,319	4.86	2.54	46,307	1.91	2.09	28,464	1.82	2.12	17,843	2.04	2.05

表２．４　食生活　食事の状況　朝食摂取状況

1.毎日食べる　2.週１～２回欠食　3.週３～４回欠食　4.ほとんど食べない

回答	総数	男								女							
		回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年	回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1	23,683	12,226	42.0	7,530	955	499	3,078	52	112	11,457	64.6	6,704	715	805	3,131	32	70
2	9,575	6,030	20.7	2,728	582	289	2,321	38	72	3,545	20.0	1,351	302	299	1,557	9	27
3	4,377	3,198	11.0	891	299	170	1,758	19	61	1,179	6.6	285	106	116	659	2	11
4	9,171	7,622	26.2	1,826	651	396	4,574	41	134	1,549	8.7	331	111	129	954	10	14
総数	46,806	29,076	100.0	12,975	2,487	1,354	11,731	150	379	17,730	100.0	8,671	1,234	1,349	6,301	53	122

表２．５　食生活　食事の状況　朝食欠食理由

1.時間がない　2.食欲がない　3.経済的理由　4.太りたくない　5.その他

回答	総数	男								女							
		回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年	回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1	16,327	11,784	69.9	3,664	1,175	660	6,007	76	202	4,543	72.4	1,372	423	449	2,245	16	38
2	4,528	3,285	19.5	1,164	202	135	1,727	12	45	1,243	19.8	438	65	70	657	4	9
3	388	372	2.2	134	36	19	180	1	2	16	0.3	4	2	2	8	0	0
4	108	71	0.4	27	3	1	37	0	3	37	0.6	16	5	3	12	0	1
5	1,772	1,338	7.9	456	116	40	702	9	15	434	6.9	137	24	20	248	1	4
総数	23,123	16,850	100.0	5,445	1,532	855	8,653	98	267	6,273	100.0	1,967	519	544	3,170	21	52

表２．６　食生活　食事の状況　朝食内容

1.自分で作ったもの　2.家族や寮・下宿・アルバイト先で用意してくれた食事　3.ホカ弁など既製品・インスタント食品　4.食堂のメニュー

回答	総数	男								女							
		回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年	回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1	16,662	8,249	38.4	4,478	696	331	2,619	40	85	8,413	52.0	4,020	603	619	3,065	31	75
2	15,949	9,164	42.7	5,124	769	419	2,760	39	53	6,785	41.9	3,883	441	508	1,927	9	17
3	4,322	3,379	15.7	1,354	276	161	1,466	29	93	943	5.8	419	74	87	344	3	16
4	702	662	3.1	193	95	47	312	1	14	40	0.2	18	5	6	11	0	0
総数	37,635	21,454	100.0	11,149	1,836	958	7,157	109	245	16,181	100.0	8,340	1,123	1,220	5,347	43	108

表２．７　食生活　食事の状況　朝食同席者

1.一人で　2.家族と　3.友人と　4.その他

回答	総数	男								女							
		回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年	回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1	25,255	14,572	67.9	7,133	1,271	649	5,238	80	201	10,683	66.0	5,073	806	841	3,843	34	86
2	9,599	5,054	23.6	2,886	399	240	1,478	25	26	4,545	28.1	2,578	267	341	1,333	8	18
3	2,112	1,351	6.3	850	117	59	311	4	10	761	4.7	572	33	33	119	1	3
4	669	477	2.2	280	49	10	130	0	8	192	1.2	117	17	5	52	0	1
総数	37,635	21,454	100.0	11,149	1,836	958	7,157	109	245	16,181	100.0	8,340	1,123	1,220	5,347	43	108

表２．８　食生活　食事の状況　昼食摂取状況　　1.毎日食べる　2.週１～２回欠食　3.週３～４回欠食　4.ほとんど食べない

回答	総数	男								女							
		回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年	回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1	40,385	21,146	83.0	11,264	2,067	1,132	9,221	123	339	16,239	91.6	8,148	1,139	1,262	5,536	50	104
2	5,058	3,757	12.9	1,365	317	157	1,870	20	28	1,301	7.3	478	81	81	645	3	13
3	949	811	2.8	214	71	48	463	6	9	138	0.8	26	9	5	94	0	4
4	414	362	1.2	132	32	17	177	1	3	52	0.3	19	5	1	26	0	1
総数	46,806	29,076	100.0	12,975	2,487	1,354	11,731	150	379	17,730	100.0	8,671	1,234	1,349	6,301	53	122

表２．９　食生活　食事の状況　昼食欠食理由　　1.時間がない　2.食欲がない　3.経済的理由　4.太りたくない　5.その他

回答	総数	男								女							
		回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年	回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1	2,373	1,755	35.6	573	140	81	929	12	20	618	41.4	190	33	41	347	0	7
2	1,958	1,412	28.6	504	117	67	711	5	8	546	36.6	210	37	28	261	1	9
3	948	867	17.6	304	89	45	424	2	3	81	5.4	27	10	4	38	2	0
4	184	128	2.6	57	13	3	50	0	5	56	3.8	26	1	2	26	0	1
5	958	768	15.6	273	61	26	396	8	4	190	12.7	70	14	12	93	0	1
総数	6,421	4,930	100.0	1,711	420	222	2,510	27	40	1,491	100.0	523	95	87	765	3	18

表２．10　食生活　食事の状況　昼食内容　　1.自分で作ったもの　2.家族や寮・下宿・アルバイト先で用意してくれた食事　3.ホカ弁など既製品・インスタント食品　4.食堂のメニュー

回答	総数	男								女							
		回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年	回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1	4,944	2,049	7.1	1,152	104	63	707	11	12	2,895	16.4	1,322	166	201	1,175	12	19
2	6,995	3,611	12.6	2,113	220	140	1,112	16	10	3,384	19.1	1,874	213	267	1,015	6	9
3	6,454	3,741	13.0	1,446	254	156	1,823	23	39	2,713	15.3	924	174	229	1,345	12	29
4	27,999	19,313	67.3	8,132	1,877	978	7,912	99	315	8,686	49.1	4,532	676	651	2,740	23	64
総数	46,392	28,714	100.0	12,843	2,455	1,337	11,554	149	376	17,678	100.0	8,652	1,229	1,348	6,275	53	121

表２．11　食生活　食事の状況　昼食同席者　　1.一人で　2.家族と　3.友人と　4.その他

回答	総数	男								女							
		回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年	回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1	9,857	7,100	24.7	3,419	436	222	2,933	28	62	2,757	15.6	1,233	101	126	1,267	10	20
2	2,261	1,249	4.3	874	46	27	294	7	1	1,012	5.7	643	20	35	313	1	0
3	33,623	19,869	69.2	8,312	1,945	1,077	8,118	112	305	13,754	77.8	6,714	1,102	1,184	4,612	42	100
4	651	496	1.7	238	28	11	209	2	8	155	0.9	62	6	3	83	0	1
総数	46,392	28,714	100.0	12,843	2,455	1,337	11,554	149	376	17,678	100.0	8,652	1,229	1,348	6,275	53	121

表 2 .12　食生活　食事の状況　夕食摂取状況

1.毎日食べる　2.週１～２回欠食　3.週３～４回欠食　4.ほとんど食べない

回答	総数	男								女							
		回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年	回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1	44,015	27,654	95.1	12,466	2,339	1,271	11,072	144	362	16,361	92.3	8,142	1,108	1,213	5,734	50	114
2	2,401	1,210	4.2	439	127	68	557	4	15	1,191	6.7	444	109	116	512	3	7
3	295	164	0.6	50	17	12	82	2	1	131	0.7	56	14	18	42	0	1
4	95	48	0.2	20	4	3	20	0	1	47	0.3	29	3	2	13	0	0
総数	46,806	29,076	100.0	12,975	2,487	1,354	11,731	150	379	17,730	100.0	8,671	1,234	1,349	6,301	53	122

表 2 .13　食生活　食事の状況　夕食欠食理由

1.時間がない　2.食欲がない　3.経済的理由　4.太りたくない　5.その他

回答	総数	男								女							
		回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年	回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1	851	423	29.7	162	54	24	177	2	4	428	31.3	146	40	46	192	2	2
2	822	383	26.9	140	42	7	179	1	4	439	32.1	191	32	39	173	0	4
3	260	225	15.8	63	24	20	116	1	1	35	2.6	11	5	1	18	0	0
4	333	91	6.4	33	3	8	43	0	4	242	17.7	95	27	28	91	0	1
5	525	300	21.1	111	25	14	144	2	4	225	16.4	86	22	22	93	1	1
総数	2,791	1,422	100.0	509	148	83	659	6	17	1,369	100.0	529	126	136	567	3	8

表 2 .14　食生活　食事の状況　夕食内容

1.自分で作ったもの　2.家族や寮・下宿・アルバイト先で用意してくれた食事　3.ホカ弁など既製品・インスタント食品　4.食堂のメニュー

回答	総数	男								女							
		回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年	回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1	17,319	9,075	31.3	4,545	799	412	3,176	42	101	8,244	46.6	3,753	597	611	3,162	33	88
2	19,758	11,495	39.6	5,962	953	538	3,917	57	68	8,263	46.7	4,472	561	651	2,540	17	22
3	4,511	3,782	13.0	1,278	343	191	1,894	15	61	729	4.1	284	54	63	321	3	4
4	5,123	4,676	16.1	1,170	388	210	2,724	36	148	447	2.5	133	19	22	265	0	8
総数	46,711	29,028	100.0	12,955	2,483	1,351	11,711	150	378	17,683	100.0	8,642	1,231	1,347	6,288	53	122

表 2 .15　食生活　食事の状況　夕食同席者

1.一人で　2.家族と　3.友人と　4.その他

回答	総数	男								女							
		回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年	回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1	21,472	13,591	46.8	6,199	1,264	601	5,263	58	205	7,881	44.6	3,708	589	615	2,884	20	65
2	14,566	7,612	26.2	4,034	565	349	2,569	45	50	6,954	39.3	3,673	447	538	2,252	16	28
3	9,092	6,719	23.1	2,250	534	342	3,446	42	106	2,373	13.4	1,069	159	158	949	14	24
4	1,581	1,106	3.8	472	120	59	433	5	17	475	2.7	192	36	36	203	3	5
総数	46,711	29,028	100.0	12,955	2,483	1,351	11,711	150	378	17,683	100.0	8,642	1,231	1,347	6,288	53	122

表 2 .16　食生活　食事の状況　間食摂取状況　　1.毎日食べる　2.週１～２回欠食　3.週３～４回欠食　4.ほとんど食べない

回答	総数	男								女							
		回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年	回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1	6,717	3,308	11.4	1,499	287	171	1,295	21	35	3,409	19.2	1,589	219	247	1,319	12	23
2	6,602	3,192	11.0	1,530	279	146	1,192	15	30	3,410	19.2	1,619	233	261	1,267	8	22
3	9,302	5,365	18.5	2,417	476	256	2,137	29	50	3,937	22.2	1,838	316	348	1,395	14	26
4	24,185	17,211	59.2	7,529	1,445	781	7,107	85	264	6,974	39.3	3,625	466	493	2,320	19	51
総数	46,806	29,076	100.0	12,975	2,487	1,354	11,731	150	379	17,730	100.0	8,671	1,234	1,349	6,301	53	122

表 2 .17　食生活　食事の状況　間食同席者　　1.一人で　2.家族と　3.友人と　4.その他

回答	総数	男								女							
		回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年	回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1	13,661	8,634	72.8	4,113	767	390	3,235	43	86	5,027	46.7	2,579	344	360	1,696	14	34
2	1,934	552	4.7	335	45	27	141	2	2	1,382	12.8	798	66	90	414	6	8
3	6,345	2,314	19.5	842	190	132	1,108	19	23	4,031	37.5	1,507	336	383	1,765	13	27
4	681	365	3.1	156	40	24	140	1	4	316	2.9	162	22	23	106	1	2
総数	22,621	11,865	100.0	5,446	1,042	573	4,624	65	115	10,756	100.0	5,046	768	856	3,981	34	71

表 2 .18　食生活　食事の状況　夜食摂取状況　　1.毎日食べる　2.週１～２回欠食　3.週３～４回欠食　4.ほとんど食べない

回答	総数	男								女							
		回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年	回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1	1,620	1,300	4.5	461	101	78	635	8	17	320	1.8	127	17	29	142	2	3
2	2,665	2,155	7.4	739	174	96	1,117	11	18	510	2.9	169	39	47	247	2	6
3	5,390	4,355	15.0	1,457	389	205	2,207	32	65	1,035	5.8	364	79	81	500	5	6
4	37,131	21,266	73.1	10,318	1,823	975	7,772	99	279	15,865	89.5	8,011	1,099	1,192	5,412	44	107
総数	46,806	29,076	100.0	12,975	2,487	1,354	11,731	150	379	17,730	100.0	8,671	1,234	1,349	6,301	53	122

表 2 .19　食生活　食事の状況　夜食同席者　　1.一人で　2.家族と　3.友人と　4.その他

回答	総数	男								女							
		回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年	回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1	7,506	6,310	80.8	2,179	546	297	3,155	44	89	1,196	64.1	398	86	98	597	8	9
2	507	222	2.8	121	17	15	67	1	1	285	15.3	130	21	29	102	0	3
3	1,425	1,088	13.9	298	81	58	636	6	9	337	18.1	115	25	24	171	1	1
4	237	190	2.4	59	20	9	101	0	1	47	2.5	17	3	6	19	0	2
総数	9,675	7,810	100.0	2,657	664	379	3,959	51	100	1,865	100.0	660	135	157	889	9	15

表 2 .20　食生活　食品の種類　肉・肉製品　　1.毎日食べる　2.週４～５回食べる　3.週２～３回食べる　4.ほとんど食べない

回答	総数	男								女							
		回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年	回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1	17,125	11,768	31.8	4,406	1,040	586	5,384	81	271	5,357	22.8	2,429	399	443	2,008	22	56
2	22,828	14,462	39.0	6,106	1,175	662	6,269	79	171	8,366	35.6	3,905	596	621	3,159	24	61
3	18,546	9,928	26.8	5,023	753	456	3,572	32	92	8,618	36.7	4,334	547	660	3,002	25	50
4	2,070	897	2.4	466	81	46	301	0	3	1,173	5.0	569	98	98	401	0	7
総数	60,569	37,055	100.0	16,001	3,049	1,750	15,526	192	537	23,514	100.0	11,237	1,640	1,822	8,570	71	174

表 2 .21　食生活　食品の種類　魚介類・魚製品　　1.毎日食べる　2.週４～５回食べる　3.週２～３回食べる　4.ほとんど食べない

回答	総数	男								女							
		回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年	回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1	3,997	2,220	6.0	981	186	111	875	16	51	1,777	7.6	933	114	140	563	8	19
2	10,966	6,424	17.3	2,744	541	301	2,718	35	85	4,542	19.3	2,217	305	306	1,669	15	30
3	33,517	20,607	55.6	8,675	1,637	923	8,948	115	309	12,910	54.9	6,093	863	972	4,833	41	108
4	12,089	7,804	21.1	3,601	685	415	2,985	26	92	4,285	18.2	1,994	358	404	1,505	7	17
総数	60,569	37,055	100.0	16,001	3,049	1,750	15,526	192	537	23,514	100.0	11,237	1,640	1,822	8,570	71	174

表 2 .22　食生活　食品の種類　牛乳・乳製品　　1.毎日食べる　2.週４～５回食べる　3.週２～３回食べる　4.ほとんど食べない

回答	総数	男								女							
		回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年	回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1	25,071	14,028	37.9	6,880	1,277	637	4,970	76	188	11,043	47.0	5,253	788	853	4,004	41	104
2	12,247	7,462	20.1	3,130	603	351	3,255	31	92	4,785	20.3	2,162	355	403	1,818	14	33
3	16,172	10,552	28.5	4,047	848	503	4,911	64	179	5,620	23.9	2,684	360	430	2,104	13	29
4	7,079	5,013	13.5	1,944	321	259	2,390	21	78	2,066	8.8	1,138	137	136	644	3	8
総数	60,569	37,055	100.0	16,001	3,049	1,750	15,526	192	537	23,514	100.0	11,237	1,640	1,822	8,570	71	174

表 2 .23　食生活　食品の種類　卵　　1.毎日食べる　2.週４～５回食べる　3.週２～３回食べる　4.ほとんど食べない

回答	総数	男								女							
		回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年	回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1	14,241	7,343	19.8	3,633	570	371	2,618	44	107	6,898	29.3	3,599	474	561	2,197	23	44
2	17,958	10,423	28.1	4,631	789	499	4,292	54	158	7,535	32.0	3,517	499	618	2,840	21	40
3	23,347	15,598	42.1	6,240	1,324	684	7,034	76	240	7,749	33.0	3,497	557	550	3,041	22	82
4	5,023	3,691	10.0	1,497	366	196	1,582	18	32	1,332	5.7	624	110	93	492	5	8
総数	60,569	37,055	100.0	16,001	3,049	1,750	15,526	192	537	23,514	100.0	11,237	1,640	1,822	8,570	71	174

表 2 .24　食生活　食品の種類　大豆・豆製品　　1.毎日食べる　2.週４～５回食べる　3.週２～３回食べる　4.ほとんど食べない

回答	総数	男								女							
		回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年	回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1	5,635	3,040	8.2	1,376	295	159	1,150	15	45	2,595	11.0	1,377	154	171	865	8	20
2	9,494	5,518	14.9	2,381	492	252	2,292	26	75	3,976	16.9	1,944	270	280	1,432	17	33
3	29,727	18,190	49.1	7,613	1,501	803	7,894	104	275	11,537	49.1	5,306	818	884	4,398	35	96
4	15,713	10,307	27.8	4,631	761	536	4,190	47	142	5,406	23.0	2,610	398	487	1,875	11	25
総数	60,569	37,055	100.0	16,001	3,049	1,750	15,526	192	537	23,514	100.0	11,237	1,640	1,822	8,570	71	174

表 2 .25　食生活　食品の種類　野菜類　　1.毎日食べる　2.週４～５回食べる　3.週２～３回食べる　4.ほとんど食べない

回答	総数	男								女							
		回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年	回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1	32,493	17,265	46.6	8,023	1,406	804	6,694	92	246	15,228	64.8	7,639	1,052	1,103	5,264	51	119
2	16,462	10,995	29.7	4,606	922	494	4,774	61	138	5,467	23.2	2,370	404	444	2,199	14	36
3	10,290	7,719	20.8	2,977	619	388	3,564	35	136	2,571	10.9	1,106	169	253	1,021	6	16
4	1,324	1,076	2.9	395	102	64	494	4	17	248	1.1	122	15	22	86	0	3
総数	60,569	37,055	100.0	16,001	3,049	1,750	15,526	192	537	23,514	100.0	11,237	1,640	1,822	8,570	71	174

表 2 .26　食生活　食品の種類　果物　　1.毎日食べる　2.週４～５回食べる　3.週２～３回食べる　4.ほとんど食べない

回答	総数	男								女							
		回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年	回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1	8,908	4,235	11.4	2,263	334	203	1,336	38	61	4,673	19.9	2,535	323	320	1,435	19	41
2	10,485	5,622	15.2	2,791	444	244	2,048	30	65	4,863	20.7	2,383	328	367	1,748	11	26
3	24,542	14,937	40.3	6,415	1,222	708	6,291	79	222	9,605	40.8	4,355	640	787	3,715	25	83
4	16,634	12,261	33.1	4,532	1,049	595	5,851	45	189	4,373	18.6	1,964	349	348	1,672	16	24
総数	60,569	37,055	100.0	16,001	3,049	1,750	15,526	192	537	23,514	100.0	11,237	1,640	1,822	8,570	71	174

表 2 .27　食生活　ソフトドリンク　　1.飲まない　2.飲む

回答	総数	男								女							
		回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年	回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1	7,997	4,652	12.4	2,576	378	210	1,423	14	51	3,345	14.1	1,940	195	191	1,000	5	14
2	53,241	32,838	87.6	13,646	2,701	1,559	14,260	179	493	20,403	85.9	9,425	1,464	1,649	7,635	67	163
総数	61,238	37,490	100.0	16,222	3,079	1,769	15,683	193	544	23,748	100.0	11,365	1,659	1,840	8,635	72	177

表 2 .28　食生活　ソフトドリンク　種類(複数回答)

1.ブラックコーヒー・紅茶(砂糖なし)・ウーロン茶　2.砂糖，ミルク入りのコーヒー・紅茶
3.100%果汁・野菜ジュース　4.その他のジュース　5.その他

回答	総数	男								女							
		回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年	回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1	26,663	14,281	44.3	5,519	1,071	647	6,698	78	268	12,382	61.7	5,350	890	983	4,989	43	127
2	19,159	12,663	39.3	4,819	1,045	628	5,888	81	202	6,496	32.4	2,916	445	542	2,528	25	40
3	14,270	8,161	25.3	3,150	763	440	3,601	67	140	6,109	30.4	2,604	473	537	2,399	22	71
4	14,996	11,682	36.2	5,559	962	565	4,439	49	108	3,314	16.5	1,769	245	307	970	8	15
5	1,506	855	2.7	429	63	34	307	8	14	651	3.2	333	42	48	223	1	4
総数	76,594	47,642	147.8	19,476	3,904	2,314	20,933	283	732	28,952	144.2	12,975	2,095	2,417	11,109	99	257

表 2 .29　食生活　アルコール

1.飲まない　2.飲む

回答	総数	男								女							
		回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年	回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1	31,095	16,491	44.4	9,141	1,379	666	5,091	56	158	14,604	62.4	8,174	982	975	4,364	30	79
2	29,447	20,639	55.6	6,905	1,666	1,080	10,467	137	384	8,808	37.6	3,018	650	833	4,171	41	95
総数	60,542	37,130	100.0	16,046	3,045	1,746	15,558	193	542	23,412	100.0	11,192	1,632	1,808	8,535	71	174

表 2 .30　食生活　アルコール　種類(複数回答)

1.ビール　2.日本酒　3.ウイスキー　4.焼酎　5.ワイン　6.その他

回答	総数	男								女							
		回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年	回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1	16,620	11,522	61.2	3,582	1,119	606	5,991	65	159	5,098	69.6	1,659	365	434	2,568	26	46
2	6,902	5,323	28.3	1,762	359	296	2,774	31	101	1,579	21.6	515	115	172	745	6	26
3	4,768	4,017	21.3	1,156	309	207	2,218	35	92	751	10.2	219	61	78	380	5	8
4	2,316	1,834	9.7	737	87	72	902	5	31	482	6.6	164	34	54	223	1	6
5	1,843	1,164	6.2	369	121	71	558	12	33	679	9.3	178	60	66	359	8	8
6	1,385	740	3.9	318	59	23	318	4	18	645	8.8	270	47	49	275	0	4
総数	33,834	24,600	130.6	7,924	2,054	1,275	12,761	152	434	9,234	126.1	3,005	682	853	4,550	46	98

表 2 .31　喫　煙

1.いいえ　2.時々　3.毎日吸う

回答	総数	男								女							
		回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年	回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1	53,036	27,553	74.0	13,819	2,378	1,208	9,693	124	331	22,753	96.2	11,180	1,573	1,734	8,035	68	163
2	2,715	2,242	6.0	840	215	107	1,024	13	43	473	2.0	102	43	49	273	1	5
3	7,868	7,446	20.0	1,520	475	443	4,789	54	165	422	1.8	66	25	47	277	2	5
総数	60,889	37,241	100.0	16,179	3,068	1,758	15,506	191	539	23,648	100.0	11,348	1,641	1,830	8,585	71	173

表２.32　喫　煙　１日の本数

	回答数	平均値	標準偏差
男	7,877	15.0	7.51
女	487	10.3	6.84
総　数	8,364	14.7	7.55

表２.33　喫　煙　開始年齢

	回答数	平均値	標準偏差
男	7,706	18.5	1.78
女	458	18.9	1.69
総　数	8,164	18.6	1.78

表２.34　現在の自己評価　体重

1.ちょうど良い　2.太りたい　3.痩せたい

回答	総数	男								女							
		回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年	回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1	23,417	16,573	44.2	6,965	1,457	777	7,030	93	251	6,844	28.8	3,033	429	492	2,804	27	59
2	8,330	7,651	20.4	3,427	628	355	3,140	26	75	679	2.9	252	37	56	321	2	11
3	29,467	13,269	35.4	5,851	992	631	5,502	74	219	16,198	68.3	8,069	1,183	1,289	5,507	43	107
総数	61,214	37,493	100.0	16,243	3,077	1,763	15,672	193	545	23,721	100.0	11,354	1,649	1,837	8,632	72	177

表２.35　現在の自己評価　食生活　規則正しさ

1.規則的　2.不規則

回答	総数	男								女							
		回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年	回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1	32,389	18,067	48.4	9,537	1,407	806	5,957	95	265	14,322	60.7	7,841	905	989	4,430	46	111
2	28,554	19,299	51.6	6,639	1,664	953	9,665	98	280	9,255	39.3	3,453	741	840	4,132	25	64
総数	60,943	37,366	100.0	16,176	3,071	1,759	15,622	193	545	23,577	100.0	11,294	1,646	1,829	8,562	71	175

表２.36　現在の自己評価　食生活　量

1.程よい　2.食べ過ぎ　3.食べる量が少ない

回答	総数	男								女							
		回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年	回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1	39,982	25,207	67.5	11,595	2,004	1,153	9,987	123	345	14,775	62.7	7,390	937	1,041	5,245	48	114
2	14,849	7,295	19.5	2,458	645	397	3,595	48	152	7,554	32.0	3,328	621	692	2,848	17	48
3	6,112	4,864	13.0	2,123	422	209	2,040	22	48	1,248	5.3	576	88	96	469	6	13
総数	60,943	37,366	100.0	16,176	3,071	1,759	15,622	193	545	23,577	100.0	11,294	1,646	1,829	8,562	71	175

表２.37　現在の自己評価　食生活　バランス

1.バランスがとれている　2.食事が偏っている

回答	総数	男								女							
		回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年	回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1	27,308	15,783	42.2	7,931	1,231	651	5,705	80	185	11,525	48.9	6,073	714	787	3,823	45	83
2	33,635	21,583	57.8	8,245	1,840	1,108	9,917	113	360	12,052	51.1	5,221	932	1,042	4,739	26	92
総数	60,943	37,366	100.0	16,176	3,071	1,759	15,622	193	545	23,577	100.0	11,294	1,646	1,829	8,562	71	175

表２.38　現在の自己評価　睡眠　規則正しさ

1.規則的　2.不規則

回答	総数	男								女							
		回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年	回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1	28,267	15,595	42.1	7,889	1,250	636	5,507	84	229	12,672	54.1	6,534	837	935	4,228	36	102
2	32,223	21,463	57.9	8,142	1,787	1,105	10,020	108	301	10,760	45.9	4,692	790	868	4,305	34	71
総数	60,490	37,058	100.0	16,031	3,037	1,741	15,527	192	530	23,432	100.0	11,226	1,627	1,803	8,533	70	173

表２.39　現在の自己評価　睡眠　状態(複数回答)

1.時間・質ともに満足　2.寝付きが悪い　3.眠りが浅い　4.途中でよく目が覚める　5.寝ても寝ても寝たりない

回答	総数	男								女							
		回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年	回答数	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1	23,812	14,248	38.4	6,419	1,090	540	5,899	90	210	9,564	40.8	4,633	572	709	3,575	18	57
2	15,811	10,771	29.1	4,434	834	496	4,807	45	155	5,040	21.5	2,283	317	352	2,037	17	34
3	12,508	7,866	21.2	3,172	677	430	3,465	29	93	4,642	19.8	2,201	347	367	1,682	16	29
4	6,645	4,168	11.2	1,731	302	228	1,843	16	48	2,477	10.6	1,165	175	187	920	8	22
5	26,619	16,339	44.1	7,079	1,504	886	6,565	83	222	10,280	43.9	4,879	833	882	3,570	34	82
総数	85,395	53,392	144.0	22,835	4,407	2,580	22,579	263	728	32,003	136.6	15,161	2,244	2,497	11,784	93	224

資　料

大学生の健康白書'95 ライフスタイル調査

＿＿＿＿＿大学　　＿＿＿＿月＿＿＿＿日記入

内容の学年制種別の分類		学部コード			学年	入学年度		個人識別番号									
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18

姓名										
19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	
フリガナ										
氏名										

＿＿＿＿学部　＿＿＿＿学科　＿＿年（平成 昭和 ＿＿＿＿年 入学 進学）

大学院　＿＿＿＿学研究科　＿＿＿＿専攻　MC DC ＿＿年（平成 昭和 ＿＿＿＿年 入学 進学）

性別	
29	
男	女
1	2

生年月日						
30	31	32	33	34	35	36
S						

［　　］内に当てはまる番号または数値を記入して下さい。

1．日常生活一般

《住　　居》　1.自宅　2.食事付の寮　3.自炊のアパート・寮・下宿　4.その他　［39］

《課外活動》　1.運動部のみ　2.文化部のみ　3.運動部・文化部の両方　4.入っていない　［40］

《生活時間》　あなたの平均的な生活時間について、それぞれ記入して下さい。

＊は週あたり又は1日当たりの記入しやすい方で回答し、○印をつけて下さい。

	平日	休日
運動(授業を含む)	[41]・＿＿時間／週・日＊	[45]・＿＿時間／日
課外活動(運動以外)	[48]・＿＿時間／週・日＊	[52]・＿＿時間／日
アルバイト	[55]・＿＿時間／週・日＊	[59]・＿＿時間／日
睡眠時間	[62]・＿＿時間／日	[65]・＿＿時間／日
学習時間(授業を含む)	[68]・＿＿時間／日	[71]・＿＿時間／日

《既往歴》　1ヶ月以上続けて通院または入院したことがありますか？　1．いいえ　2．はい　［74］

"はい"と答えた人へ→　病名などを記入して下さい。
(例：15歳、肺炎で2ヶ月入院)

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

II．食生活

《食事の状況》　各食事について、下記の各項目から選び番号で答えて下さい。

	朝食	昼食	夕食	間食	夜食
①摂取状況	[75]				[79]
②欠食理由	[80]				
③内容	[83]				
④同席者	[86]				[90]

①摂取状況：1.毎日食べる　2.週1～2回欠食　3.週3～4回欠食　4.ほとんど食べない
②欠食理由：1.時間がない　2.食欲がない　3.経済的理由　4.太りたくない　5.その他
③内　　容：1.自分で作ったもの　2.家族や寮・下宿・アルバイト先で用意してくれた食事　3.ホカ弁など既製品・インスタント食品　4.食堂のメニュー
④同席者：1.一人で　2.家族と　3.友人と　4.その他

《食品の種類》　次の食品は一週間に何日位食べますか？

1．毎日食べる　2．週4～5回食べる　3．週2～3回食べる　4．ほとんど食べない

①肉・肉製品 [91]	②魚介類・魚製品	③牛乳・乳製品
④卵	⑤大豆・豆製品	⑥野菜類
⑦果物		

《ソフトドリンク》を飲みますか？　1．飲まない　2．飲む [98]

"飲む"と答えた人へ→　何をどのくらい飲みますか？

1．ブラックコーヒー・紅茶(砂糖なし)・ウーロン茶　2．砂糖、ミルク入りのコーヒー・紅茶
3．100%果汁・野菜ジュース　4．その他のジュース　5．その他(　　)

1．缶入り小190mℓ　2．中250mℓ　3．大350mℓ　4．グラス　5．その他（　　）

[99] を　で　本／杯くらい　1日　回

[105] を　で　本／杯くらい　1日　回

《アルコール飲料》を飲みますか？　1．飲まない　2．飲む [111]

"飲む"と答えた人へ→　何をどのくらい飲みますか？

1．ビール　2．日本酒　3．ウイスキー　4．焼酎　5．ワイン　6．その他（　　）

1．大瓶　2．中瓶　3．500mℓ　4．350mℓ　5．180mℓ　6．グラス　7．その他（　　）

[112] を　で　本／杯くらい　週　回

[118] を　で　本／杯くらい　週　回

III．喫　煙

①たばこを吸いますか？　1．いいえ　2．時々　3．毎日吸います [125]

"毎日吸います"と答えた人へ→ [126] 歳から現在まで　1日平均　本

②たばこを吸ったことがありますか？　1．いいえ　2．はい [130]

"はい"と答えた人へ→ [131] 歳から　歳まで　1日平均　本くらい

IV．現在の自己評価

《体　重》　・最近の体重……1．ちょうど良い　2．太りたい　3．痩せたい [137]

《食生活》　・規則正しさ……1．規則的　2．不規則

・量　……1．程よい　2．食べ過ぎ　3．食べる量が少ない

・バランス　……1．バランスがとれている　2．食事が偏っている [140]

《睡　眠》　・規則正しさ……1．規則的　2．不規則

・睡眠の状態……1．時間・質とも満足　2．寝付きが悪い　3．眠りが浅い [142]
（2つまで）
4．途中でよく目が覚める　5．寝ても寝ても寝たりない

Ⅳ. 精神・心理面の健康状況

1．精神健康調査の現状

1．1　調査の概要

1．1．1 調査の意味付け

前回の「白書1984」では，精神健康調査がたいへん詳細に報告されている．その理由としては，前回は，身体の健康診断と並んで精神面の健康調査というものが行われていること，まとめて公表する最初の機会であったこと，またこれは大学に入学して初めて行われる調査であること，などにあったと思われる．

精神健康調査は，精神・心理領域の健康診断をめざして始められたものであるが，現在では，以下のような意味で実施されていると考えてよいのではなかろうか．即ち，1）入学後早期に，問題を抱えている学生に相談の機会を提供する学生生活支援の一つとして，2）在学中に生じる個人的，とりわけ精神・心理的問題を相談する場が，保健管理センターの中に存在するというPRとして，3）本人の自覚の有無を問わず，在学中に精神保健的な意味合いで修学に支障をきたすと予測される学生に来談を促す精神保健上の予防的処遇として，の3点である．

以上の点はさておいて，精神健康調査の方法は前回の調査時点から大枠では変化していないので，今回の白書では思い切って報告を簡略化した．

1．1．2　調査の実施状況

今回精神健康調査に関するアンケートを国立大学各校に依頼し，回答の得られた81大学の集計を行った．

表1．1は実施状況を大学規模別に見たものである．大学の規模に関しては，前回の調査と同様の基準で分類した．すなわち学生数5,000人以上を大規模大学，2,000人以上5,000人未満を中規模大学，2,000人未満を小規模大学と定義した．実施校の割合は中規模大学が最も高く，大規模大学で低かった．これは特に大規模大学では実施するにあたり，かなりの労力を必要とすることと関係があると思われる．6年制学部を有する大学を取り出して調べてみると，有しない大学よりも実施されている割合はやや高く，中・小規模大学での実施率はさらに高かった．

実施対象学年について示したのが表1．2である．健康調査を実施している大学においては，記入法，面接法とも，新入生については全校実施していた．殆どの大学が新入生のみを対象としており，逆に新入生以外にも実施した大学はきわめて少なかった．

精神健康調査の実施時期と大学規模の関係を示したのが図1．1である．実施校全体では入学直後が46%と最も多く，ついで自宅記入38%，健康診断時17%の順になっていた．大学規模が大きくなるほど自宅記入の割合が高くなり，入学直後の割合の方は逆に低くなる傾向が見られた．入学直後に実施される場合は，主に入学後の各学部オリエンテーションに関係者が出向いていくことが多く，これも大規模大学ではなかなか困難であることを示していると思われる．

1．1．3　精神健康調査の形態について

前回の調査時に判明した6種類の調査形態について，大学規模別に見たのが表1．3である．実質的に精神健康調査を行っているといえるd，e，f合計の割合は，精神健康調査実施校の43%であった（図1．2（左））．大学規模によって違いがあるかをみたが，差異は明らかでなく，精神健康調査の必要性についての関係者の認識は，大学規模によらないことがうかがえた．

これを実際に受診した学生数（新入生のみ）で見てみると図1．2（右）のような割合となる．各大学ともに受診しなかった学生がいるため，「実施せず」の割合が若干増加していた．

1．2　記入法および面接法の具体的実施状況および結果

1．2．1　学生はどのくらい受診したか

精神健康調査の受診率（「白書1984」の受検率に相当）を4群に分けたのが表1．4である．大学の数でみると95%以上の受診率であったのは，実施大学全体では73%と高率であったが，大規模大学は中・小規模大学よりも低率であった．また受診率を実施時期別に自宅記入，入学直後，健康診断時の3期に分けてみると，入学直後が他の2期に比較して若干受診率が高かった．

1．2．2　記入法の種類

実施されていた記入法の種類を示したものが表1．5である．記入法の中で最も多く用いられていたのはUPI(University Personality Inventory，変法1校を含む）で，全体の69%で実施されていた．2番目に使用頻度の高かったのはCMI（変法1校を含む）であった．UPIは実施が簡便であることや，すでに多くの大学で用いられているため比較が容易であり，自校の検討を行いやすいことなどが，頻用される背景にあると考えられる．

記入法の実施校に関しては，71%の大学が1種類のみ実施しており，2種類実施校が22%，3種類実施校は6%であった．

1．2．3　要留意率（表1．6）

記入法を実施した大学全体では，約半数の大学が5%未満の要留意率であった．大学規模別に見ると，小規模大学で高い要留意率を示す大学が多かった．またこの対象大学の中で，UPIとCMIを用いた大学について要留意率を見ると，UPIを用いた大学の方が，CMIを用いた大学より高い要留意率を示していた．

1．2．4　要面接者に対する対応

1）面接開始時期（図1．3）

4月および5月が最も多く，両月で73%に達していた．なるべく入学早期に面接を開始して問題を明らかにしたいという関係者の努力がうかがえる．

2）面接に要した期間（図1．4）

1カ月以内が最も多く実施校の半数に達していたが，要面接者の実数の多い大学や，面接に関わる関係者の少なさなどから数カ月に及んでいる大学も見られる．

3）要面接者の1回の面接に要した時間（図1．5）

実施校の約1/3が10分以内であった一方，30分以上かけて面接を行う大学も14%あった．

4）最終診断責任者（図1．6）

精神科医のみが約6割を占め，ついでカウンセラーのみ21%，精神科医，カウンセラー両者が18%であった．

1．2．5　面接者の診断結果

面接当初の診断内訳を表1．7に示した．面接者のうち約80%が「所見なし」であった．資料提出大学は26校で，その内訳は大規模大学10校，中規模大学11校，小規模大学5校であった．小規模大学のうち4校が医科大学であった．

有所見者の中での診断内訳割合を示したのが図1．7である．全体で見ると，神経症が最も多く（34%），ついで適応障害（21%），躁うつ病圏（10%）の順に多かった．今回は5月頃の初診時診断

であるため，「5月病」といわれるような不適応で抑うつ的になった学生が多く含まれ，結果的に適応障害の割合を引き上げたと推察される．また，短時間の一回の面接では背景の病理まで明らかにならないため，横断的に適応障害と診断されるケースが多いとも考えられる．

大学規模で比較すると，小規模大学において精神分裂病圏の診断は1例もなかった．この理由としては，先に述べたように小規模大学は殆どが医科大学であり，すでに精神分裂病を発症している学生は修学が困難で入学までこぎ着けない場合が多いことを示していると思われる．しかし摂食障害の診断割合は他規模大学に比較してかなり高かった．

〔堀　正士〕

表１．１　大学規模別の精神健康調査実施状況

[81校集計]

	大学規模	総数	実施校	未実施校
全学部	総数	81(100.0)	49(60.5)	32(39.5)
	大規模大学	32(100.0)	18(56.3)	14(43.7)
	中規模大学	26(100.0)	17(65.4)	9(34.6)
	小規模大学	23(100.0)	14(60.9)	9(39.1)
6年制学部	総数	34(100.0)	23(67.6)	11(32.4)
	大規模大学	23(100.0)	13(56.5)	10(43.5)
	中規模大学	4(100.0)	4(100.0)	0(0.0)
	小規模大学	7(100.0)	6(85.7)	1(14.3)

(注) 1．少なくとも１学年全員を対象としている大学は実施校に、一部学部または希望学生などを対象としている大学は、未実施校に含まれる。
2．６年制学部の校数は、全学部にある大学のうち、６年制学部を有する大学を抽出したものである。

表１．２　対象学年(調査方法別実施大学数)

	対象学年	記入法	面接法
全学部	総数	49	42
	新入生のみ	41	35
	新入生＋３回生	3	2
	全学年	3	3
	その他	2	2
6年制学部	総数	23	19
	新入生のみ	17	14
	新入生＋３回生	2	1
	全学年	2	2
	その他	2	2

表１．３　大学規模ごとの調査形態別大学数

学部別	大学規模	総数	実施せず (a)	記入法のみ (b)	記入法と面接法の併用			
					希望者面接 (c)	要留意者面接 (d)	希望者＋要留意者 (e)	全員面接 (f)
全学部	総数	81	32	6	8	19	8	8
	大規模大学	32	14	2	3	6	4	3
	中規模大学	26	9	1	4	6	3	3
	小規模大学	23	9	3	1	7	1	2
6年制学部	総数	34	11	4	2	8	5	4
	大規模大学	23	10	2	2	5	2	2
	中規模大学	4	0	0	0	2	2	0
	小規模大学	7	1	2	0	1	1	2

表１．４　受診率＊（大学規模および実施時期別）

受診率	95%以上	95%未満～90%以上	90%未満～85%以上	85%未満
総数(48校)	35(72.9%)	4	3	6
大規模(17校)	10(58.8)	3	1	3
中規模(17校)	14(82.4)	1	0	2
小規模(14校)	11(78.6)	0	2	1
自宅記入(17校)	12	3	1	1
入学直後(22校)	17	1	2	2
健康診断時(8校)	5	0	0	3
その他(1校)	1	0	0	0

＊：「白書 1984」の受検率に相当.

表１．５　記入法の種類とそれを実施した大学数

テスト種類および総数 / テスト名称	総数	1種類	2種類	3種類
	66(実校数49)	35(実校数35)	22(実校数11)	9(実校数3)
ＵＰＩ(変法含む)	34	22	9	3
ＣＭＩ(変法含む)	10	3	6	1
ＳＤＳ(Zung)	3	0	1	2
ＹＧ性格検査	3	2	1	0
バウムテスト	2	0	0	2
ＭＭＰＩ	0	0	0	0
ＭＰＩ(モーズレイ)	1	0	1	0
ＴＰＩ(東大式人格目標)	1	0	0	1
ＮＳテスト	1	1	0	0
ＧＨＱ	2	2	0	0
各大学独自のもの	5	4	1	0
その他	4＊	1	3	0

＊：エゴグラム，ＥＩＳ，食行動，ＳＰＱ

表１．６　要留意率（テスト形態および大学規模別）

要留意率		総数	20%以上	20%未満～10%以上	10%未満～5%以上	5%未満
大学総数		45	6	7	9	23
規模	大規模	17	1	4	3	9
	中規模	14	1	2	5	6
	小規模	14	4	1	1	8
テスト＊	ＵＰＩ	31	6	5	5	15
	ＣＭＩ	9	0	2	1	6
	独自	4	1	0	2	1

＊：ＵＰＩ，ＣＭＩ，独自の方法のいずれかを用いた大学39校についての集計.　校数に重複あり.

表１．７　面接者の初診時診断の内訳(人数)

大学規模別合計 / 診断名	全体(26校)	大規模(10校)	中規模(11校)	小規模(５校)
	1,535名	752名	675名	108名
精神分裂病圏	25	16	9	0
躁うつ病圏	32	13	17	2
神経症	109	44	55	10
適応障害	67	30	30	7
心身症	28	12	15	1
摂食障害	13	4	3	6
人格障害	23	13	9	1
その他	17	8	9	0
分類不能	5	1	3	1
所見なし	1,216(79.2%)	611(81.3%)	525(77.8%)	80(74.1%)

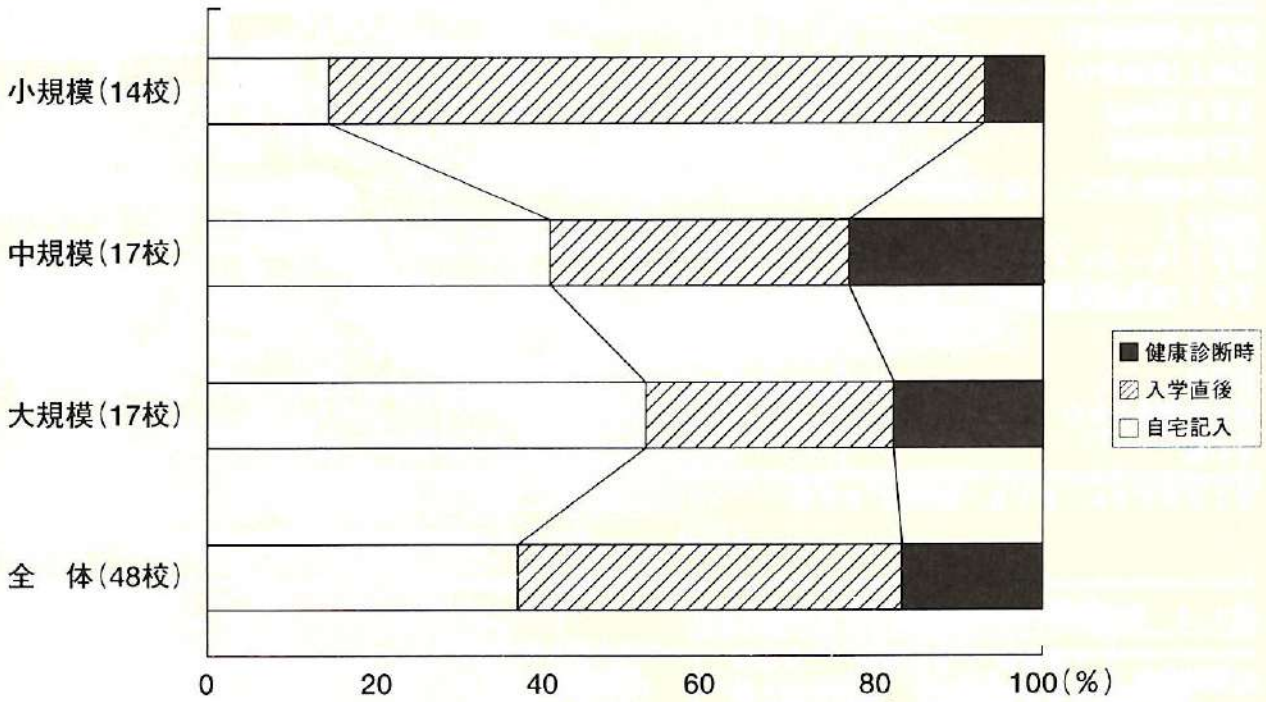


図１．１　精神健康調査の実施時期

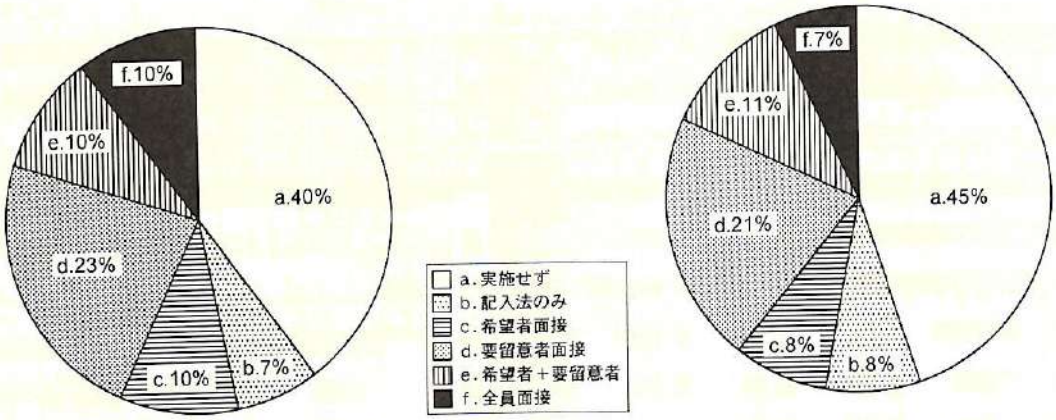


図１．２　精神健康調査の調査形態
［大学数81校，受診学生数89,848名］

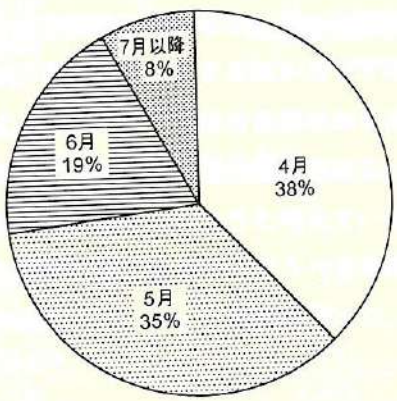


図１．３　面接開始時期［37校］

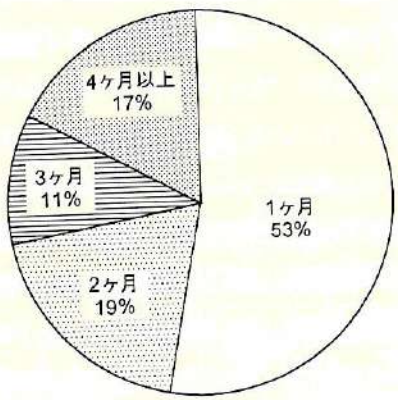


図１．４　面接に要した期間［36校］

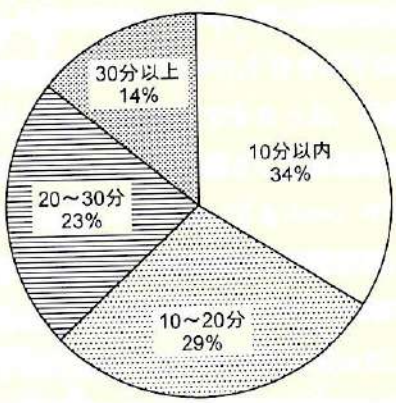


図１．５　要面接者の１回の面接に
要した時間［35校］

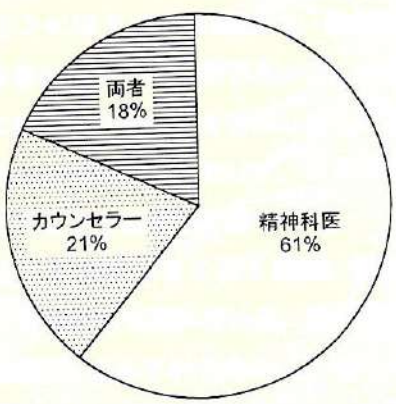


図１．６　診断責任者の内訳［34校］

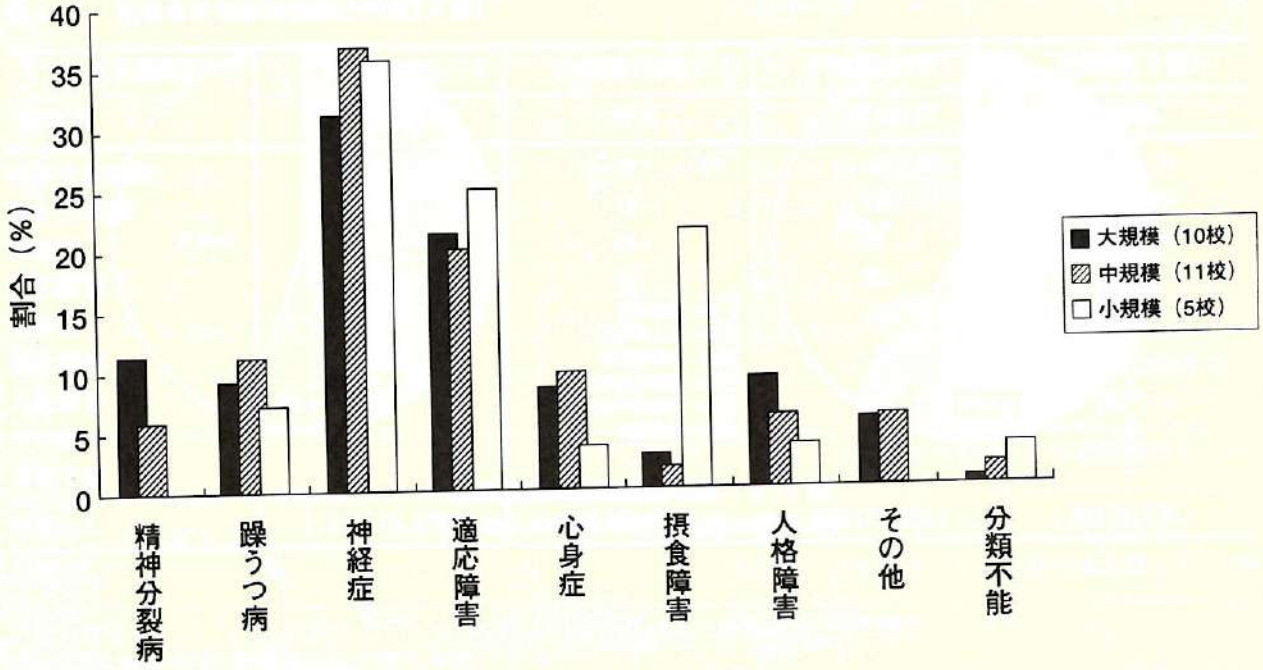


図１．７　面接者の初診時診断内訳（有所見者のみ）

2．精神保健・心理相談からみた健康状況

2．1　概要と目的

現在，各国立大学には保健管理センターが設置され，臨床心理学者ないし精神科医が，カウンセラーとして配備されている．しかしながらこれらのカウンセラーたちがどれほど役に立っているかははっきりとしたデータがないのが実状である．我々が学生のメンタルヘルスケアの必要性をどれほど説いたとしても，実際のニーズが大きなものでない限り，それは机上の空論にすぎないであろう．実際にどれほどの学生が，精神的な問題で保健センターを受診しているか，それを把握することこそが，大学生のメンタルヘルスケアの実践にとっては，必要にして十分な条件になると思われる．そこで今回の健康白書作成に当たり，その中の1項目として取り上げようと考えて，各大学にこうした受診行動の原点とも言うべき基礎データの収集のためのアンケート調査を行った．

2．2　方法

各大学にアンケート用紙を配布して，1995年度一年間に保健管理センターのカウンセリング部門を受診した者の年齢，学年，延べ来所数と実来所数，その相談内容，診断がつくならばその診断名，等をアンケートに記入してもらった．診断名をつけるに際しては，疾病分類としては国際基準であるICD－10を用いて分類してもらい，それらをさらに精神分裂病圏，躁鬱病圏，神経症圏，適応障害圏，心身症，摂食障害，その他，分類不能，正常範囲へと大区分し直して統計を取った．回答を寄せたのは活動している保健管理施設を持つ国立89大学中49大学であり，回答率は55.1％である．

ICD－10による疾病分類については，大学によっては心理学者であるが故に，疾病分類は行えないとする意見を付してきたところもあって，必ずしも49校が全て完全に参加したわけではない．精神科医のいる大学でも，疾病分類を書かなかったり，ただ正常範囲の数のみを記入してくる大学もあって，対応は様々であった．結局のところ，49校中疾病分類まで参加した学校数は39校であった．

次に，この39校における在籍学生数は，男子が133,451人，女子が58,821人，総計 192,272人であり，これを母集団の大きさとして有病率を算出することにした（表2．1）．

2．3　有病率（表2．2）

各疾患別有病率は人口（学生数）千対にして分裂病圏が0.85，躁鬱病が1.05，神経症が2.44，適応障害が1.04，心身症が0.57，摂食障害が0.50，人格障害が0.78となっている．このなかでたとえば，分裂病の一般における有病率として広く受け入れられている数値は 0.8％，すなわち人口千対で8となるから，われわれの得た値は実状の1/10ということになる．この値はかなり低いものであるが，ここに出てきた有病率は，保健管理センター受診者の中での有病率であって，未受診の数が，特に病識の欠如することがしばしば見受けられるとされる分裂病圏において，大きな割合を占めるであろうことは想像に難くない．

このことを裏付けてくれる値は，躁鬱病圏の1.05という数字にも現れている．躁鬱病の出現率は0.5％程度とされているから，1.05という値も低値ではあるが，経験値の1/5であって，分裂病圏の場合ほど極端ではない．これは躁鬱病圏の病気は患者にも病識があり，患者自らが助けを求め

て精神科を受診すると言うことを考え合わせると，納得のいく結果であるといえる．

次に個々の疾病について，有病率の性差を見てみよう．性差がもっとも明瞭に現れるのは摂食障害の場合である．この場合，従来言われてきたとおり，女子の割合が圧倒的に男子に勝っている．

その他の疾病についても，大体において女子の有病率は男子のそれを上回っているが，これは女子の受診率の高さと関わりあっていると考えるのが妥当であろう．唯一例外的なのは分裂病圏の学生の場合で，ここでは男子学生が女子学生を大幅に上回っている．これについてはより詳細な調査を必要とすると考えられる．

つぎに，学生全体の在籍総数によって計算された学生千人あたりの留年者数は，男子が74人，女子が16人であり，明らかに男子の留年率が有意に高い．これに反して，新規来談率や来談率においては，いずれも明らかに女子の方が男子を上回っている．この場合，来談率の高値である理由はいろいろと考えられるが，平均来談回数は女子の方が5.0であり，むしろ男子の5.4を下回っていて，来談率や新規来談率に影響しているとは考えられないことからすると，女子学生の方が保健管理センターというものや，相談することに抵抗感があまりないと言うことが考えられる．(表2．3)

2．4　相談内容について（表2．4）

相談内容についてデータからわかるのは，以下の点である．

①もっとも多いことは，精神的問題の訴えである．精神的問題が一位となるのは，保健管理センターが学内における精神科治療の一次施設である以上，さけられないことであろう．

②次に多いのは，男子では学業ということであるが，女子では対人関係となっている．女子の方が人との関係に敏感で悩みやすいようである．

③女子は恋愛問題の相談に訪れることが多い．

〔磯田雄二郎〕

表２．１　在籍学生数　　[39校集計]

	総　数	１年生	２年生	３年生	４年生	５年生	６年生	留年生
男	133,451	33,888	35,185	34,430	35,112	1,816	1,518	11,352
女	58,821	18,964	17,669	18,002	16,236	630	584	1,158
合計	192,272	52,852	52,854	52,432	51,348	2,446	2,242	12,510

表２．２　保健管理センター利用者の疾患別分類　　[39校集計]

	男	女	合計	‰
分裂病圏	129	35	164	0.85
躁鬱病圏	122	81	203	1.05
神経症	311	158	469	2.44
適応障害	110	89	199	1.04
心身症	61	49	110	0.57
摂食障害	1	96	97	0.50
人格障害	101	50	151	0.78
その他	39	29	68	0.35
分類不能	36	16	52	0.27
正常範囲	265	299	564	2.93

表２．３　有病率ー学生千対各指数

	男	‰	女	‰	総数	‰
在籍数	153,411	1000.0	73,273	1000.0	226,684	1000.0
留年者数	11,352	74.0	1,158	15.8	12,510	55.2
相談者実数	1,548	10.1	1,289	17.6	2,837	12.5
新規来談者数	1,181	7.7	1,034	14.1	2,215	9.8
相談延べ数	8,415		6,446		14,861	
平均回数	5.4		5.0		5.2	

表２．４　相談内容について

	男	女
総　数	3,434	3,090
進路の悩み	314	228
対人関係	405	373
学　業	558	322
恋　愛	85	105
健康面	209	181
心理テスト	29	26
家族，友人	79	156
精神的問題	1,541	1,436
その他	214	263

3．アンケート調査からみた健康状況

3．1　調査の概要と目的

前回の「白書1984」と今回のものとの最大の差異は，今回は，前回にはなかった精神・心理面についてのアンケート調査を実施したことにある．

前回のときも，何か直接学生の心の健康を窺い知るような調査を行いたかったのであるが，全国規模でのアンケート調査には，まだ学生側の反発も予想され，また調査を実施する側の体制も整わなかったために，実施を見送ったという経緯がある．今回はいろいろな意味で機が熟したと言えよう．今後は学生健康白書作成が行われる10年毎に同様のアンケート調査を実施して，比較を行っていきたいと考えている．

ところで，この１１年間に学生の心理面ばかりではなく，それに大きな影響を及ぼすと考えられる生活実態や家族，さらには社会といった，彼らを取り巻く環境そのものが，一大変革を遂げたと考えられる．こうした変化の影響は，しばしば個々のカウンセラーからは提起がなされてきていたが，ケースとの関わりで語られることが専らであり，その背景を探るための大規模な調査はなされてこなかったという事実がある．今回こうした大規模な調査を行おうと考えたことの一つには，実態把握をしようという狙いがあった．

また，こうした背景の理解といった目的ばかりに限定されず，さらには，現在の学生の友人関係や興味の対象といった，彼らのメンタリティーの基本を把握する目的もあって，この調査は行われた．もちろんこの調査のみでそうした全てが了解されるとは思われないが，その一資料ともなればと考えてのことである．

3．2　対象と方法

対象は国立大学のうち保健管理施設が活動している８９校であり，各校に，この項目の最後に添付したようなアンケート用紙の原票を配布して，それをコピーしてもらい，健康診断実施時に全学生に配布して，記入回答をしてもらうよう，働きかけてくれるようにと依頼した．これらについて協力をいただき，結果をいただけた学校は全体で70校であった．

結果は表計算ソフトを用いてスプレッドシート方式にまとめ，統計処理を行う処理者に送付してくれるよう依頼したが，一部アンケートそのものを送ってくる大学や，ワープロの形式でデータを送ってくる大学等があったり，中にはデータ形式の違いからどうしてもファイルが読み込めなかったりして，脱落データが多量に発生したことは，残念なことであった．またデータの中には決められた必要事項（入学年度や所属学部等）が記載されていないために，脱落データとせざるを得ないデータも多数あった．以上の結果から統計処理に用いることのできたデータの件数は，70,279件であった（表３．１）．これら70大学の在籍学生数は，1995年度で323,848人であったから，結局回答率は21.7%となっている．

性差についてみると，男子の場合，回答数が39,774，在籍数が216,580であるので，回答率は18.4%，女子は回答数30,505で在籍数は107,268，従って回答率は28.4%であり，明らかに女子の回答率が有意に高い．受診者全員がアンケートに回答したとは考えられないが，男子と女子で回答を提出する割合が大きく異なるとは考えにくいので，この差は受診率の差を反映するものであろうと考える．

こうした回答率や男子，女子の各学年ごとの人数，平均年齢といった基本データは表３．１にまとめた．表３．２以降は各項目ごとに年度別，性別による回答の数を一覧表にしたものである．また資料として，学生に施行したアンケート用紙を最後に添付した．

３．３　結果と考察

表３．２～12は各設問ごとの解答を一覧表にしたものであり，それらを各設問ごとに分割した表として掲載されている．表の「無効」と書かれているのは，該当する設問項目には無回答であったりする等，データとしての形式が何らか整わなかったもので，しかし各設問以外のデータとしては生かされているものがあったので，このような形で加えておいたものである．

次に各設問ごとの結果について略述する．

①設問２（表３．２）

設問２は住居について聞いたものである．住居は自宅生であるか否かを問うたもので，この結果で顕著なのは女子学生は４年生までは，45～47％（殆ど半数近く）が自宅生であるのに対して，男子学生は，33～38％であることであり，この両者には明らかな有意差が存在している．しかし６年制学部の５年生，６年生のデータを見ると，男女ともに，４年制学部のデータ（この中には６年制学部の４年生までのデータも混じっているが）とは異なって明らかに低値である．約25～30％が自宅生であることを見ると，そしてこれら６年制学部生（医学部，歯学部）は特殊な専門家であり，その特質からして受験の際に偏差値にしたがって受験するという形で，全国的に混交されざるを得ないことを考えると，この25～30％という値こそが，家族関係というバイアスを欠いた時に初めて出現する地域への再定着率ではないかと考えられる．

②設問３（表３．３）

設問３は，不本意入学か否かを問うたものである．回答１，２は満足ないしどちらとも言えないというものであるのに対し，３以下が不満足であることを示す．この表を見る限り６年制学部の５年生，６年生の女子学生をのぞいて，約15％前後の学生は常に現状に不満であるが，しかし彼らの大部分は，やむなく現状にとどまっていることがわかる．このことは，潜在的に危険度の高い状態の学生が全体の15％程度はいることを示している．

③設問４（表３．４）

設問４は設問３と関連しており，意欲的に学習に取り組んでいるかを問うたものである．回答４と回答５がここでは意欲の低下を示している．留年学生の男子においてこの値が26.9％であることは，彼らが留年していることから考えるとむしろ低すぎるくらいと言えよう．しかし２年生，３年生の男子においてこうした意欲の低下を訴える学生が全体の23～24％認められることは，衝撃的な事実であると言える．ほぼ1／4の男子学生が学習に興味を失っていることを示すからである．これに対して女子学生は意欲低下を示すものは，高くても14％であるからこの差異は大きい．男子学生は女子学生に比べて学習意欲にかける（特に２年生，３年生において）ことを示している．

④設問５（表３．５）

設問５は，友人の存在について問うたものである．ここでは回答５（友人はいない）が孤立傾向を示すものとして問題となるであろう．１年生の男子，女子ともにこの値が高値を示すのは，まだまだお互いに慣れ親しんでいない状況では当然のことであろう．それにしても，女子学生の方が有意に友人を持っている率が高いことは注目に値する．

⑤設問６（表３．６）

設問６は大学生活の目的を聞いたものである．

ここでは全体としての回答としてみると，回答1：専門的研究をする，が第一位であることに気づかされる．これに対して第二位は回答2：教養を身につける，であり，古典的な大学像を示している．第三位の回答5：人格の形成をはかる，は1年生では回答3：よい友達を作る，に劣っているが，その他の学年では回答3を上回っており，思ったよりも現在の学生が教養や，人格形成に重点を置いていることがわかる．他方，この回答5と並んで多いのが回答7：学歴，資格を得る，であり彼らの実用的な見解が示されていると言えるだろう．

⑥設問7（表3．7）

設問7は健康状態を問うたものである．男女ともに2年生，3年生において不調を訴えるものの割合が増えてくるが，これはこの学年で保健管理センターの健康診断を受診するのは，そうした不調者が多いからではなかろうか．1年生，4年生は母数が大きくなるので，全体の割合は低下するのではないかと考えられる．

⑦設問8（表3．8）

設問8はストレスを感じているか否かを問うている．ここでは6年制学部の5年生の女子が，特に高いストレスを示していることが注目される．

⑧設問9（表3．9）

設問9は，そのストレスの原因を問うている．⑦で問題となった5年生女子において高かったのは，一位が学業であり，二位が友人関係であり，三位が性格，能力についてであった．

⑨設問10（表3．10）

設問10は，自覚症状を3つ連記させるものである．もっとも多いのが，2）目が疲れるであり，ついで，3）肩が凝る，22）朝起きにくい，となり，それから，身体がだるい，腰痛，へとつながっていく．

⑩設問11（表3．11）

設問11は落ち込みの有無を聞いたものである．回答1と回答2とが落ち込みがあるとの答で，1と2の合計は，落ち込みがないという3と4の合計を若干下回っている．

⑪設問12（表3．12）

ここでは相談の意志を確認している．意志がないかまたはあまりないに当たる3＋4は，あるかまたは少しあるの1＋2を大幅に上回っている．ここで注目すべき点はその他（5）で，これらのなかに個人的なことは相談すべきではない，という頑なな回答がかなり見られたことで，この点はわれわれが心すべきであろう．

〔磯田雄二郎，小柳晴生〕

表３．１　回収調査票数と解答者の平均年齢

	１年生		２年生		３年生		４年生		５年生		６年生		留年生		総計
回　答	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
１．データ数	14,942	12,575	5,860	4,460	4,725	4,541	11,124	7,875	420	177	524	246	2,179	831	70,279
２．平均年齢	18.8	18.6	20.1	19.7	20.7	20.5	21.6	21.4	23.4	22.7	25	23.9	23.2	22.3	20.2

表３．２　あなたが現在すんでいる場所は

	１年生		２年生		３年生		４年生		５年生		６年生		留年生		総計
回　答	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
１．自宅	5,433	5,445	1,915	1,994	1,654	2,123	4,176	3,539	112	57	146	65	696	271	27,626
２．自宅外	9,459	6,150	3,932	2,462	3,059	2,405	6,924	4,301	308	120	388	178	1,480	359	41,525
小計	14,892	11,595	5,847	4,456	4,713	4,528	11,100	7,840	420	177	534	243	2,176	630	69,151
解答１の％	36％	47％	33％	48％	35％	47％	38％	45％	27％	32％	27％	27％	32％	43％	40％

表３．３　あなたは本学に入学して満足していますか

	１年生		２年生		３年生		４年生		５年生		６年生		留年生		総計
回　答	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
１．満足	6,904	5,969	2,198	2,048	1,798	1,858	5,432	4,076	207	91	240	125	921	296	32,163
２．どちらでもない	5,486	3,731	2,296	1,688	1,869	1,825	3,955	2,814	155	75	207	92	821	231	25,245
３．不満足，しかし特に考えなし	1,579	775	987	593	808	598	1,370	825	53	11	72	29	355	87	8,142
４．転部希望	393	254	154	95	120	64	146	52	2	0	6	0	28	4	1,318
５．他大学へ転学希望	370	182	140	69	56	45	103	49	1	0	0	0	20	6	1,041
６．退学して就職したい	55	6	49	14	32	14	56	16	1	0	5	0	17	2	267
７．その他	105	69	32	15	34	27	56	34	1	0	4	0	12	4	393
小計	14,892	10,986	5,856	4,522	4,717	4,431	11,118	4,866	420	177	534	246	2,174	630	68,569

表３．４　あなたの学業への取り組み方はどうですか

	１年生		２年生		３年生		４年生		５年生		６年生		留年生		総計
回　答	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
１．意欲的	4,527	4,128	1,281	939	978	788	2,799	1,807	84	39	104	49	435	153	18,111
２．かなり意欲的	1,999	1,873	717	616	576	642	1,504	1,305	57	28	91	40	218	124	9,790
３．どちらでもない	6,143	5,045	2,481	2,236	2,014	2,310	4,591	3,595	214	96	264	132	939	274	30,334
４．あまり意欲的でない	1,774	1,104	1,092	589	928	609	1,757	1,011	55	11	63	25	453	72	9,543
５．全く意欲がわかない	448	424	286	77	221	78	469	149	10	3	12	1	132	23	2,333
小計	14,891	2,574	5,857	4,457	4,717	4,427	11,120	7,867	420	177	534	247	2,177	646	70,111
回答４＋５の割合	14.9%	12.2%	23.4%	14.9%	24.4%	15.5%	20.0%	14.7%	15.3%	7.9%	14.0%	10.5%	26.9%	14.7%	16.9%

表３．５　あなたはどの程度大学内に付き合える友人がいますか

	１年生		２年生		３年生		４年生		５年生		６年生		留年生		総計
回　答	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
１．親友がいる	2,142	3,460	1,865	2,398	1,753	2,634	4,880	5,036	190	110	222	109	895	356	26,050
２．割合親しい人がいる	6,265	57,814	3,015	1,685	2,208	1,571	5,059	2,389	181	56	257	53	886	199	29,608
３．あまり親しくはないがいる	4,030	2,550	750	329	604	298	943	400	38	11	46	75	300	54	10,428
４．挨拶する程度	1,074	282	123	34	76	21	105	28	7	0	1	11	54	10	1,826
５．いない	1,036	266	80	5	63	21	90	5	2	0	7	0	35	2	1,612
６．その他	268	133	20	5	14	2	23	3	0	0	0	0	9	2	479
小計	14,815	12,475	5,853	4,456	4,718	4,547	11,100	7,861	418	177	533	248	2,179	623	70,003
回答５の%	7.0%	2,1%	1.4%	0.1%	1.3%	0.5%	0.8%	0.1%	0.5%	0	1.3%	0	1.6%	0.3%	2.3%

表３．６　あなたはどのような目的に添って大学生活をすごしていますか

回　答	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生		留年生		総計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
1．専門的研究をする	3,399	2,932	1,223	936	897	838	2,656	1,761	61	35	75	84	496	144	15,537
2．教養を身につける	2,431	2,486	925	863	813	931	1,668	1,508	61	23	94	43	294	139	12,279
3．良い友達を作る	1,876	1,917	468	378	371	368	1,167	812	15	15	25	3	190	66	7,671
4．良いところに就職する	730	293	258	80	233	130	493	176	2	0	8	0	108	6	2,517
5．人格形成を図る	1,415	1,285	827	665	705	730	1,902	1,610	61	25	57	0	405	136	9,823
6．ボランティア活動の担い手となる	33	45	18	12	21	16	27	13	20	0	1	0	9	1	216
7．学歴・資格を得る	1,663	1,861	784	934	581	943	1,042	1,183	128	57	187	116	280	106	9,865
8．クラブ活動に力を入れる	631	262	368	159	361	170	874	287	31	9	28	22	127	13	3,342
9．学ぶこと	508	116	277	58	241	70	510	112	9	1	20	4	93	0	2,019
10．恋人を見つける	359	50	80	11	53	12	86	7	3	0	4	0	18	2	685
11．今は，わからない	1,638	1,125	531	307	365	263	552	302	24	9	21	2	126	17	5,282
12．その他	174	78	88	33	64	41	122	81	4	3	13	1	31	1	734
小計	14,857	12,450	5,847	4,436	4,705	4,512	11,101	7,852	419	177	533	275	2,177	631	69,970

表３．７　あなたの現在の健康状態はいかがですか

回　答	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生		留年生		総計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
1．よい	3,798	3,336	1,424	1,022	1,125	1,095	3,366	2,155	105	49	157	69	624	170	18,495
2．どちらかといえばよい	6,705	5,832	2,525	2,045	2,041	2,145	4,725	3,695	208	88	220	110	893	293	31,525
3．どちらでもない	2,159	1,670	813	582	659	507	1,349	908	51	21	66	37	315	92	9,229
4．どちらかといえば身体的に不調	1,174	846	527	343	437	321	861	495	30	11	47	17	155	35	5,299
5．どちらかといえば精神的に不調	747	736	381	312	300	357	579	497	16	55	26	11	142	34	4,143
6．身体的・精神的共に悪い	311	148	183	64	154	86	230	109	10	3	15	2	50	16	1,381
小計	14,894	12,568	5,853	4,368	4,716	4,511	11,110	7,859	420	177	531	246	2,179	640	70,072
回答4，5，6	2,232	1,730	1,091	719	891	764	1,670	1,101	56	19	88	30	347	85	10,823
その割合	15.0%	13.8%	18.6%	16.5%	18.9%	16.9%	15.0%	14.0%	13.3%	10.7%	16.5%	12.2%	15.9%	13.2%	15.4%

表３．８　あなたはどの程度精神的なストレスを感じていますか

	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生		留年生		総計
回　答	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
1．非常に	573	710	286	136	300	150	529	319	22	35	36	13	142	37	3,288
2．かなり	2,533	2,233	1,431	1,112	1,206	1,155	2,607	2,191	119	69	141	86	561	196	15,640
3．どちらともいえない	5,465	4,999	2,126	1,801	1,704	1,843	3,851	3,011	146	17	179	91	689	201	26,123
4．あまり感じない	5,256	4,030	1,737	1,279	1,290	1,268	3,506	2,186	115	11	140	54	659	173	21,704
5．全く感じない	1,050	549	270	123	209	138	612	149	18	2	34	2	127	15	3,298
小計	14,877	12,521	5,850	4,451	4,709	4,554	11,105	7,876	420	134	530	246	2,178	622	70,053
1＋2の%	20.9	23.5	29.4	28.0	32.0	28.7	28.2	40.0	33.6	77.6	33.4	40.2	32.3	37.5	27.0

表３．９　ストレスをもたらすものはどんなことですか

	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生		留年生		総計
回　答	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
1．学業	3,251	2,181	1,500	797	1,216	1,037	1,830	929	133	53	175	94	454	89	13,739
2．経済	1,100	642	640	614	437	321	851	239	28	7	37	4	206	28	5,154
3．友人	1,455	2,073	536	665	432	611	615	563	49	28	24	26	79	36	7,192
4．異性	911	405	381	220	292	221	510	241	26	9	29	6	62	10	3,323
5．家族	469	667	116	188	95	257	192	280	8	7	14	17	38	33	2,381
6．進路	664	754	399	410	564	696	4,181	4,000	16	9	99	60	833	281	12,966
7．性格	1,370	1,302	558	539	412	401	737	483	34	23	19	11	119	51	6,059
8．容姿	259	440	48	129	29	113	54	76	1	1	1	0	11	5	1,167
9．健康	589	460	186	153	158		252	146	19	8	20	2	36	13	2,042
10．特になし	3,748	2,736	978	325	686	551	1,369	593	61	14	89	12	229	48	11,439
11．その他	881	513	443	266	343	325	397	258	40	15	18	10	77	21	3,607
小計	14,697	12,173	5,785	4,306	4,664	4,533	10,988	7,808	415	174	525	242	2,144	615	69,069

表 3 .10　最近の自覚症状(三つまで可)

回　答	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生		留年生		総計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
1．腰痛	1,814	2,950	839	741	768	815	1,743	949	71	22	100	39	309	90	11,250
2．目が疲れる	4,106	4,685	1,544	1,142	1,265	551	2,829	1,988	93	53	112	57	543	153	19,121
3．肩がこる	2,772	4,080	1,067	1,476	919	1,456	2,236	2,989	100	64	111	85	472	227	18,054
4．頭痛	818	2,544	331	399	262	332	550	803	27	17	42	21	124	66	6,336
5．動悸がする	174	386	83	55	70	55	160	81	10	6	17	4	45	17	1,163
6．血圧が高い	247	121	119	23	139	30	350	40	19	8	32	2	52	7	1,189
7．血圧が低い	304	499	114	175	137	158	196	376	7	12	3	12	31	27	2,051
8．身体がだるい	2,594	1,436	1,212	741	989	608	2,013	1,093	87	0	108	23	384	108	11,396
9．不眠がち	1,252	1,086	488	223	410	227	912	476	40	0	46	7	152	44	5,363
10．一日中眠い	2,299	2,450	962	646	647	545	1,419	882	68	5	69	16	240	64	10,312
11．昼夜逆転	860	278	585	179	492	236	1,587	561	45	1	44	7	351	53	5,279
12．胃腸が不調	1,377	704	517	434	432	530	1,128	879	38	84	66	78	227	84	6,578
13．便秘がち	418	1,260	149	604	120	635	281	1,101	10	20	12	43	62	113	4,828
14．食欲不振	353	595	108	50	91	53	215	106	10	3	4	3	40	8	1,639
15．食べ過ぎる	646	1,051	321	671	295	659	599	927	24	14	32	54	135	103	5,531
16．太り気味	1,814	1,893	664	1,008	577	667	1,363	1,178	42	27	78	31	335	184	9,961
17．やせ気味	992	209	355	68	290	75	699	167	9	1	20	1	124	11	3,021
18．気分が沈む	1,052	893	464	398	382	463	778	776	31	18	23	20	135	52	5,485
19．イライラする	867	1,532	472	344	429	360	847	608	37	13	36	18	153	64	5,780
20．人と会うのが億劫	575	584	210	187	193	706	381	290	17	6	20	4	75	66	3,314
21．意欲がわかない	1,081	815	612	311	470	369	923	661	14	6	40	14	203	46	5,565
22．朝起きにくい	3,421	2,411	1,301	805	938	600	2,406	1,422	3	35	88	38	499	114	14,081
23．ささいなことが気になる	1,143	807	395	303	337	323	704	432	37	10	21	9	110	33	4,664
24．叫びたくなる	617	201	290	97	225	109	432	206	4	3	10	4	65	10	2,273
25．死にたくなる	151	86	74	16	84	53	147	47	3	1	3	0	37	4	706
26．判断力・集中力がない	1,460	801	656	399	530	381	1,099	794	37	12	40	26	259	65	6,559
27．視線が気になる	694	1,269	186	77	117	70	229	96	4	0	1	0	36	4	2,783
28．汗かき・体臭・毛深いなどが気になる	514	403	130	124	105	113	187	142	3	4	3	6	28	15	1,777
29．その他	220	298	108	60	77	60	180	138	10	3	10	5	39	7	1,215
30．特にない	2,436	1,082	782	326	577	224	1,441	645	59	7	83	24	263	42	7,991
小計	37,071	37,409	15,138	12,082	12,367	11,463	28,034	20,853	959	455	1,274	651	5,528	1,881	185,165

表３．11　気分の落ち込むことがありますか

	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生		留年生		総計
回　答	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
1．ある	949	851	488	340	352	302	739	478	19	15	32	12	164	57	4,798
2．時々ある	4,787	4,938	2,122	1,975	1,789	2,014	3,745	3,367	147	59	141	97	744	283	26,208
3．あまりない	5,904	4,669	2,224	1,532	1,744	1,611	4,370	2,959	173	83	224	98	805	214	26,610
4．ない	3,210	2,090	1,011	606	826	601	2,237	1,048	80	19	135	38	463	86	12,450
小計	14,850	12,548	5,845	4,453	4,711	4,528	11,091	7,852	419	176	532	245	2,176	640	70,066

表３．12　悩みや不安で相談したいことがありますか

	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生		留年生		総計
回　答	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
1．是非したい	417	269	175	106	134	104	310	183	4	5	15	5	60	18	1,805
2．機会があれば	1,543	1,494	706	604	662	674	1,409	1,202	56	26	61	33	276	111	8,857
3．あるが相談するほどではない	6,020	6,335	2,655	2,436	2,156	2,451	5,262	4,547	214	93	242	158	1005	334	33,908
4．ない	6,731	4,339	2,218	1,238	1,680	1,208	4,018	1,829	136	50	205	44	806	155	24,657
5．その他	121	76	80	48	75	52	80	83	9	1	8	6	30	9	678
小計	14,832	12,513	5,834	4,432	4,707	4,489	11,079	7,844	419	175	531	246	2,177	627	69,905

アンケート調査票

この調査票は、皆さんの学生生活について、おたずねするものです。以下の文章を読んで、あなたの率直な回答をお寄せ下さい。（　　）には該当する語句を記入し、□には、当てはまる数字または番号を記入して下さい。

なお、この調査は、学生の健康白書作成委員会のもとで全国の国立大学学生を対象に実施しています。

1　あなたの所属する学部、入学年度、性別、年令をおたずねします。

a）（　　）大学 [a]
b）（　　）学部 [b]
＊学部コードは末尾参照

c）入学年（西暦） [c]
d）男＝1、女＝2 [d]
e）年　令（満） [e]

2　あなたの現在住んでいる場所は、次のどちらですか。

1）自宅　　2）自宅以外 [2]

3　あなたは、本学に入学して満足していますか。

1）満足している
2）満足でも不満足でもない
3）不満足だが、特にどうしようとは考えていない
4）できれば転学部・転学科をしたいと思っている
5）他大学・専門学校へ転学したいと思っている
6）退学して就職したいと思っている
7）その他（　　） [3]

4　あなたの学業への取り組み方は、どんなですか。

1）意欲的である　　2）かなり意欲的である
3）どちらとも言えない　　4）かなり意欲が落ちている
5）全く意欲がわかない [4]

5　あなたは、大学内にどの程度つきあえる友人（同性異性を問わず）がいますか。

1）互いに希望や悩みをうちあけあい、心を許しあえる友人がいる
2）割合に親密につきあえる友人がいる
3）一緒に話はするが、それほど親密ではない友人はいる
4）あいさつを交わす程度の友人はいる
5）友人はいない
6）その他（　　） [5]

6　あなたは、どのような目的に沿って大学生活を過ごしていますか。あなたの現状をみて、主なもの1つを選んでください。

1）専門的研究をする　　2）教養を身につける
3）よい友達をつくる　　4）よいところに就職する
5）人格形成をはかる　　6）ボランティア活動の担い手となる
7）学歴・資格を得る　　8）クラブ活動に力を入れる
9）遊ぶこと　　10）恋人をみつける
11）今は、わからない　　12）その他（　　） [6]

7　あなたの現在の健康状態はいかがですか。
1）心身共に非常によい
2）どちらかといえばよい
3）どちらともいえない
4）どちらかといえば身体的に不調である
5）どちらかといえば精神的に不調である
6）心身共によくない　[7]

8　あなたは、日常生活で、どの程度精神的なストレスを感じていますか。
1）非常に感じている
2）かなり感じている
3）どちらともいえない
4）あまり感じていない
5）全く感じていない　[8]

9　あなたにストレスをもたらすものは概してどんなことですか。（主なもの１つ）
1）学業　2）経済的問題　3）友人関係　4）異性関係
5）家庭・家族　6）進路・就職　7）性格・能力　8）容姿
9）健康状態　10）特にない　11）その他（　　）　[9]

10　あなたは、最近どのような自覚症状を感じていますか。（主なもの３つ）
1）腰痛　2）目が疲れる　3）肩がこる　4）頭痛
5）動悸がする　6）血圧が高い　7）血圧が低い　8）身体がだるい
9）不眠がち　10）一日中眠い　11）昼夜逆転　12）胃腸が不調
13）便秘がち　14）食欲不振　15）食べ過ぎる　16）太り気味
17）やせ気味　18）気分が沈む　19）イライラする　20）人と会うのが億劫
21）意欲がわかない　22）朝起きにくい　23）ささいなことが気になる
24）叫びたくなる　25）死にたくなる　26）判断力・集中力がない　[10]
27）視線が気になる　28）汗かき・体臭・毛深いなどが気になる
29）その他（　　）30）特にない

11　あなたは、気分の落ち込みの長引くことがありますか。
1）よくある　2）時々ある　3）あまりない　4）ほとんどない　[11]

12　あなたは、現在、悩みや不安で相談したいことがありますか。
1）是非、相談したいことがある
2）機会があれば、相談したいことがある
3）悩みはあるが、相談するほどではない
4）今のところ全くない
5）その他（　　）　[12]

＊学部コード一覧（当てはまるコード番号を記入して下さい。）

文学部 006　教育学部 003　法学部 024　経済学部 029　理学部 035　医学部 058 歯学部 059　薬学部 060　工学部 038　農学部 047

ご協力、ありがとうございました。

Ⅴ．休学・退学・除籍からみた健康状況

1．休学者に関する調査

1．1　調査の概要

大学における休学者，退学者，および除籍者の全在籍学生に占める割合はきわめて微々たるものにすぎない．しかしそのわずかな部分からその気になれば学生の健康状況や学生をとりまく環境の変化，ひいては勉学の姿勢までかいま見ることができる．そういう意味で，このわずかな部分の調査は，健康状況を把握するに欠くことはできないと考えられる．しかし前回は，集計方法が確立されていなかったため，十数大学が特別調査として参加しただけであった．今回はコンピュータを用いて，少なくとも統計調査の部分は，89大学（調査方法参照）に参加していただいた．

その結果見えてきたものは，当然のことながら学生は環境の影響をよく受けて敏感に反応する，ということである．

休学に限ってみると，休学の理由調査からは，前回は身体疾患は激減し慢性で治癒しにくい精神障害やとりわけ無気力学生の存在が気になったが，今回の調査では，円高という経済的変化にともなって海外留学や遊学が激増し，学生は「自己確立」の一つの機会として大学をみるというやや冷めた姿に変貌しつつあるのではなかろうかという印象をもった．

調査は，統計調査と実態調査（届け出調査を含む）の２つに分けて行った．実態調査の方は，更に，休学の理由に関する分析と休学者中の傷病の疾病分類に分けて行った．

1．2　統計調査について

1．2．1　調査方法

身体面の調査に参加した95の全国立大学のうち，保健管理施設が未設置の大学など６校を除いた89大学に，かなり詳しい学生数に関する調査票を送って記入してもらった．平成７年度の定員数，在籍学生数，休学者数，退学者数および除籍の項目ごとの学生数を，学部ごとに記入するもので，すべての人数に内数として女子学生数を記入するようになっている．（用紙の縮小版をこの章の最後に［資料］として添付する．）

これをこの調査の担当大学に集めて，コンピュータに入力し，分析を行った．コンピュータ操作はすべて野村が担当した．

1．2．2　統計調査結果と考察

1）全容

全在籍学生数は，456,927人であった．全休学者は7,327人で，平均休学率は1.60％である．

まず在籍学生数を，４年制・６年制学部，男・女，文・理系に分け，４年制学部については学年ごとに男女別と文理系別に整理した（表１．１）．これは，Ⅴ部の１～３の各章に共通して用いるためである．

次に，上述の区分ごとに休学率を算出した（表１．２）．休学率の全体の平均は1.60％であるが，男女では明らかに女子の方が，文系と理系では明らかに理系の方が，休学率が低い．理系のみの６年制学部は４年制学部の理系より更に低い．６年制学部はこのことと規模が全体の6.17％を占めるにすぎないためふれず，ここではもっぱら４年制学部に分析の焦点をあてた．

2）４年制学部の学年別休学者数と率

ここでは「学年別」としているが，これは分かりやすいように用いただけで，調査はすべて「入

学年度別」に行ったものである．従って入学してからどのように休学するかを，休学者数でみたのが図１．１，２である．男女，文理のいずれも，入学して３年目から休学が増加している．特に文理系別では文系の伸びが著しい．男女では全般的に男子の方が休学者が多くみえるが，女子は在籍学生数が少ないので，率にすればほぼ同率である（表１．２）．しかし女子は入学５年以上で急に休学者が減る．率の方は上昇しており，休学者が減るのは留年生自体が少ないためらしい．

後節の休学理由を勘案すると，入学３年目から文系の学生は男女とも大量に海外に留学ないしは遊学する．それが休学者数を押し上げている．他方，大学に自分らしさを発見できない，いわゆる無気力学生とよばれる一群が存在するが，これが退学を避けてとりあえず休学する．それが理系男子と入学５年以上の休学者の増加をまねいていると思われる．

１．３　実態調査と届け出調査について

１．３．１　調査方法

まず休学と退学の実態調査に参加の可否をアンケートして，参加予定または考慮中の大学に調査用紙を送付した．休学や退学を大学当局に届け出た文書に基づく届け出調査と，担当教官が調査する実態調査が一組になった用紙である．

休学についていえば，届け出調査と実態調査の双方に参加されたのは19大学に上った．届け出調査のみに参加されたのは40大学で，合わせると59大学，89大学のほぼ３分の２がこの調査にかかわったことになる．これはコンピュータでは処理できない判断の部分がほとんどなので，もっぱら手作業で整理し，可能な部分だけコンピュータで処理した．届け出調査には限度があるので，実態調査の補助として行い，またそれがどこまで実態をみるのに役立つかをみるためであったから，主に実態調査を分析した．

１．３．２　実態調査結果と考察

１）休学の理由（実態調査と届け出調査）

休学の理由は多岐にわたり，また一人の学生でも複数の理由が重なることも稀ではない．更に，この実態調査は調査者が関係教官に聞いたり届け出書類を読んだりして判断したものであるから，主観的調査の難はまぬかれない．しかし表１．３の上段にまとめた実態調査結果と下段にまとめた届け出調査の結果を比べてみれば，実態調査の良い点をつかむことができる．

届け出調査の第一の盲点は，「一身上の都合」という，実態については何も語ってくれないものが多い点である．これは『不承』の割合を押し上げた．次に多いのが「経済的理由」という隠れ簑である．経済的理由，災害・父母の看護・結婚・育児など，本人のせいではないものを『環境要因』として一括したが，学生本人の口から経済的理由が述べられることは少なく，多くは無気力の結果として（例えば多留年の末）用いられることが多いので，実態調査では少なくなる．海外留学や他大学再受験なども届け出調査の方がやや少ない．海外留学・遊学は大学によって非常に差がある．平均は在籍学生数比で0.33％であった．

意外だったのは，届け出調査には「病気療養」という身体疾患とも精神疾患とも判別のつかないものが多くあったが，まとめてみると実態調査の総計とほぼ同じ割合を示したことである．『病気』は正直に休学理由に書かれるのかもしれない．

以上３つを除外した上で，休学の理由を，「授業料は免除されるが，学生という身分は保障される」という国立大学の休学の制度を積極的に活用していると思われる『積極的理由ないしは姿勢』と，その逆の場合『消極的理由ないしは姿勢』に二分した．この場合，進路再考も自我の立て直し

をはかるという意味では積極的なものもあろうが，判別は困難なので，勉学に意欲的かどうかという基準を立てて一律に消極的とした．

結果は，図１．３，４に明らかである．病気や環境要因による休学率は低く，また男女間にも文理間にもあまり差がない．しかるに積極的理由は非常に高い割合を示しており，かつ，女子と文系で著しい．この多くは海外留学・遊学で（表１．３，４），国際的経験を積むことがプラスになる場合が文系には多いことが理由と考えられる．事実，この調査には外国語大学の１校が参加しておりそれがこの数値を押し上げているのであるが，この大学では在籍学生数の６％近くが毎年海外留学・遊学を経験している．

次に多いのが，消極的理由である．一口に無気力学生といっても内実はさまざまであるが，自分さがしをしていることだけは共通していると思われる．理系は海外留学をしていると卒業に支障をきたすのが一般であるが，それにしてもこの理系の男子に消極的理由で休学する学生が多い．こうした学生をどう教育し処遇するかをこの調査は問いかけていると思われる．

２）休学者の疾患分類

数は少ないが，実態調査に記載された傷病を，ICD－10に基づいて疾患分類を行った．休学者の傷病について疾患分類を行うことまで予告していなかったためか，必要な情報が盛られていないケースが多く，分類には非常な困難を伴ったことを付記しておく．これは，張谷が担当した（表１．５）．

〔中島潤子，張谷秀章，野村正文〕

表１．１　在籍学生数　　[89校集計]

学　　部	総　　数 (89校)	4年制学部 (86校)	6年制学部 (40校)	4年制学部学生				
				1年生	2年生	3年生	4年生	5年生以上
全在籍学生数	456,927	428,729	28,198	101,935	101,135	101,608	97,159	26,892
男子学籍学生数	314,812	297,636	20,176	67,041	68,218	68,028	67,259	24,090
女子在籍学生数	142,115	134,093	8,022	34,894	32,917	33,580	29,900	2,802
文系在籍学生数	208,272	208,272	——	49,205	48,947	49,878	47,868	12,374
理系在籍学生数	248,655	220,457	28,198	52,730	52,188	52,730	49,291	14,518

表１．２　休学者数と在籍学生数に対する割合　　[89校集計]

学　　部	総　　数	4年制学部	6年制学部	4年制学部学生				
				1年生	2年生	3年生	4年生	5年生以上
全休学者数(率)	7,327(1.60%)	7,034(1.64%)	293(1.04%)	698(0.68%)	693(0.69%)	1,195(1.18%)	1,930(1.99%)	2,518(9.36%)
男子休学者数(率)	5,360(1.70%)	5,135(1.74%)	225(1.12%)	480(0.72%)	484(0.71%)	804(1.18%)	1,313(1.95%)	2,054(8.53%)
女子休学者数(率)	1,967(1.38%)	1,899(1.42%)	68(0.85%)	218(0.62%)	209(0.63%)	391(1.16%)	617(2.06%)	464(16.56%)
文系休学者数(率)	3,987(1.91%)	3,987(1.91%)	——	271(0.55%)	275(0.56%)	647(1.30%)	1,201(2.51%)	1,593(12.87%)
理系休学者数(率)	3,340(1.34%)	3,047(1.38%)	293(1.04%)	427(0.81%)	418(0.80%)	548(1.06%)	729(1.48%)	925(6.37%)

表１．３　休学の理由に関する調査

実態調査

［19校集計］

休学の理由		病気					消極的理由					積極的理由				環境要因		不詳		合計
		a 身体疾患	b 病気療養	c 分裂病	d うつ病	e その他	f スチューデントアパシー	g アパシーの疑い	h 単位不足	i 意欲減退・他	j 進路再考	k 海外留学	l 海外遊学	m 他大学再受験	n 資格取得など	o 経済的理由	p 家庭の都合	q 一身上の都合	r 不詳	
				精神障害																
在籍学生数 72,808	ケース数	39	−	45	18	36	5	151	42	46	78	355	69	63	4	59	64	14	126	1,214
	まとめ(%)	138(0.190)					322(0.442)					491(0.674)				123(0.169)		140(0.192)		(1.667)
男子 47,114	ケース数	28		36	11	21	3	132	38	40	65	164	44	40	3	40	29	10	105	809
	まとめ(%)	96(0.204)					278(0.590)					251(0.533)				69(0.146)		115(0.244)		(1.717)
女子 25,694	ケース数	11		9	7	15	2	19	4	6	13	191	25	23	1	20	34	4	21	405
	まとめ(%)	42(0.163)					44(0.171)					240(0.934)				54(0.210)		25(0.097)		(1.576)

届け出調査

［40校集計］

在籍学生数 210,898	ケース数	68	173	23	9	66	9	−	47	104	336	296	218	93	218	517	146	945	9	3,277
	まとめ(%)	339(0.160)					496(0.235)					825(0.391)				663(0.314)		954(0.452)		(1.554)

表１．４　休学の理由に関する実態調査(文・理系別)

［19校集計］

休学の理由		病気					消極的理由					積極的理由				環境要因		不詳		合計
		a 身体疾患	b 病気療養	c 分裂病	d うつ病	e その他	f スチューデントアパシー	g アパシーの疑い	h 単位不足	i 意欲減退・他	j 進路再考	k 海外留学	l 海外遊学	m 他大学再受験	n 資格取得など	o 経済的理由	p 家庭の都合	q 一身上の都合	r 不詳	
				精神障害																
在籍学生数 72,808	ケース数	39	−	45	18	36	5	151	42	46	78	355	69	63	4	59	64	14	126	1,214
	まとめ(%)	138(0.190)					322(0.442)					491(0.674)				123(0.169)		140(0.192)		(1.667)
文系 37,104	ケース数	18	−	16	13	21	4	44	10	28	39	309	53	32	2	36	45	14	69	753
	まとめ(%)	68(0.183)					125(0.337)					396(1.067)				81(0.218)		83(0.244)		(2.029)
理系 35,704	ケース数	21	−	29	5	15	1	107	32	18	39	46	16	31	2	23	19	0	57	461
	まとめ(%)	70(0.196)					197(0.552)					95(0.266)				42(0.118)		57(0.160)		(1.291)

表１．５　傷病による休学者：実数・割合，傷病大分類・性・入学年度別（４年制学部・６年制学部合計）　［19校集計］

傷病休学者総数	総数						入学年度															
	総数		男		女		平成７		平成６		平成５		平成４		平成３		平成２		平成１		昭63～	
	実数	%	実数	%	実数	%	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
傷病休学者総数	138	100.00	96	100.00	42	100.00	7	2	11	10	13	7	23	9	14	4	9	5	10	3	9	2
II. 新生物	4	2.90	3	3.13	1	2.38	−	−	2	−	−	−	−	1	1	−	−	−	−	−	−	−
III. 血液および造血器の疾患並びに免疫機構の障害	1	0.72	1	1.04	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−
IV. 内分泌，栄養および代謝疾患	1	0.72	1	1.04	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−
糖尿病(再掲)	1	0.72	1	1.04	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−
V. 精神および行動の障害	99	71.74	68	70.83	31	73.81	6	2	6	8	6	4	18	4	11	5	6	4	7	2	8	2
F2 精神分裂病，分裂病型障害および妄想性障害(再掲)	45	32.61	36	37.50	9	21.43	1	1	3	1	4	−	9	1	4	3	2	2	6	−	7	1
F3 気分（感情）障害(再掲)	18	13.04	11	11.46	7	16.67	1	−	1	3	1	1	1	2	4	−	2	−	−	−	1	1
F4 神経症性障害およびストレス関連障害(再掲)	25	18.12	18	18.75	7	16.67	4	1	2	1	1	2	6	−	2	2	2	−	1	1	−	−
F5 摂食障害(再掲)	2	1.45	−	−	2	4.76	−	−	−	2	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
その他(再掲)	9	6.52	3	3.13	6	14.29	−	−	−	1	−	1	2	1	1	−	−	2	−	1	−	−
VI. 神経系の疾患	5	3.62	1	1.04	4	9.52	−	−	−	1	1	1	−	1	−	−	−	−	−	1	−	−
多発性硬化症(再掲)	3	2.17	1	1.04	2	4.76	−	−	−	−	1	1	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−
重症筋無力症(再掲)	1	0.72	−	−	1	2.38	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−
VII. 眼および付属器の疾患	3	2.17	2	2.08	1	2.38	1	−	−	1	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−
白内障(網膜剝離)(再掲)	2	1.45	2	2.08	−	−	1	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−
XI. 消化器系の疾患	3	2.17	3	3.13	−	−	−	−	1	−	−	−	1	−	−	−	−	−	1	−	−	−
潰瘍性大腸炎(再掲)	1	0.72	1	1.04	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
XII. 皮膚および皮下組織の疾患	4	2.90	4	4.17	−	−	−	−	−	−	1	−	1	−	1	−	−	−	1	−	−	−
重症アトピー性皮膚炎(再掲)	3	2.17	3	3.13	−	−	−	−	−	−	1	−	1	−	−	−	−	−	1	−	−	−
XIII. 筋骨格系の疾患	4	2.90	2	2.08	2	4.76	−	−	1	−	−	1	−	1	−	−	1	−	−	−	−	−
XVII. 先天奇形，変形および染色体異常	1	0.72	1	1.04	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
XVIII. 症状，徴候および臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの(診断名不明確)	3	2.17	1	1.04	2	4.76	−	−	−	−	−	−	1	1	−	−	−	1	−	−	−	−
XIX. 損傷，中毒およびその他の外因の影響	4	2.90	4	4.17	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	1	−	1	−	−	−	1	−
XX. 疾病および死亡の外因	6	4.35	5	5.21	1	2.38	−	−	−	−	4	1	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−
交通事故(再掲)	5	3.17	4	4.17	1	2.38	−	−	−	−	3	1	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−

(注)傷病分類は，ICD－10　に基づく

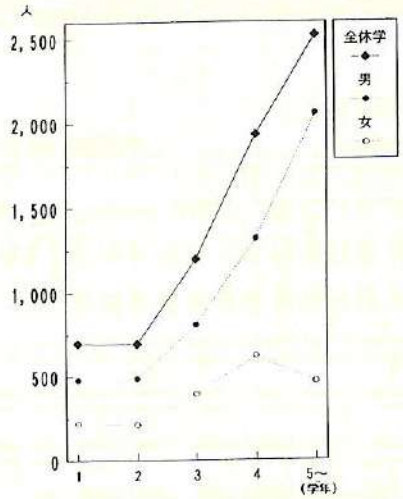


図１．１　性別・学年別休学者数（４年制学部）

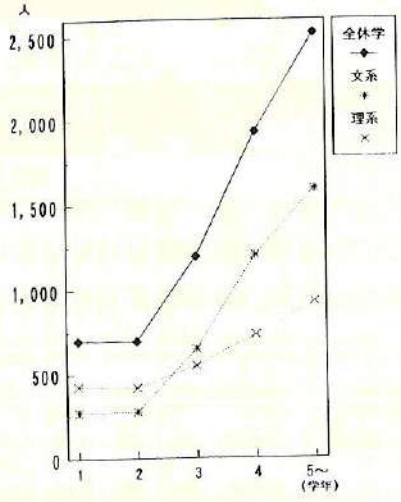


図１．２　文・理系別・学年別休学者数（４年制学部）

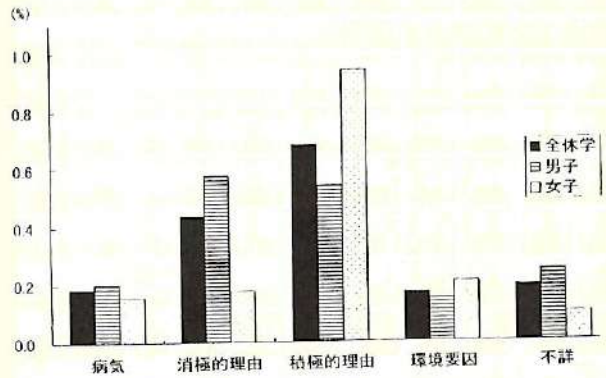


図１．３　休学理由毎の在籍学生数に対する割合（性別）

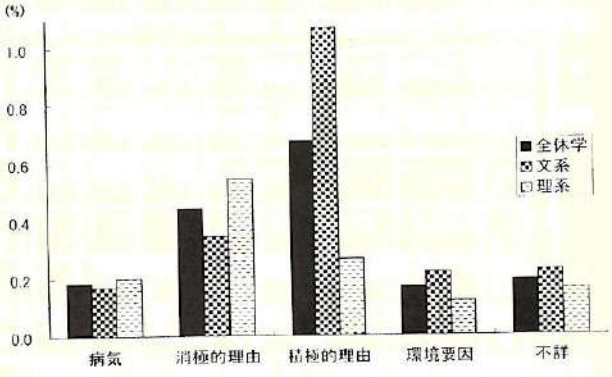


図１．４　休学理由毎の在籍学生数に対する割合（文・理系別）

資　料

学生の健康白書１９９５　心理調査3 休学・退学・死亡等学生数調査 その1　No.____

平成７年度
休学・退学・死亡等、学生数調査表

記入要領
＊（1）～（3）：平成７年４月３０日現在の各学生数．（ ）内は女子学生数．平成３年度以前の入学者は「～３」の項にまとめて記入する．
＊（A）（Ba～f）（C）（D）（Ea～f）：平成７年度１年間の総実人数．
＊特注（C）について［これは「平成７年度内に休学して且つ退学した学生数」である．（f）のうち、同じ平成７年度内に休学していた学生数を（C）に記入する．

＿＿＿大学　＿文＿系

学部	入学年度	日本人学生 (1)定員数	(2)在籍学生数	(A)休学	(B)退学 (a)普通退学	(b)授業料未納	(c)単位未収得	(d)強制退学	(e)死亡	(f)退学合計	(C)記入要領特注参照	外国人留学生 (3)在籍学生数	(D)休学	(E)退学 (a)普通退学	(b)授業料未納	(c)単位未収得	(d)強制退学	e死亡	(f)退学合計
	平成7		( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )
	6		( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )
	5		( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )
	4		( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )
	平成～3		( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )
	計		( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )
	平成7		( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )
	6		( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )
	5		( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )
	4		( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )
	平成～3		( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )
	計		( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )
	平成7		( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )
	6		( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )
	5		( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )
	4		( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )
	平成～3		( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )
	計		( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )
	平成7		( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )
	6		( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )
	5		( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )
	4		( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )
	平成～3		( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )
	計		( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )
	小計		( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )

（注）これは4年制学部の文系用の用紙であるが，このほかに，４年制学部の理系用と6年制学部用の用紙が配布された

2．退学者・除籍者(死亡を除く)に関する調査

2．1　調査の概要

大学では，授業料を納め自ら退学を申し出て教授会で認められた者を退学とよび，別に授業料未納者や修業期間満了または単位未取得者，および強制退学を命じられた者と死亡者は，除籍者扱いとなる．しかし，除籍者も大学から去っていく者である点では同じなので，医学的観点からひとまとめにしてここでは「退学者」としたい．死亡除籍者は後節であらためてとり上げるが，人数としてはここに含めて扱った．

大学における退学者の全在籍学生に占める割合はきわめてわずかであるが，学生の健康状況を，どんな時代の中で大学生活を送っているかという広い範囲で捕らえる意味においては，きわめて有用である．これは前節，休学者についての調査で述べた通りである．

退学者に関する調査も，休学者の場合と同様，精神心理面の調査に同意した89の大学に統計調査をお願いし，他方，有志の大学に届け出調査と実態調査を依頼した．休学者の場合と同様，後者は，退学理由に関する分析と退学者の中の傷病の疾患分類を行った．

2．2　統計調査について

2．2．1　調査方法

休学者の調査と同様，学部単位で学生数を記入する用紙を89大学に送付して，すべての大学から調査結果が寄せられた．これをコンピュータに入力して整理した．くわしくは，前節を参照されたい．

2．2．2　統計調査結果と考察

1）全容（表2．1，2）

全在籍学生数456,927人に対して退学者・除籍者合計は6,343人で，平均退学率は1.39%であった．これを普通退学者に限ると4,997人，1.09%と低くなる．(図2．1参照)

表2．1に4年制・6年制学部，男・女，文系・理系別に実人数を記した．前節の表1．1の在籍学生数一覧をみれば退学率は計算できる．しかし計算するまでもなく，女子は普通退学から除籍の各項目のすべてにわたって，男子よりも低率である．文・理系では，理系がやや高率に見える．4年制と6年制では，6年制学部が約3分の1と明らかに低率である．

2）4年制学部の学年別退学者数

全体の動きを見るために，4年制学部の退学者の実人数を，男女別と文・理系別にグラフにした(図2．2，3)．休学と違って，例外なく，右上りのU字形を示していた．女子はかけ離れて低いが，それでもやはり浅いU字形をしている．これは入学したばかりの1年目に他大学再受験や進路の変更を試みる一群がいることを物語っている．しかしこうした早い時期に大学を離れる決心がついたのはむしろ幸いかもしれない．右上りの部分は，不満を持ちながら大学に留まり，勉学に対して無気力な年月を過ごした後に，修業年限を過ぎて一挙に退学する学生の方が多いことを示している．在籍学生数に対する割合を算出すれば，留年学生数は少なくなっているので，右上りはもっと急峻になるはずである．

2．3　実態調査と届け出調査について

2．3．1　調査方法

調査方法は休学の場合と同様である．

健康白書作成のために沢山の調査が依頼された時期に，休学よりも情報をつかみにくい退学の実態調査に参加されたのは，結局のところ，1995年度に全国大学メンタルヘルス研究会の「休・退学，留年学生調査」*に資料提供を行った大学に2大学加わった14校であった．しかし，届け出調査のみに参加された大学も41校あり，休学と同様の意味で有用であった．

2．3．2　実態調査結果と考察

1）退学の理由（実態調査と届け出調査）

退学でも，どのような理由で退学する学生が多いのか，退学する理由の整理を行い（表2．3，4）在籍学生数に対する割合を算出した．

ここでもまず表2．3の末尾に一括して載せた届け出調査結果を見てもらいたい．休学と同様，「一身上の理由」が『不詳』の割合を押し上げているが，休学ほどではなかった．次に，「経済的理由」も休学ほど『環境要因』を押しあげていないが，この305例中203例は「授業料未納による除籍」なので，本来のものは102例にすぎない．これは在籍学生数の0.046%にあたり，実態調査の23例が0.043%であるのとほとんど同率である．（実態調査の場合は，授業料未納はほとんど全て『不詳』に分類されている．）

身体疾患と精神障害を含めた『病気』は，休学の場合と同様，実態調査の割合にほぼ匹敵している．但し，身体疾患による死亡除籍も精神障害の関与がある死亡除籍もここに含めてある．身体疾患のほとんどは事故死や病死で占められている．精神疾患もしばしば自殺するので，こうした例を除籍として退学から除外すると傷病によって大学を去る学生の数がわからなくなる．これが死亡除籍を退学に含める理由である．

以上の退学の理由『不詳』の群は休学の場合より割合が増加したが，『環境要因』と『病気』の群は休学の場合より減少していた．

残る本人の要因を休学の場合と同様，『積極的理由』と『消極的理由』に二分したが，ここに問題があった．「就職」という退学理由をどちらに分類するかということである．先の全国大学メンタルヘルス研究会では，決断して低迷から脱したのであるから健康であり積極的姿勢と考えるが，この健康白書では，休学と同じく，勉学意欲の低下ないしは大学からの撤退と考えて，『消極的理由』に分類した．一つには，届け出調査に「とび級」という退学理由が出現していたからである．（とび級は，主に大規模大学で始まっていた．しかしそのような大規模大学ではとうてい実態調査は行えない．その一事からもわかるように，実態調査は，調査可能な中乃至は小規模大学で支えられている．）とび級は勉学能力への高い評価の表われであり，他大学受験も多くはより高い偏差値大学をめざしている．海外留学もほとんどすべて復学するし，最近は交換単位の授与があるものもある．こういうものに比べれば，就職はやはり消極的理由に入れた方がよさそうに思えたのである．こうしたことを念頭に置いて，図2．4，5をみてもらいたい．一見してわかるように，消極的理由で退学するものが断然多い．また，それは理系の男子に最も多い．

2）退学者の疾患分類

休学の場合と同様，実態調査の中の傷病について，ICD－10による疾病分類を試みた．表2．5にまとめてある．

〔中島潤子，張谷秀章，野村正文〕

（注）*国公私立大学の保健管理施設の精神保健スタッフが作っている研究会である．昭和54年度から毎年「休・退学，留年学生調査」を行っている．1995年度には第17報が出された．

表２．１　退学者・除籍者の内訳　　[89校集計]

学　部	在籍学生数	退学者除籍者合計	在籍学生数に対する割合(%)	普通退学者数	除籍者数			
					授業料未納	修業年限満了	強制退学	死　亡
全在籍学生数	456,927	6,343	1.388	4,997	773	364	32	177
男子学生数	314,812	5,348	1.699	4,156	674	340	31	147
女子学生数	142,115	995	0.700	841	99	24	1	30
4年制学部総数	428,729	6,213	1.449	4,885	768	362	29	169
男子学生数	294,636	5,246	1.781	4,069	671	338	28	140
女子学生数	134,093	967	0.721	816	97	24	1	29
文系学生数	208,272	2,378	1.142	1,800	333	141	11	93
理系学生数	220,457	3,835	1.740	3,085	435	221	18	76
6年制学部総数	28,198	130	0.461	112	5	2	3	8
男子学生数	20,176	102	0.506	87	3	2	3	7
女子学生数	8,022	28	0.349	25	2	0	0	1

表２．２　退学・除籍者数と在籍学生数に対する割合：４年制学部，学年別　　[86校集計]

項目＼学年	１年生	２年生	３年生	４年生	５年生以上
全退学・除籍者数割合(%)	1,102(1.081)	698(0.690)	793(0.780)	1,085(1.117)	2,535(9.427)
男子退学・除籍者数割合(%)	801(1.195)	545(0.799)	652(0.958)	934(1.463)	2,314(9.606)
女子退学・除籍者数割合(%)	301(0.863)	153(0.465)	141(0.420)	151(0.505)	221(7.887)
文系退学・除籍者数割合(%)	481(0.978)	251(0.513)	263(0.527)	411(0.859)	972(7.855)
理系退学・除籍者数割合(%)	621(1.178)	447(0.857)	530(1.025)	674(1.367)	1,563(10.766)

表２．３　退学の理由に関する調査

実態調査

［14校集計］

退学の理由		病気					消極的理由					積極的理由				環境要因		不詳		合計
		a 身体疾患	b 病気療養	c 分裂病	d うつ病	e その他	f アパシーの疑いなど	g 単位・学業	h 単位不足	i 意欲減退・他	j 進路再考	k 海外留学	l 海外その他	m 他大学再受験	n とび級	o 経済的理由	p 家庭の都合	q 一身上の都合	r 不詳	
				精神障害																
在籍学生数 58,449	ケース数	18	−	7	8	9	226	26	41	61	76	7	0	134	0	23	31	9	123	799
	まとめ(%)	42(0.072)					430(0.736)					141(0.241)				54(0.092)		132(0.226)		(1.360)
男子 37,456	ケース数	15	−	6	3	4	193	26	40	42	70	5	0	98	0	19	17	5	96	639
	まとめ(%)	28(0.075)					371(0.990)					103(0.275)				36(0.096)		101(0.270)		(1.706)
女子 20,993	ケース数	3	−	1	5	5	33	0	1	19	6	2	0	36	0	4	14	4	27	160
	まとめ(%)	14(0.067)					59(0.281)					38(0.181)				18(0.086)		31(0.148)		(0.762)

届け出調査

［41校集計］

在籍学生数 223,474	ケース数	76	30	4	6	25	3	271	196	625	334	11	2	378	56	305	46	556	20	2,944
	まとめ(%)	141(0.063)					1,429(0.639)					447(0.200)				351(0.157)		576(0.258)		(1.317)

表２．４　退学の理由に関する実態調査(文・理系別)

［14校集計］

退学の理由		病気					消極的理由					積極的理由				環境要因		不詳		合計
		a 身体疾患	b 病気療養	c 分裂病	d うつ病	e その他	f アパシーの疑いなど	g 単位・学業	h 単位不足	i 意欲減退・他	j 進路再考	k 海外留学	l 海外その他	m 他大学再受験	n とび級	o 経済的理由	p 家庭の都合	q 一身上の都合	r 不詳	
				精神障害																
在籍学生数 58,449	ケース数	18	−	7	8	9	226	26	41	61	76	7	0	134	0	23	31	9	123	799
	まとめ(%)	42(0.072)					430(0.736)					141(0.241)				54(0.092)		132(0.226)		(1.360)
文系 30,745	ケース数	12	−	4	5	5	86	14	19	23	28	4	0	75	0	12	18	8	55	373
	まとめ(%)	26(0.085)					175(0.569)					79(0.257)				30(0.098)		63(0.205)		(1.213)
理系 27,704	ケース数	6	−	3	3	4	140	12	22	33	48	3	0	59	0	11	13	1	68	426
	まとめ(%)	16(0.058)					255(0.920)					62(0.224)				24(0.087)		69(0.249)		(1.538)

表２．５　傷病による退学者：実数・割合，傷病大分類・性・入学年度別（４年制学部・６年制学部合計）　[14校集計]

	総数						入学年度															
	総数		男		女		平成７		平成６		平成５		平成４		平成３		平成２		平成１		昭63～	
	実数	%	実数	%	実数	%	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
傷病退学者総数	42	100.00	28	100.00	14	100.00	2	2	3	1	6	2	8	4	4	2	0	1	4	1	1	1
II．新生物	4	9.52	3	10.71	1	7.14	－	－	1*	－	－	－	－	1*	2*	－	－	－	－	－	－	－
III．血液および造血器の疾患並びに免疫機構の障害	1	2.38	1	3.57	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－
V．精神および行動の障害	24	57.14	13	46.43	11	78.57		1		1	3	2	5	3	2	2			2	1	1	1
F2．精神分裂病，分裂病型障害および妄想性障害(再掲)	7	16.67	6	21.43	1	7.14	－	－	－	－	1	－	2	－	－	1	－	－	2	－	1	－
F3．気分（感情）障害(再掲)	8	19.05	3	10.71	5	35.71	－	1	－	1	－	2*	1	1*	2*	－	－	－	－	－	－	－
F4．神経症性障害，ストレス関連障害(再掲)	6	14.29	4	14.29	2	14.29	－	－	－	－	2	－	2*	－	－	－	－	－	－	1	－	1
F5．摂食障害(再掲)	1	2.38	－	－	1	7.14	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－
その他	2	4.76	－	－	2	14.29	－	－	－	－	－	－	－	2	－	－	－	－	－	－	－	－
X．呼吸器系の疾患	2	4.76	2	7.14	－	－	－	－	－	－	1*	－	1*	－	－	－	－	－	－	－	－	－
XIV．尿路性器系の疾患	1	2.38	1	3.57	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－
XIX．損傷，中毒およびその他の外因の影響	1	2.38	1	3.57	－	－	1*	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
XX．疾病および死亡の外因	8	19.05	7	25.00	1	7.14					*											
交通事故(再掲)	6	14.29	5	17.86	1	7.14	1*	1*	1*	－	2*	－	－	－	－	－	－	－	1*	－	－	－
不慮の損傷，その他の外因(再掲)	2	4.76	2	7.14	－	－	－	－	1*	－	－	－	1*	－	－	－	－	－	－	－	－	－
XIII．その他(虚弱体質)	1	2.38	－	－	1	7.14	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－

(注)*印は死亡例．身体疾患18名中14名は死亡除籍者．病気療養は急性単球性白血病２名中の１名，骨髄機能低下，腎臓病，虚弱体質各１名の計４名のみ．精神障害24名中４名は自殺．
(注)傷病分類は，ICD－10　に基づく

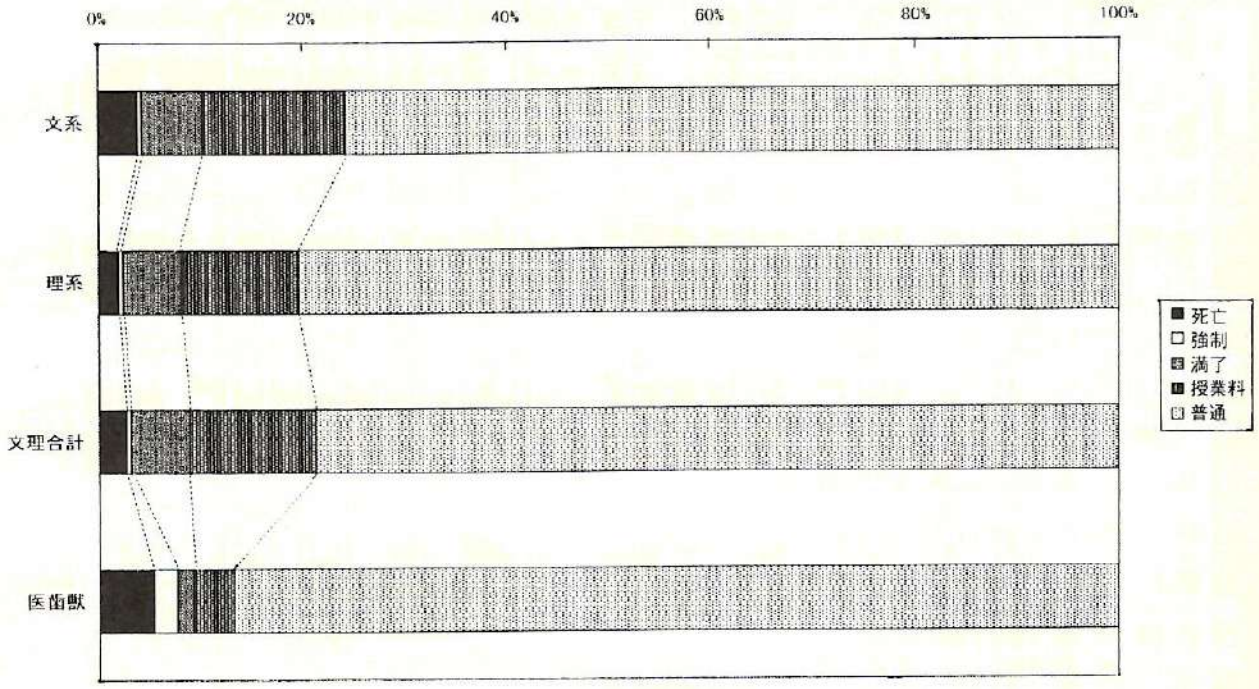


図２．１　退学の内訳

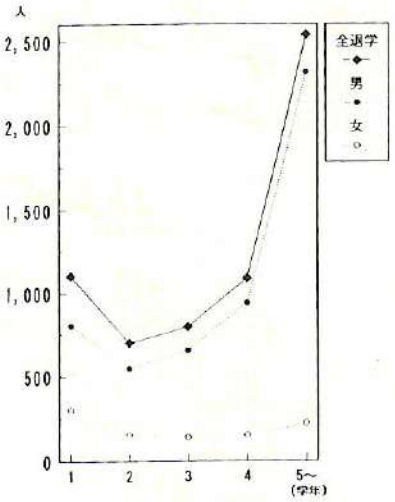


図２．２　性別・学年別退学者数（４年制学部）

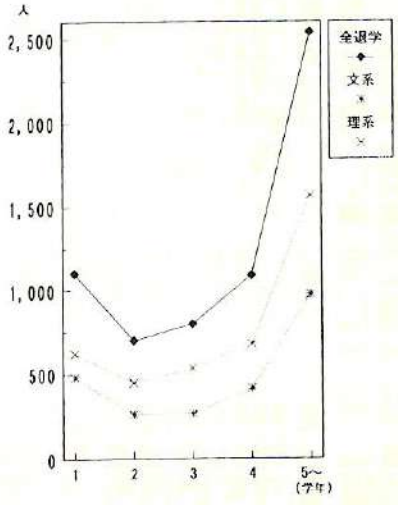


図２．３　文・理系別・学年別退学者数（４年制学部）

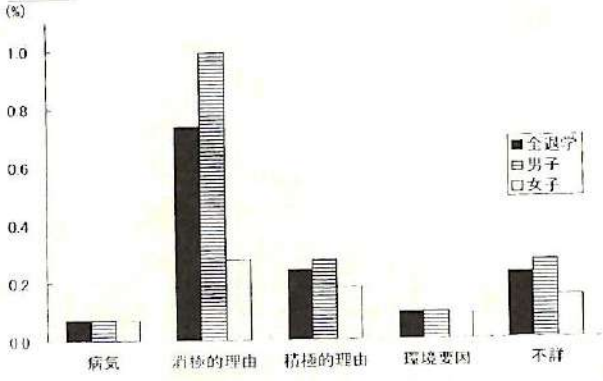


図２．４　退学理由毎の在籍学生数に対する割合（性別）

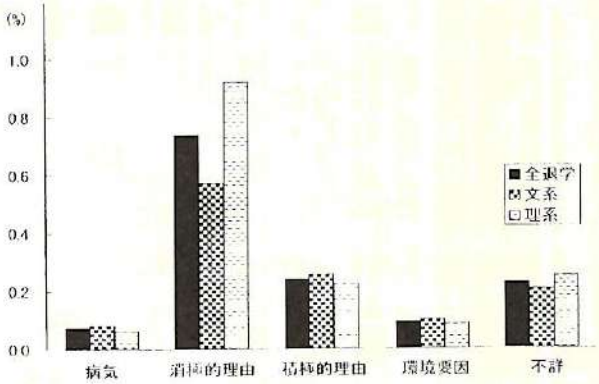


図２．５　退学理由毎の在籍学生数に対する割合（文・理系別）

3．死亡除籍者に関する調査

3．1　調査の概要

死亡は傷病の結果であることが多いが，傷病が直接の原因ではない事故死や自殺も含まれる．しかし，事故死は学生の安全管理の上から見逃し得ないし，メンタルヘルス・ケアの重要性が認識されるにつれ，自殺の調査は大学にとって重みを増してきている．

死亡者の数は少ないので，休学や退学とは異なり，国立大学95校のうち，平成７年度現在で保健管理施設が充分活動している89大学に，学生数のくわしい調査とともに依頼した．したがって45万人規模の調査になった．しかしこのうち中小規模大学の28校で，平成７年度の死亡者０名という回答であった．

3．2　調査方法

死亡者の実態を記入する用紙は，死亡者の入学年度，所属学部学科（文・理系別），男女の別，年齢，死亡の年月，届け出された死因，実態調査で得られた結果等を記入するようになっている．

担当大学では，すべての例を死因別に，病死，事故死，自殺，他殺の４つに判別して，判別不能なものを不詳とした．学生の場合，自らも家族も自殺を隠蔽する場合がしばしばあることと，アパートの一人暮らしで死亡の発見がおくれたりして死因が明らかでない場合がある．そうした場合はすべて報告者の意見を尊重するが，煩雑になることを避けるために，自殺の疑いは自殺に組み入れて統計処理を行った．

次に，各々の母集団の在籍学生10万人に対する割合を算出した．

3．3　調査結果と考察

3．3．1　全容

在籍学生総数456,927人に対して，死亡者総数は183人，学生10万人に対する割合は40.1である．死亡者総数は統計調査による177人より6人多いが，しばしば実態調査による人数は統計調査による人数を上回るので，実態調査の数をとることにした．

次に，４年制学部，その文系・理系別，および６年制学部のそれぞれの全死亡率および死因別死亡率を算出した（表３．１）．休学・退学と同様，死亡率も６年制学部では他より低率であるが，自殺率だけは他とあまり差異がなかった．

表３．２，図３．１に，４年制学部の死因別死亡者数を表示した後，図３．２に，学年別に死因別全死亡率，男子の死亡率，女子の死亡率を表示した．残念ながら，今年も他殺が１名記録された．

これによると，男子では低学年における事故死が多くそれが全体の死亡率を押しあげているが，そのほとんどはバイクなどによる交通事故死である（後節の疾患分類表３．３参照）．これに対して女子は事故死は少なく，総じて病死も少ないが，自殺だけは男子とほとんど同じく，高学年で上昇していることが見てとれる．

文・理系別については，「応用研究編」にゆずる．

3．3．2　死亡者の疾患別分類

ICD－10に基づいて分類した．これは分類項目がICD－9の約２倍にも増加しているため，死因となった傷病が「白書1984」よりも拡散してみえる．

死因１位は不慮の事故でV02からX59の78例中

72例（残り6例は不詳），2位は自殺でX61からX84の56例，3位は悪性新生物でC16からC96までの22例，4位は心疾患でI21からI50までの7例である．この1位から4位までの順位は11年前とまったく変わっていないが，4位の心疾患は前回12例（在籍学生10万比3.50）から今回7例（在籍学生10万比1.53）へと激減している．これは，死亡診断書の書き方が安易に「心不全」を用いないように変わったことの影響の方が大きいと考えられ，心疾患による死亡がどのくらい減少したかは定かでない．

Y09の1例は他殺例である．

〔中島潤子，張谷秀章，野村正文〕

表３．１　死亡実態調査　　[89校集計]

		総　数	4年制学部			6年制学部
				文　系	理　系	
全死亡者		183(40.1)	175(40.8)	97(45.6)	78(35.4)	8(28.4)
死因	病死	48(10.5)	46(10.5)	25(12.0)	20(9.1)	3(10.6)
	事故死	72(15.8)	70(16.3)	36(17.3)	34(15.4)	2(7.1)
	自殺 (うち自殺疑い)	56(12.3) (9(2.0))	53(12.4) (9(2.1))	33(15.8) (5(2.4))	20(9.1) (4(1.8))	3(10.6) (0(0.0))
	他殺	1(0.2)	1(0.2)	0(0.0)	1(0.5)	0(0.0)
	不詳	6(1.3)	6(1.4)	3(1.4)	3(1.4)	0(0.0)
在籍学生数		456,927	428,729	208,272	220,457	28,198

(　)内は在籍学生数に対する割合(10万比)

表３．２　死亡者数：４年制学部学年別・性別　　[86校集計]

		1年生			2年生			3年生			4年生			5年生以上		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
全死亡者数		27	7	34	36	3	38	28	7	35	24	7	31	31	6	37
死因	病死	5	2	7	3	1	4	13	0	13	5	2	7	11	3	14
	事故死	18	3	21	24	0	24	11	2	13	8	0	8	4	0	4
	自殺	3	1	4	8	2	10	4	5	9	10	5	15	13	2	15
	他殺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0
	不詳	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	4

表３．３　死亡者：実数，死因(基本分類)・性・年齢別(４年制学部・６年制学部合計)　その１　　[89校集計]在籍学生数　男314,812　女142,116　計456,927

	総数			年齢															
	総数	男	女	18歳		19		20		21		22		23		24		25以上	
	実数	実数	実数	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
死亡者総数	183	153	30	9	2	17	7	26	4	33	5	22	2	18	6	12	1	16	3
C16 胃の悪性新生物	1	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−
C18 結腸の悪性新生物	1	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−
C22 肝および肝内胆管の悪性新生物	1	1	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−		−	−	−	−	−	−
C37 胸腺の悪性新生物	1	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−
C41 その他および部位不明の骨および関節軟骨の悪性新生物	2	2	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	1	−	−	−	−	−
C56 卵巣の悪性新生物	2	·	2	·	−	·	−	·	−	·	1	·	1	·	−	·	−	·	−
C62 精巣〈睾丸〉の悪性新生物	1	1	·	−	·	−	·	1	·	−	·	−	·	−	·	−	·	−	·
C68 その他および部位不明の泌尿器の悪性新生物	1	1	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
C71 脳の悪性新生物	1	1	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
C80 部位の明示されない悪性新生物(ザルコーマ)	1	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−
C81 ホジキン〈Hodgkin〉病	1	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−
C85 非ホジキンリンパ腫のその他および詳細不明の型	4	4	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	1	−	2	−
C91 リンパ性白血病	3	3	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	1	−	1	−
C92 骨髄性白血病	4	3	1	−	−	−	−	1	−	−	−	2	−	−	−	−	−	−	1
C93 単球性白血病	1	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−
C96 リンパ組織，造血組織および関連組織のその他および詳細不明の悪性新生物	1	1	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
D61 その他の無形成貧血	1	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−
D66 遺伝性第Ⅷ因子欠乏症	1	1	−	−	−	−	−	−	−	1	−		−	−	−	−	−	−	−
E23 下垂体機能低下症およびその他の下垂体障害	1	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−
I21 急性心筋梗塞	1	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−
I46 心停止	1	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−
I50 心不全	5	3	2	−	−	1	1	−	1	−	−	1	−	1	−	−	−	−	−
I60 くも膜下出血	2	2	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	2	−	−	−	−	−
I61 脳内出血	2	2	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	1	−	−	−
J45 喘息	2	2	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	1	−
K72 肝不全，他に分類されないもの	1	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−
Q87 多系統におよぶその他の明示された先天奇形症候群	1	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−
R99 その他の診断名不明確および原因不明の死亡	4	4	−	−	−	−	−	−	−	−	−	2	−	2	−	−	−	−	−
V02 二輪またはモーター車両との衝突により受傷した歩行者	1	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−
V04 大型輸送車両またはバスとの衝突により受傷した歩行者	1	1	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
V09 その他および詳細不明の交通事故により受傷した歩行者	1	1	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
V23 乗用車，軽トラックまたはバンとの衝突により受傷したオートバイ乗員	10	10	−	2	−	1	−	2	−	3	−	2	−	−	−	−	−	−	−

表３．３　死亡者：実数，死因(基本分類)・性・年齢別(４年制学部・６年制学部合計)　その２

[89校集計]在籍学生数　男314,812　女142,116　計456,927

		総数			年齢															
		総数	男	女	18歳		19		20		21		22		23		24		25以上	
		実数	実数	実数	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
	死亡者総数	183	153	30	9	2	17	7	26	4	33	5	22	2	18	6	12	1	16	3
V24	大型輸送車両またはバスとの衝突により受傷したオートバイ乗員	3	2	1	−	−	−	1	1	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−
V27	固定または静止した物体との衝突により受傷したオートバイ乗員	3	3	−	−	−	−	−	1	−	2	−	−	−	−	−	−	−	−	−
V28	衝突以外の交通事故により受傷したオートバイ乗員	5	5	−	−	−	−	−	1	−	2	−	1	−	−	−	−	−	1	−
V29	その他および詳細不明の交通事故により受傷したオートバイ乗員	2	2	−	1	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
V33	衝突以外の交通事故により受傷したオート三輪車乗員	1	1	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
V43	乗用車，軽トラックまたはバンとの衝突により受傷した乗用車乗員	3	2	1	−	−	2	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
V44	大型輸送車両またはバスとの衝突により受傷した乗用車乗員	4	4	−	−	−	1	−	1	−	1	−	−	−	−	−	1	−	−	−
V47	固定または静止した物体との衝突により受傷した乗用車乗員	3	3	−	−	−	−	−	1	−	1	−	−	−	−	−	1	−	−	−
V49	その他および詳細不明の交通事故により受傷した乗用車乗員(乗用車に乗り巻き添えをくう)	4	3	1	1	−	−	1	1	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−
V80	交通事故により受傷した動物牽引車または動物に乗った者	1	−	1	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
V89	車両(駆動形態を問わない)事故，車両の型式不明	7	6	1	−	−	2	1	4	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
V92	船舶事故を伴わない水上交通機関の関係した溺死および溺水	1	1	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−
V94	詳細不明の水上交通事故	1	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−
V99	詳細不明の交通事故	6	6	−	1	−	1	−	−	−	3	−	−	−	1	−	−	−	−	−
W13	建物または建造物からの転落	1	1	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−
W16	溺死または溺水以外の損傷を生じた水中への潜水または飛び込み	3	3	−	−	−	1	−	−	−	1	−	1	−	−	−	−	−	−	−
W65	浴槽内での溺死および溺水	1	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−
W69	自然の水域内での溺死および溺水	3	3	−	−	−	−	−	1	−	1	−	1	−	−	−	−	−	−	−
X30	自然の過度の高温での曝露	1	1	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−
X31	自然の過度の低温での曝露	3	3	−	−	−	−	−	2	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−
X45	アルコールによる不慮の中毒および曝露	2	2	−	1	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−
X47	その他のガスおよび蒸気による不慮の中毒および曝露	2	2	−	1	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−
X59	詳細不明の要因への曝露(詳細不明の事故死)	5	3	2	−	1	−	−	1	−	−	−	−	−	2	−	−	−		1
Y09	詳細不明の手段による加害にもとづく障害および死亡	1	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−
X61	抗てんかん薬，鎮静・催眠薬，パーキンソン病治療薬および向精神病薬による中毒および曝露にもとづく自傷および自殺，他に分類されないもの	3	2	1	−	−	−	−	−	−	1	−	1	−	−	1	−	−	−	−
X67	その他のガスおよび蒸気による中毒および曝露にもとづく自傷および自殺	1	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−
X69	その他および詳細不明の化学物質および有害物質による中毒および曝露にもとづく自傷および自殺	4	2	2	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	1	1	1
X70	縊首，絞首および窒息による故意の自傷および自殺	15	13	2	−	−	2	−	2	−	3	1	2	1	2	−	1	−	1	−

表３．３　死亡者：実数，死因(基本分類)・性・年齢別(４年制学部・６年制学部合計)　その３　　[89校集計]在籍学生数　男314,812　女142,115　計456,927

	総数			年齢															
	総数	男	女	18歳		19		20		21		22		23		24		25以上	
	実数	実数	実数	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
死亡者総数	183	153	30	9	2	17	7	26	4	33	5	22	2	18	6	12	1	16	3
X71　溺死および溺水による故意の自傷および自殺	1	0	1	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−
X76　煙，火および火災による故意の自傷および自殺	2	2	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	1	−	−	−
X78　鋭利な物体による故意の自傷および自殺	2	2	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−
X80　高所からの飛び降りによる故意の自傷および自殺	13	9	4	−	−	1	−	1	1	2	2	1	−	1	1	1	−	2	−
X82　モーター車両の衝突による故意の自傷および自殺	1	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−
X83　その他の明示された手段による故意の自傷および自殺	2	1	1	−	−	1	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
X84　詳細不明の手段による故意の自傷および自殺	12	8	4	1*	−	−	2	−	1	2	−	−	−	2	1	1	−	2	−

＊平成７年度入学で年齢不明である．
(注)傷病分類は，ICD−10　に基づく

表３．４　精神障害をともなっていた死亡者の精神障害の内訳：実数，傷病(大分類)・性・年齢別(４年制学部・６年制学部合計)　　[89校集計]

	総数						年齢													
	総数		男		女		18歳		19		20		21		22		23		24		25以上	
精神障害をともなっていた死亡者	実数	%	実数	%	実数	%	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
V．精神および行動の障害	15	100.00	10	100.00	5	100.00	−	−	1	−	2	1	2	2	2	−	−	1	−	1	3	−
F2　精神分裂病，分裂病型障害および妄想性障害(再掲)	5	33.33	3	30.00	2	40.00	−	−	1	−	−	1	1	1	−	−	−	−	−	−	1	−
F3　気分(感情)障害(再掲)	5	33.33	2	20.00	3	60.00	−	−	−	−	1	−	−	1	1	−	−	1	−	1	−	−
F4　神経症性障害，ストレス関連障害など(再掲)	3	20.00	3	30.00	−	−	−	−	−	−	1	−	1	−	1	−	−	−	−	−	−	−
F5　摂食障害(再掲)	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
その他および不明	2	13.33	2	20.00	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	2	−

(注)傷病分類は，ICD−10　に基づく

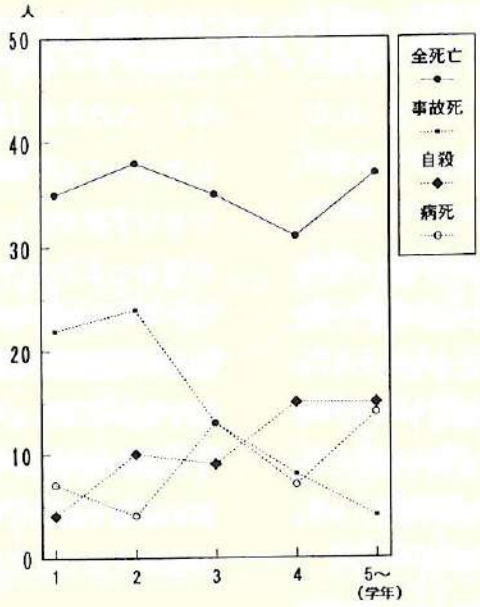
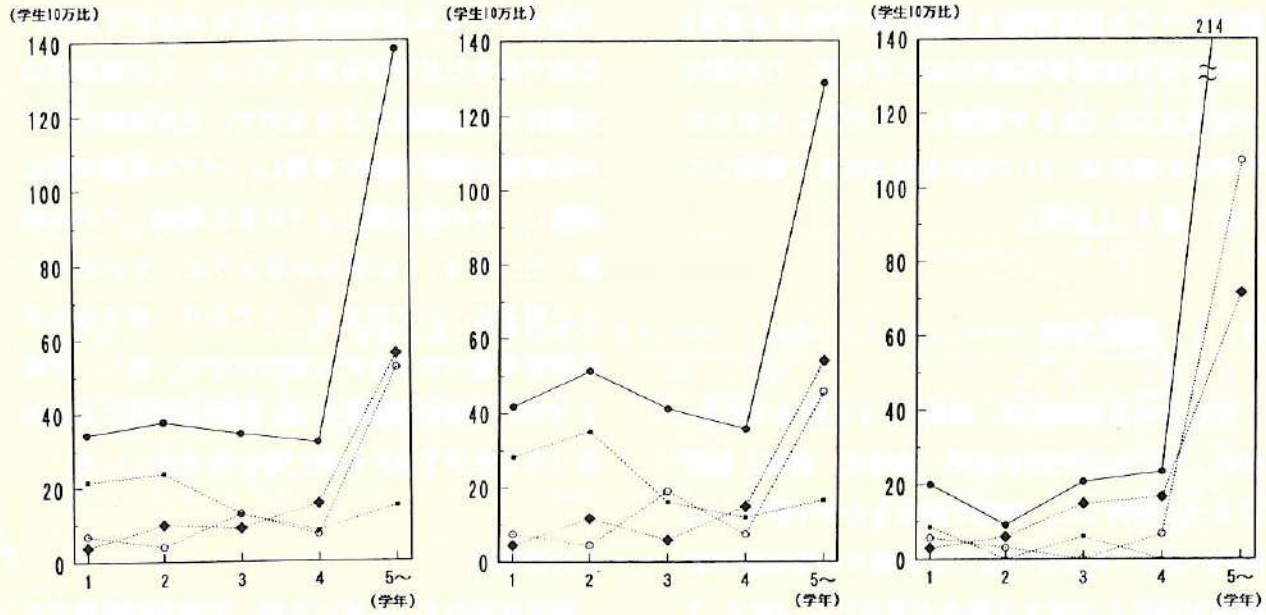


図３．１　全死亡者数（４年制学部・学年別）



４年制学部・学年別　　男子の死亡率　　女子の死亡率

図３．２　死因別死亡率

全死亡　事故死　自殺　病死

4．過去11年間の死因別死亡率の推移

4．1　調査の概要

これは，前回の「白書1984」の対象年度の翌年（1985年度）から今回の健康白書の対象年度（1995年度）までの11年間にわたり，死亡学生について実態調査を行ったものである．前回はすべて，今回もほとんどの項目が対象年度に資料を限定した「横の調査」の中にあって，唯一経年的な，いわば「縦の調査」である点に価値がある．

参加大学は63校と，予想外に多かった．死亡者の実態調査ばかりでなく，死亡率の算出をしなければならないので，各大学には11年間の在籍学生数についても補足調査を依頼した．それによると，1985年度の在籍学生数を100とすれば，11年間で学生数は122.9％まで漸増し，その中に占める女子学生の割合は，24.2％から31.3％まで漸増していた（表4．1参照）．

4．2　調査方法

死亡者の実態調査は，前節Ⅴ．3と同じである．即ち，死亡者の死因を病死，事故死，自殺，他殺の4つに判別して，判別不能なものを不詳とした（表4．2）．次に各年度ごとに各々の母集団の在籍学生10万人に対する割合を算出した（表4．3～5，図4．1）．

4．3　調査結果と考察

4．3．1　死因について

1）自殺率

この調査は精神心理面の健康をみることを主眼としているので，死因の中では「自殺」が最も気になるところであるが，これはこの11年間できれいなU字形を示していた（図4．1）．最も自殺率が低かったのは平成元（'89）年度で，日本経済のバブル崩壊が明らかになった年である．これを境に日本経済の状況が悪化し，それを自殺率が反映するかのようにじわじわと上昇している．平成7年度は再び低下に転じているが，これが日本経済の好転を反映したものかどうかはこの後の経過が証明することになる．

2）事故死率

自殺と逆相関を表すように見えるのが「事故死」である．こちらは'89年度の凹みはあるものの，全体で伏せたU字形を示している．この事故死の大部分は交通事故によるもので，日本経済のバブル崩壊前の絶好調期に多発し，バブル崩壊の年に頓挫し，その後余韻のようにまた増加してのち鎮静した．図4．1に明らかなように，それはほとんど男子について言えることであり，女子はあまり影響を受けたようには思われない．但し，平成6（'94）年度の事故死には，阪神大震災による26名（うち女子7名）の死亡者が含まれている．

3）病死率

病死は前の2つに比べれば，生物学的現象であるせいか，この年代では低く，あまり変動しないはずであるが，男子ではほとんど自殺と同率で推移している．死亡学生は数が少ないのだから実態調査は正確に行えるだろうと思いがちであるが，プライバシーの問題がからんで，しばしば調査は難航するのが一般である．例えば“急性心不全”などは自殺を隠蔽したものではあるまいかと，調査者や判定者を悩ませている．

4）他殺率

平成6年度の「他殺」には，松本サリン事件で死亡した学生2名（男女各1名）を入れた．しかし，最近は稀ならず他殺が存在する．

4．3．2　性差について

どの死因をとっても，明らかに男子の死亡率の方が女子より高い．とりわけ事故死は断然高く男子の死因の第1位を占めており，死亡率全体にも影響を与えている．一方女子は事故死も病死も少なくて，死因の第1位を自殺が占めている．

4．3．3　一般青年との比較

手に入りやすい資料として「国民衛生の動向」を用い，自殺率についてみた．1994年の15～24歳の欄をみると，人口10万当たり総数で8.6，男子12.0，女子5.1である．ほぼ同じ時期である1994年度の学生の自殺率は，総数で17.4，男子21.0，女子9.1となっており，これは一般青年の総数で2倍，男女とも2倍弱に当たる．念のため25～34歳の欄をみても総数で14.1，男子19.8，女子8.3であるから，この年齢の一般青年より大学生の自殺率の方が明らかに高い．学生の自殺率は一般青年と変わらないと一時言われたが，現在でもやはり，一般青年より高いのではなかろうか．

自殺率以外の死亡率については，今回はふれない．

〔中島潤子，澤田丞司〕

表４．１　過去11年間〔昭和60(1985)年度～平成７(1995)年度〕の在籍学生数の推移　[63校集計]

年度	'85	'86	'87	'88	'89	'90	'91	'92	'93	'94	'95
全在籍学生数	303,165	308,331	316,381	325,711	334,940	337,746	342,877	353,073	360,302	367,417	372,715
男子学生数	229,950	232,251	236,613	241,337	246,452	246,152	248,128	254,622	255,617	257,502	256,226
女子学生数	73,215	76,080	79,768	84,374	88,488	91,594	94,749	98,451	104,685	109,915	116,489
女子学生数の割合	24.2%	24.7%	25.2%	25.9%	26.4%	27.1%	27.6%	27.9%	29.1%	29.9%	31.3%

表４．２　過去11年間〔昭和60(1985)年度～平成７(1995)年度〕の死因別死亡者数の推移　[63校集計]

年度		'85	'86	'87	'88	'89	'90	'91	'92	'93	'94	'95
全死亡者数		169(19)	130(17)	147(24)	162(25)	116(13)	152(20)	139(13)	142(23)	154(30)	181(31)	164(28)
死因	病死	49(5)	37(5)	39(7)	40(4)	32(5)	33(3)	34(5)	38(7)	50(13)	33(4)	44(8)
	事故死	57(2)	40(0)	59(5)	75(10)	53(4)	81(10)	62(1)	58(7)	53(7)	77(15)	70(6)
	自殺	61(12)	51(12)	47(12)	44(10)	31(4)	35(6)	40(6)	43(9)	50(9)	64(10)	46(12)
	他殺	1(0)	1(0)	1(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	4(2)	0(0)
	不詳	1(0)	1(0)	1(0)	3(1)	0(0)	3(1)	3(1)	3(0)	1(0)	3(0)	4(2)

(注)　(　)内の数は，死亡者数のうちの女子の死亡者数を表す

表４．３　過去11年間〔昭和60(1985)年度～平成７(1995)年度〕の死因別死亡率の推移　[63校集計]

年度		'85	'86	'87	'88	'89	'90	'91	'92	'93	'94	'95
全死亡率		55.8	42.2	46.5	49.7	34.6	45.0	40.5	40.2	42.7	49.3	44.0
死因	病死率	16.2	12.0	12.3	12.3	9.6	9.8	9.9	10.8	13.9	9.0	11.8
	事故死率	18.8	13.0	18.7	23.0	15.8	24.0	18.1	16.4	14.7	21.0	18.8
	自殺率	20.1	16.5	14.9	13.5	9.3	10.4	11.7	12.2	13.9	17.4	12.3
	他殺率	0.3	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0
	不詳	0.3	0.3	0.3	0.9	0.0	0.9	0.9	0.9	0.3	0.8	1.1

数値は学生10万人に対する比率を表す．

表４．４　過去11年間〔昭和60(1985)年度～平成７(1995)年度〕の死因別死亡率の推移：男　[63校集計]

年度		'85	'86	'87	'88	'89	'90	'91	'92	'93	'94	'95
全死亡率		65.2	48.7	52.0	56.8	41.8	53.6	50.8	46.7	48.5	58.3	53.1
死因	病死率	19.1	13.8	13.5	14.9	11.0	12.2	11.7	12.2	14.5	11.3	14.1
	事故死率	23.9	17.2	22.8	26.9	19.9	28.8	24.6	20.0	18.0	24.1	25.0
	自殺率	21.3	16.8	14.8	14.1	11.0	11.8	13.7	13.4	16.0	21.0	13.3
	他殺率	0.4	0.4	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0
	不詳	0.4	0.4	0.4	0.8	0.0	0.8	0.8	1.2	0.0	1.2	0.8

数値は学生10万人に対する比率を表す．

表４．５　過去11年間〔昭和60(1985)年度～平成７(1995)年度〕の死因別死亡率の推移：女　[63校集計]

年度		'85	'86	'87	'88	'89	'90	'91	'92	'93	'94	'95
全死亡率		26.0	22.3	30.1	29.6	14.7	21.8	13.7	23.4	28.7	28.2	24.0
死因	病死率	6.8	6.6	8.8	4.7	5.7	3.3	5.3	7.1	12.4	3.6	6.9
	事故死率	2.7	0.0	6.3	11.9	4.5	10.9	1.1	7.1	6.7	13.6	5.2
	自殺率	16.4	15.8	15.0	11.9	4.5	6.6	6.3	9.1	8.6	9.1	10.3
	他殺率	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	0.0
	不詳	0.0	0.0	0.0	1.2	0.0	1.1	1.1	0.0	1.0	0.0	1.7

数値は学生10万人に対する比率を表す．

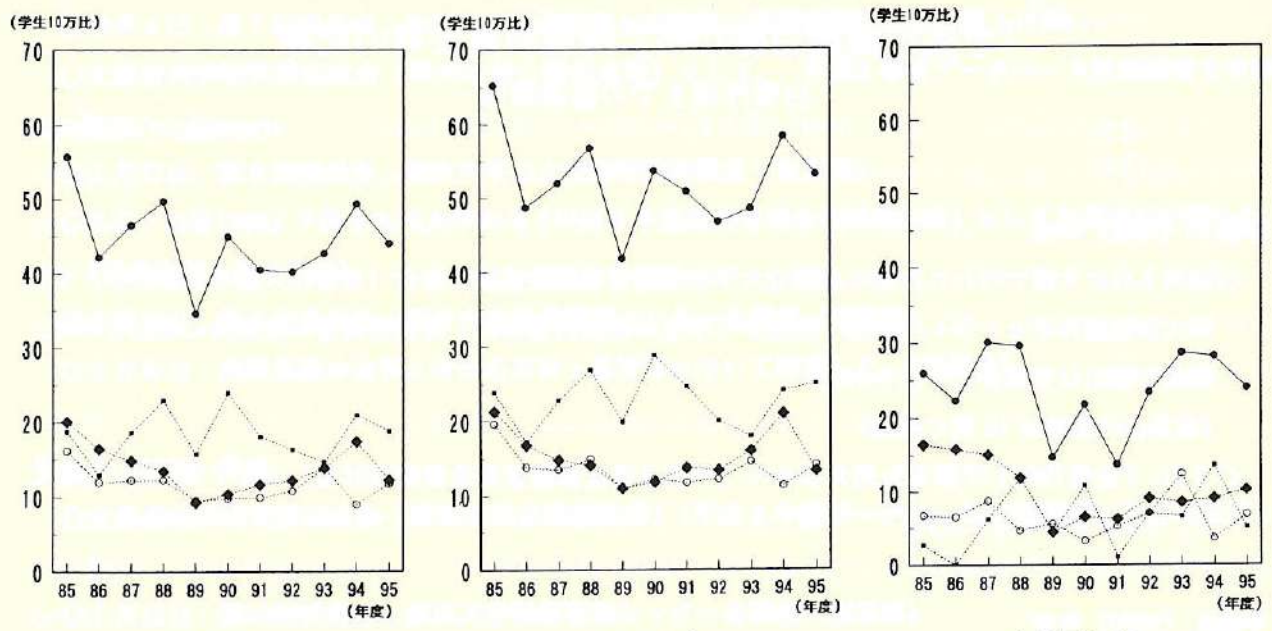

(学生10万比)
70
60
50
40
30
20
10
0
85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95
(年度)
全死亡率
(学生10万比)
男子死亡率
(学生10万比)
女子死亡率
全死亡
事故死
自殺
病死

図４．１　死亡率の推移

「学生の健康白書1995」特別委員会等の記録

－白書作成までの経過報告－

（◎委員会，◇関連事項）

平成４（1992）年度

◇10月２日に大阪で行われた第４回国立大学等保健管理施設協議会総会（当番校大阪外国語大学）で九州大学健康科学センター川崎晃一教授が「学生の健康白書1995」特別委員会の委員長に選出された．委員の選出は委員長に一任された．

（委員会の組織は iii 頁に掲載）

◇３月，「白書1995」予算を九州大学から『平成５年度保健管理改善研究計画』として文部省に申請した．（平成５年９月に交付）

平成５（1993）年度

◎８月２日　第１回委員会：竹橋会館（東京都）

・白書に掲載する検査項目を討議し決定

・副次的検査項目，特別調査，留学生調査などについて討議

・電算化の問題を討議

◎10月７日　第２回委員会：名古屋大学豊田講堂特別会議室（名古屋市）（保健管理研究集会第１日目）

◇３月「白書1995」予算を九州大学から『平成６年度保健管理改善研究計画』として文部省に申請した．（平成６年９月に交付）

平成６（1994）年度

◎８月４日　第３回委員会：竹橋会館（東京都）

◎９月30日　第４回委員会：松本文化会館（松本市），（保健管理研究集会第１日目）

◇平成７年度文部省科学研究費（一般研究Ａ）を申請したが，不採用．

◎12月３日　第５回委員会：東京大学山上会館特別会議室（東京都）

・健康白書実施要綱の作成を検討，具体案をほぼ決定

◇12月26日　健康白書実施要綱を作成し，全国保健管理センター長宛に発送した．

◎２月12日　第６回委員会：東京大学学士会館別館（東京都）

◇３月４日　健康白書実施要綱(精神心理面)を修正し，再送付．

◇３月22日　「健康白書1995」の最終資料を送付．

◇３月「白書1995」予算を九州大学から『平成７年度保健管理改善研究計画』として文部省に申請した．（平成７年９月に交付）

平成７（1995）年度

◇４月26日文部省指導に基づいて《緊急のお願い文》を各大学保健管理センター長宛送付．

◇６月22日文部省学生課訪問（豊岡，川崎）：北村課長，三浦課長補佐，富田厚生係長と面談．

◎10月４日　第７回委員会：秋田市文化会館第４会議室（保健管理研究集会第１日目）

◇文部省科学研究費助成金『研究成果公開促進費』として，平成８年度データベース計画調書を申請した．

◎１月27日　第８回委員会：東京大学山上会館特別会議室（東京都）

◇３月「白書1995」予算を九州大学から『平成８年度保健管理改善研究計画』として文部省に申請した．（平成８年９月に交付）

◎３月10日　第９回委員会：東京大学保健管理センター会議室（東京都）

◇３月30日　施設協議会会長と今後の方針・経費等について討議した．（福岡市）

平成８（1996）年度

◇文部省科学研究費助成金『研究成果公開促進費』（平成８年度データベース計画調書）交付が決定した．

◎７月13日　第10回委員会：東京大学保健管理センター会議室（東京都）

・データの収集状況報告，収集方法・記述方法などの検討

◇10月17日　各委員（担当執筆者）に基本統計データを送付した．第11回委員会で質疑応答予定．

◎11月６日　第11回委員会：京都会館（京都市），（保健管理研究集会第１日目）

・電算機による各担当データに関する質疑応答，今後の対策を討議

◎１月11日　第12回委員会：東京大学山上会館特別会議室（東京都）

・白書（基本編）の編集方針を討議

・応用編作成の必要性を検討

◎３月23日　第13回委員会：東京大学山上会館特別会議室（東京都）

・健康白書精神・心理領域グループの最終討議

◇３月「白書1995」予算を九州大学から『平成９年度保健管理改善研究計画』として文部省に申請した．（平成９年９月に公布）

平成９（1997）年度

◎５月31日　第14回委員会：東京大学山上会館特別会議室（東京都）

・白書（基本編）印刷のスケジュールを決定；９月末までに各大学へ白書送付完了予定

・白書（応用研究編）作成計画を確認，平成10年３月完成予定

以上の他に，九州大学内では委員長と上園委員，武谷委員，技官，事務官合同のミニ健康白書委員会を繰り返し開催した．

なお，「学生の健康白書1995」特別委員会活動の詳細については，将来の白書作成の参考資料として別途議事録などを保存しておく予定である．

［川崎晃一］

編集後記

「学生の健康白書1984」,「学生の健康白書1990」に続いて大規模調査結果をまとめた「学生の健康白書1995」がようやく完成した．喜びや苦しみより“ホットした”というのが現在の偽らざる心境である．経過報告に述べているように，委員会発足から丸５年，データ収集終了後約１年で，発行にこぎつけた．電子的媒体によるすべてのデータ収集・解析は今回が初めての試みであり，９５大学がすべて参加した大規模調査でもあったことを考慮すれば，完成までの経過はむしろ順調であったといえよう．これも健康白書作成委員会の全メンバーの熱意ある献身的なご協力と，阪神・淡路大震災で甚大な被害に遭われた神戸大学，神戸商船大学をはじめ，全国国立大学の保健管理施設長および保健管理業務従事者の方々のご援助，ならびに文部省高等教育局学生課の財政面を含めた強力なご支援によるもの，と心から感謝の意を表します．

しかし残念ながら，すべての大学が協力的であったとは言い難いのが実状であった．施設協議会総会の総意で健康白書作成の継続が決定された後，その後の総会や印刷物を通じて十分な説明を行い，白書作成の意義を理解してもらって全大学が協力をするという同意を得てはいたものの，それが所長止まりで下部組織まで全然通じていなかった大学，あるいは電算化の予算はないから協力出来ないという大学，健康診断票のコピーさえも送れないという大学もあった．ただ，大学によって事情が異なるので，心ならずもあまり協力できなかった大学もあったと思われる．今後は，どの大学も比較的容易に協力していただけるような方策を考えた方が建設的であり，はるかに将来のためになると思うので，今回の調査・資料収集にあたっての問題点や反省点について，二・三触れておきたい．

(1) 各大学で，電算化のレベルに大きな差異があった．概要にも記載しているように未電算化校が６割を占めていたため，外注入力などの予算措置もなく，各大学内での協力体制なども徹底していなかった．

(2) 各大学で，データのチェックが十分になされていなかったため，単純なミスや必須項目の記入漏れ，などが少なからず認められた．また，定期健康診断票の統一を強制しなかったため，各大学からはさまざまな形式でデータが送られて来ており，その標準化に膨大な時間を割かざるを得なかった．そのため，データの整備に追われて，委員長サイドで個々のチェックにまで十分に手が回らず，やむを得ずデータを削除せざるを得ない事態も生じた．（ただし，まとめて修正出来るような場合は，出来る限り電話やFaxで個々に問い合わせて修正した．）

(3) 委員会で作成した統一書式に不充分な個所があった．これは初めての電算化であり，項目の細部に至るまでの気配りや記入の予測がほとんどできなかったからである．将来はもう一工夫してほしい．

(4) 今後も十年に一度の大規模調査を続けるとすれば，

○各大学が責任を持って自大学データを完備すること，○そのためには各大学における電算化への予算措置を伴う環境整備が必要，○実際の作業に従事する教職員に理解してもらい，勤務交替の際には引き継ぎを確実に行っておくこと，○保健管理施設のスタッフだけで電算化を推進するのは困難なので，情報処理専門の他部局のスタッフの協力がぜひ必要，○作成委員会を早期に発足させ，財政的援助の方策を考えること，などをあげておきたい．

「白書1995」の調査を契機に，大学当局と交渉して定期健康診断データの電算化を完成させた大学が少なくないと伺っている．未電算化の大学は西暦2000年の小規模調査を目標に，電算化を強く推し進められることを願っている．

今回の白書作成に当たっては，５年間にわたり健康白書作成委員会のメンバーとして九州大学中央計数施設武谷峻一助教授に参加していただいた．氏のご協力なくして「白書1995」の完成はなかった，と言っても決して過言ではない．委員会を代表して，心から感謝の意を表します．

委員一同，学生の健康管理に，あるいは我が国の若年層のデータとして，多くの人々に利用される健康白書でありたいとの願いを込めて，この「基本編」を作成した．そして，さらに引き続き「応用研究編」の作成に向けて準備を進めている．どうぞご期待下さい．

委員長　川崎晃一

前回の「学生の健康白書1984」の健康白書作成委員会のとき，精神心理面の委員も身体面の委員と合同で会議をもったが，後半はいつも同じ部屋の別のテーブルで仕事をした．今回もこのやり方は継承されたが，これは，それほど左様に両者は性質を異にしているという証左である．

精神心理面はプライバシーの問題が身体面よりも大きくかかわってくるばかりでなく，健康と不健康の境界を客観的には定めにくい．ましてや健康診断のような手段では捕らえられない．したがって影や陰の資料を何とか構築して健康の度合いを推量するしかない．前回は精神健康調査（心理スクリーニング）をなにがしかの期待をこめて客観的資料にしようと試みたが，これはその後の11年間にサービス面に重きを置く方向に向かい，今回も一応まとめたが，健康評価をする意味では伸びなかったのである．

そこで，影でもいいから，健康診断のように直接学生の精神心理面を知る手かがりを得ようと起用したのが「アンケート調査」であった．次に，陰の資料として，前回は特別調査という形でとりいれた休学・退学・死亡の調査を，今回は全体に呼びかけて正面から取り上げ，且つそのうちの死亡に関しては唯一の経年調査として前回後の11年間の実態調査を取り上げた．別に，日常業務の精神保健心理相談活動から資料を取り上げてまとめたが，これは精神心理面では数少ない実質的なものである．

こうして，学生の個人票をつけた資料は待ち合わせないが，健康白書というものは学生全体の状況を把握することだと割り切ることができれば，精神・心理領域としては，前回よりも多角的で幅の広いものが出来たと思われる．資料の収集の技術に反省すべき問題が多々あったが，川崎委員長が書かれたこととほぼ重なる．重複を覚悟で言わせてもらえば，自大学の記入は正確にお願いしたい．また，企画も集計ももう一工夫必要である．

今回は，多くの身体面の保健管理センター所長に思いがけずご協力をいただいた．休学・退学・死亡の調査では沢山の大学の学生部の事務官にご協力をいただいた．ここに心からの感謝を記します．

最後にご意見をいただいた山本由子先生に感謝し，委員だった吉田哲雄先生について記したい．私どもは，頼り甲斐のある吉田先生を委員に擁してスタートしたが，ある日電話があって「ぼく，今，肺癌だといわれました」と言われた．絶句した私に，自分の仕事は磯田雄二郎先生にお願いする，と続けられた．熱意を秘めておられた先生の墓前に，「学生の健康白書1995」を供えたいと思っている．

精神・心理面の委員を代表して
副委員長　中島潤子

学生の健康白書 1995　－基本編－

平成 9 年10月 1 日発行

編　集　学生の健康白書作成に関する特別委員会
〒816 福岡県春日市春日公園 6 丁目 1 番地
九州大学健康科学センター内

発　行　国立大学等保健管理施設協議会
印　刷　城島印刷有限会社

序

「学生の健康白書１９９５」（以下「白書1995」と略す）は，平成７年度に行われた全国９５の国立大学学部学生の健康状態に関する実態調査の結果を取りまとめた報告書です．大学における保健管理を適正に推進するためには，学生の健康状態，疾病状況などの実態を的確に把握し，保健管理上の問題点を明らかにすることが基本となることはいうまでもありません．この白書は，そのために必要な基礎的な資料を提供することを目的として作成されたものです．

昭和59（1984）年に国立大学学生を対象とした健康白書が初めて発刊されたあと，ある一定の間隔（10年に１度は大規模，その中間に小規模）で白書を作成することが，国立大学等施設協議会総会で決議されました．そして，区切りのよい６年後の平成２（1990）年に，調査項目を簡略化した「学生の健康白書１９９０」（「白書1990」）が発刊されました．今回の白書は，そのときに決議された10年に１度の大規模調査を行う年に当たる平成７年４月から１年間にわたる，保健管理からみた学生の健康状態を調査した成績をまとめたものです．

学生の健康白書作成に関する特別委員会（以下委員会と略す）の開催経過報告の欄（基本編：224頁）にも記述しているように，委員会の委員は委員長に一任されましたので，「白書1990」のメンバーを中心に検査項目の専門領域および地域の代表性を考慮して選出いたしました．途中退官された委員の補充に関しては事務的な引き継ぎが円滑に進むように，特別の支障がない限り後任の方に引き継いでいただきました．また今回のメンバーには，九州大学のスタッフの中から委員長補佐とコンピュータ専門の委員を追加しました．さらに，精神・心理領域を独立させ，メンバーの人選は中島潤子副委員長に一任致しました．

「白書1995」は，「学生の健康白書１９８４」（「白書1984」）の調査結果と比較が出来るように，調査項目や調査対象をほぼ同じにすることにしました．すなわち，「白書1984」と同様，調査対象は国立大学の学部学生にしぼり，調査項目も定期健康診断における各検査項目の検診結果，傷病罹患状況および傷病による休学・退学・死亡者の実態調査などに限定しました．今回はさらに，あらかじめ調査を行って回答を得た参加希望大学を対象に，委員会で作成したアンケート用紙によるアレルギー性疾患，ライフスタイルならびにメンタルヘルスに関する特別調査も追加しました．

「白書1995」作成のための予算は，保健管理等改善研究事業計画として，九州大学から文部省に申請致しましたが，高等教育局学生課の方々の深いご理解とご配慮により，準備開始の平成５年度から「白書1995」完成の平成９年度まで５年間にわたって交付していただきました．また，文部省科学研究費（平成７年度一般Aおよび平成８年度研究助成公開費）にも積極的に申請を試み，研究助成公開費を受理することが出来ました．このような強力な経済的支援を受けて，「白書1995」作成に対する各委員の多大なエネルギーを結集させることができ，すべての委員は積極的な協力

と努力を惜しみませんでした．１４回に及ぶ委員会の出席率が常に８割を上回ったことや，各委員の都合がつかずに一度ならず日曜・祭日にも委員会を開催したことからも，その熱意が窺えると思います．

「白書1995」は，収集・集計・解析のすべてにコンピュータを導入したため，各大学から送られてきた集計表を収集する方法で行われた「白書1984」と同じレベルでの比較は，必ずしも妥当でないことが分かってきました．その理由は後に詳しく述べています（調査の概要参照）．将来の白書も当然の事ながら，今回と同様すべてコンピュータによって収集・集計・解析が行われると思いますが，我々が目指したより精度の高い，信頼性のある白書を作成するためには，各大学が責任をもって自大学のデータをきちんと整えて委員会に提出し，とくに収集と集計に手間がかからないシステムを完成させることが絶対に必要であることを痛感致しました．

「白書1995」の編集方針として，データは出来るだけ生のまま提供しようと決め，まず“基本編”として統計を中心にまとめました．表を主体とした内容で，数字の羅列に終始したのはそのためです．各項目毎に調査方法，成績と簡単な考察を記述していただきましたが，書き方については担当執筆者に一任しましたので，解説文に多少の長短や表現の異なる点などがあるかも知れませんが，その点は御容赦下さい．また異論があるかも知れませんが，今回の白書も，特定の疾病の発見を目的とする「検診」ではなく，健康状態の点検としての「健診」と捉えた「白書1990」に倣って，「受検」ではなく「受診」に統一致しました．電算処理を行ったデータをフルに活用するとともに，調査内容をより理解しやすくして多くの方々に十分活用していただけるように，今年度中に“応用研究編”としてまとめる予定です．これまでの２冊の健康白書（「白書1984」と「白書1990」）と同様，「白書1995」が全国の大学で学生の保健管理充実と発展のために十分活用されるとともに，関連領域の方々にも利用していただけることを心から願っております．

最後に，この健康白書作成の企画に対して，終始深いご理解と強力な財政的ご支援を賜りました文部省高等教育局学生課の方々，ならびに側面から絶えずご助言，ご協力をいただいた九州大学学務部（旧学生部）の関係各位および総合理工学研究科等事務部教務課長，保健掛の方々に心から感謝申し上げます．また，調査の集計，編集などに関する処理に，多くの時間を割いてご協力いただいた九州大学中央計数施設の井上仁助手，大曲五男技官，ならびに同大学健康科学センター宇都宮弘子保健婦，成水貴代，納富あすか，実藤美帆の各研究補佐員の方々に深甚の謝意を表します．

平成９年９月10日

国立大学等保健管理施設協議会
学生の健康白書作成に関する特別委員会
委員長　川崎晃一

この序文は「学生の健康白書1995－基本編－」の冒頭に掲載しましたが，「白書1995」作成全体に関わるものであるため，ここに再掲した．

応用研究編の発刊に当って

『学生の健康白書1995－応用研究編－』は，平成7年（1995）度に行われた全国95の国立大学学部学生の健康状態に関する実態調査の結果を取りまとめた『学生の健康白書1995－基本編－』をもとに，それぞれの内容についてより広くより詳しい解析を行い，わかりやすく解説することを目的に作成されました．また，「基本編」で十分に記述し得なかったところを補充することも目的としました．この「応用研究編」は，電算機処理を駆使した複数項目のクロス集計などを採用して，各執筆者がそれぞれの専門的立場から解説を行っているので，極めて興味深い報告書が完成したと満足しています．但し，「基本編」とちがって「応用研究編」は，文章の形式や項立てに一応の基準を設けたものの，各執筆者の独自性を尊重し，図・表の統一などは行いませんでした．その結果，全体として多少統一性に欠けるきらいはありましたが，それぞれの項を独立した論文として見ていただきたいと思います．

本来，健康白書作成委員会の使命は，『学生の健康白書1995－基本編－』を作成することでした．しかし，「基本編」の性格を忠実に守って，できるだけ生の数字を使い，表を多用したため，面白味に欠けた報告書となったのはやむを得ません．もちろん，それはそれなりに重要な意味を有していますが，多くの施設で，広くこの白書を利用していただくためには，さらに一歩進めた資料の分析と，図を多用した理解しやすく読みやすい報告書も必要であると思いました．幸い，委員会全員の意見の一致を見ましたので，この「応用研究編」作成にとりかかったわけです．

執筆された委員はいずれも超多忙な方々ばかりでしたが，快く引き受け期限を守ってくださいました．ただ，項目によっては「基本編」以上の分析は困難であり，また更なる分析の意義があまり認められない項目もあったため，委員全員が「応用研究編」の執筆に関わったわけではありません．しかし，「応用研究編」作成に当たっては3回にわたって委員会を開き，全員が参画して意見を述べ，協力していただいたので，委員全員の努力と協力によって完成したものであることを強調しておきたいと思います．

今回の白書は「基本編」，「応用研究編」のいずれにも，集計方法にコンピューターを導入したため，「応用研究編」に表されたような資料の分析も可能となりました．この経

験を生かして，次回の報告書はさらに統計処理が容易となり，作成までの期間も短縮すると思われます．

しかし，各大学の保健管理センターが責任を持って，自大学の学生の正確な健康診断資料を収集して委員会へ送付していただかない限り，いかに高等な解析を行っても精度の高いデータは得られません．各大学の関係各位にこのことをくれぐれもお願いして，序文の締めと致します．

最後になりましたが，「基本編」「応用研究編」のいずれにおいても，“精神心理面”のまとめ役として，終始変わらぬご協力と細やかなご配慮やご助言をいただいた中島潤子副委員長に心から感謝申し上げます．さらに，長期間にわたって積極的な御援助とご理解をいただいた文部省高等教育局学生課に深甚の謝意を表します．また，一連の白書作成に誠意をもって御協力いただいた九州大学学務部及び総合理工学等事務部佐藤秀規教務課長，保健掛の方々，同大学健康科学センター宇都宮弘子保健婦ならびに事務補佐員實藤美帆さん，成水貴代さんに心から感謝の意を表します．

平成10年6月

国立大学等保健管理施設協議会
学生の健康白書作成に関する特別委員会
委員長　川　崎　晃　一

国立大学等保健管理施設協議会
学生の健康白書作成に関する特別委員会組織

委員長	川崎晃一	九州大学 健康科学センター教授
顧問	松山恒明	宮城教育大学 保健管理センター教授
副委員長	鈴木修二	静岡大学 保健管理センター教授
〃	中島潤子	茨城大学 保健管理センター教授
委員	本間行彦	北海道大学 保健管理センター教授
	三浦幸雄	東北大学 保健管理センター教授
	豊岡照彦	東京大学 保健管理センター教授
	佐藤祐造	名古屋大学 総合保健体育科学センター教授
	森下玲児	京都大学 保健管理センター教授
	安東明夫	大阪大学 健康体育部教授
	石井伸子	長崎大学 保健管理センター教授
	堀正士	筑波大学 保健管理センター講師
	磯田雄二郎	東京大学 保健管理センター講師
	小柳晴生	香川大学 保健管理センター教授
	澤田丞司	高知大学 保健管理センター教授
	上園慶子	九州大学 健康科学センター助教授
	武谷峻一	九州大学 中央計数施設助教授

目　　次

・序 …… 川崎　晃一

・応用研究編の発刊に当たって …… 川崎　晃一

・調査の全容（基本編より再掲） …… (1)

・調査参加大学（基本編より再掲） …… (3)

・調査の概要（基本編より再掲） …… (4)

Ⅰ．身体面の成績からの分析

1．大学生における肥満度判定の問題点　―新判定基準の提案― …… (11)
佐藤　祐造，中江　康之，大澤　　功，押田　芳治，近藤　孝晴

2．体格指数からみた血圧と高脂血症に関する集計結果 …… (18)
中江　康之，大澤　　功，押田　芳治，近藤　孝晴，佐藤　祐造

3．胸部X線検査―未だに問題の肺結核 …… (24)
本間　行彦

4．大学生における血圧の現況―定期健康診断から見えるリスク因子 …… (28)
三浦　幸雄，清水　和政，野城　孝夫

5．血液検査と喫煙との関係
―1995年の健康白書のアンケート調査によるクロス集計― …… (44)
森下　玲児

6．検血，血液生化学および身体計測成績相互間の相関 …… (47)
森下　玲児

7. アレルギー性疾患に関するアンケート調査結果 …… (52)
鈴木　修二

8. 大学生のライフスタイルと住居形態 — 自宅生と自炊生を比較して — …… (57)
上園　慶子，川崎　晃一，武谷　峻一

9. 大学生のライフスタイルと定期健康診断結果 …… (62)
上園　慶子，武谷　峻一，川崎　晃一

Ⅱ. 精神心理面の成績からの分析

1. 精神心理領域における健康調査への取り組みの変遷
— 1984 年度健康白書との比較から — …… (85)
堀　　正士

2. 「アンケート調査」から見た健康状況
— 調査項目間のクロス集計について — …… (90)
小柳　晴生，磯田雄二郎

3. 休学・退学・除籍からの補足分析 …… (99)
中島　潤子，野村　正文

4. 国立大学における過去 11 年間の死亡学生の実態 …… (110)
澤田　丞司

・あとがき …… 中島　潤子

調 査 の 全 容

1．調査の目的

この調査は，最近の学生の健康状態，傷病罹患状況等の実態を的確に把握すると同時に，学生の保健管理上の問題点を明らかにし，大学における保健管理を適正に推進するための，必要な基礎資料を得ることを目的とするものである．

学生の健康状態全般に関する第１回全国実態調査は1984年に実施され，「学生の健康白書1984」として全国の大学に配布され広く利用されている．この大規模調査は爾後10年毎に実施することが国立大学等保健管理施設協議会で決まり，今回の調査を実施する事となった．

2．調査の対象

対象は，学部を持つ95の国立大学（平成７年度現在保健管理センター設置校90大学ならびに設置予定校５医科大学）の昼間の学部学生とした．各調査項目における対象は，それぞれ学年単位（全学生，新入生，またある学年の全員など）とし，特定のグループや希望者についてのみの調査は原則として除外した．ただし，受診者すべてではなく，一部の学年（例えば新入学年）のみの調査結果しか送付してこなかった大学も数校以上見受けられたので，集計のために提出された「有効データ件数」と表現するのが正しいが，各項目の解説文や図・表の中では「受診者数」という表現を用いた．

なお，詳細は各項の冒頭に記述されている．

3．調査の項目

調査項目は「白書1984」の大規模調査データと比較検討が出来るように，身体領域，精神・心理領域のいずれもほぼ同一の項目について実施した．また，参加を希望する大学については特別調査も実施した．

Ⅰ．定期健康診断からみた健康状況－身体領域に関する調査

体格（身長・体重・肥満度），内科診察，胸部Ｘ線，尿検査（蛋白・潜血・糖），血圧検査，心電図検査，血液検査（末梢血液検査・血液生化学検査），眼科・耳鼻咽喉科・皮膚科・歯科検診など．

これまでの過去２度の白書で調査が行われた受診率については，「２．調査の対象」にも記述しているように，一部の学年のみの調査結果しか送付してこなかった大学が数校見受けられたため，正確な数字が出せなかったので，今回は断念して，有効データ件数を記載するにとどめた．しかし，すべての大学から少なくとも新入生のデータは送付されていたので，新入生の受診率のみを算出して記載した．

Ⅱ．日常業務からみた健康状況

保健管理センター受診状況からみた傷病別罹患状況ならびに傷病による要管理者の調査

III．特別調査

アレルギー性疾患調査，ライフスタイル調査

IV．精神・心理面の健康状況

精神健康調査，精神保健・心理相談，アンケート調査

V．休学・退学・除籍からみた健康状況

休学者，退学者，除籍者（死亡を含む）の実態調査，過去11年間の死因別死亡率の推移など

4．調査の時期

平成7年度（平成7年4月1日～平成8年3月31日）1年間

5．調査の方法

前述の各調査項目の調査方法については，それぞれの項目の調査結果の中で記述されている．調査は原則として，性別および年齢別（18歳から24歳までは1歳刻み）に行い，25歳以上は一括して集計した．また，4年制学部と6年制学部・学科に分けて統計処理を行った項目もあったが，その際学年制が記載されていないデータは除外した．

年齢別調査における対象者及び受診者の年齢は，すべて平成7年4月1日現在の満年齢とした．

6．調査結果の集計

I．定期健康診断のデータは九州大学で処理した．詳細は「I－1．調査の概要」の項で記述した．II．日常業務集計と，III．特別調査についてはそれぞれの項で記述している．また，精神・心理領域に相当する項（IV，V）は筑波大学，東京大学，茨城大学で分担して処理した．詳細は当該項目で記述されている．

7．調査参加大学

本調査の対象大学は，平成7年度現在保健管理センターが設置されている大学90校としたが，設置予定の医科大学5校も参加の意向を表明されたので，それらを含めて学部を持つ全大学（95校：次頁に掲載）が参加した．4年制学部を有する大学数は89校，6年制学部・学科を有する大学は44校であった．精神・心理領域に関連する調査の対象大学は6校を除いた89校であった．

各項目の調査データ提出大学数は，それぞれの調査結果の概要および表の右肩に記載した．

調 査 参 加 大 学

(95大学)

北海道大学	東京学芸大学	名古屋大学	山口大学
北海道教育大学	東京農工大学	愛知教育大学	徳島大学
室蘭工業大学	東京芸術大学	名古屋工業大学	鳴門教育大学
小樽商科大学	東京工業大学	豊橋技術科学大学	香川大学
帯広畜産大学	東京商船大学	三重大学	*香川医科大学
旭川医科大学	東京水産大学	滋賀大学	愛媛大学
北見工業大学	お茶の水女子大学	滋賀医科大学	高知大学
弘前大学	電気通信大学	京都大学	高知医科大学
岩手大学	一橋大学	京都教育大学	福岡教育大学
東北大学	横浜国立大学	京都工芸繊維大学	九州大学
宮城教育大学	新潟大学	大阪大学	九州芸術工科大学
秋田大学	長岡技術科学大学	大阪外国語大学	九州工業大学
山形大学	上越教育大学	大阪教育大学	佐賀大学
福島大学	富山大学	兵庫教育大学	*佐賀医科大学
茨城大学	富山医科薬科大学	神戸大学	長崎大学
図書館情報大学	金沢大学	神戸商船大学	熊本大学
筑波大学	福井大学	奈良教育大学	大分大学
宇都宮大学	*福井医科大学	奈良女子大学	*大分医科大学
群馬大学	山梨大学	和歌山大学	宮崎大学
埼玉大学	*山梨医科大学	鳥取大学	宮崎医科大学
千葉大学	信州大学	島根大学	鹿児島大学
東京大学	岐阜大学	島根医科大学	鹿屋体育大学
東京医科歯科大学	静岡大学	岡山大学	琉球大学
東京外国語大学	浜松医科大学	広島大学	

(註)

1．大学の順序は文部省高等教育局大学課監修「平成7年度全国大学一覧」による．

2．＊印を附した医科大学5校は平成7年度の時点で保健管理センターが未設置であったが，身体面の調査への参加をお願いした．

調　査　の　概　要

本報告書で調査の対象としたのは，前回の「学生の健康白書1984」（以下「白書1984」とする）と同じ学部学生の定期健康診断結果であり，学部を持つ国立大学（全95大学）の平成7（1995）年度のデータである．しかし，前回は各大学で項目別に集計された資料を全国集計して作成されたが，今回の「学生の健康白書1995」は各大学から定期健康診断結果をそのまま「1レコード＝1学生（原データ）」の形式で，電子的媒体で提出してもらい，それを基に作成した．

前回との最大の相違点はこの調査方法の違いにあるので，本章ではその調査方法とデータの概要について述べる．なお，調査項目については，本章末に添えている白書用の定期健康診断調査項目**［資料1］**および定期健康診断票**［資料2］**を参照のこと．以下，項目は［　］で，その値は“　”で示す．

1．1　データの収集

全95大学の保健管理施設より，1995年8月から1996年8月の1年1ヶ月にわたってデータの提出を受けた．

しかし，図1．1に示すように大学によって定期健康診断処理の電算化の進み方が異なっていたため，その提出の形態は表1．1および以下に示すように多岐多様にわたった．

- 提出媒体：5”/3.5”フロッピーディスク（FD），磁気テープ（MT），光磁気ディスク（MO），電子メール（E-mail），白書用統一診断票，白書用データシート，自大学診断票（コピー）
- ファイル形式：固定長テキスト，コンマ区切り可変長テキスト，各種表計算やデータベースソフトウェアのファイル，ワードプロセッサソフトウェアのファイルなど
- レコード書式：委員会で定めた白書統一書式，統一書式の未実施検査を省略した書式，自大学の診断票の書式

また，同じく主に大学によって電算化の対応などが異なるなどの理由により，提出されたデータの内容は，

- 対象となる受診者のデータが必ずしも全て提出されてはいない，
- 調査対象以外の学生（大学院生，短大生，研究生など）や，受診していない学生（全項目未受診）も含まれている．
- 値の記載漏れや記入ミスについて，当該大学で十分なチェックがなされていない，

など，大学によって様々な対応がとられていた．すなわち，「各大学からは，いわば生のデータがそのまま提出された」ことになった．しかし今回は，今後のこうした調査の基本的な調査法の礎となるよう，全95大学から電子的媒体で提出していただくことに主眼を置いたため，上に掲げたような内容の質に関する統一した対応までを各大学に強いることは避けた．

この結果，大学によって在籍学生，定期健康診断の対象となった学生，提出したデータの扱いに様々な違いがあり，一般的にはこれら集合と有効データ（次に述べる整備を終えた後のデータ）の間の関係は図1．2のようになる．

1．2　データの整備

データの整備や修正にあたっては，以上のことを考慮して，

- 提出件数316,734件という大量データなので，

個々に診断票を繰ったり学籍簿を調べることは不可能に近い．そこで，補完や修正は，コンピュータで論理的に行えることや大学に問い合わせて一括して行えることに限定する．

・学籍項目や［性別］，［生年月日］などの基本項目にも記載漏れや誤りが存在する．本報告は学生の健康状態の調査であることから，集計の基本分類は［年齢］と［性別］とし，この2項目がそろっているデータのみを対象とする．

の基本方針を立て，以下の手順で整備した．

まず，個々の大学別にワークステーションやパーソナルコンピュータ上で，

1．様々なファイル形式のものを全てコンマ区切りの可変長に変換し，あるデータベースソフトのファイルに変換．

2．自大学の診断票の書式や一部省略された統一書式のものを白書用の統一書式に変換し，和暦の［生年月日］を西暦に変換．

3．重複レコードと空レコードを削除．

4．［大学コード］を付加し，［学年制］や［学部コード］の整合性を文部省高等教育局大学課監修「平成7年度 全国大学一覧」で調べて修正．

5．基本的な項目や検査環境の項目（例えば［測定法］や［診察医］など）が欠落している場合，各大学へ問い合わせて補完し修正．

を行った．その上で汎用計算機に移して全95大学のデータを統合した．それに対して，

6．非数値項目の設定した値集合に含まれない値を削除．数値項目の入力ミスなどによる極端に異常な値を排除するために，数値項目ごとにヒトの値としての許容範囲（表1．2参照）を設定し，それを外れる値を削除．

7．各科の検査結果項目が全て“空”の場合の検査環境の項目（［診察医］，［測定法］など）の値を削除（ただし，値“未受診”は除く）．こうした検査環境項目は，大学ごとに一括記入されている場合が多かったため．

8．各科の検査の個別項目に“異常あり”があるのに，その総合［結果］項目が“空”か“異常なし”の場合，これを“異常あり”に修正．

9．［生年月日］から1995年4月1日現在の［年齢］，および［身長］と［体重］からの［BMI］の2項目を新たに計算で付加．

10．対象となっていない学部学生以外（大学院生，短大生，研究生など），［年齢］か［性別］のいずれかが不備，および全項目未受診のレコードを削除．

を行った．

したがって，本報告書で対象としたデータは，これら処理を行った上で最終的に有効であった，

・学部学生，

・［年齢］と［性別］が共にある，

・少なくとも1項目は受診項目がある，

学生のレコードに限定された．

こうして整備し抽出した有効データではあるが，一般的には「正常と思われる値にもミスがあることも考えられ，また当然記入があるべき値が欠落していることもある」ということになる．しかし，統計学によると，今回のような大量データの場合，こうしたミスや異常値の混入の程度を測る目安としては，

・正規分布の場合は平均±3σ（平均値の左右に標準偏差の3倍の範囲）で99.73%を覆うが，正規分布をすると思われる項目でこの範囲を外れる件数が1%を越えると問題がある．

・正規分布をすると思われる代表的な項目で確かめれば，他の分布をする項目も含め全体の信頼性はそれと同程度とみてよい．

とある．今回の数値データで正規分布をなすと思われる代表的な項目としては［身長］があるが，整備後の［身長］の平均±3σを外れる件数の割

合は，男（総数177,586）で0.44%以内，女（総数87,151）で0.38%以内であり，この基準を満たした．

1．3　データの概要

別途各大学へのアンケート調査を行って調べた同年度の定期健康診断の対象学生数とこの有効データの件数の関係は，表1．3に示す通りである．また，対象学生の学年制および入学年度別の数は表1．4に，一方有効データの年齢別の件数は表1．5に示す．

保健管理施設協議会としては，定期健康診断を実施する立場から，［学年制］，［学年］，［入学年度］などの学籍項目で分類し，前回の総合白書にあるような受診率等のデータも得られるのが望ましい．しかし，先に述べたように，提出されたデータにはこうした基本項目にも不備があり，さらに**全ての受診者のデータが提出されていない**ため，残念ながら有効データをこうした学籍項目で分類してもその数の持つ意味が不明確であり，今回は受診率を出すことができなかった．また，［学年制］に関しては複数の学年制が混在する学部の存在，［学年］に関しては大学や学部での捉え方の違い，［入学年度］に関しては編入生に対しての扱いの違い，などがあり，こうした学籍項目が健康を分類する尺度として適切か否かという疑問がある．

ただ今回，1995年度入学の新入生に関してはほとんどのデータが提出されており，［年齢］や［性別］が不備で若干除かれたものがあるものの，**この入学年度の有効データ件数はほぼ受診者数に近い（有効データ件数＜受診者数）と思われる．**そこで，受診率の参考までに，この有効データ率（有効データ件数÷対象学生数）の分布を表1．6に掲げた．この新入生の有効データ率は，6年制学部で低く，また大規模大学で低い傾向があった．また，一般に受診率を知りたい場合は，平成5年度調査［資料3］の受診率を参照されたい．

本章に続く第2章から第9章までは，以上に解説した**有効データ**に基づいて医学的分析を行っている．なお，実際には，報告書作成にあたってさらに各検査項目ごとに項目値の分布を大学別に調べて，分布がおかしいものは当該大学への問い合わせを行った．その上で，特殊な受診者（過去に異常があった学生，体育会系サークルの学生など）のみを対象にした検査項目はその検査項目を大学ごとに排除して集計した．また，定期健康診断の実施状況に関するアンケートからの情報や他項目の集計結果からの情報なども，当該項目の集計を補完するデータとして採用している場合もある．これらは担当の委員が専門的知識に基づいて行い，その措置については該当する各章で明記している．

すなわち，本報告書は，**最終的に整備した有効データ**を基にして，さらに医学的見地からの取捨選択や補完を行い，より精選した集計に基づいて作成している．

〔武谷峻一，川崎晃一〕

この項は基本編よりの再掲なので，資料1～3は基本編を参照のこと．

表１．１　データの提出形態

方法		電子的媒体で提出†						紙で提出‡	
書式		統一書式			自大学書式			統一	自大
媒体		FD	MT	E-mail	FD	MT	MO	(FD)	(FD)
ファイルの形式	固定長テキスト	22	8		9	1	1	12	5
	可変長テキスト	4			1				
	ＤＢソフト−a	2			3				
	ＤＢソフト−b	2			3				
	表計算ソフト−a	11		1	3				
	表計算ソフト−b	1			1				
	他	1			4				
計		52校			26校			17校	

† ：自大学で作成または自大学で入力外注．‡ ：九大で入力外注しFD化．
FD：フロッピーディスク，MT：磁気テープ，MO：光磁気ディスク．

表１．２　数値項目の許容範囲

項　　目　(単位)	記載桁数	下限	範囲	上限
身長(*cm*)	*nnn.n*	130.0	≦ ≦	220.0
体重(*kg*)	*nnn.n*	30.0	≦ ≦	160.0
BMI	*nn.n*	10.0	≦ ≦	50.0
収縮期血圧(*mmHg*)	*nnn*	70	≦ ≦	250
拡張期血圧(*mmHg*)	*nnn*	30	≦ ≦	160
脈拍(拍/分)	*nnn*	40	≦ ≦	150
血色素(*g/dl*)	*nn.n*	5.0	≦ ≦	20.0
赤血球数($\times 10^4/mm^3$)	*nnn*	200	≦ ≦	700
ヘマトクリット(%)	*nn.n*	20.0	≦ ≦	70.0
白血球数($/mm^3$)	*nnnnn*	2000	≦ ≦	15000
総コレステロール(*mg/dl*)	*nnn*	50	≦ ≦	350
GOT(*IU/l*またはカルメン単位)	*nnn*	0	≦ ≦	999
GPT(*IU/l*またはカルメン単位)	*nnn*	0	≦ ≦	999
γ−GTP(*IU/l*またはカルメン単位)	*nnn*	0	≦ ≦	999
尿酸(*mg/dl*)	*nn.n*	0.5	≦ ≦	12.0

表１．３　平成７（1995）年度定期健康診断の対象学生数と有効データ件数

	総　数	男	女	調　査　法
対象学生数	461,862	318,343	143,519	各大学へのアンケート調査
有効データ件数	280,493	187,314	93,179	電子的媒体による原データ収集

表１．４　学年制および入学年度別の対象学生数

・4年制　[89校集計]

入学年度	総数	男	女
総数	430,814	296,160	134,654
平成７(1995)年度	102,987	67,617	35,370
6(1994)年度	102,962	69,682	33,280
5(1993)年度	100,870	67,594	33,276
4(1992)年度	101,256	70,878	30,378
3(1991)年度以前	22,739	20,389	2,350

・6年制　[46校集計]

入学年度	総数	男	女
総数	31,048	22,183	8,865
平成７(1995)年度	5,098	3,322	1,776
6(1994)年度	4,790	3,298	1,492
5(1993)年度	4,975	3,394	1,581
4(1992)年度	5,037	3,668	1,369
3(1991)年度	5,030	3,709	1,321
2(1990)年度	4,943	3,742	1,201
元(1989)年度以前	1,175	1,050	125

表１．５　年齢別・性別の有効データ件数　[95校集計]

年齢	総数　(%)	男　(%)	女　(%)
総数	280,493 (100.0)	187,314 (100.0)	93,179 (100.0)
18歳	66,180 (23.6)	40,090 (21.4)	26,090 (28.0)
19	57,965 (20.7)	38,708 (20.7)	19,257 (20.7)
20	46,712 (16.7)	30,476 (16.3)	16,236 (17.4)
21	62,996 (22.5)	40,558 (21.7)	22,438 (24.1)
22	27,574 (9.8)	21,732 (11.6)	5,842 (6.3)
23	9,714 (3.5)	8,090 (4.3)	1,624 (1.7)
24	3,899 (1.4)	3,251 (1.7)	648 (0.7)
25以上	5,453 (1.9)	4,409 (2.4)	1,044 (1.1)

表１．６　平成７（1995）年度入学生の有効データ率の分布

[95校集計]

有効データ率	校数　(%)
総数	95 (100.0)
0～ 9%	
10～19%	1 (1.1)
20～29%	
30～39%	
40～49%	1 (1.1)
50～59%	2 (2.1)
60～69%	3 (3.2)
70～79%	5 (5.3)
80～89%	10 (10.5)
90～99%	58 (61.1)
100%	15 (15.8)

$$\text{有効データ率} = \frac{\text{有効データ件数}}{\text{対象学生数}}$$

新入生の有効データ件数は受診者数に極めて近いと思われるので，ここに示す有効データ率から受診率を推定できる．

学部を持つ国立大学　95校	電算化済　41	大型汎用機　3			
		パソコン等　36			
		両方　2			
	電算化未　54	予定あり　30	⟹	具体的　7	
		予定なし　24		未定　23	

図１．１　定期健康診断処理の電算化状況（1994年秋調べ）

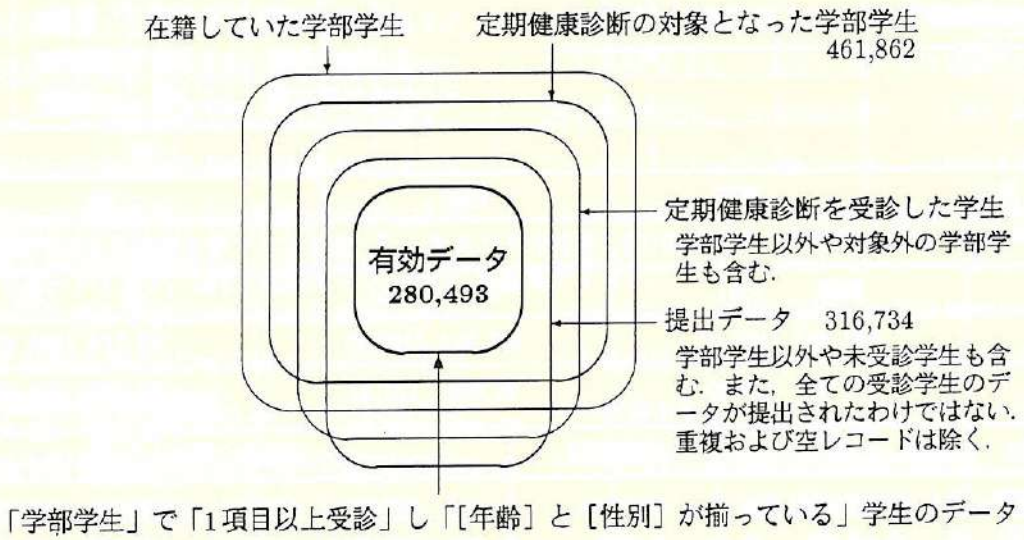


図１．２　学生数とデータの関係

Ⅰ．身体面の成績からの分析

1. 大学生における肥満度判定の問題点

— 新判定基準の提案 —

1.1 BMIによる肥満度判定の問題点

私（佐藤）は「健康白書1995委員会」において「肥満」の項を担当した．また，第35回全国大学保健管理研究集会（鹿児島）においても，健康白書に関するシンポジウムが企画され，「身体計測—痩せと肥満を中心に」を発表させていただいた．

肥満の判定には，以前はブローカー指数（桂変法）が我国では普及していたが，後述するような問題点があり，現在日本肥満学会では，国際的に通用する体格指数としてBMI（Body Mass Index）を用いるよう勧告している[1]．そこで，今回の「健康白書1995」においては，BMIを用いて集計を行った（前回の「健康白書1990」（戸田安士委員長））においてもすでにケトレー指数として用いられている）．その結果，男子ではBMI 22kg／㎡を正常とした－10％（BMI20）未満のやせが23.2％，24以上，26.4未満の過体重13.3％，＋20％（26.4）以上の肥満が5.3％となった．女子ではやせ38.9％，過体重6.2％，肥満1.6％となった（図1.1）．申すまでもなく，学生の定期健康診断は，検査を行い，その結果を知らせるだけでなく，異常者には，精密検査の指示を行ったり，食事，運動をはじめとする事後指導を行うという健康教育の実践の場である．ところが，今回の「健康白書1995」では，男子では，やせ，過体重，肥満の合計が38.1％，女子での合計は46.8％となり，男子では5名中2名，女子では半数近くが「正常ではない」と判定される結果となった．

私は自分自身の専門性から「日本肥満学会」には創立以来（それ以前の母体の肥満研究会から）参加し（同学会の評議員，1997年より常務理事），「肥満症—診断・治療・指導のてびき」（医歯薬出版，1993）[1] および「肥満・肥満症の指導マニュアル」（医歯薬出版，1997）[2] の出版にも共同執筆者となっている．この2冊の本には，日本肥満学会による肥満の判定基準としてBMI 22を標準体重とする根拠として次の成績が述べられている（前者の17ページ，後者の2ページ）．「徳永らは，地方公務員の男子約3,500人の検診結果から，BMIを指標として各種の疾病・異常の有無を調べた．

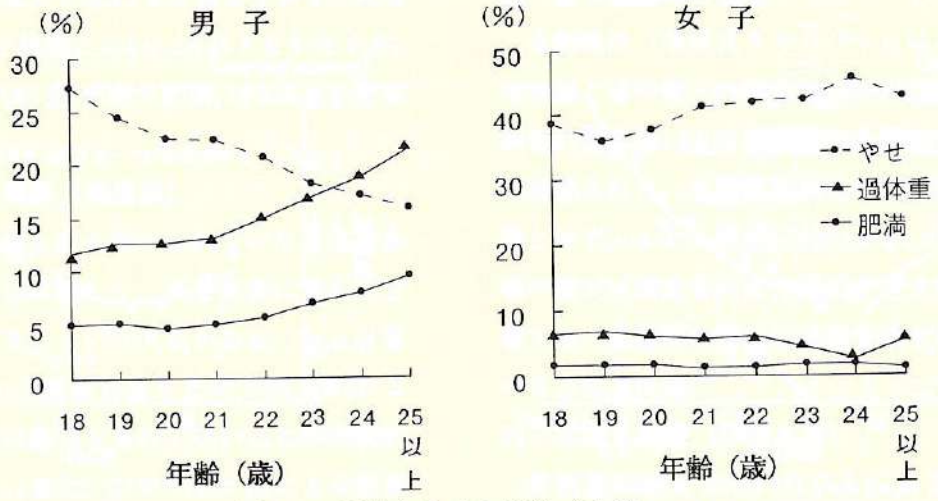


図1.1 肥満とやせの推移（BMI）

その結果，異常の合計点とBMIの数値との間に一定の関係があり，各種の疾病・異常の合併率が最も少ない点は，BMIが22.2であることを見い出した．この事実に基づき，理想体重＝標準体重＝身長(m) ×身長(m) ×22が日本肥満学会によって提言された」[1,2]．

名古屋大学においても，1973（昭和48）年から定期健康診断時に肥満精密検査を行ってきたが，肥満の判定基準として，以前はブローカー指数（桂変法）を用いていた[3,4]．しかし，現在では，日本肥満学会の勧告に従ったBMIに基づく基準を用いている．

「健康白書1995」の肥満の項の集計においても，日本肥満学会の判定基準に従い集計した．その結果，先述のように，肥満者の比率は男子では5.3%，女子では1.6%となった．しかし，やせに関しては，男子23.2%，女子38.9%と，男子では4人に1人，女子では5人に2人が「異常」と判定される結果となり，少なくとも20歳前後の男，女の体格の判定基準としてBMI 22を用いることは必ずしも適切ではないと感じていた．

その後（平成9年12月15日），厚生省班会議「日本のBMIに関する研究（主任研究者　国立健康・栄養研究所，井上修二部長）」の場で，徳永勝人博士（阪大二内→市立伊丹病院）にこの点を問いただしたところ，BMI 22という正常値の根拠は30歳から59歳の男子，女子，合計4,565名について検討を加えた結果であり，20歳前後を対象とした調査成績ではないとの返答であった．この点に関しては，日本肥満学会肥満症診療のてびき編集委員会編集の前述の2冊のテキスト[1,2]にもその点の記載がないので，徳永らの国際肥満学会誌[5]に掲載されている論文の要旨をここで紹介する．

徳永ら[5]は，3,582名の日本人男子（30-39歳749名，40-49歳1,905名，50-59歳928名）および日本人女子983名（30-39歳395名，40-49歳340名，50-59歳248名）の合計4,565名を対象とし，1987年4月から1988年3月迄に身長，体重と疾病・異常の罹患率との関係について検討を加えた．男子は大阪府職員であり，消防署職員のように，激しい身体活動を伴う業務に従事している者から事務職，教師など多くの職種が含まれている．女子は主婦である．これらの対象者が肺疾患，心疾患，上部消化管疾患，高血圧，腎疾患，肺疾患，高脂血症，高尿酸血症，糖尿病，貧血という10種の疾患に罹患にしているか否かと肥満度との相関関係について検討を加えた．その結果，男子についてはy＝0.0186x²－0.824x＋11.2，女子ではy＝0.0167x²－0.733x＋8.92というJカーブが得られた（図1.2）．このJカーブにおいて，

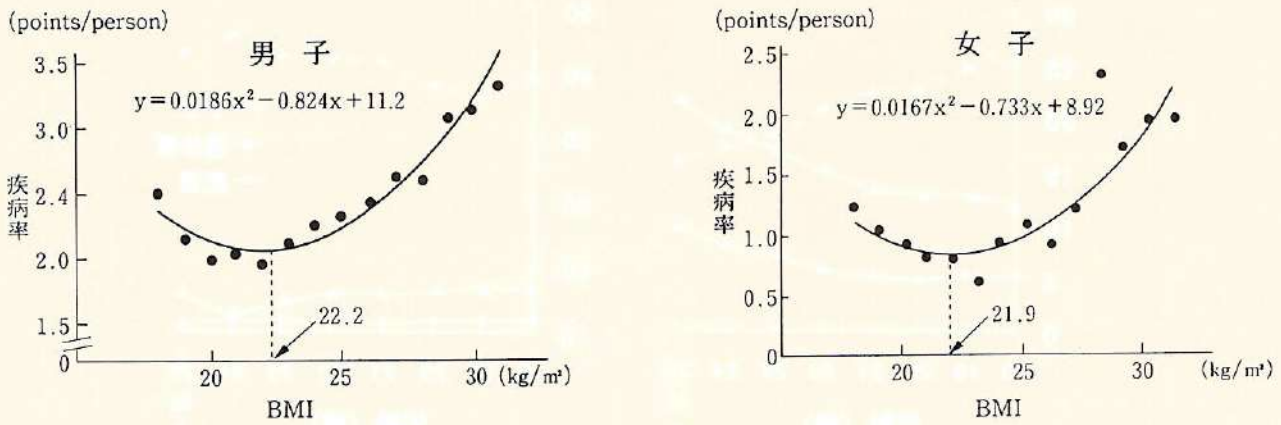


図1.2　BMIと疾病指数との関係（徳永ら[5]，1991）

男子の罹患率はBMI22.2kg／㎡，女子では21.9kg／㎡がそれぞれ最低値を示した．

以上の事実を踏まえて，徳永，松澤ら[5]は22×身長（m）^{2}を理想体重であると提案し，この勧告は30-59歳の人々に適用可能であると述べている．

このように論旨は明解で，しかも30-59歳という適用年齢のあることがオリジナルペーパーには明記されている．しかし，日本肥満学会のテキストはこの点に関して記載がなく[1,2]，誤解されていることも少なくないものと思われ注意を要する．

1.2 肥満度，体脂肪量の測定法の比較

そもそも肥満とは，身体に占める脂肪組織（体脂肪）が過剰に蓄積した状態と定義されている[1,2,6]．

したがって，肥満の判定には，1）標準体重を求め，それより過剰の体重のものを肥満と判定する方法と，2）体脂肪量の測定を行い，体脂肪量が過剰であることを確認するという2つのアプローチがあり，両者を組み合わせることが望ましい[1,2,6]．

1.2.1 標準体重による肥満の判定

1） BMI（ケトレー指数，カウプ指数）

上述のように成人では22を正常とするが，乳幼児期では，カウプ指数といい，14以下をやせすぎ，15-18が正常，18-20がやや肥満，20以上を肥満と判定する．

2） ブローカー指数（桂変法）

従来わが国で最も広く用いられていた方法であるが，低身長者には厳しく，高身長者に対して甘い判定をしてしまうという欠点がある[1-3]．計算式が容易であり，簡便であるという利点があるが，疫学的根拠に基づくものでないことが学問的に問題視される．また，ブローカー法による肥満の判定は，我が国独特のものとなっており，国際的な比較や研究論文の指標としては不適当といわざるを得ない．

3） 厚生省による日本人の肥満とやせの判定基準

日本人の成人約2万人の実測値に基づき，身長別に「太りすぎ」，「太りぎみ」，「ふつう」，「やせぎみ」，「やせすぎ」の判定表が作成されている．

4） 明治生命体重表

塚本氏らが，明治生命の保険加入者，延べ1,240万人を最長11年間観察して，身長別体重の追跡調査を行い，作成したものである．適応年齢が30-69歳に限定されているが，膨大な資料をもとに最も死亡率が少ない理想体重を設定したという点で高く評価されている．標準体重の＋10％以上を要注意域，＋20％以上を要精密検査域，＋30％以上を要危険・治療域としている．

米国のメトロポリタン生命保険会社の標準体重表の概念，すなわち，最低死亡率原則（principle of lowest mortality）の考え方に準拠し，日本人の資料によって作成されたものである．

1.2.2 体脂肪量（率）による方法

1） 体密度法

アルキメデスの原理を応用し，水中で計測した体比重（体密度）から体脂肪量を測定する．体重測定装置を備えた水槽（プール）が必要である．

2） 皮下脂肪厚の測定

皮脂厚計（栄研式キャリパー）により上腕背側中央部と肩甲骨下内縁の2カ所の皮脂厚を測定し，両者の加算値により体脂肪率を推定したり，肥満の判定を行う．皮脂厚計以外には特別の装置を必要とせず，しかも簡便に行いうる．しかし，皮脂厚の測定は測定者により誤差が大きいので注意を要する．皮脂厚の測定には超音波や近赤外線を用いる方法もある．

3） 二重X線法（DEXA法）

骨塩量の測定に用いられる二重X線法（dual energy X-ray absorptiometry，DEXA法）を

応用して，体脂肪量，除脂肪量，体脂肪率を求める方法である．測定精度は高いが，特別の装置を要する．

4） インピーダンス法

体の電気抵抗（インピーダンス）が，体内の水分量と脂肪量により異なることを測定原理としている．すなわち，身体に微少な高周波電流を流し，生体インピーダンスを求め，体脂肪量を測定する．

具体的には，性別，身長を入力後，素足で測定器に乗れば，微少な高周波電流が一方の足より他方の足へ流れ，インピーダンス値が測定され，体重と体脂肪率，体脂肪量が表示される（両手で握る方式の器機もある）．

簡便に行いうるが，運動，入浴や下痢等により体内の水分バランスが乱れている場合等では，測定値に誤差を生じるので注意を要する[7]．

大野[7]によれば，人体のインピーダンスは時々刻々変化しており，早朝空腹時は最も不安定で，しかも上昇している．通常インピーダンスが最も安定するのは，昼食後2-3時間を経過した時点であり，この時間帯に最も正確に体脂肪量を測定しうるという．

健康診断等では，必ずしも午後に体脂肪測定を行いうるとは限らないが，同じ条件で決まった時間帯に測定することがより正確に体脂肪率を測定するコツといえよう．

また，肥満は体脂肪の分布状態から，上半身（リンゴ型）肥満と下半身（洋梨型）肥満とに分けられる．前者には，糖尿病，高血圧症，高脂血症などの合併率が高頻度であることが判明している[1,2]．さらに，松澤（阪大二内）ら[8]は，上半身肥満の中でも腹部内臓臓器の周囲に脂肪が貯まる内臓脂肪型肥満が腹壁の皮下に脂肪が貯まる皮下脂肪型肥満よりも合併症の頻度が高い事実を強調しており，「内臓脂肪症候群（visceral fat syndrome）という概念を提唱している．

これらの評価には，ウエスト／ヒップ比（男子1.0以上，女子0.9以上），腹部CTスキャン法（内臓脂肪（V）／皮下脂肪比0.4以上）を実施しなければならないが，大学生の健康診断レベルでは実施が困難であろう[1,2]．

1.3 大学生の肥満度判定法

先述のようにBMI 22を標準体重とした判定基準は30-69歳に適用されるのであり[5]，20歳前後の大学生の肥満度の判定に用いるのは必ずしも望ましくないこととなる．

「健康白書1995」における男子（総数）の身長（cm）の171.39と体重（kg）64.21よりBMIを計算したところ21.7であった（表1.1, 2）．女子（総数）では，それぞれ158.63, 52.03であり，BMIは20.7と計算される．また，18歳の男子，女子についても，BMIはいずれも同値となった．

したがって，BMI 22という正常値を用いれば，男子の肥満判定では，ほぼ妥当な数値が得られるが，女子では，肥満者の数を少なく判定することとなる．

一方，るいそうに関しては，93年発行の「肥満症」ではBMI 20未満[1]を，97年発行の「指導マニュアル」では19.8未満としており[2]，一致していないが，いずれもBMI 22の−10％という発想である．

その結果，男子では23.2％，女子では38.9％が「やせ」と判定されることとなった．このように，判定される該当者に精密検査を行っても，異常者はほとんどなく，「正常」でないと判定される者の比率が30-50％近くにも増加するのは必ずしも好ましくない．

「健康白書1984」において用いられた厚生省「肥満指導の手引き」（昭和61年）では，2万人の実測値による身長別体重基準値の−20％以下を「るいそう危険域」としており，この基準を用いれ

ば，男子の6.8％，女子では13.9％とほぼ妥当な数値が得られている（図1.3）．

以上，数値の国際性等を考慮に入れれば，大学生の肥満度の判定にも，BMIを用いるべきであろう．しかし，やせの判定，ことに女子で異常者の比率が大きくなることが問題点として残されるものと思われる．

現時点においては，下記の判定基準，指導方針とすることを提案したい．

①肥満の判定には，男女ともBMI 26.4（BMI 22の＋20％）以上を用いる．

②やせの判定には，男子では17.6未満（22の－20％），女子では16.6未満（20.7の－20％）を用いる．

肥満者，るいそう者いずれも，身体面で健康に関しての「異常者」として食事，運動等ライフスタイルを中心とした健康教育，事後指導を行う．

欧米諸国ではBMI 30以上をobesity（肥満者）とする傾向にあり，一方，日本では25以上とすべきという議論もある（26.4ではなく，27以上にすべきとも）．

既に私共[4]は小規模の追跡調査を実施しているが，大学生においても，肥満度と有病率との間については，可能ならばPaffenbarger study[9]のような長期追跡調査を実施し，20歳前後のBMIの正常値，要管理基準の設定の必要性を強調しておきたい．なお，共同研究者中江のクロス集計によれば，高血圧と肥満度との間には興味ある知見が得られており（本書別稿），いずれにしても，対象者

表1.1　身長の平均値と標準偏差　　[94校集計]

	男子				女子			
	受診者数	平均	標準偏差	範囲外数	受診者数	平均	標準偏差	範囲外数
総数	177,586	171.39	5.69	137	87,151	158.63	5.23	41
18歳	39,184	171.16	5.62	21	25,065	158.43	5.26	11
19	36,034	171.32	5.70	14	17,453	158.65	5.18	8
20	27,902	171.48	5.71	19	14,544	158.70	5.24	7
21	38,838	171.48	5.71	18	21,468	158.74	5.21	8
22	20,803	171.59	5.70	24	5,528	158.74	5.15	4
23	7,679	171.51	5.76	21	1,512	158.88	5.32	2
24	3,046	171.52	5.62	10	600	159.11	5.67	1
25以上	4,100	171.25	5.65	10	981	158.73	5.17	0

範囲外数：学生の健康白書1995－基本編－参照

表1.2　体重の平均値と標準偏差　　[94校集計]

	男子				女子			
	受診者数	平均	標準偏差	範囲外数	受診者数	平均	標準偏差	範囲外数
総数	178,042	64.21	9.21	89	87,313	52.03	6.65	47
18歳	39,185	63.34	9.24	14	25,025	51.98	6.75	8
19	36,026	63.89	9.16	12	17,407	52.44	6.72	11
20	27,904	64.15	8.87	14	14,497	52.21	6.67	13
21	39,043	64.32	9.14	10	21,683	51.75	6.48	8
22	20,927	64.92	9.17	18	5,576	51.81	6.49	4
23	7,747	65.68	9.48	13	1,526	51.80	6.92	2
24	3,069	66.29	9.79	4	614	51.64	6.62	0
25以上	4,141	66.87	10.07	4	985	51.70	6.23	1

範囲外数：学生の健康白書1995－基本編－参照

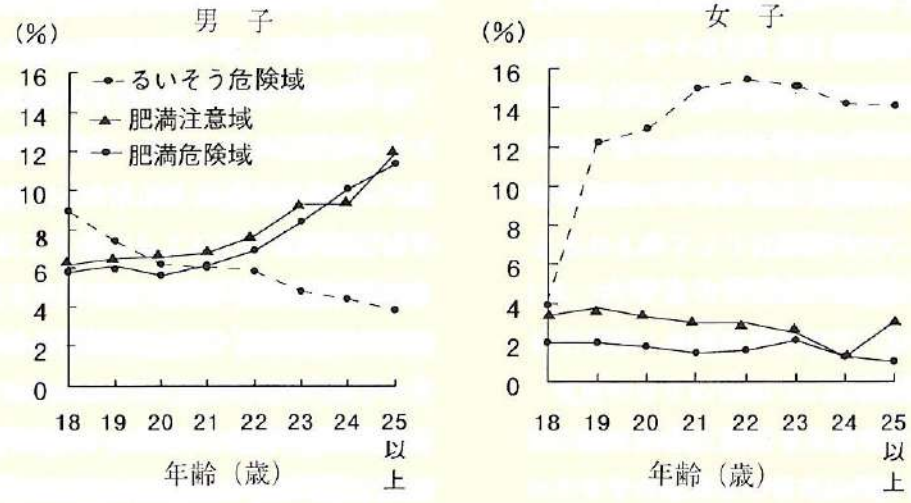


図1.3　肥満とやせの推移（厚生省）

男女合計264,430名という調査数の多さを生かした研究，提言が今後より一層活発に行われることを期待したい．

1.4　おわりに

大学生の肥満の判定基準に関して，BMI 22を正常値とする判定基準が30-69歳を適用年齢とし，20歳前後という大学生の判定基準として必ずしも適合しない点があることを述べた．

肥満は「生活習慣病」の代表例であり[10]，大学の健康診断において診断，事後指導，健康教育，ライフスタイル指導等を行うべき対象であることを強調しておきたい．

おわりに，論文の御恵送をいただきました徳永勝人博士（市立伊丹病院）に深謝致します．また，昨年と今年（平成10年）「肥満－生活習慣病」がトピックスとなっている雑誌名[11-15]（私の関係分）を参考に記しておく．

参考文献

1）日本肥満学会肥満症診療のてびき編集委員会：肥満症—診断・治療・指導のてびき，医歯薬出版，1993.

2）日本肥満学会肥満症診療のてびき編集委員会：肥満・肥満症の指導マニュアル，医歯薬出版，1997.

3）Sato Y, et al : Follow-up studies of group behavior therapy for obese Japanese patients. Scand. J. Med. Sci. Sports, 2 : 212−217, 1992.

4）Fujii T, et al : The association of physical activity level characteristics and other life styles with obesity in Nagoya University alumni, Japan. Scand. J. Med. Sci. Sports, 8 : 57 − 62, 1998.

5）Tokunaga K, et al : Ideal body weight estimated from the body mass index with the lowest morbidity. Int. J. Obes., 15 : 1−5, 1991.

6）佐藤祐造：子どもの肥満，ぎょうせい，1995.

7）大野誠：体脂肪率の計測－簡易測定器の有用性と信頼性，綜合臨牀，46 : 2083-2087, 1997.

8）Yamashita S, et al : Insulin resistance and body fat distribution : Contribution of

visceral fat accumulation to the development of insulin resistance and atherosclerosis. Diabetes Care, 19：287-291, 1996.
9) Helmrich SP et al：Prevention of non-insulin-dependent diabetes mellitus with physical activity. Med. Sci. Sports Exerc., 26：824-830, 1994.
10) 佐藤祐造：運動と生活習慣病，最新医学，53：80-86, 1998.
11) 現代医療：肥満—基礎と臨床，29（5）：942-1105, 1997.
12) 総合臨床：肥満症の基礎と臨床，46（8）．2055-2159, 1997.
13) 臨床医：治療すべき肥満とは—その分子機構と対策，23（9）：1278-1389, 1997.
14) 毎日ライフ：生活習慣病と運動不足，28（12）：12-62, 1997.
15) 最新医学：生活習慣病，53（1）：5-97, 1998.

［佐藤祐造，中江康之，大澤功，
押田芳治，近藤孝晴］

2. 体格指数からみた血圧と高脂血症に関する集計結果

2.1 はじめに

生活習慣病としての肥満，そして肥満と高血圧や高脂血症との関係について，成人において検討されている．しかしその多くは30歳以上を対象としており，大学生の中心年齢である20～25歳は含まれていない．近年生活習慣病の低年齢化が社会問題となっており，生活習慣がほぼ固定する若年成人の代表集団である大学生の肥満，高血圧，高脂血症の実態調査は，それ以後の生活習慣病の発症あるいは増加予防の点で重要と思われる．

各項目単独の結果については「学生の健康白書1995—基本編—」に記載されている．今回は，肥満度の指標として体格指数（Body Mass Index：BMI）を用い，BMIと血圧および血清総コレステロールの関係について集計，検討を行った．

2.2 対象および方法

対象はBMIと血圧，あるいは血清総コレステロールが同時に測定してある大学を対象とした．BMIによる肥満度は日本肥満学会の判定基準を，血圧の判定はWHO（1978年）のガイドラインを，血清コレステロールは日本動脈硬化学会の基準値を用いて，判定を行った．

結果は平均値±標準偏差，あるいは百分率（%）で表した．統計学的検討は，F検定，unpaired t検定，あるいはχ^2検定で行い，$p<0.05$で有意差ありとした．

2.3 結 果

2.3.1 体格指数と血圧

対象は91校，219,857名（男子146,271名，女子73,586名）であった．血圧値は，二次検診が施行されている大学については一次・二次で低い方の血圧値を，他の大学については一次検診の血圧値を用いた．

BMIを1 kg／m²ごとに区分し，各BMI区分における収縮期血圧および拡張期血圧を検討した（図2.1）．収縮期血圧はBMIが増加するにしたがい上昇した．一方，拡張期血圧はBMIが19.0～23.9 kg／m²の範囲で他の区分より低値であり，他の範囲では収縮期血圧同様BMIの増加に伴い血圧が上昇した．各BMI区分における高血圧および境界域

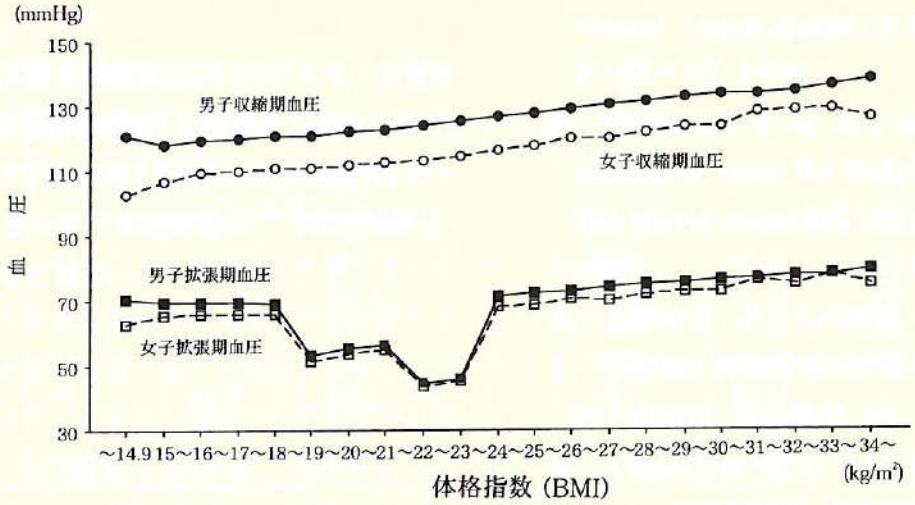


図2.1 体格指数と血圧値

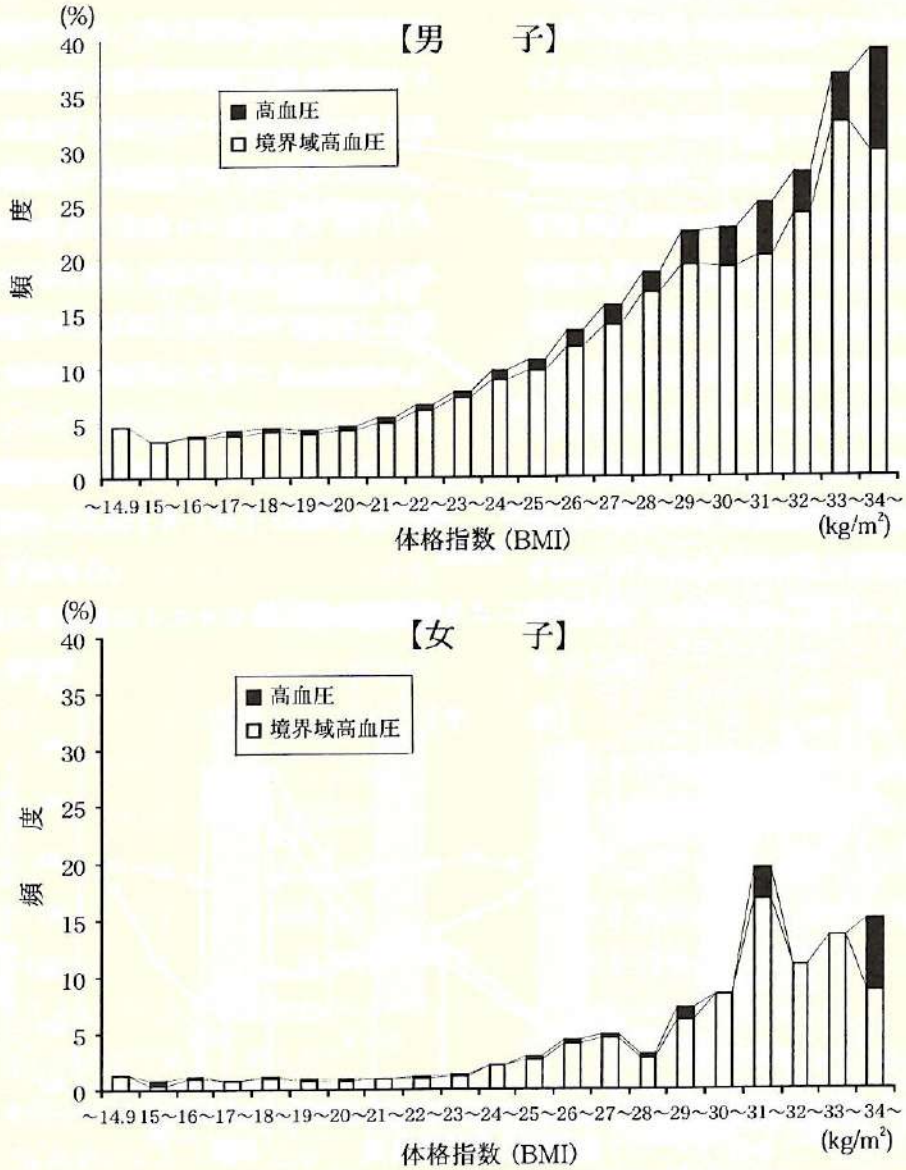


図2.2　体格指数と高血圧の頻度

高血圧の頻度をみると，BMIが21.0 kg／㎡以上になると高血圧，境界域高血圧ともに頻度が増加し，特にBMIが24.0kg／㎡以上になると急激に増加した．BMIが34.0以上の高度肥満においては，高血圧はさらに増加していたが境界域高血圧は減少していた（図2.2）．

BMI判定基準による肥満度別の血圧値および高血圧の頻度を検討した（図2.3, 4）．各肥満度における全体の収縮期血圧はやせ116.2 ± 13.0 mmHg，普通120.0 ± 12.6mmHg，過体重125.5 ± 12.1mmHg，肥満131.2 ± 12.1mmHg，拡張期血圧はやせ60.1 ± 8.7mmHg，普通51.3 ± 8.7 mmHg，過体重72.0 ± 9.2mmHg，肥満75.1 ± 9.4 mmHgであり，収縮期血圧は肥満度の上昇に伴い血圧値が上昇した($p < 0.01$）が，拡張期血圧は普通が最も低く，やせ，過体重，肥満の順に高値となった($p < 0.01$）．肥満度別の高血圧の頻度はやせ2.80％(高血圧0.25％，境界域高血圧2.55％)，普通4.39％(0.37％，4.02%)，過体重9.29％(0.86％，8.43％)，肥満19.75％(2.86％，18.56％）であり，肥満度の上昇に伴い高血圧の頻度が有意に増加した（$p < 0.01$）．

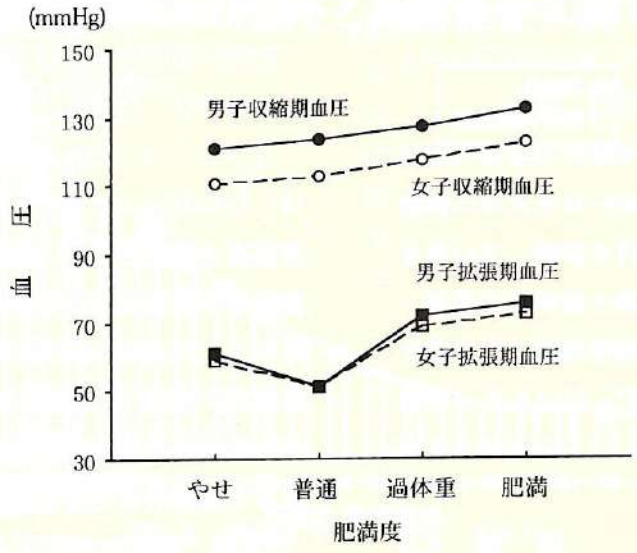


図2.3　体格指数による肥満度と血圧値

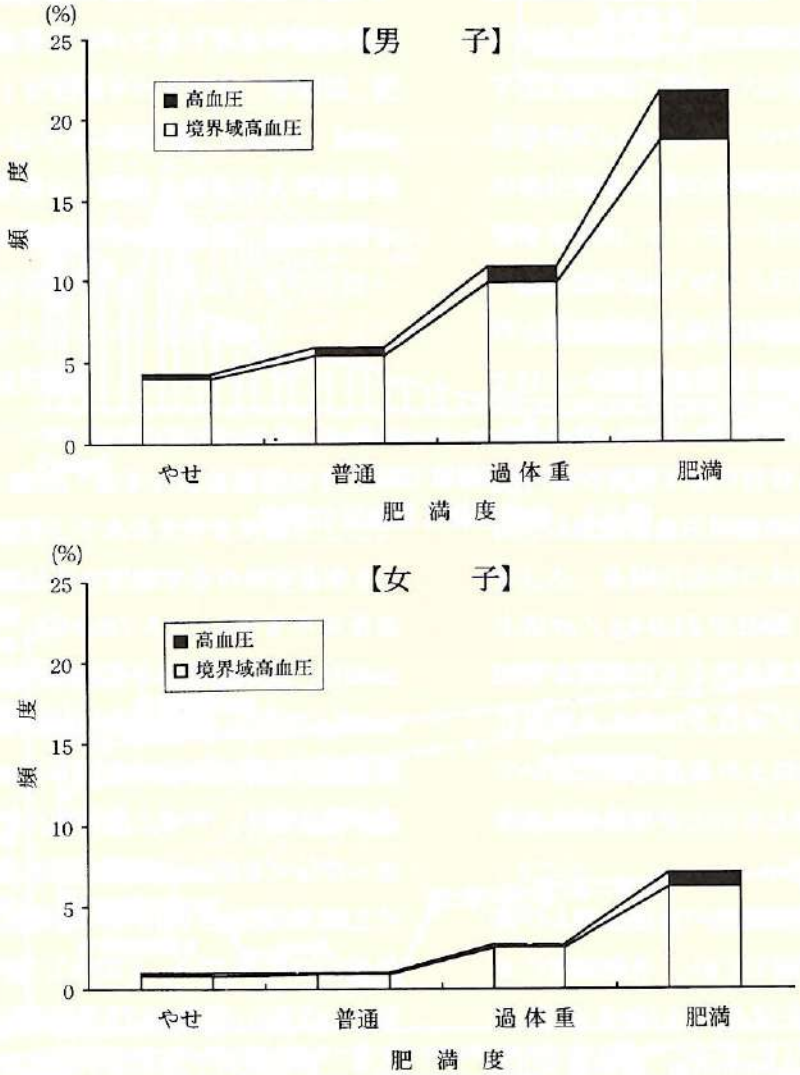


図2.4　体格指数による肥満度と高血圧頻度

男女別に検討すると，BMI別あるいは肥満度別の検討における変化の動向は男女で差を認めなかったが，男子は女子に比べすべての区分で収縮期血圧が高く，高血圧が高頻度であった（$p<0.01$）．

BMIと収縮期血圧（全体 $r=0.297$，男子 $r=0.260$，女子 $r=0.187$）および拡張期血圧（全体 $r=0.198$，男子 $r=0.180$，女子 $r=0.114$）の間には，有意な相関は認められなかった．

2.3.2 体格指数と高脂血症

対象は，18校，23,832名（男子14,573名，女子9,259名）であった．

BMI区分別に平均総コレステロール値を検討すると，男子はBMIが16.0～16.9kg／㎡，女子は17.0～17.9kg／㎡で総コレステロール値が最も低く（男子155.0±28.0mg／dl，女子174.3±29.0mg／dl），BMIがそれより低下あるいは増加するにしたがい総コレステロール値は上昇した．男女を比較すると，BMIが15.0～26.9 kg／㎡の間では，女子が男子より高値であった（図2.5）．日本動脈硬化学会の基準値である220mg／dl以上を高コレステロール血症とし，高コレステロール血症の頻度をBMI区分別に検討した（図2.6）．高コレステロール血症の頻度は，男女ともBMI 17.0～17.9 kg／㎡が最も低頻度（男子2.4％，女子9.2％）であり，BMIがそれより低下あるいは増

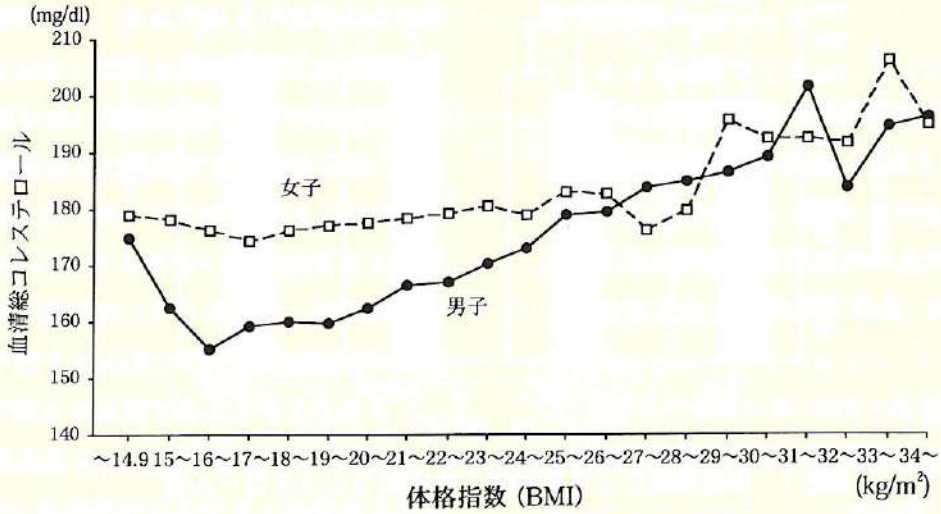


図2.5　体格指数と血清総コレステロール値

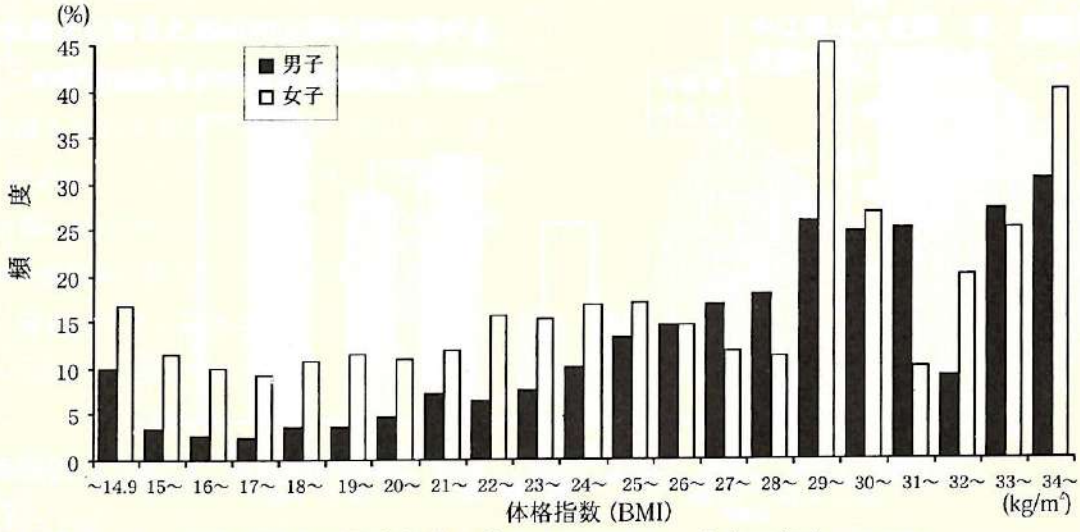


図2.6　体格指数と高コレステロール血症の頻度

加するにしたがい高コレステロール血症の頻度が増加した.

BMI 29.0～29.9kg／㎡および34.0kg／㎡以上では男女とも高率に高コレステロール血症を認めたが，男子ではBMI 32.0～32.9kg／㎡，女子では31.0～31.9 kg／㎡においては低率であった．男女別を比較すると，BMI 15.0～25.9 kg／㎡では高コレステロール血症は女子が男子に比し高率であった（$p < 0.01$）．

肥満度別の血清総コレステロール値および高コレステロール血症の頻度について検討した（図2.7, 8）．肥満度が上昇するに伴い値(やせ167.6±29.4mg／dl，普通170.7±30.1mg／dl，過体重177.4±32.0mg／dl，肥満187.4±34.1mg／dl，$p < 0.01$)，頻度（やせ7.0％，普通8.7％，過体重13.1％，肥満20.6％，$p < 0.01$）ともに有意に増加した．男女とも同様の傾向を認めた．各肥満度では，やせ，普通，過体重では女子が男子に比し血清総コレステロール値および高コレステロール血症が有意に高値かつ高頻度であった（$p < 0.01$）が，肥満では男子が高値かつ高頻度の傾向を認めた．

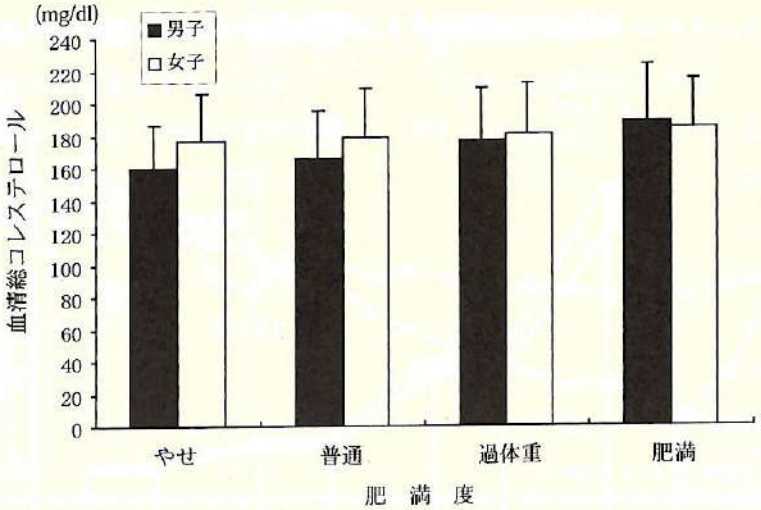


図2.7　体格指数による肥満度と血清総コレステロール値

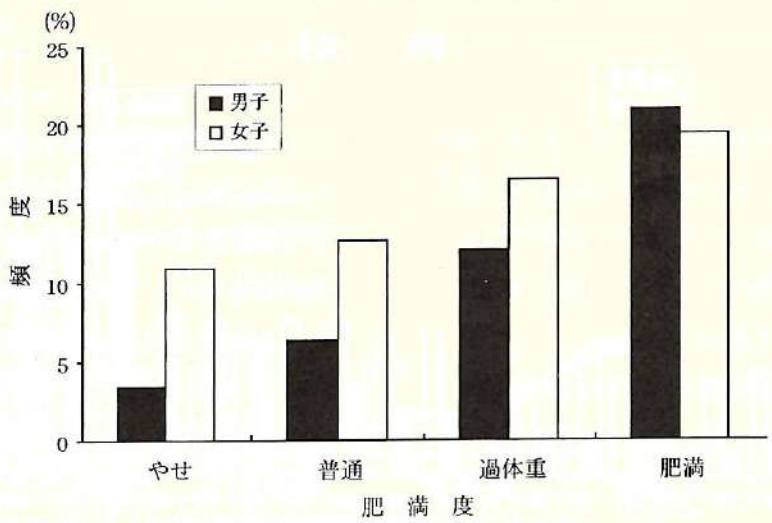


図2.8　体格指数による肥満度と高コレステロール血症の頻度

BMIと血清総コレステロール値の間には有意な相関は認められなかった（全体r＝0.147，男子r＝0.246，女子r＝0.051）．

2.4　考察およびまとめ

「生活習慣病」はその名の通り生活習慣における各種の要因（食事，運動など）により発症する疾患群である．その代表が高血圧，高脂血症，糖尿病であるが，それらすべてに肥満が関与していることは疑う余地がない．

今回のBMIと血圧および血清総コレステロール値の集計では，BMIが24.0 kg／㎡以上の過体重・肥満の範囲では，高血圧および高脂血症の頻度が急増しており，肥満と高血圧あるいは高脂血症の間には明らかに関連が認められた．30歳以上の成人を対象とした調査では，高血圧は7.1～30.5％，高コレステロール血症は19.4～69.3％であり[1]，大学生における両者の頻度は成人より低いが，今後の年齢増加に伴う高血圧，高脂血症の頻度増加を予防するには，この時期における肥満の是正および防止が重要であると考えられる．

一方，全体を見ると，拡張期血圧はBMI 19～23 kg／㎡で，血清総コレステロール値および高血圧と高脂血症の頻度は16～19kg／㎡で最低となり，それ以上になるとBMIの上昇に伴い値が上昇した．この平均値あるいは頻度の動向は，30歳以上を対象とした調査における動向と同様であるが，BMIの最低点が成人よりも低くなっている．成長期（～19歳）におけるBMIの推計基準値は16～21 kg／㎡であり[2]，BMIの正常値が決められた方法（合併症が最も低頻度のBMI）から考えると，成長期と成人期の橋渡し時期である大学生の年齢では適正BMIが成人と異なる可能性がある．

30歳以上の成人と同様，大学生においても肥満と高血圧，高コレステロール血症との関係が明らかに認められた．大学生において年齢が上昇するに伴い肥満が増加する傾向にあり[3]，大学生に対する生活・栄養指導が重要であると考えられる．

参考文献

1）厚生省保健医療局健康増進栄養課監修：平成7年版国民栄養の現状（平成5 年国民栄養調査成績），第一出版，東京，1995.

2）厚生省保健医療局健康増進栄養課監修：第5次改定日本人の栄養所要量．第一出版，東京，1994.

3）「学生の健康白書1995―基本編―」2.体格．国立大学等保健管理施設協議会，1997，pp.26－39.

［中江康之，大澤　功，押田芳治，近藤孝晴，佐藤祐造］

3. 胸部X線検査—未だに問題の肺結核

3.1 はじめに

肺結核は，1950年代の死亡率が人口10万対約150で，わが国死亡率の第1位を占めていたが，1995年にはそれが2.6にまで減少している[1,2]．一方，現代のわが国の3大死因は，癌·脳血管疾患·心臓病であり，多くの関心がそれらに向けられていることは周知である．このように，今日，肺結核は一般にはすでに過去の病気と認識されつつある．

しかし，最近になって，例えば塾や学校などにおける結核の集団発生がしばしば報告されるようになり，結核がふたたび注目されるようになった[3]．忘れられつつある疾病の再認識である．最近のエイズの増加に伴う肺結核合併率の高さの問題がそれに拍車をかけているといえよう．また，今日，O-157，エイズ，エボラ出血熱などにみられるように，再び，感染症が近未来の重大関心事になることが予想されている．

このような背景に立って，今回の大規模調査の結果から，とくに肺結核に焦点を絞り，「学生の健康白書1995-基本編-」の解説編として説明を加えてみたい．

3.2 肺結核の有病率

図3.1は，肺結核の有病率をみたものである．全例では0.04％であり，1984年の0.07％より約60％に減少している．この結果は事実と思われるが，1984年時と調査方法に若干の違いがあり，さらに検討を要しよう．

年齢別にみると，23歳以上の学生にやや高頻度の傾向がみられ，とくに男子学生にその傾向が強いが，両者で年齢構成の違いもあり，性差は強調できないかもしれない．

ちなみに，わが国の20-29歳時における活動性肺結核有病率（人口10万対）は，1984年が45.4（すなわち0.0454％），1995年が24.5（おなじく0.0245％）である[1,2]．一般住民に比して学生のそれは若干高いといえる．

3.3 肺結核の発見の状況

図3.2は，肺結核の発見の状況別にみたもので，新発生は全例で0.02％である．この数字は1984年の0.03％より少ないが，上記と同様の考察が可能であろう．

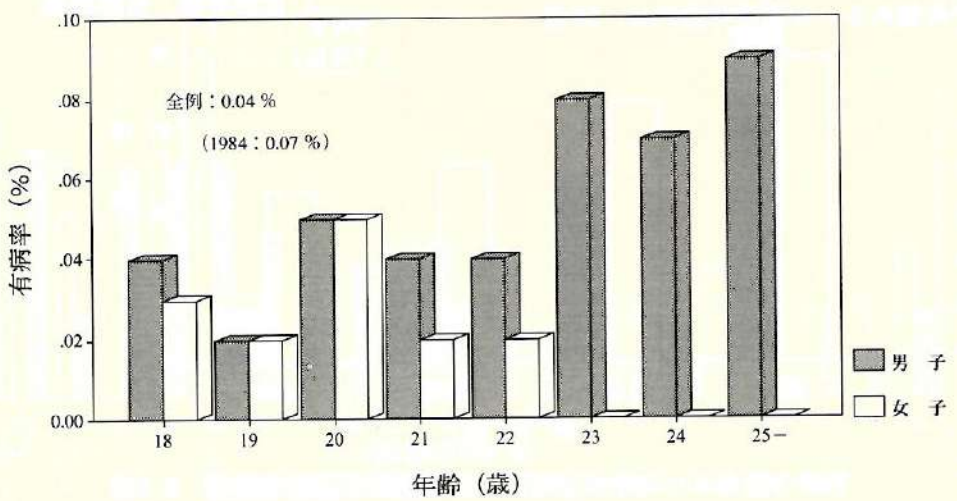


図3.1 肺結核の有病率（n＝238,953）

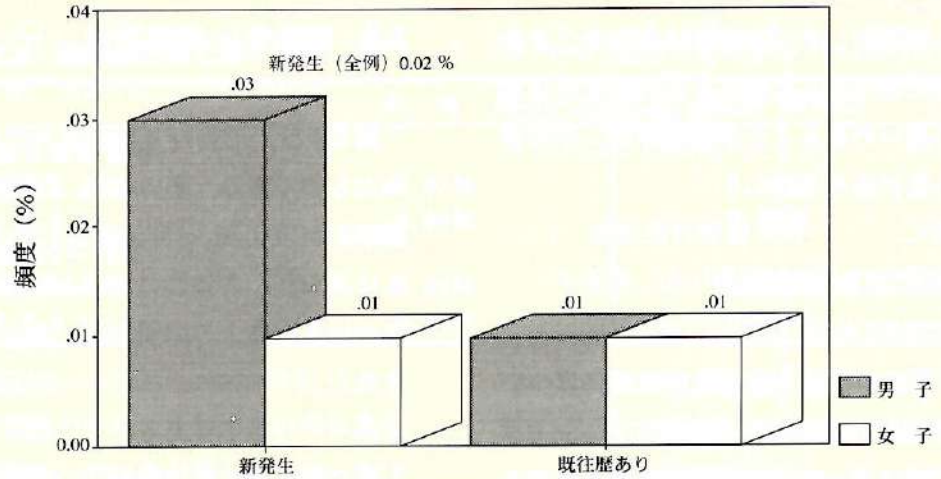


図3.2　発見の状況（n＝157,153）

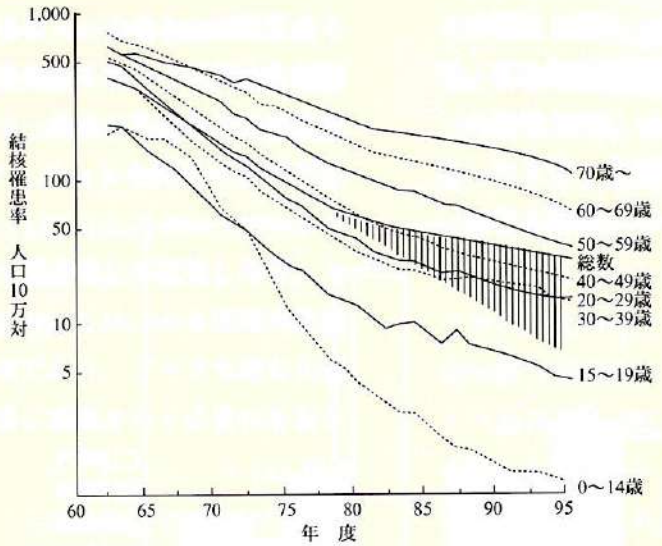


図3.3　結核罹患率の推移

これを男女別にみると女子の0.01％に比して男子が0.03％と，男子に高い傾向がみられた．

なお，一般住民同年齢の活動性肺結核罹患率（新規登録すなわち新発生，人口10万対）は，1984年が29.9（すなわち0.0299％），1995年が20.8（同様に0.0208％である）(図3.3)[1,2]．この数字では一般住民と学生との間に差はみられない．

なお，既往にすでに肺結核を有していたものは男女とも0.01％の頻度であった．

3.4　肺結核の活動性と非活動性

図3.4は，肺結核を活動性と非活動性別にみた

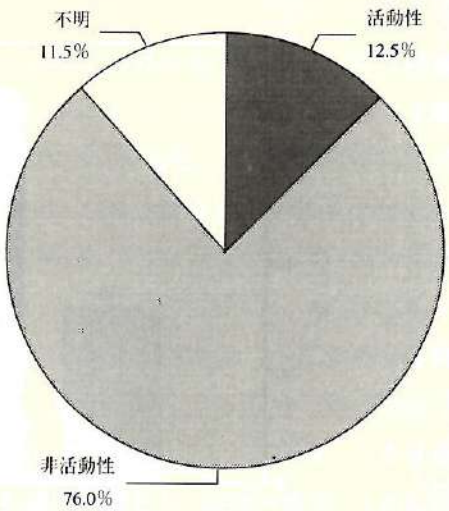


図3.4　活動性（n＝96）

ものである．結果として，活動性は12.5％，非活動性は76.0％であった．しかし，この判定には各施設で若干の違いのあることが推測され，その点を考慮する必要があろう．

3.5　発見の状況と指導区分

図3.5は，発見の状況と指導区分の関係についてみたものである．新発生中，「放置可」は30.0％にとどまり，他はなんらかの措置が必要と判定された．とくに要医療は20.0％にのぼり，この種の検診業務の有用性が示唆された．

また，結核既往者のなかにも32.3％がなんらかの措置が必要と判定された．

3.6　活動性と指導区分

図3.6は，活動性と指導区分との関係についてみたものである．その結果，「活動性あり」で「要観察」が30.0％，「非活動性」で「要医療」が2.8％にみられ，各施設における判断の違いや，記載における調査上の問題など，ある種の問題点が残された．

3.7　まとめ

表3.1に肺結核についてのまとめを示した．肺結核が傾向として年々減少していることがこの調査においても確かめられた．また，学生の有病率

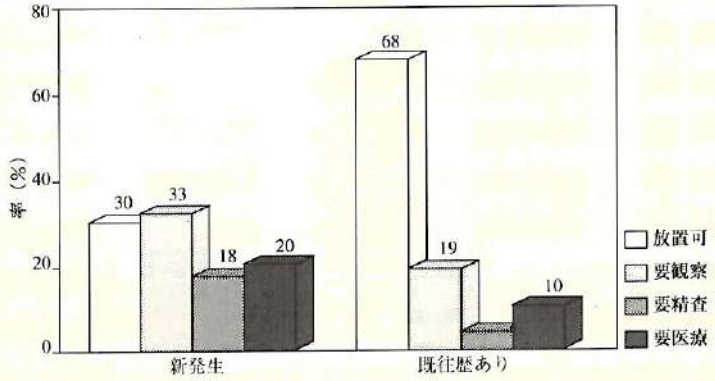


図3.5　発見の状況と指導区分（n＝71）

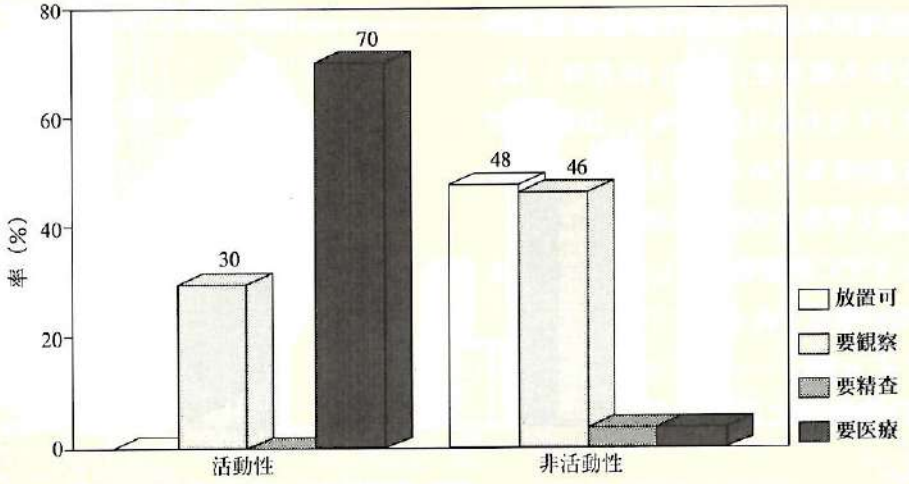


図3.6　活動性と指導区分（n＝92）

表3.1　肺結核のまとめ

	有　病　率	罹患率（新発生）
学生の健康白書		
1 9 8 4	0.07%	0.03%
1 9 9 5	0.04%	0.02%
全国（20～29歳）（活動性）		
1 9 8 4	0.05%	0.03%
1 9 9 5	0.03%	0.02%

が同年代の一般住民のそれより若干高いのに比して，罹患率（新発生）では差が見られなかった．

しかし，図3.3にみられるように，その減少傾向は次第に鈍化してきており，このことが問題点として残され，広く指摘されている．結核は未だに問題の疾患といえよう．最近の集団発生の増加などにみられるように[3]，さらなる監視の継続が必要であろう．

なお，調査方法を「基本編」に記載したが，このような大規模調査においては，ある程度の限界が存在することも事実であり，データを読むに当たって，その点は慎重に考慮される必要があると思われた．

参考文献

1）厚生省保健医療局エイズ結核感染症課：結核の統計1993，p.31，p.34，p.74，1993.

2）厚生省保健医療局エイズ結核感染症課：結核の統計1996，p.7，p.30，p.33，1996.

3）布上董：集団感染と初感染結核の発病予防．臨牀と研究，73：1761-1764，1996.

［本間行彦］

4. 大学生における血圧の現況

—定期健康診断から見えるリスク因子

4.1 はじめに

1995年度の国立大学における定期健康診断において測定された血圧値と脈拍数に関する集計結果は,「学生の健康白書1995-基本編-」(以下, 白書95と略す) として1997年度に報告された[1]. この報告書は, いわば基礎データの集計結果をそのまま総覧したものであるが, わが国における青年層 (大学生) を対象とした健康に関するデータとしては過去最大のものである. これらの中で, 血圧値の動向は青年層の今後の健康を占う上で最も重要なバロメーターの一つであり, また現代社会で最大の健康問題となっている生活習慣病の予防対策を構築する上でも極めて重要な意義を有するものと考えられる. そこで, 本稿では, 健康白書作成のために収録された血圧値と脈拍値のうち, 年齢を35歳未満の対象群に限定し, その分布状況を改めて解析し, 併せて関連する他の身体所見との相関について検討を加え報告する.

4.2 対象と方法

一次検診における血圧と脈拍数は坐位により右上腕で測定した. 検査時には, できるだけ静かな適温 (20℃前後) の部屋で, 運動直後などを避け, 右上腕を圧迫する衣服は脱衣させるなど, 日本循環器管理協議会血圧小委員会 (1967) が勧告している血圧測定の条件と方法に従うこととした. 血圧計の機種や測定回数, 測定者などは各大学の実施方式に準拠した. 使用された血圧計は, 自動血圧計が最も多く (被検者の78.0%), ついで水銀血圧計 (14.8%), 両者の併用 (4.5%) の順であった. 使用された血圧計により血圧値の分布や平均値に明らかな差は認められなかった.

一次検診における血圧値が140 and／or 90mmHg以上を示した場合には二次検診を実施した. 二次検診における血圧測定の方法も, 一次検診の方法に準ずることとした.

血圧値の分類は, 全米合同委員会 (Joint National Committee, JNC, 1997年) の第6次ガイドラインに[2]準拠した. すなわち, 収縮期血圧が130mmHg未満でかつ拡張期血圧が85mmHg未満を正常血圧, 収縮期血圧と拡張期血圧がそれぞれ130-139mmHg／85-89mmHgを正常高値, 140-159mmHg／90-99mmHgを高血圧ステージ1, 160-179mmHg／100-109mmHgをステージ2, 180mmHg／110mmHg以上をステージ3とした.

調査対象は, 全国の国立大学95校の学部学生, 461,862名 (1995年5月1日の在籍者) であったが,「白書95」では提出されたデータのうち性別や生年月日の記載不備あるいは血圧検査を未受診などの事由により一部が除外され, 一次検診では92校, 225,988名, 二次検診については70校, 7,923名のデータが集計された. これらのうち, 今回の集計対象は, 青年層の実態を調査する目的から年齢を35歳未満とし, 収縮期と拡張期血圧が共に記録され, 両者の差が10mmHg以下など不正確と考えられる血圧値例は除外した. その結果, 総数は225,519名で, うち男性149,307名, 女性76,212名であった. 各種身体所見との統計解析には, 身長と体重が共に記録されている学生 (総数221,081名, 男性146,714名, 女性74,367名) を対象とした. 大学によっては単年度の検診では血圧測定が実施されない学年があり, また大学生の場合, 医学的には学年よりも年齢の方がより重要と考えら

れたため，学年別ではなく，年齢により層別集計した．各統計量は，StatView4.5J 統計解析ソフトにより解析した．各数値は平均値±標準偏差で示し，各数値の群間比較には，ANOVA（non-repeated measure）を用い，有意水準は$p<0.001$とした．

4.3 一次検診における血圧と脈拍数

4.3.1 血圧と脈拍数の平均値

今回集計した一次検診における血圧および脈拍数について，性・年齢別の平均値と標準偏差値を表4.1に示した．全対象群，225,519名における収縮期血圧は120.3±14.0 mmHg，拡張期血圧は69.0±9.5mmHg，脈拍数は 79.5±14.2拍／分であった．男性における収縮期血圧および拡張期血圧，女性の拡張期血圧には年齢とともに漸増する傾向が認められた（図4.1）．これらは「白書95」における集計結果と大差はなく，男女別の平均値にも差は認められなかった．収縮期および拡張期血圧はともに男性が女性に比べて有意に高値（$p<0.001$）であった．

4.3.2 血圧値の度数分布

一次検診における収縮期血圧と拡張期血圧について，それぞれの度数分布(%) を男女別に集計し図4.2に示した．収縮期血圧は，男性では120～129mmHgに最多の29.5％が分布し，女性では110～119mmHgに29.7％，男女全体では25.9％が120～129mmHgに分布していた．拡張期血圧は，男性では70～74mmHgに22.6％，女性では60～64mmHgに23.2％が分布していた．これらの度数分布も「白書95」と差は認められなかった．

各個人の血圧レベルは，収縮期血圧と拡張期血圧により判定されるので，両値の関係から血圧群をJNC の第6次ガイドラインに準拠して分類し，それぞれの度数分布を男女別に算出し，表4.2(男性)

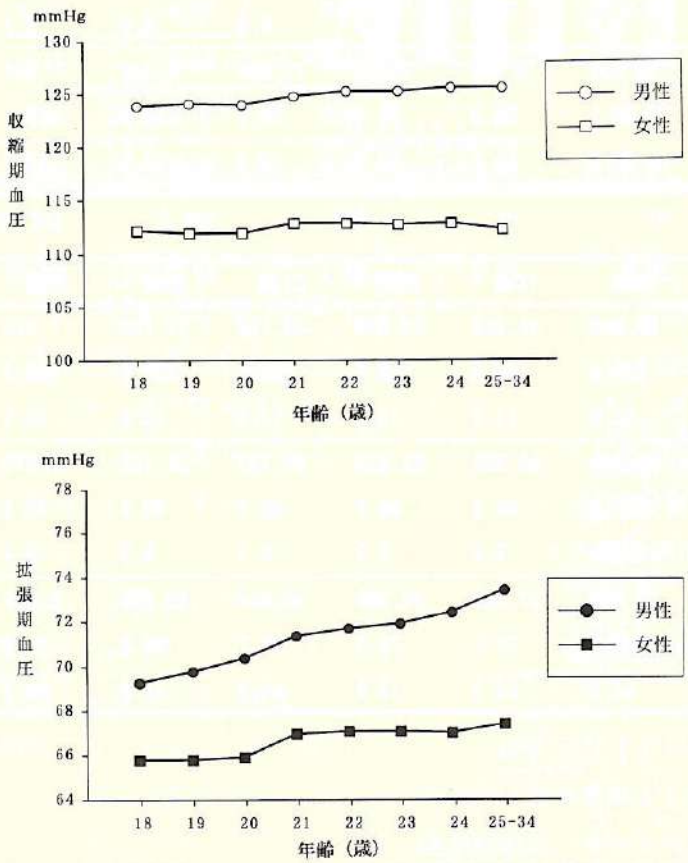


図4.1 一次検診における収縮期，拡張期の年齢による変化

表4.1　一次検診における血圧および脈拍数の平均値と標準偏差

1.　男　性

	全体	18歳	19歳	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	25-34歳
総数	149,307	37,236	31,568	21,296	30,730	16,655	6,385	2,576	2,861
収縮期血圧(mmHg)	124.4	123.8	124.1	123.9	124.8	125.3	125.3	125.7	125.6
標準偏差	13.0	13.2	13.3	12.6	12.9	12.6	12.7	12.9	12.7
総数	149,307	37,236	31,568	21,296	30,730	16,655	6,385	2,576	2,861
拡張期血圧(mmHg)	70.5	69.2	69.7	70.4	71.3	71.7	71.9	72.4	73.4
標準偏差	9.5	9.6	9.6	9.2	9.3	9.3	9.3	9.4	9.3
総数	90,009	22,928	18,716	12,845	19,819	9,782	3,331	1,288	1,300
脈拍(拍/分)	79.5	79.3	79.6	78.6	79.6	80.2	79.9	78.9	80.2
標準偏差	14.5	14.4	14.8	14.4	14.6	14.7	14.3	14.0	13.5

2.　女　性

	全体	18歳	19歳	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	25-34歳
総数	76,212	23,610	15,284	12,380	18,002	4,467	1,285	512	672
収縮期血圧(mmHg)	112.3	112.2	112.0	111.9	112.9	112.9	112.8	112.9	112.3
標準偏差	12.2	12.5	12.4	12.0	11.9	11.8	12.2	12.2	12.1
総数	76,212	23,610	15,284	12,380	18,002	4,467	1,285	512	672
拡張期血圧(mmHg)	66.2	65.8	65.8	65.9	66.9	67.0	67.1	67.0	67.4
標準偏差	8.8	9.1	8.8	8.5	8.6	8.5	8.8	8.5	8.4
総数	44,677	13,422	9,182	7,515	11,095	2,414	535	224	290
脈拍(拍/分)	79.5	80.1	79.0	78.4	79.9	80.9	79.4	78.2	80.3
標準偏差	13.5	13.8	13.4	13.0	13.5	13.2	13.7	12.2	12.4

3.　男女合計

	全体	18歳	19歳	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	25-34歳
総数	225,519	60,846	46,852	33,676	48,732	21,122	7,670	3,088	3,533
収縮期血圧(mmHg)	120.3	119.3	120.2	119.5	120.4	122.6	123.2	123.5	123.1
標準偏差	14.0	14.2	14.2	13.7	13.8	13.4	13.5	13.6	13.6
総数	225,519	60,846	46,852	33,676	48,732	21,122	7,670	3,088	3,533
拡張期血圧(mmHg)	69.0	67.9	68.4	68.7	69.7	70.7	71.1	71.5	72.3
標準偏差	9.5	9.6	9.5	9.2	9.3	9.3	9.4	9.5	9.5
総数	134,686	36,350	27,898	20,360	30,914	12,196	3,866	1,512	1,590
脈拍(拍/分)	79.5	79.6	79.4	78.5	79.7	80.3	79.8	78.8	80.2
標準偏差	14.2	14.2	14.3	13.9	14.2	14.4	14.2	13.7	13.3

表4.2　一次検診における収縮期および拡張期血圧の度数分布（男性, 18–34歳）

拡張期血圧	収縮期血圧					総数	%
	～129mmHg %	130～139 %	140～159 %	160～179 %	180以上 %		
～84mmHg	63.22	23.98	5.91	0.22	0.02	139,384	93.35
～89	0.80	1.82	1.65	0.13	0.00	6,584	4.41
～99	0.18	0.39	1.08	0.27	0.02	2,877	1.93
～109	0.01	0.03	0.11	0.10	0.02	407	0.27
110以上	0.00	0.00	0.01	0.00	0.02	55	0.04
総数	95,874	39,142	13,090	1,091	110		
%	64.21	26.22	8.77	0.73	0.07		

表4.3　一次検診における収縮期および拡張期血圧の度数分布（女性, 18–34歳）

拡張期血圧	収縮期血圧					総数	%
	～129mmHg %	130～139 %	140～159 %	160～179 %	180以上 %		
～84mmHg	90.06	6.88	0.78	0.02	0.01	74,494	97.74
～89	0.67	0.69	0.31	0.01	0.00	1,275	1.67
～99	0.15	0.16	0.19	0.01	0.00	396	0.52
～109	0.01	0.01	0.01	0.02	0.00	42	0.06
110以上	0.00	0.00	0.01	0.00	0.00	5	0.01
総数	69,265	5,899	989	49	10		
%	90.88	7.74	1.30	0.06	0.01		

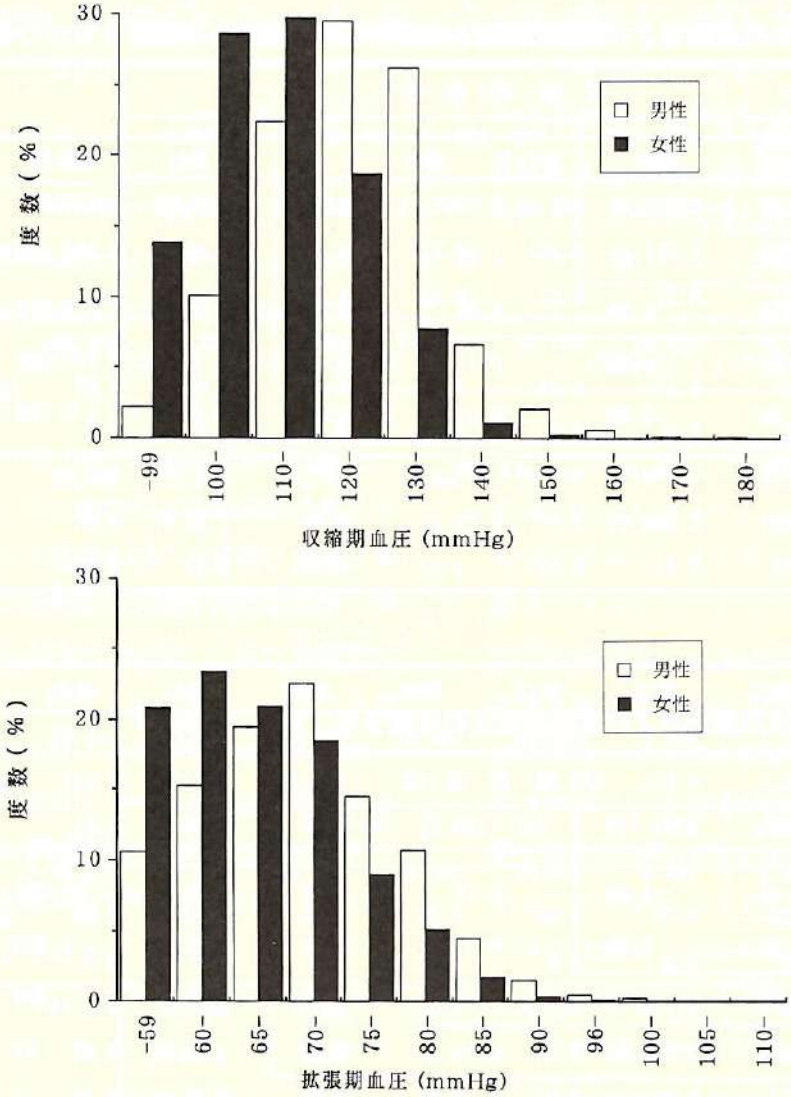


図4.2　一次検診における収縮期および拡張期血圧の男女別度数分布

および4.3(女性)に示した．男性では，正常域に63.2％，正常高値域に26.6％，ステージ1に9.2％，ステージ2以上に0.9％が分布しており，女性ではそれぞれ90.1％，8.2％，1.6％，0.1％であった．正常高値域以上に分布する男性は女性の3.7倍，ステージ1以上では男性が10.1％に対し女性では1.7％と男性で5.9倍高頻度であった．

4.4　血圧レベルと各種検査所見

一次検診における血圧レベルをJNC分類により層別し，それぞれの群における検査所見の平均値を表4.4.1及び4.4.2にまとめて示す．正常血圧群に比べ正常高値以上の群では，年齢，身長，体重，BMI，脈拍数，赤血球数，ヘモグロビン，ヘマトクリットなどがいずれも有意に（$p < 0.001$）高く，さらに男性では，総コレステロール，GPT，γ-GTP，尿酸なども有意な高値を示した．これらのうち，体重，BMI，脈拍数，総コレステロール，GPT，γ-GTPなどは血圧レベルが高いほど高値となる傾向が認められた．体重，BMI，総コレステロール，GPTおよびγ-GTPなどは，肥満に伴う代謝系の異常と密接に関係した所見であり，青年期における血圧上昇との関連を強く示唆する所見と考えられる．

表4.4.1　一次検診における血圧レベルと各種検査所見

*:p<0.001vs正常血圧群
†:p<0.001vs正常高値群

		正常血圧群	正常高値群	高血圧群	
				ステージ1	ステージ2－3
学生数		(%)	(%)	(%)	(%)
	総数	159,633 (72.2)	45,188 (20.4)	14,735 (6.7)	1,525 (0.7)
	男性	92,698 (63.2)	39,038 (26.6)	13,542 (9.2)	1,436 (1.0)
	女性	66,935 (90.0)	6,150 (8.3)	1,193 (1.6)	89 (0.1)
年齢					
	全体	19.9±1.8	20.1±1.9 *	20.0±1.9 *†	20.3±2.1 *†
	男性	20.0±1.9	20.1±1.9 *	20.1±1.9 †	20.3±2.1 *†
	女性	19.7±1.6	19.7±1.6	19.5±1.5 *	20.2±2.4 †
身長					
	全体	165.9±8.3	169.9±7.1 *	170.6±6.7 *	170.9±6.6 *†
	男性	171.1±5.7	171.6±5.7 *	171.7±5.8 *†	171.7±5.9 †
	女性	158.5±5.2	159.2±5.4 *	159.2±5.5 *†	158.7±5.4 †
体重					
	全体	58.1±9.2	64.3±10.3 *	67.7±12.2 *†	72.1±15.9 *†
	男性	62.7±8.0	65.9± 9.7 *	68.7±11.8 *†	73.0±15.5 *†
	女性	51.8±6.4	54.3± 8.1 *	56.4±10.0 *†	57.7±15.8 *†
BMI					
	全体	21.1±2.4	22.2±3.0 *	23.2±3.7 *†	24.6±4.9 *†
	男性	21.4±2.4	22.4±3.0 *	23.3±3.7 *†	24.7±4.8 *†
	女性	20.6±2.2	21.4±2.9 *	22.3±3.7 *†	22.5±5.0 *†
収縮期血圧					
	全体	113.9± 9.9	133.6±3.8 *	144.7±6.7 *†	163.2±12.8 *†
	男性	116.8± 8.6	133.8±3.6 *	145.0±6.4 *†	163.4±12.3 *†
	女性	109.9±10.1	132.4±4.9 *	141.4±9.1 *†	159.2±19.1 *†
拡張期血圧					
	全体	66.1±7.8	75.0±7.9 *	80.8±9.6 *†	91.0±13.6 *†
	男性	66.9±7.6	74.7±7.9 *	80.5±9.6 *†	91.0±13.4 *†
	女性	64.9±7.8	76.4±7.7 *	83.5±8.9 *†	91.2±17.2 *†
学生数					
	総数	93,823 (71.4)	27,351 (20.8)	9,116 (6.9)	1,029 (0.8)
	男性	55,078 (62.6)	23,610 (26.8)	8,383 (9.5)	970 (1.1)
	女性	38,745 (89.5)	3,741 (8.6)	733 (1.7)	59 (0.1)
脈拍数					
	全体	77.5±13.0	82.9±14.9 *	88.0±16.6 *†	95.8±19.3 *†
	男性	76.8±13.2	82.0±14.6 *	87.5±16.4 *†	95.7±19.0 *†
	女性	78.4±12.6	88.4±15.5 *	94.7±17.9 *†	96.9±23.7 *†

表4.4.2　一次検診における血圧レベルと各種検査所見

*:p<0.001vs正常血圧群
†:p<0.001vs正常高値群

		正常血圧群	正常高値群	高血圧群	
				ステージ1	ステージ2－3
学生数		(%)	(%)	(%)	(%)
	総数	13,708 (74.9)	3,450 (18.9)	1,039 (5.7)	99 (0.5)
	男性	6,099 (62.9)	2,672 (27.5)	842 (8.7)	86 (0.9)
	女性	7,609 (88.5)	778 (9.0)	197 (2.3)	13 (0.2)
赤血球数					
	全体	471±45.4	501±40.7 *	509±41.2 *†	524±40.9 *†
	男性	506±33.2	515±32.2 *	522±31.9 *†	533±33.2 *†
	女性	442±31.4	455±31.4 *	455±31.6 *	465±38.7
ヘモグロビン					
	全体	14.0± 1.5	15.0± 1.3 *	15.1± 1.2 *	15.5± 1.1 *
	男性	15.2± 1.0	15.5± 1.0 *	15.5± 0.9 *	15.8± 0.9 *
	女性	13.0± 1.1	13.3± 1.1 *	13.4± 1.0 *	14.0± 0.9 *
ヘマトクリット					
	全体	42.8± 4.3	45.5± 4.0 *	45.4± 3.4 *	46.2± 3.3 *
	男性	46.3± 3.0	46.9± 3.0 *	46.5± 2.5	47.0± 2.6
	女性	40.1± 3.0	40.7± 2.9 *	40.7± 2.8	42.2± 3.5
白血球数					
	全体	6071±1543	6322±1603 *	6505±1646 *	6823±1671
	男性	6023±1526	6260±1579 *	6484±1634 *	6648±1530
	女性	6109±1556	6528±1662 *	6598±1696	7890±2151
学生数					
	総数	17,519 (74.2)	4,592 (19.4)	1,400 (5.9)	105 (0.4)
	男性	9,357 (64.8)	3,752 (26.0)	1,239 (8.6)	95 (0.6)
	女性	8,162 (89.0)	840 (9.2)	161 (1.8)	10 (0.1)
総コレステロール					
	全体	170.4±30.3	170.5± 30.5	175.5±30.8 *†	187.7±35.8 *†
	男性	164.2±29.1	168.5± 30.3	175.0±31.0 *†	186.9±35.4 *†
	女性	177.5±30.1	179.4± 29.9	179.9±28.5	195.1±41.4
学生数					
	総数	11,231 (72.5)	2,977 (19.2)	1,277 (8.2)	95 (0.6)
	男性	5,966 (62.6)	2,352 (24.7)	1,120 (11.8)	87 (0.9)
	女性	5,265 (87.0)	625 (10.3)	157 (2.6)	8 (0.1)
GOT					
	全体	18.4±14.2	19.8±16.3 *	21.0±12.0 *	26.7±28.0 *†
	男性	19.8±18.1	20.7±18.0	21.5±12.5	27.0±28.9
	女性	16.8± 7.6	16.6± 6.0	16.8± 5.1	23.0±15.5
学生数					
	総数	16,347 (75.4)	4,058 (18.7)	1,179 (5.4)	110 (0.5)
	男性	8,223 (65.4)	3,240 (25.8)	1,003 (8.0)	99 (0.8)
	女性	8,124 (89.0)	818 (9.0)	176 (1.9)	11 (0.1)
GPT					
	全体	14.3±13.0	18.7±19.6 *	25.2±27.7 *†	39.0±48.3 *†
	男性	16.9±15.5	20.4±21.1 *	27.1±29.0 *†	39.8±49.2 *†
	女性	11.7± 9.0	12.2± 9.3	14.0±13.9	32.4±41.1 *†
学生数					
	総数	9,856 (75.6)	2,583 (19.8)	552 (4.2)	45 (0.3)
	男性	4,708 (64.6)	2,064 (28.3)	473 (6.5)	38 (0.5)
	女性	5,148 (89.5)	519 (11.1)	79 (1.4)	7 (0.1)
γ－GTP					
	全体	14.0± 9.3	16.8±11.1 *	20.5±14.1 *†	25.8±19.3 *†
	男性	16.3±11.5	17.9±11.9 *	21.6±14.6 *†	26.5±18.8 *†
	女性	11.9± 6.0	12.6± 5.6	13.7± 7.2	21.7±22.9 *
学生数					
	総数	10,468 (75.8)	2,734 (19.8)	575 (4.2)	40 (0.3)
	男性	5,369 (66.2)	2,206 (27.2)	502 (6.2)	34 (0.4)
	女性	5,099 (89.4)	528 (9.3)	73 (1.3)	6 (0.1)
尿酸					
	全体	4.9± 1.2	5.6± 1.3 *	5.9± 1.4 *†	6.2± 1.4 *†
	男性	5.7± 1.1	5.9± 1.2 *	6.1± 1.3 *	6.5± 1.3 *
	女性	4.2± 0.9	4.1± 0.9	4.6± 1.2 *	4.5± 1.2

4.5　一次検診における血圧値と各種検査所見との相関

一次検診における血圧値と年齢，身長，体重，BMI，拡張期血圧，脈拍数，赤血球数，ヘモグロビン（Hb），ヘマトクリット（Ht），白血球数，総コレステロール，GOT，GPT，γ-GTP，尿酸などとの単相関係数を表4.5にまとめて示す．血圧値の分布に明らかな性差が認められたため，各相関は男女別にも集計した．極めて多数例における解析であるため，男女とも血圧値は多くの所見と有意な（$p < 0.001$）相関を示したが，特に，BMI，体重，脈拍数などと比較的高い相関が認められた．

以上の結果から，一次検診における血圧値のうち，収縮期血圧を従属変数とし，性別，年齢，BMI，脈拍数，ヘモグロビン，GPT，尿酸などを独立変数として重回帰分析を試みた．その結果，表4.6に示すように，男女全体では，性別，年齢，BMI，脈拍数，ヘモグロビンの標準回帰係数がそれぞれ有意な値となり，男性では，年齢，BMI，脈拍数，ヘモグロビンの各値に，また女性ではBMI，脈拍数，ヘモグロビンの各値に有意性が証明された．特に男女とも，脈拍数とBMIの回帰係数が他の因子に比べ明らかに高値であった．

4.6　二次検診における血圧と脈拍数

4.6.1　血圧と脈拍数の平均値

一次検診時に血圧上昇(140 and／or 90mmHg)を示した学生に対して，二次検診が実施された．報告されたデータの中から，今回は血圧値の誤記によると考えられるものや欠測値のあるものを除き，7,091名（男性6,596名，女性495名）について集計した．血圧と脈拍数の平均値について，性別，年齢別に集計した結果を表4.7および図4.3に示した．

収縮期および拡張期血圧の平均値は，男性で134.5／76.4mmHg，女性で129.0／75.6mmHg，および全体で134.1／76.3mmHgであった．これらの値は一次検診における全対象群の平均値（表4.1）に比べ，それぞれ10.1／5.9mmHg，16.7／9.4mmHg，および13.8／7.3mmHg高かった．一方，二次検診の血圧値（収縮期／拡張期）および脈拍数を各受診者の一次検診時の値と比べた場合，男性では14.3／6.6mmHg，4.3拍／分，女性では15.6／9.7mmHg，7.6拍／分それぞれ低下していた．

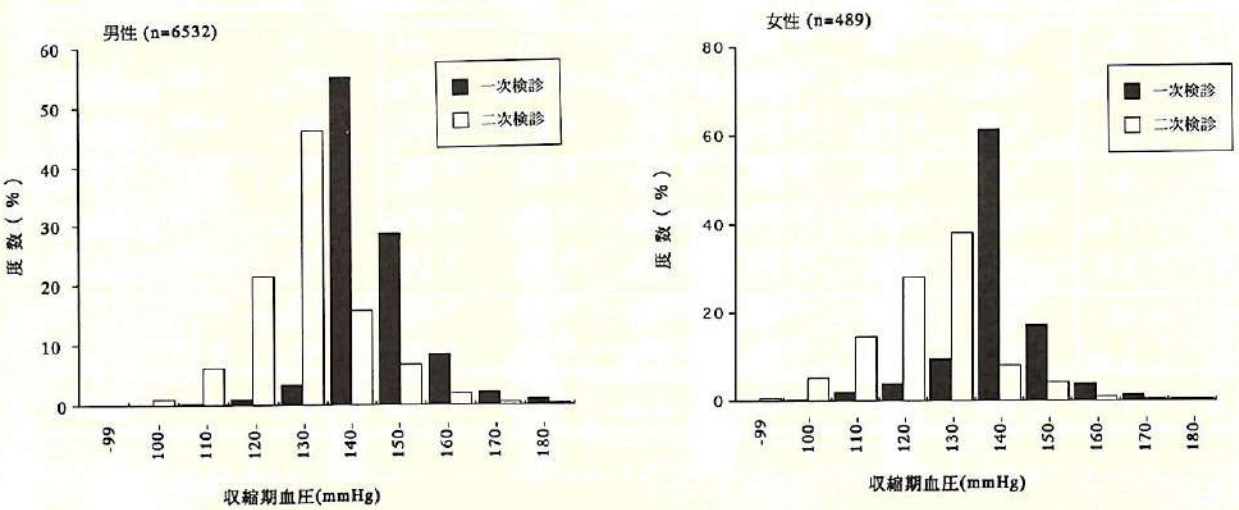


図4.3　二次検診対象者における一次および二次検診時収縮期血圧の度数分布

表4.5　一次検診における血圧値と他の所見との相関

* p<0.001

身体・検査所見	男性			女性			全体		
	総数	相関係数		総数	相関係数		総数	相関係数	
		vs 収縮期血圧	拡張期血圧		vs 収縮期血圧	拡張期血圧		vs 収縮期血圧	拡張期血圧
年齢	146,714	0.041*	0.110*	74,367	0.019*	0.055*	221,081	0.071*	0.112*
身長	146,714	0.052*	0.047*	74,367	0.082*	0.061*	221,081	0.338*	0.191*
体重	146,714	0.260*	0.185*	74,367	0.205*	0.131*	221,081	0.414*	0.257*
BMI	146,713	0.261*	0.181*	74,361	0.188*	0.115*	221,074	0.298*	0.199*
拡張期血圧	146,714	0.600*	1.000	74,367	0.661*	1.000	221,081	0.639*	1.000
脈拍数	88,091	0.291*	0.313*	43,278	0.368*	0.346*	131,369	0.286*	0.315*
赤血球数	9,699	0.180*	0.182*	8,597	0.180*	0.166*	18,296	0.406*	0.243*
ヘモグロビン	9,700	0.169*	0.162*	9,455	0.114*	0.135*	19,155	0.396*	0.232*
ヘマトクリット	8,896	0.118*	0.095*	8,241	0.086*	0.076*	17,137	0.366*	0.181*
白血球数	8,127	0.113*	0.098*	7,239	0.123*	0.092*	15,366	0.104*	0.092*
総コレステロール	14,443	0.122*	0.139*	9,173	0.010	0.059*	23,616	0.004	0.080*
GOT	9,525	0.042*	0.053*	6,055	0.024	-0.007	15,580	0.066*	0.051*
GPT	12,565	0.166*	0.153*	9,129	0.028	0.039*	21,694	0.195*	0.151*
γ－GTP	7,283	0.118*	0.105*	5,753	0.070*	0.050*	13,036	0.193*	0.135*
尿酸	8,111	0.139*	0.104*	5,706	0.066*	0.068*	13,817	0.316*	0.185*

表4.6　一次検診における収縮期血圧（従属変数）と各種所見（独立変数）に関する重回帰分析

独立変数	全体			男性			女性		
	標準回帰係数	標準誤差	p value	標準回帰係数	標準誤差	p value	標準回帰係数	標準誤差	p value
性別	-0.228	0.484	<0.001						
年齢	0.045	0.146	<0.001	0.053	0.195	<0.001	0.039	0.225	<0.020
BMI	0.196	0.057	<0.001	0.209	0.078	<0.001	0.204	0.083	<0.001
脈拍数	0.318	0.010	<0.001	0.317	0.014	<0.001	0.377	0.015	<0.001
ヘモグロビン	0.128	0.155	<0.001	0.092	0.230	<0.001	0.095	0.208	<0.001
総コレステロール	0.013	0.005	0.250	0.022	0.008	0.190	0.011	0.007	0.506
GPT	0.003	0.010	0.795	0.004	0.011	0.818	0.013	0.021	0.457
尿酸	0.023	0.141	0.094	0.030	0.182	0.068	0.005	0.229	0.757

表4.7　二次検診における血圧および脈拍数の平均値と標準偏差

1.　男　性

	全体	18歳	19歳	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	25-34歳
総数	6,596	1,516	1,182	639	1,731	934	324	138	132
収縮期血圧	134.5	134.2	134.6	134.9	134.8	133.8	134.7	134.1	135.6
標準偏差	11.3	11.7	11.4	11.1	11.1	10.9	10.6	11.2	11.5
総数	6,592	1,516	1,182	639	1,730	933	322	138	132
拡張期血圧	76.4	74.4	75.8	76.7	77.2	76.9	77.9	78.1	81.5
標準偏差	9.7	9.8	9.8	10.0	9.5	9.2	9.6	9.3	8.8
総数	3,692	913	665	337	970	531	154	55	67
脈拍数	84.7	84.4	85.1	82.8	84.8	85.4	85.4	80.7	83.2
標準偏差	16.4	16.7	16.9	16.4	16.4	15.5	15.1	15.6	14.1

2.　女　性

	全体	18歳	19歳	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	25-34歳
総数	495	174	88	61	130	29	10	2	1
収縮期血圧	129.0	127.3	131.2	128.3	130.3	130.2	123.8	127.5	128.0
標準偏差	12.8	12.2	11.9	16.5	11.5	14.8	12.0	0.7	
総数	495	174	88	61	130	29	10	2	1
拡張期血圧	75.6	74.0	74.8	75.2	78.3	77.3	73.1	78.5	74.0
標準偏差	9.7	9.1	9.3	11.5	9.9	9.7	6.6	2.1	
総数	333	137	64	44	64	18	5	1	0
脈拍数	89.2	88.5	88.7	87.3	91.5	90.3	94.4	78.0	
標準偏差	17.3	16.5	15.7	19.7	18.8	17.8	18.8		

3.　男女合計

	全体	18歳	19歳	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	25-34歳
総数	7,091	1,690	1,270	700	1,861	963	334	140	133
収縮期血圧	134.1	133.5	134.4	134.3	134.5	133.7	134.4	134.0	135.6
標準偏差	11.5	12.0	11.5	11.8	11.2	11.0	10.8	11.2	11.5
総数	7,087	1,690	1,270	700	1,860	962	332	140	133
拡張期血圧	76.3	74.3	75.7	76.6	77.3	77.0	77.8	78.1	81.5
標準偏差	9.7	9.8	9.8	10.2	9.5	9.3	9.5	9.2	8.8
総数	4,003	1,028	729	381	1,034	549	159	56	67
脈拍数	85.1	85.4	85.4	83.3	85.3	85.6	85.7	80.6	83.2
標準偏差	16.5	16.7	16.8	16.8	16.7	15.6	15.2	15.4	14.1

4.6.2　血圧の分布と高血圧の頻度

二次検診における収縮期血圧と拡張期血圧の両値から，JNC分類に準拠して血圧レベルを層別し，その度数分布を表4.8（男）および4.9（女）に示す．男性では，正常域には28％が分布するのみで，正常高値域に45.8％，ステージ1に23.0％，ステージ2以上に3.21％が分布していた．女性では，正常域に48.0％，正常高値域に37.0％，ステージ1に12.7％，ステージ2に2.0％が分布していた．男女とも拡張期血圧が90mmHg以上の高値例は6－7％程度で，収縮期血圧の上昇例が主体であり，若年者の高血圧が収縮期血圧の上昇を主徴とすることを裏付けている[3]．二次検診の対象者における100拍／分以上の頻脈は，「白書95」でみられたように，一次検診のそれに比べて約2倍高頻度であった．これは心拍数の増加，すなわち心拍出量の増加が血圧上昇，特に収縮期血圧の主要な上昇機序になっていることを示唆するものと考えられる．

4.6.3　二次検診における血圧と各種検査所見

二次検診における血圧レベル毎に各群の検査所見の平均値を，表4.10.1および4.10.2にまとめて示した．二次検診において正常血圧を示した群に比べ，特に男性では正常高値群および高血圧群では，体重，BMIおよび脈拍数が有意に高く，これらの値は正常高値群に比べ高血圧群ではさらに高値を示した（図4.4）．BMIの正常域は20～24に設定されているが，この範囲内にあっても血圧値との間に強い相関を示すことは，青年期の男女におけるBMI値の意義について特に注意が必要なことを示唆するものと考えられる．

これらの知見は，収縮期血圧を従属変数として他の所見を独立変数とした重回帰分析によっても

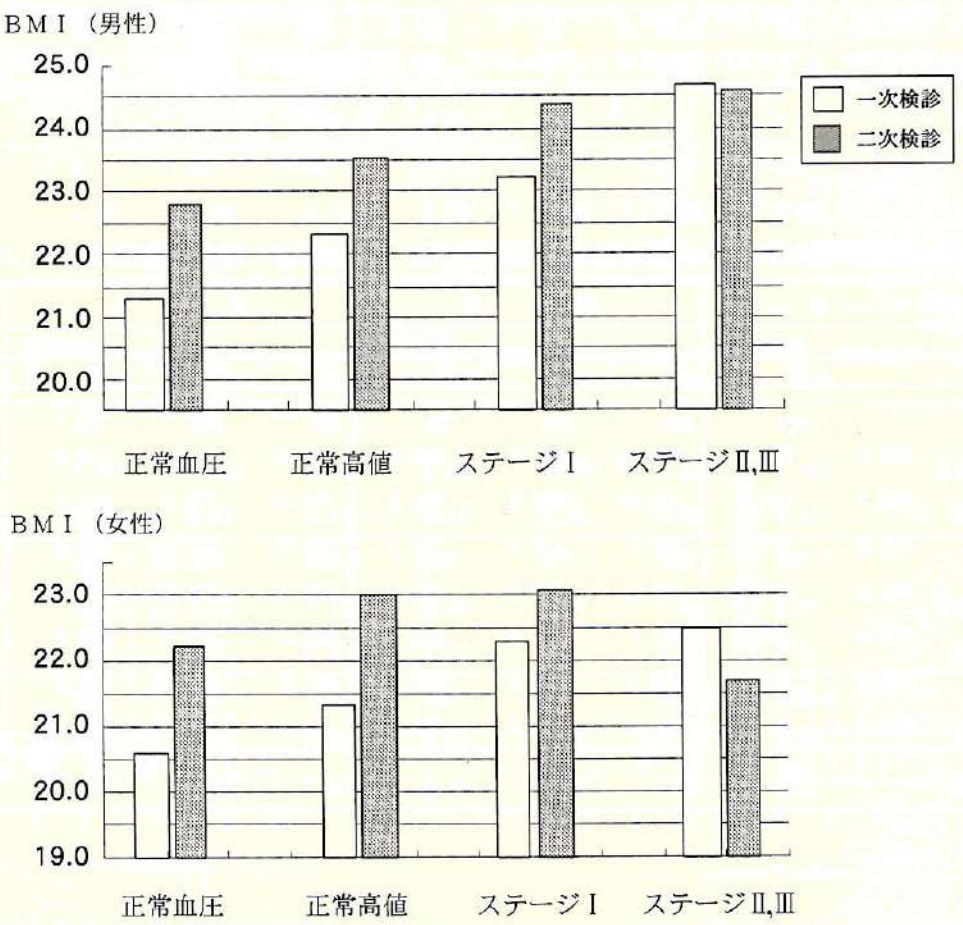


図4.4　血圧レベルとBMIとの関係

表4.8　二次検診における収縮期および拡張期血圧の度数分布（男性, 18–34歳）

拡張期血圧	収縮期血圧					総数	%
	～129mmHg %	130～139 %	140～159 %	160～179 %	180以上 %		
～84mmHg	27.96	39.50	13.80	0.83	0.06	5,416	82.17
～89	0.73	5.61	4.43	0.49	0.02	743	11.27
～99	0.26	0.96	3.56	0.64	0.02	358	5.43
～109	0.00	0.06	0.55	0.32	0.05	64	0.97
110以上	0.02	0.00	0.03	0.09	0.03	11	0.17
総数	1,909	3,041	1,475	156	11		
%	28.96	46.13	22.38	2.37	0.17		

表4.9　二次検診における収縮期および拡張期血圧の度数分布（女性, 18–34歳）

拡張期血圧	収縮期血圧					総数	%
	～129mmHg %	130～139 %	140～159 %	160～179 %	180以上 %		
～84mmHg	48.08	28.08	5.05	0.40	0.20	405	81.82
～89	0.40	8.48	2.22	0.00	0.00	55	11.11
～99	0.40	1.21	3.84	1.01	0.00	32	6.46
～109	0.20	0.00	0.40	0.00	0.00	3	0.61
110以上	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0	0.00
総数	243	187	57	7	1		
%	49.09	37.78	11.52	1.41	0.20		

表4.10.1　二次検診における血圧レベルと各種検査所見

*:p<0.001vs正常血圧群
†:p<0.001vs正常高値群

		正常血圧群	正常高値群	高血圧群	
				ステージ 1	ステージ 2－3
学生数		(%)	(%)	(%)	(%)
	総数	2,055 (29.3)	3,168 (45.1)	1,575 (22.4)	220 (3.1)
	男性	1,821 (27.9)	2,986 (45.7)	1,512 (23.1)	210 (3.2)
	女性	234 (47.9)	182 (37.2)	63 (12.9)	10 (2.0)
年齢					
	全体	20.1± 1.9	20.3± 1.8	20.3± 2.0	20.4± 2.0
	男性	20.2± 1.9	20.3± 1.9	20.3± 2.0	20.4± 2.0
	女性	19.5± 1.8	19.6± 1.4	19.8± 1.5	19.6± 1.3
身長					
	全体	170.1± 7.0	171.0± 6.5	171.0± 6.3 *	171.5± 6.8
	男性	171.5± 5.8	171.5± 5.9	171.5± 5.8	172.2± 6.2
	女性	158.9± 5.4	159.7± 5.5	158.8± 5.5	158.2± 5.2
体重					
	全体	65.9±11.3	68.7±12.0 *	71.3±14.5 *†	72.5±15.8 *
	男性	67.1±10.9	69.3±11.8 *	71.8±14.3 *†	73.45±15.4 *†
	女性	56.1±10.0	58.8± 0.8	58.1±10.8	54.4±12.8
BMI					
	全体	22.7± 3.4	23.5± 3.7 *	24.3± 4.5 *†	24.6± 4.7 *
	男性	22.8± 3.4	23.6± 3.7 *	24.4± 4.5 *†	24.7± 4.7 *†
	女性	22.2± 3.5	23.0± 4.1	23.1± 4.1	21.8± 5.5
収縮期血圧					
	全体	121.7± 6.3	134.4± 3.2 *	145.7± 6.2 *†	163.0±12.7 *†
	男性	122.1± 6.0	134.4± 3.3 *	145.7± 6.1 *†	163.1±12.4 *†
	女性	119.2± 7.7	134.6± 2.9 *	145.1± 7.3 *†	160.5±18.5 *†
拡張期血圧					
	全体	70.5± 7.3	76.4± 8.3 *	81.6± 9.3 *†	90.6±13.5 *†
	男性	70.5± 7.3	76.3± 8.4 *	81.5± 9.3 *†	91.0±12.8 *†
	女性	70.6± 7.3	78.5± 7.2 *	85.0± 8.5 *†	82.1±23.2 *
学生数					
	総数	1,282 (32.5)	1,778 (45.0)	797 (20.2)	92 (2.3)
	男性	1,120 (30.7)	1,674 (45.9)	766 (21.0)	84 (2.3)
	女性	162 (53.1)	104 (34.1)	31 (10.2)	8 (2.6)
脈拍数					
	全体	81.0±14.9	84.4±15.5 *	91.3±17.6 *†	102.2±20.1 *†
	男性	80.6±14.9	83.9±15.2 *	90.8±17.6 *†	102.3±20.5 *†
	女性	84.0±14.4	92.5±18.6 *	103.1±15.3 *	101.9±15.9

表4.10.2　二次検診における血圧レベルと各種検査所見

*:p<0.001vs正常血圧群
†:p<0.001vs正常高値群

		正常血圧群	正常高値群	高血圧群	
				ステージ1	ステージ2－3
学生数		(%)	(%)	(%)	(%)
	総数	217 (40.5)	255 (47.6)	55 (9.3)	9 (1.7)
	男性	157 (36.4)	213 (49.4)	53 (12.3)	8 (1.9)
	女性	60 (57.1)	42 (40.0)	2 (1.9)	1 (1.0)
赤血球数					
	全体	504±44.4	513±41.7	524±33.4	534±27.9
	男性	522±31.3	526±32.7	526±32.6	539±25.6
	女性	454±34.7	454±22.9	477±21.9	496
ヘモグロビン					
	全体	14.4± 1.3	15.3± 1.1	15.7±1.0 *	16.0± 0.7
	男性	15.5± 0.9	15.6± 0.8	15.8±0.9	16.1± 0.7
	女性	13.4± 1.0	13.6± 0.8	14.4±0.9	14.9
ヘマトクリット					
	全体	44.8± 3.7	45.5± 3.0	47.0±2.8 *	47.2± 1.5
	男性	46.5± 2.5	46.4± 2.2	47.2±2.6	47.6± 1.1
	女性	40.7± 3.0	40.9± 2.3	42.7±2.8	44.3
白血球数					
	全体	6259±1514	6361±1598	6963±1616	7088±1367
	男性	6013±1503	6382±1651	6960±1615	6929±1395
	女性	6516±1496	6262±1333	7050±2333	8200
学生数					
	総数	103 (30.5)	173 (51.2)	54 (16.0)	8 (2.4)
	男性	91 (29.4)	157 (50.8)	53 (17.2)	8 (2.6)
	女性	12 (41.4)	16 (55.2)	1 (3.4)	0 (0.0)
総コレステロール					
	全体	176.8±34.3	184.0±30.0	190.4±40.7	177.4±26.5
	男性	176.0±34.3	176.0±34.4	176.0±34.5	177.4±26.5
	女性	186.2±33.4	182.4±36.8	220	
学生数					
	総数	86 (31.0)	138 (49.8)	47 (17.0)	6 (2.0)
	男性	72 (29.3)	121 (49.2)	47 (19.1)	6 (2.4)
	女性	14 (45.2)	17 (54.8)	0 (0.0)	0 (0.0)
GOT					
	全体	20.7± 7.2	22.2±13.3	31.7±28.1 *	17.7± 6.7
	男性	21.6± 7.4	23.0±13.8	31.7±28.0 *	17.7± 6.7
	女性	15.4± 2.6	17.0± 4.9		
学生数					
	総数	249 (37.2)	331 (49.5)	77 (11.5)	12 (1.8)
	男性	203 (35.1)	289 (49.9)	76 (13.1)	11 (1.9)
	女性	46 (51.1)	42 (46.7)	1 (1.1)	1 (1.1)
GPT					
	全体	21.9±24.6	27.8±34.6	40.5±49.0	31.8±27.9
	男性	24.0±26.6	29.5±35.8	40.4±49.3	27.5±24.6
	女性	12.4± 7.0	16.5±21.8	47	80
学生数					
	総数	48 (29.6)	92 (56.8)	22 (13.6)	0 (0.0)
	男性	41 (28.7)	80 (55.9)	22 (15.4)	0 (0.0)
	女性	7 (36.8)	12 (63.2)	0 (0.0)	0 (0.0)
γ－GTP					
	全体	15.1± 9.5	14.1±11.3	26.5±20.7†	
	男性	16.1± 9.8	14.9±11.8	26.5±20.7	
	女性	9.4± 4.0	8.8± 3.0		
学生数					
	総数	57 (35.1)	72 (44.4)	29 (18.0)	4 (2.5)
	男性	51 (34.2)	65 (43.6)	29 (19.5)	4 (2.7)
	女性	6 (50.0)	7 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
尿酸					
	全体	5.9± 1.3	6.2± 1.3	6.1± 1.4	6.3± 0.3
	男性	6.1± 1.2	6.4± 1.6	6.1± 1.4	6.3± 0.3
	女性	4.7± 1.0	4.1± 1.2		

表4.11　二次検診における収縮期血圧（従属変数）と各種所見（独立変数）に関する重回帰分析

独立変数	全体			男性			女性		
	標準回帰係数	標準誤差	p value	標準回帰係数	標準誤差	p value	標準回帰係数	標準誤差	p value
性別	-0.148	1.692	0.021						
年齢	0.005	0.332	0.916	0.010	0.391	0.847	0.008	0.618	0.935
BMI	0.197	0.129	<0.001	0.184	0.151	0.001	0.272	0.245	0.006
脈拍数	0.179	0.030	<0.001	0.143	0.035	0.007	0.112	0.951	0.001
ヘモグロビン	0.048	0.584	0.463	0.014	0.714	0.795	0.350	0.350	0.233

確認された（表4.11）．なお，二次検診対象者では各種検査の施行例が少なかったため，独立変数としては表に示した5項目についてのみ検討した．

4.7　ま と め

「白書95」作成のために集録されたデータは，国立大学の学生という特定の集団ではあるが，その規模からみて，わが国の青年層における健康状態の現況を示す極めて貴重な資料と考えられる．今回の検討により，定期健康診断における血圧値の度数分布（表4.2,3,8,9）が明確になった．検診結果の判定に役立てていただければ幸いである．この年代における血圧が女性に比べ男性では有意に高く，明らかな性差が認められた．特に，一次検診では，JNCで設定した正常域に分布する男性が63％に過ぎない点は重視しなければならない．

一次検診における血圧値の再現性については未詳であるが，二次検診で正常域に復した例は28％に過ぎないことからみて，一次検診でも正常高値以上の値を示す場合には，要注意との認識が必要であろう．本稿の表4.4で示したように，正常高値域の対象群は正常血圧群に比べ他の身体所見からみても，正常群よりは高血圧群に近い背景を有するからである．なかでも，血圧値がいくつかの身体所見，特にBMI(体重)と密接に関連していることが示された．他の代謝性因子との関係も示唆され，青年期の血圧上昇が生活習慣病としての性格を強く有していることが確認された．これらの知見は，正常高値域を示す学生についても，高血圧の発症ないし準備段階にある可能性を強く示唆するものと考えられる．

しかし，多数の学生を対象として限られた時間内で検診しなければならない現状では，正常高値域の学生を二次検診の対象とすることは必ずしも容易ではなく，その合理的な根拠も現在のところ十分とはいえない．これらの諸点は，国民保健の立場からも，成因論的な研究とともに予防医学的な対策を含めて，今後検討すべき重要な問題と考えられる．

参考文献

1) 三浦幸雄:「学生の健康白書1995－基本編－」, 6. 血圧検査, 国立大学等保健管理施設協議会編, 1997, pp.68－88.

2) The Sixth Report of the Joint National Committee on Prevention, Detection, Evaluation, and Treatment of High Blood Pressure. Arch Intern Med, 157：2413-2446, 1997.

3) Julius S, et al.：Hyperkinetic borderline hypertension in Tecumseh, Michigan. J Hypertension, 9：77-84, 1991.

［三浦幸雄，清水和政，野城孝夫］

5. 血液検査と喫煙との関係

― 1995年の健康白書のアンケート調査によるクロス集計 ―

5.1 はじめに

喫煙は健康，ことに発ガン，慢性閉塞性肺疾患や心疾患などと関係が深いことはよく知られている[1]．1995年度「学生の健康白書」の集計では，ライフスタイルのアンケート調査が実施された．

例えば，日常生活一般の調査項目として住居，課外活動，生活時間などが取りあげられ，食生活では食事の状況，摂取食品の種類，ソフトドリンク摂取の状況の他に，飲酒と喫煙についてのアンケート調査が含まれている．ここでは血液検査のうち，喫煙の状況と血液検査，ことに平均赤血球容積（MCV）を中心とした分析，喫煙と血液・生化学のデータとのクロス集計を行った結果を報告する．ただし，女子では日常的な喫煙者のうち，血液検査が実施されている対象数が少ないため，統計学的な処理ができず，男子のデータが中心となる．

5.2 成　績

5.2.1 喫煙状況と血液・生化学検査の集計成績

表5.1と表5.2に男子ならびに女子の喫煙の状況によって区分した身長，体重，BMIおよび血液・生化学検査の成績（平均値および標準偏差）をあげたが，「吸わない」群，「時々吸う」群，「毎日吸う」群の各グループの間には著しい差異は認めていない．

5.2.2 喫煙量と血液検査，ことに平均赤血球容積（MCV）を中心とした成績

「はじめに」で触れたように，女子を喫煙量によ

表5.1　男子における喫煙状況と血液検査の成績

		年齢	身長	体重	BMI	Hb	RBC	Ht	MCV	MCH	MCHC	WBC	T-Chol	GOT	GPT	γ-GTP	尿酸
吸わない	N	15,448	15,256	15,356	15,249	2,741	2,742	2,740	2,740	2,739	2,739	2,738	2,735	1,587	2,735	2,226	2,694
	平均	19.9	171.1	64.3	21.9	15.2	507.4	46.4	91.6	29.9	32.7	6,047	163.4	19.7	18.3	18.3	5.9
	S.D.	1.8	5.6	9.6	3.0	0.9	33.6	3.0	4.3	1.5	1.3	1,504	29.8	10.8	19.4	11.0	1.2
時々吸う	N	1,272	1,264	1,266	1,262	132	133	133	133	132	132	133	135	91	135	107	130
	平均	20.5	171.6	64.7	22.0	15.4	510.0	46.6	91.5	30.1	32.9	6,185	165.2	20.8	19.1	18.3	5.9
	S.D.	1.7	5.5	8.9	2.8	1.0	34.8	3.1	4.2	1.3	1.3	1,572	32.6	20.6	17.1	10.2	1.1
毎日吸う	N	4,327	4,225	4,275	4,222	264	264	264	264	264	264	263	280	209	280	231	258
	平均	21.1	171.6	64.5	21.9	15.3	511.1	46.7	91.4	30.0	32.9	6,072	163.7	20.2	19.5	20.2	5.8
	S.D.	1.6	5.5	9.1	2.9	1.0	32.9	3.0	4.7	1.5	1.3	1,608	29.3	16.8	16.4	16.9	1.2

表5.2　女子における喫煙状況と血液検査の成績

		年齢	身長	体重	BMI	Hb	RBC	Ht	WBC	T-Chol	GOT	GPT	γ-GTP	尿酸
吸わない	N	14,970	14,661	14,765	14,628	2,793	2,793	2,785	2,788	2,520	1,838	2,520	2,024	2,424
	平均	19.7	158.6	52.0	20.7	13.1	443.6	40.3	6,095	177.6	16.7	12.0	13.2	4.3
	S.D.	1.6	5.2	6.5	2.3	1.1	33.5	3.2	1,603	28.8	9.5	8.4	6.1	0.9
時々吸う	N	307	299	304	299	22	22	22	22	20	17	20	19	18
	平均	20.6	159.3	52.5	20.7	13.1	441.9	40.0	5,900	164.6	17.8	15.3	15.1	4.4
	S.D.	1.4	5.2	7.1	2.5	1.1	34.8	3.4	1,275	19.1	11.6	18.7	11.4	0.7
毎日吸う	N	283	264	273	264	24	24	24	24	18	16	18	17	18
	平均	20.8	159.0	51.7	20.4	12.8	438.5	39.4	5,946	173.8	16.9	12.8	14.6	4.1
	S.D.	1.2	5.0	7.7	2.7	1.3	36.9	3.3	1,708	31.0	5.8	7.0	7.7	0.9

表5.3　男子の喫煙量と各パラメータとの間の関係

喫煙本数		年齢	身長	体重	BMI	Hb	RBC	Ht	MCV	MCH	MCHC	WBC	T-Chol	GOT	GPT	γ-GTP	尿酸
1～4	N	120	117	118	117	16	16	16	16	16	16	16	16	15	16	13	16
	平均	20.1	170.8	64.1	21.9	15.6	516.9	46.7	90.4	30.2	33.5	5,844	159.9	17.2	15.4	23.0	5.2
	S.D.	1.6	5.7	9.9	3.0	0.8	27.4	2.4	3.2	0.8	1.2	1,396	31.9	4.1	9.2	32.4	0.8
5～9	N	447	437	442	437	41	41	41	41	41	41	41	43	31	43	37	41
	平均	20.7	171.4	63.2	21.5	15.1	506.2	46.2	91.3	30.0	32.8	5,861	158.2	19.3	18.0	17.2	5.8
	S.D.	1.9	5.6	8.1	2.6	1.0	34.9	3.3	4.4	1.4	1.4	1,375	23.7	6.6	11.7	6.1	1.2
10～14	N	1,081	1,066	1,075	1,064	94	94	94	94	94	94	93	96	69	96	80	91
	平均	20.9	171.8	64.3	21.8	15.5	512.8	46.9	91.6	30.2	33.0	6,159	165.0	23.1	21.3	20.1	5.8
	S.D.	1.7	5.6	9.2	2.8	0.9	34.3	3.1	4.6	1.4	1.2	1,754	29.2	27.3	19.8	15.5	1.1
15～19	N	654	639	644	639	30	30	30	29	29	29	30	30	25	30	23	29
	平均	21.1	171.4	63.8	21.7	15.3	510.0	46.4	91.2	30.1	33.0	5,707	170.0	19.0	22.2	20.6	5.6
	S.D.	1.4	5.6	9.0	2.8	0.9	29.2	2.4	4.1	1.2	1.3	1,399	30.2	6.4	20.6	10.7	1.0
20～24	N	1,661	1,611	1,638	1,610	66	66	66	67	67	67	66	73	52	73	60	65
	平均	21.4	171.7	65.1	22.1	15.2	512.5	46.8	91.5	29.8	32.6	6,158	164.1	18.3	18.6	22.7	5.9
	S.D.	1.5	5.5	9.2	2.9	1.0	32.0	3.0	5.3	1.6	1.4	1,589	29.1	6.1	14.9	21.4	1.2
25～29	N	78	73	75	73	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
	平均	21.5	172.1	64.2	21.6	14.8	481.7	43.8	90.8	30.8	33.9	6,733	130.7	31.0	19.7	14.3	7.3
	S.D.	1.6	5.2	8.9	2.6	1.0	40.0	4.4	2.4	1.0	1.3	462	12.2	31.2	17.6	6.7	2.7
30本以上	N	240	237	238	237	6	6	6	6	6	6	6	11	11	11	9	5
	平均	21.8	171.3	65.5	22.3	16.1	520.8	48.9	94.1	30.9	32.9	6,900	185.1	19.5	18.0	18.4	6.2
	S.D.	1.8	5.5	10.0	3.2	0.7	37.3	2.1	4.1	1.5	1.4	2,414	30.5	6.8	7.4	13.8	1.2

って分けて集計するには数が少ないため，男子学生のみを対象にした集計について述べる．表5.3に喫煙量と身体計測および血液検査との関係を一覧表示した．この表や図5.1からわかることは，喫煙量とMCVとの関係は明らかでない．

しかし，図5.2のように喫煙本数によって区分すると，多少の関連が推察されるが，何分にも例数が少なくて結論的なことはいえない．「毎日吸う」群の256人について，MCVと喫煙本数との間の相関関係をみると，0.077という値が得られ，有意差は認められなかった．平均血色素量（MCH），平均血色素濃度（MCHC）との間の関係も同様に有意な値ではなかった．

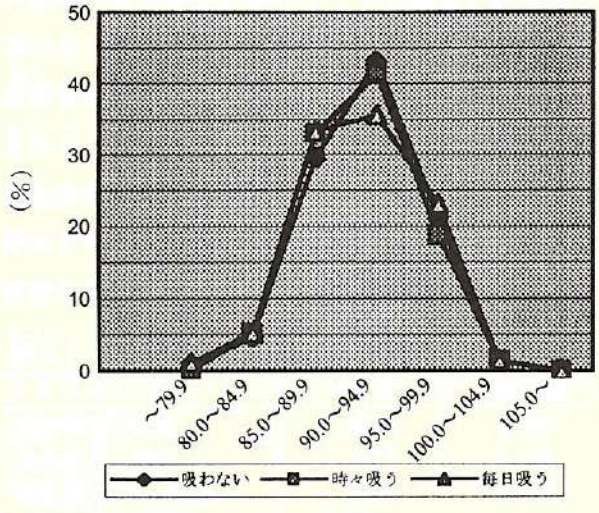


図5.1　男子喫煙量とMCV値との関係

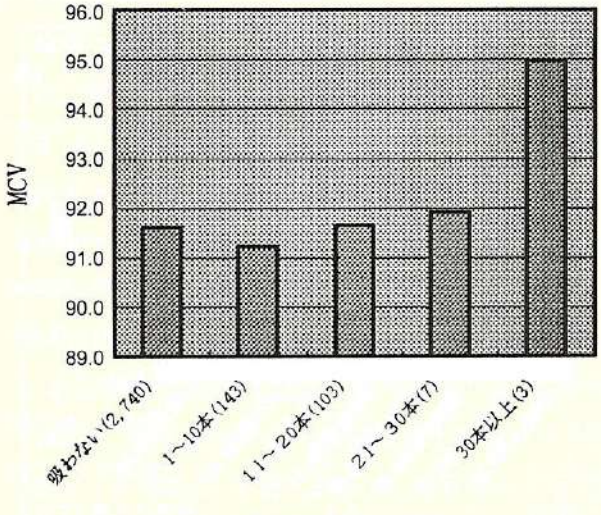


図5.2　男子喫煙量とMCV値との関係
（カッコ内は対象学生数）

5.3 考　察

長期間の喫煙によって赤血球容積が増加することはよく知られているが，今回の学生の調査でそのような傾向は明らかにできなかった．この理由として，今回の調査対象学生が1年生，すなわち18～19歳台が中心で，喫煙を開始してまだ日が浅いことが考えられた．今回の調査による男子の喫煙率は26.0％，女子のそれは8.8％であった[2]．

5.4 結　語

今回，健康白書のアンケート調査による喫煙に関する成績と，血液・生化学検査成績の間のクロス集計を実施した．今回の調査対象となった学生の年齢構成が18～19歳を中心に行われたこともあって，明らかな有意の相関は得られなかったが，その傾向を示唆する成績であった．

参考文献

1) 平山雄：予防ガン学．その新しい展開．メディサイエンス社，東京，1987.

2) 上園慶子：「学生の健康白書1995－基本編－」2. ライフスタイル，国立大学等保健管理施設協議会・学生の健康白書作成に関する特別委員会編，1997，pp.157-171.

［森下玲児］

6. 検血,血液生化学および身体計測成績相互間の相関

6.1 はじめに

「健康白書1995-基本編-」において，検血では赤血球数，ヘモグロビン値，ヘマトクリット値，白血球数の男女間における年齢別，測定機器別の集計を行った[1]．その結果は基本編の中で述べたように，測定機器によるデータの変動は容認できる範囲に収まっていた．男女大学生において貧血症の頻度が特に顕著に多いということもなく，また，多血症を示す頻度も少なかった[1]．

白血球数については，元来ばらつきが大きい検査項目であり，著しく高値あるいは低値を示し，血液の悪性疾患や免疫学的異常が疑われるような例はあったかも知れないが，全体的にみると異常範囲の頻度も，大学生ということで特別変わりはないと思われた．

6.2 成 績

6.2.1 血色素量からみた他のパラメータとのクロス集計

近年，女子学生において「やせ願望」が増加していることが指摘されており，このような学生には栄養性貧血，ことに鉄欠乏性貧血の増加が懸念されるところであるが，女子学生合計9,521人の血色素量と体重あるいはBMIとの間の相関係数はそれぞれ0.038ならびに0.061を示し，1％水準で有意な相関がみられた．

表6.1 男子の血色素量と各パラメータとの相関

	対象数	相関係数
血色素量：体重	8273	0.151
血色素量：BMI	8273	0.164
血色素量：T-Chol	8273	0.133
血色素量：GPT	8272	0.128
血色素量：γ-GTP	5902	0.113
血色素量：尿酸	6755	0.110

表6.1に男子の血色素量と体重，BMI，総コレステロール値，GPT，γ-GTPならびに尿酸値との相関関係を一覧表示した．女子におけるよりも男子の方が血色素量に対する体重の関与が高く，1％以下で有意差を示した．

図6.1と図6.2に男女の血色素量とBMIとの関係を示したが，体重との間も同様の傾向を示した．女子での高度貧血群は例数が少ない．

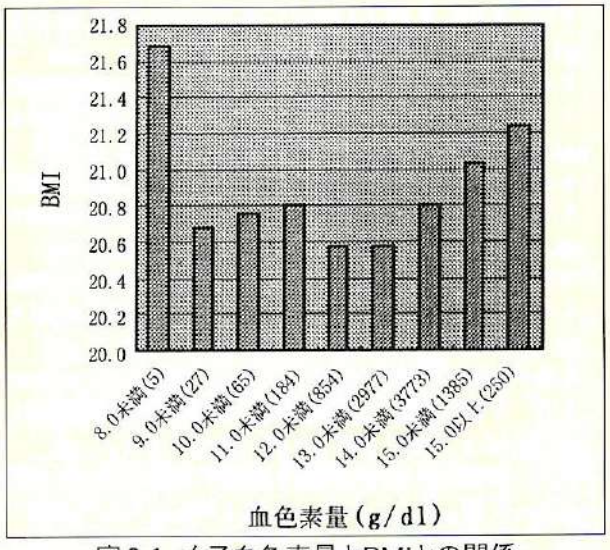


図6.1 女子血色素量とBMIとの関係
カッコ内は例数(以下同じ)

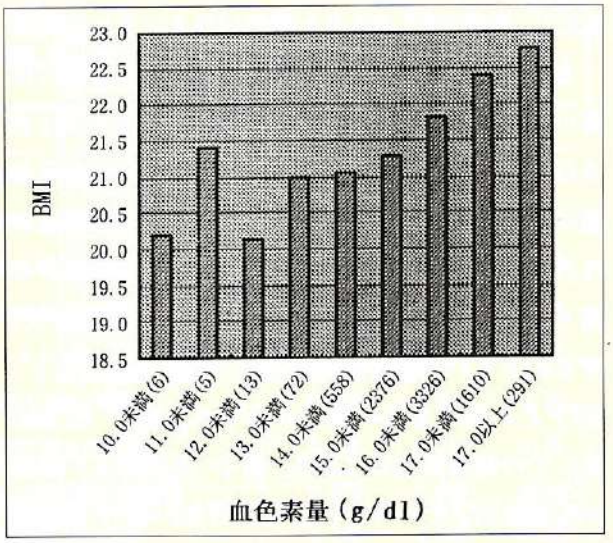


図6.2 男子血色素量とBMIとの関係

表6.2　GPTと他のパラメータとの関係（女子）

GPT		年齢	身長	体重	BMI	収縮期血圧	拡張期血圧	Hb	RBC	Ht	WBC	T-Chol	GOT	GPT	γ-GTP	尿酸
<10	N	3,461	3,406	3,406	3,406	3,417	3,417	3,047	2,585	2,465	2,292	3,144	1,911	3,460	1,982	1,994
	平均	18.6	158.5	51.6	20.5	113.0	65.7	12.9	440.1	39.9	6,082	174.1	14.1	7.3	10.7	4.1
	S.D.	1.3	5.3	6.2	2.0	11.9	8.4	1.0	32.2	3.1	1,592	29.0	3.1	1.4	3.7	0.9
10～19	N	3,798	3,715	3,715	3,715	3,705	3,705	3,310	2,972	2,781	2,515	3,418	2,281	3,798	2,348	2,300
	平均	18.8	158.7	52.3	20.8	113.5	66.3	13.1	442.5	40.4	6,087	177.7	17.1	12.7	12.6	4.3
	S.D.	1.7	5.2	6.7	2.4	12.3	8.6	1.1	32.7	3.1	1,544	29.4	3.7	2.5	5.3	0.9
20～29	N	430	416	416	416	411	411	378	344	320	292	379	279	430	272	269
	平均	18.8	158.2	53.3	21.3	114.0	66.8	13.2	447.2	40.9	6,090	183.7	22.4	23.0	16.5	4.5
	S.D.	1.6	5.4	7.9	3.0	13.6	8.9	1.1	34.4	3.4	1,601	31.8	6.5	2.6	10.5	1.1
30～39	N	92	90	90	90	89	89	82	70	65	62	83	57	92	60	57
	平均	18.7	158.1	53.5	21.4	113.8	66.6	13.3	450.7	41.6	5,818	182.8	27.2	33.3	18.5	4.7
	S.D.	1.1	4.8	8.1	3.2	12.3	7.8	1.3	38.9	3.5	1,514	30.1	9.2	3.0	7.9	1.0
40～49	N	32	30	30	30	31	31	26	24	22	18	29	23	32	19	16
	平均	20.3	158.4	56.1	22.4	114.8	68.1	13.4	451.8	41.1	5,683	184.4	30.8	44.5	16.9	4.4
	S.D.	6.1	4.9	7.8	3.1	13.7	9.0	1.0	34.5	3.3	1,125	42.0	6.7	3.0	8.3	0.7
50～59	N	17	17	17	17	16	16	15	13	12	12	15	11	17	10	11
	平均	18.7	158.8	55.4	22.0	113.8	67.6	13.0	441.1	39.6	6,075	193.1	38.3	55.1	24.6	4.9
	S.D.	1.1	4.2	14.7	5.8	14.8	8.1	1.5	37.3	4.7	2,269	34.1	9.4	2.5	16.0	1.7
60～69	N	12	12	12	12	12	12	12	9	7	7	10	8	12	5	7
	平均	18.4	160.2	61.2	23.8	114.8	67.2	13.3	459.4	42.2	7,929	190.1	39.3	64.1	20.8	4.7
	S.D.	0.6	5.5	14.5	5.2	15.5	10.3	1.0	28.4	2.5	2,464	37.9	5.9	2.8	10.7	0.6
70～79	N	8	8	8	8	8	8	7	6	6	6	8	6	6	6	6
	平均	18.0	156.4	55.6	22.7	120.8	71.4	13.2	463.8	41.6	5,333	187.4	41.7	72.8	22.0	4.7
	S.D.	0.0	4.9	10.9	4.6	11.9	9.1	1.6	51.0	4.5	1,336	23.6	5.2	2.1	10.8	0.9
80～89	N	6	6	6	6	6	6	6	6	6	5	5	4	6	4	4
	平均	19.0	158.2	55.5	22.4	121.0	72.7	14.1	482.7	42.9	6,140	194.2	43.8	84.0	47.5	5.5
	S.D.	1.4	3.3	15.2	6.9	24.8	17.3	1.7	36.4	4.6	1,350	12.6	10.0	3.1	10.5	1.4
90～99	N	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	2	0	2	1	1
	平均	19.0	156.9	47.9	19.5	95.0	56.5	14.2	481.0	46.5	6,200	181.5	0.0	91.0	12.0	4.2
≧100	N	8	8	8	8	8	8	6	4	3	3	7	4	8	4	3
	平均	20.1	158.8	58.7	23.3	125.4	76.4	13.3	463.3	40.3	9,233	189.0	49.8	149.6	82.5	5.5
	S.D.	3.4	3.7	15.2	6.0	23.7	13.4	1.2	55.4	2.5	3,806	48.6	25.0	48.1	51.4	0.5

6.2.2　血清GPTからみた他のパラメータとの関係

女子のGPT値と体重ならびにBMIとの間には高い相関関係を認め，その値はそれぞれ0.091および0.111であった．一方，男子においてもその値は0.371ならびに0.417という高い相関が認められた．GOTとGPTとの間の相関は当然ながら高く，女子（5,879人）で0.703，男子（7,210人）で0.615という値が得られた．また，GPTとγ-GTPとの間にも高い関係がみられ，女子（5,880人）での相関係数は0.393，男子（5,900人）においては0.572という高い値を示した．GPTと尿酸値の間にもかなりの相関が認められ，ことに男子ではきれいな関係を示していた．男女のGPT値を基準にみた他のパラメータの平均値を表6.2と表6.3に表した．

6.2.3　総コレステロール値と他のパラメータとの関係

表6.4と表6.5に女子と男子の総コレステロール値からみた各パラメータとの間の相関関係をまとめて表示した．女子の総コレステロール値と体重との間に有意差を認めなかった他は，いずれも高い相関関係を認めた．このうち男女の総コレステロール値とGOT，GPT値との関係を図6.3と図6.4

表6.3　GPTと他のパラメータとの関係（男子）

GPT		年齢	身長	体重	BMI	収縮期血圧	拡張期血圧	Hb	RBC	Ht	WBC	T-Chol	GOT	GPT	γ-GTP	尿酸
<10	N	2,325	2,296	2,296	2,296	2,299	2,302	1,580	1,582	1,445	1,444	2,238	1,065	2,325	1,343	1,743
	平均	18.7	171.6	60.5	20.6	121.5	68.0	15.1	503.0	46.3	6,022	156.6	14.2	7.5	13.0	5.6
	S.D.	1.2	5.6	7.0	2.0	11.8	8.2	0.9	32.2	3.0	1,512	25.4	3.0	1.4	4.6	1.0
10～19	N	5,948	5,855	5,854	5,855	5,871	5,870	4,014	4,013	3,536	3,531	5,704	3,279	5,948	3,537	3,857
	平均	18.9	171.3	62.3	21.2	122.6	68.4	15.2	507.0	46.6	6,072	162.8	17.6	13.6	15.5	5.7
	S.D.	1.5	5.6	7.9	2.4	12.1	9.0	1.0	33.7	3.1	1,578	27.4	4.5	2.7	6.3	1.1
20～29	N	1,626	1,589	1,589	1,589	1,583	1,583	1,042	1,041	931	930	1,532	973	1,626	957	1,023
	平均	19.2	170.9	66.0	22.6	124.9	69.9	15.4	512.7	47.1	6,159	171.4	21.5	23.6	19.6	5.8
	S.D.	2.2	5.5	9.2	2.8	12.5	9.5	0.9	33.3	3.0	1,518	29.5	7.5	2.8	8.8	1.2
30～39	N	564	550	550	550	551	552	314	314	274	274	529	347	564	310	328
	平均	19.3	170.5	69.3	23.8	127.8	72.2	15.6	521.3	47.5	6,461	180.8	24.7	33.9	23.3	6.1
	S.D.	2.1	5.7	11.0	3.5	12.9	10.3	1.0	32.3	2.9	1,564	31.5	9.6	2.9	11.5	1.3
40～49	N	289	285	285	285	281	282	167	168	152	152	275	180	289	165	175
	平均	19.6	170.6	71.5	24.5	128.1	72.4	15.7	524.3	47.8	6,353	185.0	27.5	43.8	28.9	6.2
	S.D.	3.1	5.9	12.5	3.8	12.5	10.5	0.9	32.8	2.9	1,557	34.7	10.1	2.9	17.5	1.2
50～59	N	118	117	117	117	116	116	69	69	62	62	112	77	118	67	77
	平均	19.2	170.4	72.9	25.1	128.6	72.3	15.6	515.4	47.7	6,805	182.9	35.4	53.7	35.1	6.3
	S.D.	1.9	5.4	13.5	4.1	13.5	10.7	0.9	35.1	3.2	1,735	37.2	23.6	2.9	47.6	1.4
60～69	N	91	89	89	89	89	89	51	51	45	45	86	61	91	44	41
	平均	19.1	171.2	76.7	26.1	129.1	72.8	15.4	525.4	47.2	6,291	185.5	39.0	64.4	35.6	6.4
	S.D.	1.5	5.9	15.2	5.0	12.7	10.1	1.3	38.4	4.2	1,431	31.5	38.2	2.6	20.7	1.2
70～79	N	60	57	57	57	56	56	39	39	34	34	53	38	60	37	39
	平均	19.0	170.5	76.6	26.3	130.2	73.6	15.7	539.6	48.4	6,491	196.4	40.2	74.5	33.5	7.0
	S.D.	1.7	6.0	14.2	4.5	17.0	10.6	0.7	27.5	2.8	1,423	38.3	16.8	3.0	14.7	1.5
80～89	N	41	40	40	40	40	40	27	27	25	25	37	24	41	23	27
	平均	19.4	171.5	78.7	26.8	131.7	74.0	15.7	525.6	47.0	6,812	191.9	43.0	85.0	50.3	6.9
	S.D.	1.7	4.7	12.0	4.1	14.3	11.4	0.6	37.3	3.3	1,332	35.0	14.8	3.0	28.7	1.2
90～99	N	33	32	32	32	31	31	22	22	21	21	29	24	33	22	22
	平均	19.6	169.1	76.8	26.7	130.5	75.3	15.6	524.4	47.2	6,771	187.4	41.7	94.2	57.5	6.8
	S.D.	1.8	4.7	15.4	4.5	17.5	11.7	0.8	27.5	2.7	1,524	36.5	9.3	3.0	52.7	1.5
≧100	N	113	113	113	113	113	113	72	72	68	68	105	78	113	66	73
	平均	18.9	171.4	82.8	28.2	133.0	75.9	15.7	526.3	47.6	6,654	193.8	67.0	150.5	62.2	7.0
	S.D.	1.4	5.3	15.6	4.9	14.9	12.9	1.0	32.5	3.2	1,681	37.8	30.6	44.7	32.4	1.7

表6.4　総コレステロール値と他のパラメータとの相関(女子)

	相関関係	人数	有意差
体重との相関	0.018	8,811	なし
BMIとの相関	0.054	8,811	0.1%
血色素との相関	0.074	8,811	0.1%
赤血球との相関	0.075	8,752	0.1%
ヘマトクリット値との相関	0.030	8,396	2%
GOT値との相関	0.068	6,292	0.1%
GPT値との相関	0.068	8,811	0.1%
γ-GTP値との相関	0.025	5,883	5%
尿酸値との相関	0.078	5,831	0.1%

表6.5　総コレステロール値と他のパラメータとの相関(男子)

	相関関係	人数	有意差
体重との相関	0.179	10,750	0.1%
BMIとの相関	0.237	10,748	0.1%
血色素との相関	0.133	7,748	0.1%
赤血球との相関	0.154	7,749	0.1%
ヘマトクリット値との相関	0.032	6,944	1%
GOT値との相関	0.072	7,210	0.1%
GPT値との相関	0.239	8,113	0.1%
γ-GTP値との相関	0.572	5,900	0.1%
尿酸値との相関	0.142	6,629	0.1%

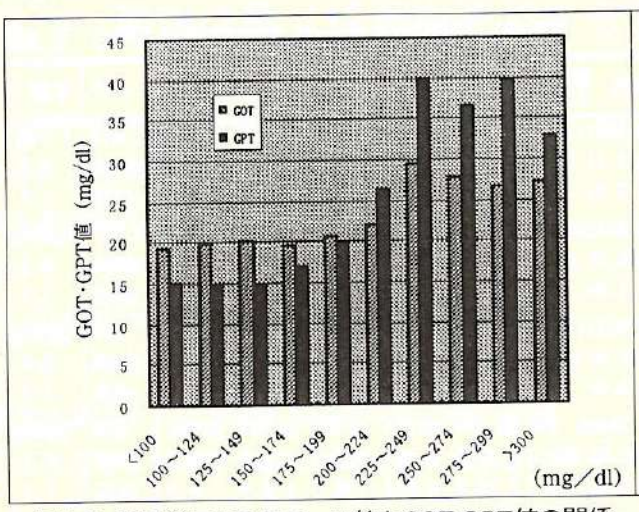


図6.3 男子総コレステロール値とGOT,GPT値の関係

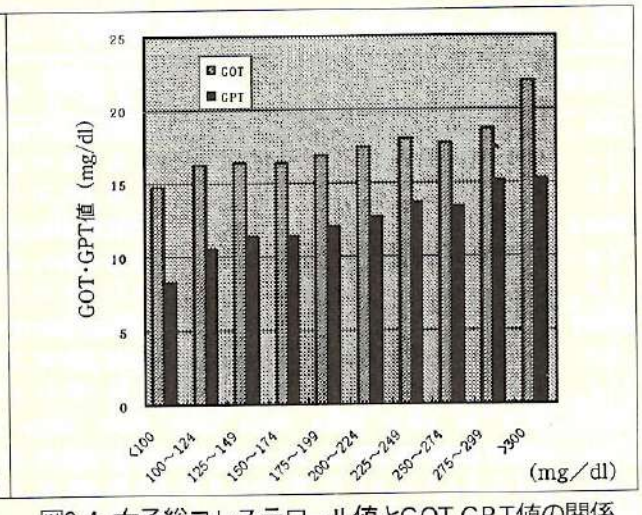


図6.4 女子総コレステロール値とGOT,GPT値の関係

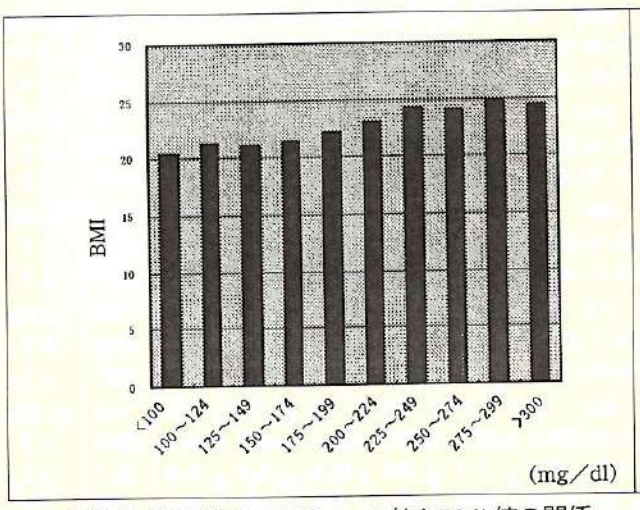


図6.5 男子総コレステロール値とBMI 値の関係

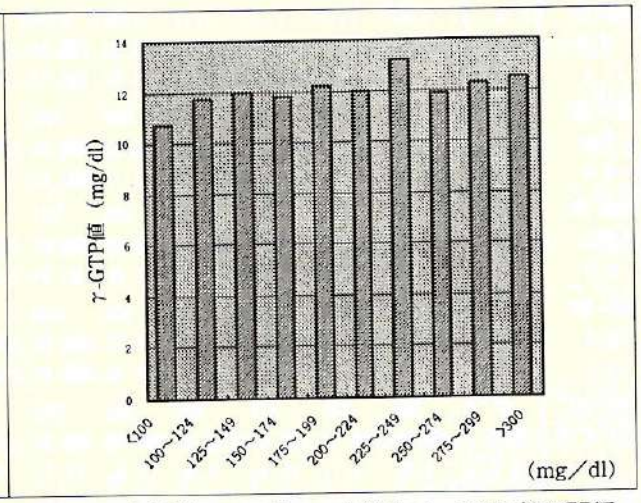


図6.6 女子総コレステロール値とγ－GTP 値の関係

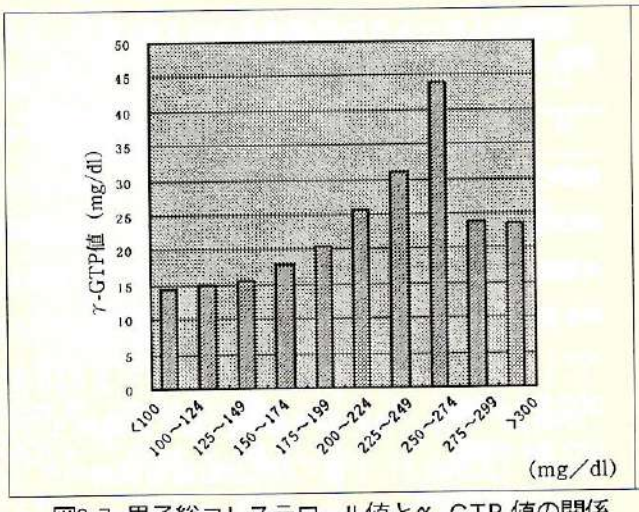


図6.7 男子総コレステロール値とγ-GTP 値の関係

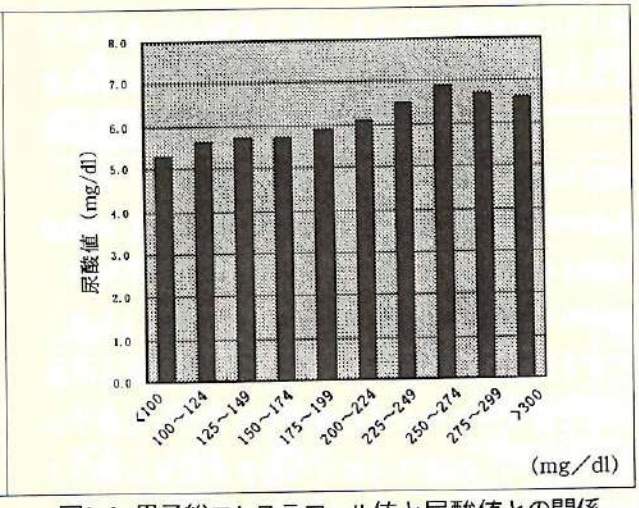


図6.8 男子総コレステロール値と尿酸値との関係

に示した．図6.5には男子における総コレステロール値とBMIとの相関を示したが，正の相関がみられた．女子では有意の関係を認めていない．γ-GTPと総コレステロール値との関係は，女子では有意差は5％と低い相関であったが，男子では相関係数0.294とかなり強い相関を示していた．女子ならびに男子のこの成績を図6.6と図6.7に示した．尿酸値との間にも同様の傾向がみられ，ことに男子では図6.8に示したようにかなりきれいな関係が認められている．

6.3 考 察

「学生の健康白書1995－基本編－」でもふれたように，今回の血液検査が実施された対象学生が，男女ともに1年生を中心にしたものであり，従って年齢的には18～19歳台が中心のデータということができる．今回の分析では年齢別に分けての成績は割愛し，男女それぞれを合計した学生を対象にした．多変量解析については別の機会にゆずるとして，今回は貧血の指標として血色素量，肝機能検査の指標としてGPT値，そして生活習慣病の指標として総コレステロール値を選んで，他の血液・生化学の成績あるいは身体計測のうち体重とBMIとの関係を調べた．ことに女子学生で「やせ願望」によるダイエットの影響をみるために，体重やBMIとの関係を分析したが，男女ともに血色素量と体重およびBMIとの関連が明らかになった．また，肝機能異常，ことに肥満に伴う脂肪肝を示唆する成績が，GPT値と体重，BMIとの間に認められた．

6.4 まとめ

1995年の「健康白書－基本編－」の成績から，血液検査・生化学のデータ相互間，あるいはこれらのパラメータと身体計測データのうち体重あるいはBMIとの関係が深いことを示唆する結果が得られた．また，この中で今回の総コレステロールの測定値が，「学生の健康白書1984」に報告されている総コレステロール値より低下していることを報告した．今回の分析では女子では総コレステロールと体重の間には有意差を認めなかったが，BMIとの間には0.1％で有意な相関がみられ，やはり肥満と総コレステロール値とは関係が深いという結果であった．

参考文献

1） 森下玲児：「学生の健康白書1995－基本編－」8. 血液検査，国立大学等保健管理施設協議会・学生の健康白書に関する特別委員会編，1997，pp.102-121.

2） 榎本浩昌：「学生の健康白書1984」，〔8〕血液脂質の検査．国立大学保健管理センター所長会議・学生の健康白書作成に関する委員会編，1987，pp.31-32およびpp.90-91.

［森下玲児］

7. アレルギー性疾患に関するアンケート調査結果

7.1 はじめに

アレルギー性疾患に関するアンケート調査から抽出された男子3,910名，女子2,452名（基本編参照）を対象とした．主として，発作性の咳・呼吸困難のある群（以下「喘」），季節性の鼻炎・結膜炎症状のある群（以下「季」），アトピー性皮膚炎症状のある群（以下「皮」），薬物アレルギー症状のある群（以下「薬」），食物アレルギー症状のある群（以下「食」）と当該症状のない「当該症状－」群との間で，他症状群あるいは症状以外の項目について差があるか否かを χ^2 法により解析し，$p < 0.05$ のものを有意とした．

症状が調査の1年以内にあった学生を，「喘2」＝A，「季2」＝R，「皮2」＝D，「薬2」＝Y，「食2」＝Fとし，症状が調査 1年以上前にあったが，1 年以内にはなかった学生を，「喘1」＝B，「季1」＝S，「皮1」＝E，「薬1」＝Z，「食1」＝G として，必要に応じて区別した．

入学前の居住地域との関連では，対象を平成7年（1995年）4月1日現在18歳の学生のみとしたが，他項については年齢の区別を設けなかった．

7.2 各群とアレルゲン

各群で，「当該疾患－」群に比べて，アレルゲン検査の結果が陽性であったとする回答の率が高かった（図7.1）．

「喘」群と「皮」群では，男女とも例外なく，室内塵とダニ・アレルゲンで高かった．カビ・アレルゲンに陽性だったという回答は，男子A，男子S，女子Eを除く各群で有意に多かった．スギ花粉に陽性と回答したものは，女子のA，B，男子E，女子Eを除く各群で有意に多かった．

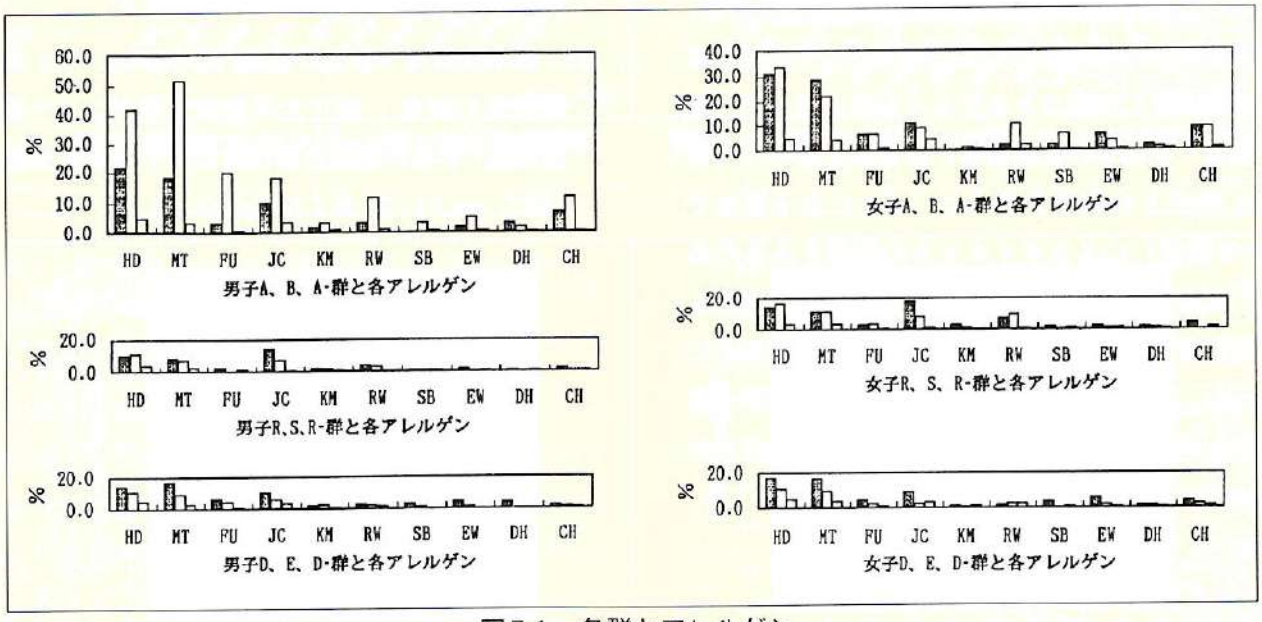


図7.1 各群とアレルゲン

註： HDは室内塵，MTはダニ，FUはカビ，JCはスギ花粉，KMはカモガヤ花粉，RWはブタクサ花粉，SBはソバ粉，EWは卵白，DHはイヌ毛，CHはネコ毛である．
各アレルゲンに対応する3本のカラムのうち，左端は「当該症状2」群，中央は「当該症状1」群，右端は「当該症状-」群である．

7.3 他のアレルギー性疾患との合併

多くの群で，「当該症状－」群より他のアレルギー性疾患症状の合併率が高かった（表7.1，＊印）．

表7.1 各群と他のアレルギー性疾患との合併

	男子喘2	喘1	喘－	女子喘2	喘1	喘－
他疾	(60)	(115)	(3735)	(45)	(78)	(2329)
季2	*33	*27	712	13	*30	502
季1	3	*14	150	*6	*9	86
皮2	*7	10	201	*16	*17	183
皮1	2	*19	200	4	*16	158
薬2	1	0	11	2	1	12
薬1	1	4	47	3	1	64
食2	*5	3	63	2	2	61
食1	2	*10	86	3	*9	83

	男子季2	季1	季－	女子季2	季1	季－
他疾	(772)	(167)	(2971)	(545)	(101)	(1806)
喘2	*33	3	24	*29	*6	10
喘1	27	*14	74	13	*9	56
皮2	*58	9	151	*66	9	141
皮1	*53	*22	146	45	10	123
薬2	4	0	8	5	1	9
薬1	*17	*6	29	*22	4	42
食2	*31	4	37	*24	2	39
食1	*30	*10	57	28	5	62

	男子皮2	皮1	皮－	女子皮2	皮1	皮－
他疾	(218)	(221)	(3471)	(216)	(178)	(2058)
喘2	7	2	51	*17	16	12
喘1	10	*19	86	*16	4	58
季2	*58	53	661	*66	45	434
季1	9	*22	136	9	10	82
薬2	*3	1	8	*6	1	8
薬1	4	*12	36	*10	*13	45
食2	*8	*10	53	9	3	53
食1	4	*19	75	11	*16	68

註：（）内は各群の人数．略記法は本文参照．

7.4 各群と個人の背景因子

7.4.1 各群におけるアレルギー性疾患の家族歴

「喘」，「季」，「皮」は，それぞれ「喘－」，「季－」，「皮－」に比較して，男女とも，「喘」で，「喘」のみならず「季」や「皮」の，「季」で，「季」のみならず，「喘」や「皮」の，「皮」で，「皮」のみならず，「喘」や「季」の家族歴の頻度が有意に高かった（表7.2，＊印）．

表7.2 各群と家族歴

	男子喘2	喘1	喘－	女子喘2	喘1	喘－
歴	(60)	(115)	(3735)	(45)	(78)	(2329)
喘	*11	*25	141	*9	*18	174
季	7	*24	425	12	*25	483
皮	*8	*12	269	*13	*18	291
薬	0	1	38	*3	2	22
食	0	*7	44	*4	*5	57

	男子季2	季1	季－	女子季2	季1	季－
歴	(772)	(167)	(2971)	(545)	(101)	(1806)
喘	34	7	136	*65	12	124
季	98	*32	326	108	*37	375
皮	69	8	212	*92	14	216
薬	11	1	27	*12	1	14
食	*16	2	33	19	15	42

	男子皮2	皮1	皮－	女子皮2	皮1	皮－
歴	(218)	(221)	(3471)	(216)	(178)	(2058)
喘	*18	*17	142	*30	*24	147
季	*36	*40	380	*66	45	409
皮	*56	*30	203	*66	*42	214
薬	3	1	35	*5	*8	14
食	8	5	38	9	7	50

註：（）内は各群の人数．略記法は本文参照．

7.4.2 学生の入学前の住居地域と各群の頻度

平成7年（1995年）4月1日現在18歳の学生が，入学前に住んでいた都道府県が太平洋側か日本海側かについて，有意差が見られたのは「季」のみであった（図7.2a）．また，入学前に住んでいた地域が市部か郡部かについて，有意差が見られたのは，「季」のみであった（図7.2b）．

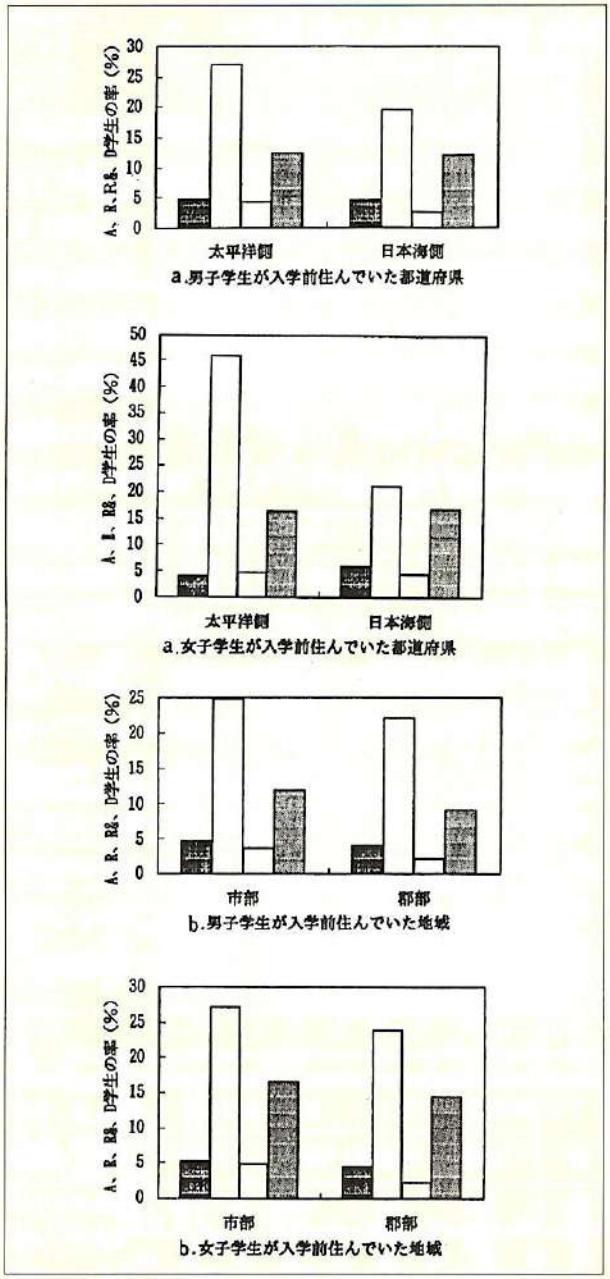


図7.2　学生の入学前の住居地域と各群の頻度

註：各地域の4本のカラムで，左端は「喘」，中央（中抜き）左は「季」，中央（中抜き）右は［「季」で，かつ，抗スギ花粉抗体が陽性であったと答えた学生］群，右端は「皮」を示す．

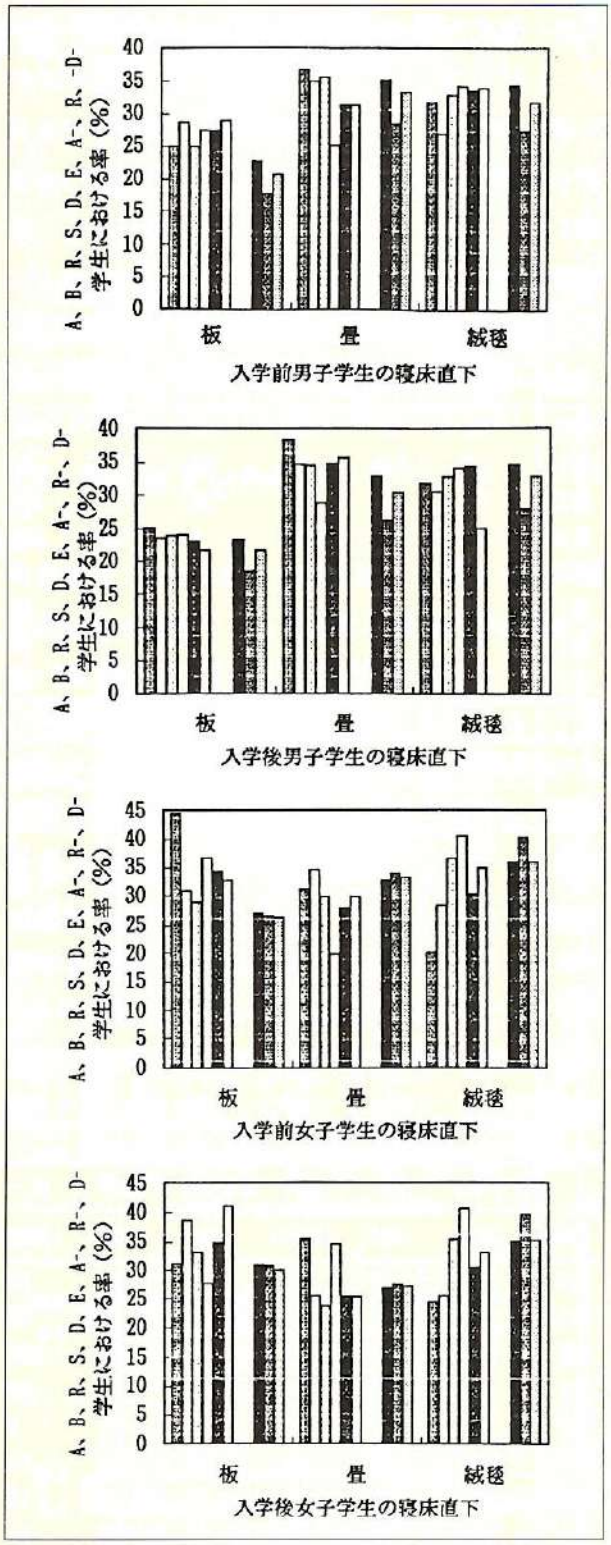


図7.3　各群における寝床直下の材料

註：各材料に対する9本のカラムは，左からA＝喘2，B＝喘1，R＝季2，S＝季1，D＝皮2，E＝皮1，A-＝喘-，R-＝季-，D-＝皮-群を示す．

7.4.3　寝床直下の材料

女子の「喘2」と「皮2」では，「当該疾患－」群に比較して，入学前に，板の間の頻度が有意に高く，絨毯の頻度が有意に低かったが，入学後は，ともに有意差はなくなった（図7.3）．

7.4.4 ペット

ペットでは，男女の各群とも，「当該疾患－」群と比べて有意差は見られなかった（図7.4）．

学生の回答から感作の有無を判断すると，飼育経験者に占める感作者の割合は，男女とも，ほとんどの群で，ネコで有意に高かった（図7.5）．

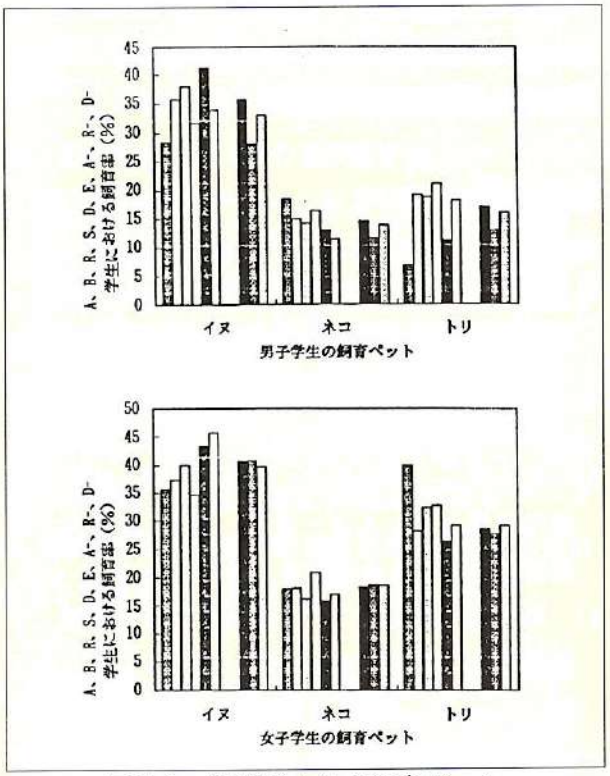


図7.4　各群における飼育ペット

註：各ペットに対応する9本のカラムの左からA＝喘2，B＝喘1，R＝季2，S＝季1，D＝皮2，E＝皮1，A-＝喘-，R-＝季-，D-＝皮-を示す．

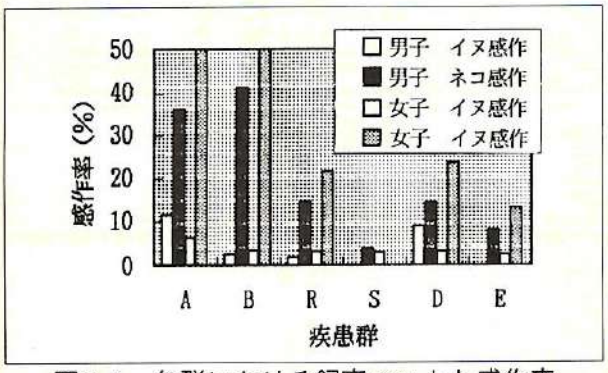


図7.5　各群における飼育ペットと感作率

註：A，B，R，S，D，Eについて，図7.4の脚註参照．

7.4.5 生まれ月と各群の出現頻度

各群の頻度と生まれ月との間の関係では，男女とも一定のうねりを示すものはなかった．図7.6はその典型例である．

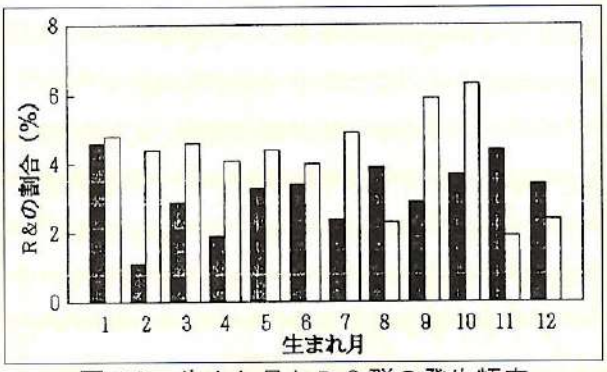


図7.6　生まれ月とR＆群の発生頻度

註：R＆は「季」で，かつ，抗スギ花粉IgE 抗体が陽性であったと答えた学生群を示す．各月の2本のカラムの，左は男子R＆の割合，右は女子R＆の割合を示す．

7.5 考　案

同一人が，二つ以上のアレルギー性疾患に罹患する傾向が強いこと，これら諸疾患を一括すると強い遺伝傾向があることを初めて明らかにしたのは，1916年に行われた621例を対象とする臨床調査[1]であった．今回の調査でも，一つのアレルギー性疾患群は，他のアレルギー性疾患そのもの，あるいは，その家族歴を持つ可能性が高かった．ただし，1916年の調査では，気管支喘息，花粉症，蕁麻疹（血管浮腫）および消化管アレルギーが注目されたが，今回の調査では「喘」，「季」，「皮」の3疾患が主役であった．

「季」すなわち花粉症は，その急増が一般住民調査[2]で確認され，特異的抗スギ花粉 IgE抗体保有者が学生の間で50％内外にのぼることが報告[3]され，数の上でアレルギー性疾患の代表になっている．花粉症の頻度が急変したこと自体が，本疾患の発症に遺伝的要因のほかに環境的要因[4]がより強く関与していることを示唆している．

スイスの，1926年の77,000名を対象とした調査で，都会1.20％，田舎0.13％，平均0.28％であったが，1985年の2,524名を対象とした調査では，都会と田舎との差がなくなり，いずれも約10％に増えていたという[5]．今回の全国調査で花粉症の頻度は，太平洋側の都県出身の学生群で日本海側の府県出身の学生群より高く，市部出身群で郡部出身群より高かった．

アレルゲン検査結果についての回答のうち，各疾患を通して多かったのは，室内塵，ダニ，ネコ毛，スギ花粉，ブタ草花粉であった．後ろの2種は屋外由来であるが，前の3種は室内に由来する．

床材料は室内塵やダニ・アレルゲンとの関連で重要である[4]．入学前，男子「皮1」，女子「皮2」で板が多く，女子の「喘2」で絨毯が少なかった．入学前には注意して寝床直下の材料を選んでいたことを示している．入学後は，いずれの有意差もなくなっており，注意がゆるむか，注意してもままならなかったことを示唆している．

室内アレルゲンの源としてペットの重要性も認識されている[6]が，今回の調査で，ネコ毛の感作力の強さが注目された．

ほとんどのアレルゲンは，気候・気象の産物であり，その量には月毎の消長があると考えられる．一方，生体の側も乳幼児の時代には粘膜防御が充分でなく容易に抗原の侵入を許したり，逆に，未熟な免疫系に大量の抗原を受け入れた場合には免疫学的寛容現象がおこる可能性がある．アレルギー性疾患とその患者の誕生月との間に関連があるかもしれないという発想で，さまざまな研究が行われているが，結果は，まちまちである[7]．今回の調査でも，「喘」も「季」も「皮」も，「季」で抗スギ花粉IgE 抗体が陽性であったと回答した学生に限局しても，男女に共通する一定のうねり現象はみられなかった．

今回の調査では，大学生に重要な「運動とアレルギー性症状」[8]の解析はできなかった．2005年以降の調査に期待する．

7.6 おわりに

今回の調査でも，諸アレルギー性疾患を一括することの妥当性が確認された．この点は，1916年の調査結果と変わらない．一方，「皮」は1916年の調査では対象にもならなかった疾患である．アレルギー性疾患においても不易流行の原則は生きている．2005年以降も，それぞれの時代に即した調査が行われることを期待する．

参考文献

1) Cooke RA, Vander Veer A Jr: Human sensitization. J Immunol, 1:201-305,1916.
2) 東京都衛生局：花粉症患者実態調査，花粉症対策総合報告書，1998.
3) 鈴木修二，稲村貞子，後藤潮子他：大学生の感作状態とアレルギー症状．第31回全国大学保健管理研究集会報告書，1993，pp.446-448.
4) 馬場実，鈴木修二，遠藤朝彦，藤巻秀和，宇理須厚雄，山下直宏，原慎一郎：シンポジウム3 アレルギー疾患は何故増えたか？アレルギー，46：734-736，1997.
5) Wüthrich B: Epidemiology of the allergic diseases: Are they really on the increase? Int Arch Allergy Appl Immunol, 90:3-10, 1989.
6) D'Amato G, et al: Clothing is a carrier of cat allergens. J Allergy Clin Immunol, 99：577-578, 1997.
7) Carosso A, et al：The effect of birth season on pollenosis. Ann Allergy, 56：300－303，1986.
8) 須甲松信：運動とアレルギー症状，第32回全国大学保健管理研究集会報告書ワークショップI，1994，pp.85-86.

[鈴木修二]

8. 大学生のライフスタイルと住居形態

—自宅生と自炊生を比較して—

8.1 はじめに

白書1995－応用研究編－では大学生のライフスタイルを住居形態に注目して検討した．住居については，①自宅，②寮，③自炊のアパートなど，④その他，の4つの選択肢があるが，“①自宅”と“③自炊のアパートなど”の2回答が95％を占めたため“①自宅”（以下，自宅）と“③自炊のアパートなど”（以下，自炊）に住まう学生についてのみ比較した．

基本編で集計に用いた61,541名の総有効データの中から，住居に①あるいは③と回答し，住居以外の質問に1項目以上の回答が有るデータ56,869名分を本集計の母集団とした．以下に集計結果を概述する．詳細は図表を参照されたい．

8.2 日常生活一般：課外活動

男女とも50％強が部活動をしているが，女子は男子より文化部の比率が5％程度多く，運動部が5％程度少なかった．男女に共通して，各学年とも自炊生の方が部活動をしている学生が多かった．部活動別に見ると，文化部は自宅生・自炊生で差が無かった．運動部は自炊生の方が自宅生より多いが，1年生に比べ4年生ではその差が小さくなった．（表8.1）

8.3 食生活

8.3.1 食事の状況

1）朝食摂取状況（図8.1）

男女とも朝食を“毎日食べる”学生は自宅生の方が多く，“食べない”学生は自炊生が多かった．

男子学生の場合，朝食を“毎日食べる”自宅生は1年では73％あるが，4年では51％になり，22％減少した．自炊生は1年では50％であるが，4年

表8.1 日常生活一般 課外活動

	総数	男子																	
		回答数	%	1年				2年				3年				4年			
				自宅	%	自炊	%	自宅	%	自炊	%	自宅	%	自炊	%	自宅	%	自炊	%
運動部	16,663	10,911	32.2	1,393	27.8	3,105	33.0	276	32.5	740	37.0	201	34.3	423	38.9	1,329	30.4	3,444	32.4
文化部	9,064	4,819	14.2	631	12.6	1,188	12.6	175	20.6	364	18.2	96	16.4	123	11.3	643	14.7	1,599	15.1
両方	2,569	1,542	4.5	248	5.0	534	5.7	40	4.7	159	8.0	27	4.6	75	6.9	115	2.6	344	3.2
入っていない	27,409	16,640	49.1	2,733	54.6	4,572	48.6	358	42.2	735	36.8	262	44.7	466	42.9	2,280	52.2	5,234	49.3
総数	55,705	33,912	100.0	5,005	100.0	9,399	100.0	849	100.0	1,998	100.0	586	100.0	1,087	100.0	4,367	100.0	10,621	100.0

	総数	女子																	
		回答数	%	1年				2年				3年				4年			
				自宅	%	自炊	%	自宅	%	自炊	%	自宅	%	自炊	%	自宅	%	自炊	%
運動部	16,663	5,752	26.4	979	21.3	1,441	26.6	205	31.6	328	36.0	228	27.4	316	33.5	878	24.5	1,377	28.3
文化部	9,064	4,245	19.5	786	17.1	961	17.7	153	23.6	202	22.2	162	19.5	189	20.0	718	20.1	1,074	22.1
両方	2,569	1,027	4.7	228	5.0	341	6.3	37	5.7	67	7.4	27	3.2	70	7.4	87	2.4	170	3.5
入っていない	27,409	10,769	49.4	2,601	56.6	2,673	49.4	254	39.1	314	34.5	414	49.8	369	39.1	1,896	53.0	2,248	46.2
総数	55,705	21,793	100.0	4,594	100.0	5,416	100.0	649	100.0	911	100.0	831	100.0	944	100.0	3,579	100.0	4,869	100.0

では16％に著減した．朝食を“食べない”自宅生は1年では8％と少数であるが，4年では17％になり，9％増加した．朝食を“食べない”自炊生は1年では18％しかないが，4年では50％を占めた．

女子学生の場合，“毎日食べる”自宅生は1年では82％あるが，4年では68％に減少した．自炊生は1年では73％が食べているのに対し，4年は38％に減少した．朝食を“食べない”自宅生は1年では3％，4年でも8％と少数であった．自炊生は1年では5％しか無いが，4年では20％に増加した．

2）昼食摂取状況（図8.2）

男女とも，全学年において自宅生と自炊生の差は僅少であった．昼食を“毎日食べる”学生は4年になると1年より8～9％減少したが，昼食を“食べない”学生は微増するのみで，“週何回か欠食する”学生が増加した．

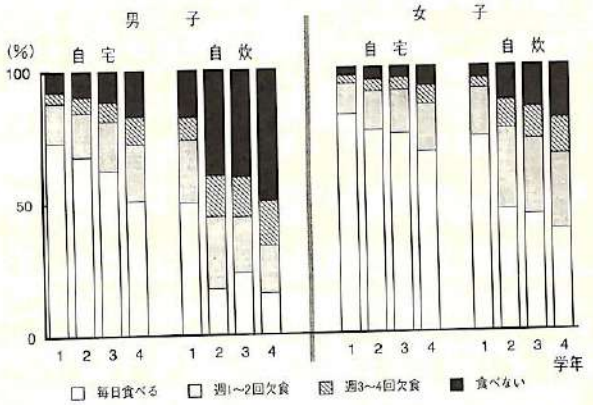


図8.1　食生活　朝食の摂取状況

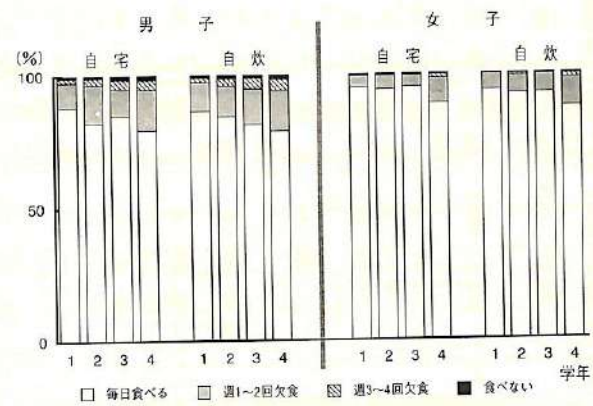


図8.2　食生活　昼食の摂取状況

8.3.2　食品の種類（図8.3～9）

①肉・肉製品，②魚介類・魚製品，③牛乳・乳製品，④卵，⑤大豆・豆製品，⑥野菜類，⑦果物のいずれも，自宅生が自炊生より摂取頻度が高かった．

男女とも自炊生では4年になるにつれて，①肉の摂取頻度は増加し，②魚と⑤豆は不変または一定の傾向がなく，③牛乳・④卵・⑥野菜・⑦果物の摂取頻度は減少した．

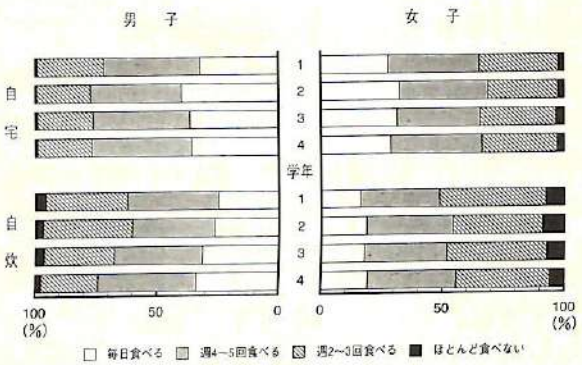


図8.3　食生活　肉・肉製品の摂取状況

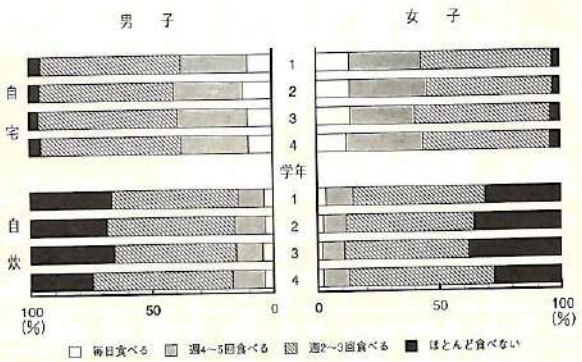


図8.4　食生活　魚介類の摂取状況

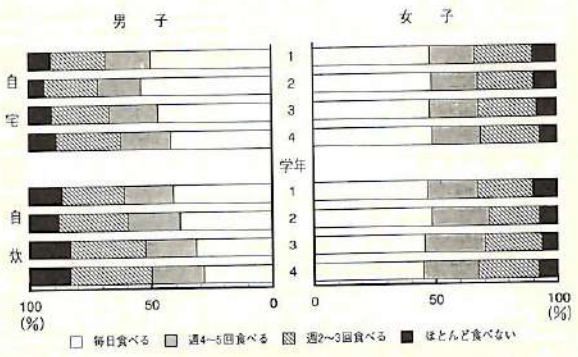


図8.5　食生活　牛乳・乳製品の摂取状況

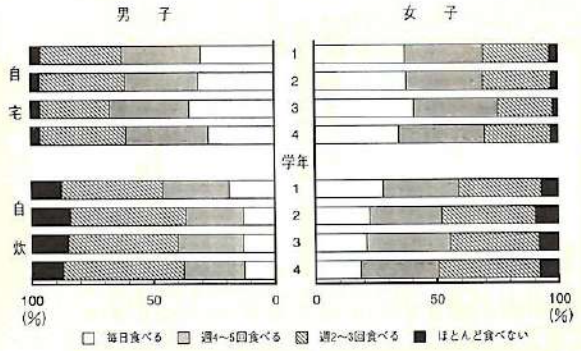


図8.6 食生活 卵の摂取状況

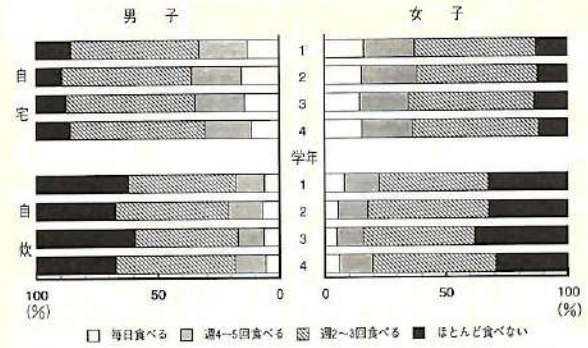


図8.7 食生活 大豆・豆製品の摂取状況

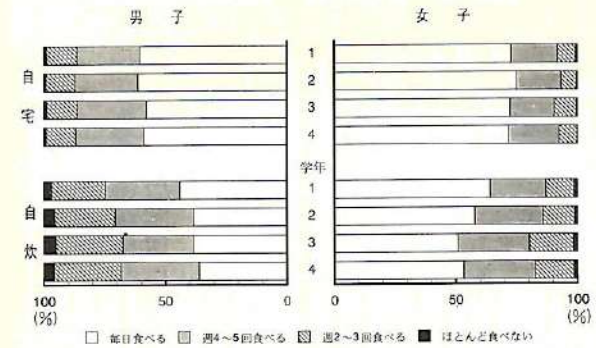


図8.8 食生活 野菜類の摂取状況

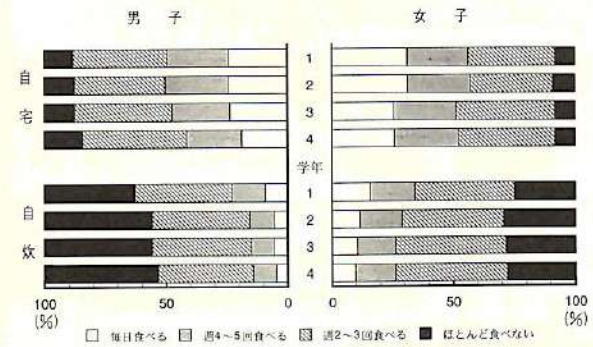


図8.9 食生活 果物の摂取状況

8.4 喫 煙

男子では学年とともに“吸わない”が減少し“毎日吸う”が増加した．4年で“毎日吸う”学生の割合は自宅生より自炊生が著明に増加した．(図8.10)

毎日吸う”学生の1日の喫煙本数は，1年では10本が最頻値であるが，4年は20本に増加した．(図8.11)

また4年のみを取り出して喫煙開始年齢をみると成人式を迎える20歳が最も多く，次いで大学入学時の18歳であった．(図8.12)

女子では男子と同様，学年とともに“毎日吸う”が増加するが，増加は僅かであった．(図8.10～12) また，朝食の摂取状況と喫煙の関係を見ると，男女とも欠食の頻度が高いほど喫煙率が高かった．(図8.13)

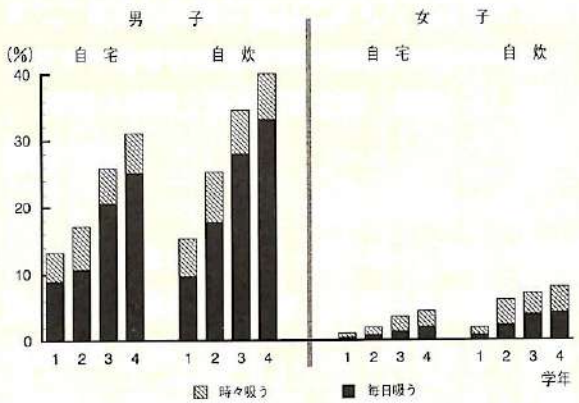


図8.10 喫煙 住居別喫煙率

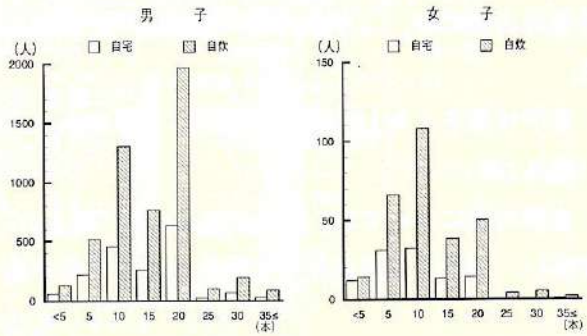


図8.11 喫煙 毎日喫煙する人の喫煙本数

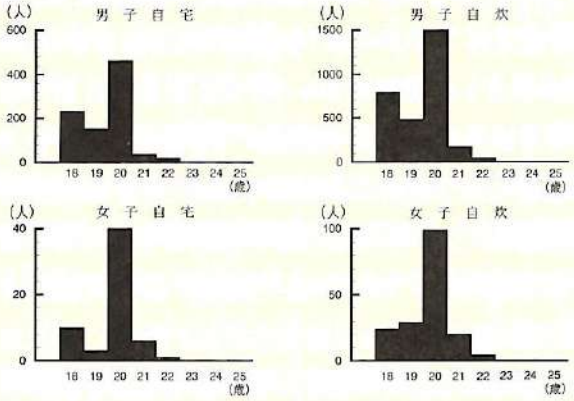


図8.12　喫煙　4年生の喫煙開始年齢

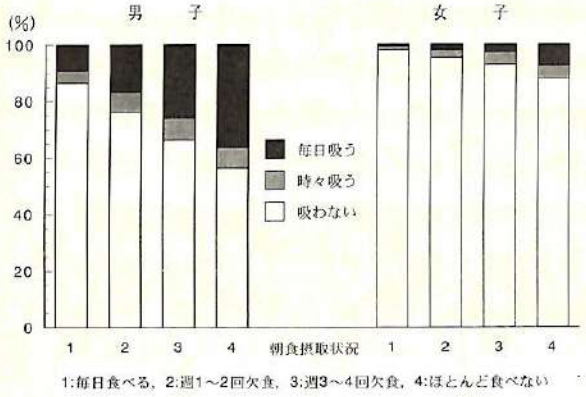


図8.13　喫煙　朝食摂取状況と喫煙の関係

8.5　現在の自己評価

①　体重については，男女とも自宅生と自炊生で明らかな差は無かった．（図8.14）

②　食事の規則性は，自宅生も学年と共に低下するが，4年生でも過半数は“規則的”であった．自炊生でも1年では“規則的”である学生が過半数を占めたが，2年以降は“不規則”が増加した．

女子は男子より10％程“規則的”が多かった．（図8.15）

食事の量については，男子が女子より“程よい”が多い．男子では自宅生でも自炊生でも学年が進

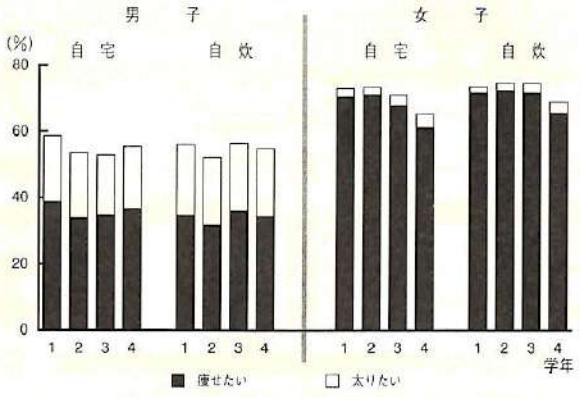


図8.14　自己評価　最近の体重

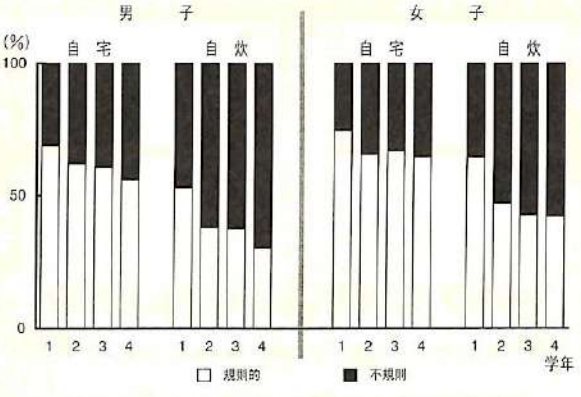


図8.15　自己評価　食生活の規則性

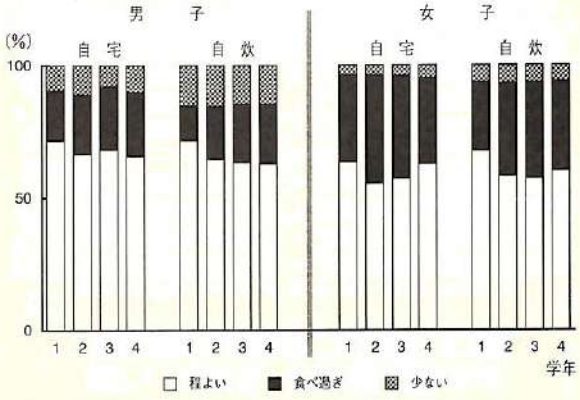


図8.16　自己評価　食生活の量

むと“程よい”が減少し，“食べ過ぎ”が増加した．（図8.16）

食事のバランスについては男女とも，自宅生は“良い”，自炊生は“偏る”が多かった．自炊生の“偏る”は4年の方が1年より高頻度になった．（図8.17）

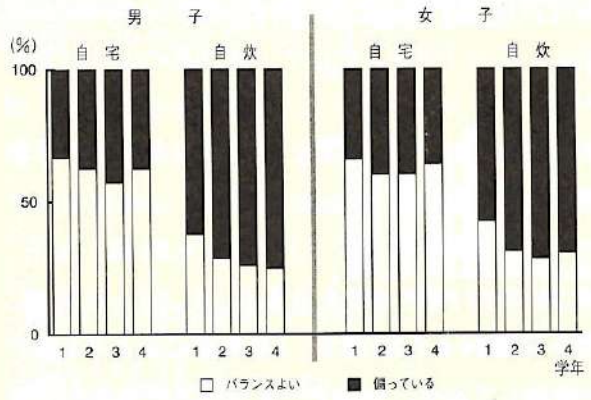


図8.17　自己評価　食生活　バランス

③　睡眠の規則性については，4年で“不規則”が増加したが，自宅生より自炊生の方が増加が大きかった．女子は各学年とも，男子より“規則的”が10％前後多かった．（図8.18）

睡眠の満足度については，男女とも自宅生と自炊生で差は無く，いずれも半数以上が“不満足”であった．4年の自炊生は男女とも1年の自炊生より“不満足”が増加した．（図8.19）

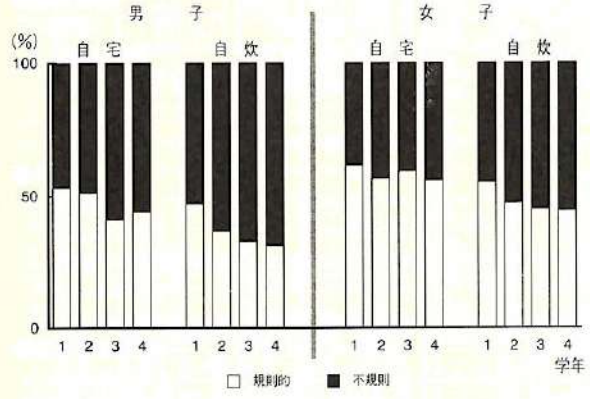


図8.18　自己評価　睡眠の規則性

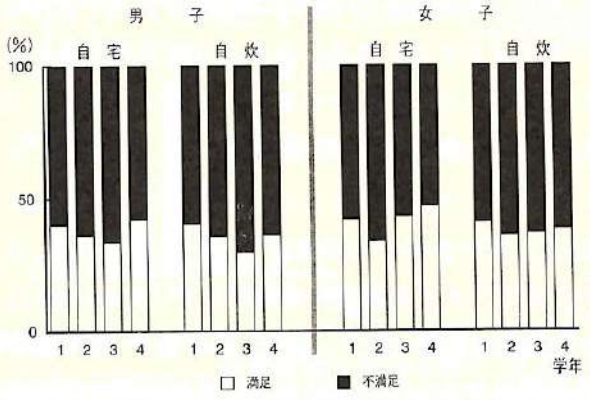


図8.19　自己評価　睡眠の状態

8.6　まとめ

自宅生の生活習慣は4年になっても比較的良く保たれているが，自炊生では朝食欠食・不規則で偏った食事・不規則な睡眠・喫煙が多くなり，この傾向は女子に比べ男子で著明であった．自炊生は自宅生に比べ1年では運動部活動をする学生が多く，身体活動量は多いと考えられるが生活習慣全体から見ると改善すべき問題点が多かった．

参考文献

学生の健康白書1995－基本編－，国立大学等保健管理施設協議会　学生の健康白書作成に関する特別委員会編，1997.

［上園慶子，川崎晃一，武谷峻一］

9. 大学生のライフスタイルと定期健康診断結果

9.1 データベースの合成

9.1.1 データベースの作成

ライフスタイル調査の有効データ（n＝64,541）と定期健康診断（以下，定健）の有効データ（n＝280,493）について，その双方に共通の個人識別情報（大学コード・学部コード・学年・入学年度・個人識別番号）を有するデータ37,059名分を取り出し，2種の調査結果をつないで新たなデータベースを合成した．

9.1.2 合成データベースの審査

基本編でライフスタイル調査の集計は学年毎に，定健結果は年齢毎に集計したので，合成データベースについて男女別，学年別に対象者の平均年齢±標準偏差を求めた（表9.1）．合成データベースの1年生は男子：18.53±0.94歳，女子：18.30±0.71歳，4年生は男子：21.59±0.90歳，女子：21.24±0.59歳で，1学年毎におよそ1歳ずつ増加しており，合成データベースの学年と年齢はよく対応した．

合成データベースの学年別頻度は男女とも1年生と4年生が主で，ライフスタイル調査元データベースの学年分布と極めて類似した．（図9.1）

一方，合成データベースの年齢分布は18歳および21歳が他の年齢より明らかに多く，18歳から21歳まであまり偏りのない定健のデータベースの年齢分布とは異なっていた．（図9.2）このため定

表9.1 合成データベースの対象者

	総数	男子								女子							
		計	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	%	1年	2年	3年	4年	5年	6年
18歳	10,872	5,418	25.4	5,418						5,454	34.7	5,454					
19歳	5,261	3,139	14.7	2,380	759					2,122	13.5	1,363	759				
20歳	3,394	1,987	9.3	628	365	994				1,407	9.0	162	161	1,084			
21歳	11,294	6,062	28.4	107	80	308	5,567			5,232	33.3	46	22	176	4,988		
22歳	4,053	2,976	13.9	40	18	61	2,811	46		1,077	6.9	12	9	20	1,010	26	
23歳	1,247	1,000	4.7	20	12	18	736	43	171	247	1.6	9	3	6	119	28	82
24歳	518	430	2.0	10	6	16	215	14	169	88	0.6	9	2	3	23	5	46
25歳	205	180	0.8	7	4	9	64	6	90	25	0.2	2	2	3	6		12
26歳	97	79	0.4	13	3	4	32	3	24	18	0.1	6	2	3	6		1
27歳	68	53	0.2	8	5	1	21	1	17	15	0.1		4	6	4	1	
28歳	50	35	0.2	9	6		11	3	6	15	0.1	5		1	8		1
総数	37,059	21,359	100.0	8,640	1,258	1,411	9,457	116	477	15,700	100.0	7,068	964	1,302	6,164	60	142
%		100.0		40.5	5.9	6.6	44.3	0.5	2.2	100.0		45.0	6.1	8.3	39.3	0.4	0.9
平均年齢	20.02	20.22		18.53	19.63	20.44	21.59	23.08	24.09	19.74		18.30	19.32	20.25	21.24	22.72	23.55
同 SD	1.73	1.81		0.94	1.20	0.89	0.90	1.35	1.13	1.58		0.71	0.88	0.79	0.59	0.84	0.77

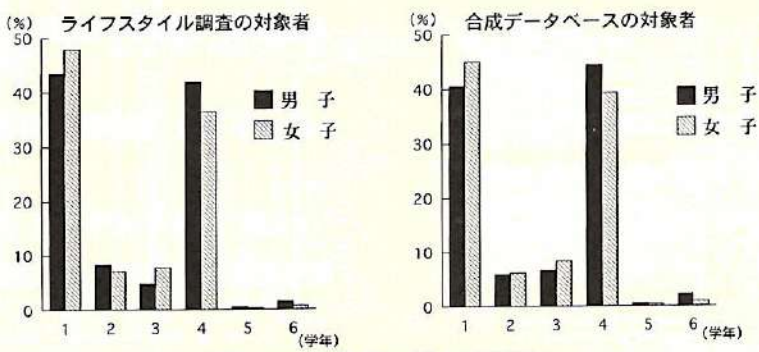


図9.1 対象者の学年別頻度

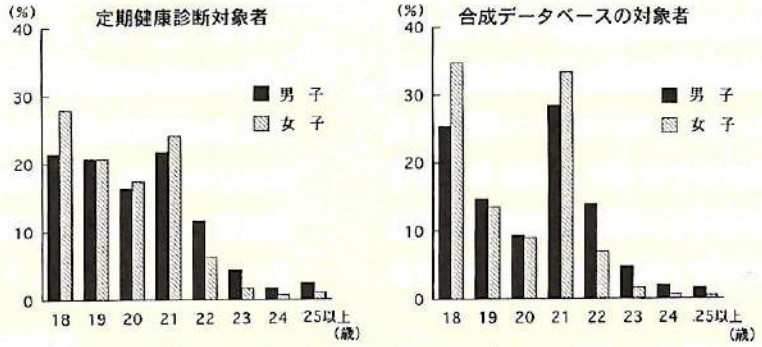


図9.2　対象者の年齢別頻度

表9.2　合成データベース対象者の年齢別身長

年齢	男子			女子		
	対象者数	平均	標準偏差	対象者数	平均	標準偏差
総数	21,054	171.26	5.62	15,361	158.60	5.19
18歳	5,372	170.97	5.55	5,339	158.49	5.29
19	3,117	171.13	5.71	2,090	158.79	5.12
20	1,969	171.22	5.63	1,396	158.52	5.11
21	5,958	171.45	5.61	5,100	158.66	5.16
22	2,923	171.48	5.66	1,048	158.59	5.04
23以上	1,715	171.42	5.63	388	158.81	5.15

健の基本項目であり，多人数のデータでは正規分布をすると考えられる身長について年齢毎の分布を見たところ，表9.2に示すように合成データベースの身長は定健の身長の平均値・標準偏差と一致した．学年毎の抽出率は男子では平均11.9％（7.1～15.3％），女子では平均17.6％（9.6～23.8％）であった．

上記検討より合成データベースはライフスタイル元データおよび定健元データの無作為抽出になっていると考えた．（表9.2）

表9.3　ライフスタイル項目の回答選択肢と定期健康診断項目の値の区分

ライフスタイル		定期健康診断		
住居の形態	喫煙　吸うか	BMI	収縮期血圧(SBP, mmHg)	ヘマトクリット(%)
・自宅	・吸わない	やせ:　～19.9	～109	～34.9
・食事付の寮	・時々吸う	普通:20.0～23.9	110～119	35.0～39.9
・自炊のアパート・寮・下宿	・毎日吸う	過体重:24.0～26.3	120～129	40.0～44.9
・その他		肥満:26.4～	130～139	45.0～49.9
	喫煙　1日喫煙量（本）		140～	50.0～
課外活動	1～10	体重(kg)		
・運動部のみ	11～20	男子　女子	拡張期血圧(DBP, mmHg)	コレステロール(mg/dl)
・文化部のみ	21～30	～44.9　～34.9	～79	～139
・運動部・文化部の両方	31～	45.0～49.9　35.0～39.9	80～84	140～179
・入っていない		50.0～54.9　40.0～44.9	85～89	180～219
	自己評価　体重	55.0～59.9　45.0～49.9	90～94	220～
朝食の摂取状況	・ちょうど良い	60.0～64.9　50.0～54.9	95～	
・毎日食べる	・太りたい	65.0～69.9　55.0～59.9		GPT, γ-GTP(IU/L)
・週1～2回欠食	・痩せたい	70.0～74.9　60.0～64.9	血圧区分(WHO)(mmHg)	～9
・週3～4回欠食		75.0～79.9　65.0～69.9	正常:DBP<90 and	10～19
・ほとんど食べない	自己評価　食事の規則正しさ	80.0～　70.0～	SBP<140	20～29
	・規則的		境界域:others	30～39
食品の種類	・不規則	肥満度(%)	高血圧:95≦DBP	40～
・毎日食べる		やせ過ぎ:　～-20.1	and/or 160≦SBP	
・週4～5回食べる	自己評価　食事の量	やせ気味:-20.0～-10.1		尿酸(mg/dl)
・週2～3回食べる	・程よい	普通:-10.0～+10.0	白血球数(/mm³)	～2.9
・ほとんど食べない	・食べ過ぎ	太り気味:+10.1～+20.0	～3,999	3.0～3.9
	・食べる量が少ない	太り過ぎ:+20.1～	4,000～5,999	4.0～4.9
ソフトドリンク，アルコール			6,000～7,999	5.0～5.9
・飲まない	自己評価　食事のバランス	肥満度(%)=実体重/理想体重×100-100	8,000～9,999	6.0～6.9
・飲む	・バランスがとれている	理想体重(kg)=(身長-100)×0.9	10,000～	7.0～
	・食事が偏っている	ただし，対象は 150≦身長(cm)<190		

9.1.3 合成データベースの集計

ライフスタイル調査の項目ごとに，定健の結果を集計して男女別に検討した．学年については2，3年生が比較的少数であったので，1年，4年，及び他学年の3群に分類した．また血液検査は1年がほとんどであったので，1年，及び他学年の2群に分類した．ライフスタイルおよび定期健康診断項目の区分を表9.3に示す．項目毎の区分は著者が恣意的に行った．なお，喫煙と血液検査結果の関係は第5章血液検査と喫煙との関係（担当：森下玲児）に記載されているので，この章では省略する．

表9.4 住居の形態と定健結果

1.自宅 2.食事付きの寮 3.自炊 4.その他

BMI	男子					女子				
	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4
総数(人)	20,892	6,287	1,029	13,372	204	15,249	6,383	587	8,136	143
%	100.0	30.1	4.9	64.0	1.0	100.0	41.9	3.8	53.4	0.9
平均	21.93	22.05	22.03	21.86	22	20.65	20.62	20.86	20.66	20.80
標準偏差	2.94	3.07	3.01	2.87	2.86	2.28	2.31	2.32	2.25	2.16
やせ	24.6	24.3	24.2	24.8	19.6	40.9	41.7	37.3	40.6	35.7
普通	56.7	55.5	55.8	57.2	60.8	52.0	50.9	53.5	52.6	56.6
過体重	11.7	12.2	12.4	11.3	13.7	5.0	5.0	6.5	4.9	4.9
肥満	7.1	8.0	7.6	6.6	5.9	2.1	2.3	2.7	1.9	2.8

収縮期血圧(mmHg)	男子					女子				
	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4
総数(人)	19,949	6,016	944	12,801	188	13,886	5,833	518	7,397	138
%	100.0	30.2	4.7	64.2	0.9	100.0	42.0	3.7	53.3	1.0
平均	125.69	126.20	123.97	125.58	124.74	113.26	113.64	112.38	113.08	109.88
標準偏差	12.70	12.74	11.95	12.71	13.50	12.14	12.22	12.51	12.28	12.39
～109	9.6	9.4	11.3	9.6	12.2	38.6	37.2	42.3	39.2	54.3
110～119	20.8	19.7	21.7	21.3	20.2	30.5	30.8	29.5	30.5	21.7
120～129	30.1	29.1	33.3	30.2	34.0	20.9	21.2	18.1	20.8	15.9
130～139	29.3	30.7	27.1	28.9	22.3	8.9	9.4	9.1	8.4	8.0
140～	10.2	11.1	6.6	10.0	11.2	1.1	1.3	1.0	1.0	0.0

拡張期血圧(mmHg)	男子					女子				
	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4
総数(人)	19,941	6,013	943	12,797	188	13,881	5,830	518	7,395	138
%	100.0	30.2	4.7	64.2	0.9	100.0	42.0	3.7	53.3	1.0
平均	70.87	70.99	69.46	70.92	70.46	66.62	66.75	66.82	66.54	64.83
標準偏差	9.34	9.39	9.44	9.30	9.55	8.64	8.71	8.72	8.57	8.78
～79	81.7	81.1	85.9	81.7	83.0	92.4	91.8	90.9	93.0	94.2
80～84	11.1	11.5	8.3	11.2	12.2	5.3	5.8	6.6	4.8	5.1
85～89	4.6	4.9	4.1	4.5	1.6	1.7	1.9	1.9	1.5	0.0
90～94	1.7	1.7	1.2	1.8	2.1	0.4	0.4	0.4	0.4	0.7
95～	0.8	0.8	0.5	0.9	1.1	0.2	0.1	0.2	0.3	0.0

ヘマトクリット(%)	男子					女子				
	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4
総数(人)	3,147	804	219	2,103	21	2,827	1,025	133	1,642	27
%	100.0	25.5	7.0	66.8	0.7	100.0	36.3	4.7	58.1	1.0
平均	46.45	46.87	46.20	46.33	45.10	40.26	40.48	41.03	40.06	39.93
標準偏差	3.02	2.99	3.24	2.99	2.50	3.16	3.04	3.84	3.16	2.39
～34.9	0.1	0.0	0.5	0.1	0.0	3.4	2.8	3.8	3.7	0.0
35.0～39.9	1.3	0.7	1.4	1.5	4.8	45.1	41.7	36.8	47.6	63.0
40.0～44.9	29.4	24.4	32.9	30.8	42.9	45.6	48.9	48.1	43.6	33.3
45.0～49.9	57.4	61.1	53.0	56.5	47.6	5.0	5.9	8.3	4.1	3.7
50.0～	11.9	13.8	12.3	11.1	4.8	1.0	0.8	3.0	1.0	0.0

9.2 結果

9.2.1 住居の形態（表9.4）

1） BMI

男子のBMIは全体，1年生，4年生ともに自宅生が自炊生より僅かに，しかし有意に高かった．女子では住居形態による差はなかった．

2） 血圧

収縮期血圧は，男子では全体および1年生で，女子では全体，1年生，4年生で自宅生が自炊生よ

表9.4 住居の形態と定健結果

1.自宅 2.食事付きの寮 3.自炊 4.その他

コレステロール (mg/dl)	男子					女子				
	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4
総数(人)	3,159	816	216	2,106	21	2,551	934	130	1,463	24
%	100.0	25.8	6.8	66.7	0.7	100.0	36.6	5.1	57.4	0.9
平均	163.36	165.91	154.62	163.15	174.9	177.45	177.54	168.25	178.05	187.42
標準偏差	29.66	31.68	29.9	28.57	42.02	28.87	27.59	29.43	29.34	39.13
～139	20.4	18.9	32.4	19.8	19.0	7.3	6.4	14.6	7.2	4.2
140～179	54.4	53.6	51.9	55.1	47.6	48.5	49.4	50.8	48.0	37.5
180～219	21.2	22.4	12.5	21.7	19.0	37.0	36.7	31.5	37.7	37.5
220～	3.9	5.1	3.2	3.3	14.3	7.2	7.5	3.1	7.1	20.8

GPT (IU/L)	男子					女子				
	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4
総数(人)	2,794	723	184	1,870	17	2,396	868	117	1,388	23
%	100.0	25.9	6.6	66.9	0.6	100.0	36.2	4.9	57.9	1.0
平均	18.13	18.70	18.57	17.84	20.35	11.91	11.97	10.59	11.98	12.13
標準偏差	19.18	17.45	23.80	19.35	13.55	8.16	7.98	3.83	8.57	3.80
～9	22.5	20.5	23.9	23.2	23.5	43.2	43.2	40.2	43.6	30.4
10～19	52.9	53.3	49.5	53.3	29.4	48.3	47.9	55.6	47.7	65.2
20～29	14.5	14.1	16.3	14.4	29.4	5.9	6.0	3.4	6.1	4.3
30～39	3.8	5.0	4.3	3.4	0.0	1.3	1.6	0.9	1.2	0.0
40～	6.2	7.2	6.0	5.8	17.6	1.3	1.3	0.0	1.5	0.0

γ-GTP (IU/L)	男子					女子				
	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4
総数(人)	2,574	646	182	1,728	18	2,056	753	119	1,165	19
%	100.0	25.1	7.1	67.1	0.7	100.0	36.6	5.8	56.7	0.9
平均	18.15	18.67	18.14	18.48	18.94	13.22	12.64	13.50	13.57	12.79
標準偏差	12.07	11.14	14.38	12.18	7.69	6.16	6.22	8.16	5.86	5.20
～9	7.4	6.8	6.0	7.8	5.6	21.4	26.0	18.5	18.6	31.6
10～19	64.1	64.1	72.5	63.4	50.0	69.5	67.2	73.1	70.8	57.9
20～29	20.2	19.3	15.4	20.8	33.3	7.4	4.8	6.7	9.1	10.5
30～39	4.2	5.0	1.6	4.1	11.1	0.8	0.8	0.0	0.9	0.0
40～	4.2	4.8	4.4	3.9	0.0	0.9	1.2	1.7	0.6	0.0

尿酸 (mg/dl)	男子					女子				
	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4
総数(人)	3,091	798	216	2,056	21	2,455	879	130	1,422	24
%	100.0	25.8	7.0	66.5	0.7	100.0	35.8	5.3	57.9	1.0
平均	5.86	5.86	6.06	5.84	6.32	4.30	4.33	4.23	4.29	4.63
標準偏差	1.17	1.20	1.26	1.14	1.42	0.93	0.93	0.90	0.93	0.94
～2.9	0.6	0.9	0.9	0.5	0.0	5.2	4.6	6.2	5.6	0.0
3.0～3.9	4.4	4.8	3.2	4.4	4.8	31.5	29.8	33.1	32.5	25.0
4.0～4.9	14.7	14.2	13.4	15.2	4.8	41.9	44.1	36.9	40.9	45.8
5.0～5.9	34.3	33.5	32.9	34.7	38.1	16.6	16.4	20.8	16.2	25.0
6.0～6.9	30.3	30.5	33.8	30.0	23.8	4.0	4.0	3.1	4.1	0.0
7.0～	15.6	16.3	15.7	15.2	28.6	0.9	1.1	0.0	0.8	4.2

り僅かに，しかし有意に高かった．

拡張期血圧は，男女とも１年生で自宅生が自炊生より僅かに高かった．

3） ヘマトクリット

男女とも全体および１年生で，自宅生が自炊生より僅かに高かったが，有意差はなかった．

4） コレステロール・GPT（国際単位）

男子では，自宅生が自炊生より僅かに高かったが，女子では住居形態による差はなかった．

5） γ－GTP（国際単位）

男子では，住居形態による差はなかったが，女子では自炊生が自宅生より僅かに高かった．

表9.5 課外活動と定健結果

1.運動部のみ 2.文化部のみ 3.両方 4.入ってない

B M I	男子					女子				
	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4
総 数(人)	20,388	6,896	2,905	1,064	9,523	14,847	4,007	3,011	745	7,084
%	100.0	33.8	14.2	5.2	46.7	100.0	27.0	20.3	5.0	47.7
平 均	21.94	22.19	21.91	21.82	21.83	20.66	20.75	20.8	20.6	20.56
標準偏差	2.95	2.65	3.18	2.78	3.09	2.28	2.06	2.43	2.03	2.35
や せ	24.5	19.1	27.4	24.1	27.5	40.6	36.2	39.9	40.9	43.3
普 通	56.7	61.7	52.2	58.7	54.2	52.2	57.5	51.2	52.9	49.6
過 体 重	11.7	13.1	11.7	10.3	10.9	5.0	4.8	6.0	4.7	4.8
肥 満	7.1	6.0	8.7	6.9	7.5	2.1	1.4	2.9	1.5	2.3

収縮期血圧 (mmHg)	男子					女子				
	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4
総 数(人)	19,483	6,643	2,770	1,018	9,052	13,469	3,515	2,675	667	6,612
%	100.0	34.1	14.2	5.2	46.5	100.0	26.1	19.9	5.0	49.1
平 均	125.70	124.90	125.60	123.36	126.57	113.70	112.61	113.54	110.41	114.07
標準偏差	12.70	12.23	12.70	12.58	12.96	12.11	11.63	11.95	12.51	12.31
～109	9.6	10.2	9.9	13.2	8.6	38.2	40.1	37.5	48.7	36.4
110～119	20.9	22.5	21.9	24.5	19.0	30.6	32.1	30.7	27.1	30.1
120～129	30.1	30.0	28.9	29.7	30.5	21.1	19.9	21.8	17.1	21.8
130～139	29.3	28.6	28.9	26.0	30.2	9.0	7.0	8.7	6.1	10.4
140～	10.2	8.7	10.4	6.7	11.7	1.2	0.9	1.2	0.9	1.3

拡張期血圧 (mmHg)	男子					女子				
	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4
総 数(人)	19,475	6,642	2,768	1,017	9,048	13,464	3,512	2,676	667	6,609
%	100.0	34.1	14.2	5.2	46.5	100.0	26.1	19.9	5.0	49.1
平 均	70.93	69.74	71.15	69.55	71.88	66.71	65.97	66.62	64.61	67.35
標準偏差	9.34	9.14	9.19	9.42	9.41	8.63	8.35	8.55	8.61	8.74
～79	81.6	85.8	81.5	83.7	78.4	92.3	94.1	92.8	95.4	90.9
80～84	11.2	8.9	10.8	10.0	13.2	5.3	4.2	4.8	3.7	6.3
85～89	4.6	3.6	4.9	4.2	5.3	1.7	1.3	1.6	0.7	2.0
90～94	1.7	1.3	2.0	1.4	2.0	0.4	0.3	0.4	0.0	0.5
95～	0.8	0.4	0.8	0.7	1.1	0.2	0.1	0.3	0.1	0.3

ヘマトクリット (%)	男子					女子				
	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4
総 数(人)	2,952	839	266	133	1,714	2,677	560	402	110	1,605
%	100.0	28.4	9.0	4.5	58.1	100.0	20.9	15.0	4.1	60.0
平 均	46.39	45.81	46.13	45.34	46.80	40.19	39.73	40.03	39.54	40.43
標準偏差	3.02	2.90	2.95	2.54	3.06	3.09	2.94	2.80	2.17	3.24
～34.9	0.1	0.0	0.4	0.0	0.1	3.4	3.4	3.0	3.6	3.5
35.0～39.9	1.4	2.0	1.9	0.8	1.1	45.8	51.8	48.3	52.7	42.6
40.0～44.9	29.8	35.6	29.3	47.4	25.7	45.2	40.2	45.5	42.7	47.1
45.0～49.9	57.3	53.9	60.9	48.1	59.2	4.7	4.5	2.5	0.0	5.7
50.0～	11.3	8.5	7.5	3.8	13.9	0.9	0.2	0.7	0.9	1.1

6） 尿酸

男女とも住居形態による差はなかった.

9.2.2 課外活動（表9.5）

1） BMI

男女とも課外活動をしている学生がしていない学生よりBMIが大きい傾向があった. 男女とも1年生では文化部・運動部の両方に入っている学生のBMIは小さかった.

2） 血圧

課外活動をしていない学生はしている学生より収縮期血圧（SBP）が高い傾向があり，課外活動を

表9.5 課外活動と定健結果

1.運動部のみ 2.文化部のみ 3.両方 4.入ってない

コレステロール (mg／dl)	男子					女子				
	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4
総数(人)	2,963	830	276	115	1,742	2,403	522	385	91	1,405
%	100.0	28.0	9.3	3.9	58.8	100.0	21.7	16.0	3.8	58.5
平均	163.93	164.05	165.94	165.17	163.47	177.98	180.49	180.21	182.27	176.16
標準偏差	29.8	28.02	31.28	28.13	30.47	28.74	29.29	29.99	28.24	28.06
～139	19.9	18.4	18.1	15.7	21.2	6.7	5.9	6.0	3.3	7.3
140～179	54.2	55.7	50.4	58.3	53.8	48.4	44.8	45.5	49.5	50.4
180～219	22.0	22.5	25.7	23.5	21.1	37.7	41.2	39.0	39.6	35.9
220～	3.9	3.4	5.8	2.6	4.0	7.3	8.0	9.6	7.7	6.3

GPT (IU／L)	男子					女子				
	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4
総数(人)	2,602	709	219	90	1,584	2,249	477	347	73	1,352
%	100.0	27.2	8.4	3.5	60.9	100.0	21.2	15.4	3.2	60.1
平均	18.28	17.06	20.95	16.83	18.54	11.94	11.98	11.08	12.00	12.15
標準偏差	19.65	17.32	22.17	23.37	19.98	8.32	7.60	7.66	7.86	8.72
～ 9	22.6	23.0	20.5	26.7	22.5	43.2	41.1	51.0	46.6	41.7
10～19	52.6	54.3	51.1	51.1	52.1	48.2	50.5	42.7	43.8	49.0
20～29	14.5	15.0	11.9	16.7	14.6	5.9	5.2	4.0	5.5	6.7
30～39	3.8	2.8	4.1	2.2	4.4	1.3	1.5	0.6	2.7	1.3
40～	6.4	4.9	12.3	3.3	6.4	1.4	1.7	1.7	1.4	1.3

γ－GTP (IU／L)	男子					女子				
	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4
総数(人)	2,379	541	189	76	1,573	1,911	354	247	59	1,251
%	100.0	22.7	7.9	3.2	66.1	100.0	18.5	12.9	3.1	65.5
平均	18.67	18.36	18.33	17.91	18.85	13.25	12.71	12.58	14.05	13.49
標準偏差	12.42	14.21	12.34	6.03	11.99	6.24	6.03	7.64	5.55	5.99
～ 9	7.4	10.4	6.3	5.3	6.6	21.4	26.6	29.1	22.0	18.3
10～19	63.6	64.0	72.5	59.2	62.7	69.4	65.0	62.3	57.6	72.7
20～29	20.3	17.2	11.6	30.3	21.9	7.5	7.1	6.5	20.3	7.3
30～39	4.3	4.1	2.6	5.3	4.5	0.8	0.3	0.8	0.0	1.0
40～	4.4	4.4	6.9	0.0	4.3	0.9	1.1	1.2	0.0	0.8

尿酸 (mg／dl)	男子					女子				
	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4
総数(人)	2,895	808	265	112	1,710	2,307	489	356	88	1,374
%	100.0	27.9	9.2	3.9	59.1	100.0	21.2	15.4	3.8	59.6
平均	5.87	5.99	5.90	5.96	5.81	4.31	4.34	4.25	4.52	4.31
標準偏差	1.17	1.21	1.24	1.13	1.14	0.94	0.95	0.93	0.96	0.93
～2.9	0.8	0.7	1.5	2.7	0.5	5.2	4.3	5.9	3.4	5.5
3.0～3.9	4.3	3.8	4.2	0.0	4.8	31.1	31.3	31.2	35.2	30.7
4.0～4.9	14.8	11.6	16.2	12.5	16.2	41.8	41.3	43.8	28.4	42.4
5.0～5.9	33.9	33.4	28.7	41.1	34.4	16.8	18.0	15.4	23.9	16.3
6.0～6.9	30.3	32.4	30.2	25.0	29.6	4.1	4.1	2.5	8.0	4.2
7.0～	16.0	17.9	19.2	18.8	14.4	1.0	1.0	1.1	1.1	0.9

している学生では男女とも，文化部のみ→運動部のみ→両方に入部の順に，平均0.5～2mmHg程度ずつ低下した．SBP≧140mmHgの割合は男子では10.2％，女子では1.2％であり，男女ともに課外活動をしていない学生→文化部のみ→運動部のみ→両方に入部の順に減少した．

拡張期血圧（DBP）はSBPと同様に，課外活動をしていない学生はしている学生より高い傾向があった．男女とも文化部のみ→運動部のみ→両方に入部の順に，平均0.5～2.0mmHg程度ずつ低下した．DBP≧90mmHgの割合は男子では2.5％，女子では0.6％であった．

3） ヘマトクリット

男女とも課外活動をしていない学生→文化部のみ→運動部のみ→両方に入部の順に，平均0.3～0.7％程度ずつ低下した．

4） コレステロール

課外活動をしている学生のコレステロール値はしていない学生より平均値で，男子では0.5～2.5mg／dl，女子では4～6mg／dl高かった．

5） ＧＰＴ（国際単位）

男子では文化部に入っている学生の平均値が最も高く，女子では最も低かった．

6） γ－GTP（国際単位）・尿酸

男女とも課外活動との関係は無かった．

9.2.3 朝食摂取状況（表9.6）

1） ＢＭＩ

男子の場合，1年生では欠食が多くなるとやせの比率が少なく，過体重・肥満の比率が多かったが，4年生では反対にやせが多くなった．

女子では1年生では欠食が多い方がBMIが大きく，過体重・肥満の比率が多かった．

2） 血圧

収縮期血圧（SBP）は男子では全体でも学年毎でも一定の関係は無かった．女子では朝食を食べない1年生は他の群に比べSBPが高かった．

拡張期血圧（DBP）は男女とも毎日食べるが最も低く，欠食の回数が多くなるにつれて有意に高くなった．DBP≧90mmHgの割合も4年生では朝食抜きの学生では3.3％で，他の群（2.1～2.9％）に比べ多かった．（図9.3,4）

3） ヘマトクリット（Hct）

男子では一定の関係は無かった．女子の4年生

表9.6 朝食摂取状況と定健結果

1.毎日食べる 2.週1～2回欠食 3.週3～4回欠食 4.ほとんど欠食

ＢＭＩ	男子					女子				
	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4
総数（人）	20,852	8,883	4,222	2,303	5,444	15,260	9,956	2,963	996	1,345
％	100.0	42.6	20.2	11.0	26.1	100.0	65.2	19.4	6.5	8.8
平均	21.93	21.95	21.93	21.97	21.86	20.65	20.65	20.7	20.53	20.62
標準偏差	2.94	3.02	2.95	2.9	2.81	2.28	2.25	2.25	2.15	2.65
やせ	24.6	24.8	24.6	23.4	24.7	40.9	40.3	40.4	42.4	44.5
普通	56.6	55.9	56.7	56.4	57.9	52.0	52.8	51.7	51.3	46.8
過体重	11.7	11.9	11.6	13.2	10.8	5.0	4.8	5.8	5.1	4.9
肥満	7.1	7.4	7.1	6.9	6.6	2.2	2.1	2.1	1.2	3.9

ヘマトクリット（%）	男子					女子				
	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4
総数（人）	3,134	1,925	654	200	355	2,821	2,182	400	94	145
％	100.0	61.4	20.9	6.4	11.3	100.0	77.3	14.2	3.3	5.1
平均	46.44	46.49	46.35	46.50	46.36	40.24	40.34	39.97	40.06	39.59
標準偏差	3.02	2.99	3.15	2.98	2.95	3.14	3.08	3.30	3.38	3.29
～34.9	0.1	0.2	0.0	0.0	0.0	3.4	2.8	5.0	5.3	6.9
35.0～39.9	1.3	1.1	1.7	0.5	2.3	45.1	44.4	47.0	45.7	50.3
40.0～44.9	29.3	28.6	32.7	25.0	29.3	45.6	46.6	43.5	40.4	39.3
45.0～49.9	57.5	58.1	54.1	63.5	56.9	5.0	5.2	3.8	7.4	2.8
50.0～	11.8	12.1	11.5	11.0	11.5	0.9	1.0	0.8	1.1	0.7

表9.6　朝食摂取状況と定健結果

1.毎日食べる　2.週1～2回欠食　3.週3～4回欠食　4.ほとんど欠食

コレステロール (mg／dl)	男子					女子				
	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4
総数(人)	3,146	1,901	664	203	378	2,548	1,986	361	85	116
%	100.0	60.4	21.1	6.5	12.0	100.0	77.9	14.2	3.3	4.6
平均	163.57	161.69	165.6	163.28	169.63	177.5	176.92	177.93	183.32	181.72
標準偏差	29.87	29.48	30.17	29.7	30.3	28.77	28.23	29.7	28.67	33.79
～139	20.4	22.2	17.6	20.2	16.1	7.2	7.2	6.4	5.9	10.3
140～179	54.3	55.0	55.4	53.7	48.7	48.5	49.1	49.3	41.2	41.4
180～219	21.4	19.4	22.3	22.7	29.4	37.2	37.0	36.8	45.9	35.3
220～	3.9	3.4	4.7	3.4	5.8	7.1	6.7	7.5	7.1	12.9

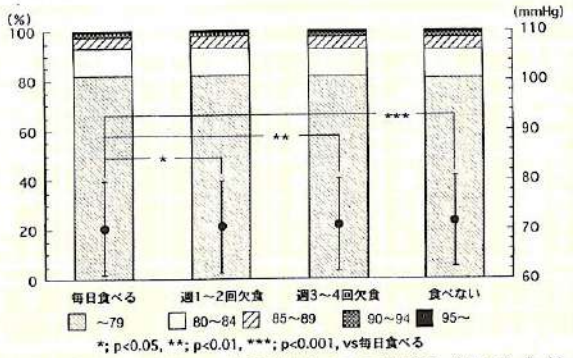


図9.3　朝食摂取状況と拡張期血圧の関係（男子全体）

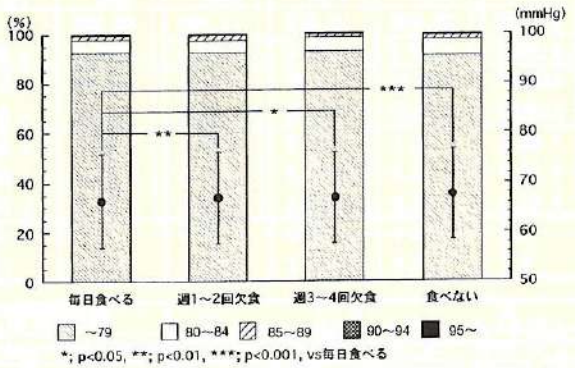


図9.4　朝食摂取状況と拡張期血圧の関係（女子全体）

では欠食が多くなると，Hct ≦ 35.0％の学生が増える傾向が見られたが，対象者数が少なく有意では無かった．

4)　コレステロール

毎日食べる学生に比べほとんど欠食する学生は男子では平均8mg／dl，女子では5mg／dlコレステロールが高かった．

9.2.4　食品の種類（7項目）

1)　肉・肉製品（表9.7）

男子の場合，全体・1年生・4年生で毎日肉類を食べる方がBMIが大きく，女子では反対に食べない方がBMIが大きかった．

1群1,000名以上の対象者がある群のみを取り出して見ると，男女とも，肉類をほとんど食べない学生では全体・1年生・4年生で拡張期血圧が高かった．

男女とも肉類をほとんど食べない者ではヘマトクリット・総コレステロール・GPT（国際単位）が低い傾向があったが，対象者が少なく確定できなかった．

γ－GTP（国際単位）・尿酸は男子では肉類を食べない学生の方が低かったが，女子では一定の傾向は無かった．

表9.7　肉・肉製品摂取と定健結果

1.毎日食べる　2.週4～5回食べる　3.週2～3回食べる　4.ほとんど食べない

BMI	男子					女子				
	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4
総数(人)	20,824	6,727	8,187	5,456	454	15,231	3,456	5,466	5,549	760
%	100.0	32.3	39.3	26.2	2.2	100.0	22.7	35.9	36.4	5.0
平均	21.93	22.02	21.95	21.84	21.41	20.65	20.54	20.62	20.74	20.75
標準偏差	2.94	2.91	2.97	2.93	2.62	2.28	2.29	2.26	2.3	2.29
やせ	24.5	23.1	24.4	25.8	30.4	40.9	43.2	41.2	39.6	37.9
普通	56.7	57.4	56.9	55.8	53.7	51.9	50.2	52.2	52.4	54.1
過体重	11.7	12.2	11.7	11.2	11.7	5.0	4.7	4.5	5.5	5.9
肥満	7.1	7.3	7.0	7.2	4.2	2.2	1.9	2.1	2.5	2.1

拡張期血圧(mmHg)	男子					女子				
	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4
総数(人)	19,879	6,471	7,811	5,164	433	13,866	3,106	5,014	5,060	686
%	100.0	32.6	39.3	26.0	2.2	100.0	22.4	36.2	36.5	4.9
平均	70.86	70.43	71.01	71.15	71.06	66.62	66.15	66.58	66.95	66.65
標準偏差	9.35	9.17	9.45	9.44	8.81	8.63	8.65	8.37	8.83	8.76
～79	81.8	83.5	81.4	80.0	84.1	92.4	93.1	92.9	91.8	91.3
80～84	11.1	10.0	11.3	12.4	9.2	5.4	4.8	5.3	5.9	6.0
85～89	4.6	4.2	4.7	4.8	3.9	1.6	1.7	1.5	1.6	1.9
90～94	1.7	1.5	1.8	1.8	1.6	0.4	0.4	0.3	0.4	0.4
95～	0.8	0.8	0.8	1.0	1.2	0.2	0.1	0.1	0.4	0.4

GPT(IU/L)	男子					女子				
	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4
総数(人)	2,753	734	1,079	872	68	2,386	482	845	933	126
%	100.0	26.7	39.2	31.7	2.5	100.0	20.2	35.4	39.1	5.3
平均	18.16	18.07	18.14	18.64	13.56	11.93	11.70	12.10	12.06	10.83
標準偏差	19.17	18.06	19.23	20.53	8.27	8.22	6.55	9.06	8.30	7.33
～9	22.4	22.5	21.2	22.9	33.8	43.3	40.2	44.9	42.3	51.6
10～19	52.8	53.5	53.2	51.8	50.0	48.1	50.8	46.5	48.7	44.4
20～29	14.6	14.2	15.9	13.5	11.8	5.9	7.7	4.9	6.4	2.4
30～39	4.0	3.3	4.1	4.5	2.9	1.3	0.6	1.7	1.5	0.0
40～	6.2	6.5	5.6	7.2	1.5	1.4	0.6	2.1	1.1	1.6

γ-GTP(IU/L)	男子					女子				
	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4
総数(人)	2,534	678	1,008	789	59	2,040	404	737	802	97
%	100.0	26.8	39.8	31.1	2.3	100.0	19.8	36.1	39.3	4.8
平均	18.44	19.04	18.14	18.38	17.49	13.23	13.34	13.28	13.08	13.68
標準偏差	11.69	14.25	9.78	11.20	14.71	6.20	6.05	6.33	5.94	7.82
～9	7.4	7.2	8.0	6.6	10.2	21.5	19.3	20.9	22.9	23.7
10～19	64.1	64.3	63.8	64.3	66.1	69.3	71.5	70.8	66.8	69.1
20～29	20.1	19.3	19.3	21.8	20.3	7.5	7.7	6.5	8.6	4.1
30～39	4.3	4.0	4.8	4.1	1.7	0.8	0.5	0.5	1.1	2.1
40～	4.1	5.2	4.1	3.3	1.7	0.9	1.0	1.2	0.5	1.0

2)　魚介類・魚製品（表9.8）

BMIは男子では魚類を食べない学生は低かったが，女子では一定の傾向は無かった．

男女とも魚類を食べない学生は，拡張期血圧が僅かながら高く，ヘマトクリットが低く，コレステロールが高くなった．

3)　牛乳・乳製品（表9.9）

男女とも牛乳を飲まない学生はBMIが小さく，拡張期血圧が高く，ヘマトクリットが低くかった．牛乳をほとんど飲まない男子学生はコレステロールが低かったが，女子では一定の傾向は無かった．

表9.7　肉・肉製品摂取と定健結果

1.毎日食べる　2.週4～5回食べる　3.週2～3回食べる　4.ほとんど食べない

ヘマトクリット(%)	男子					女子				
	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4
総数	3,109	834	1,207	992	76	2,811	585	1,002	1,082	142
%	100.0	26.8	38.8	31.9	2.4	100.0	20.8	35.6	38.5	5.1
平均	46.45	46.39	46.58	46.40	45.67	40.26	40.23	40.34	40.25	39.79
標準偏差	3.01	2.95	3.15	2.89	2.77	3.16	3.21	3.12	3.19	2.90
～34.9	0.1	0.0	0.2	0.0	0.0	3.4	3.4	3.2	3.7	2.8
35.0～39.9	1.3	1.2	1.2	1.4	1.3	45.0	46.8	42.8	45.4	50.0
40.0～44.9	29.4	31.3	29.2	27.8	31.6	45.6	43.2	49.0	44.2	41.5
45.0～49.9	57.4	56.5	55.3	60.4	61.8	5.0	5.6	3.9	5.6	5.6
50.0～	11.8	11.0	14.0	10.4	5.3	1.0	0.9	1.1	1.1	0.0

コレステロール(mg/dl)	男子					女子				
	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4
総数(人)	3,121	833	1,223	988	77	2,538	510	901	998	129
%	100.0	26.7	39.2	31.7	2.5	100.0	20.1	35.5	39.3	5.1
平均	163.54	163.43	163.94	163.69	156.53	177.52	177.29	176.25	179.05	175.5
標準偏差	29.82	29.22	29.97	30.55	22.84	28.8	29.64	28.28	28.76	28.85
～139	20.3	21.0	18.8	21.6	22.1	7.2	7.8	7.8	6.2	8.5
140～179	54.4	53.7	55.3	53.0	64.9	48.4	47.8	50.9	46.2	49.6
180～219	21.4	22.1	22.1	20.6	11.7	37.2	37.5	34.6	39.8	34.9
220～	3.9	3.2	3.8	4.8	1.3	7.2	6.9	6.7	7.8	7.0

尿酸(mg/dl)	男子					女子				
	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4
総数(人)	3,053	817	1,187	974	75	2,440	496	865	954	125
%	100.0	26.8	38.9	31.9	2.5	100.0	20.3	35.5	39.1	5.1
平均	5.87	5.91	5.85	5.85	5.79	4.30	4.31	4.27	4.34	4.30
標準偏差	1.17	1.19	1.15	1.17	1.23	0.93	0.92	0.90	0.96	1.02
～2.9	0.7	0.9	0.6	0.5	1.3	5.1	5.2	4.9	5.5	4.0
3.0～3.9	4.3	4.0	4.6	4.1	5.3	31.6	30.8	32.5	30.2	40.0
4.0～4.9	14.8	14.7	15.0	14.8	14.7	41.8	40.3	42.0	43.4	33.6
5.0～5.9	34.1	33.2	33.9	35.5	30.7	16.6	20.4	16.8	14.8	13.6
6.0～6.9	30.3	31.1	29.6	30.2	33.3	4.0	2.6	3.2	4.8	8.0
7.0～	15.8	16.2	16.3	14.9	14.7	0.9	0.6	0.7	1.4	0.8

表9.8　魚介類・魚製品摂取と定健結果

1.毎日食べる　2.週4～5回食べる　3.週2～3回食べる　4.ほとんど食べない

BMI	男子					女子				
	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4
総数	20,822	1,289	3,652	11,626	4,255	15,228	1,170	2,955	8,288	2,815
%	100.0	6.2	17.5	55.8	20.4	100.0	7.7	19.4	54.4	18.5
平均	21.93	22.14	21.97	21.98	21.69	20.65	20.54	20.63	20.67	20.66
標準偏差	2.94	3.08	2.94	2.97	2.78	2.28	2.27	2.31	2.32	2.12
やせ	24.5	23.4	24.9	23.7	26.5	40.9	42.2	41.0	41.1	39.6
普通	56.7	57.0	55.5	56.9	57.0	51.9	50.9	51.8	51.4	54.0
過体重	11.7	11.0	12.2	12.0	10.7	5.0	4.7	4.9	5.1	4.8
肥満	7.1	8.5	7.3	7.4	5.8	2.2	2.1	2.3	2.3	1.6

拡張期血圧(mmHg)	男子					女子				
	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4
総数	19,877	1,223	3,456	11,104	4,094	13,863	1,038	2,683	7,566	2,576
%	100.0	6.2	17.4	55.9	20.6	100.0	7.5	19.4	54.6	18.6
平均	70.96	70.55	70.22	71.09	70.86	66.63	65.74	66.28	66.75	67.00
標準偏差	9.35	9.43	9.05	9.46	9.24	8.63	8.73	8.79	8.59	8.46
～79	81.7	82.5	84.1	80.8	82.2	92.4	93.9	92.5	92.3	92.1
80～84	11.1	10.1	9.9	11.6	11.3	5.3	4.2	5.3	5.2	5.9
85～89	4.6	4.9	4.1	4.8	4.3	1.7	1.3	1.6	1.7	1.8
90～94	1.7	1.6	1.4	1.9	1.5	0.4	0.5	0.4	0.5	0.0
95～	0.8	0.9	0.6	0.9	0.8	0.2	0.1	0.2	0.2	0.2

表9.8　魚介類・魚製品摂取と定健結果

1.毎日食べる　2.週4～5回食べる　3.週2～3回食べる　4.ほとんど食べない

ヘマトクリット(%)	男子					女子				
	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4
総数(人)	3,110	189	601	1,736	584	2,813	228	543	1,571	471
%	100.0	6.1	19.3	55.8	18.8	100.0	8.1	19.3	55.8	16.7
平均	46.45	46.36	46.64	46.55	45.98	40.25	40.80	40.55	40.19	39.83
標準偏差	3.01	3.00	3.28	3.01	2.67	3.16	3.77	3.10	3.11	2.99
～34.9	0.1	0.0	0.3	0.0	0.0	3.4	3.5	3.1	3.6	3.2
35.0～39.9	1.3	1.1	1.3	1.4	1.0	45.0	45.6	40.7	44.3	52.2
40.0～44.9	29.4	32.3	28.1	27.9	34.4	45.5	39.9	48.3	46.8	40.8
45.0～49.9	57.4	56.1	55.1	58.5	56.8	5.0	8.3	7.4	4.1	3.4
50.0～	11.8	10.6	15.1	12.2	7.7	1.0	2.6	0.6	1.1	0.4

コレステロール(mg/dl)	男子					女子				
	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4
総数(人)	3,123	187	594	1,746	596	2,541	203	490	1,431	417
%	100.0	6.0	19.0	55.9	19.1	100.0	8.0	19.3	56.3	16.4
平均	163.57	158.95	162.95	163.35	166.27	177.51	173.46	175.63	177.98	180.11
標準偏差	28.83	26.3	29.32	30.86	27.97	28.84	27.33	28.24	28.92	29.62
～139	20.3	23.5	19.9	21.9	15.1	7.2	9.9	7.8	7.0	6.2
140～179	54.3	59.4	56.2	52.7	55.5	48.3	50.7	50.4	48.2	45.1
180～219	21.4	15.0	20.9	21.0	25.3	37.3	32.0	36.1	37.2	41.2
220～	3.9	2.1	3.0	4.4	4.0	7.2	7.4	5.7	7.5	7.4

表9.9　牛乳・乳製品摂取と定健結果

1.毎日食べる　2.週4～5回食べる　3.週2～3回食べる　4.ほとんど食べない

BMI	男子					女子				
	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4
総数	20,812	7,843	4,105	6,005	2,859	15,228	7,064	3,115	3,707	1,342
%	100.0	37.7	19.7	28.9	13.7	100.0	46.4	20.5	24.3	8.8
平均	21.93	22.04	22	21.86	21.69	20.65	20.71	20.64	20.59	20.5
標準偏差	2.94	2.94	2.97	2.93	2.89	2.28	2.27	2.26	2.3	2.33
やせ	24.5	22.9	23.5	26.0	27.0	40.9	39.1	40.8	42.8	45.2
普通	56.7	57.6	57.1	55.5	55.9	52.0	53.7	52.2	49.9	48.4
過体重	11.7	12.2	11.7	11.7	10.5	5.0	5.0	4.8	5.3	4.2
肥満	7.1	7.3	7.6	6.8	6.6	2.2	2.2	2.2	2.1	2.2

拡張期血圧(mmHg)	男子					女子				
	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4
総数	19,869	7,482	3,897	5,737	2,753	13,863	6,334	2,857	3,425	1,247
%	100.0	37.7	19.6	28.9	13.9	100.0	45.7	20.6	24.7	9.0
平均	70.86	70.69	70.57	71.07	71.33	66.62	66.26	66.55	67.11	67.34
標準偏差	9.35	9.32	9.20	9.34	9.62	8.63	8.59	8.53	8.75	8.61
～79	81.7	82.2	82.9	81.0	80.2	92.4	93.1	93.2	91.2	91.1
80～84	11.1	10.8	10.4	11.7	11.9	5.3	4.8	4.5	6.4	6.4
85～89	4.6	4.5	4.3	4.7	5.0	1.7	1.6	1.8	1.8	1.7
90～94	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	0.4	0.4	0.3	0.4	0.6
95～	0.8	0.8	0.7	0.8	1.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2

4)　**卵**（表9.10）

男子では卵を食べない学生はBMIが小さく，女子では反対に食べない学生はBMIが大きかった．男女とも卵を食べない学生は拡張期血圧が高く，ヘマトクリットが低かった．

毎日卵を食べる男子学生のコレステロールは低く，女子ではほとんど食べない学生が低かった．

5)　**大豆・豆製品**（表9.11）

豆類をよく食べる男子学生はBMIが小さかったが，女子では一定の傾向は無かった．

男女とも豆類を食べない学生は拡張期血圧が高く，ヘマトクリットが低く，コレステロールが高かった．

6)　**野菜類**（表9.12）

男子では野菜類を食べない学生はBMIが小さく，女子では反対に食べない方がBMIが大きかった．

男女とも野菜類を食べない学生は拡張期血圧が

表9.9　牛乳・乳製品摂取と定健結果

1.毎日食べる　2.週4～5回食べる　3.週2～3回食べる　4.ほとんど食べない

ヘマトクリット(%)	男子					女子				
	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4
総数	3,109	1,282	589	848	390	2,816	1,244	539	724	309
%	100.0	41.2	18.9	27.3	12.5	100.0	44.2	19.1	25.7	11.0
平均	46.45	46.57	46.36	46.42	46.28	40.25	40.30	40.13	40.37	40.01
標準偏差	3.01	2.94	3.02	3.07	3.10	3.16	3.08	3.06	3.35	3.15
～34.9	0.1	0.0	0.2	0.1	0.0	3.4	3.1	3.7	3.7	3.6
35.0～39.9	1.3	0.9	1.5	1.8	1.3	45.0	46.1	46.4	41.6	46.3
40.0～44.9	29.4	28.1	31.2	28.5	32.8	45.6	44.9	44.5	48.1	44.3
45.0～49.9	57.4	59.0	56.9	57.2	53.3	5.0	5.1	4.8	5.2	4.5
50.0～	11.9	12.1	10.2	12.4	12.6	1.0	0.9	0.6	1.4	1.3

コレステロール(mg/dl)	男子					女子				
	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4
総数	3,122	1,273	595	856	398	2,544	1,122	494	661	267
%	100.0	40.8	19.1	27.4	12.7	100.0	44.1	19.4	26.0	10.5
平均	163.57	163.97	163.6	164.11	161.05	177.51	180.46	174.76	174.78	176.93
標準偏差	29.82	29.76	29.85	31.08	26.97	28.84	29.29	21.86	28.66	27.98
～139	20.3	19.5	20.2	21.5	20.9	7.2	6.3	7.9	8.8	6.0
140～179	54.4	55.3	52.9	52.5	57.5	48.4	44.7	52.8	50.5	50.2
180～219	21.4	21.3	23.4	21.1	19.3	37.2	39.8	33.0	35.6	38.2
220～	3.9	3.9	3.5	4.9	2.3	7.2	9.2	6.3	5.1	5.6

表9.10　卵摂取と定健結果

1.毎日食べる　2.週4～5回食べる　3.週2～3回食べる　4.ほとんど食べない

BMI	男子					女子				
	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4
総数	20,804	4,265	5,948	8,628	1,963	15,229	4,511	4,885	4,990	843
%	100.0	20.5	28.6	41.5	9.4	100.0	29.6	32.1	32.8	5.5
平均	21.93	22.1	22.02	21.85	21.63	20.65	20.64	20.62	20.66	20.85
標準偏差	2.94	3	2.94	2.89	2.96	2.28	2.27	2.27	2.28	2.39
やせ	24.5	22.7	23.4	25.1	28.9	40.9	40.9	41.5	40.9	37.2
普通	56.7	57.3	56.7	56.8	54.8	51.9	52.3	51.4	51.8	53.7
過体重	11.7	12.0	12.3	11.5	10.0	5.0	4.5	5.1	4.9	7.0
肥満	7.1	8.0	7.6	6.5	6.3	2.2	2.3	2.0	2.3	2.0

拡張期血圧(mmHg)	男子					女子				
	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4
総数	19,859	4,103	5,697	8,202	1,857	13,864	4,087	4,471	4,536	770
%	100.0	20.7	28.7	41.3	9.4	100.0	29.5	32.2	32.7	5.6
平均	70.87	70.40	70.90	70.96	71.36	66.63	66.03	66.83	66.85	67.30
標準偏差	9.35	9.10	9.40	9.31	9.83	8.63	8.38	8.58	8.84	8.76
～79	81.7	83.3	81.7	81.4	79.8	92.4	93.7	92.5	91.6	90.8
80～84	11.1	10.3	11.0	11.5	12.0	5.3	4.8	5.1	5.7	6.2
85～89	4.6	4.4	4.7	4.5	4.8	1.7	1.2	1.7	2.0	2.1
90～94	1.7	1.5	1.8	1.7	1.9	0.4	0.2	0.4	0.4	0.6
95～	0.8	0.5	0.8	0.9	1.6	0.2	0.1	0.2	0.3	0.3

高く，ヘマトクリットが低かった．

男子では野菜類を食べない学生はコレステロールが高いが，女子では一定の傾向は無かった．

7)　**果物**（表9.13）

BMIは男子では果物の食べ方と一定の傾向は無かったが，女子では食べない方がBMIが大きかった．

男女とも果物を食べない学生は拡張期血圧が高かった．ヘマトクリットは低かった．

コレステロールは男子では食べない学生が高かったが，女子では一定の傾向は無かった．

表9.10　卵摂取と定健結果

1.毎日食べる　2.週4～5回食べる　3.週2～3回食べる　4.ほとんど食べない

ヘマトクリット(%)	男子					女子				
	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4
総数	3,108	774	878	1,217	239	2,812	895	848	921	148
%	100.0	24.9	28.2	39.2	7.7	100.0	31.8	30.2	32.8	5.3
平均	46.45	46.65	46.51	46.38	45.91	40.25	40.30	40.28	40.25	39.83
標準偏差	3.01	2.91	3.14	2.96	3.10	3.16	3.12	2.99	3.34	3.09
～34.9	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	3.4	3.0	3.2	3.9	4.7
35.0～39.9	1.3	1.2	1.5	1.2	2.1	45.0	45.9	44.5	44.4	46.6
40.0～44.9	29.4	25.5	28.6	31.1	36.8	45.5	44.2	46.8	45.6	45.3
45.0～49.9	57.4	61.5	56.8	56.5	50.6	5.0	5.9	4.8	4.7	2.7
50.0～	11.8	11.8	13.1	11.3	10.5	1.0	0.9	0.7	1.4	0.7

コレステロール(mg/dl)	男子					女子				
	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4
総数	3,120	776	877	1,222	245	2,539	833	769	804	133
%	100.0	24.9	28.1	39.2	7.9	100.0	32.8	30.3	31.7	5.2
平均	163.54	161.69	164.98	163.61	163.84	177.47	177.36	178.64	177.03	174.02
標準偏差	29.81	29.86	30.32	29.46	29.31	28.84	28.66	28.18	29.57	28.84
～139	20.4	22.4	18.6	20.4	20.0	7.2	7.3	6.4	7.7	9.0
140～179	54.4	53.9	54.0	54.8	55.1	48.4	48.5	47.2	48.5	54.1
180～219	21.3	20.0	22.9	21.3	20.4	37.2	35.8	39.4	37.3	32.3
220～	3.9	3.7	4.4	3.5	4.5	7.2	8.4	7.0	6.5	4.5

表9.11　大豆・豆製品摂取と定健結果

1.毎日食べる　2.週4～5回食べる　3.週2～3回食べる　4.ほとんど食べない

BMI	男子					女子				
	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4
総数	20,787	1,734	3,163	10,223	5,667	15,213	1,735	2,595	7,453	3,430
%	100.0	8.3	15.2	49.2	27.3	100.0	11.4	17.1	49.0	22.5
平均	21.93	22.08	22	21.95	21.81	20.65	20.7	20.64	20.62	20.7
標準偏差	2.94	3.02	2.92	2.94	2.92	2.28	2.33	2.29	2.26	2.22
やせ	24.5	23.2	23.4	24.0	26.5	40.9	39.5	40.0	41.8	40.3
普通	56.6	56.3	57.3	56.9	56.0	52.0	53.1	52.8	51.2	52.3
過体重	11.7	12.5	12.2	12.0	10.8	5.0	5.0	5.3	4.9	4.9
肥満	7.1	8.0	7.1	7.2	6.7	2.2	2.4	1.8	2.1	2.5

拡張期血圧(mmHg)	男子					女子				
	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4
総数	19,845	1,638	2,982	9,732	5,493	13,850	1,568	2,335	6,779	3,168
%	100.0	8.3	15.0	49.0	27.7	100.0	11.3	16.9	48.9	22.9
平均	70.96	70.19	70.68	70.85	71.19	66.63	66.18	66.05	66.75	67.04
標準偏差	9.35	9.27	9.25	9.35	9.40	8.62	8.80	8.74	8.53	8.61
～79	81.7	83.5	83.0	81.8	80.5	92.4	93.2	93.7	92.5	91.1
80～84	11.1	10.1	10.3	11.2	11.9	5.3	4.7	4.1	5.2	6.6
85～89	4.6	4.0	4.9	4.3	5.1	1.7	1.6	1.4	1.7	1.9
90～94	1.7	1.8	1.2	1.9	1.6	0.4	0.3	0.5	0.4	0.3
95～	0.8	0.6	0.7	0.9	0.9	0.2	0.2	0.3	0.2	0.2

9.2.5　ソフトドリンク（表9.14）

男女とも飲む学生はBMIが僅かに高く，拡張期血圧が高く，コレステロールが高かった．

ヘマトクリットは男子ではソフトドリンクを飲む学生が高かったが，女子では飲む学生が低かった．

9.2.6　アルコール（表9.15）

男女とも全体・1年生・4年生で，アルコールを飲む学生が飲まない学生よりBMIが大きかった．

収縮期血圧は男女とも飲む学生では分布が低いレベルに傾き，平均として0.6～1.1mmHg程度低かった．（図9.5～7）

表9.11　大豆・豆製品摂取と定健結果

1.毎日食べる　2.週4～5回食べる　3.週2～3回食べる　4.ほとんど食べない

ヘマトクリット（%）	男子					女子				
	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4
総数（人）	3,112	299	488	1,560	765	2,809	351	479	1,341	638
%	100.0	9.6	15.7	50.1	24.6	100.0	12.5	17.1	47.7	22.7
平均	46.45	46.76	46.74	46.52	45.99	40.25	40.52	40.48	40.24	39.95
標準偏差	3.01	2.89	3.14	3.00	2.95	3.16	3.26	3.25	3.12	3.08
～34.9	0.1	0.0	0.2	0.1	0.0	3.5	2.8	2.7	3.7	3.8
35.0～39.9	1.3	0.7	1.2	1.2	1.8	45.0	43.0	44.1	44.7	47.5
40.0～44.9	29.4	27.1	24.6	28.5	35.3	45.6	47.9	45.7	45.2	45.0
45.0～49.9	57.4	60.2	58.0	58.6	53.5	5.0	4.8	6.1	5.6	3.0
50.0～	11.8	12.0	16.0	11.7	9.4	1.0	1.4	1.5	0.8	0.8

コレステロール（mg／dl）	男子					女子				
	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4
総数（人）	3,125	299	485	1,559	782	2,538	315	442	1,218	563
%	100.0	9.6	15.5	49.9	25.0	100.0	12.4	17.4	48.0	22.2
平均	163.59	158.45	164.55	163.15	165.65	177.46	172.89	175.27	178.23	180.06
標準偏差	29.81	27.97	31.54	30.34	28.03	28.84	27.08	28.55	29.26	28.68
～139	20.4	25.1	19.8	21.1	17.4	7.2	9.5	8.8	6.8	5.7
140～179	54.4	55.9	53.4	55.1	53.1	48.5	49.8	51.1	47.5	47.6
180～219	21.3	17.1	22.1	19.6	26.0	37.1	34.9	32.8	38.3	39.1
220～	3.9	2.0	4.7	4.2	3.6	7.2	5.7	7.2	7.3	7.6

表9.12　野菜類摂取と定健結果

1.毎日食べる　2.週4～5回食べる　3.週2～3回食べる　4.ほとんど食べない

B M I	男子					女子				
	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4
総数（人）	20,772	9,740	6,184	4,259	589	15,202	9,821	3,502	1,698	181
%	100.0	46.9	29.8	20.5	2.8	100.0	64.6	23.0	11.2	1.2
平均	21.93	21.98	21.9	21.89	21.7	20.65	20.59	20.79	20.67	20.99
標準偏差	2.94	2.99	2.91	2.86	2.99	2.28	2.26	2.41	2.14	2.16
やせ	24.5	24.3	24.5	24.1	28.2	40.9	42.2	38.4	39.5	32.0
普通	56.7	56.0	57.3	57.7	54.0	52.0	51.0	53.4	53.9	58.6
過体重	11.7	12.3	11.2	11.2	11.4	5.0	4.8	5.5	4.6	7.2
肥満	7.1	7.3	7.0	6.9	6.5	2.2	2.0	2.7	2.0	2.2

拡張期血圧（mmHg）	男子					女子				
	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4
総数（人）	19,831	9,345	5,900	4,020	566	13,840	8,909	3,231	1,537	163
%	100.0	47.1	29.8	20.3	2.9	100.0	64.4	23.3	11.1	1.2
平均	70.86	70.62	70.90	71.28	71.54	66.62	66.38	66.92	67.37	67.07
標準偏差	9.35	9.32	9.40	9.30	9.30	8.63	8.69	8.63	8.32	7.53
～79	81.7	82.4	81.8	80.3	80.4	92.4	92.8	91.8	91.5	92.6
80～84	11.2	10.8	11.1	12.2	11.0	5.3	5.0	5.4	6.5	5.5
85～89	4.6	4.4	4.5	5.0	4.6	1.7	1.5	2.0	1.8	1.8
90～94	1.7	1.6	1.8	1.5	3.2	0.4	0.4	0.5	0.1	0.0
95～	0.8	0.8	0.8	1.0	0.9	0.2	0.2	0.2	0.1	0.0

拡張期血圧は男子では飲む1年生で高く，4年生で僅かに低かった．女子では飲むが低かった．

男女とも全体・1年生で，飲む学生が飲まない学生より，コレステロールは平均2.8～3.5mg／dl，GTPは0.5～0.8IU／l高く，分布も高いレベルが多かった．（図9.8～10）

男子では全体・1年生で，飲む学生が飲まない学生より，γ－GTPが平均1.7IU／l高く，分布も高いレベルが多かったが，女子では飲む学生が僅かに低かった．（図9.11）

尿酸は男子では飲むか・飲まないで差は無かったが，女子1年生では飲む学生が有意に高かった．

表9.12　野菜類摂取と定健結果

1.毎日食べる　2.週4～5回食べる　3.週2～3回食べる　4.ほとんど食べない

ヘマトクリット(%)	男子					女子				
	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4
総数(人)	3,104	1,542	946	542	74	2,811	1,860	633	287	31
%	100.0	49.7	30.5	17.5	2.4	100.0	66.2	22.5	10.2	1.1
平均	46.45	46.60	46.25	46.37	46.37	40.25	40.36	40.06	40.01	39.86
標準偏差	3.02	3.10	2.85	3.02	2.96	3.16	3.26	3.04	2.77	2.84
～34.9	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	3.5	3.5	3.6	2.4	3.2
35.0～39.9	1.3	1.3	1.3	1.5	1.4	45.0	43.8	47.4	47.4	51.6
40.0～44.9	29.5	27.9	31.2	31.0	29.7	45.5	46.0	44.7	44.9	38.7
45.0～49.9	57.3	56.9	58.9	55.2	59.5	5.0	5.5	3.5	4.9	6.5
50.0～	11.9	13.8	8.6	12.4	9.5	1.0	1.2	0.8	0.3	0.0

コレステロール(mg/dl)	男子					女子				
	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4
総数(人)	3,117	1,538	956	547	76	2,540	1,684	576	251	29
%	100.0	49.3	30.7	17.5	2.4	100.0	66.3	22.7	9.9	1.1
平均	163.56	161.9	164.24	166.35	168.51	177.47	176.83	179.04	178.22	176.93
標準偏差	29.85	29.73	29.51	30.04	32.63	28.84	28.95	28.4	29.77	20.42
～139	20.4	21.8	19.7	18.3	15.8	7.2	7.4	6.9	7.6	0.0
140～179	54.3	55.3	54.7	51.6	47.4	48.4	49.6	45.1	47.0	55.2
180～219	21.4	19.4	21.4	25.4	32.9	37.2	35.6	40.6	38.6	44.8
220～	3.9	3.4	4.2	4.8	3.9	7.2	7.3	7.3	6.8	0.0

表9.13　果物摂取と定健結果

1.毎日食べる　2.週4～5回食べる　3.週2～3回食べる　4.ほとんど食べない

BMI	男子					女子				
	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4
総数	20,784	2,452	3,182	8,386	6,764	15,213	2,978	3,035	6,267	2,933
%	100.0	11.8	15.3	40.3	32.5	100.0	19.6	20.0	41.2	19.3
平均	21.93	21.85	21.91	22.02	21.87	20.65	20.49	20.61	20.68	20.8
標準偏差	2.94	2.82	2.96	2.96	2.94	2.28	2.25	2.27	2.24	2.38
やせ	24.5	24.5	25.2	23.4	25.5	40.9	44.0	41.3	40.3	38.7
普通	56.7	58.2	55.9	56.8	56.4	51.9	49.6	51.6	52.7	53.0
過体重	11.7	11.2	12.2	12.2	11.2	5.0	4.5	4.7	5.1	5.7
肥満	7.1	6.1	6.8	7.7	6.9	2.2	1.9	2.3	2.0	2.6

拡張期血圧(mmHg)	男子					女子				
	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4
総数	19,841	2,329	3,028	8,011	6,473	13,850	2,696	2,768	5,742	2,644
%	100.0	11.7	15.3	40.4	32.6	100.0	19.5	20.0	41.5	19.1
平均	70.87	70.25	70.56	70.83	71.27	66.63	66.02	66.46	66.90	66.86
標準偏差	6.35	9.24	9.41	9.42	9.25	8.62	8.75	8.65	8.65	8.38
～79	81.7	83.0	82.8	81.8	80.7	92.4	93.1	92.5	92.0	92.7
80～84	11.1	10.4	9.9	11.3	11.8	5.3	4.9	5.2	5.4	5.5
85～89	4.6	4.0	4.9	4.3	5.0	1.7	1.4	1.8	2.0	1.2
90～94	1.7	1.7	1.5	1.8	1.7	0.4	0.4	0.3	0.4	0.5
95～	0.8	0.9	0.9	0.8	0.8	0.2	0.1	0.2	0.2	0.2

9.2.7　喫煙

1)　喫煙の習慣

男女ともたばこを毎日吸う学生のBMIは吸わない学生より小さかった．（図9.12）

収縮期血圧（SBP）は男女とも，たばこを毎日あるいは時々吸う学生の方が，全体でも学年毎でも吸わない学生より低かった．男子4年生でSBP≧140mmHgの比率は，吸わない：11.8％，毎日吸う：9.9％であり，吸う学生の方が2～3％少なかった．（図9.13）

拡張期血圧（DBP）は男女とも，たばこを毎日あるいは時々吸う学生の方が，全体でも学年毎で

表9.13　果物摂取と定健結果

1.毎日食べる　2.週4～5回食べる　3.週2～3回食べる　4.ほとんど食べない

ヘマトクリット(%)	男子					女子				
	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4
総数(人)	3,105	436	518	1,390	761	2,806	571	589	1,170	476
%	100.0	14.0	16.7	44.8	24.5	100.0	20.3	21.0	41.7	17.0
平均	46.45	46.77	46.48	46.52	46.12	40.25	40.44	40.29	40.29	39.88
標準偏差	3.01	2.98	2.91	3.08	2.94	3.15	2.99	3.16	3.26	3.01
～34.9	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	3.5	2.8	3.6	3.3	4.4
35.0～39.9	1.3	2.1	0.8	1.2	1.3	45.0	44.7	45.2	43.1	50.0
40.0～44.9	29.5	23.6	29.3	28.7	34.3	45.6	46.4	44.8	47.2	41.6
45.0～49.9	57.3	61.7	57.1	57.6	54.5	5.0	5.3	5.4	5.3	3.4
50.0～	11.9	12.6	12.7	12.4	9.9	1.0	0.9	1.0	1.1	0.6

コレステロール(mg/dl)	男子					女子				
	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4
総数(人)	3,117	432	513	1,395	777	2,533	538	536	1,045	414
%	100.0	13.9	16.5	44.8	24.9	100.0	21.2	21.2	41.3	16.3
平均	163.59	161.92	159.65	164.48	165.5	177.47	178.28	175.79	176.67	180.58
標準偏差	29.84	28.71	30.09	30.72	28.37	28.78	28.57	28.26	28.92	29.11
～139	20.3	21.3	24.8	20.4	16.7	7.3	6.5	7.5	7.8	6.8
140～179	54.3	56.3	54.6	52.9	55.5	48.4	50.2	50.7	48.6	42.5
180～210	21.5	19.9	17.3	22.0	24.1	37.1	34.8	34.7	37.2	43.2
220～	3.9	2.5	3.3	4.7	3.7	7.2	8.6	7.1	6.4	7.5

表9.14　ソフトドリンク摂取と定健結果

1.飲まない　2.飲む

BMI	男子			女子		
	計	1	2	計	1	2
総数（人）	20,906	2,616	18,290	15,274	2,188	13,086
%	100.0	12.5	87.5	100.0	14.3	85.7
平均	21.93	21.62	21.97	20.65	20.59	20.66
標準偏差	2.94	2.77	2.96	2.28	2.19	2.29
やせ	24.6	27.1	24.24	0.9	41.0	40.8
普通	56.6	57.1	56.5	52.0	52.4	51.9
過体重	11.7	10.1	11.9	5.0	4.7	5.1
肥満	7.1	5.7	7.3	2.2	1.8	2.2

拡張期血圧(mmHg)	男子			女子		
	計	1	2	計	1	2
総数（人）	19,954	2,497	17,457	13,907	1,935	11,972
%	100.0	12.5	87.5	100.0	13.9	86.1
平均	70.86	70.54	70.90	66.62	66.06	66.71
標準偏差	9.34	9.57	9.30	8.64	8.68	8.63
～79	81.8	81.6	81.8	92.4	93.0	92.3
80～84	11.1	11.2	11.1	5.3	4.5	5.4
85～89	4.6	4.7	4.5	1.7	1.9	1.7
90～94	1.7	1.5	1.7	0.4	0.4	0.4
95～	0.8	1.0	0.8	0.2	0.2	0.2

も吸わない学生より低かった.

2)　1日喫煙本数（表9.16）

喫煙量と身体諸変数の関係を検討した．なお女子は毎日吸う学生が少ないので集計から除外して，男子でたばこを毎日吸う学生のみを対象にし，1日喫煙本数は10本ずつ区分した.

たばこを吸う本数が多くなるにつれてBMIは大きく，拡張期血圧は高くなった．（図9.14）

白血球数・赤血球MCVは対象数が少なく，たばこの本数との関係は不明であった.

表9.14　ソフトドリンク摂取と定健結果

1.飲まない　2.飲む

ヘマトクリット（%）	男子			女子		
	計	1	2	計	1	2
総数（人）	3,133	525	2,608	2,830	550	2,280
%	100.0	16.8	83.2	100.0	19.4	80.6
平均	46.45	46.34	46.48	40.25	40.38	40.22
標準偏差	3.02	2.82	3.06	3.15	3.38	3.10
～34.9	0.1	0.0	0.1	3.4	3.8	3.3
35.0～39.9	1.3	1.0	1.4	44.9	43.8	45.2
40.0～44.9	29.3	30.9	29.0	45.7	44.5	46.0
45.0～49.9	57.5	58.3	57.3	4.9	6.4	4.6
50.0～	11.8	9.9	12.2	1.0	1.5	0.9

コレステロール（mg/dl）	男子			女子		
	計	1	2	計	1	2
総数（人）	3,145	524	2,621	2,557	490	2,067
%	100.0	16.7	83.3	100.0	19.2	80.8
平均	163.49	162.05	163.78	177.45	176.87	177.58
標準偏差	29.84	29.50	29.90	28.82	27.18	29.19
～139	20.4	22.7	20.0	7.3	5.9	7.6
140～179	54.3	53.1	54.6	48.4	51.2	47.7
180～219	21.3	21.4	21.3	37.2	36.5	37.4
220～	3.9	2.9	4.1	7.1	6.3	7.3

表9.15　アルコール摂取と定健結果

1.飲まない　2.飲む

BMI	男子			女子		
	計	1	2	計	1	2
総数（人）	20,685	9,048	11,637	15,050	9,259	5,791
%	100.0	43.7	56.3	100.0	61.5	38.5
平均	21.93	21.82	22.01	20.65	20.62	20.70
標準偏差	2.94	3.09	2.81	2.28	2.31	2.22
やせ	24.6	27.3	22.4	40.8	41.9	39.1
普通	56.6	54.8	58.1	52.1	51.0	53.7
過体重	11.7	10.4	12.8	5.0	4.9	5.1
肥満	7.1	7.5	6.7	2.1	2.2	2.1

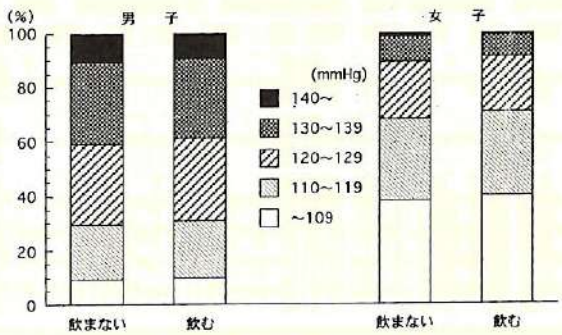


図9.5　アルコールと収縮期血圧の関係

9.2.8　自己評価

1）体重（表9.17）

男子では丁度良いと答えた学生の70％はBMIが普通，太りたい学生の70％はやせ，やせたい学生の50％近くは過体重または肥満であり，自己評価とBMIは半数以上で一致した．一方女子では太りたい学生の95％はやせでよく一致したが，丁度良い学生で普通であったのは25％のみ，やせたい

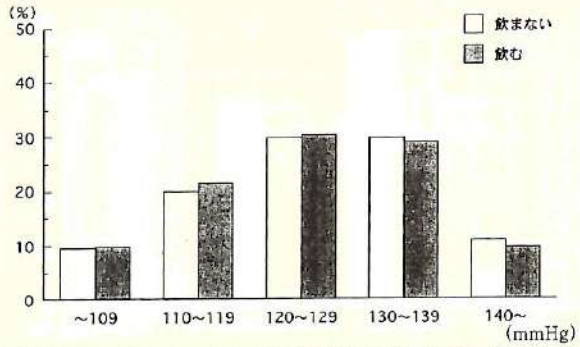


図9.6　アルコールと収縮期血圧の関係（男子全体）

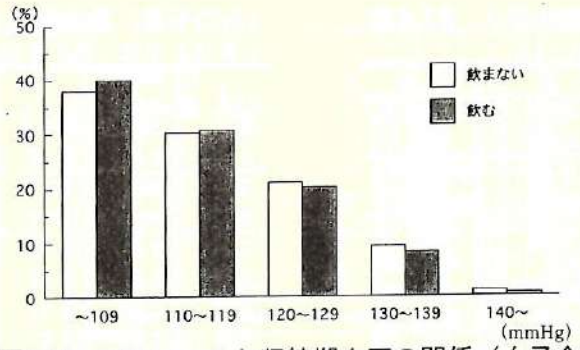


図9.7　アルコールと収縮期血圧の関係（女子全体）

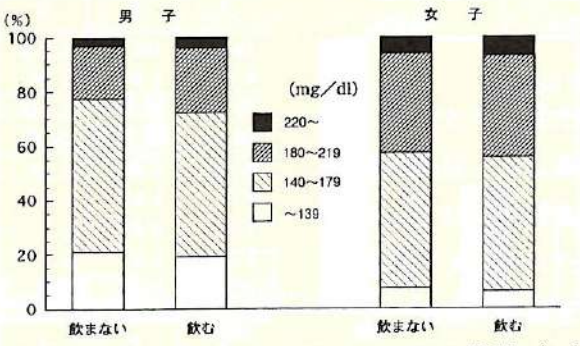


図9.8　アルコールとコレステロールの関係（1 年生）

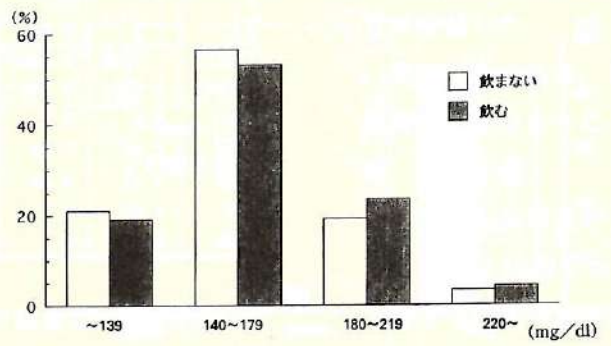


図9.9　アルコールとコレステロールの関係（1 年生男子）

学生で過体重および肥満の学生は10％以下で，多くはやせたいと答えておりやせ願望が強かった．(図9.15)

BMIの区分別に自己評価を見ると，男子ではやせの60％が太りたい，普通の60％が丁度良いと回答したが，やせの35％は丁度良い，普通の30％強がやせたいと回答しており，男子でも普通からやせの学生では細身でよしとする傾向が見られた．

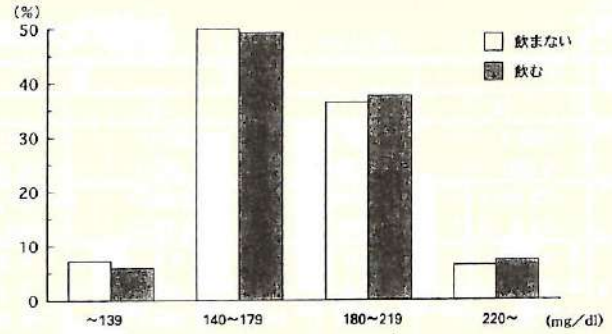


図9.10　アルコールとコレステロールの関係（1 年生女子）

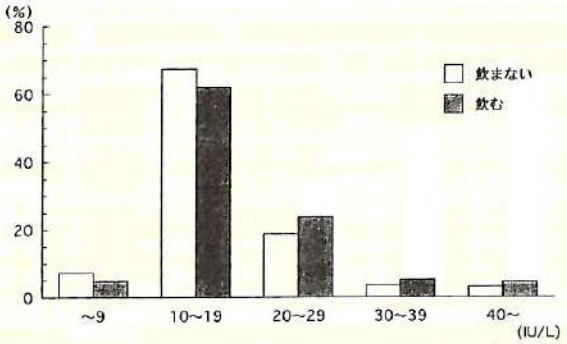


図9.11　アルコールとγ－GTP の関係（1 年生男子）

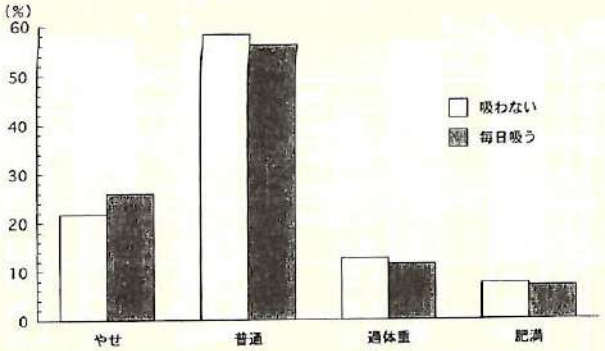


図9.12　喫煙とBMI の関係（4 年生男子）

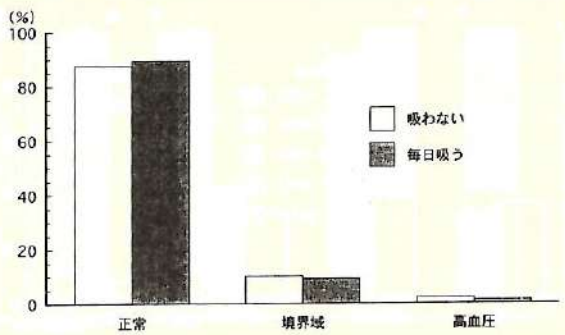


図9.13　喫煙と血圧区分（WHO）の関係（4 年生男子）

女子ではやせの50％以上が丁度良い，丁度良い学生の90％近くがやせたいと答え，さらにやせの学生の40％がやせたいと答えた．

男子では過体重の80％以上，肥満の90％以上，女子では両者ともほぼ100％近くがやせたいと答えており，体格の大きな学生ではBMIと自己評価はよく一致した．（図9.16）

男子（身長171.3 ± 5.6cm,平均±標準偏差）で

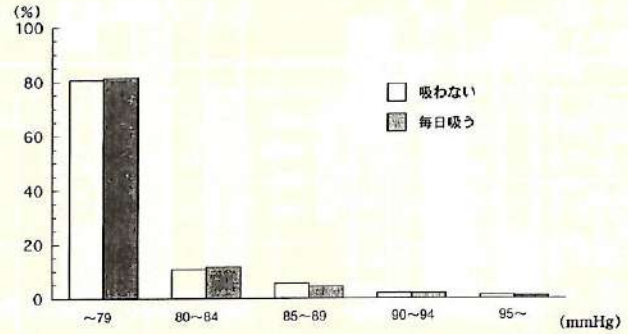


図9.14　喫煙と拡張期血圧の関係（4年生男子）

表9.16　1日の喫煙本数と定健結果（男子のみ）

1.1~10本 2.11~20本 3.21~30本 4.31本~

BMI	計	1	2	3	4
総数（人）	4,184	1,512	2,338	265	69
%	100.0	36.1	55.9	6.3	1.6
平均	21.88	21.74	21.94	22.09	22.37
標準偏	2.86	2.74	2.91	2.94	3.39
やせ	25.6	25.8	25.4	26.0	23.2
普通	55.9	58.0	55.3	49.8	55.1
過体重	11.9	10.3	12.6	14.3	11.6
肥満	6.6	5.9	6.7	9.8	10.1

拡張期血圧（mmHg）	計	1	2	3	4
総数（人）	3,932	1,414	2,213	241	64
%	100.0	36.0	56.3	6.1	1.6
平均	71.17	71.02	71.15	71.93	72.27
標準偏差	9.05	9.17	8.95	8.87	10.46
~79	81.3	81.3	81.3	80.5	82.8
80~84	12.2	12.4	12.2	12.4	7.8
85~89	4.2	4.0	4.3	5.0	4.7
90~94	1.5	1.4	1.6	0.4	3.1
95~	0.8	0.9	0.6	1.7	1.6

白血球数（/mm³）	計	1	2	3	4
総数（人）	255	142	103	7	3
%	100.0	55.7	40.4	2.7	1.2
平均	6062.0	6059.2	5968.9	6857.1	7533.3
標準偏差	1598.4	1610.6	1521.7	1044.5	2898.7
~3999	5.5	5.6	5.8	0.0	0.0
4000~5999	42.0	42.3	43.7	14.3	33.3
6000~7999	42.0	41.5	40.8	71.4	33.3
8000~9999	8.2	8.5	7.8	14.3	0.0
10000~	2.4	2.1	1.9	0.0	33.3

は丁度良いと答えた学生の体重は60kg台前半，太りたい学生は50kg台後半，やせたい学生は60kg台後半，女子（158.6±5.2cm）では丁度良いは40kg台後半，太りたい学生は40kg台前半，やせたい学生は50kg台前半であった．男女とも（身長－110）kg程度を丁度良いと評価していた．

表9.16　1日の喫煙本数と定健結果（男子のみ）

1.1~10本 2.11~20本 3.21~30本 4.31本~

MCV	計	1	2	3	4
総数（人）	256	143	103	7	3
%	100.0	55.9	40.2	2.7	1.2
平均	91.46	91.22	91.65	91.91	94.98
標準偏差	4.59	4.42	4.86	2.84	3.89
~79.9	0.8	0.0	1.9	0.0	0.0
80.0~84.9	5.5	6.3	4.9	0.0	0.0
85.0~89.9	33.6	37.1	29.1	28.6	33.3
90.0~94.9	35.5	34.3	37.9	42.9	0.0
95.0~99.9	23.0	21.0	24.3	28.6	66.7
100.0~104.9	1.6	1.4	1.9	0.0	0.0
105.0~	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

男女ともやせたい学生の分布は収縮期血圧・拡張期血圧ともに高い方に偏位した．またWHOの区分では境界域高血圧・高血圧の頻度はやせたい学生で大きかった．

2）　食事の規則正しさ（表9.18）

男女とも僅かながら不規則の方がBMIが大きい方に分布した．

男女とも血圧は，食事が規則正しい群と不規則群間に差がなかった．

3）　食事の量

男女とも食事量が少ない群はBMIが小さく，多すぎる群はBMIが大きかった．

男子では食べ過ぎ群は血圧平均値が高く，境界域高血圧や高血圧者の頻度が多かった．一方，食事量が少ない群は境界域高血圧や高血圧が少なかった．（表9.19）

4）　食事のバランス

男女とも偏っていると答えた学生のBMIが大きかった．

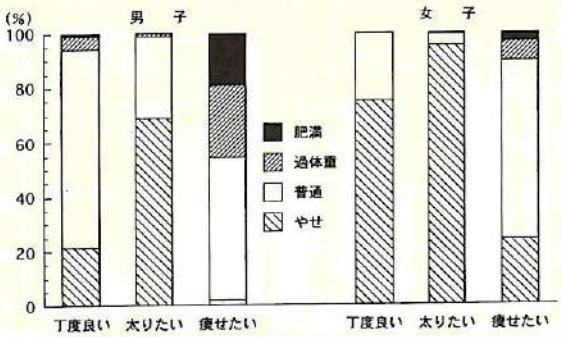


図9.15　自己評価体重とBMIとの関係

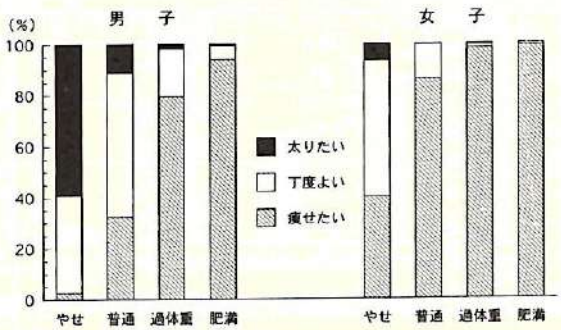


図9.16　BMIと自己評価体重との関係

表9.17　自己評価（体重）と定健結果

1.丁度よい　2.太りたい　3.痩せたい

体重（kg）	男子				女子			
	計	1	2	3	計	1	2	3
総数（人）	21,082	9,262	4,441	7,379	15,405	4,454	442	10,509
%	100.0	43.9	21.1	35.0	100.0	28.9	2.9	68.2
平均	64.37	62.29	57.75	70.98	51.99	48.26	44.03	53.91
標準偏差	9.44	6.62	6.22	10.04	6.58	4.73	4.44	6.39
～34.9					0.1	0.1	0.7	0.0
35.0～39.9					1.1	2.2	14.0	0.2
40.0～44.9	0.3	0.2	0.9	0.0	9.8	19.6	48.0	4.1
45.0～49.9	2.3	1.5	7.5	0.1	29.0	44.3	28.3	22.5
50.0～54.9	10.1	9.9	25.3	1.2	31.9	26.8	7.0	35.1
55.0～59.9	21.2	26.1	33.4	7.8	17.7	5.9	1.6	23.3
60.0～64.9	25.3	31.7	21.1	19.6	6.6	0.9	0.2	9.3
65.0～69.9	18.3	18.7	8.2	24.0	2.4	0.1	0.2	3.4
70.0～74.9	10.9	8.2	2.5	19.4	1.5	0.1	0.0	2.1
75.0～79.9	5.6	2.6	0.6	12.3				
80.0～	6.1	1.2	0.5	15.6				

血圧については男女ともバランスが取れている学生の方が僅かながら正常血圧者が多かった.

9.3　まとめ

自宅生と自炊生を比べると，男子ではBMI・血圧・ヘマトクリット・コレステロール・GPTが，女子では血圧・ヘマトクリット・GPTが自宅生で高い傾向があった．また女子ではγ－GTPが自炊生で僅かに高かった.

運動部活動をしている学生は，男女とも課外活動をしていない学生より，BMI・血圧・ヘマトクリットが低く，コレステロールが高い傾向があった.

表9.18　自己評価（食生活）と定健結果

規則正しさ　　1.規則的　2.不規則

BMI	男子			女子		
	計	1	2	計	1	2
総数（人）	20,911	10,287	10,624	15,260	9,372	5,888
%	100.0	49.2	50.8	100.0	61.4	38.6
平均	21.93	21.89	21.97	20.65	20.57	20.78
標準偏差	2.94	2.89	2.98	2.28	2.23	2.35
やせ	24.5	24.5	24.5	40.9	42.2	38.9
普通	56.7	57.4	55.9	51.9	51.0	53.4
過体重	11.7	11.4	12.0	5.0	4.8	5.3
肥満	7.1	6.7	7.5	2.2	2.0	2.5

量　　1.程よい　2.食べ過ぎ　3.少ない

BMI	男子				女子			
	計	1	2	3	計	1	2	3
総数（人）	20,898	14,206	4,092	2,600	15,247	9,476	5,010	761
%	100.0	68.0	19.6	12.4	100.0	62.1	32.9	5.0
平均	21.93	21.71	23.72	20.30	20.65	20.43	21.27	19.32
標準偏差	2.94	2.69	3.32	2.09	2.28	2.18	2.32	2.08
やせ	24.5	25.0	8.4	47.1	40.9	45.0	29.2	67.3
普通	56.7	59.5	52.5	47.7	52.0	49.4	60.2	30.1
過体重	11.7	10.2	22.1	3.8	5.0	4.0	7.2	1.7
肥満	7.1	5.3	17.0	1.4	2.2	1.6	3.3	0.9

バランス　　1.とれている　2.偏っている

BMI	男子			女子		
	計	1	2	計	1	2
総数（人）	20,880	9,055	11,825	15,251	7,514	7,737
%	100.0	43.4	56.6	100.0	49.3	50.7
平均	21.93	21.89	21.96	20.65	20.53	20.77
標準偏差	2.94	2.89	2.97	2.28	2.20	2.35
やせ	24.5	24.8	24.4	40.9	42.4	39.4
普通	56.6	56.8	56.6	52.0	51.4	52.5
過体重	11.7	11.8	11.7	5.0	4.5	5.5
肥満	7.1	6.7	7.4	2.2	1.7	2.6

表9.19　自己評価（食生活）と定健結果

量　　1.程よい　2.食べ過ぎ　3.少ない

拡張期血圧（mmHg）	男子				女子			
	計	1	2	3	計	1	2	3
総数（人）	19,946	13,584	3,869	2,493	13,879	8,654	4,524	701
%	100.0	68.1	19.4	12.5	100.0	62.4	32.6	5.1
平均	70.86	70.70	72.01	69.95	66.62	66.65	66.56	66.76
標準偏差	9.34	9.33	9.46	9.06	8.64	8.70	8.55	8.44
～79	81.7	82.2	78.3	84.9	92.4	92.4	92.4	93.0
80～84	11.1	11.1	12.6	9.3	5.3	5.1	5.6	5.3
85～89	4.6	4.4	5.6	3.7	1.7	1.7	1.6	1.6
90～94	1.7	1.5	2.5	1.5	0.4	0.5	0.2	0.1
95～	0.8	0.8	1.1	0.5	0.2	0.3	0.2	0.0

朝食を欠食する１年生は肥満の比率が高く，血圧が高目であった．

男女ともアルコールを飲む学生は，BMIが高く，血圧は低く，GTPが高かった．また男子ではγ－GTPが，女子では尿酸も高く，飲酒歴が短い大学生でもアルコールの影響は認められた．

たばこを吸う学生のBMIは小さかった．このため血圧も低かった．

また男女ともBMIで見ると，体格の大きな学生のBMIと自己評価はよく一致したが，BMIが普通

からやせではやせ願望が強かった.

大学生になると独居・自炊・朝食欠食・飲酒・喫煙などライフスタイルが急変し，それに伴って長くても数年の影響であるにも拘わらず，既に健康診断の多くの項目に差異が出ていた．異常値になる項目は少なく，多くは正常範囲内の変化であるが，異常値への傾向は明らかであり将来も見据えた長期的視野の健康教育を入学早期から始める必要があると思われる.

参考文献

学生の健康白書1995－基本編－，国立大学等保健管理施設協議会　学生の健康白書作成に関する特別委員会編，1997.

［上園慶子，武谷峻一，川﨑晃一］

Ⅱ．精神心理面の成績からの分析

1. 精神心理領域における健康調査への取り組みの変遷

—1984年度健康白書との比較から—

1.1 目 的

この度，1995年度版学生の健康白書（以下95年度白書と略）が作成された．その中で，各大学の保健管理センターにおける精神心理面の健康診断ともいえる精神健康調査が，具体的にどのような体制で行われ，どんな結果をもたらしていたかを，各国立大学にアンケートで回答を依頼した．その詳細については95年度白書（基本編）を参照されたい．この95年度白書（応用研究編）では，基本編におけるデータと，前回の1984年度版学生の健康白書におけるデータとの比較から，1.この10年余の間に，精神健康調査の実施状況にどのような変化がみられたか，2.精神障害学生のスクリーニングとしての機能はあるのか，3.この10年余で学生の精神障害の疾病構造に変化が認められるか，4.今後の保健管理センターにおける課題は何か，などの点について検討し，若干の考察を試みた．

1.2 結 果

1.2.1 精神健康調査がどの程度大学で行われていたかについて

図1.1はアンケート回答校の中での大学規模別の精神健康調査実施率を示している．全体的にみると95年度では84年度調査時より若干実施率は低下していた．大学規模別にみると95年度調査では小規模大学の実施率が上昇しており，大学規模間の格差が消失していることがわかる．

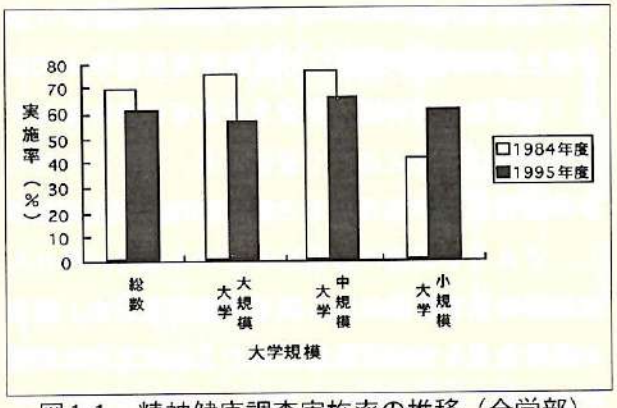


図1.1 精神健康調査実施率の推移（全学部）

1.2.2 精神健康調査を実施した学年について

図1.2は健康調査が実施された学年について，84年度と比較したものである．図1.2.1は記入法，図1.2.2は面接法を施行した大学（全学部）のデータである．84年度に比較して，95年度は新入生のみを対象とした大学の比率が増加し，逆に全学年に実施した大学の比率は減少していた．

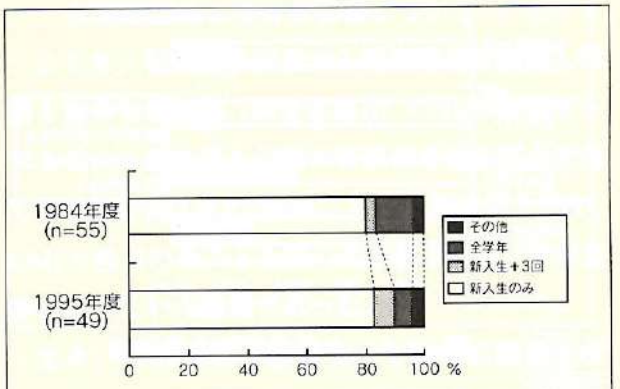


図1.2.1 記入法の対象学年（全学部）

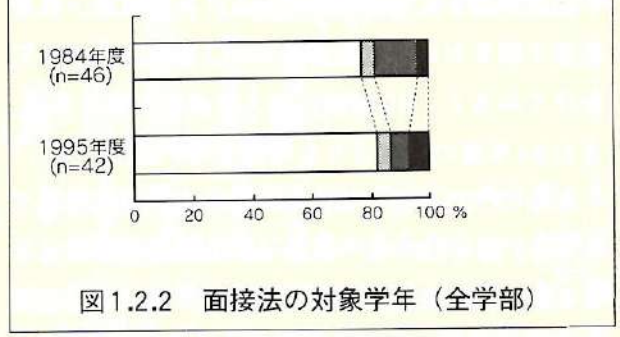


図1.2.2 面接法の対象学年（全学部）

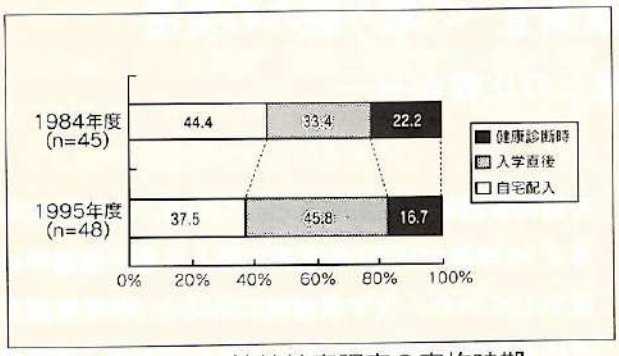


図1.3.1　精神健康調査の実施時期

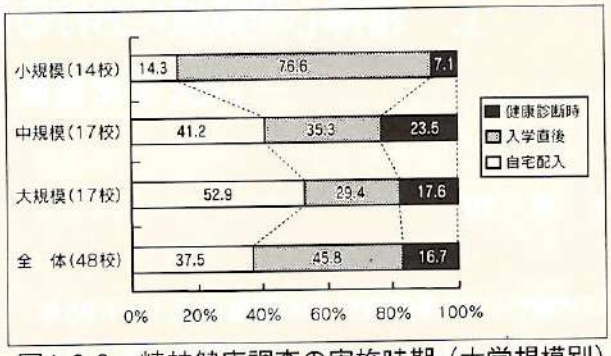


図1.3.2　精神健康調査の実施時期（大学規模別）

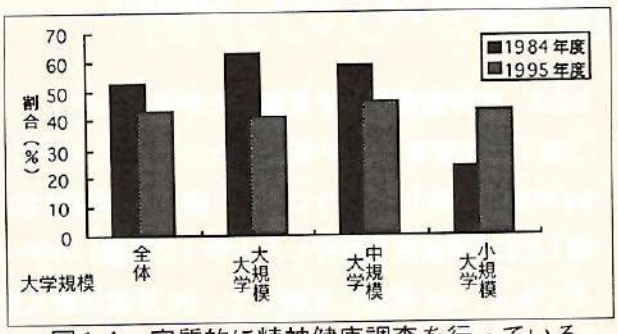


図1.4　実質的に精神健康調査を行っている大学の割合(全学部)

表1.1　実施された記入法の種類と実施校数

テスト名称	1995年度	1984年度
UPI	34	24
CMI	10	9
SDS	3	3
YGテスト	3	2
バウムテスト	2	2
MMPI	0	1
MPI（モーズレイ）	1	1
TPI（東大式）	1	1
NSテスト	1	1
GHQ	2	0
各大学独自	5	19
その他	4	0

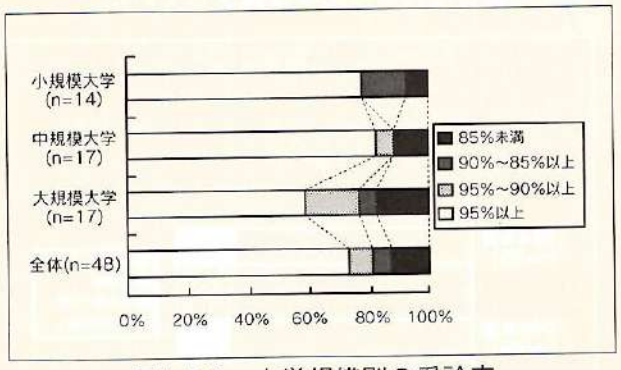


図1.5.1　大学規模別の受診率

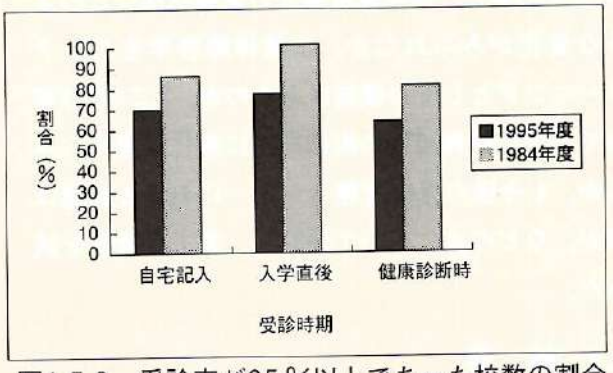


図1.5.2　受診率が95％以上であった校数の割合

1.2.3　実施時期について

図1.3.1は精神健康調査の実施時期を示している.

調査時期を入学前の自宅記入，入学直後，入学後若干間をおいた健康診断時の3期におおまかに分けてみると，95年度では入学直後が最も多く，また84年度の割合よりも増加していた.

さらに，95年度の実施時期を大学規模別にみてみると，図1.3.2のようになる．大学規模が大きくなるほど，自宅記入の割合が増え，逆に入学直後の実施の割合は減少している.

1.2.4　精神健康調査の実施形態について

図1.4は実質的に精神健康調査を行っていると考えられる大学について，大学規模の観点から84年度と95年度で比較した結果である．ここでいう「実質的に精神健康調査を行っている」とした大学の数は，記入法にて要留意者，すなわち何らかの精神障害が疑われると判断された学生を抽出し，それらを面接の必要ありとする場合，それらに面接希望者を加えたものを面接する場合，調査対象者全員を面接する場合，の3つの方法を採用している大学の総数である．84年度に比較して，

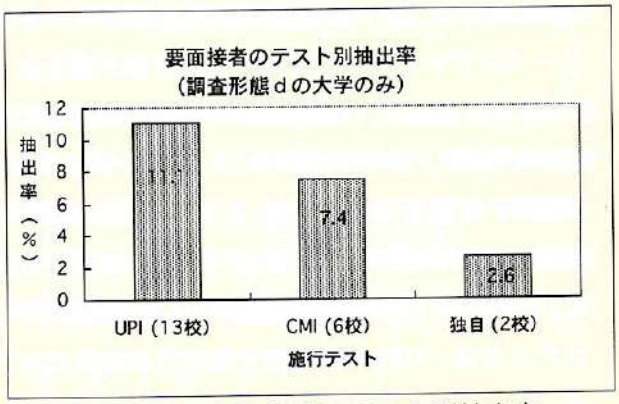


図1.6.1　要面接者のテスト別抽出率

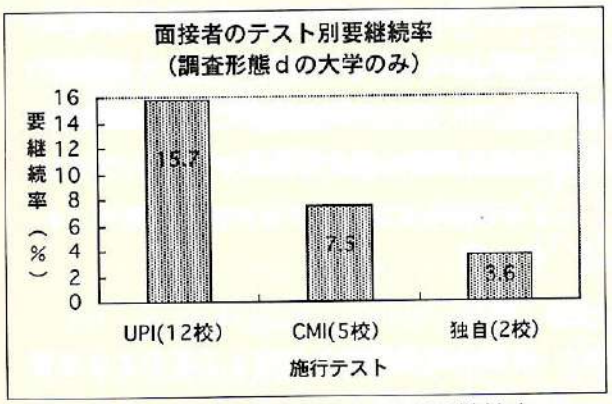


図1.6.2　面接者のテスト別要継続率

95年度は実質的に精神健康調査を行っている割合は全体では若干減少していた．しかし84年度調査時には小規模大学で極端に低かった比率が，95年度にはほぼ2倍に増加し，結果的に大学規模間の格差がほぼ解消されていた．

1.2.5　大学規模別にみた受診率について

図1.5.1は95年度の調査において，対象とした学生のうちどれくらいが受診したかを示す受診率を，大学規模別でみたものである．大学全体では最下段に示されているように，95％以上の受診率を示した大学は全体の73％と高率であった．しかし，この中で大規模大学は他の二群に比較して低率であった．

また，受診率が95％以上であった大学の受診時期別の割合をみたのが，図1.5.2である．ここでは84年度調査時と比較している．95％以上の受診率を示した大学の比率は，どの実施時期でも84年度に比較して若干下がっているが，両年度ともに，入学直後に実施された場合が比率が高くなっているのがわかる．

1.2.6　記入法で実施されたテスト内容の変化について

表1.1は実施された記入法の種類とその実施校数を示している．1校で数種類のテストを実施している大学もあり，数字に重複がある．84年度同様95年度も最も多く用いられているのはUPIで，ついでCMIが用いられている．84年度と異なるのは，UPIの実施校数が増加し，逆に各大学独自のテストを用いた大学が著明に減少していることである．

1.2.7　記入法の違いが要面接者の抽出率ならびに要継続率に与える影響について

ここで，記入法の結果から要面接者を抽出し面接を施行した大学（調査形態d）の95年度のデータを元に，主な記入法別の要面接者抽出率を計算した結果が図1.6.1である．UPIを用いた大学が，CMIや独自のテストを用いた大学よりも，要留意率が高いという結果であった．

また，これら要留意者のうち実際に面接を行い，何らかの継続治療が必要と判断された学生の面接者に対する割合，すなわち要継続率を同様に記入法別に計算すると，図1.6.2のようになる．ここでもUPIを用いた大学が，CMIや独自のテストを用いた大学よりも，要継続率が高いという結果であった．

1.2.8　診断内訳の推移

最後に面接した結果について示す．両年度ともに，面接した結果特に所見の見られなかった学生は，面接した学生全体の約80％を占めていた．図1.7は「所見あり」と判断された，残り約20％の

学生の診断内訳を示している．通年診断では，84年度に比較して，躁うつ病圏の増加と人格障害の減少が目立つ．また今回の調査では，初診時よりも通年で適応障害の減少が目立っている．

1.3 考　察

1.3.1 前回の実態調査と比較してどのような変化が見られたか？

健康調査実施率は前回に比較して減少傾向にあり，実施対象範囲も新入生中心のものに縮小する傾向が認められた．また大学規模間の格差は消失していた．これらの理由として，①精神健康調査の実施意義について，この10余年の間に研究が繰り返され，評価がある程度定まったことや，②保健管理センターの精神保健活動に関する認知度が高まり，精神健康調査のPR的側面からの必要性が減少したこと，③小規模大学の保健管理センター組織が充実してきたこと，などが考えられる．

1.3.2 精神障害学生のスクリーニングとしての有効性は？

この10年余で記入法でUPIを施行する大学が増加し，独自テストを用いる大学が減少していた．これはUPIに関する研究結果の蓄積から，スクリーニングテストとしての一定の評価が得られていること，他校との比較検討が容易に行えることなどが影響していると思われる．また今回の分析結果で，UPIを用いた場合，CMIや独自のテストを用いた場合よりも要留意者の中での継続率が高く，スクリーニング効率が良いという結果が得られたことは，UPIの有用性を裏付ける結果といえる．

1.3.3 精神障害の診断に関して

通年診断で躁うつ病圏の増加と人格障害の減少が認められた．躁うつ病圏の増加に関しては，近年の疾病構造の変化の一般的傾向を反映しているといえるが，人格障害の減少に関しては不明である．疾病構造の変化というよりも，診断にたずさわる側に，DSMに代表される昨今の操作的診断の影響による，診断のつけ方の変化が起こっているのかもしれない．

また，初診時診断では，通年診断に比して適応障害が多いという結果であった．この理由としては，初診時診断が5月前後に実施されているため，いわゆる「五月病」といわれる，入学早期の一過性の抑うつ状態を呈する不適応が多く含まれている可能性が考えられる．

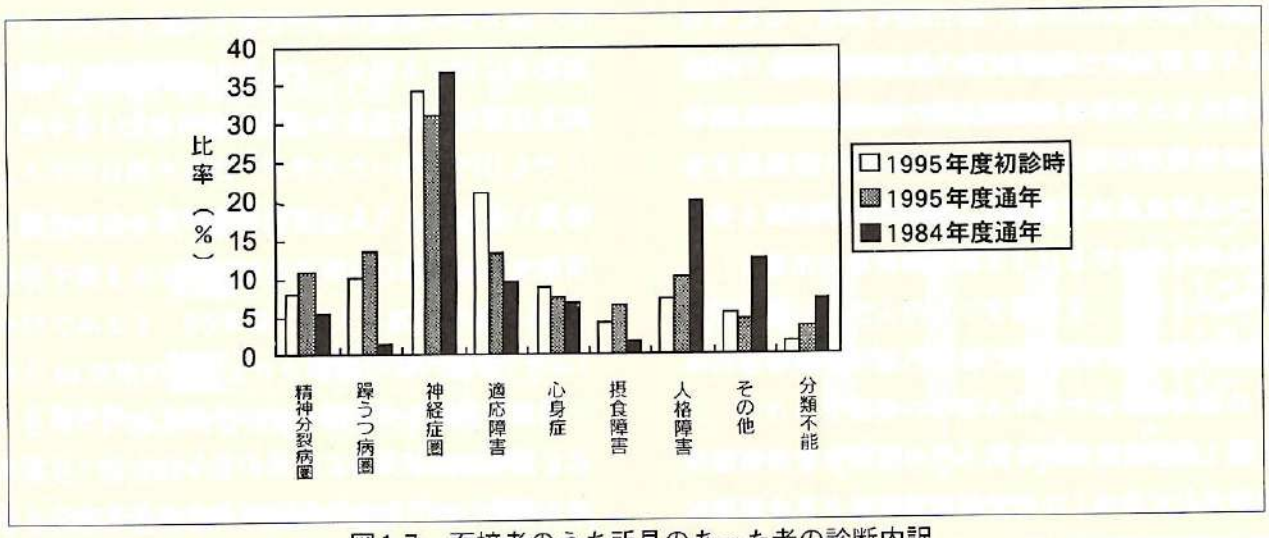


図1.7　面接者のうち所見のあった者の診断内訳

1.3.4 今後の保健管理センターにおける課題とは？

精神健康調査の実施時期は，入学直後が最も受診率が高くなり，この受診率の高くなる入学直後に実施しようとする大学がここ10年余で増加していた．しかしその一方で，大規模大学では相変わらず自宅記入の場合が多かった．入学直後に行う場合は，関係者が各大学のオリエンテーションに出向いて説明・施行することが多いという現状を考えると，この結果からは現在の大規模大学ではまだマンパワーが不十分と考えることができる．今後の体制のさらなる充実が望まれる．

［堀　正士］

2. 「アンケート調査」から見た健康状況

—調査項目間のクロス集計について—

2.1 はじめに

「学生の健康白書1995」では，従来からの休学・退学・死亡等学生数調査に加えて，学生生活に関して精神心理的な側面からのアンケート調査を実施した．この調査は，学生の心性とそれに影響を及ぼすと考えられる生活実態を把握する目的で行われたものである．ただし，調査の性質上，プライバシーに抵触しない設問に限られるため深さにはかけるが，全国レベルでの調査が実施された意義は大きく，現代学生の心性を知る一助になればと考えている．

13項目からなるアンケート調査の基本統計，入学年度別，性別のクロス集計については，「学生の健康白書1995－基本編－」(186頁～196頁) にまとめた．今回は調査項目間のクロス集計を行ったのでその主な結果を示す．

2.2 調査の実施状況

調査対象：国立大学の保健管理施設が活動している89校に依頼したところ回答校は70校であった．

調査時期と調査方法：1995年健康診断時に，受診した学生に調査用紙を配布，記入の後回収した．

2.3 結果

2.3.1 回答数および回答率

回答数は，表2.1に示すように男子39,774人，女子30,705人，合計70,479人であった．これは，協力70大学在籍数の21.8％に相当する数である．

回答者の詳細な属性については，「健康白書基本編」を参照いただきたい．

表2.1 回答数及び回答率

	男 子	女 子	合 計
在 籍 数	216,580	107,268	323,848
回 答 数	39,774	30,705	70,479
回 答 率	18.4%	28.6%	21.8%

2.3.2 クロス集計の結果

クロス集計をするにあたり，結果をわかりやすくするために，アンケート調査の選択肢を2～3項目に再コードした．分類と命名については末尾の資料に示したので，参照いただきたい．

集計結果については，基本的には調査票の設問の順序で示した．また，「その他」を除いたなどのためにクロスごとに有効回答数は異なっている．

グラフ中に表記した数値は，割合ですべて％である．グラフの右に当該の標本数を示した．

1) 居住形態（自宅・非自宅）と他の項目との関係

居住形態は，自宅の者が男子で35.6％，女子で45.8％差が見られ，性差の影響があると考えられるが，特に考慮しなかった．

a) 居住形態と大学への満足度

自宅の方が満足な者の割合がやや高かったが，顕著な差は見られなかった．

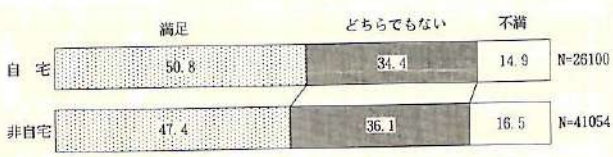


図2.1 居住形態と大学への満足度

b) 居住形態と学業への意欲

自宅の方が学業への意欲が高いものが多いが，顕著な差は見られなかった．

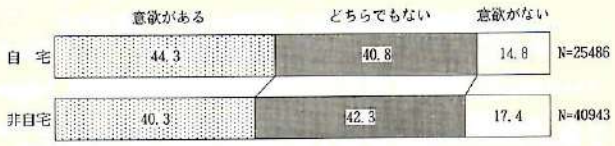


図2.2 居住形態と学業への意欲

c) 居住形態と友人関係

両群でほとんど違いは見られなかった．ただ，自宅の者が親友がいるという割合が少ないが，これは自宅生は学校での付き合いが中心になるためと考えられた．

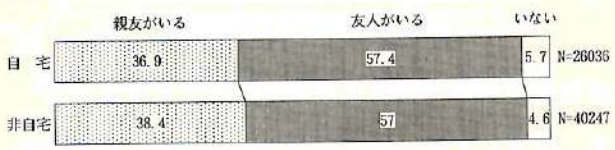


図2.3 居住形態と友人関係

d) 居住形態と大学生活の志向性

居住形態で大きな差は見られなかったが，自宅で若干学業志向の割合が高かった．

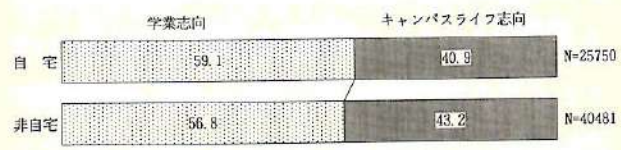


図2.4 居住形態と大学生活の志向性

e) 居住形態と健康状態

このクロスについても大きな差は見られないが，非自宅の者は，自宅の者に比べて健康状態が良いとする割合が低く，悪いとする割合が高かった．

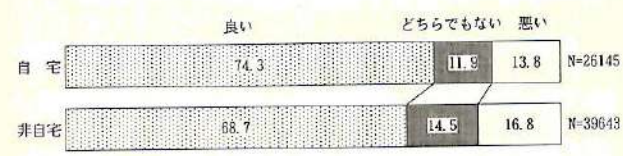


図2.5 居住形態と健康状態

f) 居住形態とストレスの有無およびストレスの要因

居住形態とストレスの有無については，ストレスを感じる者の割合が，自宅25.6％，非自宅26.9％など差は見られなかった．（図略）

居住形態とストレスの要因のクロスでは，自宅の者に，家庭・家族がストレスの原因になっているとする者の割合が高かった．

家庭・家族は生活上の便利さはあるものの，同時にストレスの原因でもあることが示唆された．



図2.6 居住形態とストレスの要因

g) 居住形態と落ち込みの有無，相談希望の有無

これらのクロスでは，それぞれ非自宅の者に落ち込みや相談希望の割合が高かったが，その差はほとんど見られなかった．（図略）

2) 大学への満足度と他の項目の関係

a) 大学への満足度と学業への意欲

図2.7に示すように，大学への満足度と学業への意欲にはきわだった違いが見られた．大学に満足している者は，学業への意欲が高く，不満足な者は学業への意欲が低い者の割合が多かった．

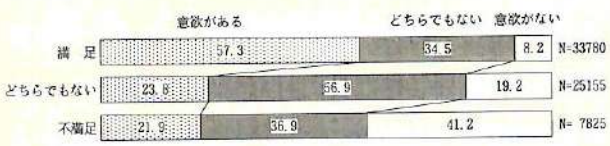


図2.7 大学への満足度と学業への意欲

b) 大学への満足度と友人関係

大学への満足度が高い者は，親友がいる者の割合が高く，比較的良好な友人関係を結べていると考えられた．

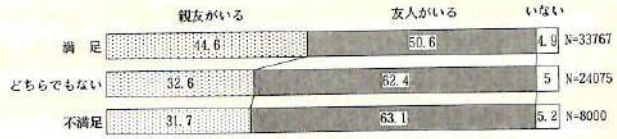


図2.8　大学への満足度と友人関係

c)　大学への満足度と健康状態

大学に満足している者に健康状態が良いとする者の割合が高く，不満足の者に悪いとする者の割合が高かった．

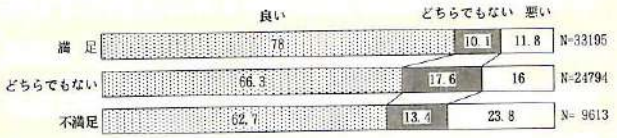


図2.9　大学への満足度と健康状態

d)　大学への満足度とストレスの有無

このクロスは大きな差が見られた．大学への満足度の高い者はストレスを感じない者が多く，不満足な人はストレスを感じる者の割合が顕著に高かった．



図2.10　大学への満足度とストレスの有無

e)　大学への満足度とストレスの要因

このクロスで差が見られたのは，大学に不満足とする者で「進路・就職」「学業」をストレスの要因として挙げた者の割合がやや高かった．

この設問は「進路・就職」と重ねてきいているので明確にできないが，「不本意入学感」が反映されているとも考えられた．



図2.11　大学への満足度とストレスの要因

f)　大学への満足度と落ち込みの有無

満足とする者に落ち込みがある者の割合が低く，不満足の者にその割合が高かった．

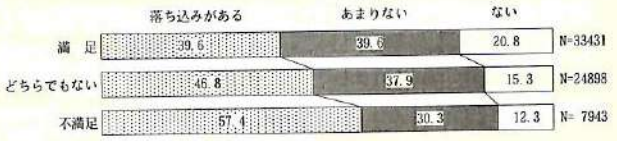


図2.12　大学への満足度と落ち込みの有無

g)　大学への満足度と相談希望の有無

満足度の高い者は相談希望の割合が少なく，不満足な者に相談希望の割合が高く見られた．



図2.13　大学への満足度と相談希望の有無

3)　学業への意欲と他の項目の関係

a)　学業への意欲と友人関係

学業への意欲がある者は，親友がいるとする者の割合が若干高く，意欲がないとする者は，親友がいる者の割合が低かったが．その差は顕著ではなかった．しかし，意欲がある者に「友人がいない」とする者の割合が若干高く，気になる結果であった．

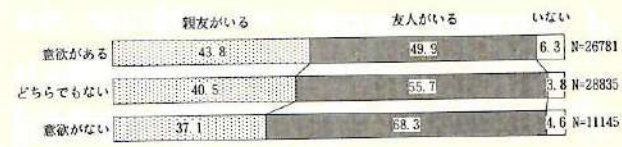


図2.14　学業への意欲と友人関係

b)　学業への意欲と健康状態

学業への意欲があるとする者に健康状態が良いとする者が多く，意欲がない者に健康状態が悪い者の割合が若干高かった．

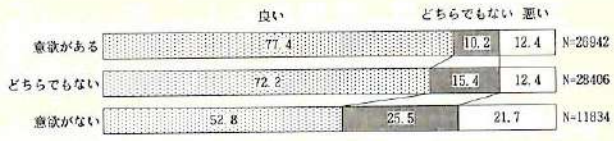


図2.15　学業への意欲と健康状態

c)　学業への意欲とストレスの有無

学業への意欲があるとする者はストレスを感じる者の割合が少なく，意欲がないとする者はストレスを感じる者の割合が高かった．

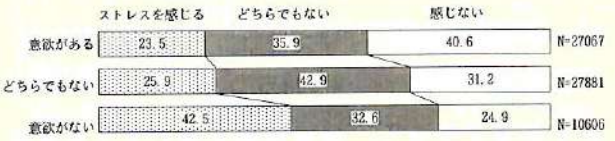


図2.16　学業への意欲とストレスの有無

d)　学業への意欲とストレスの要因

このクロスで差が見られたのは，学習意欲がないとする者に，ストレスの要因として「学業」を挙げた者の割合がやや多かった．



図2.17　学業への意欲とストレスの要因

e)　学業への意欲と落ち込みの有無

学業への意欲がない者に落ち込むことがあるとする者の割合がやや多かった．

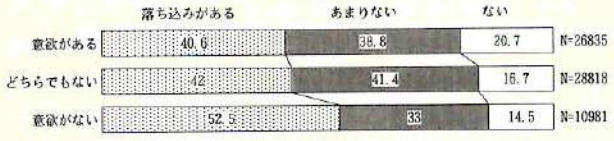


図2.18　学業への意欲と落ち込みの有無

f)　学業への意欲と相談希望の有無

学業への意欲がある者は相談を希望する者の割合が低く，意欲が低い者に相談希望が多く見られた．

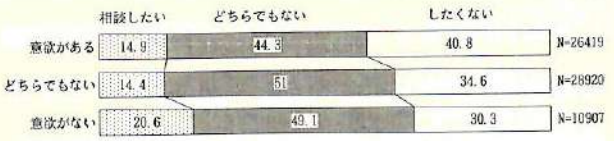


図2.19　学業への意欲と相談希望の有無

4)　友人関係とその他の項目

友人関係について，健康状態やストレスの有無，落ち込みの有無，相談希望の有無との関連を検討した．

それぞれのクロスで友人がいないとする者に，「悪い」とする者や「ある」とする者の割合が多かったが，その差はほとんどなかった．（図略）

5)　大学生活の志向性と他の項目との関係

今回の調査では大学生活での目的を質問したが，12項目の設問のうち，「専門的研究をする」「学歴・資格を得る」など4項目を「学業志向」としてまとめ，「良い友達をつくる」「人格形成をはかる」など残り8項目を「キャンパスライフ志向」としてまとめた．

a)　大学生活の志向性と大学への満足度

キャンパスライフ志向の者にやや不満足の割合が高いが，基本的には差が見られなかった．

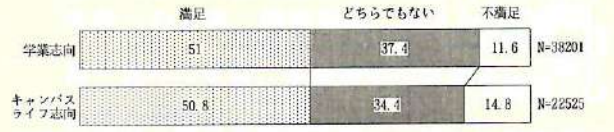


図2.20　大学生活の志向性と大学への満足度

b)　大学生活の志向性と学業への意欲

学業志向の者に，学業の意欲がある者の割合が高く，キャンパスライフ志向の者に意欲が低い者の割合が多かった．

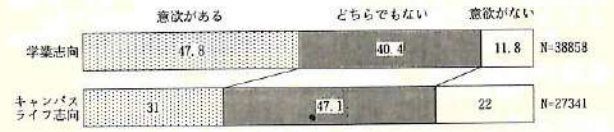


図2.21　大学生活の志向性と学業への意欲

c) 大学生活の志向性と友人関係

キャンパスライフ志向の者に「親友がいる」者の割合がわずかに高かったが，基本的には差が見れられなかった．

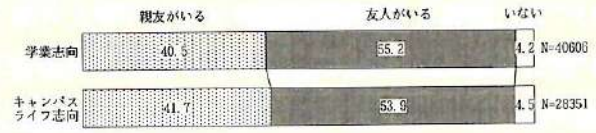


図2.22 大学生活の志向性と友人関係

d) 大学生活の志向性と健康状態

学業志向の者に，健康状態が良いとする割合が高く，キャンパスライフ志向の者に「悪い」とする者がやや多かった．

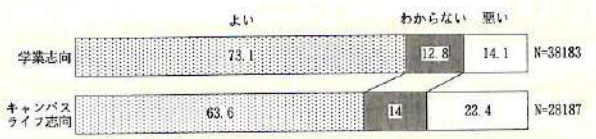


図2.23 大学生活の志向性と健康状態

e) 大学生活の志向性とストレスの有無，ストレスの容易，落ち込みの有無，相談希望の有無

これらのクロスにおいては，いずれも「キャンパスライフ志向」の者がストレスがある傾向を示していたが，基本的には差は見られなかった．

6) 健康状態と他の項目の関係

a) 健康状態とストレスの有無

健康状態が良いとするものに，ストレスを感じない者の割合が高く，健康状態が悪いとする者にストレスを感じる者の割合がきわだって高く見られた．



図2.24 健康状態とストレスの有無

b) 健康状態とストレスの要因

健康状態とストレスの要因とのクロスで差が見られたのは，健康状態が悪いとする者に「健康」がストレスの原因となっている者がきわだって多かった．



図2.25 健康状態とストレスの要因

c) 健康状態と落ち込みの有無

健康状態が良いとする者は「落ち込みがある」とする者が少なく，健康状態が悪いとする者に「落ち込みがある」とする者が多かった．

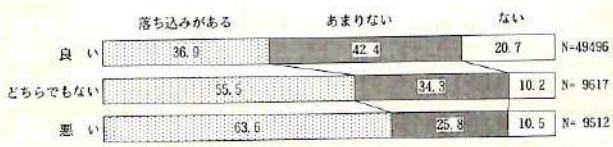


図2.26 健康状態と落ち込みの有無

d) 健康状態と相談希望の有無

健康状態が良いとする者は，相談希望の割合が低く，健康状態が悪いとする者に，相談希望の割合が高かった．

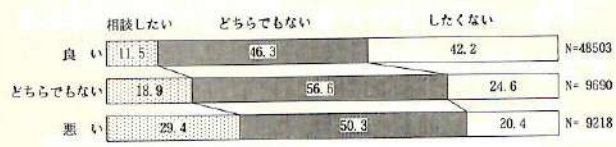


図2.27 健康状態と相談希望の有無

7) ストレスとその他の項目との関係

a) ストレスの有無とストレスの要因

ストレスがあるとする者は，ストレスを感じない者より，その要因として「友人関係」をあげる者の割合が高かった．

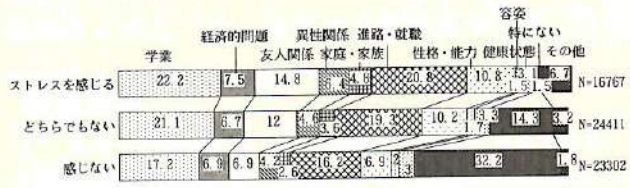


図2.28　ストレスの有無とストレスの要因

b)　ストレスの有無と落ち込みの有無

ストレスを感じる者に「落ち込みがある」とする者の割合が高く，ストレスがないとする者ではその割合がきわだって低かった．

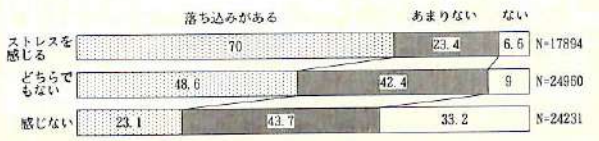


図2.29　ストレスの有無と落ち込みの有無

c)　ストレスの有無と相談希望の有無

ストレスを感じるとする者に相談希望の割合が顕著に高く見られた．

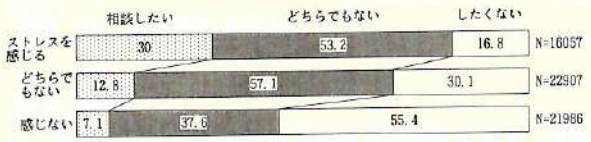


図2.30　ストレスの有無と相談希望の有無

8)　落ち込みの有無とストレスの要因

落ち込みがある者はない者に比べてストレスの要因として，「友人関係」，「性格・能力」の2項目をあげる者の割合が多かった．

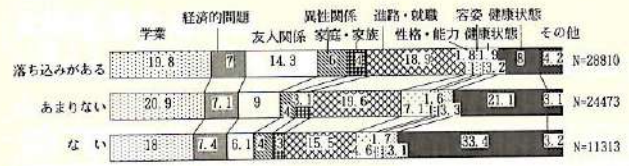


図2.31　落ち込みの有無とストレスの要因

9)　相談希望の有無とその他の項目

a)　相談希望の有無とストレスの原因

相談したいとする者は，ない者に比べてストレスの要因として，「友人関係」「異性関係」「進路・就職」「性格・能力」の4項目をあげる者の割合が高かった．



図2.32　相談希望の有無とストレスの要因

b)　相談希望の有無と落ち込みの有無

相談したい者に，「落ち込みがある」とする者の割合が高く，したくない者にはその割合がきわだって少なかった．

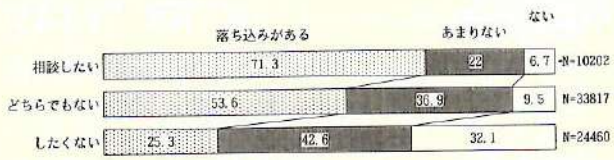


図2.33　相談希望の有無と落ち込みの有無

2.4　結果のまとめと考察

① 居住形態と他の項目での関係では，健康状態などに若干の差が見られたが，顕著な差は見られなかった．

② 大学への満足度と他の項目での関係では，学業への意欲，健康状態，ストレスの有無，落ち込みの有無，相談希望の有無など，多くの項目で顕著な関連が見られた．

③ 大学への満足度は，大学のレベル，地域，学部や専攻の適合感など多くの要因が含まれていると考えられる．これらの一部は修学を援助する学生相談によって解決しうるものと考えられ，学生相談を充実させる必要性を強く示唆していると考えられる．

④ 健康状態と他の項目との関係では，ストレスの有無，落ち込みの有無，相談希望の有無との筏で顕著な関連が見られた．これらの結

果は，身体健康の担当者と相談関係者が緊密に連絡をとりながら学生に対応する必要性が示唆された．

⑤ ストレスの有無と他の項目との関係では，ストレスの要因として，「友人関係」「家庭・家族」で差が見られた．また，ストレスを感じる者に相談希望が多く見られた．

⑥ 相談希望の者は，ストレスの要因として「友人関係」「異性関係」「進路就職」「性格・能力」でその割合が高かった．これらの問題は，カウンセリングが有効に機能する領域である．これらの結果は，大学でのカウンセリングの充実が，学生の心身の健康に寄与する可能性があることを示唆しているように思われた．

［小柳晴生，磯田雄二郎］

資　料

アンケート調査の再コード表

居住形態

1　あなたの現在住んでいる場所は，次のどちらですか．

1）自宅	自宅
2）自宅以外	非自宅

大学への満足度

2　あなたは，本学に入学して満足していますか．

1）満足している	満足
2）満足でも不満足でもない	どちらでもない
3）不満足だが，特にどうしようとは考えていない 4）できれば転学部・転学科をしたいと思っている 5）他大学・専門学校へ転学したいと思っている 6）退学して就職したいと思っている	不満足
7）その他（　　）	

学業への意欲

3　あなたの学業への取り組み方は，どんなですか．

1）意欲的である 2）かなり意欲的である	意欲がある
3）どちらとも言えない	どちらでもない
4）かなり意欲が落ちている 5）全く意欲がわかない	意欲がない

友人関係

4　あなたは，大学内にどの程度つきあえる友人（同性異性を問わず）がいますか．

1）互いに希望や悩みをうちあけあい，心を許しあえる友人がいる	親友がいる
2）割合に親密につきあえる友人がいる 3）一緒に話はするが，それほど親密ではない友人はいる	友人がいる
4）あいさつを交わす程度の友人はいる 5）友人はいない	いない
6）その他（　　）	

大学生活の志向性

5　あなたは，どのような目的に沿って大学生活を過ごしていますか．あなたの現状をみて，主なもの1つを選んでください．

1）専門的研究をする	2）教養を身につける
3）よい友達をつくる	4）よいところに就職する
5）人格形成をはかる	6）ボランティア活動の担い手となる
7）学歴・資格を得る	8）クラブ活動に力を入れる
9）遊ぶこと	10）恋人をみつける
11）今は，わからない	12）その他（　　）

□で囲んだ1），2），4），7）→ 学業志向

それ以外の3），5），6），8），9），10），11），12）→ キャンパスライフ志向

健康状態

6　あなたの現在の健康状態はいかがですか.

1）心身共に非常によい
2）どちらかといえばよい　→ 良い

3）どちらともいえない　→ どちらでもない

4）どちらかといえば身体的に不調である
5）どちらかといえば精神的に不調である
6）心身共によくない　→ 悪い

ストレスの有無

7　あなたは，日常生活で，どの程度精神的なストレスを感じていますか.

1）非常に感じている
2）かなり感じている　→ 感じる

3）どちらともいえない　→ どちらでもない

4）あまり感じていない
5）全く感じていない　→ 感じない

ストレスの要因

8　あなたにストレスをもたらすものは概してどんなことですか.（主なもの1つ）

1）学業　2）経済的問題　3）友人関係　4）異性関係
5）家庭・家族　6）進路・就職　7）性格・能力　8）容姿
9）健康状態　10）特にない　11）その他（　　）

自覚症状

9　あなたは，最近どのような自覚症状を感じていますか.（主なもの3つ）

今回のクロスでは省略した.

落ち込みの有無

10　あなたは，気分の落ち込みの長引くことがありますか.

1）よくある
2）時々ある　→ ある

3）あまりない　→ あまりない

4）ほとんどない　→ ない

相談希望の有無

11　あなたは，現在，悩みや不安で相談したいことがありますか.

1）是非，相談したいことがある
2）機会があれば，相談したいことがある　→ 相談したい

3）悩みはあるが，相談するほどではない　→ どちらでもない

4）今のところ全くない　→ したくない

5）その他（　　）

3. 休学･退学･除籍からの補足分析

3.1 在籍学生数と女子学生数の動向

大学における休学者，退学者，および除籍者の実態を調査するにあたって，在籍学生数は，なくてはならない基本数である．そんなわけで，前回の基本編「V. 1.休学者に関する調査」の表1･1に在籍学生数を記載した．

ところがこの実態調査には，定員も，内数として女子学生数も記入してもらってある．これらは学生の動向の側面を示している．一つは，定員に比して学年ごとにどのくらいの割合で学生数が減少していくのか，もう一つは，女子学生がどのくらいの割合で増加しているのか，ということである．こうしたことは，一見健康調査には直接かかわりがないように思われるが，学生がどのような環境の中で学生生活を送っているかを知ることに役立ち，それは，健康調査結果の意味を考えるとき必要になってくると思われる．

調査を寄せられた大学は，基本編に示した通り89大学である．（健康白書の身体面調査にご協力いただいた95大学のうち，不参加は次の6大学：福井医科大学，山梨医科大学，香川医科大学，佐賀医科大学，宮崎医科大学，大分医科大学）

3.1.1 概　観

まず，上述の2つを概観してみた（表3.1）．

定員に対する在籍学生数の割合は，全体で110％弱であるが，4年制学部では110％強，6年制学部では104％弱であった．これは，6年制学部では退学や留年生の割合が4年制学部より少ないことを考えると，妥当な数字と思われる．

次に在籍学生数に対する女子の割合をみると，全体では31％強で，4年制学部も全体では31％強であるが，文系・理系に分けてみると大きく分かれ，文系が46％弱であるのに比し，理系は18％弱であった．6年制学部は全体で28％強であるが，中を開いてみると医学26％，歯学31％弱，獣医学48％強であった．

1） 入学年度ごとの在籍学生数

定員に対する在籍学生数の割合を入学年度ごとにみるとかなり異なる．（表3.2）．

4年制学部の1993年度入学（3年生）文系の割合105.8％が最高で，他はそれ以下であり，しかも，退学がわずかでも毎年出るにもかかわらず，入学年度が若いほど割合が高いわけではない．

4年生学部では1993年度入学（3年生）が文･理系とも最高でなぜか1992年度（2年生）におちこみがみられた．

表3.1 定員・在籍学生数・女子学生数　　1995年度

	総　数 (89校)	4年制学部 (86校)			6年制学部 (40校)
			文系学部	理系学部	
定　員	415,668	388,448	188,236	200,212	27,220
在籍学生数	456,927(109.9%)	428,729(110.4%)	208,272(110.6%)	220,457(110.1%)	28,198(103.6%)
うち女子	142,115(31.1%)	134,093(31.3%)	94,988(45.6%)	39,105(17.7%)	8,022(28.4%)

（注） 在籍学生数の括弧内は，定員に対する在籍学生数の割合
うち女子の括弧内は，在籍学生数に対する女子の割合

表3.2　定員・在籍学生数・女子学生数（文理系別）　　1995年度

4　年　制　学　部（86校集計）

	入学年度	1995年	1994年	1993年	1992年	1991年以前
全体	定　　員	98,013	98,013	96,581	95,841	−
	在籍学生数	101,935(104.0%)	101,135(103.2%)	101,608(105.2%)	97,159(101.4%)	26,892(6.9%)
	うち女子	34,894 (34.2%)	32,917(32.5%)	33,580(33.0%)	29,900(30.8%)	2,802(10.4%)
文系	定　　員	47,059	47,299	47,124	46,754	−
	在籍学生数	49,205(104.6%)	48,947(103.5%)	49,878(105.8%)	47,868(102.4%)	12,374(6.6%)
	うち女子	24,265(49.3%)	22,887(46.8%)	23,914(47.9%)	21,640(45.2%)	2,282(18.4%)
理系	定　　員	50,954	50,714	49,457	49,087	−
	在籍学生数	52,730(103.5%)	52,188(102.9%)	51,730(104.6%)	49,291(100.4%)	14,518(7.3%)
	うち女子	10,629(20.2%)	10,030(19.2%)	9,666(18.7%)	8,260(16.8%)	520(3.6%)

6　年　制　学　部（40校集計）

	入学年度	1995年	1994年	1993年	1992年	1991年
全体	定　　員	4,490	4,490	4,560	4,560	4,560
理系	在籍学生数	4,557(101.5%)	4,514(100.5%)	4,610(101.1%)	4,529(99.3%)	4,468(98.0%)
	うち女子	1,605(35.2%)	1,434(31.8%)	1,445(31.3%)	1,256(27.7%)	1,093(24.5%)

1990年	1989年以前
4,560	−
4,417(96.9%)	1,103(4.1%)
1,061(24.0%)	128(11.6%)

（注）在籍学生数の括弧内は定員に対する在籍学生数の割合
うち女子の括弧内は，在籍学生数に対する女子の割合
留年生の括弧内は，それぞれ定員に対する留年生の割合

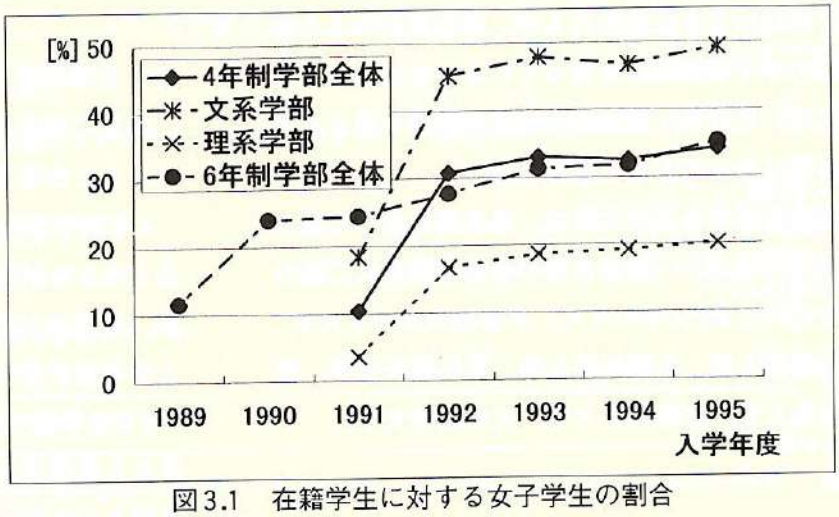


図3.1　在籍学生に対する女子学生の割合

定員数をみると，1995年度と1994年度は同数で，1993年度より定員が増えている．学部・学科の新設に当たり，初年度の合格者数を控えた大学が多かったのではなかろうか．

6年制学部はほぼ入学年度が古いほど定員比は低いが，4年制（1992年度）以上では，在籍学生数は定員を下廻っていた．

2）在籍学生数に対する女子学生の割合

こちらは予想どおり，たった4年間でも女子学生の割合の増加は明らかである（表3.2）．しかし，文系と理系で，きれいな差異がみられた．

4年制学部の文系女子学生は在籍学生数の定員比のおちこみを反映して1994年度におちこみをみせているが，4年制学部の理系と6年制学部の女子学生は定員比と関係なく順調に増加していた．

また，4年制学部と6年制学部間にも大きな差異がみられた．それは，4年制学部の女子が，文系で50％弱，理系で20％弱ながらともに4％前後の増加にとどまっているにもかかわらず，6年制学部では4年制学部と同じ1992年度から1995年度の間に約2倍の9％弱の伸び率を示しており，最高学年の1990年度からわずか6年間で24％から35％へと，11％の増加を示していたことである（図3.1）．

（医学22.3％→32.9％，歯学25.3％→39.2％，獣医学37.8％→51.1％）

このことは，単に女子学生は一般に真面目で勤勉であるというだけではなく，「子を産み育てる性」として，企業のような組織に属さず，個人で自立できる職業を志向する気持ちが強いことの現れではなかろうか．

［中島潤子，野村正文］

3.2 休・退学者に占める留年生の割合

3.2.1 まえおき

大学における休学者，退学者，および除籍者の在籍学生に占める割合やその実態の概略については，基本編に記載した．しかしもう少し詳細に知っておきたいものがあったので分析を進め，この応用研究編に報告することにした．

その一つが，休学者，除籍者を含めた退学者の実態調査がどのくらい妥当なものであるかについての検証である．（この調査では退学者を「大学から去った者」として除籍者を含めて報告してきたので，特に断りがない限り，退学者には除籍者を含めるものとする．）

検証には，すでに集めた実態調査のなかに記載されていたものを用いた．したがって，参加大学は，休学については19大学，退学については14大学である．

休学・退学の実態調査参加大学名は，次節「保健管理センター関与状況」の文末に記載した．

3.2.2 検証の必要性

休・退学者の実態調査は，当該年度の休学者・退学者の届け出書類を見て実態調査用紙の「届け出調査」欄に記入したのち，届け出書類に書かれている休・退学に至った理由がどのていど実態に則したものであるかを，調査者が確かめる形で行われる．

調査者はその大学の保健管理センター教官（おおかたは精神保健スタッフ）であるから，自分が関与した学生であるならば実態を調査する必要はない．しかし現在の大学では，休・退学の届け出に保健管理センターを経由する必要はないのが一般であるから，調査者は担当教官や書類を受理した事務官，機会に恵まれれば改めて本人やその家族に電話などで実態を確かめることになる．

調査は特に，一身上の理由とか経済的理由などのように実態については何も語っていない場合や書類に書き込まれた本人の記述や担当教官の記述に疑問のある場合に，必要になる．

しかしこのやり方では，実態調査の結果に，担当教官や事務官の主観，さらには調査者の主観が入り込むことになる．海外留学や他大学受験には主観がはいりこむ余地はあまりないが，休・退学の理由を「消極的理由」と区分したグループには検証が必要と思われた．

「消極的理由」のグループの中に留年生がどのくらい居るかをみることができれば，その検証に役立つのではなかろうかと考え，休・退学者の入学年度を調べることにした（表2.1,2）．

3.2.3 結　果

1）休　学（表3.3）

便宜的に，1995年度入学者を1年生とよび，以後，年度が古くなるごとに，2年生，3年生，4年生と表現していくことにする．

⑴ 『病 気』

① 身体疾患：最高が3年生の10人で，4年生までの人数が合計の72％を占めていた．7年生でひとまず終わるが，例外的に14年生に1人おり，休学をくりかえした難治例と思われた．

② 精神障害：古典的精神障害のグループであるが，最高は4年生にあり，ここまでで合計の60％を占め，身体疾患よりも長く12年生まで拡散している．拡散度は分裂病が最も高く，神経症群は7年生までにまとまっているのが印象的であった．

⑵ 『消極的理由』 人数の最高が5年生にあり，留年生への拡散度が区分の中で最も高かった．学業を回避しながら大学から離れる決心もつかないアパシーの心性とよく合っており，区分は妥当と思われる．

① スチューデントアパシー：6～7年生に診断がつけられていた．妥当と思われる．

② アパシーの疑い：4年生までで46％であり，大部分が5年生以上にずれこんでいて思いのほか妥当に区分されていた．4年生以下の休学者にこの区分をつける場合は，担当教官から「大学に出てきていない」情報を受けていると信じたい．

③ 単位不足と意欲減退：これに区分する場合は本人が届け出にそう記載している場合が多い．4年生までで35％と低率で，アパシー的と言える．

④ アルバイトとサークル活動：これらは，本人が記載している場合と担当教官からの情報によるものとある．担当教官からは「元気な学生」と言われることで意欲減退と区別されるが，ここに区分される学生は一般に予想されているよりも少ないものである．4年生までの休学者が5人中1人（20％）しかいないことからみても，学業意欲の方は③又は②と同類であるとしてよさそう．

⑤ 学外活動：学外団体に所属して活動するために休学する学生で，宗教・ボランティア活動・スポーツ・芸術と多彩である．4年生までで75％を占めていることからみても，かなり積極的に自分の生き方を考えている学生たちであるが，概して学業からは離れる．

⑥ 進路変更：これは本人の記載によるものがほとんどである．低学年では他大学受験がここにまぎれこむこともあるが，4年生までで73％を占めており，かなり積極的な学生たちと思われるが，学業からはなれる者が多い点では⑤に類似する．

⑦ 就職：就職の準備のため休学したいという学生たちである．1年生の2人のように積極的な者は例外的で，半数以上が5年生以上であることからみても，学業が思わしくなくてやむなく決心した者が多いことが立証された．「消極的」に組みこんで妥当だったと思われる．

⑶ 『積極的理由』 人数の最高は4年生にあり4年生までで88％を占め，低学年でまとまっている点で，消極的理由グループとは異なっていた．

① 海外留学：本人の記載又は教官の情報から，留学であることが明確で，多くは留学先の記載がある．4年生がピークで，単位の取得が終了し，卒業前に見聞を広めようという事実上の卒業猶予である．4年生までで89％を占めている．それ以後は留年組であろうか．11年生の1人は，むしろアパシーの疑いがある．

② 海外遊学：これは，海外留学以外の理由で海外に出かけるものをこの呼び名で一括したものである．世界一周，ワーキングホリデーから，海外協力隊，海外での柔道の教授，日本語教授，外務省派遣，家族の移住まで含まれている．4年生までで86％を占め，ピークが4年生で，6年生どまりである点から，学業意欲はあるとみられる．

③　他大学受験：これは1年生がピークで，合計の63％を占めている．3年生以上は学業を続けると標榜しているものの，問題がありそうである．

④　資格取得：本人が記載しているもので，司法試験準備，行政書士・会計士などの資格取得試験準備のためとある．4年生前後であり妥当と思われる．

(4)『**環境要因**』　人数の最高は4年生にあり，そこまでで65％を占め，(2)と(3)の中間的．

①　経済的理由：家業の倒産をはじめ，経済的困窮が具体的に記載されているもののみここに含めるので，調査が行き届くと少なくなるものだが，平成7年度はやや多い．4年生までで66％を占めているが，5年生以上は疑問が残る．

②　家庭と看護：故郷の父母のいずれかが倒れた場合，看護又は経済的援助が必要で休学する．本人が記載している場合がほとんどであるが，4年生までで64％というところも①とよく似ている．

③　結婚・育児：本人の記載によるものがほとん

表3.3　休学者の入学年度（休学の理由別）　　1995年度

休学理由		入学年度													合計
		1995	1994	1993	1992	1991	1990	1989	1988	1987	1986	1985	1984	1983	1982	
病気	計	10	19	22	30	18	10	11	3	2	1		1		1	128
	身体疾患	1	7	10	8	3	3	3							1	36
	精神障害　計	9	12	12	22	15	7	8	3	2	1		1			92
	精神分裂病	2	4	4	9	7	3	5	2	1	1		1			39
	うつ病	1	2	4	5	2	1		1	1						17
	神経症・他	6	6	4	8	6	3	3								36
消極的理由	計	20	39	34	55	75	40	30	10	2						305
	ｽﾁｭｰﾃﾞﾝﾄ ｱﾊﾟｼｰ						3	2								5
	アパシー疑い	10	19	16	25	40	19	16	6	1						152
	単位不足	1	1		12	16	3	5	2							40
	意欲減退		1	1		2	2									6
	アルバイト					2			1							3
	サークル		1			1										2
	学外活動	1	4	8	5	4	2									24
	進路再考	6	13	9	12	9	9	6		1						65
	就職	2			1	1	2	1	1							8
積極的理由	計	41	32	92	260	46	6	3				1				481
	海外留学	2	18	73	201	30	2	3				1				330
	海外遊学	1	6	13	53	11	1									85
	他大学受験準備	38	8	3	5	3	3									60
	資格取得			3	1	2										6
環境要因	計	6	14	19	38	22	14	5	1							119
	経済	2	6	7	23	11	7	2								58
	家庭	4	8	9	12	10	6	3								52
	看護				1											1
	結婚・育児			3	2	1	1		1							8
不詳	計	15	14	30	32	24	14	6	2							137
	一身上の都合	3	4	2	3	1	1									14
	不詳	12	10	28	29	23	13	6	2							123
合計		92	118	197	415	185	84	55	16	4	1	1	1		1	1,170

どだが，3・4年生に集中しているのはうなづける．最近は，男子にもこの理由が見られる．

⑸ 『不詳』「一身上の理由」を含め，未調査のケースである．偏りが少ないことからみて，さまざまな理由が混在しているようである．

2） 退　学（表3.4）

経験上，留年生では平成7年度の休学した者が同年度に退学することがかなりあるが，他の学年では休学せずに退学する学生が圧倒的に多い．それゆえ休・退学を同じ学生に起こった出来事として語ることはできない．ましてや資料提供大学が5校減少している．しかし，毎年同じドラマがくりかえされるので，退学を休学に関連づけてみることはできる．そのような観点で退学をみたい．入学年度を学年に置き換えるのは，休学の場合と同じである．

⑴ 『病　気』

① 身体疾患：人数の最高が4年生で，休学より1学年後ろへずれた．身体疾患で退学するほとんどは死亡退学であることから考えると，発病から死亡まで1年以上要するということを示しているようにも思われる．

② 精神障害：人数の最高は休学と同じく4年生である．分裂病では3年生から7年生までにまとまっており，うつ病では1年生から5年生までにまとまっている．このようなまとまり方は休学にもみられたので，両精神病者の特徴に思えて興味深い．神経症・他で8・12学年と1人ずついるが，たぶん神経症ではないと思われる．

⑵ 『消極的理由』 この区分では，人数の最高が休学よりさらに1学年後ろへずれて6年生になっている．

① スチューデントアパシー，アパシーの疑い，単位不足，意欲減退，アルバイト，サークル活動：これらは，人数の最高が6年生で拡散の密度も留年生に偏っていることから，消極的理由の退学の中核をなすものと思われる．アパシーの心性を備えていると思われ，区分は妥当．

② 学外活動，進路変更，就職：これらは人数の最高が4年生であり，拡散の密度は低学年に偏っているので，消極的理由の中核にはないものと思われる．

⑶ 『積極的理由』 この区分は，海外留学が激減して他大学合格が中心になり，人数の最高が1年生に移行した．

① 海外留学：最近海外の大学を卒業したいと残留する人が出てきた．2～4年生に偏っている．

② 他大学合格：人数は1年生が最高であるが，編入試験があるせいもあるのだろうか，5年生で合格した人もいる．

③ 資格取得：資格を取得したくて退学する2年生は進路変更にすべきかもしれない．

④ 飛び級：大学3年生から大学院への飛び級である．前回の基本編では，間違えて0人になってしまっていた．お詫びし，訂正をお願いする．

⑷ 『環境要因』 これは人数の最高が休学より後ろへ1学年ずれて5年生になっている．

① 経済，家庭，看護：人数の最高が5年生にずれたが，休学と同様，6年制学部でない限り，5年生以上の退学者は，環境要因の他に学業不振をもっている場合もあると思われる．

② 結婚・育児：休学では人数の分布が高学年に偏っていたが，退学では低学年に偏っていて驚かされた．休学する人と退学する人は気質が異なるのだろうか．

⑸ 『不　詳』

① 一身上の都合：低学年に偏っているところから，他大学合格又は進路変更が多いと思われる．

② 不詳：この中には「授業料未納」による除籍者が大勢入っている．人数の最多は4年生だが，

8年生まで拡散している.

3.2.4 まとめ

休·退学者の中に占める留年生を，5年生以上として概算すると，留年生が占める割合は，休学では29.7%，退学では43.7%であった．それはともかく，この留年生の出現数を鍵にして区分を検証してみたところ，休·退学の理由の区分はおおむね妥当であると判断された.

なお，大学によって，休学率·退学率·留年率

表3.4　退学者の入学年度（退学の理由別）　1995年度

退学理由	入学年度													合計
	1995	1994	1993	1992	1991	1990	1989	1988	1987	1986	1985	1984	1983	1982	
病気　計	4	4	9	13	7	2	4	1				1			45
身体疾患	3	3	3	5	2	1	2								19
精神障害　計	1	1	6	8	5	1	2	1				1			26
精神分裂病			1	2	2	1	2								8
うつ病	1	1	2	3	2										9
神経症・他			3	3	1			1				1			9
消極的理由　計	19	24	50	78	71	87	56	39	2	1					427
ｽﾁｭｰﾃﾞﾝﾄ ｱﾊﾟｼｰ				3	3	2	3			1					12
アパシー疑い	7	7	31	35	36	46	23	23	2						210
単位不足				1	5	10	9	5							30
意欲減退	2	2	1	2	3	3	9	5							27
アルバイト				5	1	2		1							9
サークル			1			1									2
学外活動	1		1												2
進路変更	6	12	12	13	6	7	1	2							59
就職	3	3	4	19	17	16	11	3							76
積極的理由　計	86	25	22	11	2										146
海外留学延長		4	3	1											8
他大学合格	86	20	12	10	2										130
資格取得		1													1
飛び級			7												7
環境要因　計	7	8	6	6	14	6	2	3							52
経済的理由	4	1	1	2	8	4	1	3							24
家庭の都合	1	6	3	3	4	1									18
看護						1									1
結婚・育児	2	1	2	1	2		1								9
不詳　計	21	17	18	22	17	18	9	7							129
一身上の都合	4	2		1	1										8
不詳	17	15	18	21	16	18	9	7							121
合計	137	78	105	130	111	113	71	50	2	1		1			799

表3.5　休学率·退学率·留年率の範囲　1995年度

		休学率	退学率	留年率
文系	最大値	10.37%	2.27%	15.91%
	最小値	0.11%	0.40%	1.45%
理系	最大値	3.86%	6.67%	11.25%
	最小値	0.56%	0.58%	0.83%

はかなり異なる．参考までに表3.5にそれぞれの率の最高値と最低値をまとめた．最低値には，新設学部を含む大学は含まれていない．

[中島潤子，野村正文]

3.3 休・退学，死亡除籍者に対する保健管理センターの関与状況

3.3.1 概　要

休・退学者，死亡除籍者が保健管理センターをどのていど利用していたかを知ることは，こうした学生の心性を理解することに役立つと考えられる．と同時にこれは，保健管理センターの関与のあり方にも反省の鍵を与えると思われる．

このような観点から，休・退学者，死亡それぞれの実態調査の中で保健管理センターの関与状況をとり出してまとめた．

したがって，参加大学は，それぞれの実態調査参加大学と同じである．（本文末尾を参照）

3.3.2 休学者に対する保健管理センターの関与状況

これは，表3.6と図3.2に明らかである．休学の理由区分別にみると，「病気」に最も多く関与している．精神障害は全体で57％（分裂病62％,うつ病53％,神経症・他53％）であり，身体疾患にすら14％関与している．スチューデントアパシーおよびその疑いにも13％関与している．

その他では，学外団体に属して活動している人たちに17％関与しているが，あとは海外留学と他大学受験が1人ずつ相談にきているにすぎない．休学者全体では7％という少なさである．

3.3.3 退学者に対する保健管理センターの関与状況

表3.7と図3.3をみると，退学者全体に対しては関与率はさらに減少して5％となっている．ところが精神障害の関与率は増加して，全体で85％（分裂病100％,うつ病67％,神経症・他89％）となっている．スチューデントアパシーおよびその疑いは減少して7％，身体疾患も5％に減少する．

慢性精神障害に手いっぱいという印象がある．

3.3.4 死亡除籍者に対する保健管理センターの関与状況

表3.8と図3.4によると，やはり関与率は大変低い．死亡者全体で6％．病死者に対しても6％．事故死者には0％で当然としても，自殺者と自殺の疑いに対して合計で14％という低さは気になる．

センターが関与した場合は，自殺を防ぐことが多いとも考えられるが，センターの教官は小人数なので，慢性の精神障害のほかに最近は軽症の抑うつ状態や不登校，過食・拒食など相談が増えて急に相談にかけこんでも応じてもらえない雰囲気になり，本当に相談してほしい学生が来にくくなっているのでなければよいが，と憂慮される．

[中島潤子，野村正文]

実態調査参加大学

1. 死亡実態調査に参加：89大学（精神面健康調査に参加したすべての大学．99頁参照）
2. 休学・退学の両実態調査に参加：14大学
   宮城教育大学，茨城大学，図書館情報大学，筑波大学，宇都宮大学，上越教育大学，信州大学，浜松医科大学，大阪外国語大学，和歌山大学，高知大学，高知医科大学，長崎大学，大分大学
3. 休学実態調査のみ参加：5大学
   旭川医科大学，富山大学，滋賀医科大学，島根医科大学，佐賀大学

表3.6　休学者に対するセンター関与状況

1995年度

休学理由	ｾﾝﾀｰ関与	入学年度														合計
		1995	1994	1993	1992	1991	1990	1989	1988	1987	1986	1985	1984	1983	1982	
身体疾患	あり		1	1	2		1									5
	なし	1	6	9	6	3	2	3							1	31
精神分裂病	あり	1	1	2	6	5	2	4	1		1		1			24
	なし	1	3	2	3	2	1	1	1	1						15
うつ病	あり		2	3	3				1							9
	なし	1		1	2	2	1			1						8
神経症・他	あり	2	2	3	3	4	2	3								19
	なし	4	4	1	5	2	1									17
ｽﾁｭｰﾃﾞﾝﾄ ｱﾊﾟｼｰ	あり						1	2								3
	なし						2									2
アパシー疑い	あり	2	5	1	5	4	1									18
	なし	8	14	15	20	36	18	16	6	1						134
単位不足	あり															0
	なし	1	1		12	16	3	5	2							40
意欲減退	あり															0
	なし		1	1		2	2									6
進路再考	あり															0
	なし	6	13	9	12	9	9	6		1						65
就職	あり															0
	なし	2			1	1	2	1	1							8
アルバイト	あり															0
	なし					2			1							3
サークル	あり															0
	なし		1			1										2
学外活動	あり	1		1	1		1									4
	なし		4	7	4	4	1									20
海外留学	あり				1											1
	なし	2	18	73	200	30	2	3				1				329
海外遊学	あり															0
	なし	1	6	13	53	11	1									85
他大学受験	あり	1														1
	なし	37	8	3	5	3	3									59
資格取得	あり															0
	なし			3	1	2										6
経済的理由	あり															0
	なし	2	6	7	23	11	7	2								58
家庭の都合	あり															0
	なし	4	8	9	12	10	6	3								52
看護	あり															0
	なし				1											1
結婚・育児	あり															0
	なし			3	2	1	1		1							8
一身上の都合	あり															0
	なし	3	4	2	3	1	1									14
不詳	あり															0
	なし	12	10	28	29	23	13	6	2							123
合計	あり	7	11	11	21	13	8	9	2	0	1	0	1	0	0	84
	なし	85	107	186	394	172	76	46	14	4	0	1	0	0	1	1,086

表3.7　退学者に対するセンター関与状況

1995年度

退学理由	センター関与	入学年度														合計
		1995	1994	1993	1992	1991	1990	1989	1988	1987	1986	1985	1984	1983	1982	
身体疾患	あり					1										1
	なし	3	3	3	5	1	1	2								18
精神分裂病	あり			1	2	2	1	2								8
	なし															0
うつ病	あり		1	2	2	1										6
	なし	1			1	1										3
神経症・他	あり			3	2	1			1				1			8
	なし				1											1
ｽﾁｭｰﾃﾞﾝﾄ ｱﾊﾟｼｰ	あり				3	3	1	3			1					11
	なし						1									1
アパシー疑い	あり			2	2		1									5
	なし	7	7	29	33	36	45	23	23	2						205
単位不足	あり															0
	なし				1	5	10	9	5							30
意欲減退	あり															0
	なし	2	2	1	2	3	3	9	5							27
アルバイト	あり															0
	なし				5	1	2		1							9
サークル	あり															0
	なし			1			1									2
学外活動	あり															0
	なし	1		1												2
進路変更	あり															0
	なし	6	12	12	13	6	7	1	2							59
就職	あり															0
	なし	3	3	4	19	17	16	11	3							76
海外留学延長	あり															0
	なし		4	3	1											8
他大学合格	あり	2														2
	なし	84	20	12	10	2										128
資格取得	あり															0
	なし		1													1
飛び級	あり															0
	なし			7												7
経済的理由	あり															0
	なし	4	1	1	2	8	4	1	3							24
家庭の都合	あり															0
	なし	1	6	3	3	4	1									18
看護	あり															0
	なし						1									1
結婚・育児	あり															0
	なし	2	1	2	1	2		1								9
一身上の都合	あり															0
	なし	4	2		1	1										8
不詳	あり															0
	なし	17	15	18	21	16	18	9	7							121
合計	あり	2	1	8	11	8	3	5	1	0	1	0	1	0	0	41
	なし	135	77	97	119	103	110	66	49	2	0	0	0	0	0	758

表3.8　退学者のうち，死亡除籍者に対するセンター関与状況　　1995年度

死　因	ｾﾝﾀｰ関与	入学年度										
		1995	1994	1993	1992	1991	1990	1989	1988	1987	1986	合計
病死	あり	1				1	1					3
	なし	6	6	13	7	9	2		1		1	45
事故死	あり											
	なし	22	23	15	8	2		2				72
自殺	あり		3	2	2							7
	なし	4	6	6	10	6	6	1	1			40
自殺の疑い	あり						1					1
	なし		1	2	3		1	1				8
他殺	あり											
	なし				1							1
不明・不詳	あり											
	なし	2				2	1	1				6
合計	あり	1	3	2	2	1	2					11
	なし	34	36	36	29	19	10	5	2	0	1	172

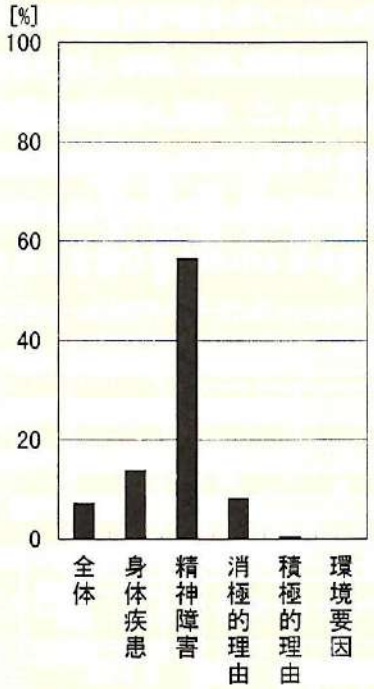


図3.2 休学者に対するセンター関与率

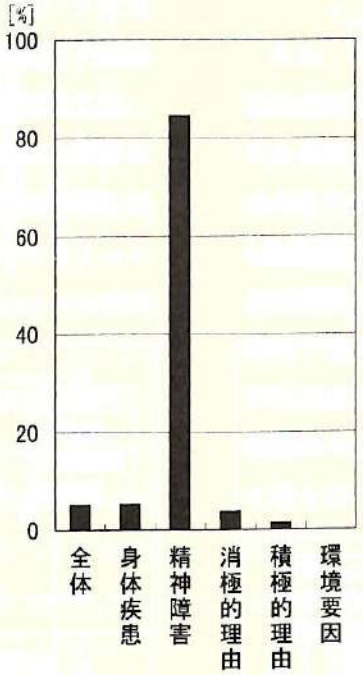


図3.3 退学者に対するセンター関与率

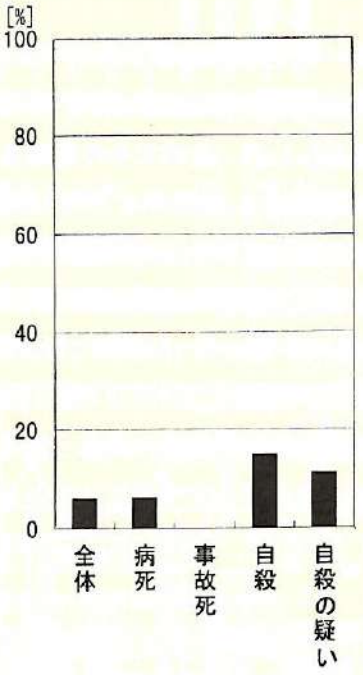


図3.4 死亡学生に対するセンター関与率

(注)　今回，応用研究編に記載するに当たって，休学・退学・死亡の全例について再検討を行った．そのため，基本編に記載した区分ごとの人数が多少ずれていることがある．ご容赦いただき，必要な場合は，報告者まで問い合わせていただくようお願いする．

4. 国立大学における過去11年間の死亡学生の実態

4.1 はじめに

学生の「健康白書1995」(基本編) では，国立大学における過去11年間の学生の死因別死亡率の推移について報告したが，この応用研究編では，前回報告できなかった死亡学生の実態や調査項目間の関連等を検討したので，それらを中心に報告する．

なお，今回，分析に用いた資料は，国立63大学から報告された過去11年間 (1985－1995年) の全死亡学生で，その総数は，1,649人 (男子1,401人，女子248人) である．

4.2 結 果

4.2.1 死亡率の推移

学生の死亡率の推移については，すでに基本編で紹介したが，改めてその概略をまとめておく．

1985年から1995年までの11年間における学生の死亡率の推移を人口10万比で見ると (図4.1)，全体では，前回の健康白書が出された1985年が最も高く，約55.5人で，その後，次第に減少し，バブル経済のはじけた1989年を底に (人口10万比で約35.5人)，再び増加の傾向に転じているかに見える．景気の動向との関係は定かではないが興味深い．

男女別では，ほぼ同様の傾向を示しながら推移しているが，どの年度においても，男子の死亡率は女子の死亡率を約2倍ほど上回っている．

過去11年間の平均死亡率を63大学で単純に計算すると，毎年，約150人，各大学では2～3人の学生が死亡していることになるが，人口10万比で見ると，約45人となり，学生数1万人規模の大学では，年間4～5人の学生が死亡していることになる．

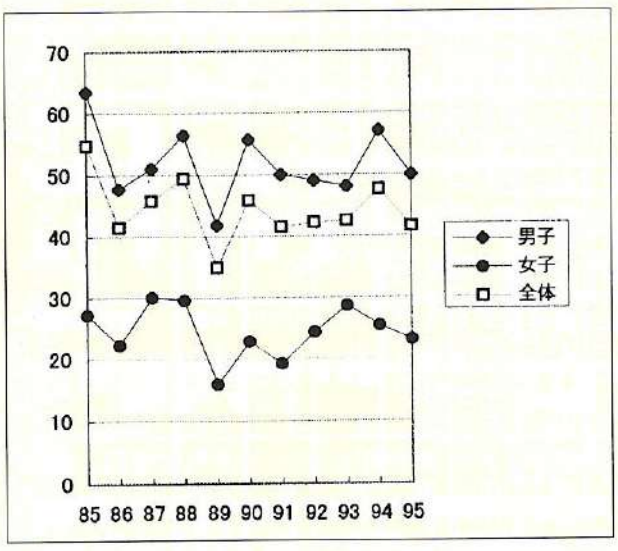


図4.1 過去11年間の死亡率の推移 (10万比)

4.2.2 死因別死亡率の推移

死亡の原因は大別すると，病死，事故死，自殺に分けられる．これらの死因別死亡率の推移を人口10万比で見ると (図4.2)，「病死率」は年度によって多少の凹凸はあるものの大きな変化は見られない．

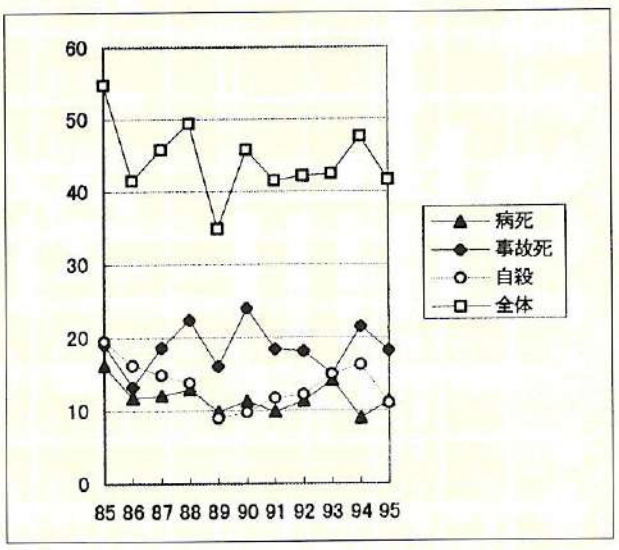


図4.2 死因別死亡率の推移 (10万比)

「事故死率」は，1986年と1993年を除くと，どの年度においても他の死因よりは高率で，1989年以降はやや増加の傾向が見られる．なお，1994年の山には，阪神大震災による死亡学生が相当数含まれている．

「自殺率」は，1989年までは減少傾向にあったが，1990年以降，再び増加傾向に転じている．ちなみに，1994年の「国民衛生動向」の自殺率と比較すると，年齢15歳～24歳人口の自殺率は，人口10万比で8.6人（男子12.0人，女子5.1人）であるのに対して，同じ年度の学生の自殺率は，人口10万比で16.3人（男子19.8人，女子8.2人）とかなり高率である．

4.2.3　性別，文理別の死因構成比

次に，過去11年間の全死亡学生の死因をもとにその構成比を性別，文理別に見ると，性別では，男子は事故死が最も多く（44.8％），次いで自殺（28.0％），病死（26.3％）の順であり，女子は自殺が第1位（40.7％）で，次いで事故死（29.0％），病死（27.0％）の順である．全体では事故死が約40％を占め，残りを自殺と病死が2分する感じである．

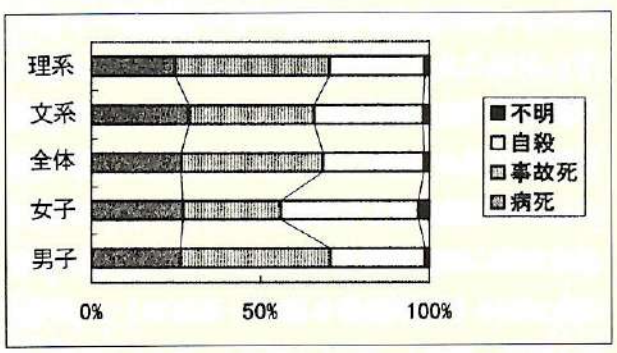


図4.3　性別，文理別死因構成比

一方，文系・理系別では，理系に事故死が多く（45.7％），文系に自殺（32.2％）が多い傾向が見られる．しかし，文系に女子の多いことを考えれば，これは学部差というよりも性差の影響かもしれない．

4.2.4　正規・留年別の死因構成比

同様に，正規学生と留年学生の死因別構成比を見ると（図4.4），正規学生は，事故死が最も多く46.0％を占め，残りを病死と自殺がほぼ2分しているのに対して，留年学生は，自殺が44.7％と約半数を占め，次いで，病死（32.3％），事故死（23.0％）の順である．特に，留年学生の自殺が正規学生の約2倍であることが注目されると共に留年学生の精神的ストレスの高さが窮われる．

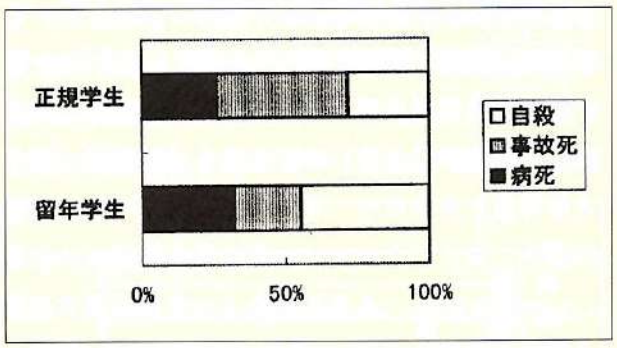


図4.4　正規・留年別死因構成比

なお，ここでの留年学生とは，4年制学部にあっては5年以上，6年制学部にあっては7年以上在籍するものである．

4.2.5　死因別の学年構成比

死因別にどの学年に死亡学生が多いかを学年構成比で見ると（図4.5），病死は，3～4年生に多く，事故死は2～3年生に多い．一方，自殺は4年生に特徴的である．卒論，進路・就職等出口に当たって種々のストレスにさらされやすくなるからかも

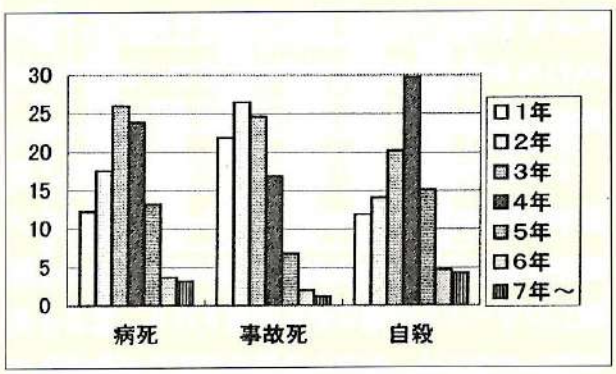


図4.5　死因別学年構成比

しれない．

なお，図は省略したが，死亡学生全体の学年別構成比を見ると，男子は3年生が最も多く，次いで4年生，2年生の順であり，女子は3～4年生が圧倒的に多く，次いで2年生，1年生の順である．全体では3年生が最も多く，次いで4年生の順であり，総じて3～4年生に死亡学生が多いといえる．

4.2.6　病死の原因

次に病死，事故死の原因や自殺の手段についてみると，病死の原因では心不全が最も多く27.1％を占め，次いで，ガン（21.6％），白血病（13.3％），脳疾患（9.9％）の順である（図4.6）．

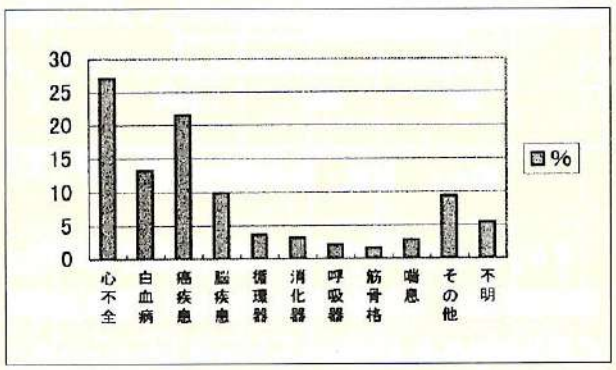


図4.6　病死の原因

心不全が高率である背景には，自殺が心不全による病死として，しばしば届けられやすいことも関係しているかもしれない．

4.2.7　事故死の原因

事故死の原因は，図4.7に示すように，交通事故によるものが，性別，学部，学年を問わず，全体の71％を占め，圧倒的に多い．また，この中には外国での交通事故死も散見される．

その他では，山での遭難や海・川での溺死，運動中の事故などが注目される．また，松本サリン事件の犠牲者や他者によって殺されるという「他殺」のケースも少数ながら散見される．一方「その他」の中には，阪神大地震の犠牲者が含まれている．

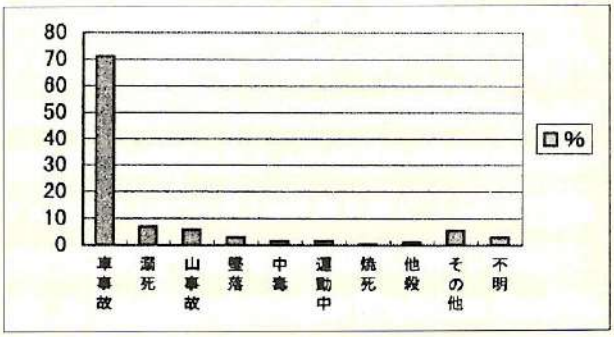


図4.7　事故死の原因

4.2.8　自殺の手段

自殺の手段については，図4.8に見られるように縊死（30.6％）と飛び降り（23.7％）が圧倒的に多い．縊死は昔からの一般的な手段であるが，飛び降りは，近年，高層ビルが増えたので容易になったとも考えられる．その他では，排ガス自殺や感電死，焼身自殺などが注目される．

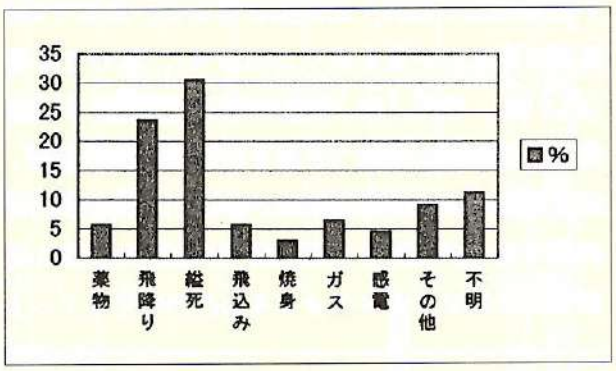


図4.8　自殺の手段

また「不明」が多いのも，この種の調査の特徴である．というのは，家族は多くを語ろうとしないし，大学側も詳しくは聞きにくいからである．それでも，状況をできるだけ詳しく調査し，今後に生かせることが望まれる．

4.2.9　大学規模と死亡率

ところで，よく「大都市の大規模大学に自殺が多い」といったことを聞くが，こうした死亡率への地域差や大学差の影響も興味深い．そこで，大学規模別，地域別の死亡率を算出し，比較を試みた．

大学規模別の死亡率の算出は，1995年の各大学の在籍学生数をもとに，学生数4,000人未満を小規模大学（20校），4,000人～7,000人未満を中規模大学（21校），7,000人以上を大規模大学（22校）とし，それぞれの11年間の死亡学生の総数を同様に在籍学生の総数で除した．

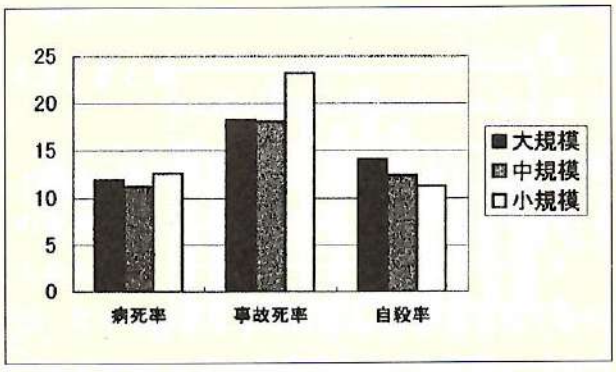


図4.9　大学規模別死亡率（10万比）

それによると，図4.9に見られるように，「病死率」では，大学規模別には大差は見られないが，「自殺率」は，明らかに大規模大学になるにつれて増加の傾向が見られた．一方「事故死率」は，特に小規模大学に多い．このことについては，次の地域別の死亡率や交通事故死率のところで考察したい．

4.2.10　地域別の死亡率

次に，死亡率に与える地域差を見るために，日本列島を6つのブロックに分けて，大学規模別死亡率の算出と同様の方法で，ブロック毎の死亡率を算出した．なお，死亡率は人口10万比で示してある（図4.10）．それぞれのブロックに該当する大学数は，「北海道・東北」9校，「関東」14校，「北陸・東海」13校，「近畿」10校，「中国・四国」9校，「九州」8校である．

地域別に死亡率を見ると，「病死率」では「北陸・東海」と「中国・四国」がやや低くいが，総じて地域間には大差は見られない．病死は生物学的現象であることを考えれば当然かもしれない．

しかし「自殺率」では，「関東」「近畿」が最も

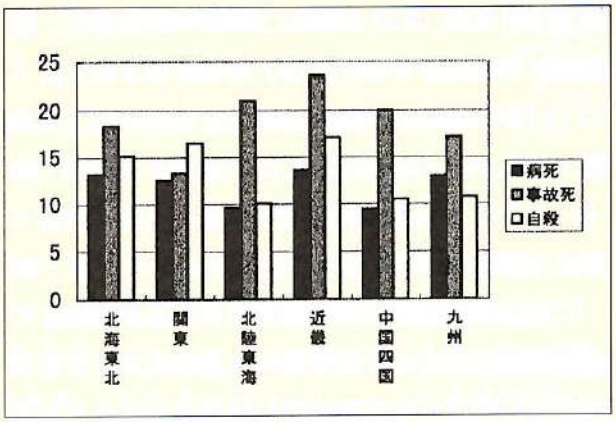


図4.10　地域別死因別死亡率（10万比）

高く，「北陸・東海」「中国・四国」「九州」は相対的に低率である．「北海道・東北」の自殺率がやや高い背景はよく分からないが，自殺は総じて大都市に多い傾向が窮われる．いわゆる「自殺は大都市の大規模大学に多い」ということは，今回の調査で見る限りいえそうである．

また，「事故死率」については，「関東」が最も低く，特に自殺率よりも低くなっている点が注目される．一方「近畿」は最も高率になっているが，すでに述べたように，阪神大震災の犠牲者が相当数含まれていることによると考えられる．その点を考慮すれば，事故死はどちらかといえば都市よりも地方の大学に多い傾向が窮われる．

4.2.11　地域別交通事故死率

事故死の約7割強は交通事故であるので，交通事故死の地域差を見ると（図4.11），「関東」が最

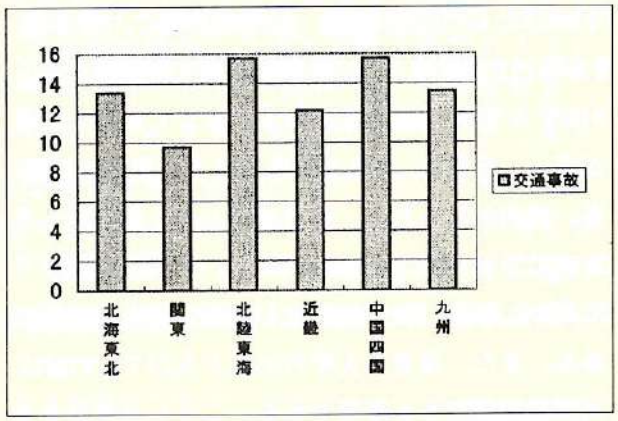


図4.11　地域別交通事故死率（10万比）

も低く，人口10万人に9.7人であるのに対して，「北陸・東海」「中国・四国」は共に最も高く，人口10万人に15.7人である．また，相対的に「北海道・東北」と「九州」は高く，「近畿」は低率である．このことから「関東」「近畿」よりも地方の大学に交通事故の多いことが窺われる．

このように学生の死亡率を大学規模や地域との関係で見ていくと，都市部の大規模大学には自殺が多く，地方の小規模大学には事故死，とりわけ交通事故が多いといえそうである．その背景としては，都市部では対人的なストレスが多いであろうし，地方では交通アクセスが不十分なために，車など運転する機会も多く事故に遭遇しやすいことなどが考えられる．

4.2.12　月別死亡学生の頻度

事故死や自殺と季節との関係も興味深い．

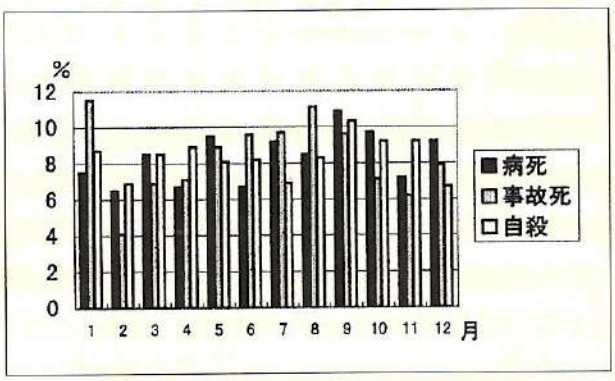


図4.12　月別死因別比較構成比

図4.12は，死因別に月別の死亡学生の頻度（%）を示したものであるが，それによると，病死は，11月，12月を除くと，奇数月が高く偶数月が低くいが，一定の傾向は見られず，総じて9月，10月が高い．自殺は，9月，10月，11月と3月，4月に多い傾向が見られる．前者は何となくもの悲しさを感じさせる秋であると同時に，2学期の始まりであり，卒論，教育実習など課題の増える時期である．また，後者は大学の出口と入口でこれまたストレスの高まる時期である．こうした背景を考えると，この時期に自殺が多くなるのもうなずけるであろう．

事故死は，1月と6月～9月に多い．つまり，冬と夏に多い．いずれもアウト・ドアーでの活動が活発な時期で，冬はスキーや登山による遭難，夏は運動中の事故や河川・海での溺死などが起こりやすいことを考えると，これも理解できる．

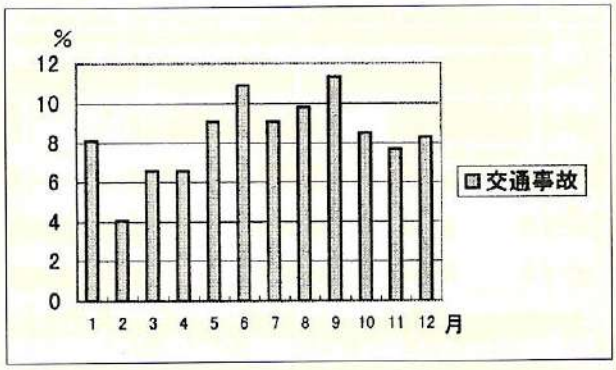


図4.13　月別交通事故死

同様に，交通事故死についても，月別の発生頻度（%）を見ると（図4.13），2月，3月，4月を除くと平均的に高率であり，特に夏休みを中心とした6月～9月が高率である．したがって，交通事故に関しては，アウト・ドアーでの活動が活発になる夏場の注意は勿論であるが，年間を通しての交通安全への配慮が重要である．

4.2.13　精神障害の頻度

最後に，これら全死亡学生の中で「精神障害あり」と診断されたものの割合を見ると（図4.14），当然予想されるように，自殺に占める割合が最も高く22.7%であり，自殺者の4～5人に1人が精神障害にかかっていたといえる．これに対して，病

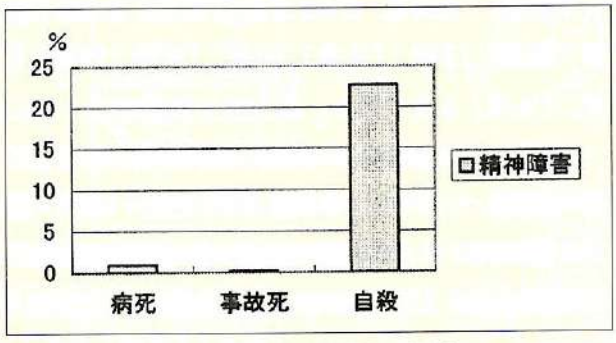


図4.14　精神障害の頻度

死に占める割合は0.92％，事故死は0.14％に過ぎない．

ただ，こうした精神障害を持つ学生が，保健管理センターとかかわりを持つケースは極めて少なく，多くは人知れず旅立っている．この点は今後の課題である．

4.3 まとめ

以上，過去11年間の国立大学における死亡学生の実態について報告したが，その要点を以下にまとめる．

(1) 年平均の学生の死亡率は，人口10万比で約45人であり，1万人規模の大学では年間4～5人の学生が死亡している．

(2) 死亡率の推移は，バブル景気の最中に高く，バブルがはじけた1989年を底に，その後，徐々にではあるが再び上昇の傾向にある．

(3) 死因別では，事故死が全体の約半数を占め，次に，自殺，病死の順である．また事故死の大部分（約7割）は交通事故による死亡である．

(4) 性別では，病死，事故死，自殺のいずれの死亡においても，男子は女子よりも約2倍高率であり，死因別では，男子は事故死が第1位（45％）であるのに対して，女子は自殺が第1位（42％）を占めている．

(5) 文系・理系別では，理系に事故死が多い．また，留年学生は自殺が多く，正規学生の約2倍を占める．

(6) 学年別では，男子は2～3年生に，女子は3～4年生に死亡学生が多い．死因別では，病死と事故死は3～4年生に，自殺は4年生に集中している．

(7) 死亡の原因では，病死は心不全やガン，事故死では交通事故によるものが多く，自殺の手段では，縊死，飛び降りが多い．

(8) 大学規模や地域との関係では，都市部の大規模大学に自殺が多く，地方の小規模大学に事故死，とりわけ交通事故の多い傾向がある．

(9) 季節との関係では，自殺は秋と春に多く，事故死は夏と冬に多い傾向がある．

(10) 死亡学生の中で精神障害を有する者は，自殺者が最も多く4～5人に1人の割合である．

どこの大学でも，年に1～2例の死亡学生に出会うことは珍しくないと思われるが，このようにまとめてみると，国立大学の学部学生だけでも年間に相当数の学生が死亡しており，これに院生や夜間学生，それに公私立の学生等を加えると，その数はさらに増加するわけで，改めてその重みを痛感する．

病気による死亡はやむを得ないとしても，事故死や自殺は，事前の配慮によって相当の予防が可能と考えられるだけに，学生へのきめ細かなサービスや発達支援，各学年におけるオリエンテーションや年間を通じての安全教育の徹底，さらには相談体制の充実などが，今後一層強く望まれる．

最後に，資料の整理保管に関して，一言つけ加えておきたい．今回の参加大学の資料を見ても，その精度は様々であった．一般に，除籍や退学になる学生については，学生の身分がなくなるので大学人の関心は薄れやすい．それだけに，整理保管も簡単になりやすいが，単に建前だけの書類を整えて保管するのではなく，可能な限り詳細な記録をつけて整理保管し，必要に応じて，プライバシーの保護に十分配慮しながら，件数や内容を学内にPRし，こうした学生の実態に対する学内の認識を喚起することが望まれる．

擱筆に当たって，この調査にご協力いただいた各大学の担当の方々に，心から厚くお礼を申し上げます．

［澤田丞司］

あ と が き

この「応用研究編」が出版されると，平成4年以来延々と続いた「学生の健康白書1995」の事業がようやく完了することになります．長い間ごくろうさまでした，と誰彼の区別なくすべての方に申し上げたい気持ちです．

平成9年度からは留学生センター長の兼務になられて，多忙この上ないのに，最後まで委員長の任務を全うされた川崎晃一先生に，まず御礼申し上げたいと思います．先生の強い義務感と固い奉仕の精神がなかったら，「基本編」と「応用研究編」という双子の白書は，とうてい日の目をみなかったと思われます．健康白書委員会の委員の先生方にも，御礼申し上げたいと思います．中には本当に超多忙で，白書の仕事と自分の仕事の両方を仕上げなければならないために，文字通り睡眠時間を削って仕事をされた委員もいました．さらに，自分の大学の保健管理センターで黙々と正確な基礎データを提供してくださった先生方にも，こころからの御礼を申し上げなければなりません．

しかし，今回の白書の作成にかかわって，気づいたことがありました．

一つは，基礎データの取り方です．保健管理センターは小さい組織なので，そう多くは望めません．参加することに意義があるスポーツの世界とは異なり，ある程度の精密さが要求される仕事ですから，今後は，全体の参加が必要なものを減らし，抽出調査でよいものを増やして，後者は各大学の保健管理センターに割り振るくらいに白書委員会で権限を持って計画した方がよいと思われます．これは各センター所長に，できるだけ参加する協調性を持ってもらった上でのことですが，医学的並びに公衆衛生学的良心にかけて，出来るものと出来ないものを選んでいただくことにつながっていきます．

もう一つは，コンピュータの用い方です．今回の電算化の促進という方針は，全国立大学の保健管理センターの隅々まで，コンピュータを導入することに素晴らしい効果を発揮しました．しかし，現在のコンピュータはデータの読み込みは人力に頼らなければならないという，まだまだ未発達な段階のものであるため，かなりの無理と誤算を結果したと思います．特にこれは精神心理領域について言えます．この領域ではすでにコンピュータを利用していたので対応可能と踏んでいたのですが，飛躍的な量を扱うことが予期せぬ障壁となって，計画の縮小と編集の遅延を招きました．この領域の責任者として深くお詫びいたします．コンピュータの利用にも十分な予算と人員が必要です．次回は（今よりは進歩しているでしょうが，）これらを充分に読んで始める必要があるでしょう．

保健管理センターの任務の中には，学生ひいては日本の青年の健康状況を把握するという任務が含まれていると考えますが，それは法に書かれていないだけに，次元の高い義務感と奉仕の精神に支えられて初めて実現可能なものです．ある種の犠牲を伴いますが，今回の経験を踏み台にして，よりよい計画と実行が2005年度の健康白書作成に結実することを，心から願ってやみません．

末筆ながら，大変なご助力を賜った九州大学の教職員の方々に，衷心からの感謝を申し述べます．

1998年6月

学生の健康白書作成に関する特別委員会
副委員長　中島潤子

学生の健康白書 1995　－応用研究編－

平成10年6月30日発行

編　集　学生の健康白書作成に関する特別委員会
〒816-8580 福岡県春日市春日公園6丁目1番地
九州大学健康科学センター内

発　行　国立大学等保健管理施設協議会
印　刷　城島印刷有限会社